仙台市文化財調査報告書第360集

沼向遺跡第４～34次調査

―宮城県仙台港背後地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ―

第１分冊

調査概要
第４次調査
第５次調査
第６次調査
第７次調査
第８次調査

２０１０年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第360集

沼向遺跡第４～34次調査

―宮城県仙台港背後地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ―

第１分冊

調査概要
第４次調査
第５次調査
第６次調査
第７次調査
第８次調査

２０１０年３月

仙台市教育委員会

写真１．遺跡遠景（南から）

写真２．遺跡遠景（北から）

写真３　第10次調査区西壁土層断面

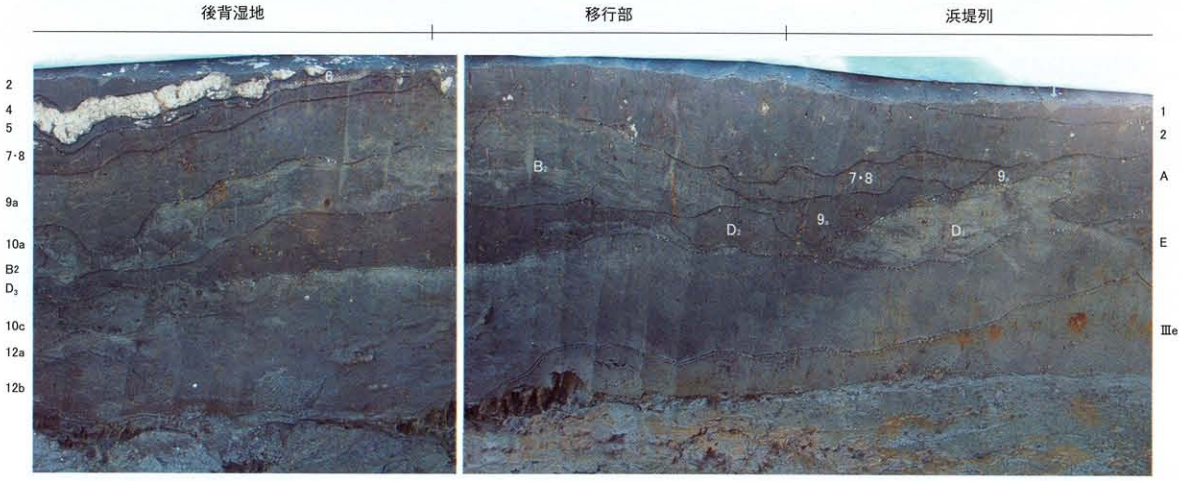
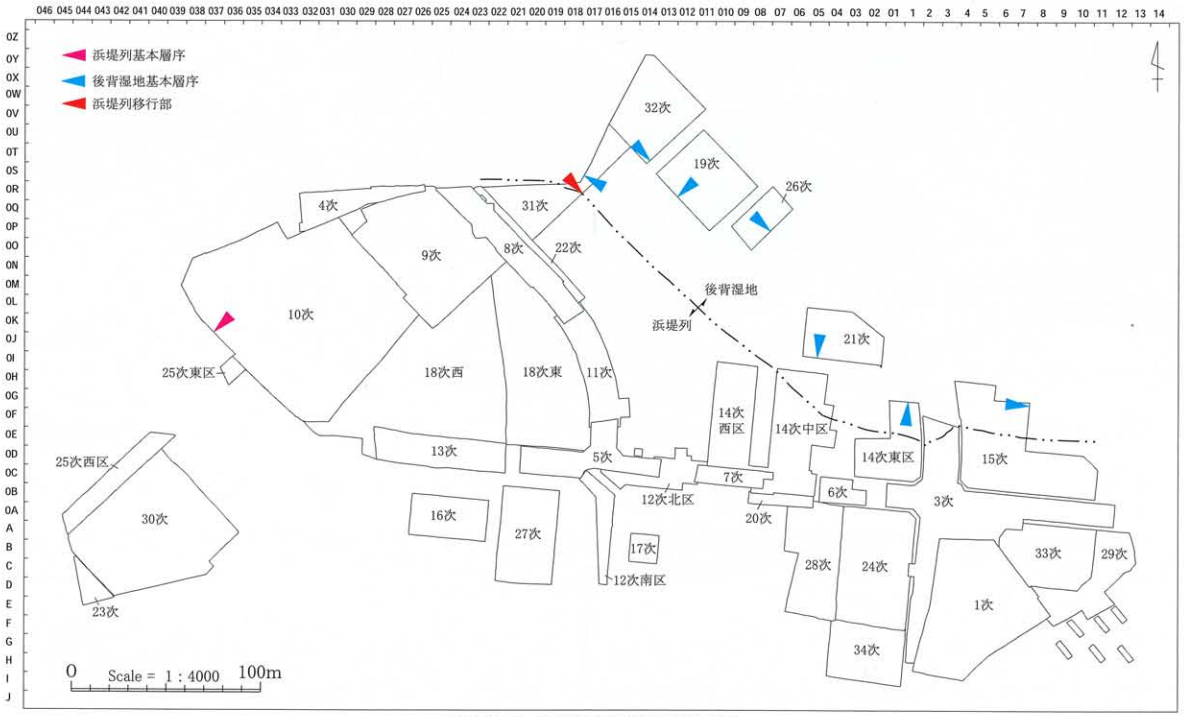


写真４　第31次調査区南壁後背湿地と浜堤列土層断面



基本層序・浜堤列移行部撮影位置図

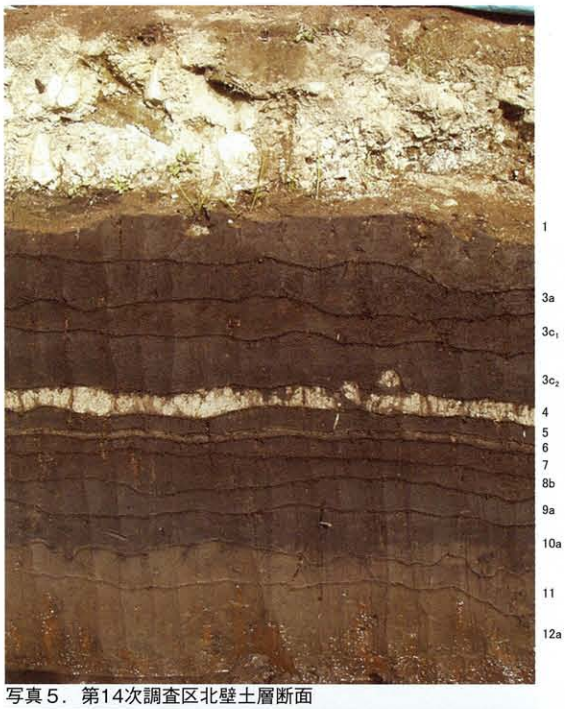


写真５．第14次調査区北壁土層断面

写真６．第15次調査区東壁土層断面

写真７．第32次調査区南壁土層断面

写真８．第19次調査区西壁土層断面

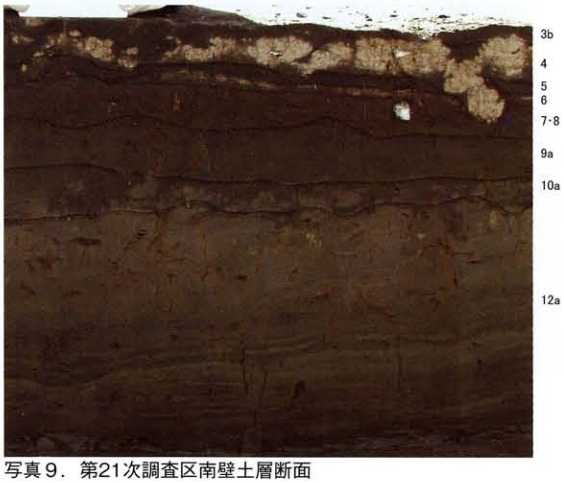


写真９．第21次調査区南壁土層断面

写真10．第26次調査区南壁土層断面

写真11．第31次調査区北壁土層断面

写真12. 第９次調査　SK9101土壙墓確認状況

写真13. 第９次調査　SK9101土壙墓縄文土器出土状況

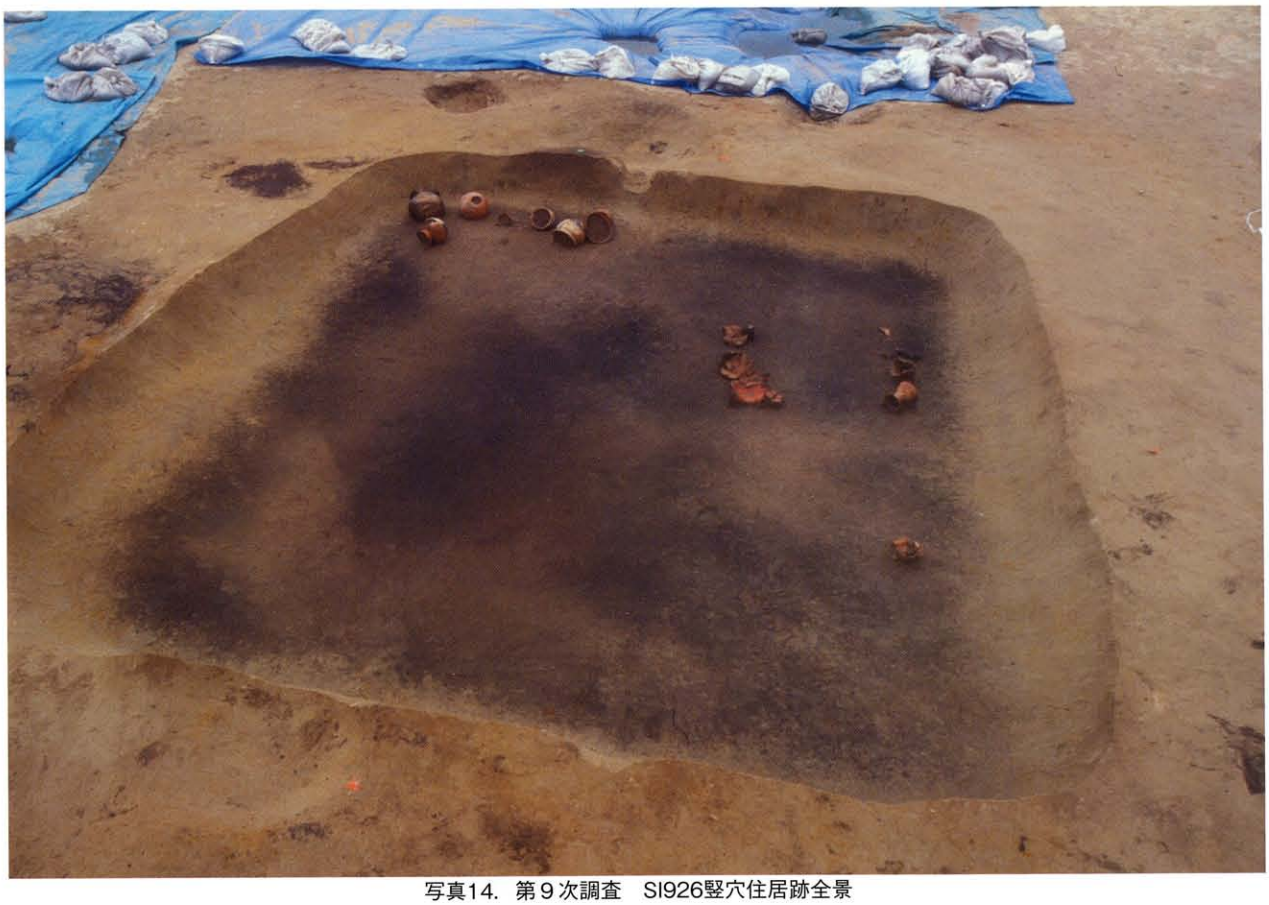


写真14. 第９次調査　SI926竪穴住居跡全景

写真15. 第９次調査　SI926竪穴住居跡遺物出土状況

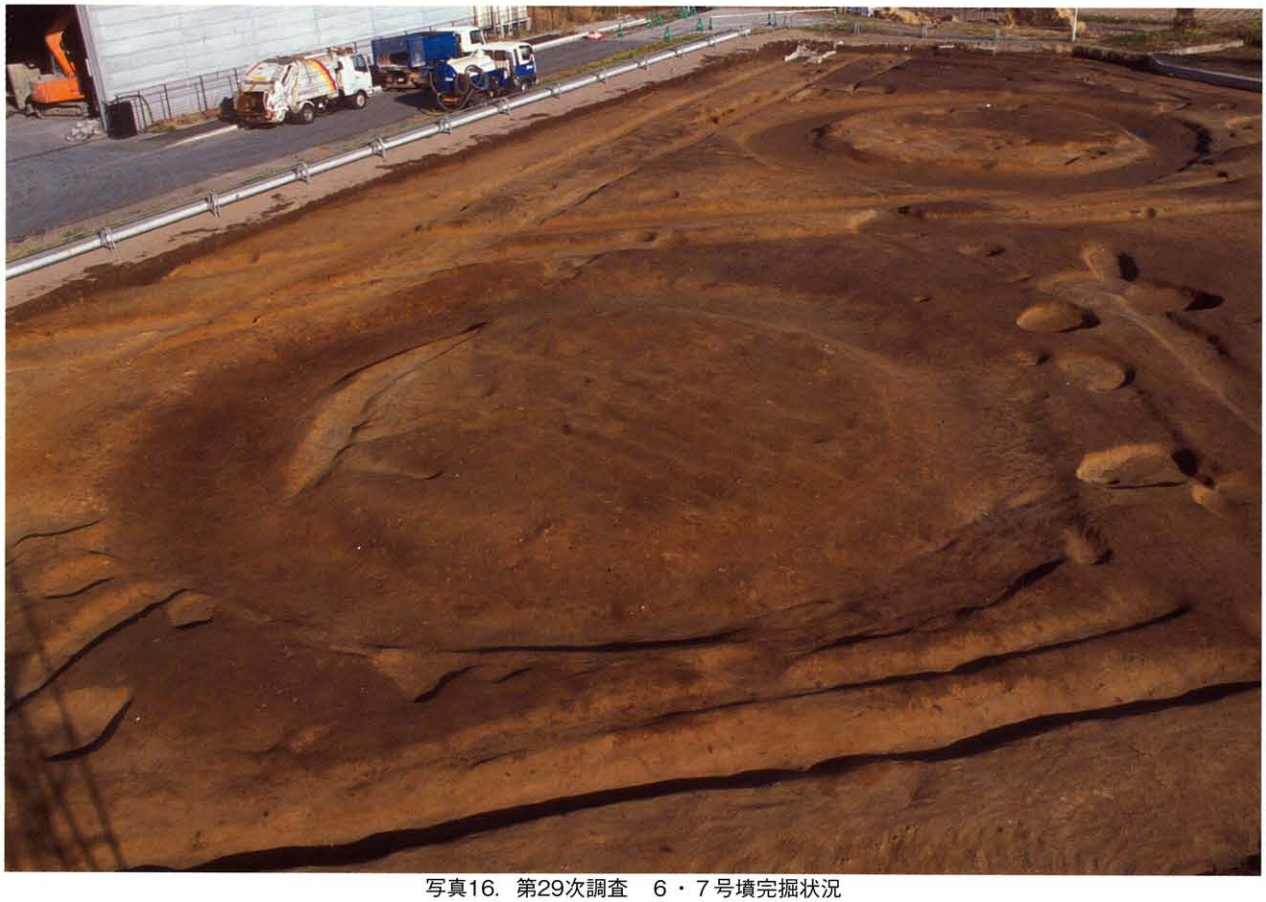


写真16. 第29次調査　６・７号墳完掘状況

写真17. 第28次調査　６号方形周溝墓完掘状況

写真18. 第３次調査　４・５号墳、４号方形周溝墓航空写真（『沼向１～３次調査』より転載）

写真19. 第１次調査　１～３号墳航空写真（『沼向１～３次調査』より転載）

写真20. 第８次調査　SI807竪穴住居跡全景

写真21. 第８次調査　SI807竪穴住居跡カマド遺物出土状況

写真22. 第30次調査　SI3001A竪穴住居跡炭化材検出状況

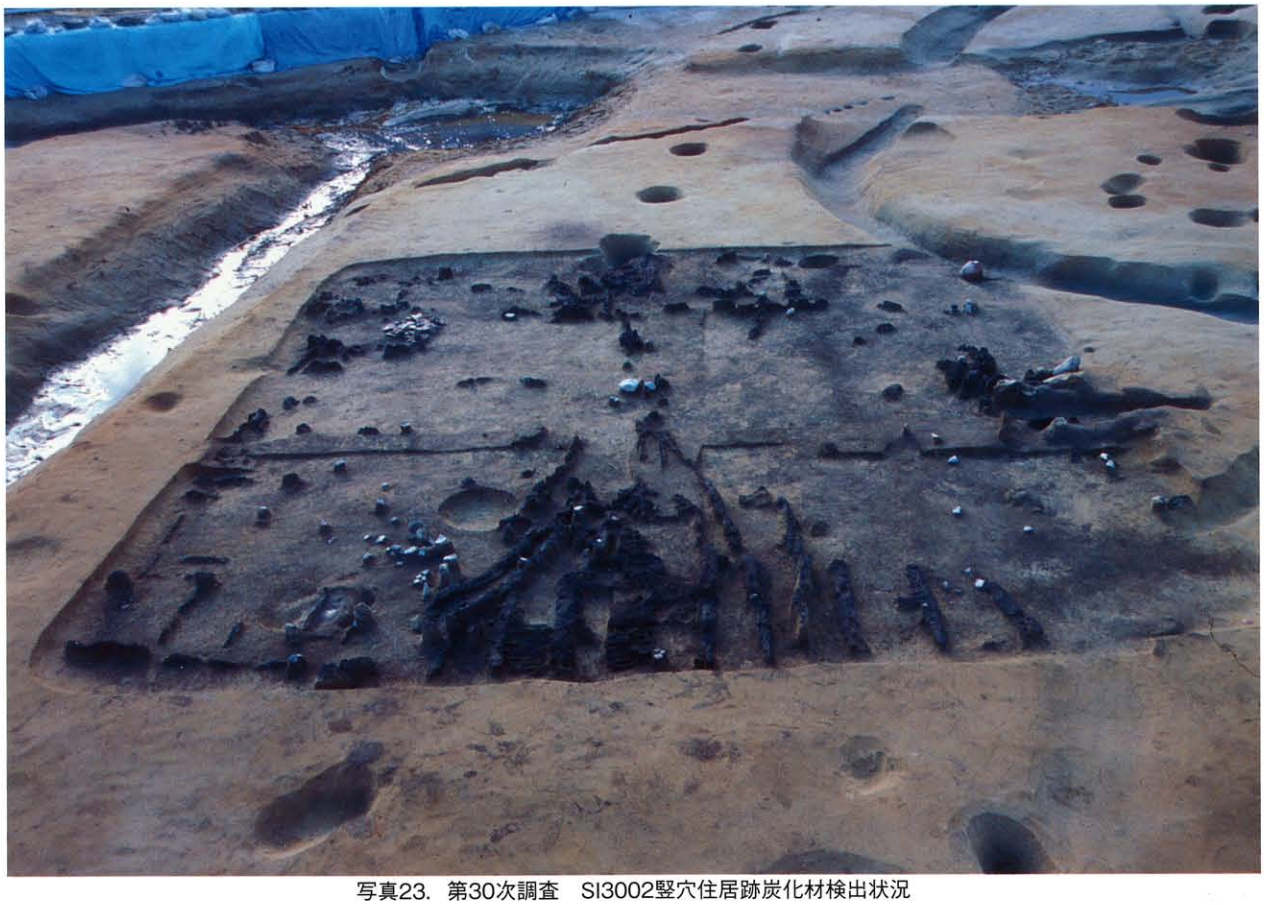


写真23. 第30次調査　SI3002竪穴住居跡炭化材検出状況

写真24. 第30次調査　SE3002井戸枠検出状況

写真25. 第30次調査　SX30171性格不明遺構遺物出土状況

写真26. 第10次調査　SX10220A井戸枠検出状況

写真27. 第10次調査　SX10220A井戸枠截割断面

写真28. 第10次調査　SX10220A井戸枠①

写真29. 第10次調査　SX10220A井戸枠②

写真30. 第18次調査　SE1812井戸跡全景

写真31. 第18次調査　SE1812井戸跡遺物出土状況

写真32. 古墳時代前期（沼向③B期）出土遺物

写真33. 古墳時代後期（沼向⑥B期）出土遺物①

B類

0 Scale = 1 : 3 10cm

写真34. 古墳時代後期（沼向⑥B期）出土遺物②

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

ここで報告しますのは、仙塩広域都市計画事業・仙台港背後地土地区画整理事業に伴う遺跡発掘調査のうち、沼向遺跡において平成７年度から平成16年度まで10年間をかけて行った第４次調査から第34次調査をまとめたもので、沼向遺跡としては３冊目の報告書です。

この区画整理事業は、仙台港の増大する物流需要と船舶の大型化・コンテナ化等の輸送革新に対応するため、仙台港に隣接する北側から西側の背後地一体を、宮城県はもとより、東北地方の国際貿易・交通拠点として、また仙台都市圏の物流拠点・工業生産拠点としての機能を持つべき地区として整備計画されました。これまで、宮城県が施行主体で、県と仙台市が共同で整備に当たってきました。

区画整理地内の土地利用は、センター地区、流通業務地区、工業地区、住宅地区の４つに区分されており、ここで報告します沼向遺跡は工業地区に該当する、一番海辺に近い遺跡です。本書は、縄文時代後期から江戸時代にかけて断続的に営まれた集落の調査報告を主としております。様々な視点から行った自然科学分析も含め、往時の仙台平野北部の環境変遷やその海岸部に住む人々の環境に適応した暮らしぶりの一端を明らかにする貴重な成果を得ることができました。

先人の遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たち市民の大事な仕事であると思います。つきましては、今回の調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、学術研究のみならず学校教育や生涯教育などのあらゆる場面で活用され、皆様の文化財へのより深い関心とご理解の一助となれれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行に際しましてご指導、ご協力下さいました皆様に心より感謝申し上げる次第です。

平成22年３月

仙台市教育委員会

教育長　荒　井　　崇

例言

1．本書は、仙塩広域都市計画事業仙台港背後地土地区画整理事業に伴う沼向遺跡第４次～34次発掘調査の報告書である。すでに公表された広報誌等に優先するものである。
2．本書の執筆は、第35章自然科学分析を除いて、主に斎野裕彦、佐伯修一、多ヶ谷香理が行ない、斎野が総括した。分担は以下の通りである。
第１章……第１・２・３・６・７節：斎野、第４・５節：斎野、多ヶ谷、田口雄一
第２章～第33章……斎野、佐伯、多ヶ谷
第34章……斎野、佐伯
第35章……各節に明記
第36章……第１・３・６・８・９・12・14・15節：斎野、第10節：斎野、藤井勝哉、第２・７・13節：斎野、田口、第４・５・11節：斎野、多ヶ谷
3．自然科学分析については、以下の大学・研究機関・研究者へ依頼した。
平成13年度放射性炭素年代測定……日本大学年代測定室　小元久仁夫
平成14～17年度放射性炭素年代測定……古環境研究所　松田隆二
木製品・炭化材の樹種同定……東北大学植物園　鈴木三男　小川とみ
プラントオパール分析……古環境研究所　松田隆二
大型植物化石同定……古代の森研究舎　吉川純子
モモ、スモモ及びアンズの樹体生育……宮城県農林水産部　伊藤博祐
平成14年度花粉分析……古代の森研究舎　吉川昌伸
平成15年度～平成16年度花粉分析……古環境研究所　金原正子
昆虫化石分析……金城学院大学　森　勇一
寄生虫卵分析……古環境研究所　金原正子
非破壊成分分析……古環境研究所　杉山真二
人骨（歯）……東北大学大学院歯学研究科　鈴木俊彦
ガラス製小玉の非破成分分析……筑波大学　小笠原正明　　佐賀大学　加藤晃一
4．第１分冊第１章の平成５・６年当時の沼向遺跡周辺の写真については、高橋親夫氏から提供して頂いた。写真は現在、仙台市博物館に所蔵されている。
5．発掘調査及び報告書作成にあたって以下の機関、個人から、種々の協力、教示をいただいた。
宮城県教育委員会、宮城県仙台港背後地土地区画整理事務所、大阪府教育委員会、川本町教育委員会、倉吉市教育委員会、仙台市博物館、高松市教育委員会、和鋼博物館、相沢清利、安藤広道、出穂雅美、石川日出志、大野　薫、岡田　賢、菊地芳朗、佐藤由紀男、設楽博巳、高瀬克範、高橋千晶、高橋親夫、高野　学、田崎博之、種石　悠、藤沢　敦、藤沢典彦、堀内昭博、松井一明、松本秀明、水野正好、山下平重、山田昌久
6．本書に関わる一切の資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡例

1．本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省水産技術会議事務局1998年版）に準拠している。
2．本書中の地形図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図「塩釜」「仙台東北部」を合成したものを使用した。
3．遺構図中の座標値は、沼向遺跡の先行調査：第１～３次調査に倣い、日本測地系座標を使用した。
4．座標X-191405・Y15415を沼向遺跡の10m×10mGridの基軸とし、Y軸は北へ0A・0B・0C…、南へA・B・C…、X軸は東へ１・２・３…、西へ０１・０２・０３…とする。
5．本文図版等で使用した方位はすべて真北を基準としている。
6．標高値は海抜高度（T・P）を示す。
7．遺構図は縮尺1/60を基本とした。その他、各スケールを参照されたい。
8．基本層の表記は沼向遺跡の先行調査に準じ、浜堤列では表土層からローマ数字を用い、後背湿地では、アラビア数字を用いた。浜堤列の基本層に対応しない層には、「各調査区－アルファベット（ex.A層）」の名称を付けた。
9．遺構名の登録として、以下の略語を使用した。
SA：区画施設、SB：掘立柱建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SI：竪穴住居跡・竪穴遺構、SK：土坑、SR：旧河道、SX：性格不明遺構、P：ピットを使用した。これらの遺構の中に埋まっている土を「埋土（まいど）」とした。
10．遺構名は、遺構ごとに「調査区名称－番号」の名称を付けた。先行する調査区から続く遺構については、遺構名を踏襲した。

11. 調査区の面積及び水田区画の面積は測量用ソフトを使用して算出した。また、遺構の面積は、タマヤテクニクス株式会社のPLANIX７を使用して算出した。
12. 遺構の主軸方位は、カマドの確認できる竪穴住居跡はカマドを通した軸方位を主軸方位とし、その他の遺構に関しては長軸の方位を主軸方位とした。
13. 遺構の壁面の立ち上がり角は、鉛直軸に対する壁の角度を計算した。
14. SI竪穴住居跡・竪穴遺構の断面図では、床面・底面及びカマド使用面は太線とし、掘り方は細線とした。
15. 調査区の土層断面図の攪乱については、浜堤列では攪乱の文字をいれ、後背湿地では攪乱の部分にトーンをかけた。
16. 遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下分類と略号を使用した。
    Ａ：縄文土器、Ｂ：弥生土器、Ｃ：非ロクロ土師器、Ｄ：ロクロ成形の土師器、Ｅ：須恵器、Ｇ：土師質土器、Ｈ：瓦、Ｉ：陶器・土器、Ｊ：磁器、Ｋａ：打製石器、Ｋｂ：磨製石器、Ｋｃ：礫石器、Ｋｅ：石製模造品、Ｋｆ：紡錘車、Ｋｇ：砥石、Ｋｈ：硯、Ｋｉ：石鉢、Ｋｘ：不明石製品、Ｌ：木製品、Ｎ：金属製品、P:土製品、Ｔ：玉製品
    金属製品のうち、寛永通寶は全て銅銭である。
17. 遺構平面図・断面図中では、以下の略号を用いて遺物を表記した。
    Ｍ：金属製品、Ｐ：土器、Ｓ：石、Ｗ：木
18. 遺物実測図は原則として縮尺1/3で表示した。
19. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で表した。中心線が一点鎖線のものは、転回し、図上復元したものである。内面黒色処理を施したものについては一部にトーンをかけた。また、礫石器の磨面にもトーンをかけた。
20. 遺物観察表における（　）内数値は図上復元値である。また、土器類の口：口縁部、頸：頸部、体上：体部上半部、体下：体部下半部、底：底部、端：端部の略語である。
21. 遺物はFNシリーズのテンバコ32（外寸：440×600×150mm）で換算した。
22. 非ロクロ土師器の容量に関しては、遺物実測図から高さ１cmごとに半径を計測し、半径×半径×3.14の計算式で算出した。

沼向遺跡第４～34次調査　目次

【第１分冊】

口絵写真　序文　例言　凡例　目次

第１章　調査概要……1

第２章　第４次調査……69

第３章　第５次調査……87

第４章　第６次調査……129

第５章　第７次調査……141

第６章　第８次調査……167

【第２分冊】

第７章　第９次調査……1

【第３分冊】

第８章　第10次調査……1

【第４分冊】

第９章　第11次調査……1

第10章　第12次調査……67

第11章　第13次調査……125

第12章　第14次調査……183

第13章　第15次調査……301

第14章　第16次調査……375

第15章　第17次調査……387

【第５分冊】

第16章　第18次西調査……1

【第６分冊】

第17章　第18次東調査……1

第18章　第19次調査……317

第19章　第20次調査……357

第20章　第21次調査……369

第21章　第22次調査……407

第22章　第23次調査……451

【第７分冊】

第23章　第24次調査……1

第24章　第25次調査……61

第25章　第26次調査……205

第26章　第27次調査……237

第27章　第28次調査……323

【第８分冊】

第28章　第29次調査……1

第29章　第30次調査……39

第30章　第31次調査……487

第31章　第32次調査……555

第32章　第33次調査……597

第33章　第34次調査……633

【第９分冊】

第34章　沼向遺跡環境復元検討会……1

第35章　自然科学分析……65

第36章　総括……249

抄録

【第10分冊　付図】

付図１～44　（詳細次頁）

付　図　目　次

付図１　沼向遺跡第４次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図２　沼向遺跡第５次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図３　沼向遺跡第６次調査Ⅱ層上面遺構全体図
付図４　沼向遺跡第７次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図５　沼向遺跡第８次調査Ⅲ層上面遺構全体図
付図６　沼向遺跡第８次調査Ⅱ層上面遺構全体図
付図７　沼向遺跡第９次調査Ⅲ層上面遺構全体図
付図８　沼向遺跡第９次調査Ⅱ層上面遺構全体図
付図９　沼向遺跡第10次調査Ⅲ層上面遺構全体図（１／２）
付図10　沼向遺跡第10次調査Ⅲ層上面遺構全体図（２／２）
付図11　沼向遺跡第10次調査Ⅱ層上面遺構全体図（１／２）
付図12　沼向遺跡第10次調査Ⅱ層上面遺構全体図（２／２）
付図13　沼向遺跡第11次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図14　沼向遺跡第12次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図15　沼向遺跡第13次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図16　沼向遺跡第14次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図（１／２）
付図17　沼向遺跡第14次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図（２／２）
付図18　沼向遺跡第15次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図19　沼向遺跡第16次調査Ⅱ層上面遺構全体図
付図20　沼向遺跡第17次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図21　沼向遺跡第18次西調査Ⅲ層上面遺構全体図（１／２）
付図22　沼向遺跡第18次西調査Ⅲ層上面遺構全体図（２／２）
付図23　沼向遺跡第18次西調査Ⅱ層上面遺構全体図（１／２）
付図24　沼向遺跡第18次西調査Ⅱ層上面遺構全体図（２／２）
付図25　沼向遺跡第18次東調査Ⅲ層上面遺構全体図
付図26　沼向遺跡第18次東調査Ⅱ層上面遺構全体図
付図27　沼向遺跡第20次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図28　沼向遺跡第22次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図29　沼向遺跡第23次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図30　沼向遺跡第24次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図31　沼向遺跡第25次調査Ⅲ層上面遺構全体図
付図32　沼向遺跡第25次調査Ⅱ層上面遺構全体図
付図33　沼向遺跡第27次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図34　沼向遺跡第28次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図35　沼向遺跡第29次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図36　沼向遺跡第30次調査Ⅲ層上面遺構全体図（１／２）
付図37　沼向遺跡第30次調査Ⅲ層上面遺構全体図（２／２）
付図38　沼向遺跡第31次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図39　沼向遺跡第33次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図40　沼向遺跡第34次調査Ⅱ層・Ⅲ層上面遺構全体図
付図41　沼向遺跡3a層水田跡調査全体図
付図42　沼向遺跡9a層水田跡調査全体図
付図43　沼向遺跡10a層水田跡調査全体図
付図44　沼向遺跡遺構・環境変遷図

第１分冊　目次

口絵写真　序文　例言　凡例

第１章 調査概要 ……1
　第１節　調査の経緯
　第２節　地形的・歴史的環境
　第３節　調査の方法と経過
　第４節　基本層序
　第５節　遺物の分類と時期区分
　第６節　記述方法と微地形・遺構に関する用語
　第７節　調査成果の概説

第２章 第４次調査 ……69
　第１節　調査概要と基本層序
　第２節　検出遺構と出土遺物
　第３節　まとめ

第３章 第５次調査 ……87
　第１節　調査概要と基本層序
　第２節　検出遺構と出土遺物
　第３節　まとめ

第４章 第６次調査 ……129
　第１節　調査概要と基本層序
　第２節　検出遺構と出土遺物
　第３節　まとめ

第５章 第７次調査 ……141
　第１節　調査概要と基本層序
　第２節　検出遺構と出土遺物
　第３節　まとめ

第６章 第８次調査 ……167
　第１節　調査概要と基本層序
　第２節　検出遺構と出土遺物
　第３節　まとめ

第１章　―調査概要―

本　文　目　次

第１節　調査の経緯……1
　１．土地区画整理事業地内遺跡……1
　２．事業地内遺跡と沼向遺跡……1
第２節　地形的・歴史的環境……1
　１．地形的環境……2
　２．歴史的環境……3
第３節　調査の方法と経過……6
　１．発掘調査……6
　２．整理作業……10
第４節　基本層序……12
　１．浜堤列の基本層序……12
　２．後背湿地の基本層序……13
第５節　遺物の分類と時期区分……16
　１．遺物の分類……16
　２．時期区分と土器群の設定……16
第６節　記述方法と微地形・遺構に関する用語……22
　１．記述方法……22
　２．微地形・遺構に関する用語……23
第７節　調査成果の概説……26
　１．検出された遺構・遺物の時期別変遷……26
　２．土地利用の変遷……30

挿　図　目　次

第1- 1図　沼向遺跡位置図……33
第1- 2図　事業地内遺跡分布図……33
第1- 3図　仙台平野中北部微地形分類図……34
第1- 4図　仙台平野北部微地形分類図……35
第1- 5図　周辺の遺跡図……36
第1- 6図　旧字名位置図……38
第1- 7図　沼向遺跡周辺微地形分類図……39
第1- 8図　グリッド配置図……40
第1- 9図　遺跡範囲と調査区……41
第1-10図　柱状模式図作成地点位置図……42
第1-11図　基本層序柱状模式図(1)･浜堤基本層序略図……43
第1-12図　基本層序柱状模式図(2)……44
第1-13図　基本層序柱状模式図(3)･後背湿地基本層序略図……45
第1-14図　非ロクロ土師器分類図(1)……46
第1-15図　非ロクロ土師器分類図(2)･ロクロ土師器分類図……47
第1-16図　沼向①～②期の土器群……49
第1-17図　沼向③Ｂ期の土器群……50
第1-18図　沼向⑥期の土器群……51
第1-19図　沼向⑦Ａ期～⑩Ｂ期の土器群……52
第1-20図　沼向⑪期～⑭期の土器群・陶磁器群……53
第1-21図　Ⅲ層凹地平面位置図……54
第1-22図　柱列による区画施設と溝による区画施設……55
第1-23図　後背湿地微地形分類概念図と水田跡時期別平面図……56
第1-24図　遺構群変遷模式図……57
第1-25図　平成５・６年当時の沼向遺跡周辺……60

挿　表　目　次

第1-1表　遺跡地名表……37
第1-2表　沼向遺跡時期区分表……48
第1-3表　沼向遺跡検出遺構数量表……58
第1-4表　沼向遺跡出土遺物数量表……59

写真図版目次

写真図版1～5　平成５・６年当時の沼向遺跡周辺……61～65

第１章　調査概要

第１節　調査の経緯

１．土地区画整理事業地内遺跡

平成２年11月16日に宮城県が都市計画決定（平成３年７月23日事業計画決定）した仙台港背後地土地区画整理事業の区域には、発掘調査の対象となる遺跡として沼向遺跡（遠藤館跡を含む）、竹ノ内遺跡などがあった（第1-1・2図）。そのため、平成２年度から土地区画整理を担当する宮城県土木部と文化財行政を担当する宮城県文化財保護課及び仙台市文化財課との間で、事業と遺跡の調査等について協議が重ねられた。そして、協議の一環として、周知されていた高柳Ａ遺跡、高柳Ｂ遺跡、竹ノ内遺跡、沼向遺跡、中野曲田板碑、耳取観音堂板碑等について、平成２年度に、宮城県文化財保護課、仙台市文化財課及び宮城県国際港都市整備課の三者で、改めて分布調査を行なった。平成３年度から５年度にかけては、分布調査の結果を受けて、高柳Ａ・Ｂ遺跡と竹ノ内遺跡の確認調査を宮城県文化財保護課、沼向遺跡の確認調査を仙台市文化財課が実施した。

平成５年９月７日、確認調査の報告会を開催、遺跡範囲を確定し、本調査範囲を文化財側から説明した。この時に高柳Ａ遺跡と高柳Ｂ遺跡を中野高柳遺跡と一本化し、その範囲も他の遺跡同様、若干変更している。これにより、事業地内遺跡として、沼向遺跡、竹ノ内遺跡、中野高柳遺跡が本発掘調査の対象となった。

それを受けて、沼向遺跡は、平成６年度から仙台市教育委員会が本調査を開始した。なお、平成６年度の沼向遺跡の本調査終了後、平成７年度に、その北側の水田（後背湿地）を試掘調査し、水田跡の広がりを確認したので、遺跡範囲を北側に拡大している。

２．事業地内遺跡と沼向遺跡

事業地の総事業面積は約260haに及ぶ。事業地内には、前述のとおり沼向遺跡（遠藤館跡を含む）、中野高柳遺跡、竹ノ内遺跡、中野曲田板碑、耳取観音堂板碑が遺跡として登録されている。仙台市文化財課では、平成６年度より沼向遺跡（第１・２次調査）、翌平成7年度からは中野高柳遺跡（第１次調査）の本調査を開始した（註1）。

事業地内遺跡で、沼向遺跡は最も北側及び東側に位置する（第1-2図）。遺跡範囲の北側一部は、多賀城市境と接している。遺跡範囲は東西約600m、南北約350mの約11.7haである。この遺跡範囲の中央部に包括されるような状況で「遠藤館跡」が登録されている。遠藤館跡の遺跡範囲は東西約230m、南北約190mの約0.6haである。両者の遺構は混在することが予測され、遠藤館跡の範囲であっても沼向遺跡の一部として調査・報告し、沼向遺跡の調査次数を与えている。

沼向遺跡の調査は、平成22年３月時点で、第36次調査まで行なわれている。発掘調査された総面積は約6.8haであり、遺跡範囲の約58％である。このうち、第１～３次調査と第35次調査の報告書はすでに刊行されており（仙台市教育委員会2000、2009）、第36次調査の報告書は、今年度刊行される。本書では、第４次～34次調査の報告を行なう。

第２節　地形的・歴史的環境

沼向遺跡は宮城県仙台市北東端の海岸部、多賀城市と隣接する宮城野区中野字沼向に位置し、浜堤列と後背湿地に立地する（第1-2図）。仙台港フェリー埠頭から北方約400mの地点である。現況における標高は、浜堤列で約1.5m、後背湿地で約0.6mである。ここでは沼向遺跡の立地する仙台平野北部を中心して地形的環境、歴史的環境を

概観する。

１．地形的環境

仙台平野は南北約50km、東西約10kmの太平洋に面する臨海沖積低地である。平野の地盤高は大部分で５ｍ以下であり、地表面は極めて低平かつ低湿で、自然堤防、旧河道、後背湿地、浜堤列が明瞭に発達する。沖積低地の北方には緩やかな起伏を有する多賀城丘陵が広がり、北東には無数の島が散在する松島湾と七ヶ浜半島がある。仙台平野は、西縁を構造線で明瞭に画されており、その西方には、陸前丘陵、及び河岸段丘が広がっている。仙台平野は、東流する河川流域ごとに、北から、七北田川下流域を北部、名取川下流域を中部、阿武隈川下流域を南部に分けられ、形成された地形面にも、それぞれ特徴がみられる。

沼向遺跡は、このうち、平野北部、七北田川下流域左岸にある。七北田川の流路は、かつて、現在の多賀城市新田から多賀城市八幡へと東流し、湊浜で海に注いでいたが、慶長年間（1596～1615）と寛文十年～十三年（1670～73）に、主流路を蒲生へ流れるように工事を行なった経緯があり、この期間を通じて、遺跡周辺の土地条件が大きく変わっていったことが考えられる。現在の七北田川は、幹線流路長45kmの河川である。

沼向遺跡の立地を詳しくみると、表層の微地形分類では、浜堤列と後背湿地にある（第1-3･4・7図）。このうち、浜堤列は、松本秀明によって３列：第Ⅰ浜堤列、第Ⅱ浜堤列、第Ⅲ浜堤列に分類されており、遺跡の立地する浜堤列は、最も陸側の第Ⅰ浜堤列であり、その西側縁辺部に位置する。浜堤列は、海岸線にそって形成されるほぼ平行する細長い微高地で、各浜堤列間の微地形は、低湿な堤間湿地となっている。また、遺跡北東部の後背湿地は、第Ⅰ浜堤列の形成後、その縁辺部をポケット状に抉る西方からの自然の営力、大洪水によって形成された微地形である。その地形形成は、後述するように、古墳時代中期の早い時期に起こっており、それ以前と以後では、遺跡の土地条件が大きく異なったことが考えられる。こうした沼向遺跡の立地、土地条件に関しては、個々の河川の地形形成作用を基本として考える必要があり、七北田川下流域についてみると（第1-3図）、第Ⅰ浜堤列の西方には、自然堤防、後背湿地、旧河道などの微地形が分布するとともに、丘陵から平野へ流入する地点を扇頂として扇状地性の地形面を形成している。この扇状地性の地形面は、七北田川下流域では、発達が弱い特徴があり、その要因として、七北田川の土砂の供給量が比較的少ないことが考えられている。これは、沼向遺跡の調査において推定されたように、遺跡西方に広がる後背湿地が、縄文時代後期中葉以降、古代～中世までは、潟湖であったことと強く関連する。また、同様の扇状地性の地形面は、仙台平野中部の名取川下流域（支流の広瀬川下流域を含む）でも形成されるが、ここでは、名取川の土砂の供給量が多いことから、広く発達している特徴があり、両者の違いは、第1-3図をみると明瞭である。

このように、仙台平野の微地形形成には、河川の性格と、自然的、人為的な作用が大きく関与していることが知られるが、それとともに、海水準の微変動との関連性も重視されている。

ここでは、仙台平野北部における最終氷期以降の地形環境の変遷について、松本秀明らの研究（松本1984、1994、1995、松本・野中2006）を確認しておこう。

仙台平野の沖積層の地下には第三紀層を主とする岩盤が存在する。仙台平野北部の七北田川の地下ではこの基盤岩が海岸線に直交して深くなる埋没谷が認められ、その深度は海面下60ｍに達するという。埋没谷は未固結の堆積物により埋積されており、埋積物は粒経の特徴から砂礫層を主とする埋積下層部、粘土を主とする埋積中層部、砂を主とする埋積上層部に区分されている。このうち、埋積下層部は26000～33000yBP以前に堆積したおおむね地下25～30ｍ以下に厚く堆積する砂礫層で、河川中流域から上流域にかけての河床堆積物に類似する。埋積中層部は地下15～30ｍに堆積する粘土層で、さらに、下部の湿地帯や後背湿地堆積物と考えられる沖積陸成粘土層と、上部の内湾底や潟湖底堆積物と考えられる沖積海成粘土層に分けられる。そして、埋積上層部は全体で20～30ｍの層厚を

もつ砂層で、下部の砂粒が比較的荒く貝殻片を含む海岸の波打ち際や浅海底に堆積した沖積海成砂層と、上部の粒経が均質で貝殻片をほとんど含まない沖積風成砂層に分けられる。沖積平野を構成する沖積層の定義は、最終氷期の海面最低下期以降の堆積物であることから、仙台平野においては上記の埋積層のうち埋積中層部以上の堆積物が相当する。

この沖積層の堆積が始まる最終氷期の最寒冷期：約18000～20000年前には、平均気温が現在より７～８℃低下していたとされており、地形環境は現在とは大きく異なり、海面は100m程度低く、仙台平野の海岸線は約40～50km沖合にあった。名取川下流域の富沢遺跡では、当時の動植物相をそのまま残した湿地林の跡が、人類の活動の痕跡とともに発見されている。その後、急速に海面は上昇し、海岸線は内陸側に移動するが、約8200年前から約6800年前にかけて、海水準の上昇速度の低下に伴い、河川が流送する土砂の堆積による地形変化が顕在化する。なかでも、仙台平野を特徴づけるのは、最終氷期以降、土砂の供給量が相対的に多い名取川の下流域では内湾の埋積が完了して海岸線が突出していくのに対し、土砂の供給量が相対的に少ない七北田川の下流域では名取川下流域の突出に伴って砂洲の形成が沖に進展するなどして、長期間、浜堤列に陸封された広大な潟湖が存続し、河川堆積物による潟湖の埋積という形で低地の地形形成が進行したことである。つまり、七北田川下流域の低地は、仙台平野の他の流域と比較して、海水準のわずかな上昇・下降によって変化が生じやすい地形的特徴を有していることが指摘されたのである。沼向遺跡の立地する第Ⅰ浜堤列は、標高が低く、まさに、こうした土地条件下にある。３列の浜堤列は、海岸線の前進期を通じて連続的に形成された地形で、各浜堤列を構成する砂層は堤間湿地の地下で連続しており、約5000年前以降の海面のわずかな上下変動のうち、大きくは、約5000年前（第Ⅰ浜堤列）、約2000年前（第Ⅱ浜堤列）、約700年前以降、現在にかけて（第Ⅲ浜堤列）、相対的に海水準の高い時期に海岸部に沿って形成された海浜砂堆の頂部が現在の地表面に頭を出し、列状の高まりとして認められる部分と考えられている。この海水準の微変動については、約5500年前には現在よりも１m程度高い位置まで達し、その後は約1300～1400年周期で海水面は１～２mの微変動を繰り返していると推定されている。また、七北田川下流域に発達する自然堤防の形成年代は、その直下にある後背湿地堆積物の放射性炭素年代が測定され、1520yrBP頃及び2400yrBP頃という大きく２つの時期が確認され、溢流によって形成される七北田川下流域の自然堤防の形成には特定の時期が存在する可能性があると指摘されている。

沼向遺跡の調査は、こうした七北田川下流域の地形学の成果をふまえながら、松本秀明らとの現地での検討を繰り返しながら行なわれた。

２．歴史的環境

仙台平野中北部の地形的環境をふまえながら、ここでは、七北田川下流域の歴史的環境を、名取川下流域を含めて概観しておこう（第1-5･6図、第1表）。

(1) 旧石器時代

平野北部の七北田川下流域では、平野中部の名取川下流域の扇状地性の地形面に立地する富沢遺跡のように、低地での旧石器時代の遺跡は見つかっていない。

(2) 縄文時代

七北田川下流域では、自然堤防に立地する山王遺跡で中期以降、浜堤列に立地する沼向遺跡で後期中葉以降、遺物の出土が見られ、丘陵では、金堀貝塚、加瀬貝塚、五万埼遺跡などがあり、前期から後期前葉にかけて、遺跡よっては貝塚が形成され、それ以降も遺物の出土が認められている。しかし、その数は比較的少なく、この時代には、仙台平野の北東側に位置する七ヶ浜半島から松島湾にかけて、室浜貝塚、大木囲貝塚、二月田貝塚など、数多くの遺跡が分布しており、縄文時代を通じて、安定的な生活の痕跡が認められ、晩期中葉からは土器製塩も行われてい

る。七北田川下流域には、当時、潟湖が広がっていた地形環境が推定され、沼向遺跡では遺構を伴って製塩土器も出土していることから、これらの地域は、外洋、湾、潟湖などの沿岸域に立地し、漁撈活動を主とする生業を営んでいたと考えられる。これに対して、名取川下流域では、扇状地性の地形面が広く発達しているなかに集落の展開が見られ、貝塚は形成されておらず、土器製塩も行われていない相違がある。

(3) 弥生時代

七北田川下流域では、自然堤防に立地する山王遺跡や自然堤防から後背湿地に立地する市川橋遺跡、浜堤列に立地する沼向遺跡のほか、周辺の丘陵には、五万埼遺跡などがある。このうち、山王遺跡では、弥生時代と推定される水田跡が検出されており、市川橋遺跡などでは石庖丁が出土している。七ヶ浜半島では、沿岸域に大代洞窟、桝形囲貝塚、清水洞窟、東宮貝塚などが分布し、中期前葉～中葉の古段階まで、貝塚が形成され、土器製塩も行われていた。沼向遺跡で中期前葉の製塩土器の出土がいくつかの包含層で確認されたのは、地形環境の復元にとって重要であるばかりでなく、七ヶ浜半島の遺跡群の動向と関係していることが知られる。また、中期中葉の中～新段階以降、土器製塩が行われなくなり、貝塚が形成されなくなると、遺跡数も減少する。名取川下流域では、水田跡が複数の遺跡で広く認められ、土器製塩も行われず、貝塚も形成されていないが、中期中葉の新段階以降、遺跡数が減少する傾向は認められている。七北田川下流域と名取川下流域は、地形環境の違いとともに、それに適応した生業の技術体系もやや異なることが推定されるが、遺跡の消長に共通性があることは、流域を越えた地域社会の動きがあることを示している。

(4) 古墳時代

前期は、前半と後半に大別される。七北田川下流域では、後半に、方墳、円墳といった古墳、方形周溝墓が出現し、集落の形成が認められる。沼向遺跡では、後半の墓域と居住域が検出されている。山王遺跡では、複数の地点で水田跡が検出されており、広域的な水田経営がなされていたことが知られる。しかし、前方後円墳や、前半の集落は確認されていない。潟湖が広がる環境は、生業や集落立地に関わりをもちながら、この時期以降も、古墳時代を通じて存続していくが、それとは異なり、自然堤防が広く展開する名取川下流域では、藤田新田遺跡の居住域、戸ノ内遺跡の方形周溝墓など、前半から古墳、方形周溝墓が出現し、集落の形成が認められる。前半から後半にかけて水田跡も検出されており、居住域の検出例も多くなる。それと、後半には、遠見塚古墳、雷神山古墳といった前方後円墳が築造される。

中期になると、古墳の築造は、一旦、行われなくなる。七北田川下流域では、丘陵に近く、扇状地性の地形面の自然堤防に立地する鴻ノ巣遺跡で、拠点的な集落が形成されるようになり、遺跡数は減少する。沼向遺跡では、遺構、遺物の検出が極めて少ない時期である。名取川下流域では、扇状地性の地形面の自然堤防に立地する南小泉遺跡で、拠点的な集落が形成される。また、中期後半からは大野田古墳群をはじめとして群集墳が築かれるようになる。

後期には、七北田川下流域で、中葉：住社式新段階～栗囲式期から遺跡数が増加し、拠点的な集落がなくなっていく。沼向遺跡のこの時期の遺構も、こうした新たに形成された集落と位置づけられ、居住域と生産域：畑域と水田域によって構成されている。周辺では、市川橋遺跡の居住域の形成がある。それに伴い、栗囲式期には、横穴式石室をもつ川袋１号墳（円墳）、郷楽４号墳（円墳）などの古墳や、大代横穴、道安寺横穴などの横穴墓が造営されるようになり、沼向遺跡など、須恵器が比較的多く出土する遺跡も増えてくる。同様の傾向は、名取川下流域でも認められるが、この流域では、その後、郡山遺跡において、Ⅰ期官衙（７世紀中葉～後葉）、Ⅱ期官衙（７世紀末葉～８世紀初頭）が営まれるようになる。このⅡ期官衙の造営に際しては、官衙域の区画施設から富沢遺跡にかけての地域に方格地割にもとづく条里型の土地割を施行しており（斎野2000）、官衙の性格とともに、土地制度における画期をなしている。

(5) 奈良・平安時代

奈良時代になると、七北田川下流域では、沼向遺跡の北北西3.5kmの丘陵に多賀城が造営され、また、その南東の丘陵に付属寺院である多賀城廃寺が設置される。多賀城跡の南側に位置する山王遺跡、市川橋遺跡では、遺構数の増加がみられ、奈良時代の終末から平安時代の初頭には、南北大路と東西大路を基軸とした方格地割が施工されている。なお、多賀城は、780（宝亀11）年の伊治公呰麻呂の乱の後、802（延暦23）年に胆沢城が完成すると鎮守府としての機能が移されるものの、10世紀後半に廃絶するまで律令制による東北支配の中心的な役割を果たした。また、陸奥国府周辺では、869（貞観11）年に、地震と津波によって死者千人を超える被害を出している。日本三代実録には『原野道路．惣爲滄溟』とあり、大地震による津波は七北田川下流域を海のように変えてしまったと記述されており、潟湖としての地形環境が存続していたことが被害を大きくした可能性を考えさせる。この津波の痕跡と考えられる堆積物が、沼向遺跡など、仙台平野海岸部の複数の遺跡から見つかっている。沼向遺跡では、奈良時代から平安時代初頭まで、古墳時代後期と同様の集落構成が存続するが、９世紀中頃には廃絶しており、この津波堆積物は、それらの遺構を覆う後背湿地基本層６層として識別されている。

これ以降、沼向遺跡では、近世の17世紀前葉まで、約800年間、遺構は検出されないが、潟湖の北岸にある山王遺跡、新田遺跡などでは、継続した集落の形成がみられる。また、沼向遺跡の集落の廃絶に後続するような動きとして、潟湖西岸に位置する中野高柳遺跡で、10世紀には生産域：畑域と水田域が形成されるようになり、12世紀には居住域が営まれる。これらの遺跡は、沼向遺跡とは異なり、自然堤防に立地し、標高もやや高い傾向があり、この時期には、沼向遺跡の立地する浜堤列が、居住に適さない環境になっていったことが考えられ、中世においても、同様であったと推定される。

(6) 中世

潟湖北岸・西岸の遺跡は、中世を通じて居住域の形成がみられる。この地域には、当時、南宮荘、八幡荘などの荘園があったことが知られており、沼向遺跡のある中野周辺は、八幡荘の一部であった。八幡荘自体は12世紀頃までには成立していたと考えられており、奥州藤原氏の滅亡後、在庁官人であった平陸奥介景衡が鎌倉幕府に八幡荘の地頭職を安堵されている。結城小峰文書や関東下知状、白河文書当時の記録には八幡荘の地名として、「中野堤」や「蒲生郷」、「萩園郷」、「蕨壇」、「柑子袋」、「藤木田」などが認められることから、中野から出花にかけての自然堤防を居住域と生産域：畑域、その周辺の後背湿地を生産域：水田域としていたのであろう。中野高柳遺跡には、八幡荘のなかでも有力な武士の屋敷群が形成されていたと考えられる。

室町時代には、八幡荘は下野国出身の保田景家の領地となる。保田氏は後に八幡介と名乗り、現在の多賀城市八幡字古館という現在の砂押川を望む微高地上に居を構えていたと言われている。この古館という地には、かつて八幡神社があったらしく、後にそれが、現在の多賀城市宮内に移り、今に至ると伝えられている。沼向遺跡の北東方、ポケット状の後背湿地を挟んで、浜堤列に立地している。

(7) 近世

慶長５（1600）年の仙台開府を契機として、仙台平野では、水運整備と新田開発が大規模な土木工事を伴って行われるようになる。名取川下流域では、木曳堀の開削によって阿武隈川と名取川を結び、七北田川下流域では、七北田川の主流路を付け替えて蒲生に河口を設けている。なかでも後者は、沼向遺跡の遺構群の展開に大きく関わっており、慶長年間（1596～1615）に蒲生萩袋の御仮屋守職で肝入の小野源蔵を工事監督者として行われた藩の政策で、生産域の治水と耕地拡大を目的としていたことが知られている。沼向遺跡に集落が形成されるようになるのは、17世紀中葉で、この土木工事の後のことであり、居住環境の改善もはかられていたといえる。しかし、この付け替え工事は、これで完成したわけではなく、17世紀後半の1670～1673（寛文10～13）年には、塩釜湾と仙台城下を結ぶ水上輸送路の強化として、四年の歳月をかけ、後に貞山堀と呼ばれる船入堀、船引堀の開削事業とともに、再度

行われた。これは、藩命によって蒲生邑主和田織部房長とその家臣佐々木伊兵衛が計画し、藩を通じて幕府の許可を得て行われている。寺嶋修二（1984）、渡辺信夫（2001）、佐藤昭典（2007）らの研究によると、七北田川の主流路付け替えは、慶長年間の工事では、湊浜を河口とする旧七北田川は存続していたが、寛文年間の工事で、船入堀、船引堀が開削されたことで、旧七北田川の水上交通路としての役割がなくなり、湊浜も閉じられたと考えられている。

こうした二度にわたる土木工事によって、水運の整備がはかられるとともに、七北田川下流域の新田開発も進行していくのであり、1774（安永３）年の中野村の『風土記御用書出』には、「田代 弐百五拾弐貫四百九拾八文・・・畑代 弐拾壱貫弐拾六文」とあり、人口は616人、村内の屋敷数は15箇所を数え、その一つに「沼向屋敷」の記載が確認される。この屋敷は、沼向遺跡の範囲に含まれる遠藤館跡と推定される。また、中野村に隣接する八幡村の『風土記御用書出』には、「拂沼　廻三百五拾間」とあり、現在では、「掃沼」として沼向遺跡の北東側に地名として残っている。その場所は、ポケット状の後背湿地の中央部に相当し、調査では確認されていないため、遺跡範囲外にあったと考えられる。

第３節　調査の方法と経過

１．発掘調査

（1）方法

ⅰ）調査区Gridの設定：Gridの設定は、第1次調査区の基軸ラインとした日本測地系（平面直角座標系X）のX＝-191.405km、Y＝＋15.415kmを踏襲した。Y軸は基点から北へ0A･0B･0C･0D・・・・、南へA･B･C･D・・・・、X軸は基点から東へ1･2･3･4・・・・、西へ01･02･03･04・・・・とする10m×10mGridを使用した（第1-9図）。Gridの細分は、1Gridを四分割して5m×5mGridとし、北西のGridをa、北東のGridをb、南東のGridをc、南西のGridをdとした。さらに、遺構の位置を示す詳細表記は、日本測地系（平面直角座標系X）の数値を直接記入した。なお、第１～３次調査では、遺構の詳細表記は、起点を00mとするＮ値、Ｓ値、Ｅ値、Ｗ値を用いている（第1-8図）。

ⅱ）遺構名称：遺構名の略号に関しては凡例で提示した。遺構番号については、調査次数が多いことから、遺構番号の頭に調査次数を冠して、第４次調査１号溝跡はSD401、第５次調査１号溝跡はSD501のようにし、遺構の分類毎に通し番号で01から表記している。従って、遺構番号は第４次調査から第９次調査までは３桁以上、第10次調査から第34次調査は4桁以上になる。ただし、過去の調査で検出された遺構と同一遺構（延長部分や調査区外未掘部分）に関しては、遺構番号を踏襲した。なお、古墳・方形周溝墓は調査次数番号を使用せずに、通し番号で表記した。なお、調査中に欠番となった遺構については整理作業においても欠番のままとした。

ⅲ）「Ⅱ層上面遺構」と「Ⅲ層上面遺構」：浜堤列で検出される遺構は、第１次～３次調査の成果から、基本層Ⅱ層上面で検出される近世の遺構を「Ⅱ層上面遺構」、基本層Ⅲ層上面で検出される古墳時代の「Ⅲ層上面遺構」に大別されている。第４次～34次調査では「Ⅲ層上面遺構」の時期幅が縄文時代晩期～平安時代初頭と広がったが、基本的には第１次～３次調査の成果が確認されており、この分類を踏襲した。なお、調査区によっては、基本層Ⅱ層が削平されて、「Ⅱ層上面遺構」がⅢ層上面で検出されることもある。この場合、Ⅲ層上面で「Ⅱ層上面遺構」と「Ⅲ層上面遺構」が検出されることになるが、両者の埋土は異なり、「Ⅱ層上面遺構」では黒色、赤褐色の砂質シルトやシルトを主とするのに対して、「Ⅲ層上面遺構」では褐色、にぶい黄褐色のシルト質砂や砂を主としており、ほぼ明確に分離される。

ⅳ）遺構実測：平成12年度の第10次調査から、遺構の平面実測に、日本測地系にもとづくトータルステーションを、業務委託して導入した。その理由は、沼向遺跡の発掘調査の増加が予測されたために、それに対処できる調査方法

を必要としたことにあり、これによって、遺構調査の効率化がはかられ、遺構図面をデータとして管理することが可能となった。この方法は、野外調査では、自動追尾式トータルステーションにCG平板システムを連動させており、調査区の壁断面図の作成や、遺物出土地点の測量などにも用いられた。また、室内整理では、手実測でとった遺構断面図との整合を確認し、各遺構をデータ化する作業も平行して行った。

(2) 経過

第４次～34次調査は、平成7年度から平成16年度にかけて行なわれた（第1-9図）。発掘調査の総面積は57293.8㎡である。報告書の作成作業は、平成17年度から平成21年度にかけて行なわれた。

遺 跡 名	沼向遺跡（遠藤館跡を含む）
所 在 地	仙台市宮城野区中野字沼向地内
調査原因	仙台港背後地内土地区画整理事業
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課
調査期間	平成７年９月６日～平成16年12月24日
調査面積	57,239.8㎡
調査次数	第４次調査～第34次調査

平成７年度

調査次数	第４次調査
調査期間	平成７年９月６日～平成７年９月14日
調査面積	454.1㎡（中野字沼向91-28他）
調 査 員	佐藤甲二、渡邊　誠、神成浩志、竹田幸司
作 業 員	72名

平成８年度

調査次数	第５次調査～第８次調査
調査期間	平成８年８月２日～平成８年12月13日
調査面積	1,947.8㎡
調 査 員	佐藤甲二、本多裕聡
作 業 員	54名

第５次調査	（平成８年８月２日～10月29日）	1,101.0㎡	中野字沼向91-1他
第６次調査	（平成８年10月15日～11月８日）	280.3㎡	中野字沼向135-1他
第７次調査	（平成８年10月22日～12月11日）	341.9㎡	中野字沼向135-5他
第８次調査	（平成８年10月16日～12月13日）	224.6㎡	中野字沼向91-24他

平成９年度

調査次数	第８次調査
調査期間	平成９年４月14日～平成９年５月28日
調査面積	1,017.3㎡（中野字沼向91-24他）

調 査 員　　佐藤甲二、渡部　紀
作 業 員　　40名

平成10年度
調査次数　　第９次調査
調査期間　　平成10年９月７日～平成10年12月11日
調査面積　　2,250.0㎡（中野字沼向91-23他）
調 査 員　　佐藤甲二、根本光一
作 業 員　　40名

平成11年度
調査次数　　第９次調査
調査期間　　平成11年４月12日～平成11年10月13日
調査面積　　3,300.2㎡（中野字沼向91-23他）
調 査 員　　佐藤甲二、根本光一
作 業 員　　48名

平成12年度
調査次数　　第10次調査
調査期間　　平成12年５月16日～12月21日、平成13年３月６日～３月26日
調査面積　　3,460.0㎡（中野字沼向135-1他）
調 査 員　　佐藤甲二、斎野裕彦、森　剛男
作 業 員　　64名

平成13年度
調査次数　　第10次調査～第17次調査
調査期間　　平成13年４月５日～平成13年12月20日
調査面積　　15,845.5㎡
調 査 員　　佐藤甲二、斎野裕彦、赤澤靖章、森　剛男
作 業 員　　122名

第10次調査	（平成13年４月５日～11月22日）	4,747.2㎡	中野字沼向91-18・93-4・94・95・96
第11次調査	（平成13年４月12日～７月13日）	1,079.0㎡	中野字沼向91-9. 30. 31
第12次調査	（平成13年４月19日～10月３日）	995.8㎡	中野字沼向91-1・114-1. 2・115・116
第13次調査	（平成13年７月３日～９月27日）	1,134.6㎡	中野字沼向91-18. 21・107-1. 4. 6. 7
第14次調査	（平成13年７月13日～12月20日）	4,118.6㎡	中野字沼向16-1・135-1. 5. 6
第15次調査	（平成13年９月10日～12月20日）	2,659.1㎡	中野字沼向137・138-1. 2・321-2・322-1
第16次調査	（平成13年11月７日～12月４日）	886.9㎡	中野字沼向105・112-1
第17次調査	（平成13年９月10日～12月７日）	224.3㎡	中野字沼向115

平成14年度

調査次数　第18次西調査～第23次調査

調査期間　平成14年４月８日～平成14年12月20日

調査面積　8,366.8㎡

調 査 員　斎野裕彦、村上秀樹、藤井勝哉、森　剛男

作 業 員　122名

第18次西調査	（平成14年４月９日～12月20日）	4,973.6㎡	中野字沼向91-18他
第19次調査	（平成14年４月８日～８月７日）	1,433.8㎡	中野字掃沼8-1他
第20次調査	（平成14年４月９日～４月23日）	207.7㎡	中野字沼向134-2他
第21次調査	（平成14年９月２日～11月15日）	999.8㎡	中野字掃沼15・16-1他
第22次調査	（平成14年８月６日～９月20日）	297.3㎡	中野字沼向91-24他
第23次調査	（平成14年６月11日～８月30日）	236.5㎡	中野字沼向98
第18次東調査	（平成14年９月24日～11月22日）	218.1㎡	中野字沼向91-14他

平成15年度

調査次数　第18次東調査・第24次調査～第28次調査

調査期間　平成15年４月７日～平成15年12月18日

調査面積　9,980.9㎡

調 査 員　斎野裕彦、藤井勝哉、三塚博之、森　剛男

派遣調査員　山川純一、田口雄一、牧口直崇、多ヶ谷香理（㈱四門）

作 業 員　97名

第18次東調査	（平成15年４月７日～10月21日）	3,235.2㎡	中野字沼向91-9他
第24次調査	（平成15年４月７日～６月４日）	2,341.3㎡	中野字沼向122-2. 125-2・133他
第25次調査	（平成15年４月22日～10月24日）	825.3㎡	中野字沼向97・98
第26次調査	（平成15年７月29日～12月４日）	492.2㎡	中野字掃沼8-1他
第27次調査	（平成15年10月14日～12月９日）	1,509.4㎡	中野字沼向114-2他
第28次調査	（平成15年９月１日～12月18日）	1,577.5㎡	中野字沼向122-2・133他

平成16年度

調査次数　第29次調査～第34次調査

調査期間　平成16年４月７日～平成16年12月24日

調査面積　10,617.2㎡

調 査 員　斎野裕彦、藤井勝哉、太宰　明、森　剛男

派遣調査員　菊池　豊、山川純一、田口雄一、高橋直崇、多ヶ谷香理（㈱四門）

作 業 員　112名

第29次調査	（平成16年４月７日～５月28日）	1,297.8㎡	中野字沼向130他
第30次調査	（平成16年４月７日～12月24日）	4,001.3㎡	中野字沼向98他
第31次調査	（平成16年６月18日～12月13日）	1,190.7㎡	中野字掃沼10-1. 沼向91-13他
第32次調査	（平成16年４月７日～12月13日）	1,539.0㎡	中野字掃沼５他

第33次調査　　（平成16年７月27日～12月15日）　1,397.9㎡　中野字沼向131他
第34次調査　　（平成16年６月１日～７月23日）　1,190.5㎡　中野字沼向123他

第４次～34次調査発掘調査作業員　259名
永野くみ子．大泉照美．青山こく．武田典子．千葉恒男．小林實．加藤友治．藤江勝子．相原妥各子．阿部美香．大友とし子．後藤靖子．金野静子．佐竹志女子．佐藤弘子．鈴木ちさ子．只木恵美子．津谷貞子．中村アサ子．西鈴代．芳賀恵子．服部和恵．本田光子．本間しづえ．谷津和子．渡辺かほる．大山のり子．橘英子．峯岸きみえ．佐藤てる子．井鳥喜久代．菅原晶子．遠藤清子．宮武典子．大谷基．金野節子．遠藤せい子．三浦祐子．佐藤薫．小野辰夫．植野武重．松田京子．武田雄次郎．石川守夫．佐藤八重子．丸森淑弘．岡田牧子．信清博．坪田孝子．二本木年男．加藤儀三郎．高橋多美子．小松千代子．鈴木みよ子．高橋早映．伊藤和江．山並明夫．相沢芳巳．佐々木洋介．横山美智子．根岸ゆみ．相沢あい子．水戸智．虎井優子．結城葉子．小澤洋子．今野順子．阿部孝子．千葉志津子．似内幸子．佐々木洋子．山田惣次．鈴木恵子．工藤敦子．野村孝子．星芳子．名越由美子．鈴木幸子．加藤君夫．佐藤キヨミ．奥山妙子．奥山祐子．石井多賀子．小野妙子．菊田親男．武藤季鷹．門間あさよ．横尾由記子．庄子弘子．原田由美子．関谷栄子．宮城富子．大槻明美．菅谷裕子．大内さくえ．岩間郁雄．長田源七．大島武雄．渡辺純子．佐藤久栄．佐藤愛子．佐藤ゆう子．佐藤リキ子．鈴木峰子．千葉恭子．小林篤夫．飯塚稔．村田健三．鈴木美代子．山寺文司．小野寺達重．吉田やよえ．内田節子．佐藤悦子．高橋弘子．相沢美佐子．青木吉次．小畑和子．上野美子．佐藤としゑ．阿部松雄．嘉村征機．奥山美華．小田島武弘．佐々木和江．蜂谷清．小野寺美伊子．高橋由美子．赤井信．阿部憲夫．鈴木由美子．及川弘美．木村孝基．木村孝子．菊田くら子．宍戸友之．中田福美．小野二千男．萱場美枝子．篠原進．船水頼子．清藤智子．浅野登．菊池よしえ．鈴木秀典．三浦喜代．飯田君江．大黒洋一郎．佐々木紘．佐伯真紀子．岡田正嗣．富山克明．菊地東三郎．結城元．武田真理子．伊藤信．加藤長司．菊地信裕．永沼けいこ．佐藤あや子．高橋太．高橋俊介．吉田妘絽子．小林和子．杉本節子．小林正彦．加藤恵美子．中村公祐．若生恵美子．虻川紀子．相澤早苗．青木浩典．朝香輝朗．熱海千鶴．阿部勝夫．阿部節子．阿部千加子．阿部竜一．安藤みえ子．飯島健一．石川好枝．岩崎功．岩崎洋子．岩渕節．宇都宮克之．遠藤養郎．遠藤庸太郎．遠藤光昭．及川智子．大森紀子．大山要治．髙橋志保．小澤綾子．小野國夫．小幡和美．小幡則子．小幡みえ子．片倉環．金崎英之．川合哲．熊谷勝雄．小上紀久美．斎藤美也子．齋藤美幸．佐伯三夫．坂上尚之．佐々木慶治．佐々木孝子．佐藤勝志．澁谷朱未．鈴木朝子．相馬泰子．平良昌．高橋護．高橋まゆみ．武田隆志．鳥山美紗子．中沢由紀子．中村美保．成田美津子．畠山昌子．早坂寛己．福島誠．三浦綾子．三浦耕平．三浦正敏．山口恵．小野寺あさみ．板谷美佐子．大金幸子．大友千代子．小野寺政見．加藤俊昭．嵯峨潔．佐藤弘．高橋ちえ．高橋洋典．高橋佳子．武田雄介．伊藤竜子．渡邊辰夫．茂泉真由美．小松美樹．菅原弘子．森田義史．浦山紀以子．青柳君代．菱沼みのり．小野栄子．菊地和江．鈴木貴美子．針生せつ子．関内久子．石川カツ子．安部文子．有路尚子．深瀬嶺子．森田義史．臼井美津子

２．整理作業

(1) 方法

この報告書は、調査面積、出土遺物量から、膨大な情報量になることが予想されたため、編集はデジタルデータ化をして行うことにした。また、遺構図版の作成や遺物実測図のトレースなど、可能なところは業務委託を導入した。編集は、第１章調査概要、第２章～第33章各調査区の調査成果（第４次～第34次）、第34章環境復元検討会、第35章自然科学分析、第36章総括の順に行った。なお、編集の効率化をはかるため、各章あるいは各節の構成は、本文中に遺構図や写真図版などは組み込まないようにし、本文の後ろに図、表、写真図版をまとめた。

(2) 経過

沼向遺跡の報告書作成作業は、平成17年度から平成21年度にかけて行った。

作業は、遺物の基礎整理と遺構図版の作成から始めた。遺構図版作成は、各調査区の個別遺構図作成と全体図作成に、平成９年度までの遺構図のデータ化を含めて、業務委託で行った。遺物については、水洗、ネーミング、接合の後は、陶磁器は実測からトレースまでを業務委託、弥生土器、土師器、須恵器、木製品、石器など、他の遺物はトレースを業務委託した。これらの作業と平行して、遺物写真の撮影、遺構及び遺物写真図版、遺物図版の作成、原稿作成を進めた。平成20年１月には、関連科学の分析・同定結果の検討会を開き、調査成果との整合性とともに環境の変化と遺構群の変遷が確認された。この検討会を受けて、第４次調査から順次、各調査の原稿、図版を確認し、総括の原稿作成しながら、編集作業を行った。

平成17年度（報告書作成１年目）

整理期間　平成17年４月11日～平成18年３月23日
調査員　斎野裕彦、太宰明
派遣調査員　田口雄一、高橋直崇、多ヶ谷香理（㈱四門）
作業員　64名
作業内容　遺物基礎整理、個別遺構図作成、遺物実測、陶磁器実測委託、分析・同定委託

平成18年度（報告書作成２年目）

整理期間　平成18年４月10日～平成19年３月22日
調査員　斎野裕彦、太宰明
派遣調査員　田口雄一、高橋直崇、多ヶ谷香理（㈱四門）
作業員　33名
作業内容　遺構図版作成、遺構写真図版作成、遺物実測、遺物写真撮影、陶磁器実測委託、実測図トレース委託、分析・同定委託

平成19年度（報告書作成３年目）

整理期間　平成19年４月10日～平成20年３月19日
調査員　斎野裕彦、佐伯修一
派遣調査員　田口雄一、高橋直崇、多ヶ谷香理（㈱四門）
作業員　22名
作業内容　原稿作成、遺構図版作成、遺構写真図版作成、遺物実測、遺物写真撮影、実測図トレース委託、分析・同定検討会

平成20年度（報告書作成４年目）

整理期間　平成20年４月10日～平成21年３月19日
調査員　斎野裕彦、佐伯修一
派遣調査員　多ヶ谷香理（㈱四門）
作業員　12名
作業内容　原稿作成、遺物図版作成、遺物写真図版作成、編集

平成21年度（報告書作成５年目）

整 理 期 間　　平成21年４月13日～平成22年３月19日

調　査　員　　斎野裕彦、佐伯修一

派遣調査員　　多ヶ谷香理（㈱四門）

作　業　員　　3名

作 業 内 容　　編集、校正、資料整理（図面、写真、遺物）

整理作業員　64名

永野くみ子．大泉照美．相原妥各子．阿部美香．佐竹志女子．佐藤弘子．只木恵美子．津谷貞子．服部和恵．本田光子．本間しづえ．谷津和子．大山のり子．橘英子．虎井優子．阿部孝子．千葉志津子．佐々木洋子．鈴木恵子．工藤敦子．星芳子．佐藤悦子．高橋弘子．相沢美佐子．菅谷裕子．奥山美華．佐々木和江．小野寺美伊子．菊田くら子．佐藤てる子．清藤智子．三浦喜代．飯田君江．大黒洋一郎．虻川紀子．青木浩典．熱海千鶴．阿部節子．阿部千加子．安藤みえ子．石川好枝．岩崎洋子．岩渕節．大森紀子．髙橋志保．小澤綾子．小幡和美．小幡則子．小幡みえ子．片倉環．川合哲．小上紀久美．斎藤美也子．鈴木朝子．中沢由紀子．畠山昌子．三浦綾子．山口恵．板谷美佐子．大金幸子．大友千代子．伊藤竜子．茂泉真由美．小松美樹．

第４節　基本層序

浜堤列と後背湿地は地形形成過程が異なるため、沼向遺跡では、それぞれの基本層序を設定した。両者の混乱を避けるため、浜堤列の基本層序はローマ数字、後背湿地の基本層序は算用数字を使用した（第１-10～13図）。

１．浜堤列の基本層序

浜堤列の基本層序は大別３層、細別20層を確認した。遺構はⅡ層上面とⅢ層上面で検出している。

Ⅰ層　　Ⅰa層、Ⅰb層、Ⅰb'層、Ⅰc層の４層に細別される。現代の耕作土及び整地層である。

Ⅰa層　　第23次調査区を除くすべての調査区で確認した。黒褐色または暗褐色で、土性は調査域東部では粘土質シルトが多く、中央部および西部シルト、砂質シルト、シルト質砂が多くなる。現代の畑耕作土及び整地土で、小礫、炭化物、焼土粒を含む。層厚は１～140cmである。

Ⅰb層　　第５次～第９次、第11次～第14次、第17次、第18次、第18次東、第22次～第23次、第25次～第28次調査区で確認した。黒褐色または暗褐色粘土質シルト、砂質シルト、シルト質砂からなる。にぶい黄褐色または褐灰色砂を含み、炭化物と酸化鉄を含む。Ⅰa層以前の耕作土及び整地土である。Ⅱ層上面遺構の一部はⅠb層から掘り込まれる。層厚は１～41cmである。

Ⅰb'層　　第13次調査区で確認した。黒褐色粘土質シルトに黒色砂を多量に含む。層厚は0～16cmである。

Ⅰc層　　第５次、第７次、第８次、第11次、第12次、第29次調査区で確認した。にぶい黄褐色もしくは灰黄褐色砂からなり、黒褐色砂ブロックを多量に含む。Ⅰa層及びⅠb層がⅢ層上部に及ぼした撹乱層である。層厚は1～11cmである。

Ⅱ層　　Ⅱa_1層、Ⅱa_2層、Ⅱa_3層、Ⅱb層の４層に細別される。Ⅱa２層が確認されなかった調査区では、Ⅱa_1層とⅡa_3層の分層は困難でⅡa層として分層している。Ⅱa層として確認したのは、第５次、第６次、第20次、第29次、第33次、第34次である。

Ⅱa_1層　　第８次、第９次、第15次、第23次～第25次、第28次調査区である。黒褐色または灰黄褐色シルト質粘土

が主体で、一部で粘土質シルトになる。灰白色火山灰ブロックを少量含む。層厚は１～29cmである。

Ⅱa$_2$層　第８次、第９次、第23次～第25次、第28次、第30次調査区で確認した。いわゆる灰白色火山灰層で、後背湿地基本層４層に対応する。層相変化でにぶい黄橙色または褐灰色を呈す。Ⅲ層上面遺構と判断する際の鍵層で、遺存状態が良好な一部のⅢ層上面遺構ではレンズ状に堆積する。層厚は１～13cmである。

Ⅱa$_3$層　第８次、第９次、第15次、第23次～第25次、第28次、第30次調査区で確認した。黒褐色または黒色粘土質シルトが主体で、一部で砂質シルトになる。灰白色火山灰小ブロックを含む。層厚は１～65cmである。

Ⅱb層　第５次～第７次、第24次、第28次調査区で確認した。黒色シルト質砂からなる。第５次では黒褐色粘土質シルトを含み、第24次調査区では灰黄褐色シルト質砂を含む。層厚は１～23cmである。

Ⅲ層　Ⅲa層、Ⅲb層、Ⅲｃ層、Ⅲd層、Ⅲe層、Ⅲf層、Ⅲg層に細別される。いずれも自然堆積層である。第８次、第９次調査区ではⅢb層はⅢb$_1$層とⅢb$_2$層に細別された。Ⅲg層は第１次～３次調査では４層に細別していたが、第24次調査区以外では細別できなかった。Ⅲ層は9層に細別される。

Ⅲa層　第５次～第８次、第12次、第17次、第24次、第28次調査区で確認した。にぶい黄褐色シルト質砂からなり、一部で黒褐色、灰黄褐色シルト質砂になる。層厚は１～17cmである。

Ⅲb層　第５次、第６次、第８次、第９次、第12次、第13次、第16次、第17次、第28次調査区で確認した。にぶい黄褐色シルト質砂からなる。黒褐色砂またはにぶい黄褐色砂、灰黄褐色砂を少量含む。層厚は０～19cmである。第８次、第９次調査区では２層に細別される。Ⅲb$_1$層は暗褐色シルト質砂で、Ⅲb$_2$層は褐色シルト質砂からなる。Ⅲb$_1$層の層厚は０～13cmで、Ⅲb$_2$層の層厚は１～９cmである。

Ⅲc層　第５次、第６次、第13次～第16次、第20次、第28次、第29次、第33次、第34次調査区で確認した。調査域東部では黒褐色シルト質砂で、第29次調査区では粘土質シルトになる。調査域中央部では黒褐色またはにぶい黄褐色シルト質砂となる。黒褐色またはにぶい黄褐色砂を含む。層厚は１～37cmである。

Ⅲd層　第５次、第13次～第17次、第20次、第28次、第29次、第34次調査区で確認した。黒色シルト質砂からなる。一部で褐灰色砂を含む。第13次調査区では灰黄褐色、第17次調査区では褐灰色シルト質砂からなる。層厚は１～23cmである。第16次、第17次調査区ではⅢd'層を確認した。褐灰色シルト質砂からなり、層厚は１～9cmである。

Ⅲe層　すべての浜堤列調査区で確認した。にぶい黄褐色シルト質砂からなり、一部で黒褐色砂もしくは砂質シルトブロックを含む。第８次～第10次、第14次、第25次、第30次、第31次調査区ではにぶい黄橙色からなり、一部で浅黄色または暗灰黄色砂ブロックを含む。第６次、第28次調査区では灰黄褐色土と質砂からなり、浅黄色砂ブロックを含む。層厚は１～55cm以上である。

Ⅲf層　第14次、第24次、第30次調査区の、基本層序の断面観察で確認した。第14次調査区では黄灰色シルト質砂からなる。第24次調査区では黒色シルト質砂からなり、上部に鈍い黄褐色砂ブロック、下部に黄灰色砂ブロックを含む。第30次調査区では黒褐色砂質シルトからなり、にぶい黄橙色砂小ブロックを含む。層厚は１～16cmである。

Ⅲg層　第13次、第16次、第17次調査区で確認した。第24次調査区ではⅢg$_1$層として確認した。第13次調査区では灰黄色シルト質砂からなり、上部ににぶい黄褐色砂を少量含む。第16次第17次調査区ではにぶい黄橙色シルト質砂からなる。第24次調査区では黄灰色シルト質砂からなる。層厚は1～19cm以上である。

２．後背湿地の基本層序

後背湿地の基本層序は大別12層、細別24層を確認した。水田土壌と確認されたのは、3a層、３a$_2$層、9a層、10a層、10c⑭中層、10c層、11層である。後背湿地は地形により地帯Ａ、地帯Ｂ１、地帯Ｂ２、地帯Ｃに分類した。同一層でも地帯が異なると層相に違いが見られた。第14次調査中区で確認した10c層⑭中は10b層直下で確認したが、

層相が他調査区の10c層と異なるので層位名を細別した。すべての調査区は12a層上面を最も下位の遺構確認面として調査を行なっており、12b層は断面観察で確認している。

１層　　第21次調査区を除く後背湿地調査区で確認した。第14次、第15次調査区では黒褐色粘土からなる現代の水田土壌である。第19次、第26次、第31次、第32次調査区では盛土である。

２層　　第21次調査区を除く後背湿地調査区で確認した。黒色または黒褐色粘土からなる現代の水田土壌である。

３層　　3a層、3a$_2$層、3b層、3c層に細別される。第14次調査東区では3c$_1$層、3c$_2$層に細別された。３層は５層に細別される。第14次調査中区では細別して水田土壌を確認することが出来なかった。

３a層　　第21次調査区を除いた後背湿地調査区で確認した。黒褐色または黒色粘土を主体とする水田土壌で、下層ブロックを含む。土壌は3b層を主要な母材とする。耕作深度は3b層の層厚が薄いところでは3c層までおよぶ。層厚は上面が削平または連続耕作されており本来のものではないが１～30cmである。下面は起伏する。地帯Ｃでは層厚が増す。

３a$_2$層　　第32次調査区の地帯Ｃで確認した。黒褐色泥炭質粘土を主体とする水田土壌で、黒褐色粘土ブロックを多量に含む。下面は起伏する。層厚は1～12cmである。

３b層　　第19次、第21次、第26次、第31次、第32次調査区で確認した。オリーブ黒色または黒色粘土からなる自然堆積層で植物遺体を含む。3a層水田土壌の主要な母材となる。大半は3a層に削平され部分的に残存するか、擬似畦畔Ｂ部分で確認した。層厚は１～32cmで、3c層の層厚が厚いところでは層厚が薄くなる傾向が見られる。

３c層　　第14次、第15次、第19次、第26次、第32次調査区で確認した。黒褐色または黒色泥炭質粘土からなる自然堆積層で互層状に堆積する。植物遺体を極めて多量に含む。第14次調査東区では3c$_1$層・3c$_2$層に細別が可能である。層厚は１～34cmである。地帯Ｂでは部分的に堆積し、地帯Ｃでは層厚が増す。

４層　　すべての後背湿地調査区で確認した灰白色火山灰層である。浜堤列基本層Ⅱa$_2$層に対応する。色調は層相変化により異なる箇所もある。地帯Ａ、地帯Ｂでは安定した堆積状況を示し、層厚は１～17cmである。地帯Ｃでは安定して堆積する箇所と、ブロック状に堆積する箇所、堆積が見られない箇所がある。

５層　　すべての後背湿地調査区で確認した。黒色または黒褐色泥炭質粘土からなる自然堆積層で植物遺体を極めて多量に含む。層厚は１～12cmである。地帯Ｃでは堆積が乱れ、堆積が見られない箇所もある。

６層　　すべての後背湿地調査区で確認した。にぶい黄燈色またはにぶい黄褐色砂からなる自然堆積層で、植物遺体を少量含む。層厚は１～５cmである。地帯Ｃでは確認されなかった。

７・８層　　すべての後背湿地調査区で確認した。第１次～３次調査では水田土壌である8a層を挟んで自然堆積層である泥炭質粘土の７層と8bを確認したが、第14次調査区以降では8a層は確認されなかった。第14次調査東区では７層と8b層を分層できたが、他の調査区では両層とも泥炭質粘土の自然堆積層で分層が困難なため、７・８層とまとめて扱うこととした。黒褐色または暗赤褐色泥炭質粘土を主体とする自然堆積層で、互層状に堆積する。植物遺体を極めて多量に含む。層厚は１～27cmである。地帯Ｃで層厚が増す。3c層、５層に比べて泥炭の分解は進んでいない。

９層　　9a層と9b層の２層に細別される。

９a層　　すべての後背湿地調査区で確認した。黒褐色またはオリーブ黒色、黄灰色粘土を主体とする水田土壌で下層ブロックを含む。下層ブロックは下面ほど多量に含む。9b層を主要な母材とする。耕作深度は大半が10a層まで及んでおり、一部では12a層まで及ぶ。植物遺体を含む。層厚は1～33cmである。下面の起伏は顕著で、地帯Ｃではより顕著になる。

９b層　　第14次調査中区・東区、第15次調査区、第19次調査区で確認した。黒褐色または黒色泥炭質粘土から

なる自然堆積層で互層状に堆積する。植物遺体を極めて多量に含む。9a層水田土壌の主要な母材となる。大半は、9a層の耕作により削平され部分的に残存するか、擬似畦畔Ｂ部分で確認した。層厚は9a層の耕作により本来の数値ではないが、１～33cmである。

10層　　10a層、10b層、10c層に細別して、10c層はさらに10c層、10c層⑭中、10c層⑭東、10d層⑭中、10d層⑭東に細別した。10層は７層に細別される。

10a層　　すべての後背湿地調査区で確認した。灰色またはオリーブ黒色、黒褐色粘土を主体とする水田土壌で下層ブロックを含む。下層ブロックは下面ほど多量に含む。10b層を主要な母材とする。耕作深度は大半が12a層まで及んでおり、下層に10c層が堆積するところでは10c層まで及んでいる。植物遺体を含む。一部で、土壌中に黄灰色火山灰極小ブロックを含む。層厚は9a層の連続耕作で削平され本来の数値ではないが１～44cmである。地帯Ａで層厚がやや増す。下面の起伏は顕著である。

10b層　　第31次、第32次調査区を除く後背湿地調査区で確認した。黒褐色または黒色粘土からなる自然堆積層で植物遺体を含む。10a層水田土壌の主要な母材となる。大半は、10a層の耕作により削平され部分的に残存するか、擬似畦畔B部分で確認した。層厚は10a層の耕作により本来の数値ではないが、１～28cmである。

10c層　　第19次、第26次、第31次、第32次調査区で確認した。灰色粘土を主体として、オリーブ黒色粘土ブロックを多量に含む水田土壌である。下層は12a層となり、母材は不明である。土壌中に風化凝灰岩礫と植物遺体を少量含む。また、一部で上部に黒色粘土または泥炭質粘土が帯状に堆積する。層厚は10a層の連続耕作で本来の数値ではないが１～32cmである。下面に起伏は見られない。

10c層⑭中　第14次調査中区で確認した。黄灰色粘土を主体とする水田土壌である。オリーブ黒色粘土ブロックを多量に含み、植物遺体を少量含む。10a層の連続耕作によって削平されており、10a層畦畔３直下でのみ確認した。10d層⑭中を主要な母材としたと考えられる。10c層とは色調が異なり、土壌中に風化凝灰岩礫も見られない。層厚は１～18cmである。

10c層⑭東　第14次調査東区で確認した。暗灰黄色粘土からなる自然堆積層で、植物遺体を含む。層厚は１～５cmである。

10d層⑭中　第14次調査中区で確認した。オリーブ黒色粘土からなる自然堆積層で互層状に堆積する。植物遺体を含む。10a層畦畔３の10c層⑭中の直下でのみ確認した。10c層⑭中の主要な母材であったと考えられる。層厚は１～９cmである。

10d層⑭東　第14次調査東区で確認した。黒褐色粘土からなる自然堆積層で、植物遺体を多量に含む。10c層⑭東の直下で確認した。層厚は１～２cmである。

11層　　第14次調査中区・東区で確認した。灰色または灰オリーブ色粘土を主体としてオリーブ黒色粘土ブロックを含む水田土壌である。下層は12a層となり、母材は不明である。層厚は10a層の連続耕作で削平され本来の数値ではないが、１～30cmである。

12a層　　すべての後背湿地調査区で確認した。緑灰色粘土または灰色シルト質粘土、灰色砂質シルトからなる自然堆積層である。一部で黒色またはオリーブ黒色粘土、黒色泥炭質粘土が互層状となる。層厚は１～73cm以上である。

12b層　　第19次、第26次、第31次、第32次調査区で確認した。灰色または褐灰色の粗砂からなる自然堆積層である。層厚は１～34cm以上である。

なお、第14次・第15次・第31次調査区では、後背湿地から浜堤列へ移行する部分の基本層を確認した。この浜堤列移行部の基本層は、各調査区で様相が異なるので、それぞれの調査区の基本層序で詳述する。

第５節　遺物の分類と時期区分

１．遺物の分類

出土した遺物の種類は、以下の略号を使用した。

Ａ：縄文土器、Ｂ：弥生土器、Ｃ：非ロクロ土師器、Ｄ：ロクロ土師器、Ｅ：須恵器、Ｇ：土師質土器、Ｈ：瓦、Ｉ：陶器・土器、Ｊ：磁器、Ｋ：石器・石製品、Ｌ：木製品、Ｎ：金属製品、Ｐ：土製品、Ｔ：玉製品

である。なお、縄文土器・弥生土器に含まれる製塩土器は、器厚から、厚手の６～７mm、薄手の３～４mm、その中間の５mm前後に分けられる。

遺物番号は、調査区ごとに通し番号をつけ、本文中に記述し、実測図と写真の双方にも記入した。また、図示したすべての遺物について、各調査報告の遺物観察表に記述した。なお、いくつかの遺物は、第36章第５節で、遺跡内の集成、分類を行った。

２．時期区分と土器群の設定

沼向遺跡では、縄文時代後期中葉から近世にかけての遺物が出土している。その時期区分は、縄文土器、弥生土器、土師器、陶磁器の編年研究の成果から、それぞれ土器群を設定し、それにもとづいて、第２表のように、沼向①期（縄文時代後期・晩期）～沼向⑭期（近世後葉）まで、大別14期、細別42期に分ける方法をとった。そのうち、遺構群の主体を占める古墳時代前期から平安時代初頭（③～⑩期）までの土器は、出土数量が多く、なかでも土師器は、土器群設定の基準資料ともなっていることから、この節で分類（第１-14･15図）を提示し、各調査の報告では、本文中に個体ごとの分類を示すことにした。須恵器に関しては、古墳時代中期：④期以降、これまでの研究をふまえて、田辺昭三の編年（田辺1966、1981、以下「田辺編年」、近つ飛鳥博物館の編年、（近つ飛鳥博物館2006、以下「近つ飛鳥博編年」）などを併用している。

(1) 沼向①期（第１-16図）

縄文時代後期中葉から晩期末葉、縄文土器の編年では、宝ケ峯式から大洞Ａ′式にかけての時期である。後期の①Ａ期と晩期の①Ｂ期に大別される。出土土器には、細分された各時期の土器が認められるわけではないため、土器群の設定は、①Ａ期では、①Ａ１期の宝ケ峯式期、①Ａ２期の金剛寺式期、①Ｂ期では、①Ｂ２期の大洞C_1式・C_2式期、①Ｂ４期の大洞A_2式期、①Ｂ５期の大洞Ａ′式期で行った。

ⅰ）沼向①Ａ１期：第８次～10次調査区、第18次東調査区など、遺跡中央部北側の基本層から出土した後期中葉の宝ケ峯式の土器群（沼向①Ａ１期土器群）の時期である。出土土器は極めて少ない。器種は、深鉢と浅鉢がある。文様は、地文上に施文される入組文、磨消縄文による波状文、貼瘤を伴う無文上に施文される平行沈線などがある。地文には、斜行縄文のほか、同一原体によって羽状様に施文される異方向縄文もみられる。

ⅱ）沼向①Ａ２期：遺跡東部の第24次調査区の基本層から出土した後期後葉の金剛寺式の土器群（沼向①Ａ２期土器群）の時期である。出土土器は極めて少ない。器種は、深鉢がある。

ⅲ）沼向①Ｂ２期：第30次調査SX30176、SX30193埋土出土土器を基準資料とする晩期中葉の大洞C_1式・C_2式の土器群（沼向①Ｂ２期土器群）の時期である。第８次～10次・30次調査区の基本層及び他時期の遺構埋土からも出土している。器種は、深鉢、鉢、台付鉢、製塩土器がある。文様は、口唇の連続した刻目、口縁部の平行沈線文、縦の連続した刻目を伴う平行沈線文がある。地文には、羽状縄文、斜行縄文が施文されている。

ⅳ）沼向①Ｂ４期：第９次調査SK9101出土土器を基準資料として、第８次～10次調査区の基本層及び他時期の遺構埋土から出土した晩期後葉の大洞A_2式の土器群（沼向①Ｂ４期土器群）の時期である。器種は、深鉢、鉢、高坏がある。波状口縁がみられ、波頂部は突起状をなす。文様は、匹字文、変形匹字文、工字文、長方形文、平行沈

線文がある。地文は、ＬＲ斜行縄文が施文されている。

ⅴ）沼向①Ｂ５期：晩期末葉の大洞Ａ′式の土器群（沼向①Ｂ５期土器群）の時期である。出土数は極めて少なく、器種は高坏が確認される程度である。

(2) 沼向②期（第1-16図）

弥生時代前期から後期末葉、弥生土器の編年では、青木畑式並行期から赤穴式並行期にかけての時期である。前期：②Ａ期、中期：②Ｂ期、後期：②Ｃ期に大別される。②Ｂ１期を除いて、遺構出土のまとまった資料は少ないが、各時期の土器が基本層及び他時期の遺構埋土から出土している。第２表のように、②Ｂ期と②Ｃ期はそれぞれ5時期に細分される。そのうち、中期中葉の時期は、古段階・中段階・新段階の３段階に細分され、沼向②Ｂ２期・Ｂ３期・Ｂ４期に相当する。

ⅰ）沼向②Ａ期：前期の青木畑式に並行する土器群の時期（沼向②Ａ期土器群）である。出土数は極めて少ない。器種は、浅鉢が確認され、文様は、無文上に副線を伴う変形工字文が施文されている。

ⅱ）沼向②Ｂ１期：遺物包含層であるSX809埋土３～５層出土土器を基準資料とする中期前葉の寺下囲式に並行する土器群（沼向②Ｂ１期土器群）の時期である。SX981埋土３c～３d層、SX1011埋土７・８層、SX1026埋土４層、SX1034埋土８層からもまとまって出土しているほか、基本層などからも出土している。器種は、深鉢、鉢、浅鉢、甕、高坏、壺のほか、製塩土器がある。文様は、無文上施文の複線変形工字文、複線流水工字文、複線波状文、磨消縄文を伴う磨消変形工字文、磨消縄文による幾何学文、平行沈線文がある。地文はＬＲ斜行縄文、擬縄文が施文されている。

ⅲ）沼向②Ｂ２期：中期中葉の古段階である桝形式の土器群（沼向②Ｂ２期土器群）の時期である。出土数は極めて少ない。器種は、浅鉢、深鉢が確認され、文様は、磨消変形工字文、複線変形工字文が施文されている。

ⅳ）沼向②Ｂ３期：中期中葉の中段階である中在家南式の土器群（沼向②Ｂ３期土器群）の時期である。出土数は極めて少ない。器種は、浅鉢が確認され、文様は、磨消変形工字文、複線変形工字文が施文されている。

ⅴ）沼向②Ｂ４期：中期中葉の新段階である円田式に並行する土器群（沼向②Ｂ４期土器群）の時期である。出土数は少ない。器種は、浅鉢、甕が確認される。文様は、磨消縄文がなくなり、無文上に沈線で文様が描かれる。1帯おきにミガキ調整をなす特徴的な手法がみられる。また、細線化が進み、平行沈線文及び平行沈線による文様施文では、沈線幅が0.5mm以下となる。

ⅵ）沼向②Ｂ５期：中期後葉の十三塚式あるいは崎山式の土器群（沼向②Ｂ５期土器群）の時期である。出土数は少ない。器種は、壺が確認される。文様は、無文上に、同時施文平行沈線によって、同心円文、重山形文などが施文されている。

ⅶ）沼向②Ｃ１期～沼向②Ｃ３期：後期初頭～中葉の広義の天王山式期である。出土数は極めて少なく、破片資料がほとんどである。複合口縁が成立する後期初頭の②Ｃ１期（沼向②Ｃ１期土器群）、交互刺突文が成立する後期前葉（狭義の天王山式期）の②Ｃ２期（沼向②Ｃ２期土器群）、交互刺突文が退化する後期中葉の②Ｃ３期（沼向②Ｃ３期土器群）に細分される。

ⅷ）沼向②Ｃ４期～沼向②Ｃ５期：後期後葉～末葉の赤穴式並行期である。古段階を②Ｃ４期（沼向②Ｃ４期土器群）、文様が消滅していく新段階を②Ｃ５期（沼向②Ｃ５期土器群）とする。出土数は極めて少ないが、②Ｃ５期では、SX18E266から１個体が出土しており、基準資料としている。

(3) 沼向③期（第１-17図）

古墳時代前期、土師器の編年では、塩釜式土器の時期である。塩釜式土器は、前半段階と後半段階の２段階に分けられており（次山1992、辻1995、種石2005）、沼向遺跡では前半段階を③Ａ期、後半段階を③Ｂ期とした。沼向遺跡では、③Ａ期の遺物は明確には確認されていないが、③Ｂ期には、土師器の一括資料が多数確認されている。

③Ｂ期の遺構は、一括資料が出土した遺構を含め基本的に重複関係はないが、出土遺物の形態的特徴から、古段階：③Ｂ１期、中段階：③Ｂ２期、新段階：③Ｂ３期の3時期に分けた。編年は、基本的には住居床面一括資料をもとに行い、一部で遺構底面あるいは遺構埋土からの出土遺物も用いた。

ⅰ）沼向③Ｂ１期：SI904、SI926、SI3015の床面出土土器に代表される土器群（沼向③Ｂ１期土器群）の時期である。

高坏は、Ⅰc類があり、裾部は屈折して外側に開く。透かし穴はない。坏部の形状は不明である。住居床面以外からは、透かし穴のないⅡc類が出土している。坏部は、脚部から内反して浅く外上方に開く。小型丸底鉢は、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類がある。Ⅰ類には大型のものがある。Ⅰ類は丁寧なつくりで、Ⅱ類はやや粗雑なものが含まれる。器台は、Ⅱa類がある。透かし穴は３方向である。受部は、脚部から内反して浅く外上方に開く。外面調整は、ハケメ（x類）とヘラナデ（y類）である。住居床面以外からは、ヘラミガキ（z類）のⅡa類とⅡc類、Ⅲax類が出土している。直口壺は、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類がある。体部最大径は、いずれも中位（２類）の位置にある。住居床面以外からは、突帯に刻みが入ったⅢ類が出土している。壷は、Ⅰ類は小型と中型、大型があり、Ⅱ類は大型がある。Ⅰ類の口縁部は、外反（a類）、外傾（b類）、内反（c類）があり、体部最大径は上位（１類）と中位（２類）の位置にある。Ⅱ類の口縁部は、複合口縁で無段（d類）と有段（e類）があり、体部最大径は中位（２類）と下位（３類）の位置にある。鉢は、Ⅰa類、Ⅱb類、Ⅱc類、Ⅱd類、Ⅲc類がある。底部は、Ⅰa類に丸底（②類）があり、その他は平底（①類）である。Ⅰa②類の中には精製品と考えられるものがある。住居床面以外からは、Ⅰd類が出土している。有孔鉢は、Ⅰa類、Ⅱb類がある。Ⅱ類は、鉢ＣⅠa①類を利用している。住居床面以外からは、鉢ＣⅠa①類を利用したⅡa類が出土している。台付甕は、Ⅰ類がある。台部は、直線的に「ハ」字状に開く。住居床面以外からは、内反して開く台部が出土している。甕は、体部が球形のⅠ類がある。口縁部は、外反・外傾して大きく開くものと、開きが小さいもの、端部を折り返して口縁部を肥厚させるものがある。頸部に段はない（１類）。体部は、最大径が上位（a類）と中位（b類）の位置にある。体部外面の調整、はハケメ（x類）が基本で、ヘラナデ（y類）とヘラミガキ（z類）が一定量見られ、下半にヘラケズリが残るものもある。甑は出土していない。

ⅱ）沼向③Ｂ２期：SI921、SI1005、SI1007の床面出土土器に代表される土器群（沼向③Ｂ２期土器群）の時期である。

高坏は、Ⅱa類とⅡc類がある。透かし穴は、Ⅱa類ではなく、Ⅱc類では４方向である。坏部は、Ⅱa類では扁平な体部にやや内反して外上方に開く口縁部を持つ。Ⅱc類は、不明である。小型丸底鉢は、Ⅱ類、Ⅲ類がある。体高は③Ｂ１期より増す傾向があり、頸部は開きが小さいものが見られるようになる。住居床面以外から、Ⅰ類が出土している。器台は、Ⅱa類とⅢa類がある。Ⅱ類の透かし穴は、３ないし４方向である。受部は、有段で内反して外上方に開くものと、外上方に開き中位で屈曲するものがある。外面調整は、ヘラミガキ（z類）である。Ⅲa類は、特殊器台である。住居床面以外からは、Ⅱcy類、Ⅲax類が出土している。直口壺は、Ⅰ類がある。体部最大径は中位（２類）と、下位（３類）の位置にある。壷は、Ⅱd類、Ⅱe類がある。体部最大径は、中位（２類）の位置にある。鉢は、Ⅰa類、Ⅰd類、Ⅱa類、Ⅱb類、Ⅱd類、Ⅲc類がある。底部はⅠ類に丸底（②類）があり、その他は平底（①類）である。精製品は、外反・外傾（a類）と複合口縁（d類）があり、器高が増す。有孔鉢は、Ⅰa類がある。台付甕は、Ⅰ類がある。台部は、直線的に「ハ」字状に開く。甕は、体部が球形のⅠ類が大半で、卵形のⅡ類がわずかにある。口縁部は、外反･外傾して大きく開くものと、開きが小さいもの、端部を折り返して口縁部を肥厚させるものがある。頸部に段はない（１類）。体部は、最大径が上位（a類）にくるものと中位（b類）の位置にある。体部外面の調整は、Ⅰ類はハケメ（x類）とヘラナデ（y類）、ヘラミガキ（z類）で、下半にヘラケズリが残るものもある。Ⅱ類はハケメとヘラナデである。

ⅲ）沼向③Ｂ３期：SI1805、SI18E002の床面出土土器に代表される土器群（沼向③B3期土器群）の時期である。この住居のほかにまとまって出土している遺構は、SK10111とSX1506である。

高坏は、住居床面からの出土例はない。住居床面以外から、Ⅰa類、Ⅰb類、Ⅰc類があり、中実柱状のⅠb類が多い。透かし穴はなく、裾部は屈折して外側に開く。坏部は、脚部から内反して外上方に開く。小型丸底鉢は、住居床面からは体部のみ出土している。住居床面以外からは、Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類が出土している。体部最大径と体高は、前段階より大きくなる傾向がある。頸部は開きが小さく、口径と体部最大径が同じ程度のものがある。器台は、住居床面からの出土例はない。住居床面以外からは、Ⅰa類とⅡa類が出土している。Ⅰ類の透かし穴はなく、Ⅱ類は、３方向である。受部は、Ⅱ類は脚部から内反して開き、中位で屈曲して外傾する。Ⅰ類は不明である。直口壺は、Ⅰ類、Ⅲ類がある。Ⅰ類は、体部最大径が上位（１類）と中位（２類）、下位（３類）の位置にある。Ⅲ類は、体部最大径は中位（２類）の位置にある。壷は、Ⅰa類は小型と中型、Ⅱｄ類は中型と大型がある。Ⅰ類、Ⅱ類とも体部は③Ｂ２期より長くなり、体部最大径は中位（２類）と下位（３類）の位置にある。住居床面以外からは、大型のⅠa２類と、最大径が上位（１類）の位置にある体部が出土している。鉢は、Ⅰa①類、Ⅰa②類がある。精製品は、小型と平底（②類）がある。有孔鉢は、Ⅱa類がある。Ⅰ類は見られなくなる。Ⅱa類は、鉢ＣⅡc①類の器形を利用している。台付甕は出土していない。甕は、体部が球形のⅠ類と卵形のⅡ類がある。口縁部は、外反･外傾して大きく開くものと、開きが小さいものが見られ、端部を折り返して口縁部を肥厚させるものはなくなる。頸部に段はない（１類）。体部は、最大径が上位（１類）にくるものと中位（２類）の位置にある。Ⅱ類は前段階より体部が長くなり、最大径は中位（２類）の位置にある。体部外面の調整は、Ⅰ類はハケメ（x類）とヘラナデ（y類）で、ヘラミガキ（z類）がわずかに見られる。Ⅱ類は、いずれもハケメ（x類）である。甑は出土していない。

(4) 沼向④～⑤期

古墳時代中期から後期前葉、土師器の編年では、南小泉式から住社式の中段階にかけての時期である。この時期の土器群の設定は、まとまった資料がなく、むずかしい。これまでの土師器の編年研究の成果としては、藤沢敦が1992年に提示した古墳時代中期から後期前半の編年案（1992）があり、これに沿うように、鴻ノ巣遺跡の第７次調査報告（仙台市教育委員会2004）で、南小泉式から引田式へ、引田式と住社式の中間段階を経て住社式への変遷が示されている。しかし、後述するように、ここで住社式とされた土器群は、古・中・新の３段階に細分され、沼向遺跡では、④Ａ期を南小泉式期、④Ｂ期を引田式期、⑤Ａ期を引田式と住社式の中間段階、⑤Ｂ期を住社式期古段階・中段階とした。須恵器の編年では、大阪府近つ飛鳥博物館が提示した編年（大阪府近つ飛鳥博物館2006、以下「近つ飛鳥博編年」）のⅠ型式からⅡ型式第３段階までに相当する。年代は、５世紀から６世紀の後葉である。

(5) 沼向⑥期（第１-18図）

古墳時代後期中葉、土師器の編年では、住社式土器の新段階から栗囲式土器にかけての時期である。ここでいう栗囲式土器は、その下限を仙台市栗遺跡出土土器の新しい段階に求めているが、後述する沼向⑦～⑧期までを栗囲式土器とする見方もある。住社式土器は、鴻巣遺跡の第７次調査報告で１段階、２段階の２時期変遷が示されているが、沼向遺跡では、この２段階を２期に細分して、その新しい段階を栗囲式土器に先行する⑥Ａ期とした。⑥Ｂ期は栗囲式期であり、古段階を⑥Ｂ１期、新段階を⑥Ｂ２期とした。須恵器の編年では、Ⅱ型式第４段階からⅡ型式第６段階までであり、年代は、６世紀の末葉から７世紀の前葉である。なお、⑥Ｂ１期には、近つ飛鳥博編年のⅡ型式５段階古に相当する須恵器（田辺編年1968、1981ではTK209型式、善光寺編年（註2）ではⅠ期）が複数伴っており、７世紀初頭の年代が与えられる（註3）。

ⅰ）沼向⑥Ａ期：SI939、SI3001の床面及びカマド出土土器に代表される土器群（沼向⑥Ａ期土器群）の時期である。

坏は、外反外傾口縁の丸底坏Ⅴa2類の大型・中型があり、住社式に特徴的な中型は口縁部と体部の境界に明瞭な稜を形成して屈曲し、強く外反する。このほか、短い直線内傾口縁のⅣf2類、内反外傾口縁で有段有稜のⅤc3類、扁平半球状のⅩc類がある。これらのなかには、口縁部外面にヨコナデののちヘラミガキがなされるものが一定量含まれる。内面は、ヘラミガキを主として、ヘラミガキのち黒色処理がなされるものもある。高坏には、中空短脚

のⅢa類がある。坏部の器形は坏Ｖc3類と同じで、口縁部が強く立ち上がる。坏部外面は全面にヘラミガキがなされている。鉢は、Ⅲa①類、甕は、広口で大型のⅡb1類、中型・小型のⅣa1類がある。これらの多くは、口縁部と体部の境界に段の形成がなく、体部外面に刷毛目のちヘラナデがなされる。また、Ⅱ類の多くは、体部最大径が中位にある。

ⅱ）沼向⑥B1期：SI3002、SI3022の床面及びカマド出土土器に代表される土器群（沼向⑥B1期土器群）の時期である。ほかに、SI807床面及びカマド出土土器、SX30171A出土土器がある。

坏は、沼向⑥Ａ期と同様、外反外傾口縁の丸底坏Ｖa2類の大型・中型があるが、口縁部と体部の境界の稜形成が弱いものがみられるようになる。主体となるのは、直線外傾口縁のＶb2類、Ｖb3類で、ほかに内反外傾口縁のＶc3類がある。直線外傾口縁の断面形は、内側にやや膨らむ場合：内膨らみ口縁、両側とも膨らまない場合：均等口縁あるいは無膨らみ口縁、外側にやや膨らむ場合：外膨らみ口縁がある。直線外傾口縁には内膨らみ口縁が多く、外反外傾口縁からの変化の進行を示している。高坏には、中空短脚のⅢa類がある。坏部の器形はＶb2類と同じで、口縁部は外へ開く。鉢は、Ⅱa①類、Ⅱb①類、Ⅳb①類、甕は、広口で大型のⅡc1類、大型・中型のⅢ類、中型・小型のⅣa1類がある。これらの多くは、口縁部と体部の境界に段の形成があり、体部外面に刷毛目調整がなされる。また、Ⅱ類・Ⅲ類では、体部最大径が中位から下位にある。甑は、Ⅰa類がある。

ⅲ）沼向⑥Ｂ２期：SI933、SI934の床面及びカマド出土土器に代表される土器群（沼向⑥Ｂ２期土器群）の時期である。ほかに、SI3023の床面及びカマド出土土器がある。

坏は、沼向⑥Ａ期から存続する外反外傾口縁の丸底坏Ｖa2類の大型・中型は、口縁部と体部の境界の稜形成が弱くなり、口縁部中位の屈曲によって外反させるものもある。主体となるのは、直線外傾口縁のＶb1類、Ｖb3類、内反外傾口縁のＶc2類、Ｖc3類、Ⅵc3類である。直線外傾口縁のＶb3類の口縁断面は、外膨らみ口縁が多く、外形線は内反気味になる。高坏には、図示していないが、Ⅲa類（30C-229）がある。脚部は直接坏部に接続しており、その境界から脚部下位にかけて縦長の透かし孔が・・穿たれている。坏部の器形は、Ｖc3類と同じで、口縁部は上方へ立ち上がる。鉢は、Ⅱa①類、Ⅱb①類、Ⅲa①類、甕は、中型のⅢ類、小型のⅡb2類、Ⅳa1類がある。これらの多くは、口縁部と体部の境界に段の形成があり、体部外面に刷毛目調整がなされる。また、Ⅱ類・Ⅲ類では、体部最大径が中位から下位にかけての位置にある。甑は、Ⅰa類とⅠb類がある。

(6) 沼向⑦期～⑧期（第１－19図）

古墳時代後期の後葉から終末、土師器の編年では、栗囲式土器に後続して、国分寺下層式に先行する時期である。栗囲式土器は、従来、７世紀の土器としての認識がなされていたが、栗囲遺跡出土土器の下限が７世紀前半と推定されることもあり、それに後続する７世紀中葉から８世紀初頭の土器群については、複数の見解に分かれている。沼向遺跡では、須恵器の型式変遷をもとに、栗囲式に後続する７世紀中葉から後葉を⑦期とし、古段階を⑦Ａ期、新段階を⑦Ｂ期、それに後続して、国分寺下層式に先行する７世紀末葉から８世紀初頭を⑧期とした。なお、近つ飛鳥博編年では、⑦Ａ期はⅢ型式1段階、⑦Ｂ期はⅢ型式2段階、⑧期はⅢ型式3段階からⅣ型式１段階に相当する。⑦期は、善光寺編年のⅡ期、⑧期は、仙台市大蓮寺窯跡Ａ群（仙台市教育委員会1993ａ）の時期にあたる。

ⅰ）沼向⑦Ａ期：SX10202埋土出土土器に代表される土器群（沼向⑦Ａ期土器群）の時期である。この時期のまとまった資料は少ない。

坏は、沼向⑥Ａ期から存続する外反外傾口縁の丸底坏Ｖa2類、Ｖa3類がなくなる。小型の坏が増加し、それにはⅠd1類、Ⅳc1類、Ｘb類があり、いずれも内面はナデ調整をしている。そのほか、⑥Ｂ期と同様に、直線外傾口縁の丸底坏Ｖb2類、Ｖb3類の中型、内反外傾口縁の丸底坏Ｖc1類の中型がみられる。直線外傾口縁の口縁断面は外膨らみ口縁が多くなる。鉢は、Ⅲa①類がある。甕は、全体の器形はわからないが、広口で大型甕は存続する。口縁部と体部の境界には、段の形成があるものとないもの、体部外面はハケメと、ハケメののちヘラナデ調整がなさ

れるものがある。

ⅱ）沼向⑦Ｂ期：SI917床面及びカマド出土土器に代表される土器群（沼向⑦Ｂ期土器群）の時期である。この時期のまとまった資料は少ない。

坏は、⑥Ｂ期と同様に、直線外傾口縁の丸底坏Ｖb2類の中型が存続し、内反外傾口縁の丸底坏Ｖc3類の中型がみられる。内反外傾口縁の口縁断面は外膨らみ口縁である。鉢は、Ⅲa①類、甕は、Ⅲc2類、Ⅳa1類、Ⅳa2類がある。甕は、Ⅲc2類は体部の最大径が下位にあり、屈曲をなしている。口縁部と体部の境界には段の形成があり、体部外面はヘラナデ調整がなされている。

ⅲ）沼向⑧期：SI903床面及び埋土、SX10220埋土出土土器に代表される土器群（沼向⑧期土器群）の時期である。この時期のまとまった資料は少ない。

坏は、直線外傾口縁のⅢb1類、Ｖb1類、Ｖb2類の中型、内反外傾口縁のＶc4類、Ⅷc4類、Ⅸc2類の中型、この時期になって現れる平底で小型のＸＩb類、内外面ミガキ調整で内反外傾する坏がある。甕は、Ⅲb1類、Ⅳa1類がある。体部にハケメ調整がなされている。

(7) 沼向⑨期～⑩期（第1-19図）

奈良時代から平安時代初頭、土師器の編年では、国分寺下層式から表杉ノ入式の初期段階までの時期である。この時期は、遺構出土のまとまった土器で土器群を設定することがむずかしいため、これまでの編年研究にもとづくと、白鳥良一（1980）による「多賀城跡出土土器の変遷」のＡ群土器からＣ群土器の時期で、年代は８世紀前葉から９世紀前半に相当する。沼向遺跡では、Ａ群土器の前半の時期を⑨期、後半の時期を⑩Ａ１期、Ｂ群土器の時期を⑩Ａ２期、Ｃ群土器の時期を⑩Ｂ期とした。なお、⑩Ａ２期の年代は、吾妻俊典（2004）による「多賀城とその周辺におけるロクロ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』６によって、ロクロ土師器の普及開始年代は「宝亀５年（774）から延暦９年（790）頃で、とくに延暦２年（783）から延暦９年までの短期間で急速に普及した」とされており、およそ対応するが、それ以前のロクロ土師器の存在を否定しているものではない。なお、須恵器の編年では、⑨期は大蓮寺窯跡Ｂ群（仙台市教育委員会1993ａ）、善光寺遺跡９号窯跡の時期、⑩Ａ１期は硯沢窯跡第１群・第２群（宮城県教育委員会1987）の時期に相当する。

ⅰ）沼向⑨期：10a層水田跡から出土した土師器坏１点、須恵器坏２点がある。土師器坏はCXIcl2類、須恵器坏は、器高が低く、口径に対する底径の比率が大きく、口縁は直線的に外傾している。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、のちにナデ調整がなされている。なお、浜堤列では、遺構から出土した良好な資料はない。

ⅱ）沼向⑩Ａ１期：SD1012底面から出土した土師器坏１点、小溝状遺構18次西Ｍ群の小溝④端部底面から重なって出土した須恵器３点がある。土師器坏は、ＤＩb1類で、製作にロクロを使用している。非ロクロ土師器の形態を模倣したと考えられる。須恵器３点は、坏、蓋、台付壺で、坏は、器高が低く、口径に対する底径の比率がやや大きく、口縁は直線的に外傾し、端部がやや外に開く形態である。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、のちにナデ調整がなされている。

ⅲ）沼向⑩Ａ２期：SI935床面及びカマド、SI913埋土、SI2701カマド、SK2783底面、SX18281埋土出土土器がある。土師器は、坏ＤⅡa3類、甕ＤＩa類、甕ＤⅡb類、甕ＤⅢf類がある。土師器坏は、体部から口縁部にかけてほぼ前面にミガキ調整がなされている。土師器甕ＤＩa類は、外面のほぼ前面にハケメ調整がなされており、ロクロの調整痕跡はほとんど確認できない。須恵器は、坏３点があり、器高が低く、口径に対する底径の比率がやや小さく、口縁は直線的に外傾あるいは内反外傾し、端部がやや外に開く形態もある。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、のちにナデ調整がなされている。

ⅳ）沼向⑩Ｂ期：SX1821埋土、SX1845埋土出土土器がある。

土師器は、甕ＤⅡb類がある。須恵器は坏３点と、高台付坏１点がある。坏は、器高がやや高い形態を含み、口

径に対する底径の比率がやや小さく、口縁は直線的に外傾あるいは内反外傾し、端部がやや外に開く形態もある。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、のちにナデ調整がなされている。高台付坏は、坏部は、器高がやや高く、口径に対する底径の比率がやや小さく、口縁は内反外傾する。底部の切り離しは回転糸切りである。

(8) 沼向⑪期（第１-20図）

平安時代前葉から近世初頭にかけての時期（９世紀中葉～17世紀前葉）である。この時期には遺構は検出されておらず、遺物の出土は極めて少ない。８点の遺物を図示した。⑪Ａ期：平安時代前葉～末葉では、土師器、須恵器、赤焼土器が出土している。⑪Ｂ期：中世の時期には竜泉窯の大碗、白石窯の鉢、在地産陶器の鉢の３点が出土している。⑪Ｃ期：近世初頭は輸入陶磁器だけの出土であり、景徳鎮窯の中皿１点・小碗２点、漳州窯の大皿２点・中皿１点・大鉢１点が出土している。

(9) 沼向遺跡⑫～⑭期（第１-20図）

近世前葉から近世後葉にかけての時期である。出土遺物と、遺構の新旧関係、出土層位の関係から、17世紀中葉～末葉を沼向⑫期、18世紀を沼向⑬期、19世紀初頭～後葉を沼向⑭期に設定した。

ⅰ）沼向⑫期：SD1210に埋土出土陶磁器に代表される陶磁器群（沼向⑫期陶磁器群）の時期である。甕や擂鉢などの大型品である甕や鉢は岸窯系を使用しており、皿や碗は肥前産・瀬戸美濃産の磁器が出土している。遺構に伴う遺物としては、SK505の岸窯系香炉、SD1210の肥前産大碗・中碗・小皿がある。図化した遺物のうち251点が該当する。

ⅱ）沼向⑬期：SD1893埋土4層出土陶磁器に代表される陶磁器群（沼向⑬期陶磁器群）の時期である。大型品は岸窯系、皿は肥前産・瀬戸美濃産、碗は肥前産・大堀相馬産、小野相馬産が出土している。遺構に伴う遺物としては、SD506の肥前（波佐見）産小皿、SD514の堤産中鉢、SE1101の肥前産中碗・紅猪口、SD1236の肥前産中皿がある。18次西調査区のSK18115からは肥前（嬉野）産小皿・岸窯系中鉢が、SD1879からは肥前産五寸皿・中鉢が出土している。SD1893の４層からは、肥前産大鉢、肥前（波佐見）産五寸皿、大堀相馬産中碗が出土している。図化した遺物のうち219点が該当する。

ⅲ）沼向⑭期：SD1893埋土３層出土陶磁器に代表される陶磁器群（沼向⑭期陶磁器群）の時期である。沼向⑫期・⑬期の陶磁器群と異なり、大堀相馬産・堤産の陶器が多数を占め、肥前産や瀬戸美濃産の割合が少なくなる。SD1893埋土３層からは、瀬戸美濃産餌猪口・水滴、大堀相馬産中碗、堤産水滴が出土している。遺構に伴う遺物としては、SD404からは大堀相馬産中皿、SX501からは肥前産中碗、SK18E136からは瀬戸美濃産中碗１点・小碗２点、肥前産中碗１点・中碗蓋１点が出土している。図化した遺物のうち329点が該当する。

第６節　記述方法と微地形・遺構に関する用語

１．記述方法

本書は、第１章で調査概要を述べ、第２章から第33章で各調査の報告を行い、第34章では各調査に伴う分析・同定をもとにした環境復元検討会の内容を報告し、第35章では、その検討会をふまえた自然科学分析の報告が行われている。第36章の総括は、それらを、環境の変遷、遺物、遺構に分けてまとめ、最後に通時的な遺跡の位置づけを行った。そのうち、各調査の報告は、次数ごとに章を設けたが、情報量が膨大な調査もあり、編集の効率化をはかるために、本文、遺構・遺物実測図、表、写真図版の順に、それぞれをまとめて編集した。各章の内容は、第１節：調査概要、第２節：検出遺構と出土遺物、第３節：まとめ、として報告した。このうち、第２節では、個々の遺構の時期は、沼向遺跡の時期区分によって記述しており、具体的な時代、時期は、各調査の第１節、第３節に示し、遺跡全体としての時代・時期区分との対応関係は、第１章、第36章に示した。なお、遺構の時期の推定、あるいは

決定は、Ⅱ層上面遺構：近世、Ⅲ層上面遺構：縄文時代後期中葉～平安時代初頭に分けられたうえで、出土遺物に基づくことや、調査区内、調査区間の遺構群の新旧関係に基づくこともあるが、床面や底面からの出土遺物がなく、他の遺構との新旧関係もないなど、そうでない場合も多く、その場合には、時期幅をもって理解することにした。また、遺構総数が7500基を超えることから、個々の遺構ごとに時期の説明は行っていないが、調査区ごとに検出遺構時期別変遷模式図を掲載したので、それを参照されたい。

２．微地形・遺構に関する用語

この報告書では、第２章の第４次調査から第33章の第34次調査まで、計31回の調査報告を行ううえで、あらかじめ、説明を加えておいたほうがいい微地形・遺構がある。その多くは、複数の調査区に広がり、個々の調査区の記述だけでは理解しにくいものである。浜堤列では、基本層Ⅲ層上面の凹地、小溝状遺構群、柱列による区画施設、溝による区画施設のほか、性格不明遺構として登録した特殊な井戸状あるいは竪穴状の遺構などが含まれる。また、後背湿地では、微地形の分類、水田区画の方法などがある。ここでは、調査区全域で知られたそれらの概要を示すとともに、個々の遺構についても一部必要な説明を行った。

(1) 浜堤列

ⅰ）Ⅲ層凹地：基本層Ⅲ層上面に形成された凹地状の地形面とその痕跡である（第1-21図）。凹地状をなす地形面として検出されたのは、遺跡北西部であり、調査時には性格不明遺構として扱っているが、多くは、弥生時代中期前葉（沼向②Ｂ１期）以降、遺物包含層が形成されており、古墳時代を通して凹地として存続していたことが、出土遺物や、竪穴住居跡の配置からも知られる。遺構としては、SX809、SX981、SX1011、SX1026、SX1027、SX1034、SX10119、SX10132がある。痕跡としての凹地は、遺跡中央部から東部で認められ、基本層Ⅲ層の細別層の分布から推定された。浜堤列の地形面に凹凸があったことを反映していると理解される。

ⅱ）竪穴住居跡と竪穴遺構：竪穴住居跡及び竪穴遺構については、すべてSIという略号を用いた。SIとした基準は、古墳時代以降（沼向③～⑩期）では平面形が方形を基調としていること、底面がほぼ平坦で顕著な起伏がないことである。このうち竪穴住居跡としたのは、カマドを有する遺構か、あるいは周溝、主柱穴、堀り方を有する遺構である。SIとした遺構は134基検出されており、そのうち、竪穴住居跡は70軒、竪穴遺構は64基である。

ⅲ）特殊な竪穴遺構：第10次調査区の性格不明遺構SX10150は、竪穴状の遺構が３基連結した構造であり、他に例を見ない。時期は奈良時代後半～平安時代初頭（沼向⑩期）で、畑跡に伴っており、この遺構は、同じ第10次調査区で、近くに同時存在し、埋土や堀り方の状況が類似する３基並列する竪穴遺構群が２群（SI1010・SI1012・SI1013と、SI1016・SI1022、SI1033）認められ、これらと同じ性格の遺構であり、畑作に関連すると考えられる。

ⅳ）柱列による区画施設：第10次調査、第25次調査、第30次調査で検出された区画施設である。時期は古墳時代後期後葉（沼向⑦Ａ期）である（第１-22図）。柱列は、溝状の掘りこみの下部に柱痕跡が連続的して認められ、SA1001・SA1002・SA2501・SA2502・SA3002・SA3003・SA3004・SA3005・SA3006として部分的に検出されている。これらは配置や他の遺構との新旧関係から、同時期で、一定の区域を区画する施設であったと考えられる。区画の大きさは、長軸125m、短軸70m前後、推定面積9000㎡ほどで、平面形は隅丸の縦長台形状を呈する。区画施設の内側には、同時期の竪穴住居や掘立柱建物はなく、第30次調査では区画施設の内側に、柱列に沿って、小溝状遺構群の小溝と類似する溝状遺構が4条検出されている。これらは、後述する小溝状遺構群に関わり、小溝に類似する耕作に関連する遺構である。

ⅴ）溝による区画施設：第９次調査、第10次調査、第18次西調査、第13次調査、第25次調査、第30次調査で検出された区画施設である（第1-22図）。時期は奈良時代後半～平安時代初頭（沼向⑩期）である。溝は、SD914、SD1320、SD2523、SD3063として部分的に検出されている。これらは配置や他の遺構との新旧関係から、同時期で、

一定の区域を区画する施設であったと考えられる。区画の大きさは、長軸140m、短軸90m前後、推定面積12600㎡ほどで、平面形は長方形状を呈する。方向性は、長軸が東西方向、短軸が南北方向を示している。区画施設の内側には、同時期の竪穴遺構や、特殊な竪穴遺構、複式井戸状遺構、区画溝、小溝状遺構群が計画的に配置されている。

vi）**複式井戸状遺構**：性格不明遺構としたなかで、第10次調査区西部だけで検出されたⅢ層上面検出遺構で、井戸状を呈する複数の井戸部と、それらをつなぐ連結部から構成されている。時期は古墳時代後期中葉～平安時代初頭（後述する時期区分では沼向⑥～⑩期）にかけて継続して認められ、畑跡に伴っている。総数21基確認され、SX10105・SX10109・SX10153・SX10155・SX10158・SX10159・SX10163・SX10198・SX10213・SX10214・SX10215・SX10216・SX10217・SX10219・SX10220・SX10226・SX10227・SX10228・SX10229・SX10230・SX10236である。このうち、SX10220の一方の井戸部は、船材を転用した井戸枠を伴って検出されており、井戸としての機能が考えられた。この遺構は、東西約25m、南北約30mの範囲に集中して検出されている。

vii）**円形溝**：性格不明遺構としたなかで、円形に巡る溝状の遺構をいう。沼向遺跡北西部に点在しており、SX979（１号円形溝）、SX980（２号円形溝）、SX10269（３号円形溝）、SX1188（４号円形溝）、SX18E268（５号円形溝）がある。いずれも周溝は一巡しており、内部施設は認められない。時期決定遺物には欠けるものの、新旧関係からは古墳時代後期に属し、後述する沼向の時期区分では沼向⑧期に所属すると考えられる。これらの円形溝はDS918、SD1002、SD1041、SD1042、SD18141などの溝に緩やかに囲われている。またSX10269（３号円形溝）は西側でSB1001の外周を巡る方形周溝状の溝と接しており、同時期の遺構であると考えられる。

viii）**小溝状遺構群**：畑跡の耕作痕と理解される遺構で、佐藤甲二（2000）は「耕作土直下上面に小規模な溝が、一定間隔をもって、同一方向へ平行する溝群である。」として、以下のように、13項目の特徴を示している。

① 幅約50cm前後（以下の場合が多いが）の溝が群をなし、等間隔に平行する。その間隔は、50cm前後のものから2m以上のものまでの多岐にわたる。

② 深さは、５cm以下の浅いものから、50cm以上の深いものまで認められるが、同一群に関しては、各溝の深さは、ほぼ均一である。

③ 上端・下端とも出入りが激しく、整然としていないものが多い。また、連続せず、断片的なものもある。

④ ほぼ直線的に延びるものが多いが、弱く弧状を描くものもある。

⑤ 東西方向や南北方向をとるものが多く、また、傾斜地の場合、傾斜方向と平行または直交するものが多い。

⑥ 堆積土は、単一層のものが多く、掘り込み層の小ブロックを多量に含む。また、水を湛えた痕跡は認められない。

⑦ 底面は、凹凸が顕著なものが多く、内には、鋤先状の工具痕が認められるものもある。

⑧ 各溝間は平坦で、凸状を呈していない。

⑨ 一方向の単一群のみの他、複数方向の群からなるものもある。その場合には、直交方向をとるものが多いが、斜行方向、同一方向の複数群のものもある。

⑩ 複数群の場合、重複関係が明確なものもあるが、多くは、重複関係が不明確である。

⑪ 同一群の場合、各溝の始まりと終わりは、同一位置をとる場合が多い。

⑫ 同一群は、その途中で方向を若干変化させるものがある。その際、各溝は一旦途切れ、それをさらに繋ぐ状態のものや、全く位置がずれ、それまでのラインを踏襲しないものが認められる。

⑬ 出土遺物は極端に少なく、時期決定資料を殆ど含まない。

この遺構は、仙台平野において、1970年代後半から認識されており、1981年の六反田遺跡の報告書（仙台市教育委員会）で、田中則和が「小溝状遺構群」と名称づけ、「畑の凹状の部分あるいは天地返し部分の可能性を含めて作物栽培に関係する」遺構とする見解を示したのち、1991～92年の下ノ内浦遺跡第４次調査（仙台市教育委員会1993b）で、後者であることが判明した経緯がある。現状では、小溝状遺構群は、古墳時代から近世にかけて認め

られるが、必ずしも畑跡の耕作土下面にあるわけではないことも指摘されている（佐藤2000）。

沼向遺跡の調査では、この小溝状遺構群とともに、畑跡にともなう耕作痕と考えられる近世の遺構が検出されている。溝状あるいは平面的に広がりのある遺構で、1基の場合と、複数で一定の区域を囲む場合がある。埋土は小溝状遺構群と極めて類似し、遺構底面は顕著に起伏しており、工具痕が認められることから、本書では「耕作に関連する遺構」と記述している。第９次調査のSX907、SX908、SX924、SX925など、第10次調査のSX1001、SX1002、SX1003、SX1004などであるが、近世の小溝状遺構群18次西B群の区画溝SD1858や、18次西D群の区画溝SD1333などと同じ特徴をもつものある。

(2) 後背湿地

ⅰ）**微地形分類**：後背湿地では、発掘調査成果をふまえて、洪水流の浸食と堆積作用による微地形形成を復元し、地帯Ａ、地帯Ｂ、地帯Ｃと分類した（第1-23図）。

地帯Ａ：後背湿地の西側の浜堤列の際に位置し、洪水流の浸食により大きく凹む微地形である。

地帯Ｂ：地帯Ａと地帯Ｃに挟まれ、浸食の影響が小さく帯状の高まりとして残る微地形である。地帯Ｂは水成堆積の痕跡が見られる西側の低い地帯Ｂ１と、水成堆積の痕跡が見られない東側の高い地帯Ｂ２に細別される。

地帯Ｃ：地帯Ｂの西側に位置し、数度の洪水流により浸食された微地形である。

ⅱ）**水田跡と水田区画の設定**：水田跡は、後背湿地で検出されており、その水田域は、北西水田域と南東水田域に分けられる。検出された水田跡は、3a層水田跡、9a層水田跡、10a層水田跡、11層水田跡である。このうち、3a層水田跡、9a層水田跡、10a層水田跡は、後背湿地に広く水田域を形成しており、地帯Ａ～地帯Ｃの微地形と関連性をもって水田区画を行なっていることが知られた。各水田跡は、時期や立地によって水田区画の方法に違いはあるが、基本的な水田区画の方法は、2種類認められる。ここでは、前提として、水田が機能する前提条件を、水田一区画の田面の高低差10cm以下とするが、微地形の変換点に基軸となる畦畔を設けて大区画を設定したのち、一つは、その中を高低差10cm以下となるように区画する方法、もう一つは、さらに小さく区画する方法である。両者とも小区画を生育単位とするが、前者は、大区画と小区画の関係で、田面の高低差10cm以下は小区画に求められるが、後者は、大区画、中区画、小区画の関係で、田面の高低差10cm以下は中区画に求められる違いがある。こうした水田区画は、開田に際して計画されていると考えられ（仙台市教育委員会1987、斎野2005）、沼向遺跡で検出された水田跡にも認められる（第1-23図）。

3a層水田跡：第15次調査、第19次調査、第26次調査、第31次調査、第32次調査で検出した。大区画と小区画によって構成されている水田跡である。大区画は8区画（大区画１～大区画８）確認された。時期は、近世（後述する時期区分では⑫～⑭期）である。

9a層水田跡：第14次調査中区･東区、第15次調査、第19次調査、第21次調査、第26次調査、第31次調査、第32次調査で検出した。北西水田域では大区画、中区画、小区画によって構成され、南東水田域は大区画と小区画によって構成されている水田跡である。大区画は、北西水田域では４区画（大区画１～大区画４）、南東水田域でも４区画（大区画５～大区画８）確認された。時期は、奈良時代後半～平安時代初頭（後述する時期区分では沼向⑩期）である。

10a層水田跡：第14次調査中区･東区、第15次調査、第19次調査、第21次調査、第26次調査、第31次調査、第32次調査で検出した。北西水田域では大区画、中区画、小区画によって構成され、南東部では大区画と小区画によって構成されている水田跡である。大区画は、北西部では４区画（大区画１～大区画４）、南東部でも4区画（大区画５～大区画８）確認された。時期は、奈良時代前半（後述する時期区分では沼向⑨期）である。

なお、南東水田域の一部で検出された11層水田跡の時期は、古墳時代中期～後期前葉（後述する時期区分では沼向④～⑤期）である。このほか、北西水田域の第19次調査などで検出した10c層分布範囲については、水田土壌の広がりと認識されるが、水田区画の方法は不明である。この遺構の時期は、古墳時代中期（後述する時期区分では

沼向④期）である。

第７節　調査成果の概説

１．検出された遺構・遺物の時期別変遷

沼向第４～34次調査で検出された遺構数、出土した遺物数は、第３表、第４表に示した。以下は、その調査成果の概説である。

(1) 沼向①期：縄文時代後期中葉～晩期

沼向遺跡が立地する第Ⅰ浜堤列は、4500～5000年前に形成された微地形である。海岸線に沿って展開するこの帯状の微高地において、その形成後、ほどなく、沼向遺跡に人類の活動の痕跡が認められるようになる。それは、およそ3500年前、縄文時代後期中葉：①Ａ期のことで、宝ケ峯式土器が破片として６点、第８次～10次調査区から出土している。沼向遺跡において推定される浜堤列の縁辺は、現状の微地形分類からすると、方向は東北東－西南西、位置は遺跡の北西縁とほぼ一致する。土器片の出土は、この縁辺から50mほどの範囲内で、極めて散漫な分布を示し、集中する傾向はない。①Ａ１期の遺構は検出されておらず、ここでどのような活動がなされていたのかはわからないが、長期的な居住を想定することはむずかしい。

その後、後期後葉：①Ａ２期には、金剛寺式土器の出土が数点、第24次調査区で認められるが、晩期初頭～前葉：①Ｂ１期には、遺構・遺物の検出はない。

晩期中葉：①Ｂ２期になると、30次調査区で性格不明遺構2基と大洞C_1式～C_2式土器と製塩土器、９次調査区南部で大洞C_1式～C_2式土器が検出されている。遺跡西部の第30次調査区は、浜堤列縁辺からやや離れているが、製塩土器が出土している点で、検出された遺構あるいはその周辺で、土器製塩に関わる作業が行われていたことが考えられる。製塩土器の底部は、すべて平底である。第９次調査区では、製塩土器の出土はないが、土器の分布は、浜堤列縁辺から70～80mほどの範囲に比較的まとまってあり、第30次調査区とは異なる土地利用がなされていたと推定される。この時期には、遺構の検出はあるが、土器の出土量はそれほど多くはないため、短期的な生業活動が行われていたと考えられる。

晩期後葉古：①Ｂ３期に遺構、遺物の検出はないが、晩期後葉新：①Ｂ４期には、第９次調査区の南部で、古墳時代前期後半：③Ｂ期の遺構底面下から、土壙墓が１基（SK9101）検出されている。平面形は長楕円形を呈しており、大洞A_2式の高坏坏部が逆位で出土している。同じような検出状況で、形態が類似する遺構は、遺物の出土はないが、第９次・10次調査区の南部で、ほかに３基認められている。この時期の土器は、遺物包含層を含めて、これらの遺構の北側に分布する傾向がある。その出土量は比較的多く、器種は大小の浅鉢、深鉢で構成されている。そのため、第９次調査区を中心に、浜堤列縁辺部に居住域、その南側に墓域が営まれていた可能性もある。なお、この時期に製塩土器が存在する可能性はあるが、確認することはできなかった。

晩期末葉：①Ｂ５期には、遺物の出土はあるが、遺構の検出はない。

(2) 沼向②期：弥生時代

前期：②Ａ期には、遺物の出土はあるが、遺構の検出はない。

中期前葉：②Ｂ１期には、第８次～10次調査区に包含層が形成される。浜堤列縁辺に最も近い第８次調査北端部で検出された性格不明遺構SX809は、遺物包含層であり、寺下囲式に並行する土器群とともに製塩土器が出土している。この時期の土器の分布は、第８次、９次調査区を中心に、その周辺の10次、18次調査区や、やや離れた30次調査区へも及んでおり、浜堤列縁辺から100～80mほどの範囲にある。器種は、壺、甕、蓋、深鉢、浅鉢、鉢、高坏で構成され、甕の安定した組成がみられる。そのため、８次・９次調査区を中心として浜堤列縁辺部に居住域が

形成され、その縁辺では土器製塩が行われていたと考えられる。製塩土器は、底部は平底で、深鉢形を基本としている。一部、尖底を含む可能性はあるが、明確でない。

中期中葉～後葉：②Ｂ２～Ｂ５期には、遺構の検出はないが、遺物は、８次～10次調査区の浜堤列縁辺寄りに認められる。遺物の出土量は②Ｂ１期に比べると大きく減少する。なかでも、桝形式：②Ｂ２期土器群の出土は極めて少なく、この時期には、ここでの土器製塩は、行われなくなったと考えられる。土器の編年では、円田式に並行する②Ｂ４期土器群の存在が確認されたことで、それを介して、中在家南式：②Ｂ３期から十三塚式：②Ｂ５期への変化を追うことが可能となり、継続した何らかの活動の痕跡として理解される。

後期初頭～中葉：②Ｃ１～Ｃ３期には、土器は、９次調査区よりも東方に散漫に分布するようになる。②Ｂ期とは異なる分布域を示しており、それが活動の違いを示すのかはわからないが、浜堤列縁辺からやや離れる傾向も看取される。

後期後葉：②Ｃ４・Ｃ５期には、土器の出土はさらに少なくなる。②Ｃ５期には、第18次東調査区で性格不明遺構１基（SX18E266）が検出されている。

(3) 沼向③期：古墳時代前期

前期前半：③Ａ期は塩釜式土器の前半段階にあたり、この時期には、遺構、遺物の検出はない。

前期後半：③Ｂ期は塩釜式土器の後半段階にあたり、この時期には、第31次調査区から第30次調査区まで、浜堤列縁辺部に長さ約300m、幅約100mの範囲に居住域、また、居住域から南方へやや距離をおいて、長さ約250m、幅約100mの範囲に墓域が形成されている。居住域は、竪穴住居25軒、竪穴遺構29基を主として、遺物包含層などから構成されており、遺跡西部の第25次・30次調査区周辺と、遺跡北西部の第８次～10次調査区周辺に分かれる。竪穴住居跡、竪穴遺構の主軸方向は、浜堤列の縁辺の方向性を意識している傾向がある。墓域は、第１次～３次調査の成果を合わせると、方形周溝墓７基、方墳３基、円墳10基が確認されている。塩釜式後半を３期区分する編年から、これらの遺構には、方形周溝墓を主体とする③Ｂ１期から、方墳・円墳を主体とする③Ｂ３期への変遷が考えられる。この時期の生業に関しては、水田跡は検出されていないが、複数の住居から、少量ではあるが、イネのプラント・オパールや、大型植物化石としてイネ炭化胚乳、ヒエ炭化種子などと、モモ核、ウメ核が検出されており、周辺で水田や畑が営まれていた可能性はある。しかし、住居からは、管状土錘、球状土錘がまとまって出土する例がいくつかあり、調査区全体では、それらを合わせると100点以上出土していることから、漁撈活動が生業に占める割合は大きかったと考えられる。

(4) 沼向④～⑤期：古墳時代中期～後期前半

この時期は、南小泉式から住社式中段階にあたり、④期：中期の早い段階で浜堤列縁辺部にポケット状の後背湿地が形成される。土器の出土は少なく、浜堤列では、明確な居住域、墓域の形成は認められず、土器の出土も少ないが、後背湿地において、④期のある時期に水田が営まれ、生産域が形成される。④期に関わる遺物としては、石製模造品と黒曜石製石器がある。石製模造品は54点（第１次～３次調査出土３点を含む）出土しており、2点の未製品を含むが、基本的には遺跡範囲の外から持ち込まれたものと判断される。分布は、後背湿地と浜堤列の微地形境界に沿って、浜堤列側に認められ、集中する傾向はない。黒曜石製石器は、弥生時代からの時期幅が想定され、分布は、遺跡中央部の第８次・９次・18次調査区と、遺跡東部の第１次・３次・15次・33次調査区に大きく二分されるが、後者の時期は、器種構成などから④期と考えられ、この時期には、石製模造品と黒曜石製石器が分布を異にして併存していることが知られた。なお、居住に関しては、第10次調査で④Ｂ期～⑤Ａ期の小型の竪穴住居が1軒検出されている。この住居の役割はよくわからないが、石製模造品、黒曜石製石器の分布域とは関連性はない。

(5) 沼向⑥期：古墳時代後期中葉

この時期は、⑥Ａ期：住社式新段階、⑥B1期：栗囲式古段階、⑥B2期：栗囲式新段階にあたり、浜堤列から後

背湿地にかけて、広く居住域、生産域の形成が認められる。

浜堤列では、西部の第30次調査区と北西部の第８次調査区周辺に居住域、その中間に位置する10次調査区では、南西部に小型の竪穴住居あるいは竪穴遺構を伴って複式井戸状遺構、その北側と南側の小溝状遺構群：畑跡から構成される生産域が形成される。後背湿地では、10a層水田が営まれるようになり、生産域が形成される。居住域は２箇所に分かれており、３期区分からすると、どちらも⑥Ｂ１期の住居数が最も多い。

⑥Ａ期：住社式新段階は、広く集落の形成が再び始まる時期であるが、居住域では、この時期の住居の数は少ない。遺物には、SX10217（複式井戸状遺構）埋土4b層出土の反柄がある。完形で、緊縛痕が確認され、身を着装する台部には、長方形の孔が２個ある。身の装着軸部にも同様の仕様が想定され、栓を通して組み合わせる方法がとられている。他の遺跡の出土例としては、折損しているが、山王遺跡八幡地区の反柄と身からすると、平鍬の身として着装する場合には、刃部に鉄製刃先がつくと考えられる。また、この遺構埋土4b層及びその下層からは、大型植物化石として、イネ炭化胚乳を主としてキビ炭化胚乳、ヒエ炭化種子、マタタビ種子、メロン仲間の種子などが出土している。

⑥B1期：栗囲式古段階は、主に第30次調査区において住居の数が増加し、須恵器の出土が多い時期である。それらの須恵器からは、近つ飛鳥博編年Ⅱ型式５段階（田辺編年TK209型式）に並行する時期の窯が北方の丘陵で営まれたことが推定されている。出土した須恵器の器種は、高坏、脚付埦、瓶類といった供膳具、甕、それとともに焼台もあることから、窯の操業には、この居住域の構成員も関わっていたこと、主な供給先は、郷楽１号墳のような横穴式石室をもつ古墳と推定される。

⑥B2期：栗囲式新段階には、住居数が減少し、須恵器の伴出はほとんどなくなる。

大型植物化石の同定では、⑥Ｂ１期から⑥Ｂ２期にかけて、前述のSX10217（複式井戸状遺構）埋土3a～4a層から、イネ炭化胚乳とともに、ヒエ炭化種子、モモ核、ウメ核、アンズ核、クリ果皮、トチノキ種子などが出土しており、⑥A期と比べると、イネ炭化胚乳の比率が下がり、果樹の比率が高くなっている。後続する⑦～⑧期に相当するSX10217（複式井戸状遺構）埋土２層では、畑域の面積が拡大することを示すように、イネ炭化胚乳は極めて少なくなり、モモ核、ウメ核、マタタビ種子を主とするようになる。こうした⑥Ａ期から⑥Ｂ期にかけて、果樹の比率が高くなった背景には、浜堤列という土地条件が、砂質であるという点で、果樹の生育に適していることを積極的に評価する経営方針があったと考えられる。

このように、⑥期には、居住域と生産域によって構成される集落が形成されており、それを裏付けるように、この時期の遺構からは、昆虫化石の分析によって、人糞や獣糞に集まる地表性昆虫や、畑作害虫などの出土が確認されている。

(6) 沼向⑦期：古墳時代後期後葉

⑥期に居住域であった第30次調査区が、⑦Ａ期に柱列による区画施設で囲われた生産域：畑域となる。集落構成の大きな変化であり、生産域の拡大がなされている。区画施設は、第30次調査区から第10次調査区南端部まで及んでおり、その範囲は、長軸約125m、短軸70m前後、面積約9000㎡である。区画施設の内部には、柱列に沿って溝状の遺構があり、それらの埋土、底面の状況が、小溝状遺構群の小溝と類似することから、畑跡の一つの形態と考えられる。⑦Ｂ期になると区画施設はなくなり、小溝状遺構群30次Ｃ群・Ｄ群が検出されることから、畑域としては存続する。⑦期の集落は、浜堤列縁辺部では、西部の畑跡とその東側の複式井戸状遺構で構成される生産域：畑域、やや東方に離れて第９次調査区を中心とした居住域、その東側の後背湿地の生産域：水田跡、によって構成されている。居住域における住居の数は、⑥B2期にくらべると減少しており、数軒程度である。

(7) 沼向⑧期：古墳時代後期末葉

集落の基本的な構成は⑦期と変わらないが、北西部の居住域には、竪穴住居跡、竪穴遺構とともに、区画溝を伴っ

て周溝がめぐる掘立柱建物跡、円形溝などが認められる。また、この時期には、小溝状遺構群が、それまでに比べると、明確な群をなしていること、方向性が直線的で東西あるいは南北方向を意識していること、小溝底面に残される工具痕が明瞭であること、が看取される。大型植物化石は、SX10220（複式井戸状遺構）埋土から、モモ核、ウメ核、アンズ核、スモモ核、メロン仲間の種子などの果樹を主とした出土がみられ、イネ炭化胚乳、アワ炭化胚乳、キビ炭化胚乳、クリ果皮、オニグルミ内果皮などは少量出土しており、⑥期とは異なり、果樹を主な作物とする畑経営がなされていたことが知られる。また、SX10220Aに残されていた井戸枠2点は、丸木舟の船材転用であることが知られ、仙台市域では、初めての出土例となった。

(8) 沼向⑨期：奈良時代前半

この時期になると、浜堤列では、それまで居住域だった北西部まで、生産域：畑域が広がる。集落構成の大きな変化であり、生産域の拡大が再度なされている。複式井戸状遺構は同じ位置で群として存続するため、この群域を挟んで東西を畑域とする生産域が展開し、居住域はやや縮小する。小溝状遺構群の方向性は、東西方向と南北方向の２方向が、群によって異なることが明瞭であり、複数時期の変遷がある。居住域では、この時期の明確な竪穴住居跡・竪穴遺構は確認されていないが、数は少ないながら存在していたと推定される。大型植物化石では、⑦～⑧期にみられる果樹を主とする傾向は、⑨期、後続する⑩期でも大きな変化はないが、果樹ではウメ核の減少とモモ核の増加、穀類ではイネ炭化胚乳の増加がみられる。作物として、果樹ではモモ、穀類ではイネへの志向が強くなっている可能性がある。後背湿地では、10a層水田が廃絶されている。この水田跡は、畦畔内部及び耕作土出土土器から、⑥期からの時期幅があると考えられ、畦畔上面からは⑨期の土器が出土している。出土遺物には、畦畔内部から馬鍬の台木の破片が出土しており、畜力の導入がはかられていたことが知られる。

(9) 沼向⑩期：奈良時代後半～平安時代初頭

この時期には、後背湿地で9a層水田跡が営まれるようになる。水田域は継続し、浜堤列縁辺部では、生産域：畑域が、竪穴遺構、複式井戸状遺構、畑跡によって構成され、それを集落内で区画するための区画溝が設けられる。その範囲は、東西にやや長い長方形で、東西約140m、南北約90m、面積約12600㎡である。北辺の区画溝からは、浜堤列縁辺へ向う溝が分岐しており、排水機能があることが知られる。区画溝に給水する水路は、調査区域内では確認されておらず、その付設は地形的にむずかしいことから、区画溝のもう一つの役割は、地下水位を低下させることにあったと考えられる。

区画内部の遺構群をみると、それらは、溝によっていくつかに分割されており、７基検出された竪穴遺構あるいは性格不明遺構は、すべて底面の構造が同じで一定の間隔をもっていることから同時に存在しており、畑作に関わる作業施設と考えられる。そのうち、性格不明遺構SX10150（特殊な竪穴遺構）は、３基の竪穴状の遺構を溝で連結させており、実際の作業では、７基の遺構は、その並びから、３基ずつ３単位として使用されたと理解される。畑域の小溝状遺構群の範囲は、区画溝の設定によって、⑨期よりやや縮小しているところもあるが、面積的にはほぼ同じである。方向性も、直線的な東西・南北方向が踏襲されている。

この区画溝の北東側には小型の竪穴住居跡３軒、東側には、掘立柱建物跡３棟、南東側には小型の竪穴住居跡１軒が検出されており、竪穴住居跡、掘立柱建物跡の主軸方向も東西・南北方向が意識されている傾向がある。これらの住居・建物群は、⑩Ａ１期：8世紀中葉～後葉から⑩Ａ２期：８世紀末葉～９世紀初頭までの時期幅があり、数も少なく小規模である。⑩Ｂ期では、竪穴住居跡、竪穴遺構は検出されておらず、集落の営みに変化が生じていることが考えられる。

(10) 沼向⑪期：平安時代前葉～近世初頭

この時期には、遺構の検出はなく、遺物もほとんど出土しておらず、集落は形成されていない。

(11) 沼向⑫期：近世前葉

17世紀中頃、浜堤列から後背湿地にかけて、広く集落の形成が始まる。この時期の居住域は第23次調査区にあり、比較的狭いことが推定される。建物は小型で、方向性には、真北を基準としている傾向はない。浜堤列はほとんどが畑域、後背湿地は水田域として生産域が広がる。浜堤列では、数多くの小溝状遺構群と、耕作に関連する遺構が検出されており、その畑域には井戸跡も見つかっている。そのうち、小型の井戸跡からは梵字墨書のある礫が49点出土しており、注目される。大型植物化石は、この時期の出土は少なく、イネ炭化胚乳、モモ核、クリ果皮、オニグルミ内果皮のほか、カボチャの種子などが見つかっている。

(12) 沼向⑬期：近世中葉

18世紀になると、集落の構成に変化が生じる。第18次西調査区とその周辺を中心として、真北方向を基準とした区画溝や掘立柱建物跡などからなる居住域が形成される。遺跡登録されている「遠藤館跡」に対応する遺構群であり、⑭期に継続する。その範囲は、東西約150m、南北約150mほどであり、⑫期に畑域としていた場所である。居住域内からは、木棺墓が１基：SX18E084検出されている。陶磁器、銭貨９枚とともに、大型植物化石として、メロン仲間の種子、マメ科炭化種子、イネ炭化胚乳、オオムギ炭化種子、コムギ炭化種子、キビ炭化胚乳、ユスラウメ核などが出土している。これらは、埋葬に伴う構成なのであろうが、畑作物が多い傾向がある。そのほかの遺構からは、モモ核が多く出土する傾向がみられる。

(13) 沼向⑭期：近世後葉

19世紀には、集落の構成に変化はないが、居住域が遺跡西部にも形成され、その面積が拡大し、大型の掘立柱建物跡がみられるようになる。小溝状遺構群の検出は、⑬期と同様、少ないが、畑域は存続しており、昆虫化石では、畑作害虫が検出されており、大型植物化石は、モモ核、オニグルミ内果皮、クリ果皮を主として、イネ炭化胚乳、ウメ核などの出土がある。また、出土遺物には、底部外面に「遠藤氏」の墨書がある瀬戸美濃産の燭徳利が出土している。年代は19世紀後半であり、⑭期でも、その末期に位置づけられる。

２．土地利用の変遷

遺構・遺物によって区分された沼向①～⑭期を、地形学などの関連科学の分析・同定結果をふまえて検討し、土地利用とういう視点から時代区分すると、以下のようになり、付図44（第10分冊）に示した。沼向遺跡に限定される地点的な成果ではあるが、変化する環境への技術的な適応の過程が知られる。

潟湖の時代（沼向①～③期：縄文時代後期中葉～古墳時代前期）

水田・畑の時代（沼向④～⑩期：古墳時代中期～平安時代初頭）

沼向の時代（沼向⑪期：平安時代前葉～近世初頭）

遠藤館の時代（沼向⑫～⑭期：近世前葉～後葉）

沼向遺跡が立地する第Ⅰ浜堤列が4500～5000年前に形成されて以降、海側には浜堤列が進出し、陸側には広く潟湖が展開する地形環境が、近世初頭まで継続する。①期には、遺跡北方にある丘陵からの景観は、名取川河口付近から北方へ、細長く延びる浮島状の陸地が、海と潟湖を分けているように見えたのであろう。その先端近く、陸側に位置する沼向遺跡の地形環境に、古墳時代中期：④期の早い時期に大きな変化が起こる。西方からの大洪水によって遺跡北東部がポケット状に抉られ、後背湿地が形成されるのである。これによって、後背湿地では、④期以降、⑩期まで、水田稲作が断続的、継続的に行われるようになり、浜堤列では、⑥期以降、⑩期まで、畑作が継続的に行われている。土地利用という点では、④期が最初の画期である。③期までを「潟湖の時代」としているのは、弥生時代や、古墳時代前期においても農耕が積極的に行われた痕跡がなく、むしろ、縄文時代、弥生時代の土器製塩や、古墳時代前期に多量に出土する土錘から推定される漁撈活動など、主たる生業が潟湖に関わり、そこから生

活の糧を得ている時代ということで名称づけている。④期以降は、水田稲作、畑作が行われていることから、⑩期までを「水田・畑の時代」と名称づけているが、④・⑤期には、浜堤列縁辺部に③Ｂ期のように居住域は形成されていない。その理由として、③Ｂ期の居住域は大洪水が抉った部分まで延びていたことが推定され、その災害を教訓として、居住域を移動させたことが考えられる。⑥期になると、そうした意識の変更がなされたためか、居住域は浜堤列縁辺部に再び形成され、⑩期まで存続する。この「水田・畑の時代」には、地形面の変化はないが、地下水位の上昇が推定される。これは、③Ｂ期から、⑥～⑩期にかけて、竪穴住居跡床面・竪穴遺構底面・複式井戸状遺構底面の標高が徐々に上昇していること、⑥期から、⑩期のかけて、溝跡の底面標高が、徐々に下降していることから導きだされた考えであり、やや波行的ではあるが、この期間の海水準微変動の傾向と符合する。つまり、⑪期に沼向遺跡から、居住や生産活動の痕跡がなくなる主な要因として、地下水位の上昇による集落の放棄が考えられるのである。これが2番目の画期であり、平安時代前葉の９世紀中葉から、近世初頭の17世紀前葉までの長期間を「沼向の時代」としたのは、遺構、遺物が検出されない期間で、その間、おそらく中世に「沼向」という地名がついたと推定されることによる。非主体的なこの地名は、人類が居住しない土地に対して、沼あるいは沼状の湿地を挟んで反対側から名称づけられたのであろう。その後、17世紀の中頃には、再び沼向遺跡で遺構、遺物が検出されるようになり、遺跡範囲内に含まれる遠藤館跡に関わることが考えられた。３番目の画期であり、この⑫期～⑭期を「遠藤館の時代」とした。これには、前述のように、慶長年間と寛文年間に行われた七北田川の主流路の付け替え工事が大きな役割を果たしており、新田開発の進行に伴い、潟湖は、その面積を徐々に小さくしていくことになる。人工的な土地利用が大規模に始まった時代でもある。

現在では、遺跡周辺に、潟湖や近世の屋敷の面影はまったくないが、この土地区画整理事業が行なわれる以前には、集落としての景観が良好に残されていた。その様子は、高砂在住の高橋親夫氏によって記録されてある（第1-25図、写真1～5）。近世の沼向を考えるうえでも貴重な資料である。

註

１：中野高柳遺跡の調査は、宮城県教育委員会が平成６年度と平成７年度、平成12年度から平成17年度まで、仙台市教育委員会が平成７年度から平成12年度まで行なった。このうち、宮城県教育委員会の発掘調査報告書は、すでに刊行されている（宮城県教育委員会2003、2004、2005、2006）。仙台市教育委員会が行った第１次～５次調査の発掘調査報告書は、今年度刊行する。

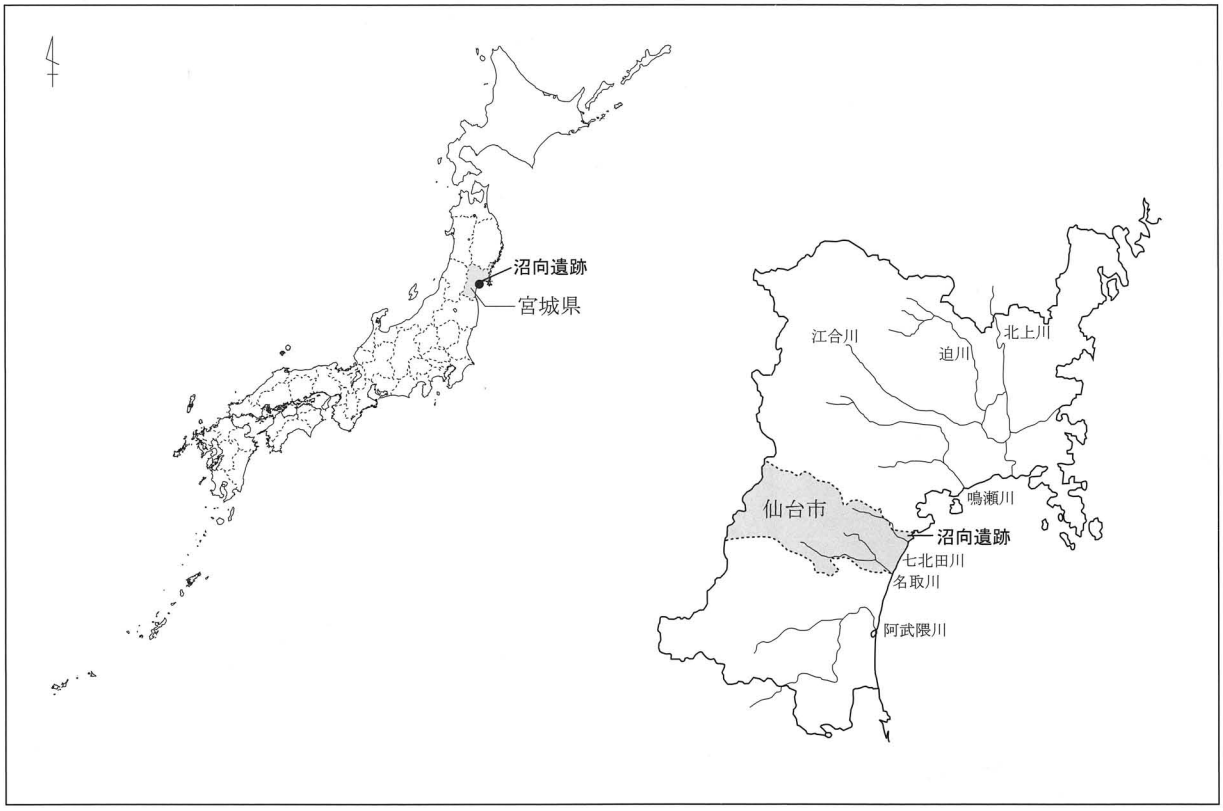
２：福島県教育委員会・福島県文化センター（1988、1989）の編年

３：近つ飛鳥博編年Ⅱ型式５段階、田辺編年TK209型式の年代については、７世紀初頭とする説と、６世紀末葉から７世紀初頭とする説がある。ここでは、前者の説をとっている。

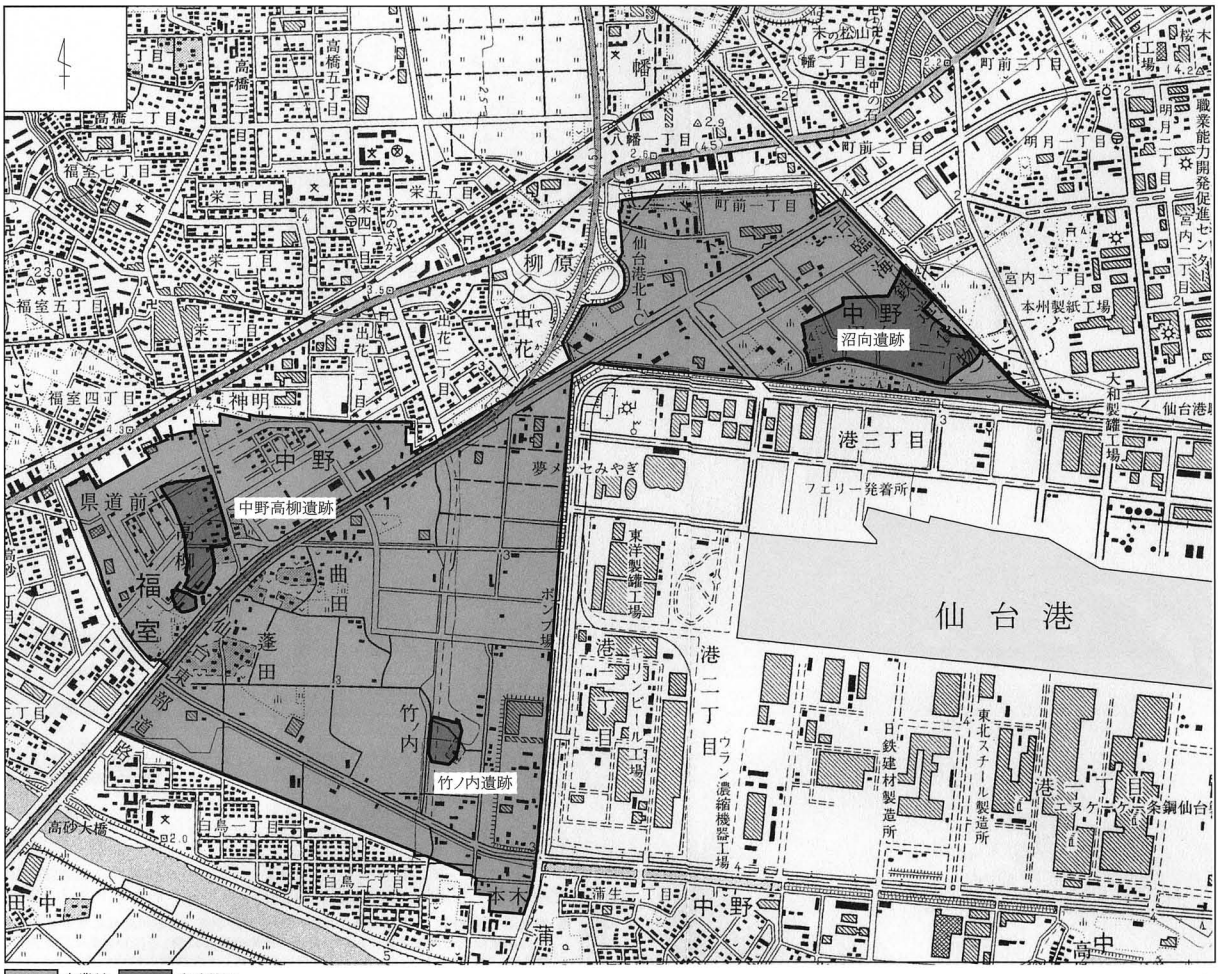
文献

斎野裕彦　2000　「富沢遺跡・山口遺跡の条里型土地割の復元とその成立要因」『仙台市富沢遺跡保存館研究報告』3
斎野裕彦　2005　「水田跡の構造と理解」『古代文化』57-5
佐藤昭典　2007　『利水・水運の都　仙台』　仙台・江戸学叢書２
佐藤甲二　2000　「畑跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題」『はたけの考古学』日本考古学協会2000年度鹿児島大会実行委員会
仙台市教育委員会　1981　『六反田遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書34
仙台市教育委員会　1987　『富沢遺跡第15次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書98
仙台市教育委員会　1993a　『大蓮寺窯跡第２・３次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書168
仙台市教育委員会　1993b　『下ノ内浦遺跡第４次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書173
仙台市教育委員会　2000　『沼向遺跡第１～３次調査』仙台市文化財調査報告書241
仙台市教育委員会　2004　『鴻ノ巣遺跡第７次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書280
田辺昭三　1966　『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ
田辺昭三　1981　『須恵器大成』角川書店
種石　悠　2005　「宮城県岩沼市北原遺跡の古墳時代前期土器の編年的再検討―未報告資料の紹介をかねて―」『筑波大学先史学･考古学研究』16

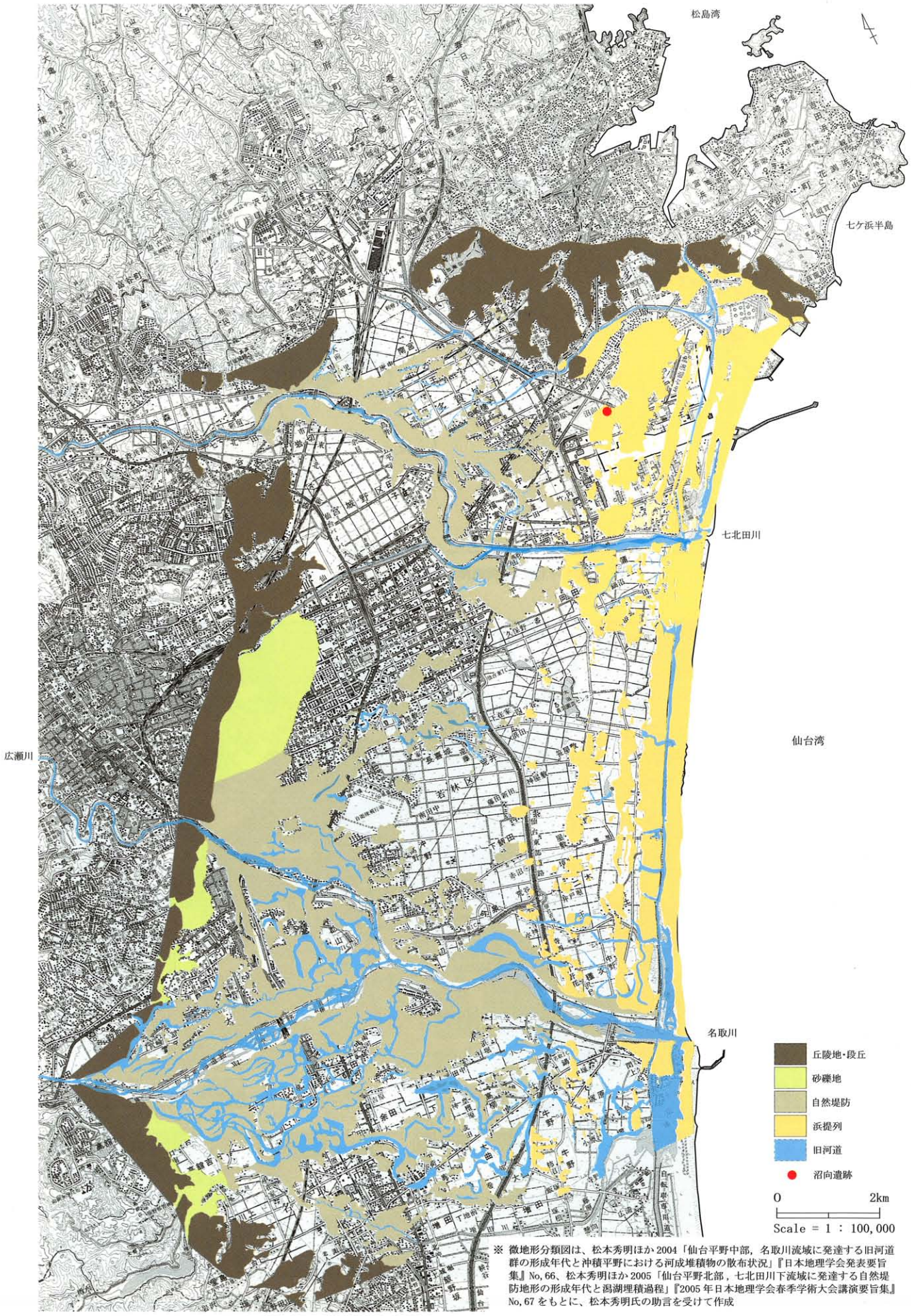
近つ飛鳥博物館　2006 『年代のものさし－陶邑の須恵器』大阪府近つ飛鳥博物館図録40
次山　淳　1992 「塩釜式時の変遷とその位置づけ」『『究班』埋蔵文化財研究会15周年記念論文集』
辻　秀人　1995 「東北南部における古墳出現期の土器編年　その二」『東北学院大学論集』27
寺嶋修二　1984 『高砂の歴史』高砂老人クラブ連合会
福島県教育委員会・福島県文化センター　1988 『国道113号バイパス遺跡調査報告Ⅳ』福島県文化財調査報告書192
福島県教育委員会・福島県文化センター　1989 『国道113号バイパス遺跡調査報告Ⅴ』福島県文化財調査報告書211
松本秀明　1984 「海岸平野に見られる浜堤列と完新世後期の海水準微変動」『地理学評論』57-A
松本秀明　1994 「仙台平野の成り立ち」『仙台市史特別編１ 自然』仙台市史編纂委員会
松本秀明　1995 「２つの河川跡（SR１・2）の地形学的背景」『下飯田遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書191
松本秀明・野中奈津子　2006 「七北田川下流沖積低地における完新世後期の湖沼埋積と自然堤防の形成」『中野高柳遺跡Ⅳ』宮城県文化財調査報告書204
宮城県教育委員会　1987 『硯沢・大沢窯跡ほか』宮城県文化財調査報告書116
宮城県教育委員会　2003 『中野高柳遺跡Ⅰ』宮城県文化財調査報告書194
宮城県教育委員会　2004 『中野高柳遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書197
宮城県教育委員会　2005 『中野高柳遺跡Ⅲ』宮城県文化財調査報告書201
宮城県教育委員会　2006 『中野高柳遺跡Ⅳ』宮城県文化財調査報告書204
宮城県教育委員会　1994 『山王遺跡八幡地区の調査』宮城県文化財調査報告書162
渡辺信夫　2001 「交通体系の成立」『仙台市史通史編３　近世Ⅰ』仙台市史編さん委員会



第１－１図　沼向遺跡位置図

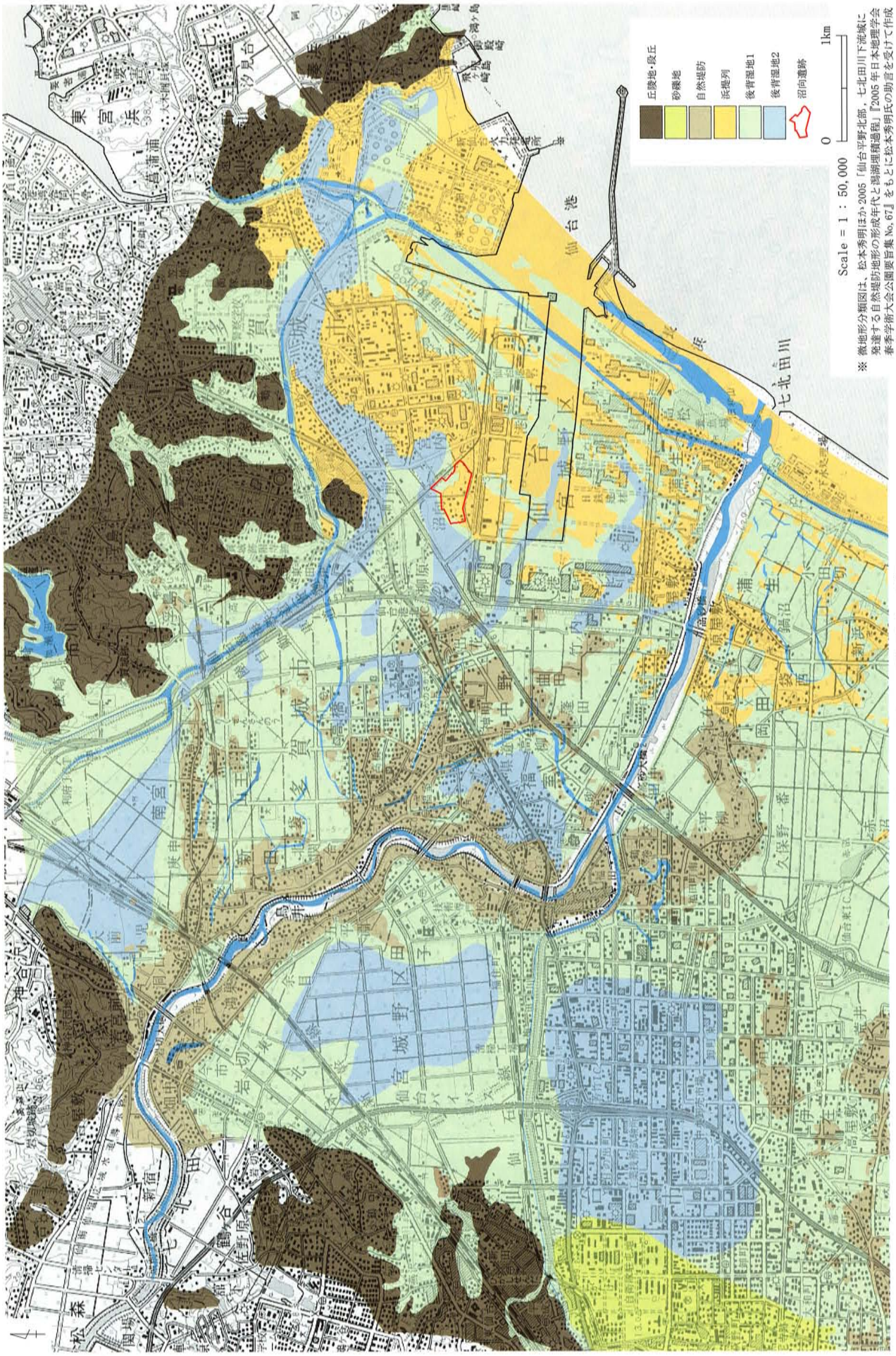


第１－２図　事業地内遺跡分布図

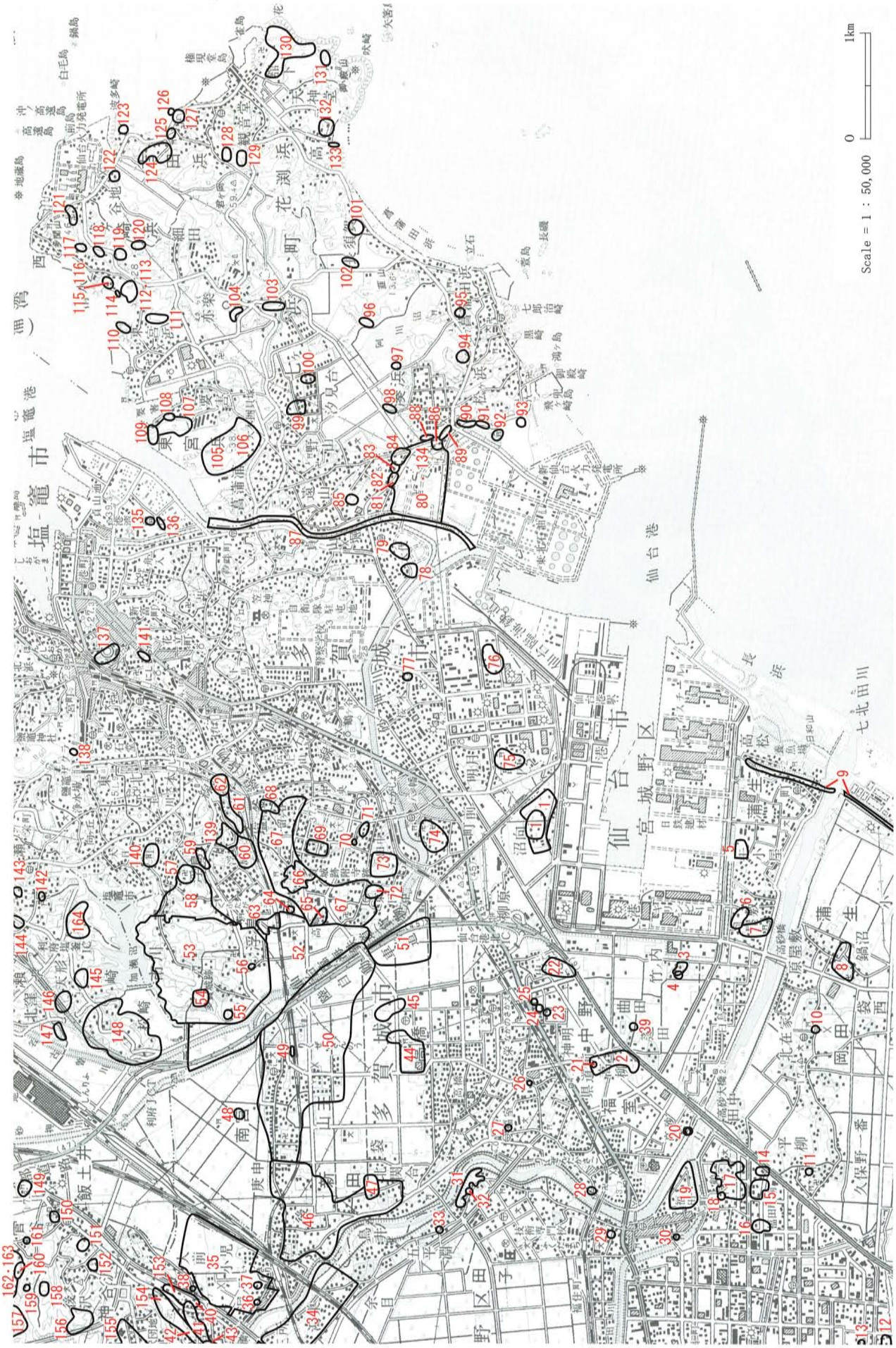


※ 微地形分類図は、松本秀明ほか 2004「仙台平野中部，名取川流域に発達する旧河道群の形成年代と沖積平野における河成堆積物の散布状況」『日本地理学会発表要旨集』No, 66、松本秀明ほか 2005「仙台平野北部，七北田川下流域に発達する自然堤防地形の形成年代と潟湖埋積過程」『2005 年日本地理学会春季学術大会講演要旨集』No, 67 をもとに、松本秀明氏の助言を受けて作成

第１－３図　仙台平野中北部微地形分類図



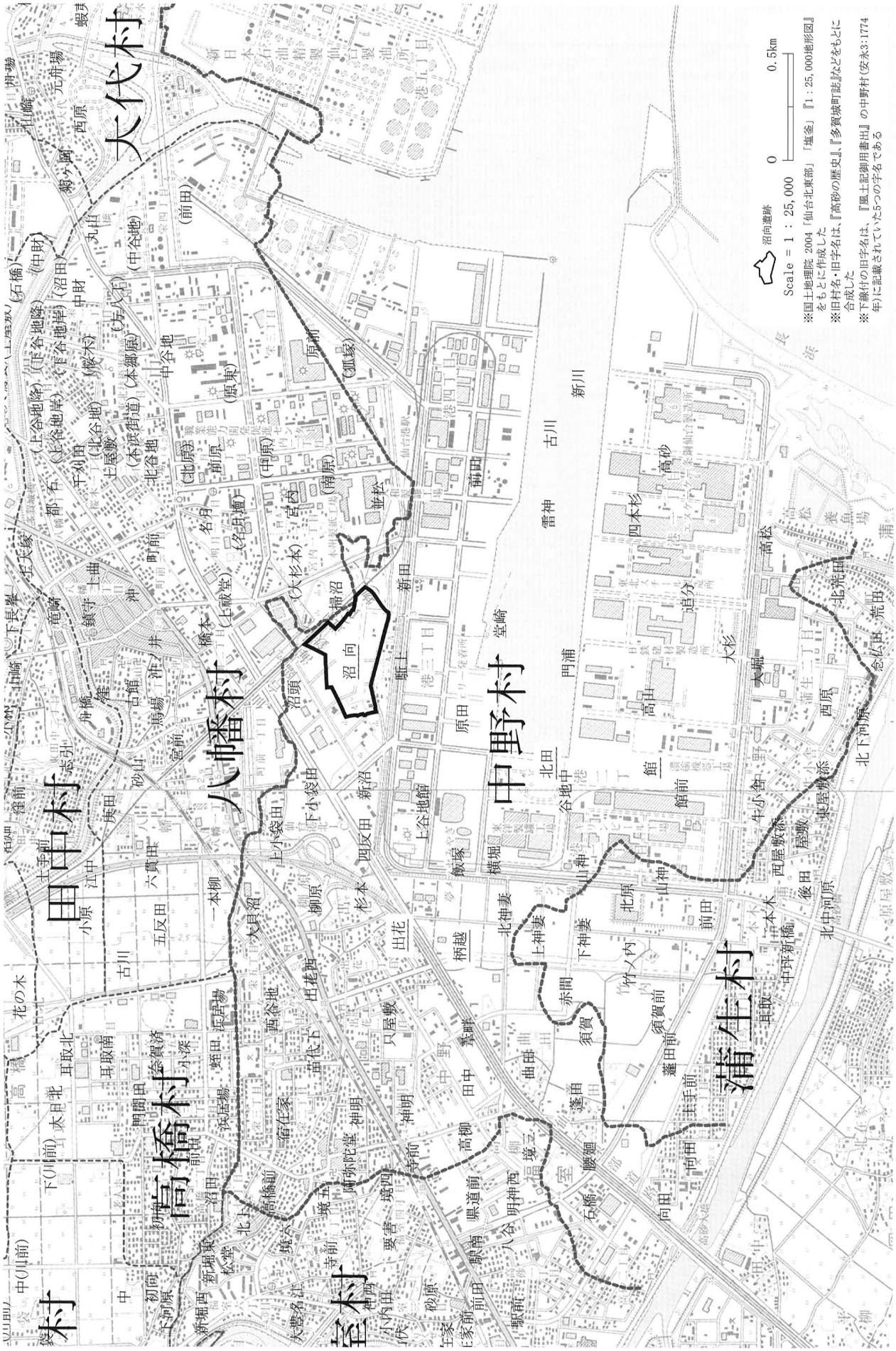
第1－4図　仙台平野北部微地形分類図



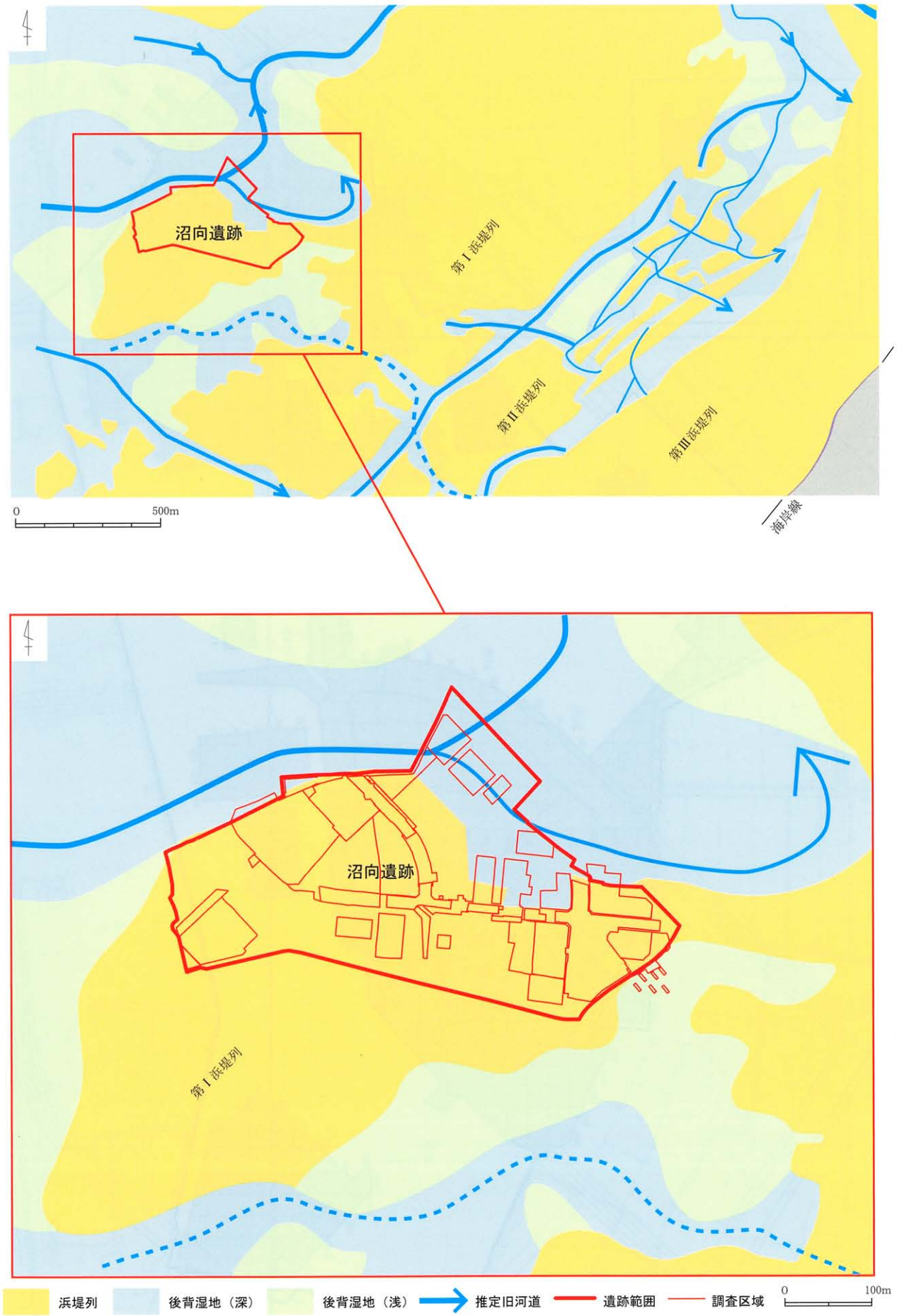
第１－５図　周辺の遺跡図

第1表　遺跡地名表

No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	沼向遺跡	古墳・集落・水田跡	浜堤・後背湿地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世
2	中野高柳遺跡	集落・屋敷・水田跡	自然堤防	平安・中世・近世
3	竹ノ内遺跡	散布地	浜堤	平安
4	耳取観音堂板碑	板碑	自然堤防	中世
5	西原遺跡	散布地	自然堤防	奈良・平安
6	牛小舎遺跡	散布地	自然堤防	奈良・平安
7	和田織部館跡	屋敷	浜堤	近世
8	田母神屋敷跡	屋敷	自然堤防	近世
9	貞山堀	運河	浜堤	近世
10	岡田神明社板碑群	板碑	自然堤防	中世
11	福室住吉神社板碑群	板碑群	自然堤防	中世
12	地蔵浦遺跡	散布地	自然堤防	中世
13	六丁の目　北町板碑	板碑	自然堤防	中世
14	小原遺跡	散布地	自然堤防	平安
15	鶴巻Ⅱ遺跡	散布地	自然堤防	平安
16	田子遺跡	散布地	自然堤防	平安
17	鶴巻Ⅰ遺跡	散布地	自然堤防	平安
18	鶴巻熊野神社板碑	板碑	自然堤防	中世
19	福田町遺跡	散布地	自然堤防	平安
20	八鍬八幡神社板碑	板碑	自然堤防	中世
21	中野高柳板碑	板碑	自然堤防	中世
22	出花遺跡	散布地	自然堤防	奈良・平安
23	出花一丁目A板碑群	板碑群	自然堤防	中世
24	出花一丁目B板碑群	板碑	自然堤防	中世
25	出花愛宕神社板碑群	板碑群	自然堤防	中世
26	瞥護寺板碑	板碑	自然堤防	中世
27	西光寺板碑群	板碑	自然堤防	鎌倉
28	福室庚板碑	板碑	自然堤防	中世
29	雲洞院板碑	板碑	自然堤防	中世
30	四野観音堂板碑群	板碑	自然堤防	中世
31	堰下遺跡	散布地	自然堤防	平安
32	堰下板碑群	板碑	自然堤防	中世
33	五平淵板碑群	板碑群	自然堤防	中世
34	鴻ノ巣遺跡	集落	自然堤防	弥生～中世
35	洞ノ口遺跡	集落・城館・水田跡	自然堤防	奈良・平安・中世・近世
36	洞ノ口A板碑	板碑	自然堤防	中世
37	洞ノ口板碑群	板碑	自然堤防	鎌倉
38	馬頭観音堂板碑群	板碑	自然堤防	中世
39	中野曲田板碑	板碑	自然堤防	中世
40	化粧坂城跡	城館	丘陵	中世
41	羽黒前板碑群	板碑群	丘陵斜面	中世
42	羽黒前遺跡	宗教遺跡・城館	丘陵	中世・近世
43	若宮前遺跡	城館・祭祀遺跡	丘陵斜面	縄文・古墳～近世
44	大日南遺跡	集落・屋敷	自然堤防	平安・中世
45	大日北遺跡	散布地	自然堤防	古代・近世
46	新田遺跡	集落・屋敷	自然堤防	縄文・古墳～中世
47	安楽寺遺跡	寺院	自然堤防	古代末～中世
48	内館館跡	城館	自然堤防	中世
49	山王遺跡千刈田地区	集落・都市・屋敷・貝塚	自然堤防	弥生～近世
50	山王遺跡	集落・都市・屋敷・貝塚	自然堤防	弥生～近世
51	六貫田遺跡	散布地	自然堤防	古代
52	市川橋遺跡	集落・都市	丘陵・自然堤防	縄文～平安
53	特別史跡　多賀城跡	国府	丘陵・沖積平野	奈良・平安
54	金堀貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文前～後
55	五万崎遺跡	墓	丘陵	縄文前・中・弥生・古墳前
56	田屋場横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
57	法性院遺跡	散布地・寺院	丘陵斜面	古代
58	西沢遺跡	集落	丘陵	古代・中世
59	高原遺跡	散布地	丘陵	古代・中世
60	小沢原遺跡	散布地	丘陵	古代・中世
61	野田遺跡	散布地・城館	丘陵斜面	古代・中世
62	矢作ヶ館跡	散布地・城館	丘陵	古代・中世
63	館前遺跡	官衙・城館	丘陵	古代・中世
64	今野家住宅	農家		近世
65	高崎古墳群	円墳	丘陵麓	古墳中・後
66	多賀城廃寺跡	寺院	丘陵	奈良・平安
67	高崎遺跡	集落・都市・城館	丘陵	奈良・平安・中世
68	留ヶ谷遺跡	城館	丘陵	古代・中世
69	御屋敷館跡	城館	丘陵	中世
70	稲荷殿古墳	円墳	丘陵	古墳後
71	桜井館跡	城館	丘陵	中世
72	東田中窪前遺跡	散布地・城館	丘陵麓	古代・中世
73	志引遺跡	散布地・城館	丘陵	古代・中世
74	八幡館跡	散布地・城館	丘陵	古代・中世
75	八幡沖遺跡	集落	浜堤	古代・近世
76	東原遺跡	散布地	浜堤	古代
77	桜木遺跡	城館？	沖積平野	不明
78	西原遺跡	散布地	自然堤防	古代
79	元舟場遺跡	散布地	自然堤防	古代
80	大代遺跡	散布地	丘陵麓	縄文晩・古代
81	大代洞窟	洞窟遺跡・貝塚・製塩	海蝕崖	弥生・中世
82	大代横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
83	橋本囲横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
84	大代貝塚(橋本囲貝塚)	貝塚・製塩	丘陵麓	縄文晩・古代
85	柏木遺跡	散布地・製鉄	丘陵斜面	古代
86	桝形囲貝塚	貝塚・製塩	丘陵麓	縄文・弥生・古代
87	貞山堀	運河	堤間湿地	近世
88	桝形囲横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
89	砂山横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
90	薬師横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
91	弁天A遺跡	散布地	海岸	古代
92	弁天B遺跡	散布地	丘陵麓	古代
93	弁天C遺跡	散布地	海岸	古代
94	笹山貝塚	貝塚・製塩	丘陵斜面	縄文晩・弥生
95	諏訪神社前遺跡	散布地・製塩	丘陵	縄文晩・古代
96	鬼の神山横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
97	阿川沼貝塚	貝塚	丘陵麓	縄文晩・弥生
98	林崎貝塚	貝塚	丘陵端部・海岸	縄文晩・弥生
99	野山遺跡	製塩	丘陵斜面	縄文晩・弥生
100	鬼ノ神山(野山貝塚)	貝塚・製塩	丘陵斜面	縄文晩・弥生・奈良
101	長須賀遺跡	貝塚・製塩	丘陵麓	縄文・平安
102	東原遺跡	散布地	浜堤	古墳
103	下田堤遺跡	製鉄	丘陵斜面	不明
104	丑谷辺遺跡	製鉄	丘陵斜面	不明
105	大木城跡	城館	丘陵	中世
106	大木囲貝塚	貝塚	丘陵	縄文前～後
107	左道遺跡	散布地	丘陵	古代
108	小畑貝塚	貝塚	丘陵	縄文晩・弥生・古代
109	左道貝塚	貝塚	丘陵麓	縄文前・古代
110	丑山遺跡	散布地・製塩	丘陵麓	弥生・平安
111	小友遺跡	散布地・製塩	丘陵麓	弥生・古代
112	水浜貝塚	貝塚・製塩	丘陵麓	弥生・古代
113	水浜遺跡	散布地・製塩	丘陵麓	平安
114	水浜横穴墓	横穴墓	海蝕崖	古墳
115	土浜A貝塚	貝塚	丘陵麓	弥生・古代
116	土浜B貝塚	貝塚・製塩	丘陵麓	平安
117	清水洞窟貝塚	集落	丘陵麓	弥生・平安
118	清水貝塚	貝塚・製塩	丘陵斜面	古代
119	峯貝塚	貝塚・製塩	丘陵麓	縄文晩・古代
120	沢上貝塚	貝塚	丘陵麓	縄文晩
121	影田貝塚	貝塚	丘陵麓	平安
122	神明遺跡	散布地	丘陵麓	古代
123	沢尻貝塚	貝塚	海岸	縄文晩・弥生・平安
124	二月田貝塚(空墓貝塚)	貝塚	丘陵麓	縄文後・晩・弥生
125	吉田神社遺跡	散布地	丘陵斜面	古代
126	吉田浜貝塚	貝塚	丘陵麓	縄文早
127	吉田城跡	城館	丘陵	中世？
128	藤ヶ沢遺跡	貝塚	丘陵斜面	縄文前・中
129	君ヶ岡貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文前・中
130	花淵館跡	城館	散布地	平安・中世
131	鼻節神社遺跡	散布地	丘陵麓	古代
132	表浜貝塚	貝塚	浜堤	平安
133	高山横穴墓群	横穴墓	丘陵麓	古墳後
134	新田前貝塚	貝塚・製塩	浜堤	古代
135	一本松貝塚	貝塚・製塩	海岸	縄文晩・平安
136	一本松横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	
137	塩釜古館跡	城館	丘陵	中世
138	塩釜神社境内遺跡	散布地・製塩	丘陵斜面	縄文晩
139	袖野田遺跡	散布地	丘陵斜面	奈良・平安
140	母子沢遺跡	散布地	丘陵	平安
141	旭町横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	奈良？
142	十三本塚遺跡	塚	丘陵	
143	十三塚遺跡	散布地	丘陵斜面	古代
144	洞女喜遺跡	散布地	丘陵斜面	縄文中・後
145	窪遺跡	散布地	丘陵斜面	古代
146	天形遺跡	散布地	丘陵	古代
147	北窪遺跡	散布地	丘陵麓	古代
148	加瀬遺跡群	散布地	丘陵・自然堤防	縄文・古代
149	伊豆佐比売神社	神社	丘陵	平安
150	産野原遺跡	散布地	丘陵麓	古墳・平安
151	西天神遺跡	散布地	丘陵麓	古代
152	塚元古墳	円墳	丘陵	古墳
153	館ノ内遺跡	城館	丘陵	中世
154	羽黒前遺跡	宗教遺跡	丘陵	中世
155	岩切城跡	城館	丘陵	中世
156	北沢横穴墓群	横穴墓	丘陵	古墳
157	菅谷館跡	城館	丘陵	平安・中世
158	笠宮沢遺跡	散布地	丘陵麓	古代
159	穴ヶ沢遺跡	散布地	丘陵麓	古代
160	穴薬師磨崖仏南 馬場崎横穴墓群	磨崖仏 横穴墓	丘陵麓	古墳
161	馬場崎B遺跡	散布地	丘陵斜面	古代
162	菅谷薬師神社　横穴墓	横穴墓	丘陵	古墳後
163	菅谷横穴墓群	横穴墓	丘陵	古墳後
164	加瀬貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文中・古代

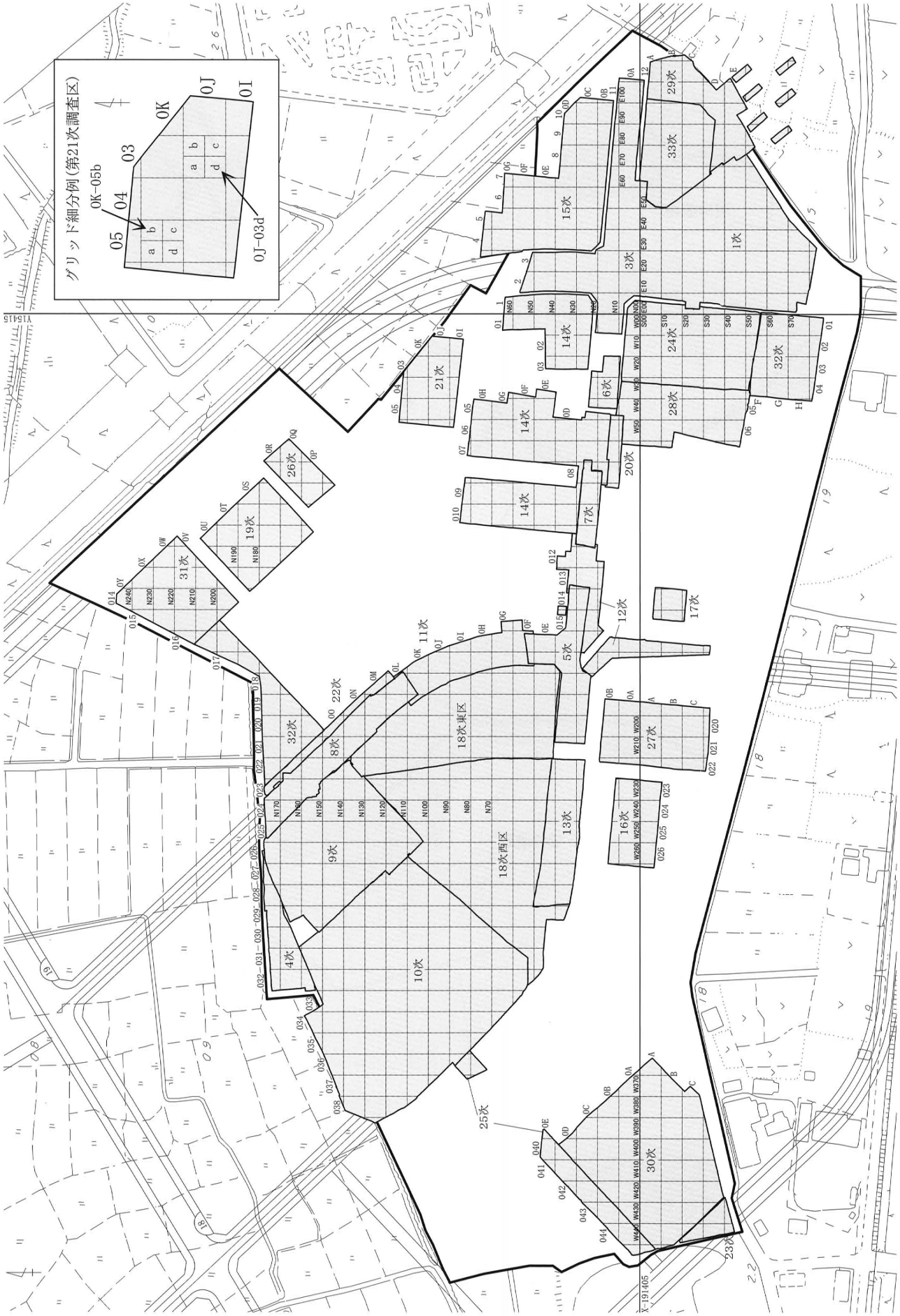

大代村
田中村
八幡村
中野村
高橋村
蒲生村
沼向遺跡
Scale = 1 : 25,000
0
0.5km
※国土地理院 2004「仙台北東部」「塩釜」『1：25,000地形図』をもとに作成した
※旧村名・旧字名は、『高砂の歴史』、『多賀城町誌』などをもとに合成した
※下線付の旧字名は、『風土記御用書出』の中野村（安永3：1774年）に記載されていた5つの字名である

第１－６図　旧字名位置図

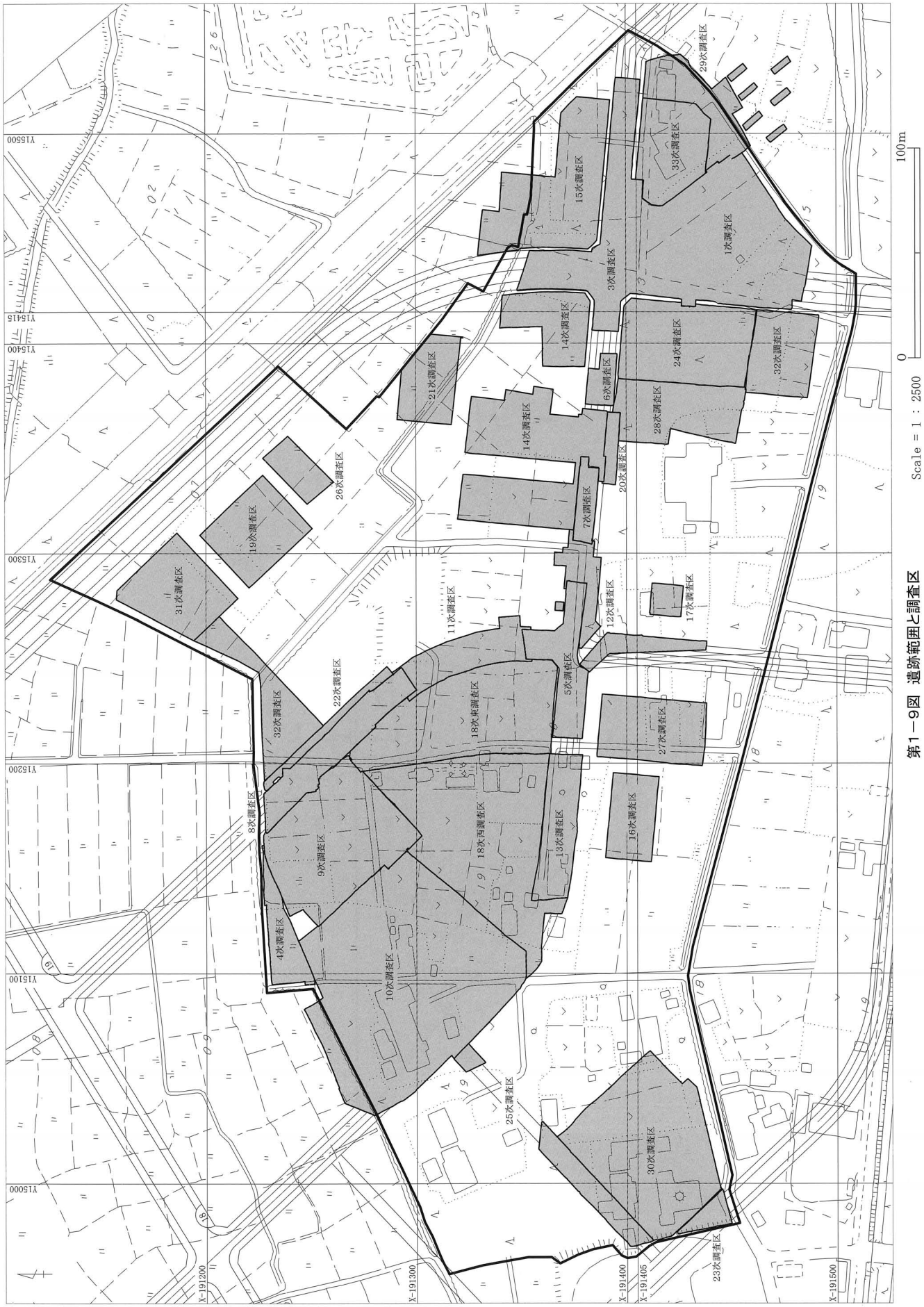


第１－７図　沼向遺跡周辺微地形分類図

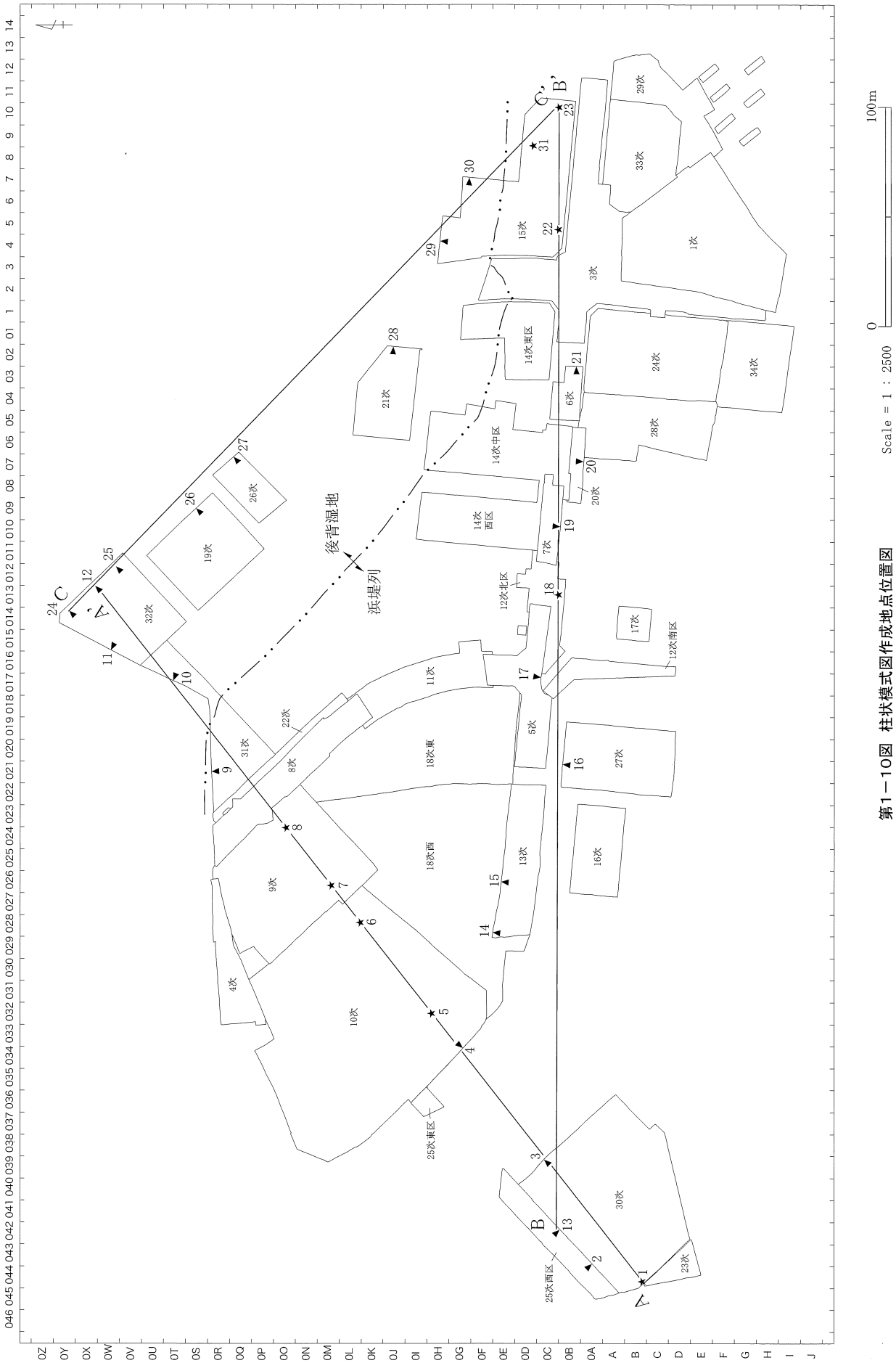
※昭和22年米軍撮影の航空写真をもとに、
松本秀明氏の指導を受けて作図



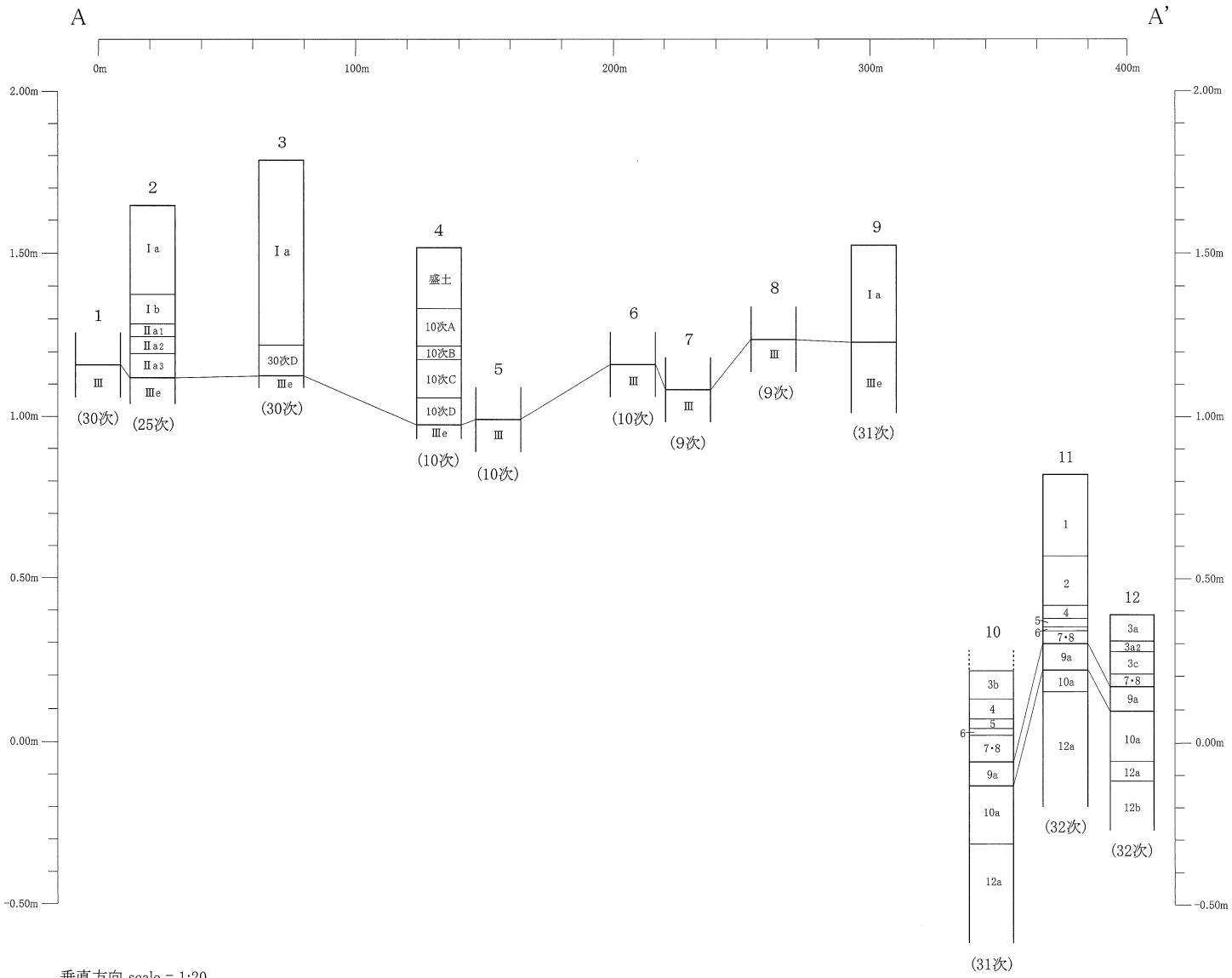
第１－８図　グリッド配置図



第１－９図　遺跡範囲と調査区

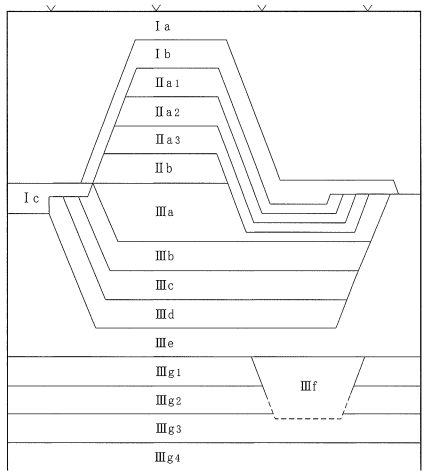


第１－１０図　柱状模式図作成地点位置図



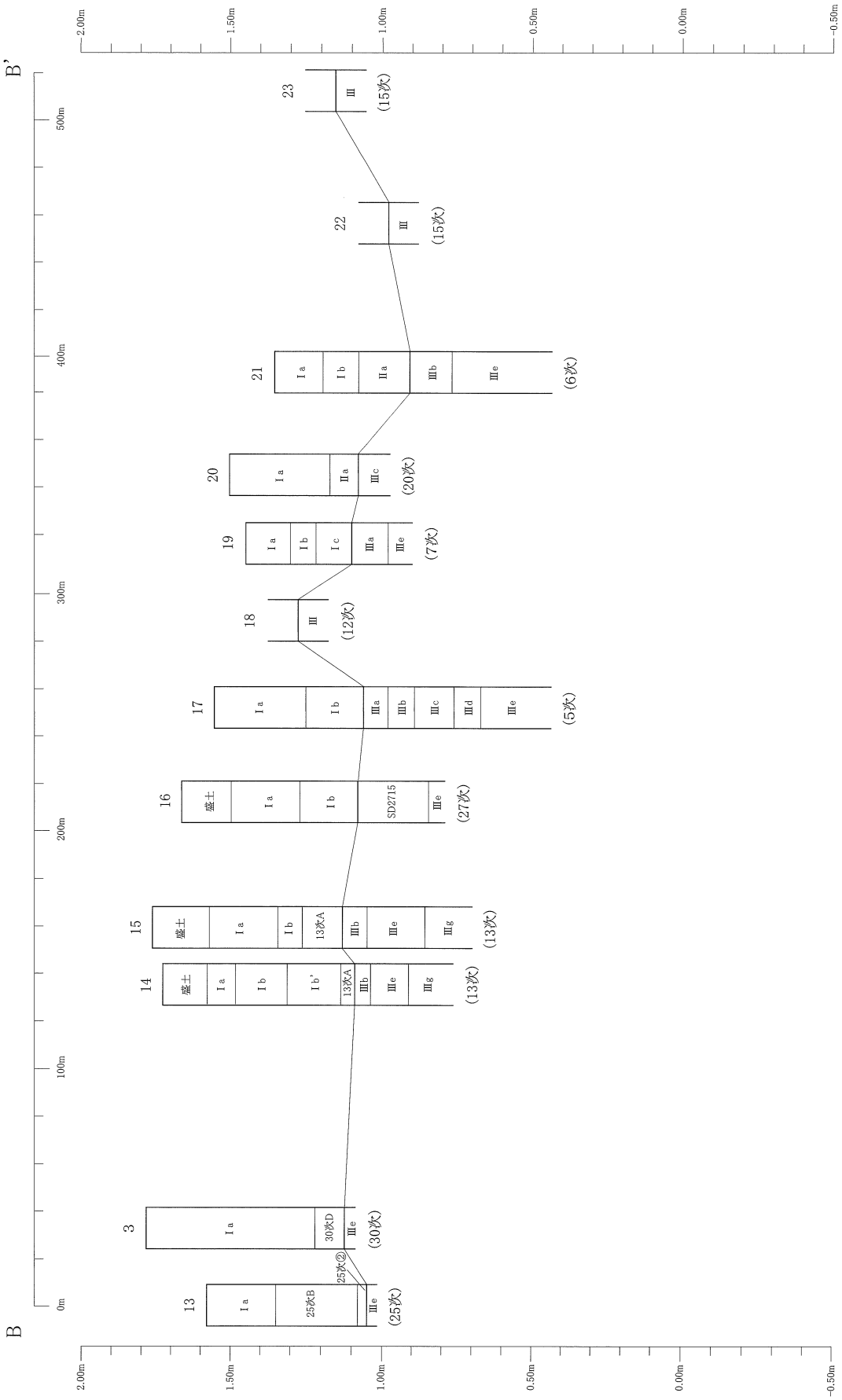
垂直方向 scale = 1:20
水平方向 scale = 1:2500

基本層序柱状模式図(1)

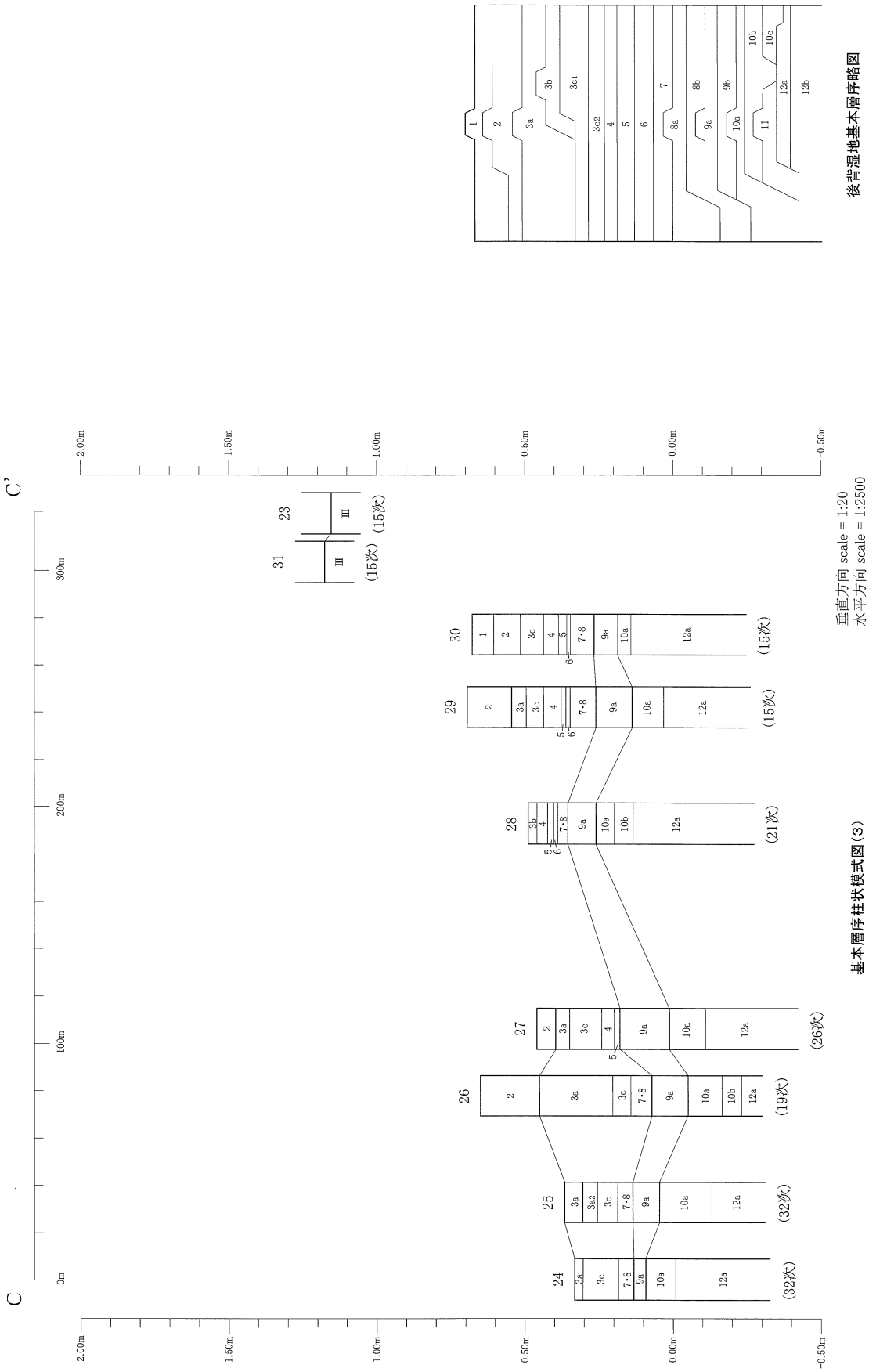


浜提基本層序略図

第1－11図　基本層序柱状模式図(1)・浜堤基本層序略図



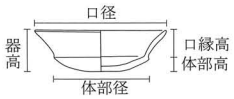
第１－１２図　基本層序柱状模式図(2)

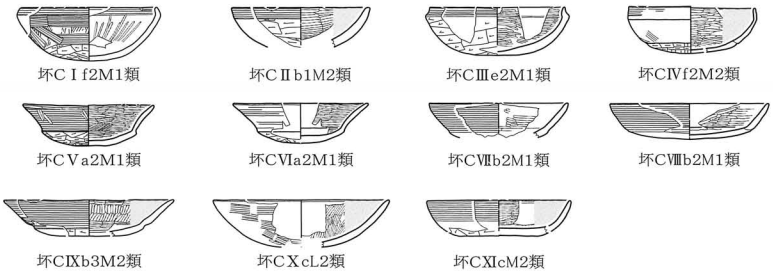


第１－１３図　基本層序柱状模式図(3)・後背湿地基本層序略図

	大別(体部形・口縁高比)		細別1(口縁部断面形)		細別2(口縁部と体部の境界)		細別3(大きさ)		細別4(処理・仕上げ)	
坏C	Ⅰ	体部が、半球形	a	外反外傾	1	丸みのある稜、緩やかな屈曲	S	口径が12cm未満	1	ナシ
		口縁高比が0.25未満	b	直線外傾	2	稜、屈曲	M	口径が12～18cm	2	黒色処理
	Ⅱ	体部が、半球形	c	内反外傾	3	段付稜	L	口径が18cm以上	3	黒色仕上げ
		口縁高比が0.25～0.33	d	直立	4	沈線			4	赤彩
	Ⅲ	体部が、扁平半球形	e	外反内傾	5	不明				
		口縁高比が0.25未満	f	直線内傾						
	Ⅳ	体部が、扁平半球形	g	内反内傾						
		口縁高比が0.25～0.33								
	Ⅴ	体部が、扁平半球形								
		口縁高比が0.33～0.66								
	Ⅵ	体部が、扁平半球形								
		口縁高比が0.66～0.75								
	Ⅶ	体部が、扁平半球形								
		口縁高比が0.75以上								
	Ⅷ	体部が、皿形								
		口縁高比が0.66～0.75								
	Ⅸ	体部が、皿形								
		口縁高比が0.75以上								
	Ⅹ	体部が、半球形								
		体部と口縁部の境界ナシ								
	Ⅺ	平底で、体部と口縁部の境界ナシ								

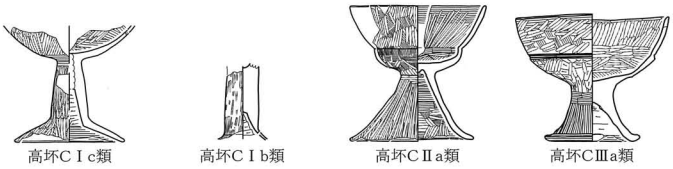
丸底坏の形態
※半球形(体部高÷体部径≧0.3)
扁平半球形(体部高÷体部径が0.3～0.1以上)
皿形(体部高÷体部径≦0.1)
※口縁高比(口縁高÷器高)
※器高比(器高÷口径)





	大別(脚形)		細別(脚内面)	
高坏C	Ⅰ	長脚で柱状	a	中空
	Ⅱ	長脚で「ハ」字状に開く	b	中実
	Ⅲ	短脚で「ハ」字状に開く	c	半中実

※坏部は文章で記述する。

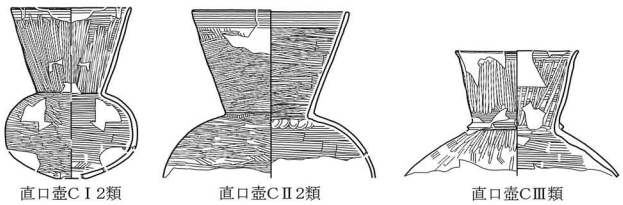


	大別(頸体比)
小型丸底鉢C	Ⅰ　頸部高÷体部高が1.6以上
	Ⅱ　頸部高÷体部高が1.0～1.6
	Ⅲ　頸部高÷体部高が1.0未満

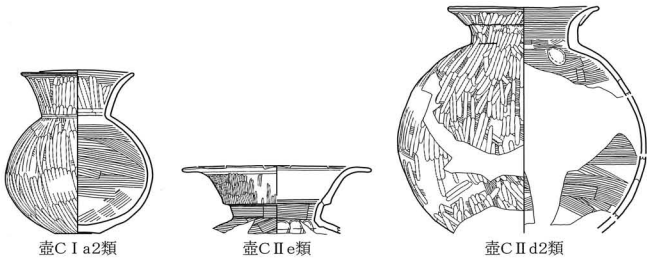
	大別(脚形)		細別1(脚内面)		細別2(体部外面調整)	
器台C	Ⅰ	長脚で柱状のもの	a	中空	x	ハケメ
	Ⅱ	長脚で「ハ」字状に開くもの	b	中実	y	ヘラナデ
	Ⅲ	粗製器台	c	半中実	z	ヘラミガキ

※受部は文章で記述する

	大別(大きさ)		細別(体部最大径)	
直口壺C	Ⅰ	中小型	1	上位
	Ⅱ	大型	2	中位
	Ⅲ	大型で頸部に突帯が巡る	3	下位



	大別(口縁部形態)		細別1(口縁部断面形)		細別2(体部最大径)	
壺C	Ⅰ	広口	a	外反	1	上位
	Ⅱ	二重口縁	b	外傾	2	中位
			c	内反	3	下位
			d	複合口縁で無段		
			e	複合口縁で有段		
			f	受口状		

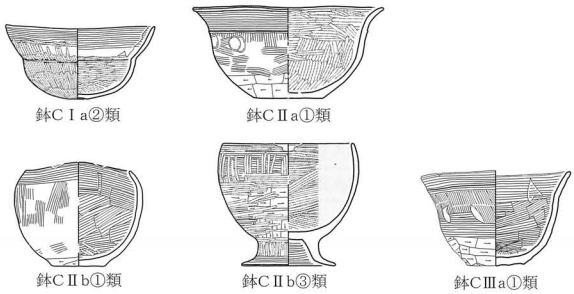


第1－14図　非ロクロ土師器分類図(1)

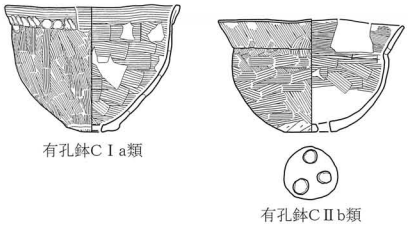
Scale = 1 : 8　0　10cm

	大別(体部形・頸部のくびれ)		細別1(口縁部断面形)		細別2(底部形)	
鉢C	Ⅰ	体部が半球形 くびれが強いもの	a	口縁部が外反・外傾	①	平底
			b	口縁部が内傾	②	丸底
	Ⅱ	体部が半球形で くびれが弱いもの	c	口縁部が直立	③	台付
			d	複合口縁		
	Ⅲ	体部が釣鐘形のもの				

※片口は文章で記述する

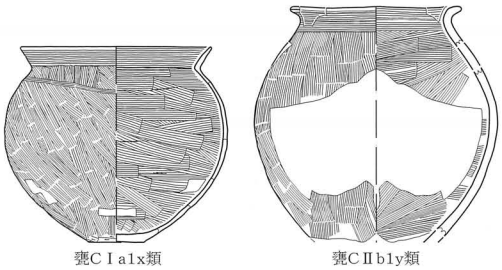


	大別(器形)		細別(孔数)	
有孔鉢C	Ⅰ	口縁端部を折り返し、体部が逆「ハ」字状のもの	a	単孔
	Ⅱ	既存の鉢の器形を利用しているもの	b	多孔



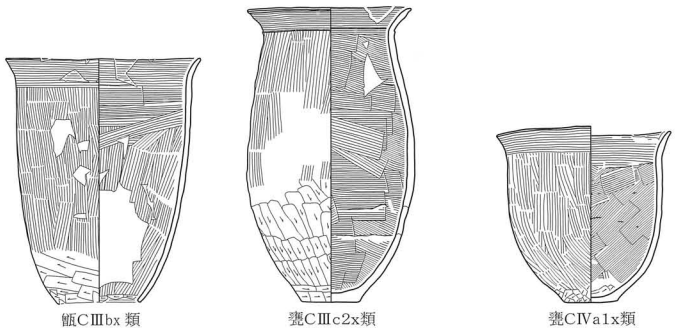
	大別(台部)	
台付甕C	Ⅰ	台付甕

	大別(体部形)		細別1(体部最大径)		細別2(頸部)		細別3(体部外面調整)	
甕C	Ⅰ	球形	a	上位	1	頸部に段がない	x	ハケメ
	Ⅱ	卵形	b	中位	2	頸部に段がある	y	ヘラナデ
	Ⅲ	長胴形	c	下位			z	ヘラミガキ
	Ⅳ	釣鐘形	d	筒形				



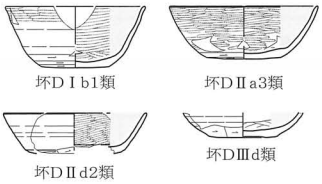
	大別(体部形)		細別1(孔数)		細別2(体部外面調整)	
甑C	Ⅰ	短胴鉢形	a	単孔式	x	ハケメ
	Ⅱ	短胴筒形	b	無底式	y	ヘラナデ・ケズリ
	Ⅲ	長胴卵形・釣鐘形	c	多孔式	z	ヘラナデ
	Ⅳ	長胴漏斗形				

	細別(器形)	
蓋C	Ⅰ	蓋形

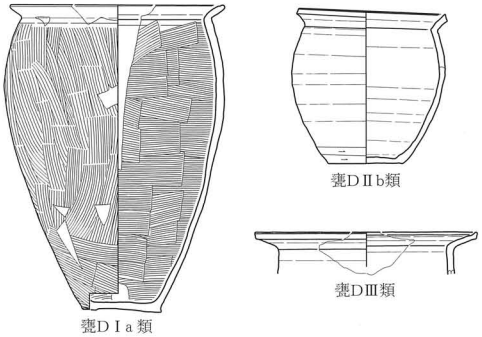


非ロクロ土師器分類図(2)

	大別(口縁高比)		細別1(外面調整)		細別2(器形)	
坏D	Ⅰ	口径に対して器高が0.4以上と、比較的高いもの	a	全体にミガキ 底部近くに回転ヘラケズリ	1	底部から丸みを持って立ち上がり 上半は直線外傾
	Ⅱ	口径に対して器高が0.4未満と比較的低いもの	b	上部にミガキ 底部近くに回転ヘラケズリ	2	底部から口縁まで直線外傾
					3	底部から口縁まで緩やかに内反外傾
	Ⅲ	不明	c	底部近くに回転ヘラケズリ	4	底部から中位まで緩やかに内反外傾 口縁は短く外反外傾
			d	底部近くに手持ちヘラケズリ		
			e	ロクロ成形痕のみ		



	大別(口縁端部)		細別(体部外面調整)	
甕D	Ⅰ	断面が丸いもの	a	全体にハケメあるいはヘラナデ調整
	Ⅱ	外面が面をなしているもの	b	下半に手持ちヘラケズリあるいはヘラナデ調整
	Ⅲ	外面が面をなし、内面が「く」の字状にくびれるもの	c	底部近くに回転ヘラケズリ調整
			d	外面に回転ハケメ調整
			e	ロクロ成形痕だけのもの
			f	ロクロ成形痕とそれに先行するタタキの痕跡が認められるもの



ロクロ土師器分類図

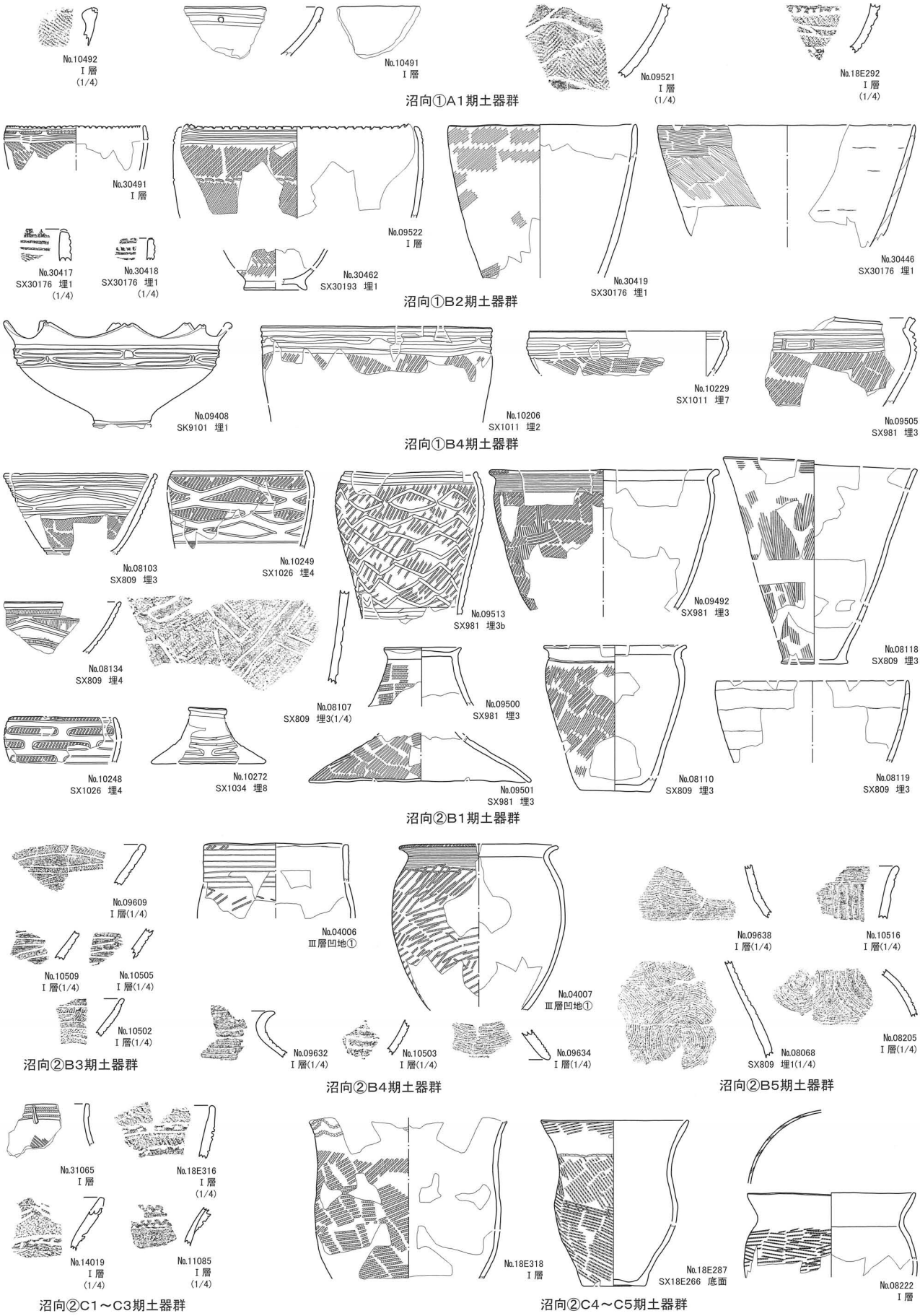
第１－15図　非ロクロ土師器分類図(2)・ロクロ土師器分類図

Scale = 1 : 8　0　10cm

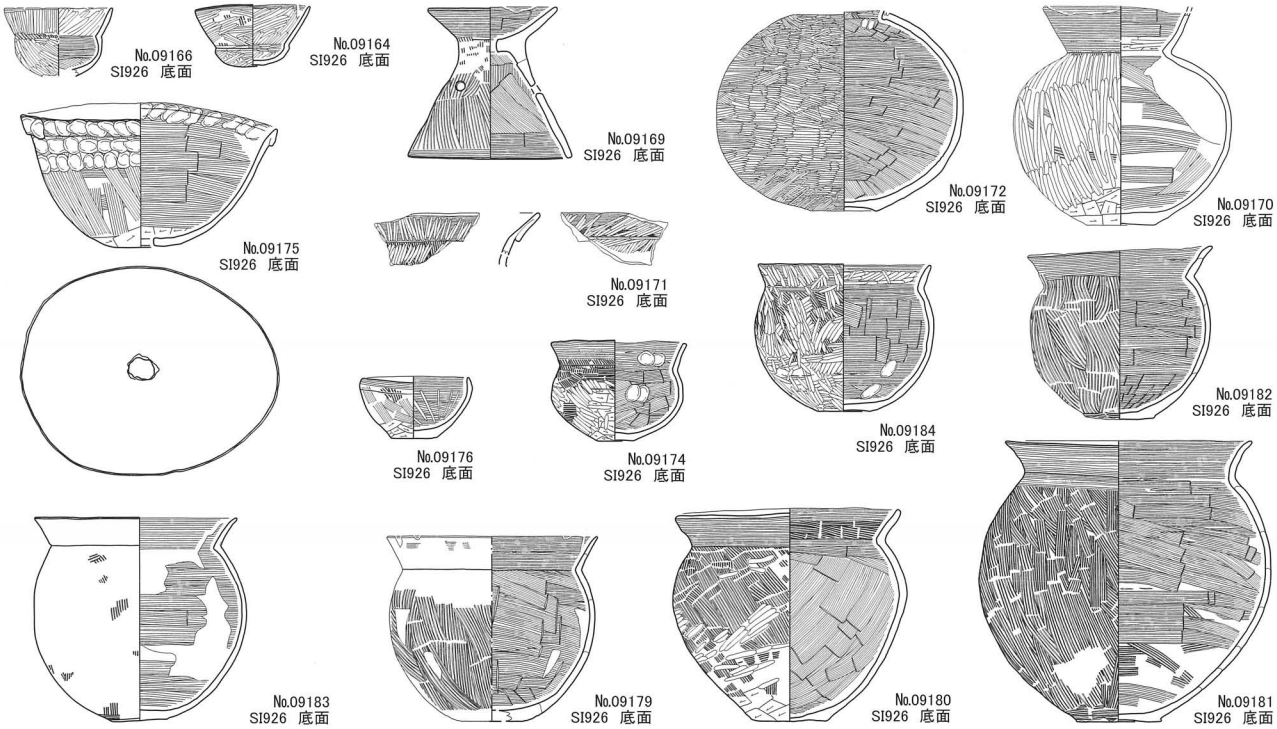
第2表　沼向遺跡 時期区分表

ステージ（沼向遺跡）		土器群・陶磁器群	浜堤列	後背湿地	時代・時期			土器型式
①期	①A1期	①A1期土器群		(浜堤列)	縄文時代	後期	中葉	宝ヶ峯式
	①A2期	①A2期土器群					後葉	金剛寺式(瘤付土器)
	①B1期					晩期	初頭～前葉	大洞B、B-C式
	①B2期	①B2期土器群	(性格不明遺構・製塩土器)				中葉	大洞C_1、C_2式
	①B3期						後葉古	大洞A_1式
	①B4期	①B4期土器群	(土壙墓)				後葉新	大洞A_2式
	①B5期	①B5期土器群					末葉	大洞A´式
②期	②A期	②A期土器群			弥生時代	前期		青木畑式並行
	②B1期	②B1期土器群	(包含層・製塩土器)			中期	前葉	寺下囲式並行
	②B2期	②B2期土器群					中葉古	桝形式
	②B3期	②B3期土器群					中葉中	中在家南式
	②B4期	②B4期土器群					中葉新	円田式並行
	②B5期	②B5期土器群					後葉	十三塚式
	②C1期	②C1期土器群				後期	初頭	常盤式並行
	②C2期	②C2期土器群					前葉	天王山式
	②C3期	②C3期土器群					中葉	踏瀬大山式並行
	②C4期	②C4期土器群					後葉	赤穴式並行(古)
	②C5期	②C5期土器群	(性格不明遺構)				末葉	赤穴式並行(新)
③期	③A期				古墳時代	前期	前半	塩釜式(前半)
	③B1期	③B1期土器群	居住域・墓域				後半古	塩釜式(後半-古)
	③B2期	③B2期土器群					後半中	塩釜式(後半-中)
	③B3期	③B3期土器群					後半新	塩釜式(後半-新)
④期	④A期	④A期土器群		(洪水)		中期	前半	南小泉式
	④B期	④B期土器群		水田域			後半	引田式
⑤期	⑤A期	⑤A期土器群				後期	初頭	+
	⑤B期	⑤B期土器群					前葉	住社式(古・中)
⑥期	⑥A期	⑥A期土器群	居住域・畑域	水田域 10a層水田跡			中葉古	住社式(新)
	⑥B1期	⑥B1期土器群					中葉中	栗囲式(古)
	⑥B2期	⑥B2期土器群					中葉新	栗囲式(新)
⑦期	⑦A期	⑦A期土器群					後葉古	+
	⑦B期	⑦B期土器群					後葉新	+
⑧期	⑧期	⑧期土器群					末葉	+
⑨期	⑨期	⑨期土器群			奈良時代		前半	国分寺下層式
⑩期	⑩A1期	⑩A1期土器群		水田域 9a層水田跡			後半	国分寺下層式
	⑩A2期	⑩A2期土器群					末葉	国分寺下層式～表杉ノ入式
	⑩B期	⑩B期土器群			平安時代		初頭	表杉ノ入式
⑪期	⑪A期	⑪A期土器群					前葉～末葉	表杉ノ入式
	⑪B期	⑪B期陶磁器群			中世			
	⑪C期	⑪C期陶磁器群			近世		初頭	
⑫期	⑫期	⑫期陶磁器群	居住域・畑域	水田域 3a層水田跡			前葉	
⑬期	⑬期	⑬期陶磁器群					中葉	
⑭期	⑭期	⑭期陶磁器群					後葉	

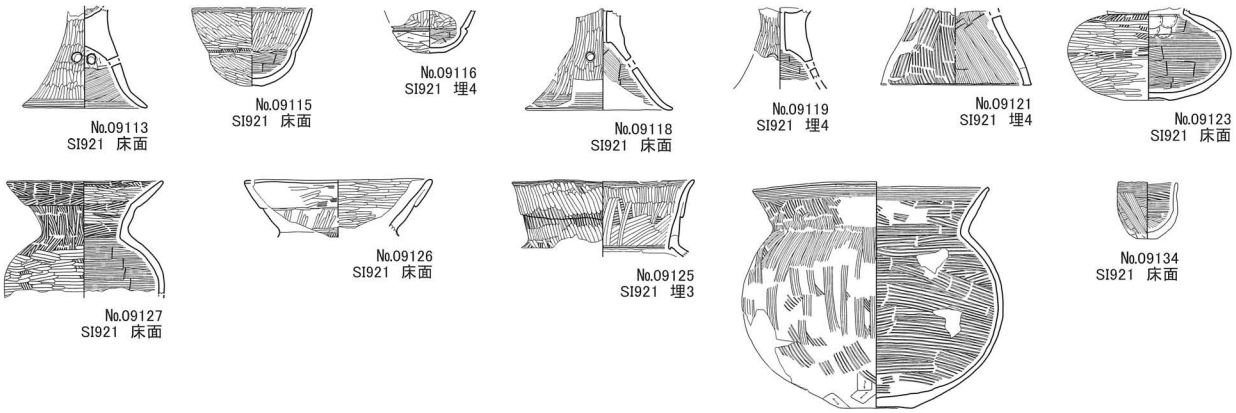
沼向遺跡の時代区分　①～③期：潟湖の時代　④～⑩期：水田・畑の時代　⑪期：沼向の時代　⑫～⑭期：遠藤館の時代



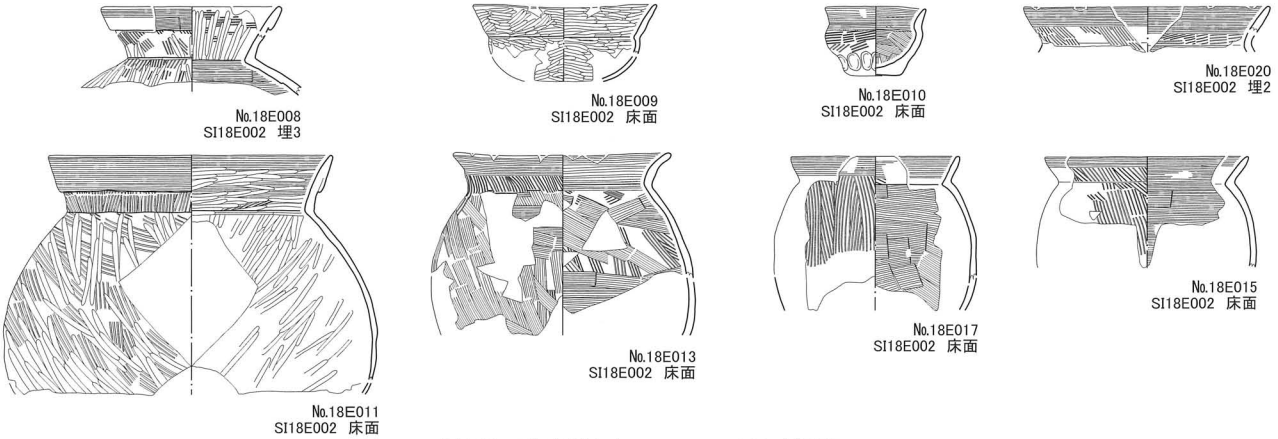
第１－16図　沼向①～②期の土器群



沼向③B1期土器群（SI926一括出土資料）



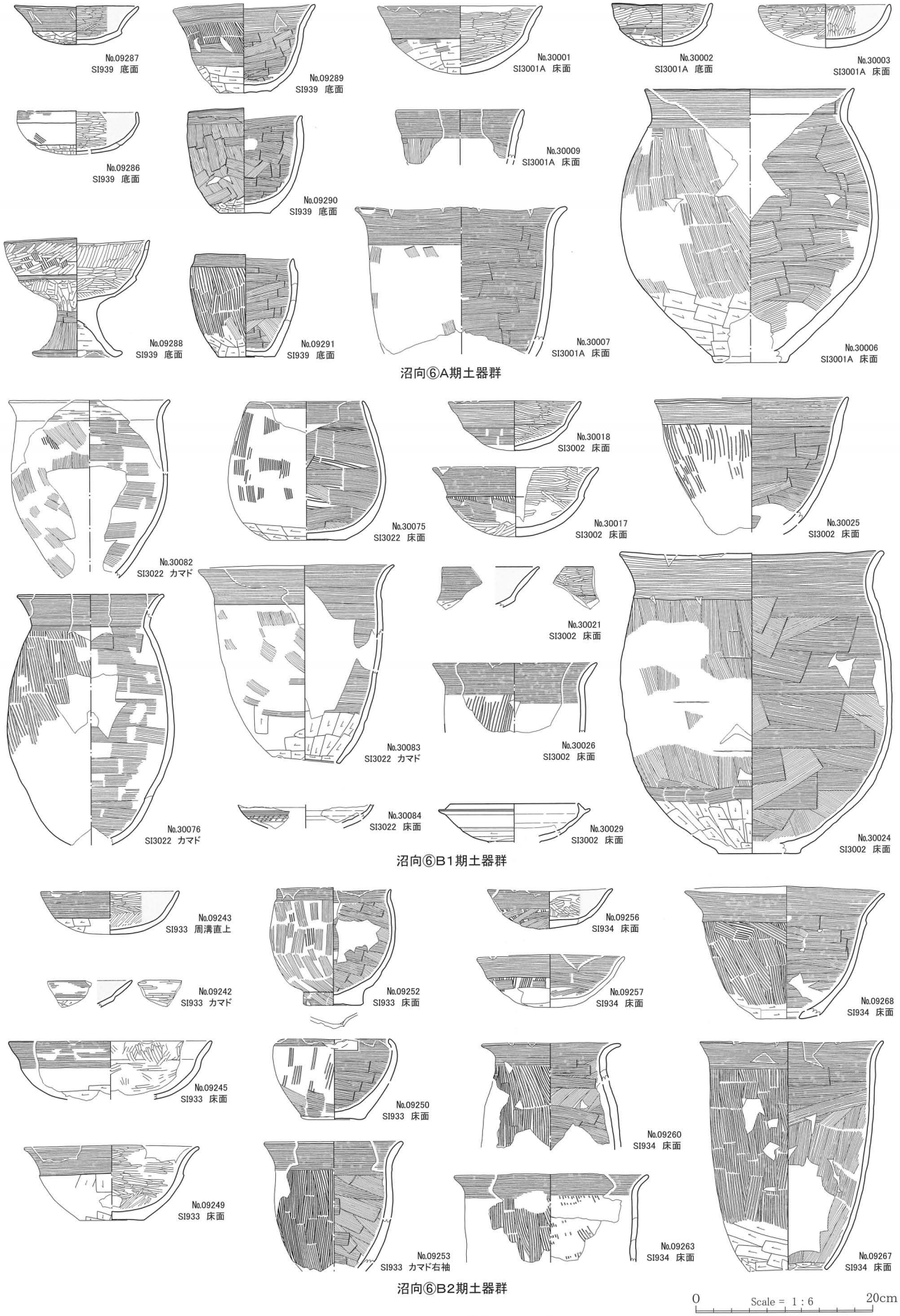
沼向③B2期土器群（SI921一括出土資料）



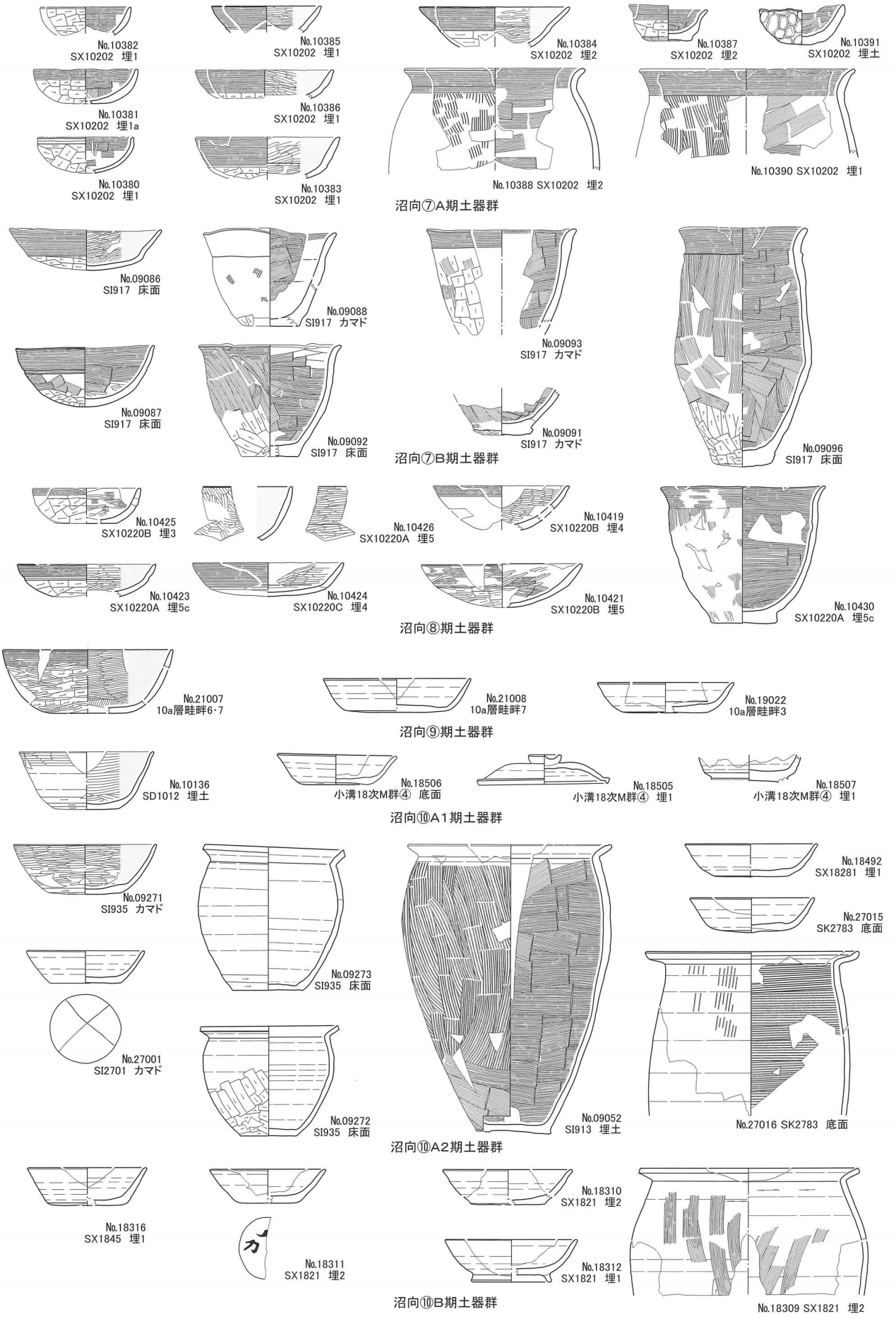
沼向③B3期土器群（SI18E002一括出土資料）

0　Scale = 1 : 6　20cm

第1－17図　沼向③B期の土器群

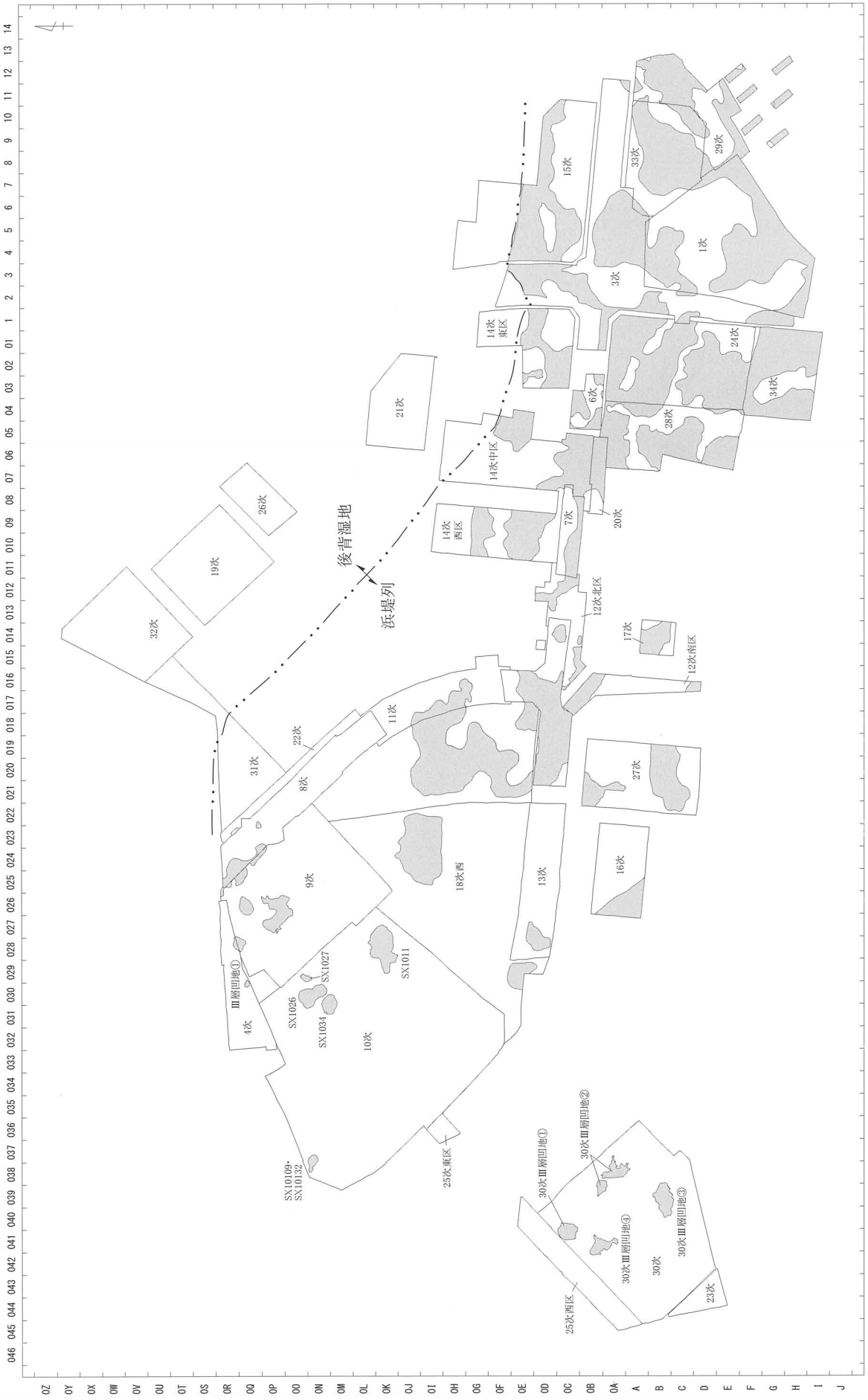


第１－１８図　沼向⑥期の土器群

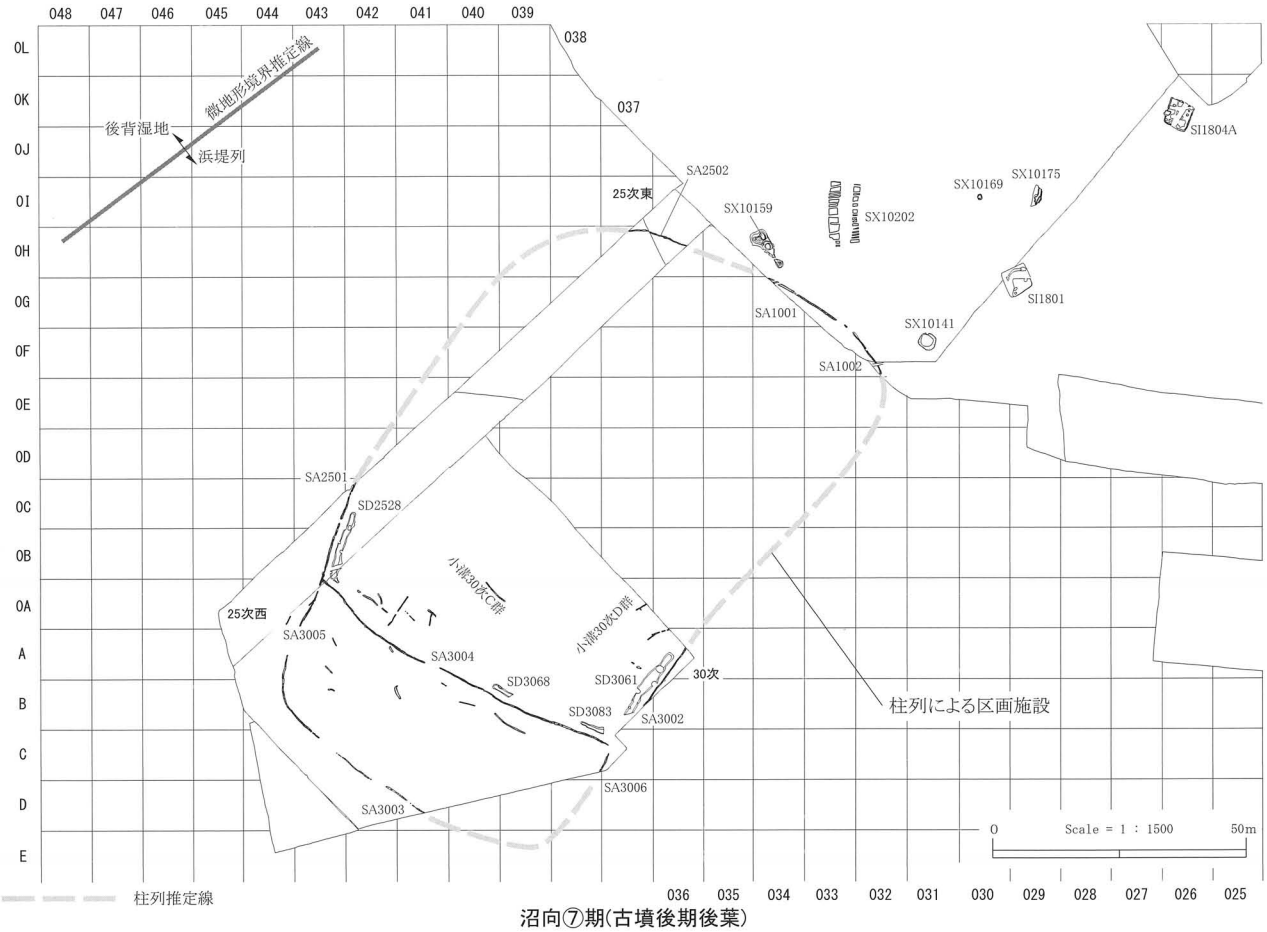


第１－１９図　沼向⑦A期～⑩B期の土器群

第１－２０図　沼向⑪期～⑭期の土器群・陶磁器群



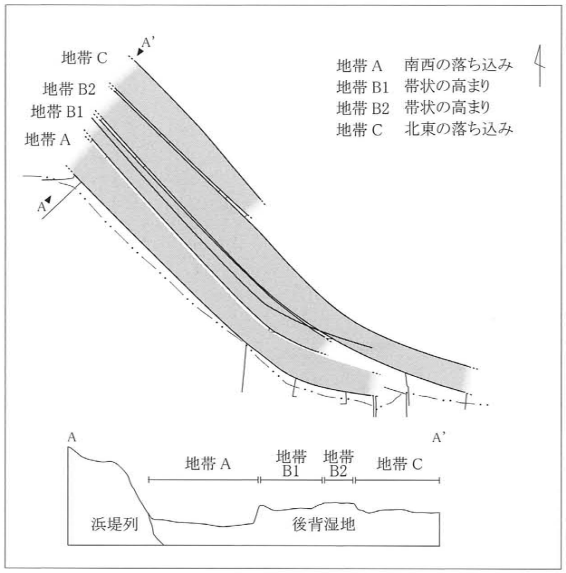
第１－２１図　Ⅲ層凹地平面位置図



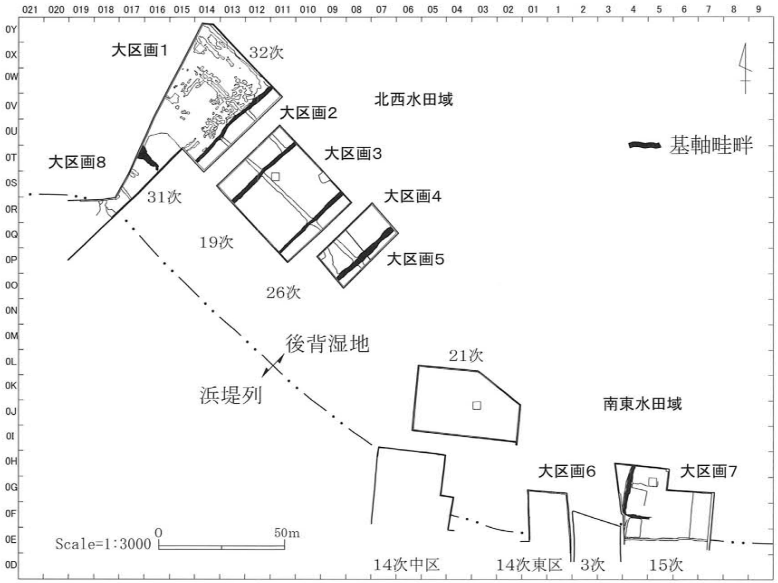
沼向⑦期(古墳後期後葉)

沼向⑩期(奈良時代後半～平安時代初頭)

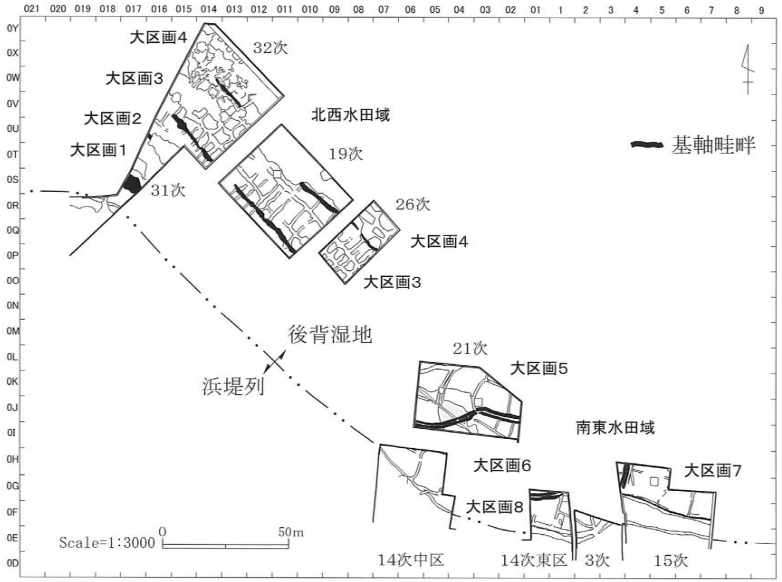
第１－２２図　柱列による区画施設と溝による区画施設



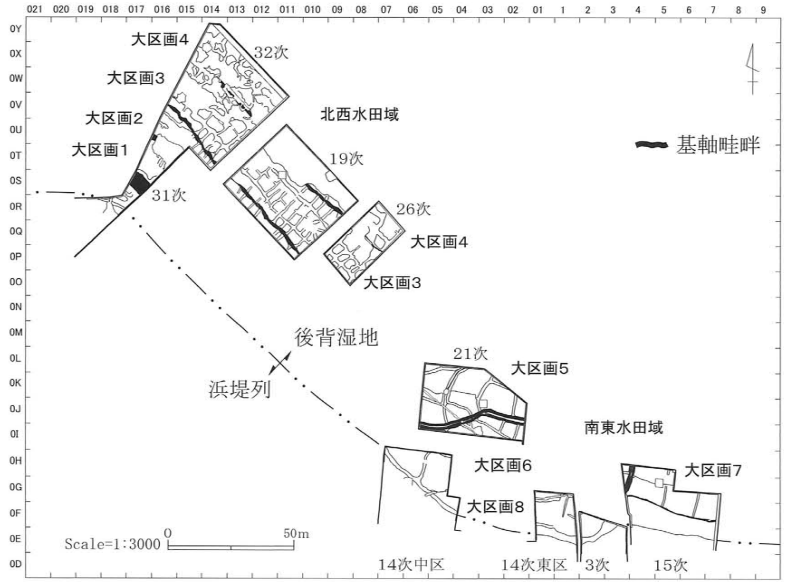
後背湿地地形分類概念図



3a層水田跡区画分類図

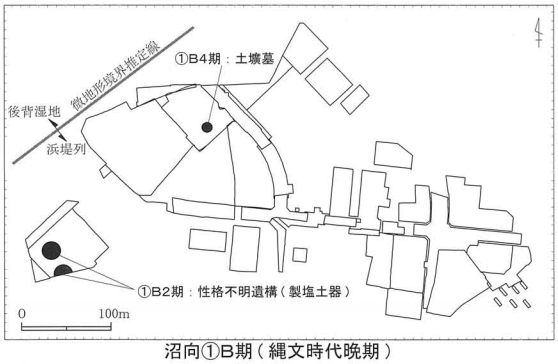


9a層水田跡区画分類図

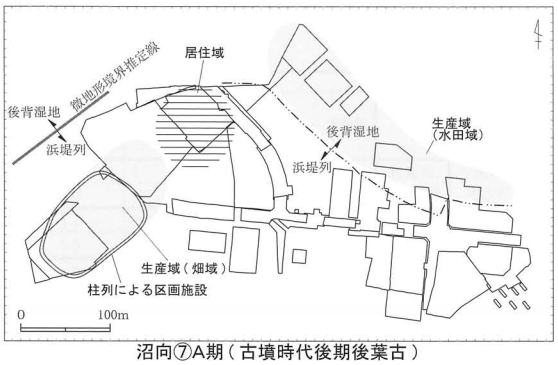


10a層水田跡区画分類図

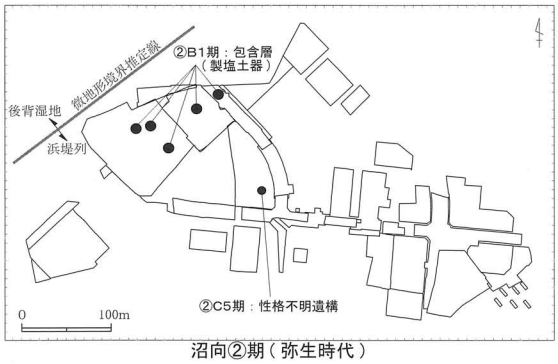
第1―23図　後背湿地微地形分類概念図と水田跡時期別平面図



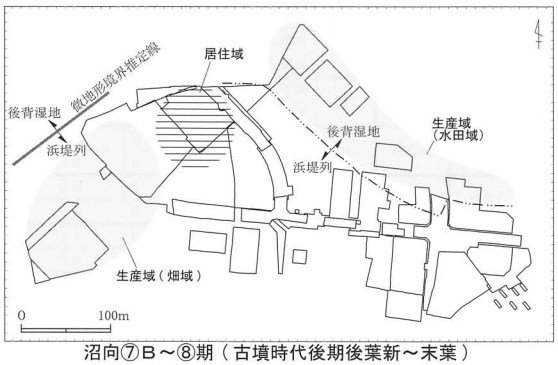
沼向①B期（縄文時代晩期）



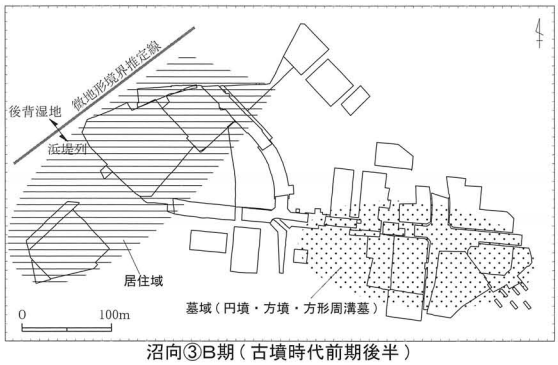
沼向⑦A期（古墳時代後期後葉古）



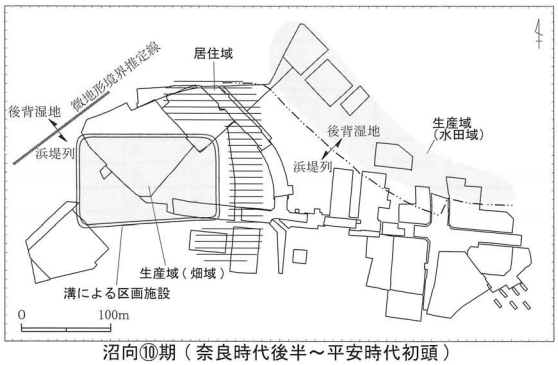
沼向②期（弥生時代）



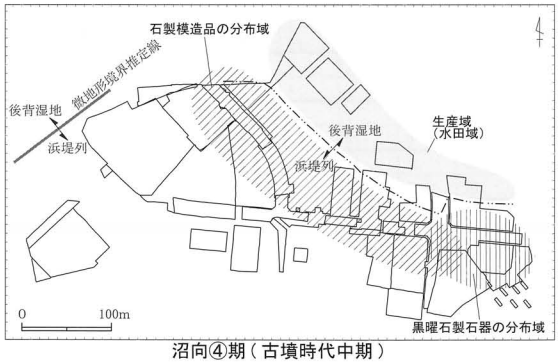
沼向⑦B～⑧期（古墳時代後期後葉新～末葉）



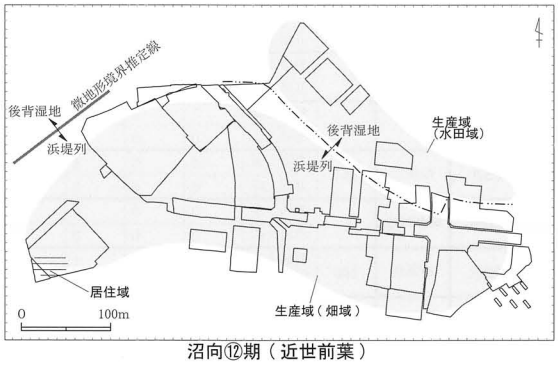
沼向③B期（古墳時代前期後半）



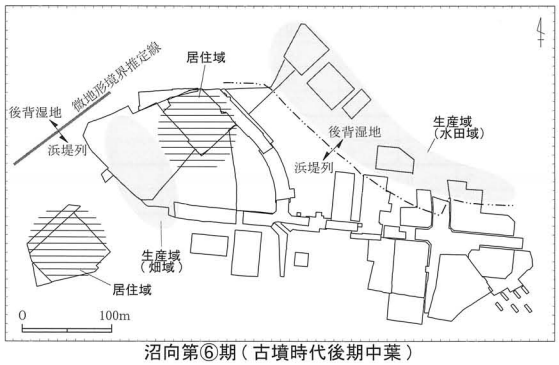
沼向⑩期（奈良時代後半～平安時代初頭）



沼向④期（古墳時代中期）



沼向⑫期（近世前葉）



沼向第⑥期（古墳時代後期中葉）

沼向⑭期（近世後葉）

第１－24図　遺構群変遷模式図

第3表　沼向遺跡検出遺構数量表

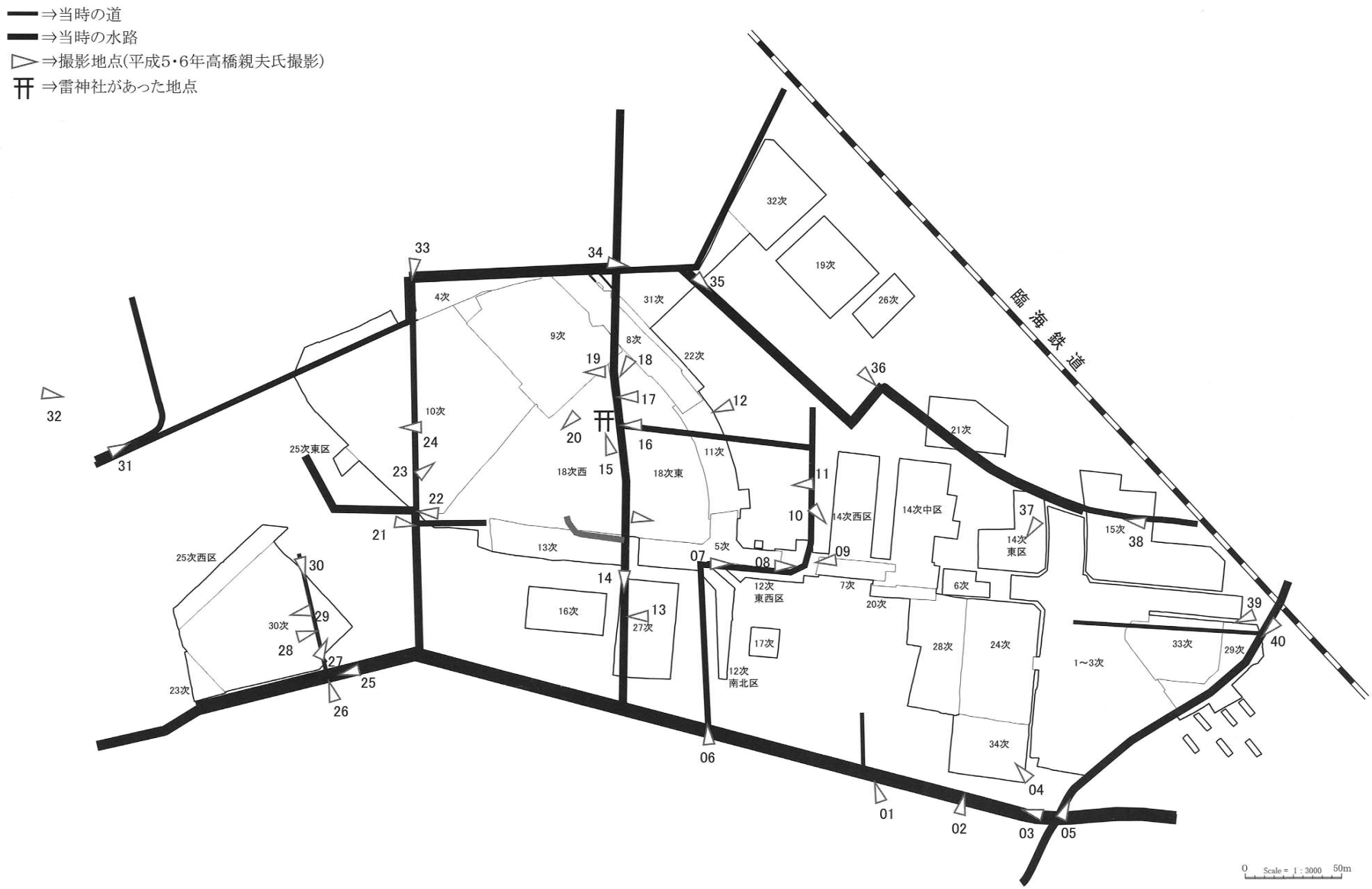
調査区	立地	浜堤列															後背湿地
		遺構数	検出面	古墳	方形周溝墓	SI 竪穴住居跡	SI 竪穴遺構	SB 掘立柱建物跡	SA 区画施設	SD 溝跡	SE 井戸跡	SK 土坑	SX 性格不明遺構	ピット	小溝(群)	小計	水田跡
1次～3次	浜堤列 後背湿地	74	Ⅲ層上面	5	4	0	3	0	0	0	0	25	0	0	0	37	3時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	21	0	8	7	0	1	37	
4次	浜堤列	12	Ⅲ層上面	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	5	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	7	
5次	浜堤列	51	Ⅲ層上面	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	27	0	7	15	0	1	50	
6次	浜堤列	8	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	6	0	0	2	0	0	8	
7次	浜堤列	26	Ⅲ層上面	0	1	0	0	0	0	0	0	10	1	0	0	12	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	8	0	0	4	0	2	14	
8次	浜堤列	72	Ⅲ層上面	0	0	2	3	0	0	0	0	7	22	0	0	34	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	30	0	3	3	0	2	38	
9次	浜堤列	253	Ⅲ層上面	0	0	20	20	2	0	10	1	82	21	35	1	192	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	49	0	0	11	0	1	61	
10次	浜堤列	757	Ⅲ層上面	0	0	13	19	1	2	17	0	92	198	315	14	671	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	21	0	9	48	8	0	86	
11次	浜堤列	123	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	8	4	19	0	31	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	1	0	16	2	0	48	25	0	92	
12次	浜堤列	98	Ⅲ層上面	0	0	1	0	0	0	0	0	5	3	5	0	14	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	31	0	13	29	5	6	84	
13次	浜堤列	292	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	8	0	5	5	1	0	19	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	2	0	35	0	47	25	163	1	273	
14次	浜堤列 後背湿地	334	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	65	1	42	0	108	2時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	2	0	49	2	103	10	56	4	226	
15次	浜堤列 後背湿地	130	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4	0	0	7	3時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	32	0	17	24	49	1	123	
16次	浜堤列	9	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	3	0	1	5	0	0	9	
17次	浜堤列	22	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	7	0	3	7	0	3	20	
18次西	浜堤列	1435	Ⅲ層上面	0	0	9	1	0	1	28	0	64	100	200	9	412	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	8	0	149	11	230	168	448	9	1023	
18次東	浜堤列	1266	Ⅲ層上面	0	0	1	1	3	0	9	0	32	13	95	0	154	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	3	1	138	5	337	208	413	7	1112	
19次	後背湿地	0	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
20次	浜堤列	10	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	10	
21次	後背湿地	0	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
22次	浜堤列	149	Ⅲ層上面	0	0	0	2	0	0	7	0	16	9	16	0	50	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	14	0	22	18	45	0	99	
23次	浜堤列	41	Ⅲ層上面	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	7	0	11	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	2	0	5	0	1	4	15	3	30	
24次	浜堤列	155	Ⅲ層上面	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	24	0	32	25	63	7	151	
25次	浜堤列	261	Ⅲ層上面	0	0	8	4	0	3	12	0	41	35	67	1	171	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	1	0	28	0	21	20	19	1	90	
26次	後背湿地	0	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
27次	浜堤列	369	Ⅲ層上面	0	0	1	0	0	0	0	0	6	6	13	0	26	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	3	0	48	0	70	51	169	2	343	
28次	浜堤列	125	Ⅲ層上面	1	1	0	0	0	0	1	0	4	2	5	0	14	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	55	0	14	18	15	9	111	
29次	浜堤列	51	Ⅲ層上面	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	20	0	10	12	5	1	48	
30次	浜堤列	1276	Ⅲ層上面	0	0	13	7	2	5	36	1	132	109	636	2	943	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	4	1	66	1	51	44	164	2	333	
31次	浜堤列 後背湿地	76	Ⅲ層上面	0	0	1	3	0	0	6	0	17	3	6	0	36	3時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	8	0	10	10	12	0	40	
32次	後背湿地	0	Ⅲ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3時期
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
33次	浜堤列	37	Ⅲ層上面	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	6	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	17	0	6	0	6	2	31	
34次	浜堤列	53	Ⅲ層上面	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	—
			Ⅱ層上面	0	0	0	0	0	0	11	0	10	13	12	5	51	
Ⅲ層上面遺構数		2965	計	14	7	70	64	9	11	138	2	617	542	1464	27		
Ⅱ層上面遺構数		4600	計		0	0	0	26	2	933	21	1025	831	1692	70		
遺構総数		7451	計	13	7	70	64	35	12	959	23	1642	1374	3156	96		

※　遺構総数の算出では、複数の調査区で検出された同一遺構を1基、あるいは1条とした。そのため、Ⅲ層上面遺構数、Ⅱ層上面遺構数の合計数とは一致しない数値がある。

第4表　沼向遺跡出土遺物数量表

調査次数	縄文・弥生土器	製塩土器	土師器		須恵器	土師質土器	陶磁器	土製品	瓦	石器	石製品	砥石	礫	金属製品	木製品	自然木	その他	計
			非ロクロ	ロクロ														
4次	81	0	20	0	3	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	109
5次	55	0	112	1	18	3	328	4	9	1	6	16	170	41	6	0	70	840
6次	0	0	31	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
7次	19	0	222	0	1	1	61	0	7	1	2	1	5	2	2	0	0	324
8次	1790	2591	3583	15	9	10	197	6	1	33	1	7	273	16	10	0	7	8549
9次	3362	785	27031	223	74	1	293	84	40	46	41	11	420	21	5	0	117	32554
10次	1307	720	63960	87	781	3	537	119	165	27	24	37	1543	27	33	818	4832	75020
11次	23	0	848	1134	213	136	801	9	20	3	18	22	110	22	30	0	22	3411
12次	1	0	619	0	58	0	383	2	3	1	7	9	33	6	7	4	38	1171
13次	4	0	923	2	73	0	170	3	0	0	5	8	57	4	7	4	134	1394
14次	47	0	1770	0	5	0	199	11	0	1	10	5	72	18	13	11	121	2283
15次	6	0	825	0	3	0	16	2	1	43	6	6	101	2	8	8	79	1106
16次	0	0	4	0	0	0	6	1	0	0	0	1	4	0	0	0	5	21
17次	0	0	29	0	0	1	58	2	0	0	0	5	49	1	2	7	23	177
18次西	217	3	25668	939	1965	14	1704	46	314	11	99	79	446	83	100	106	696	32490
18次東	163	0	8708	0	256	40	2789	76	102	18	89	103	729	82	109	192	667	14123
19次	1	0	254	1	10	0	201	3	2	1	5	1	15	31	11	5	147	688
20次	0	0	94	1	0	0	7	0	1	0	0	2	1	0	0	0	2	108
21次	0	0	215	0	2	0	6	0	2	0	2	1	0	7	19	38	7	299
22次	112	0	822	3	9	1	97	2	0	1	0	1	19	1	6	0	384	1458
23次	0	0	190	0	10	0	21	0	1	0	0	3	6	1	9	0	22	263
24次	27	0	248	0	3	2	460	1	1	0	9	7	16	15	20	11	107	927
25次	44	0	11861	1	67	3	313	43	8	2	2	26	27	13	6	2	92	12510
26次	0	0	36	0	5	0	45	1	2	0	0	3	4	11	21	28	12	168
27次	11	0	238	220	30	0	368	1	10	1	2	16	21	2	0	10	13	943
28次	0	0	87	0	6	0	303	2	0	0	5	5	18	2	6	2	4	440
29次	1	0	24	0	1	0	8	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	39
30次	2957	835	37342	2	1026	6	772	29	40	4	20	62	221	15	137	0	5332	48800
31次	240	4	1848	16	14	0	26	1	2	2	0	0	40	5	2	5	16	2221
32次	7	0	346	6	15	1	292	3	1	0	2	7	5	48	11	36	146	926
33次	0	0	802	0	2	0	19	2	0	1	1	2	1	5	1	0	21	857
34次	0	0	28	0	3	0	134	0	3	0	10	2	3	2	3	0	35	223
合計	10475	4938	188788	2651	4662	222	10618	453	736	200	367	448	4410	483	584	1287	13154	244476

※当時の道や水路は、高橋親夫氏が写真撮影した地点を記録にした地図と
仙台港背後地土地区画整理事業地図をもとに復元した。



第1－25図　平成5・6年当時の沼向遺跡周辺

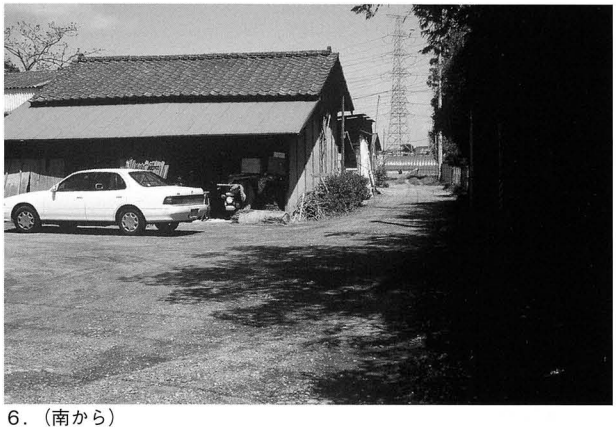
1．（南から）

2．（南から）

3．（東から）

4．（東から）

5．（南から）


6．（南から）

7．（西から）

8．（西から）

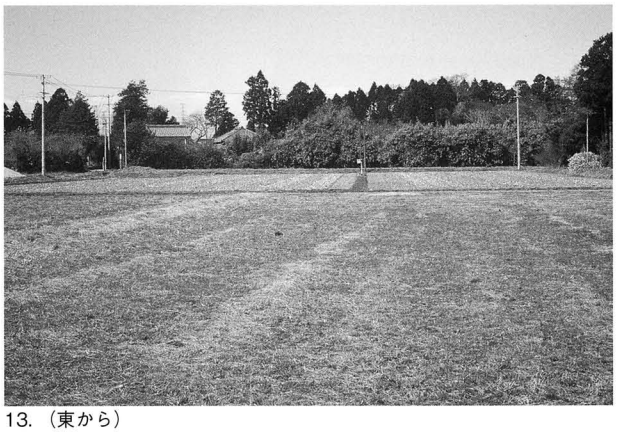
写真図版１　平成５・６年当時の沼向遺跡周辺（1）

9．（東から）

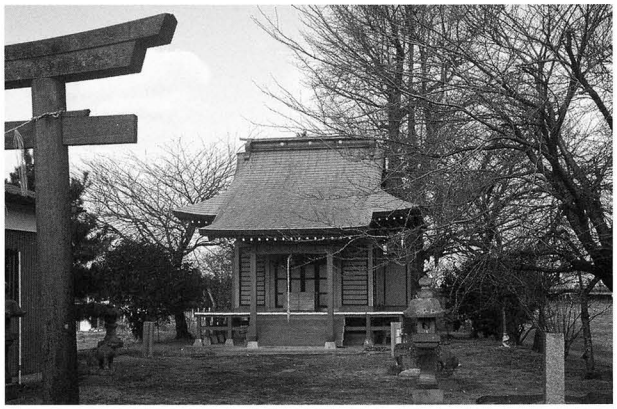
10．（北から）

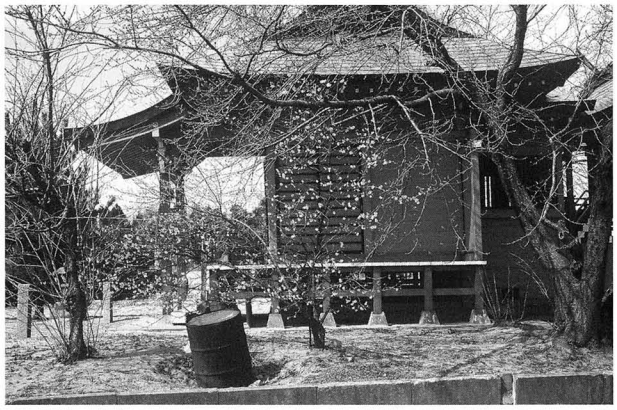
11．（東から）

12．（東から）


13．（東から）

14．（北から）


15．（南から）


16．（東から）

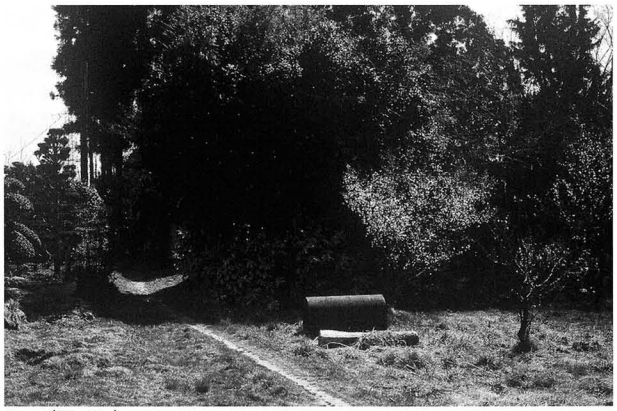
写真図版２　平成５・６年当時の沼向遺跡周辺（2）

17.（東から）

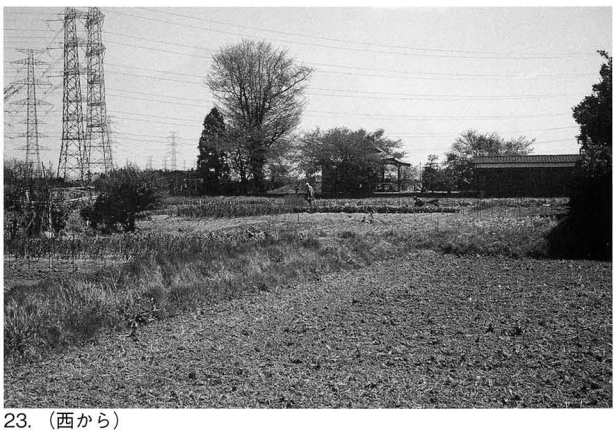
18.（北から）

19.（東から）

20.（北から）


21.（西から）

22.（東から）


23.（西から）

24.（東から）

写真図版３　平成５・６年当時の沼向遺跡周辺（3）

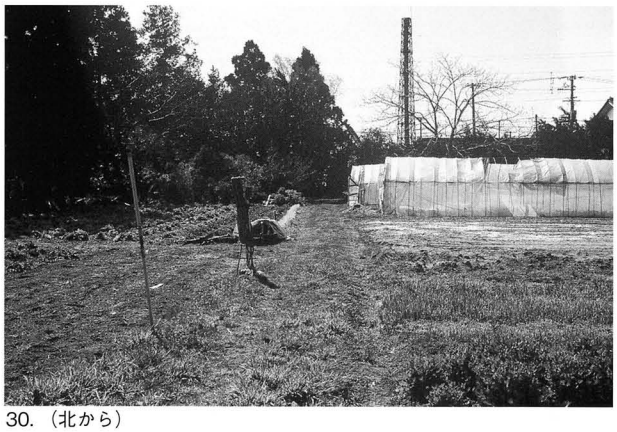
25.（東から）

26.（南から）

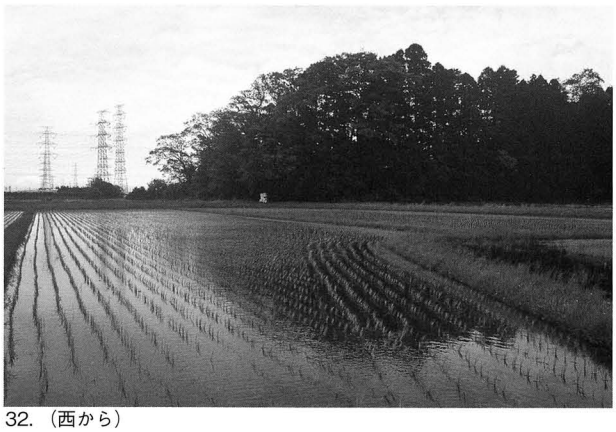
27.（南から）

28.（西から）

29.（東から）


30.（北から）

31.（西から）


32.（西から）

写真図版４　平成５・６年当時の沼向遺跡周辺（4）

33.（北から）

34.（西から）

35.（北から）

36.（北から）

37.（北から）

38.（東から）

39.（北から）

40.（北から）

写真図版５　平成５・６年当時の沼向遺跡周辺（5）

第２章　―第４次調査―

本　文　目　次

第１節　調査概要と基本層序……69
　１．調査概要……69
　２．基本層序……69
第２節　検出遺構と出土遺物……69
　１．検出遺構と出土遺物……69
　　(1) SI竪穴住居跡……69
　　(2) SD溝跡……70
　　(3) SK土坑……70
　　(4) SX性格不明遺構……70
　　(5) ピット……70
　２．その他の出土遺物……70
第３節　まとめ……71
　１．Ⅲ層上面遺構……71
　２．Ⅱ層上面遺構……71
　３．小結……71

挿　図　目　次

第4-1図　第４次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図……73
第4-2図　第４次調査区全体図……74
第4-3図　SI401竪穴住居跡平面図・断面図……75
第4-4図　SD溝跡平面図……76
第4-5図　SD溝跡断面図　SK土坑平面図・断面図　SX性格不明遺構平面図・断面図　ピット平面図・断面図……77
第4-6～7図　第４次調査出土遺物実測図……78～79
第4-8図　第４次調査検出遺構時期別変遷模式図……79

挿　表　目　次

第4-1表　SI竪穴住居跡観察表……80
第4-2表　SD溝跡観察表……80
第4-3表　SK土坑観察表……80
第4-4表　SX性格不明遺構観察表……80
第4-5表　ピット観察表……80
第4-6表　遺物出土数量表……80
第4-7表　遺物観察表……80

写真図版目次

写真図版１～２（遺構写真）……81～82
写真図版３（遺物写真）……83

第２章　―第４次調査―

第１節　調査概要と基本層序

１．調査概要

第４次調査区は、沼向遺跡の北西部、0P-026～0R-033Gridに位置し、浜堤列に立地する（第4-1図）。調査面積は454.1㎡である。第９次調査区、第10次調査区に接する。調査区は第4-1図のように設定した。

調査区は北側に向かって一段下がっており、現況の水田が広がっている。調査区西半は調査区以北の水田耕作土と連続し、調査区東半に比べ標高で0.2m程削平されている。この浜堤列上を削平して作られた現代の水田により、調査区西半の遺構の残存状況は良くない。

発掘調査は平成７年９月６日に表土の重機掘削と遺構確認を開始し、９月14日までの実働７日間実施した。

遺構検出面は、基本層Ⅱ層の分布が部分的なため、Ⅱ層上面遺構のほとんどは、Ⅲ層上面遺構と同様、基本層Ⅲ層上面であった。遺構検出面の標高は0.90mである。現代の水田に削平された調査区西半部での遺構検出面の標高は0.7mである。

遺構は、古墳時代前期：③期から近世：⑫～⑭期にかけて、総数12基が認められた。Ⅲ層上面遺構は、竪穴住居跡１軒、土坑３基、ピット１基、Ⅱ層上面遺構は溝跡６条、性格不明遺構１基が検出された（付図1）。

遺物は、平箱で１箱出土した。総点数は109点で、そのうち、遺構出土が18点、基本層出土が91点である。各遺構及び基本層からの遺物出土数は第4-6表に示した。主な出土遺物は弥生土器、須恵器である。これらの遺物のうち12点を図示した。

２．基本層序

第４次調査区では調査区壁による基本層序の確認は行なっていないが、隣接する第９次調査区と同様、基本層序は、大別でⅠ、Ⅱ、Ⅲ層の３層を確認した。

第２節　検出遺構と出土遺物

１．検出遺構と出土遺物

(1) SI竪穴住居跡（第4-3図、第4-1表、写真図版4-1～2）　１軒検出された。

SI401竪穴住居跡　（第4-3図、第4-1表、写真図版4-1-3～8、2-1～2）　0R-027bcGridに位置し、沼向⑩期に属するⅢ層上面遺構である。第４次調査区西側に位置する。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。南辺を撹乱に削平されるが、遺存状態は良好である。平面形は不整方形で、上端規模は東西2.26m、南北2.16mである。床面積は、下端規模で4.7㎡である。主軸方位はN-75°－Wである。壁高は0.46mで、壁面の立ち上がり角は55～70度である。床面は僅かに起伏しており、床面標高は0.63m前後である。北東隅にカマド、床面から周溝を検出し、床面の下に掘り方を確認している。また床面には一部粘土を貼っている箇所が認められる。カマドは両袖及び燃焼部、煙道部が遺存している。左袖は遺構確認面まで遺存している。カマドは袖を壁につけ、燃焼部を壁より0.20mほど外側まで掘り込んでいる。煙道部と燃焼部は0.10mの段差があり、煙道部は床面より0.15mほど高い。カマド袖先端から煙道部先端までは1.60m、燃焼部奥から煙道部先端までは0.76mである。煙道部先端は0.15mほど深くなっている。ピット等の掘り込みはない。周溝は南辺から東辺中央付近まで巡っている。周溝の上端幅は0.15～0.24m、断面形は「U」字状で深さ0.15mである。掘り方は床面の下を全面0.1mほど掘り下げていて、底面はおおよそ平坦である。カマド

袖部の下部ではさらに一段深く掘り下げられている。煙道部には掘り方はない。SI401の埋土は19層認められ、土質はシルト質砂が多い。埋土１～７層は自然堆積、８層はカマド天井部粘土の崩落土、９、10層はカマド内部堆積土、11層は貼床粘土である。12層は周溝埋土、13～18層はカマド燃焼部から煙道部にかけての埋土であり、15層は多量の炭化物を含む。19層は掘り方埋土である。遺物は、須恵器甕（№04002）の体部破片が床面上から１点、埋土から２点（１点は№04001）出土した。また、床面直上からは磨石（№04003）が出土している。そのほか、掘り方から非ロクロ土師器、弥生土器が出土している。SI401の時期は、床面から土器の出土がなく、明確でないが、住居の位置、主軸方向、形態と、他の調査区の成果から、⑩期としておきたい。

(2) SD溝跡（第4-4・5図、第4-2表、写真図版4-2）　６条検出された。

SD401溝跡　（第4-4･5図、第4-2表、写真図版4-2-3）　0Q-031c･0Q-030a～dGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。東西方向の溝で、東側は第９次調査区に続く。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SD403溝跡　（第4-4･5図、第4-2表、写真図版4-2-4）　0R-028ad･0Q-028aGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。南北方向の溝で、北端は調査区外に、南端は第９次調査区に続く。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。埋土は４層認められる。遺物は、埋土から弥生土器が出土している。

SD404溝跡　（第4-4･5、第4-2表）　0R-028cd･0R-027dGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。東西方向の溝で、西端は撹乱に切られ、東端は第９次調査区に続く。SD405より新しい。遺物は、埋土から弥生土器が出土している。

SD405溝跡　（第4-4･5図、第4-2表、写真4-2-5～6）　0R-028bcGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。南北方向の溝で、北隅は調査区北側の段差によって削平されている。SD404より古い。埋土は１層認められる。底面は起伏している。出土遺物はない。

SD407溝跡　（第4-4･5、第4-2表）　0R-026abdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。北東方向の溝で、南西側は第９次調査区、北東側は調査区外へ続く。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SD408溝跡　（第4-4･5、第4-2表）　0R-029adGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。南北方向の溝で、北端は調査区外に続く。SX402より新しい。出土遺物はない。

(3) SK土坑（第4-5図、第4-3表）　３基検出された。

SK403土坑　（第4-5図、第4-3表）　0R-027bcGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面で遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整形の土坑である。出土遺物はない。

SK404土坑　（第4-5図、第4-3表）　0R-026aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SK405より新しい。平面形は長楕円形の土坑である。出土遺物はない。

SK405土坑　（第4-5図、第4-3表）　0R-026adGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SK404より古い。平面形は楕円形の土坑である。埋土は２層認められる。出土遺物はない。

(4) SX性格不明遺構（第4-5図、第4-4表、写真図版4-2）　１基検出された。

SX402性格不明遺構　（第4-5図、第4-4表、写真図版4-2-7～8）　0R-030c・0R-029dGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD408より古い。平面形は不整隅丸方形の土坑状の遺構である。出土遺物はない。

(5) ピット（第4-5図、第4-5表）　１基検出された。③期～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。

２．その他の出土遺物

Ⅲ層凹地①：０Q-029ａ・０Q-030ｂに位置する。東西3.00m、南北2.40mの不整形の自然の落ち込みで、人為的な掘り込みではない。同じようなⅢ層凹地は、第８次調査のSX809、第９次調査のSX981、第10次調査のSX1011、

SX1026、SX1027、SX1034、SX10119、SX10132があり、いずれも縄文時代晩期後葉：①Ｂ４期あるいは弥生時代中期：②Ｂ期から古墳時代：③～⑧期にかけての遺物を含み、沼向遺跡の北西部に集中している。それらは遺物包含層として検出しているが、この第４次調査のⅢ層凹地①は深さなどが不明なため扱いを違えている。

このⅢ層凹地①からは弥生土器が58点出土している。ほとんどが破片である。図示した６点（第4-7図）は②B2～５期の時期幅がある。そのうちNo.04005は細い沈線で渦文あるいは同心円文を描き、沈線内を一帯おきにミガキ調整している。円田式土器に特徴な文様施文方法であり、時期は②Ｂ４期である。No.04006とNo.04007も②Ｂ４期と考えられる。この２点は口唇部のＬＲ縄文・体部の撚糸文Ｒが共通している。No.04004とNo.04009もこの時期の可能性がある。No.04008には、同時施文平行沈線が施文されており、時期は②Ｂ５期である。

基本層：基本層Ⅰ層から31点の遺物が出土している。そのなかには弥生土器甕（No.04009）、磁器土瓶（No.04011：瀬戸美濃産）、微細剥離痕のある剥片（No.04012：流紋岩）がある。

第３節　まとめ

１．Ⅲ層上面遺構

弥生時代中期（沼向②期）：遺構の検出はない。Ⅲ層凹地①から弥生土器が出土している。

奈良時代後半～平安時代初頭（沼向⑩期）：竪穴住居跡１軒が検出された。

このほか、沼向③～⑩期のいずれかに属する土坑３基、ピット１基が検出された。

２．Ⅱ層上面遺構

近世前葉（沼向⑫期）：溝跡１条が検出された。

近世前葉～中葉（沼向⑫～⑬期）：溝跡２条、性格不明遺構１基が検出された。

近世後葉（沼向⑭期）：溝跡２条が検出された。出土した磁器は、器種に土瓶があり、産地は瀬戸美濃である。

このほか、沼向⑫～⑭期のいずれかに属する溝１条が検出された。

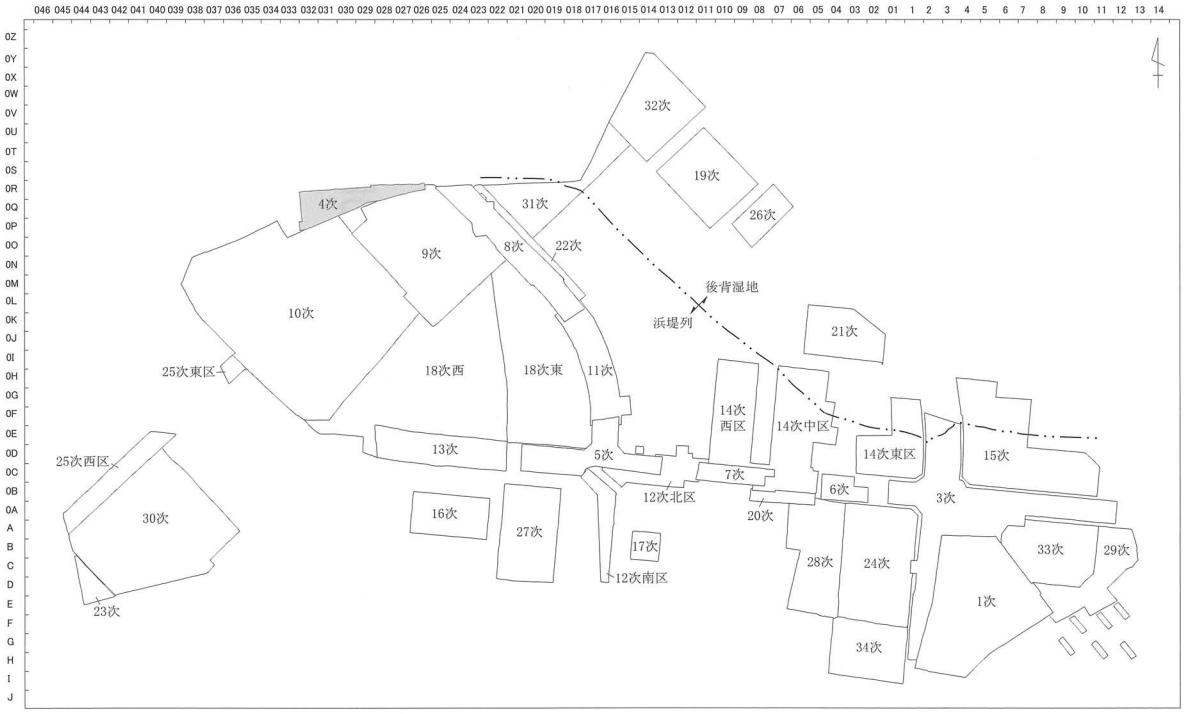
３．小結

第４次調査区は、遺跡北西部に位置し、浜堤列に立地する。調査面積は454.1㎡である。

遺物は、弥生時代中期：②Ｂ期から認められる。

遺構は、奈良時代後半～平安時代初頭：⑩期の竪穴住居跡１軒、古墳時代～平安時代初頭：③～⑩期の土坑３基とピット１基、近世：⑫～⑭期の溝跡６条、性格不明遺構１基が検出された。

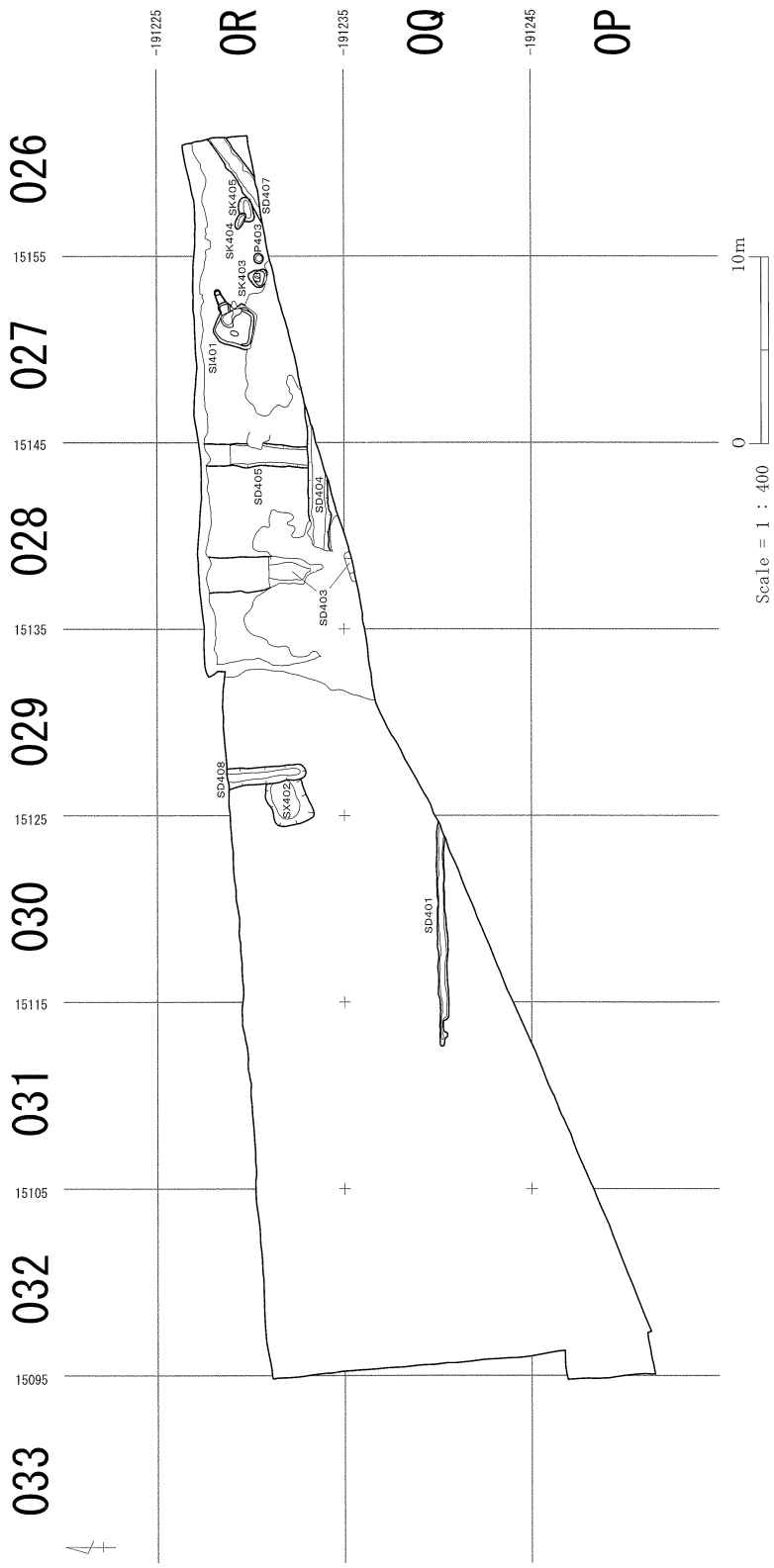
沼向遺跡の遺構群の変遷を考えるうえでの成果としては、奈良時代後半～平安時代初頭：⑩期の居住域の存在が確認されたこと、近世：⑫～⑭期には、居住域としての土地利用はなされていなかったことが知られた。



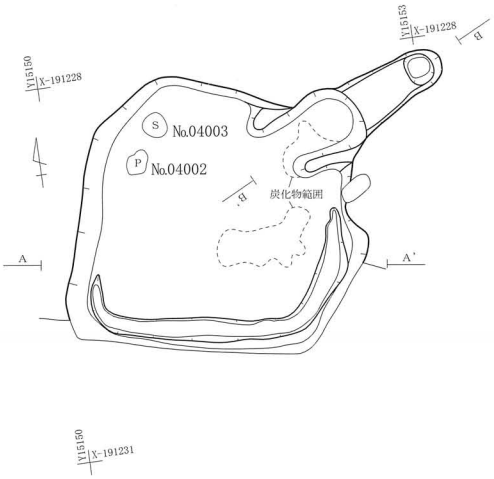
第4次調査区位置図 scale = 1:4000

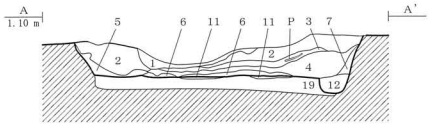
等高線図・Ⅲ層凹地位置図 scale = 1:800

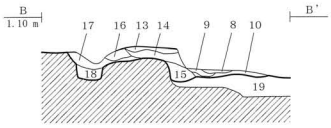
第4－1図　第4次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図



第４－２図　第４次調査区全体図







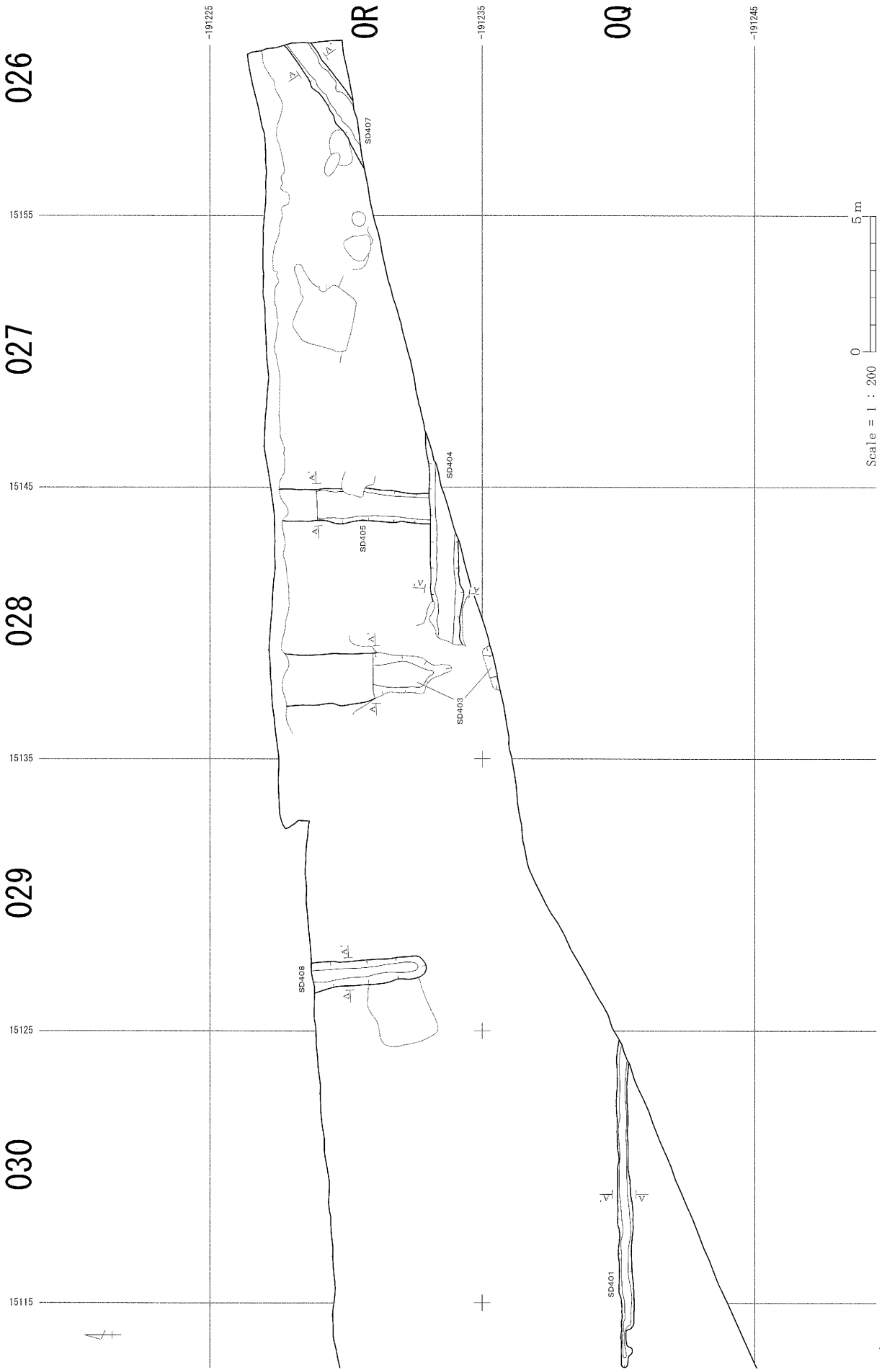
SI401（Ⅲ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	
2	10YR3/3 暗褐色	シルト質砂	
3	10YR3/2 黒褐色	シルト質砂	炭化物
4	10YR4/4 褐色	シルト質砂	黒褐色砂帯状
5	10YR3/3 暗褐色	シルト質砂	
6	10YR2/2 黒褐色	シルト質砂	炭化物多量
7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質砂	
8	10YR6/2灰黄褐色	粘土	
9	10YR4/4褐色	シルト質砂	炭化物少量
10	10YR2/1黒色	シルト	

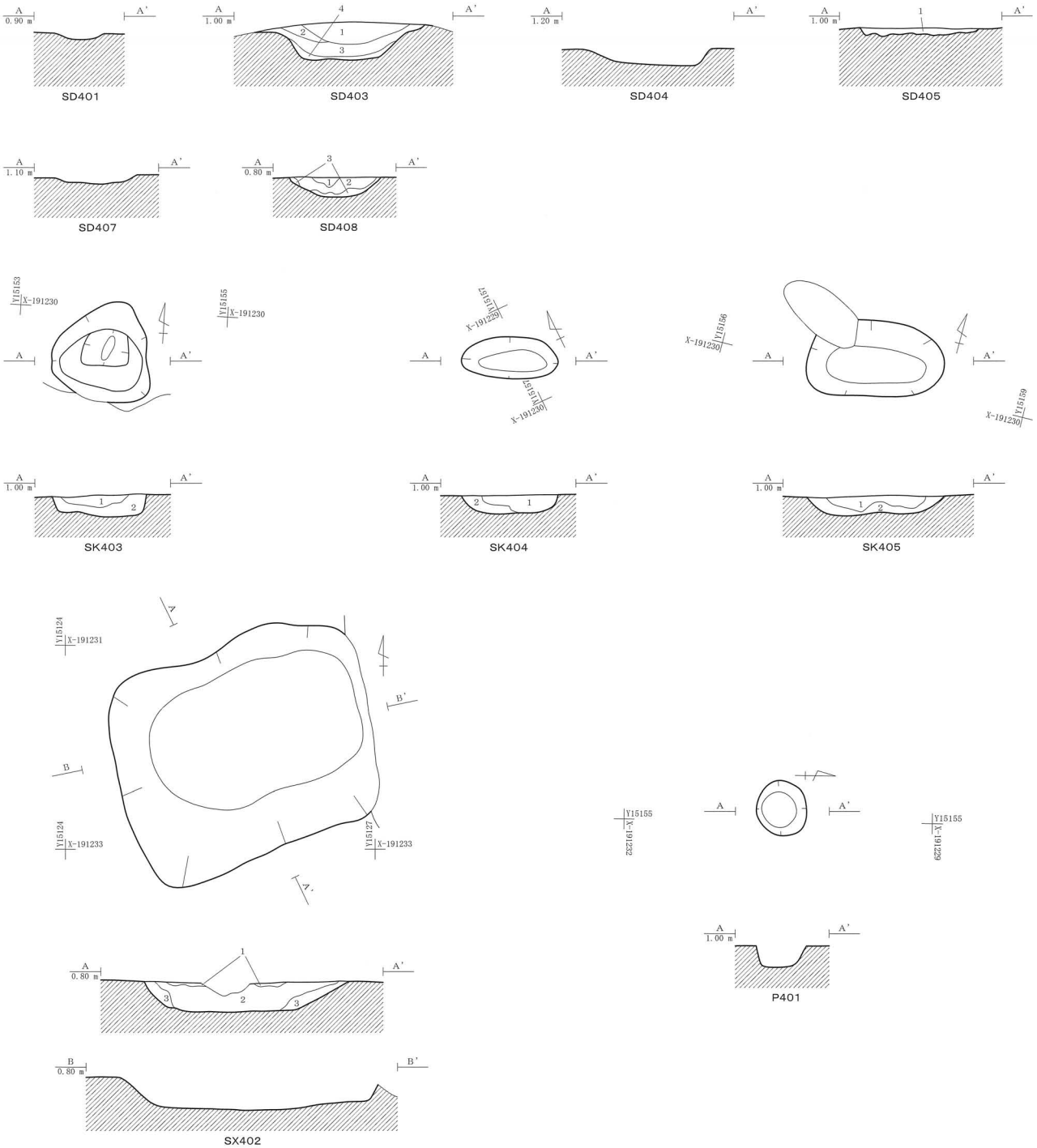
11	10YR7/1灰白色	粘土	
12	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐色砂ブロック
13	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	
14	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	
15	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物多量
16	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
17	10YR4/4褐色	シルト質砂	黄褐色砂
18	10YR5/6黄褐色	シルト質砂	暗褐色砂
19	10YR4/4 褐色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0 ― 2 m

第４－３図　SI401竪穴住居跡平面図・断面図



第４－４図　SD溝跡平面図



SD401　エレベーション（Ⅱ層上面）
SD403　註記なし　（Ⅱ層上面）
SD404　エレベーション（Ⅱ層上面）
SD405　註記なし　（Ⅱ層上面）
SD407　エレベーション（Ⅱ層上面）

SD408（Ⅱ層上面）

1	10YR2/1黒色	シルト質砂	灰白火山灰ブロック少量
2	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	
3	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック

SK403（Ⅲ層上面）

1	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	黄褐色砂小ブロック
2	2.5Y5/2暗灰黄色	シルト質砂	褐灰色砂ブロック、酸化鉄多量

SK404（Ⅲ層上面）

1	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	炭化物少量
2	2.5Y5/2暗灰黄色	シルト質砂	褐灰色砂大ブロック

SK405　註記なし（Ⅲ層上面）

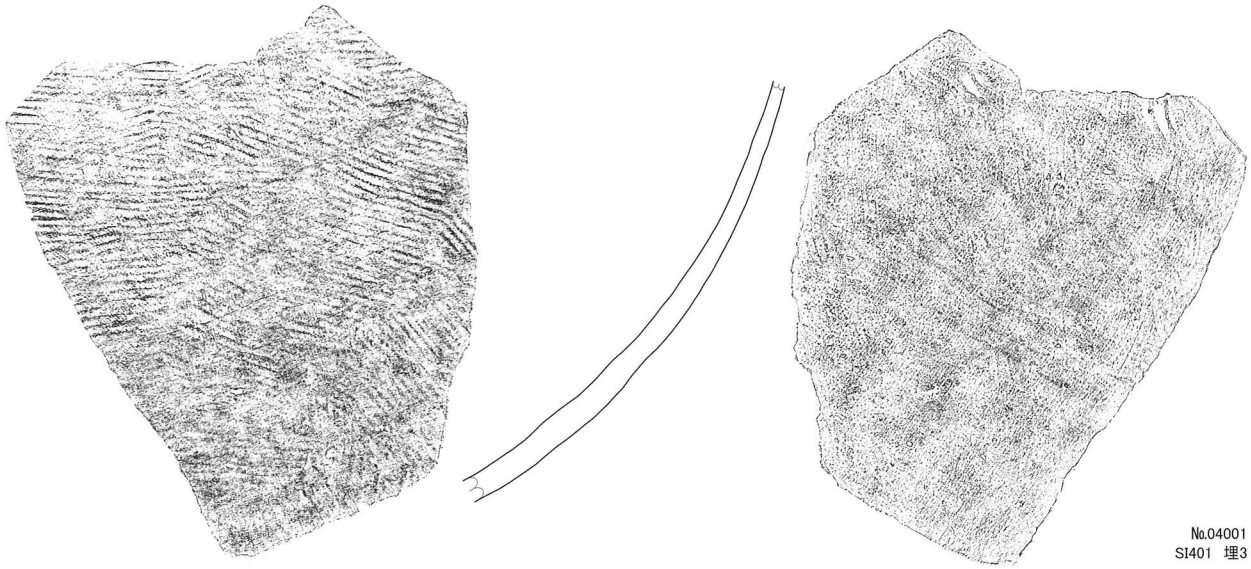
SX402（Ⅱ層上面）

1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量
2	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック少量
3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック

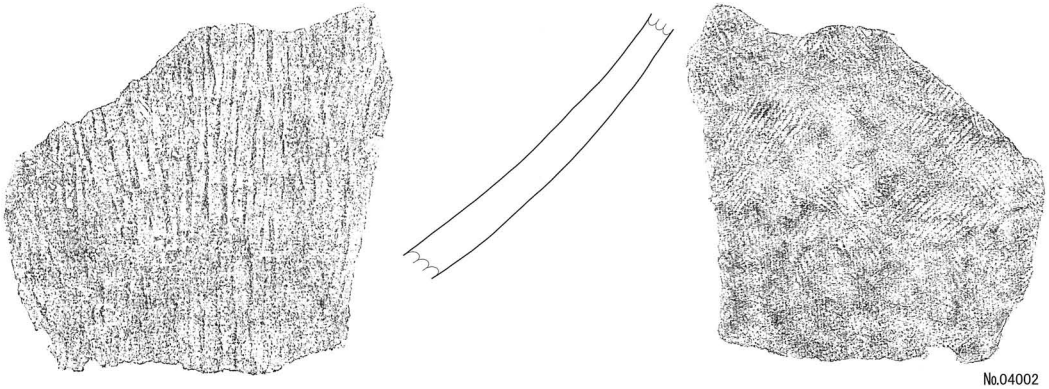
P401　エレベーション（Ⅲ層上面）

Scale = 1 : 60　0　2 m

第4―5図　SD溝跡断面図　SK土坑平面図・断面図　SX性格不明遺構平面図・断面図　ピット平面図・断面図



No.04001
SI401　埋3

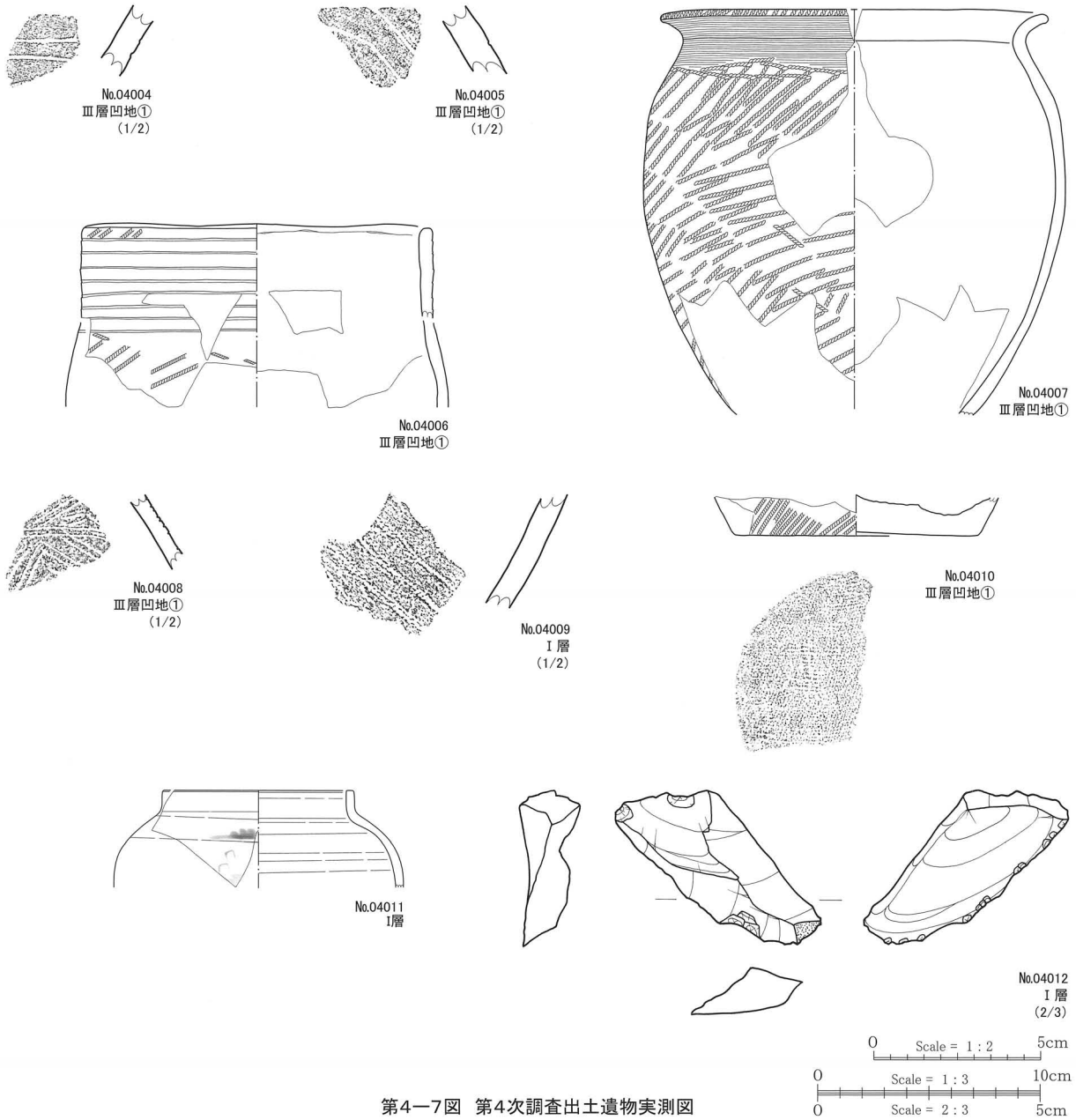


No.04002
SI401　床面

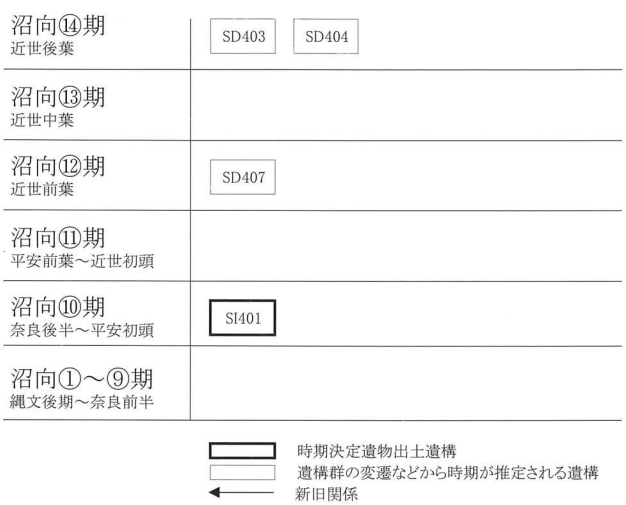
No.04003
SI401　床面

0　Scale = 1 : 3　10cm

第4―6図　第4次調査出土遺物実測図



第4―7図　第4次調査出土遺物実測図



第4－8図　第4次調査検出遺構時期別変遷模式図

第４－１表　ＳＩ竪穴住居跡観察表

遺構番号		位置(Grid)	長辺(m)×短辺(m)×深さ(m)	カマド	時期
SI401	竪穴住居跡	OR-027bc	2.26×2.16×0.46m	有・北東壁	⑩

第４－２表　ＳＤ溝跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	方向	全長(m)×上端幅(m)×深さ(m)	平面形・断面形	時期
SD401	OQ-031c OQ-030abcd	N-90° -E	12.00以上×0.56×0.06m	直線・浅い擂り鉢状	⑫～⑬
SD402	欠番				
SD403	OR-028ad OQ-028a	N- 2° -W	7.76以上×1.60×0.09m	直線・開いたU字状	⑭
SD404	OR-028cd OR-027d	N- 1° -W	7.75以上×1.22×0.16m	直線・開いたU字状	⑭
SD405	OR-028bc	N- 2° -W	5.65以上×1.30×0.10m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD406	欠番				
SD407	OR-026abd	N-58° -E	5.40以上×0.92×0.10m	直線・開いたU字状	⑫
SD408	OR-029ad	N- 3° -W	4.20以上×1.10×0.23m	直線・擂り鉢状	⑫～⑬

第４－３表　ＳＫ土坑観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK401	欠番					
SK402	欠番					
SK403	OR-027bc	N-15° -E	1.00×0.75×0.30m	不整形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK404	OR-026a	N-63° -W	0.92×0.40×0.17m	長楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK405	OR-026ad	N-78° -E	1.33×0.70×0.18m	楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩

第４－４表　ＳＸ性格不明遺構観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SX401	欠番					
SX402	OR-030c OR-029d	N-80° -E	2.50×2.10×0.28m	不整隅丸方形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫～⑬

第４－５表　ピット観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	柱痕	時期
P401	OR-027c OR-026d	N-90° -E	0.55×0.50×0.20m	円形・開いたU字状	不明	③～⑩

第４－６表　遺物出土数量表

遺構名・基本層	層位	縄文・弥生土器	製塩土器	土師器 非ロクロ	土師器 ロクロ	須恵器	土師質土器	陶磁器	土製品	瓦	石器	石製品	砥石	礫	金属製品	木製品	自然木	その他	計	備考
SI401	埋土	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	床面	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
	堀り方	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
SD403	埋土	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
SD404	埋土	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
Ⅲ層凹地①	－	58	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	59	
Ⅰ層	－	12	0	17	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	32	
合計		81	0	20	0	3	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	109	

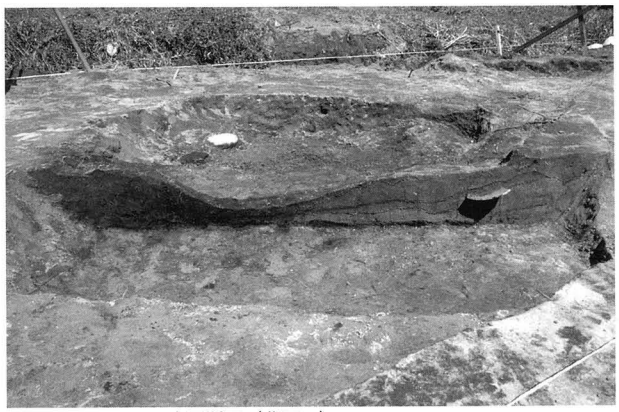
第４－７表　遺物観察表

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類・時期	写真図版
第4-6図 No.04001	04E-002	SI401	埋3	須恵器	甕 体部	残存 16.8	－	－	－	外：平行タタキ(体下：４本/2ｃｍ間隔)→ナデ(体下)　内：当て具痕(同心円文)→ナデ(体下)	－	4-3
第4-6図 No.04002	04E-003	SI401	床面	須恵器	甕 体部	残存 10.5	－	－	－	外：平行タタキ(体下:8本/2ｃｍ間隔)→ナデ(体下)　内：当て具痕(体下：平行線文)→ナデ(体下)	－	4-3
第4-6図 No.04003	04Kb-001	SI401	床面	石器	磨石	19.8	18.0	7.1	3864	両主面、側面磨耗	－	4-3
第4-7図 No.04004	04B-001	Ⅲ層凹地① 0Q-029・030	－	弥生土器	鉢 体部	残存 2.1	－	－	－	外：沈線　内：ミガキ	②B２～４期	4-3
第4-7図 No.04005	04B-002	Ⅲ層凹地① 0Q-029・030	－	弥生土器	壺 体部	残存 2.1	－	－	－	外：沈線→沈線間を一帯おきにミガキ　内：ミガキ	②B４期	4-3
第4-7図 No.04006	04B-003	Ⅲ層凹地① 0Q-029・030	－	弥生土器	深鉢 口縁部～体部	残存 8.3	(15.6)	－	－	口唇：LR縄文　口縁外：平行沈線文　体外：撚糸文R　内：ミガキ	②B４期	4-3
第4-7図 No.04007	04B-005	Ⅲ層凹地① 0Q-029・030	－	弥生土器	甕 口縁部～体部	残存 18.3	(17.4)	－	－	口唇：LR縄文　口縁外：ヨコナデ　体外：撚糸文R　口縁内：ナデ・ミガキ　体内：ミガキ	②B４期	4-3
第4-7図 No.04008	04B-004	Ⅲ層凹地① 0Q-029・030	－	弥生土器	壺 体部	残存 2.3	－	－	－	外：２条同時施文山形文　内：ナデ	②B５期	4-3
第4-7図 No.04009	04B-006	Ⅰ層 0R-028	－	弥生土器	甕 体部	残存 3.5	－	－	－	外：撚糸文R　内：ミガキ	②B４～５期	4-3
第4-7図 No.04010	04B-007	Ⅲ層凹地① 0Q-029・030	－	弥生土器	甕 底部	残存 1.8	－	－	－	外：LR縄文　外底：織布痕　内：(器面剥落)	②B期	4-3
第4-7図 No.04011	04J-001	Ⅰ層 Grid不明	－	磁器	土瓶	残存 4.4	(8.6)	欠損	－	ロクロ　外：山水文　内：－ 瀬戸美濃　19c.前～中	－	4-3
第4-7図 No.04012	04Ka-001	Ⅰ層 0R-027	－	石器	微細剥離痕のある剥片	3.5	4.6	1.4	10.2	石材：流紋岩	－	4-3

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

1．第４次調査区西半部確認状況（南西→）

2．第４次調査区東半部確認状況（東→）


3．SI401Aベルト土層断面（北西→）

4．SI401Bベルトカマド土層断面（北西→）

5．SI401床面検出状況（南西→）

6．SI401カマド検出状況(南西→)

7．SI401床面施設確認状況（南→）

8．SI401床面施設完掘状況（南→）

第４次調査　写真図版－１

1．SI401掘り方Ａベルト土層断面（南西→）

2．SI401完掘状況（南→）

3．SD401確認状況（南東→）

4．SD403完掘状況（南→）

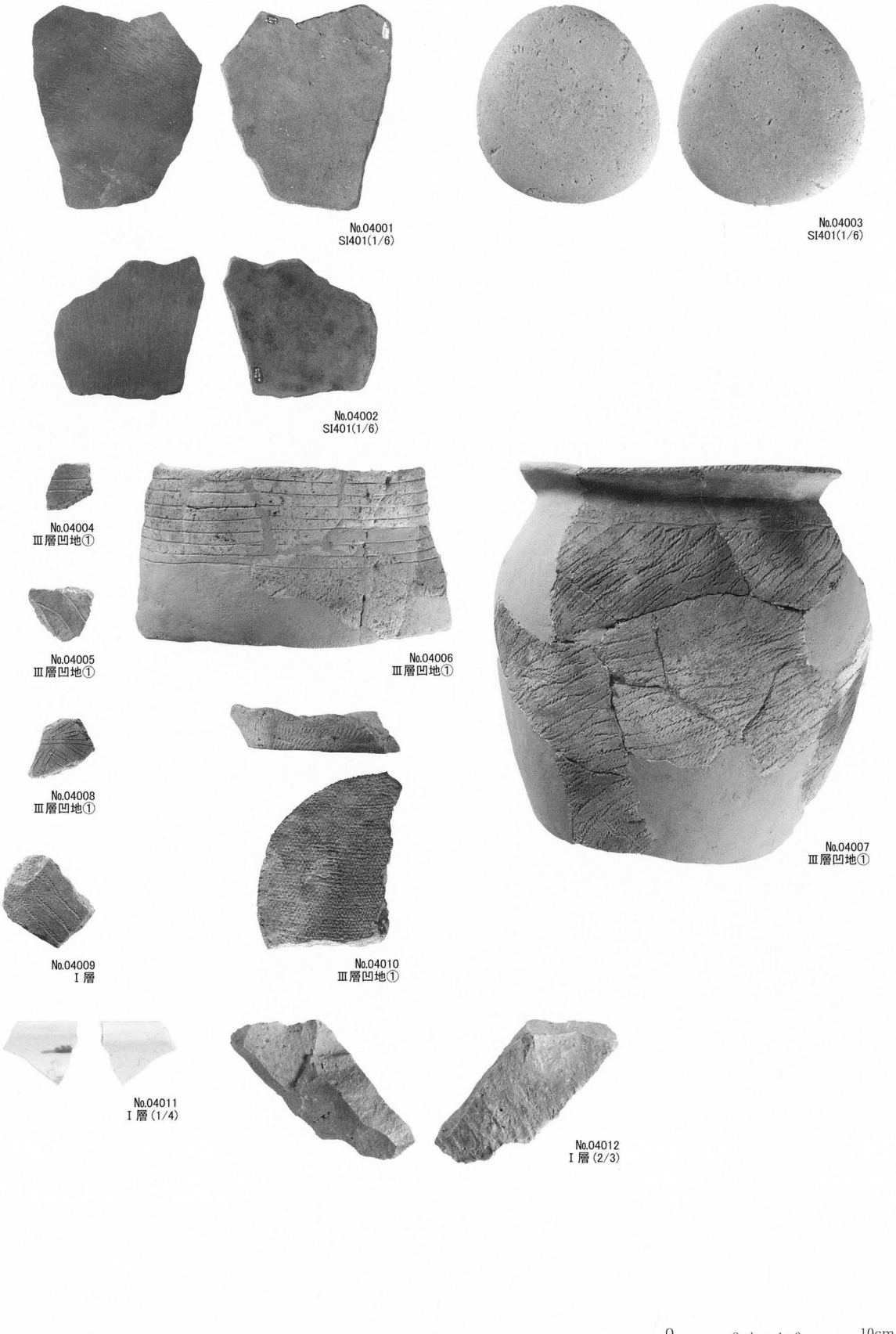
5．SD405土層断面（南→）

6．SD405完掘状況（南→）

7．SX402土層断面（西→）

8．SX402完掘状況（南→）

第４次調査　写真図版－２


No.04001
SI401(1/6)
No.04003
SI401(1/6)
No.04002
SI401(1/6)
No.04004
Ⅲ層凹地①
No.04005
Ⅲ層凹地①
No.04006
Ⅲ層凹地①
No.04007
Ⅲ層凹地①
No.04008
Ⅲ層凹地①
No.04009
Ⅰ層
No.04010
Ⅲ層凹地①
No.04011
Ⅰ層(1/4)
No.04012
Ⅰ層(2/3)
0
Scale = 1 : 3
10cm

第４次調査　写真図版－３

第３章　―第５次調査―

本　文　目　次

第１節　調査概要と基本層序……87
　１．調査概要……87
　２．基本層序……87
第２節　検出遺構と出土遺物……87
　１．検出遺構と出土遺物……87
　　(1) 古墳……87
　　(2) SD溝跡……87
　　(3) SK土坑……90
　　(4) SX性格不明遺構……90
　　(5) 小溝状遺構群……91
　２．その他の出土遺物……92
第３節　まとめ……92
　１．Ⅲ層上面遺構……92
　２．Ⅱ層上面遺構……92
　３．小結……93

挿　図　目　次

第5-1図　第５次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序……95
第5-2図　第５次調査区全体図……96
第5-3図　13号墳平面図・断面図……97
第5-4図　SD溝跡全体平面図……98
第5-5図　SD溝跡平面図（1）……99
第5-6図　SD溝跡平面図（2）……100
第5-7図　SD溝跡断面図（1）……101
第5-8図　SD溝跡断面図（2）……102
第5-9図　SK土坑平面図・断面図（1）……103
第5-10図　SK土坑平面図・断面図（2）　SX性格不明遺構平面図・断面図（1）……104
第5-11図　SX性格不明遺構平面図・断面図（2）……105
第5-12図　SX性格不明遺構平面図・断面図（3）……106
第5-13図　SX性格不明遺構平面図・断面図（4）……107
第5-14図　SX性格不明遺構平面図・断面図（5）……108
第5-15図　SX性格不明遺構平面図・断面図（6）……109
第5-16図　小溝状遺構群５次Ａ群平面図・断面図……110
第5-17～19図　第５次調査出土遺物実測図……111～113
第5-20図　第５次調査検出遺構時期別変遷模式図……114

挿　表　目　次

第5-1表　古墳観察表……115
第5-2表　SD溝跡観察表……115
第5-3表　SK土坑観察表……115
第5-4表　SX性格不明遺構観察表……115
第5-5表　小溝状遺構群観察表……116
第5-6表　遺物出土数量表……116
第5-7表　遺物観察表……117

写真図版目次

写真図版１～５（遺構写真）……119～123
写真図版６～７（遺物写真）……124～125

第３章　―第５次調査―

第１節　調査概要と基本層序

１．調査概要

第５次調査区は、沼向遺跡中央部、0C～0F-013～021Gridに位置し、浜堤列に立地する（第5-1図）。調査面積は1101.0㎡である。第11次調査区、第12次調査区、第18次東調査区に接する。調査区は第5-1図のように設定した。標高は現地表面で1.48～1.55mである。

調査区は現況で北側に畑、南側に住宅と畑が広がっていた。遺構の遺存状態は良い。

発掘調査は平成８年８月２日に表土の重機掘削と遺構確認を開始し、10月29日までの実働46日間実施した。

遺構検出面は、基本層Ⅱ層の分布が部分的なため、Ⅱ層上面遺構のほとんどは、Ⅲ層上面遺構と同様、基本層Ⅲ層上面であった。遺構検出面の標高は1.00mである。

遺構は、古墳時代前期：③期から近世：⑫～⑭期にかけて、総数51基が認められた。Ⅲ層上面遺構は、古墳１基、Ⅱ層上面遺構は、溝跡27条、土坑７基、性格不明遺構15基、小溝状遺構群１群が検出された（付図２）。

遺物は、平箱で５箱出土した。総点数は840点で、そのうち、遺構出土が478点、基本層出土が362点である。各遺構及び基本層からの遺物出土数は第5-6表に示した。主な遺物は縄文土器、弥生土器、非ロクロ土師器、陶磁器である。これらの遺物のうち37点を図示した。

２．基本層序

第５次調査区では北壁・東壁・南壁の３箇所で基本層序の確認を行った。基本層序は、大別でⅠ、Ⅱ、Ⅲ層の３層、細別でⅠa、Ⅰb、Ⅰc、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、Ⅲc、Ⅲd、Ⅲe層の10層を確認した。

第２節　検出遺構と出土遺物

１．検出遺構と出土遺物

(1) 古墳（第5-3図、第5-1表、写真図版5-2）　１基検出された。

13号墳　（第5-3図、第5-1表、写真図版5-2-1～5）　0C-014bcd･0C-015bc･0D-014cd･0D-015cGridに位置し、沼向③Ｂ期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。第５次調査では13号墳の北半分を検出し、南半分は隣接する第12次調査で検出した。墳丘は削平され残存しない。全周する周溝を確認した。墳丘基底部東側、北西側と周溝東側、北側、西側、南側をⅡ層上面遺構に削平される。周溝の平面形は円形である。上端規模は周溝外側で11.66×11.30m、周溝内側で8.92×8.64mである。溝幅は0.74～1.76mで平均は1.27mである。断面形は開いた「Ｕ」字状である。深さは0.16～0.40mである。壁の立ち上がり角は外側で32～74度で平均は50度、内側は23～42度で平均は36度である。底面標高は0.52～0.78mで、東側と西側が高く北側と南側が低くなる。周溝底面の南側に深さ5cmほどの土坑状の落ち込みを確認した。埋土は４層認められる。埋土１～３層は自然堆積土である。埋土４層は浜堤列基本層Ⅲ層の崩落土の可能性がある。残存する墳丘基底部の平面形は円形である。

遺物は、埋土１層から非ロクロ土師器が１点と埋土３層から縄文土器あるいは弥生土器が5点出土しているだけである。時期決定遺物は出土していないが、隣接する古墳、周溝墓との位置関係から13号墳の時期は沼向③Ｂ期と考えられる。

(2) SD溝跡（第5-5～8図、第5-2表、写真図版5-3）　27条検出された。

SD501溝跡　（第5-5･7図、表5-2）　0D-020a～d･0D-019dGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SX504より新しい。東西方向の溝である。遺物は、埋土から陶磁器と礫が１点ずつ出土している。

SD502溝跡（第5-5･7図、第5-2表）　0E-021c･0D-021bc･0C-021bGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD505、SD506、SD507、SD508より新しい。南北方向の溝で、中程で西に屈曲する。西側に屈曲した直後に南へ分岐する。分岐した部分の深さは変わらないが、溝幅が約５分の１に狭まる。北側は第18次東調査区へ続き、西側、南側は調査区外へ続く。遺物は、埋土から陶器中碗（№05001：肥前産）などが出土している。

SD503溝跡　（第5-5･7図、第5-2表）　0D-021c･0D-020ad･0C-021b･0C-020aGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD505、SD506、SD507、SD508、SX505より新しい。調査区を南北に横断する溝である。北側は第18次東調査区へ続き、南側は調査区外へ続く。遺物は、埋土から陶器中碗（№05002：肥前（波佐見）産）などが出土している。

SD504溝跡　（第5-5･7図、第5-2表）　0D-018bc･0C-018bcGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD506、SD507、SD511、SD527、小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。調査区を南北に横断する溝で、深さは北から南へ深くなる。北側は第18次東調査区へ続き、南側は調査区外へ続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器・陶磁器などが出土している。

SD505溝跡　（第5-5･7図、第5-2表）　0C-021b･0C-020abGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD502、SD503より古く、SD511より新しい。東西方向の溝で、東西端とも他遺構に削平される。遺物は、埋土から温石（№05003）と礫が出土している。

SD506溝跡　（第5-5･7図、第5-2表、写真図版5-3-1）　0D-021c･0D-020cd･0D-019d･0C-020b･0C-019ab･0C-018abGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD502、SD503、SD504より古く、SD507、SD511、SX505、SX506より新しい。東西方向の溝で、西端で北に屈曲する。北端は他遺構に削平される。遺物は、埋土から磁器小皿（№05004：肥前（波佐見）産）などが出土している。

SD507溝跡　（第5-5･7図、第5-2表、写真図版5-3-2）　0D-022c･0D-021cd･0D-020cd･0D-019cd･0C-020b･0C-019ab･0C-018aGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD502、SD503、SD504、SD506、SX501、SX502より古く、SD511、小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。調査区を東西に横断する溝で、東側は調査区外へ続き、西側は第12次調査北区へ続く。遺物は、埋土から平瓦（№05005）や陶磁器などが出土している。

SD508溝跡　（第5-5･7図、第5-2表）　0D-021c･0C-021b･0C-020abGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD502、SD503より古い。東西方向の溝で、東端で北東に屈曲する。東側はSD511に取り付き、西側は他遺構に削平される。SD511取り付き部の断面観察で切り合いはなく、同時存在と判断した。遺物は、埋土から陶磁器などが出土している。

SD509溝跡　（第5-5･7図、第5-2表）　0D-020b･0D-019abGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD511、SD512、SD528より新しい。北東－南西方向の溝で、北西側は第18次東調査区へ続く。出土遺物はない。

SD510溝跡　（第5-5･7図、第5-2表）　0D-019bcd･0D-018aGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。北東－南西方向の溝で、南西端で西に屈曲する。出土遺物はない。

SD511溝跡　（第5-5･7図、第5-2表、写真図版5-3-3）　0D-020c･0D-019ad･0C-020b･0C-019abc･0C-018acdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD504、SD505、SD506、SD507、SD509、SX504より古く、SX506より新しい。北西－南東方向の溝で、北西端で北に屈曲する。南北方向の溝の屈曲部分にSD508が取り付く。北側は第18次東調査区へ続き、南東側は第12次調査南区へ続く。SD508取り付き部の断面観察で切り合いはなく、同時存在と判断した。出土遺物はない。

SD512溝跡　（第5-5･7図、第5-2表、写真図版5-3-4）　0D-019abdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構

である。SD509、SD528、小溝状遺構群５次Ａ群より古い。北東－南西方向の溝で、北側は第18次東調査区へ続く。出土遺物はない。

SD513溝跡　（第5-6･7図、第5-2表）　0D-017c･0D-016d･0C-017b･0C-016abGridに位置し、沼向⑬～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD516、SD521、小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。東西方向の溝で、西端で北に屈曲する。調査区内で収束する。遺物は、埋土から砥石や礫が出土している。

SD514溝跡　（第5-6･7図、第5-2表）　0C-016ab･0C-015ab･0C-014aGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD518、SD524、SK505、SK506、SX513、小溝状遺構群12次Ｅ群より新しい。東西方向の溝で、調査区内で収束する。埋土３層は基本層Ⅲ層の崩落土である。遺物は、埋土から陶器中鉢（№05006：堤産）や平瓦（№05007）などが出土している。

SD515溝跡　（第5-6･7図、第5-2表）　0C-016b･0C-015ab･0C-014a～d･0C-013dGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD518、SD524、SD525、小溝状遺構群12次Ｅ群より新しい。東西方向の溝で、東側と南側の立ち上がりは第12次調査北区へ続く。遺物は、埋土から陶磁器などが出土している。

SD516溝跡　（第5-6･7図、第5-2表、写真図版5-3-5）　0D-017c･0D-016cd･0C-016b･0C-015abGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD513、SD517、SK502、SK503より古く、SD518、SD521、SK504、小溝状遺構群５次Ａ群、小溝状遺構群12次Ｅ群より新しい。東西方向の溝で、東端は他遺構に削平される。西半は溝幅が増し、壁面の立ち上がりは南側が屈曲する。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD517溝跡　（第5-6･8図、第5-2表）　0E-017bc･0D-017bcGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD516、小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。南北方向の溝で、調査区内で収束する。出土遺物はない。

SD518溝跡　（第5-6･8図、第5-2表）　0F-016cd･0E-016a～d･0D-016bc･0C-016bGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD514、SD515、SD516より古く、SD521、SK504、SK505より新しい。南北方向の溝で、北側は第11次調査区へ続き、南側は第12次調査北区へ続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD519溝跡　（第5-5･6・87図、第5-2表）　0F-016d･0E-017ab･0E-016aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。北東－西方向の溝で、蛇行する。西側は第18次東調査区へ続く。遺物は、埋土から弥生土器などが出土している。

SD520溝跡　（第5-6･8図、第5-2表）　0F-016cGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。北西－南東方向の溝で、北東側は第11次調査区へ続き、南東側は調査区外へ続く。出土遺物はない。

SD521溝跡　（第5-6・8図、第5-2表）　0D-016abd･0C-017b･0C-016aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD513、SD516、SD518、SK501、小溝状遺構群５次Ａ群より古い。北東－南西方向の溝で、南西端で西に屈曲する。両端は他遺構に削平される。南半部分は溝幅の広狭が顕著になる。底面は起伏しており、埋土の状況から、耕作に関連する遺構の可能性がある。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD524溝跡　（第5-6･8図、第5-2表）　0D-015c･0C-015bGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD514、SD515より古い。南北方向の溝で、北側は調査区外へ続き、南側は第12次調査北区へ続く。遺物は、非ロクロ土師器などが出土している。

SD525溝跡　（第5-6･8図、第5-2表、写真図版5-3-6～8）　0D-014cd･0D-013d･0C-014bc･0C-013aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD515、SX515より古く、SX514より新しい。調査区を北西－南東に縦断する溝で、東側にはいくつかに分岐している。断面形は開いた「U」字状である。埋土は細別５層認められ、埋土3b層は自然堆積である。遺物は、底面から陶器擂鉢（№05008：岸窯系）、埋土４層から漆器椀（№05010）、埋土から石製模造品（№05009：剣形）などが出土している。

SD527溝跡　（第5-5･8図、第5-2表）　0C-019b･0C-018abGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD504より古く、SX506より新しい。東西方向の溝で、東側は他遺構に削平される。出土遺物はない。

SD528溝跡　（第5-5･8図、第5-2表、写真図版5-3-4）　0D-019abdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD509、小溝状遺構群５次Ａ群より古く、SD512より新しい。北東－南西方向の溝で、北東側は第18次東調査区へ続く。出土遺物はない。

SD529溝跡　（第5-5･8図、第5-2表）　0D-019bcdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。北東－南西方向の溝で、北東側は第18次東調査区へ続く。出土遺物はない。

SD530溝跡　（第5-5･8図、第5-2表）　0F-017dGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SX507より新しい。南北方向の溝で、北側は第11次調査区へ続く。西側の立ち上がり部分は第18次東調査区へ続く。埋土は自然堆積である。出土遺物はない。

(3) SK土坑（第5-9～10図、第5-3表、写真図版5-4）　７基検出された。

SK501土坑　（第5-9図、第5-3表）　0C-017bGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SX502より古く、SD521より新しい。遺物は、埋土から砥石（№05011）などが出土している。

SK502土坑　（第5-9図、第5-3表）　0C-016b･0C-015aGridに位置し、沼向⑬～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD516より新しい。埋土１層と２層は人為堆積である。埋土３層は自然堆積で、４層は基本層Ⅲ層の崩落土の可能性がある。出土遺物はない。

SK503土坑　（第5-9図、第5-3表）　0D-015c･0C-015bGridに位置し、沼向⑬～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD516、小溝状遺構群12次Ｅ群より新しい。埋土１層と２層は人為堆積である。埋土3a層は自然堆積である。埋土3b層は基本層Ⅲ層の崩落土である。出土遺物はない。

SK504土坑　（第5-9図、第5-3表）　0D-016c･0C-016bGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD516、SD518より古い。埋土はいずれも自然堆積である。出土遺物はない。

SK505土坑　（第5-9図、第5-3表、写真図版5-4-1～2）　0C-016bGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面である。SD514、SD518より古い。埋土１層と２層、５層は人為堆積である。埋土３層と４層、６層は自然堆積である。遺物は、埋土から陶器香炉（№05012：岸窯系）１点が出土している。

SK506土坑　（第5-9図、第5-3表）　0C-015aGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD514より古い。埋土１層から４層は人為堆積である。埋土５層と６層、７層は自然堆積である。出土遺物はない。

SK507土坑　（第5-10図、第5-3表、写真図版5-4-3～5）　0C-014aGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は隅丸方形で、長軸0.50m、短軸0.48m、深さ0.16mで、底面は平坦である。遺物は、埋土から寛永通寶6枚（№05013～№05018）、元祐通寶1枚（№05019）、木片、人歯21点が出土している。人歯については、第35章自然科学分析で報告されているように、幼少児のもので、３～４歳の男児の可能性が示唆されている。SK507は、幼少児を埋葬した近世の土壙墓と考えられる。

(4) SX性格不明遺構（第5-10～15図、第5-4表、写真図版5-4、5）　15基検出された。

SX501性格不明遺構　（第5-10図、第5-4表、写真図版5-4-6～7）　0D-017d･0C-017aGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD507、小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。井戸状の遺構で、箍の出土、掘り方が認められる。遺物は、底面から磁器中碗（№05020：肥前産）が1点出土している。

SX502性格不明遺構　（第5-10図、第5-4表、写真図版5-4-8、5-1）　0D-017c･0C-017abGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD507､SK501､SX503より新しい。　井戸状の遺構で､箍の出土､掘り方が認められる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器や陶磁器が出土している。

SX503性格不明遺構　（第5-11図、第5-4表、写真図版5-5-2～4）　0D-017bcd･0C-017bGridに位置し、沼向⑬期に

属するⅡ層上面遺構である。SX502より古く、小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。南半は下端が方形に深くなり、落ち込みの北端で木枠が検出された。形態や埋土の状況から水溜状の施設と考えられる。遺物は、底面から舟形木製品２点（№05022、№05023）、埋土から下駄（№05021）などが出土している。

SX504性格不明遺構　（第5-10図、第5-4表）　0D-020c･0D-019dGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD501より古く、SD511より新しい。平面形は溝状の遺構である。遺物はない。

SX505性格不明遺構　（第5-10図、第5-4表）　0D-021c･0D-020dGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD503、SD506より古い。平面形は不整形の土坑状の遺構である。遺物は、埋土から陶磁器などが出土している。

SX506性格不明遺構　（第5-12図、第5-4表）　0C-018abdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD506、SD511、SD527よりも古い。北半が土坑状に低くなっている遺構である。出土遺物はない。

SX507性格不明遺構　（第5-13図、第5-4表）　0F-017bcd･0F-016aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD530、SX1195、小溝状遺構群18次東Ｆ群より古く、SD18E107、SX1160より新しい。底面の起伏が顕著である。小溝状遺構群18次東Ｆ群南東部を区画する溝状の遺構である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SX508性格不明遺構　（第5-12図、第5-4表）　0D-015c･0D-014dGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SX514より新しい。平面形は方形の遺構である。長軸方位はN-10°-Wで、SD524と平行する。遺物は、埋土から陶磁器などが出土している。

SX509性格不明遺構　（第5-12図、第5-4表）　0D-017adGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。小溝状遺構群５次Ａ群より新しい。溝状の遺構である。遺物は、埋土から陶磁器が１点出土している。

SX510性格不明遺構　（第5-13図、第5-4表）　0D-014aGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は溝状の遺構である。出土遺物はない。

SX511性格不明遺構　（第5-13図、第5-4表）　0D-016c･0D-015dGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は溝状で断面形が「Ｖ」字状の遺構である。出土遺物はない。

SX512性格不明遺構　（第5-14図、第5-4表）　0D-015cdGridに位置し、Ⅱ層上面で検出された。沼向⑫～⑭期に属する。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は溝状の遺構である。遺物は、埋土から丸瓦（№05024）が出土している。

SX513性格不明遺構　（第5-14図、第5-4表）　0D-015c･0D-014d･0C-015b･0C-014aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD514より古く、SX514より新しい。平面形は不整楕円形の土坑状の遺構である。遺物は、埋土から漆器椀（№05025）が出土している。

SX514性格不明遺構　（第5-15図、第5-4表）　0D-015c･0D-014cd･0C-014bGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD525、SX508、SX513より古い。平面形は溝状の遺構であり、13号墳周溝上面に位置する。遺物は、埋土から弥生土器などが出土している。

SX515性格不明遺構　（第5-14図、第5-4表）　0D-013dGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD525、SX1238より新しい。平面形は不整円形の土坑状の遺構である。出土遺物はない。

(5) 小溝状遺構群（第5-16図、第5-5表、写真図版5-5）　１群検出された。

小溝状遺構群５次Ａ群　（第5-16図、第5-5表、写真図版5-5-5～8）　0C-016a･0C-017ab･0C-018b･0D-016abd･0D-017a～d･0D-018a～d･0D-019a～d･0E-016abd･0E-017a～d･0E-018a～d･0E-019c･0F-016d･0F-017cGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD504、SD507、SD510、SD513、SD516、SD517、SD18E027、SD18E028、SD18E093、SD18E143、SE18E002、SK18E045、SK18E048、SK18E056、SX501、SX503、SX509より古く、SD512、SD521、SD528、

SX18E276、SX18E277より新しい。

小溝状遺構群５次Ａ群は、第５次調査区中央部及び第18次東調査区南東部で、北東－南西方向に直線的に平行する106条の溝（Ａ１群）、北西－南東方向に直線的に平行する159条の溝（Ａ２群）からなる。一部、北西部でＡ１群とＡ２群の新旧関係が認められる。遺構は、中央部及び西側が削平を受け、遺存状態は悪い。東側はSD520とSD521、西側はSD528、北側はSD519とSD528に区画されている。南側は不明である。５次Ａ群の範囲は東西36.00ｍ以上、南北25.60ｍで、その面積は533.9㎡以上である。小溝の全長は0.30～2.00ｍである。方向はＮ－18～55°－Ｅと、Ｎ－60～90°－Ｗである。上端幅は0.13～0.45ｍである。小溝の芯々距離は、0.25～1.10ｍである。遺構確認面からの深さは0.05～0.20ｍで、底面にはやや起伏がある。工具痕は認められない。埋土は基本的に単層であるが、２層に細別される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が１点出土している。

２．その他の出土遺物

沼向①期：縄文土器を１点図示した（№05026）。№05026は、晩期後葉新：①Ｂ４期の浅鉢の口縁部である。

沼向②期：弥生土器を８点図示した（№05027～05034）。これらは、後期初頭～中葉：②Ｃ１～Ｃ３期の時期幅がある。№05027は、口縁部に横走沈線を２条施文し、それぞれの上下に器面と直角方向に刺突を交互状に加えている。№05028～№05034は同一個体と考えられる。

沼向④～⑧期：非ロクロ土師器を１点図示した。№05035は、甕（ＣⅡb1y類）である。

沼向⑩期：瓦を１点図示した（№05036）。№05036は１枚作りの平瓦である。

沼向⑫～⑭期：金属製品を１点図示した（№05037）。№05037は煙管の雁首である。

第３節　まとめ

１．Ⅲ層上面遺構

縄文時代～弥生時代（沼向①～②期）：遺構の検出はない。縄文土器、弥生土器が出土している。

古墳時代前期後半（沼向③Ｂ期）：古墳１基（13号墳、円墳）が検出された。

２．Ⅱ層上面遺構

近世前葉（沼向⑫期）：溝跡11条、土坑１基、性格不明遺構５基、小溝状遺構群１群が検出された。出土した陶器は、器種に香炉があり、産地は岸窯系である。

近世前葉～中葉（沼向⑫～⑬期）：土坑２基、性格不明遺構１基が検出された。出土した陶磁器は、器種に中碗と小皿があり、それらの産地は、肥前、肥前（波佐見）である。

近世中葉（沼向⑬期）：溝跡８条、性格不明遺構３基が検出された。出土した陶器は、器種に中鉢と擂鉢があり、それらの産地は、岸窯系、堤と考えられるものである。

近世中葉～後葉（沼向⑬～⑭期）：溝跡１条、土坑２基が検出された。

近世後葉（沼向⑭期）：溝跡７条、性格不明遺構２基が検出された。出土した磁器は、器種に中碗があり、産地は肥前である。

このほか、沼向⑫～⑭期のいずれかに属する土坑２基、性格不明遺構４基が検出された。また、遺物では、石製品、金属製品、木製品が出土した。石製品は温石、砥石である。金属製品は煙管、元祐通宝、寛永通宝が認められる。木製品は漆器椀、下駄、舟形木製品が認められる。

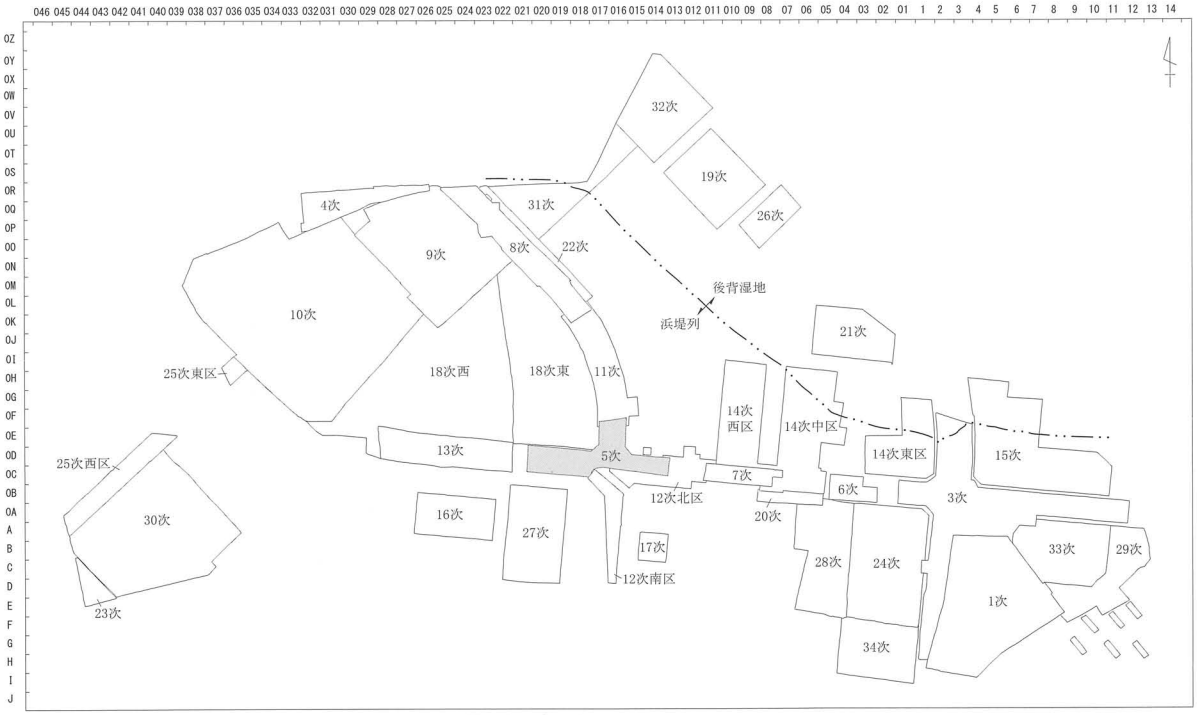
３．小結

第５次調査区は、沼向遺跡の中央部に位置し、浜堤列に立地する。調査面積は1101.0㎡である。

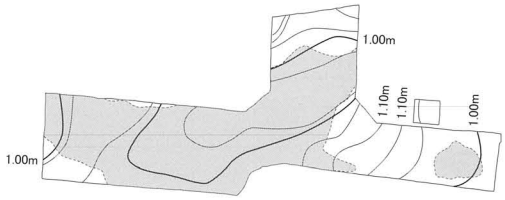
遺物は、縄文時代後期後葉新：①Ｂ４期から認められる。

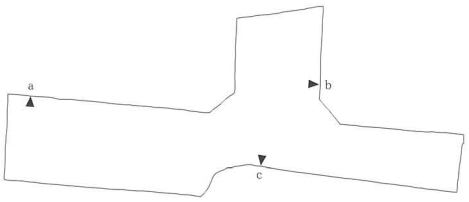
遺構は、古墳時代前期後半：③Ｂ期の13号墳１基、近世：⑫～⑭期の溝跡27条、土坑７基、性格不明遺構15基、小溝状遺構群１群が検出された。このうち、近世：⑫～⑭期の土坑SK507は、幼小児の土壙墓と考えられた。遺構には、13号墳は、沼向遺跡内で20基検出されている古墳のうち、西端に位置している。また、近世墓はSK507のほかに、第５次調査区の北に位置する第18次東調査区のSX18E079がある。

沼向遺跡の遺構群の変遷を考えるうえでの成果としては、古墳時代前期後半：③Ｂ期の墓域の広がりが確認されたこと、近世前葉：⑫期に生産域：畑域として土地利用がなされていたこと、近世：⑫～⑭期の幼小児の土壙墓が検出され、第18次東調査区のSX18E079とともに近世墓が存在していることがある。



第5次調査区位置図 scale = 1:4000

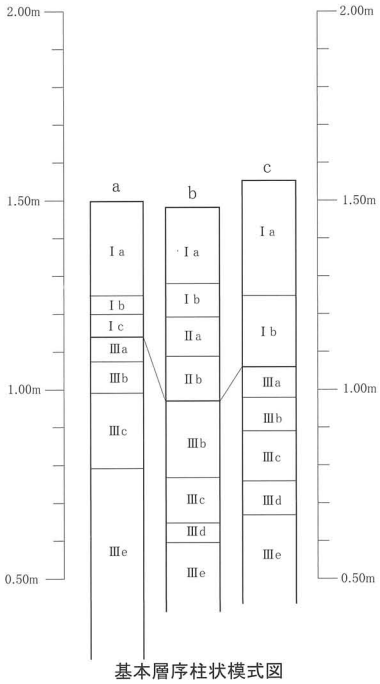




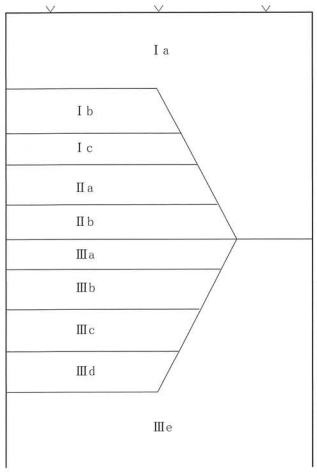
Ⅲ層凹地確認範囲

等高線図・Ⅲ層凹地位置図 scale = 1:1250

柱状模式図作成地点位置図 scale = 1:1250

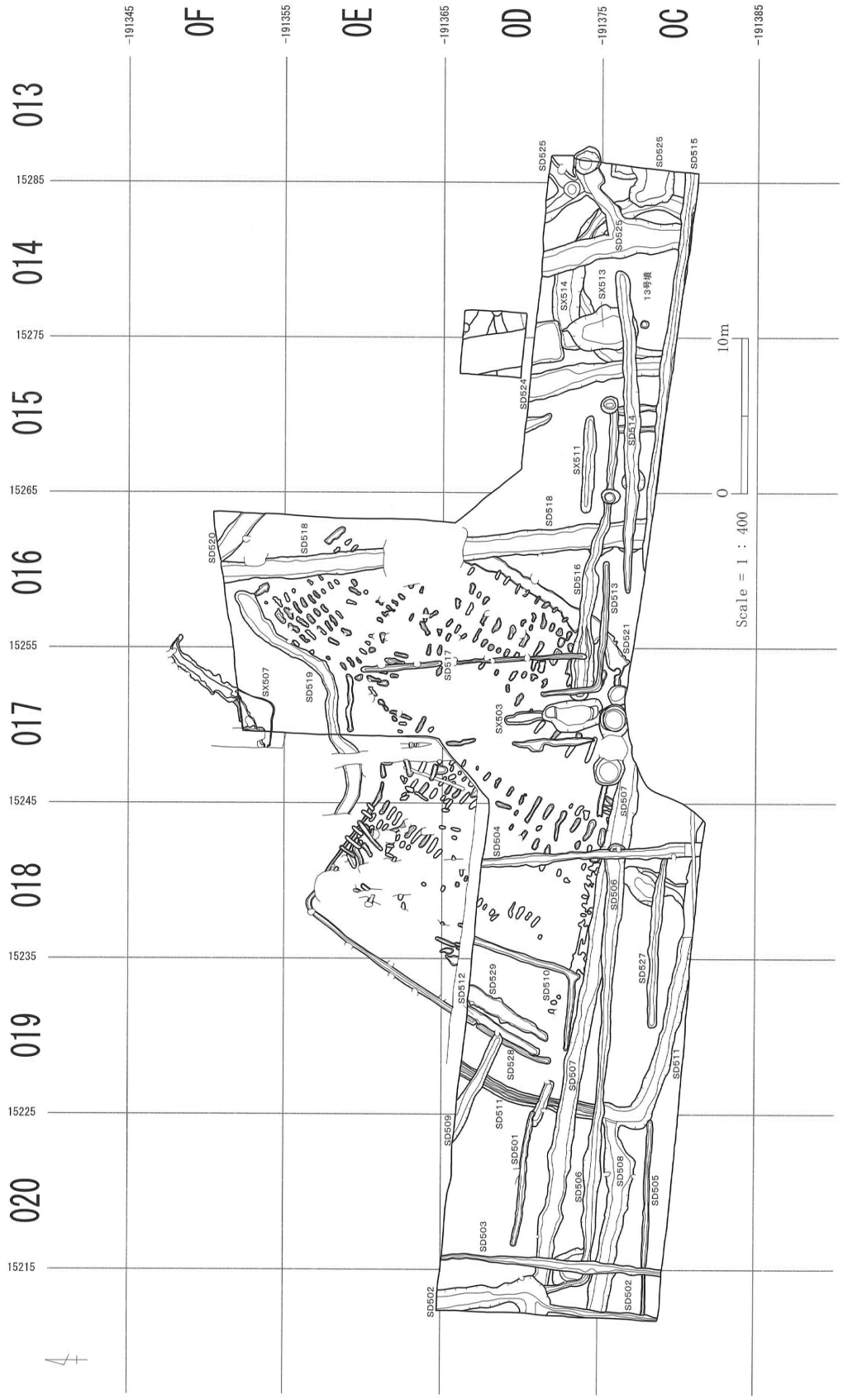


基本層序柱状模式図

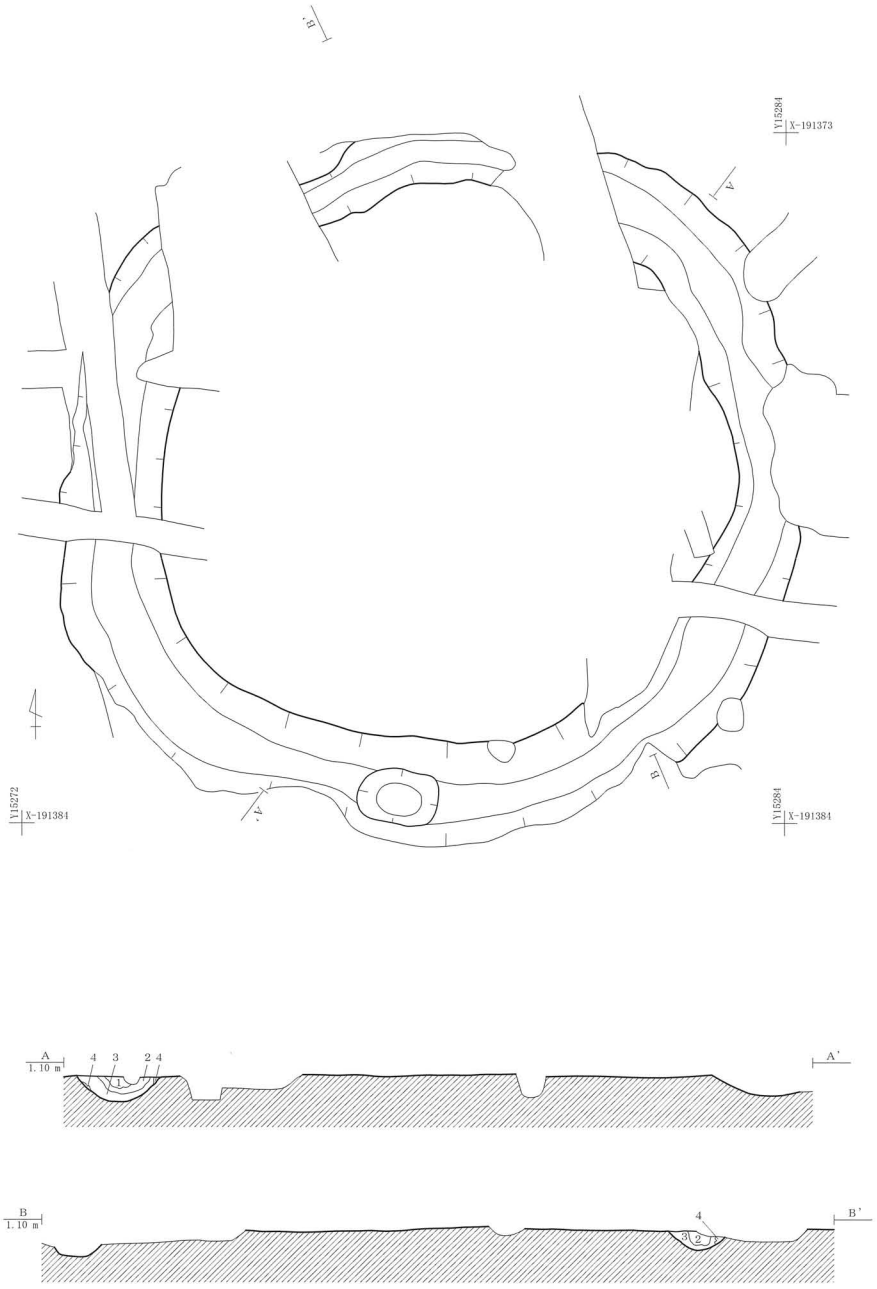


基本層序略図

第５－１図　第5次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序



第５－２図　第５次調査区全体図

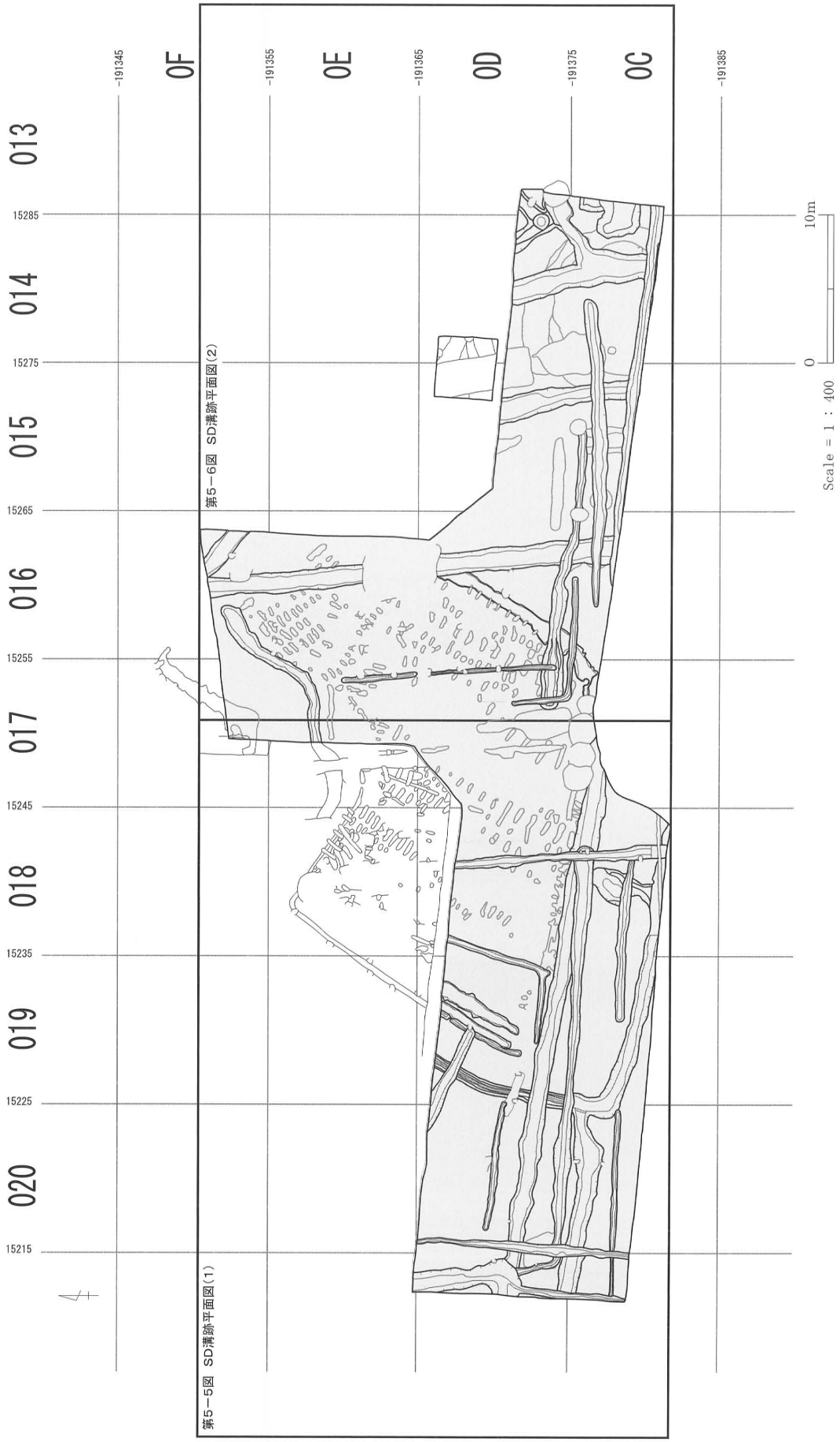


13号墳（Ⅲ層上面）

1	10YR2/2黒褐色	シルト	
2	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	黒色粘土少量
3	2.5YR4/2灰赤色	シルト質砂	上部黒褐色砂質シルト少量、酸化鉄
4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

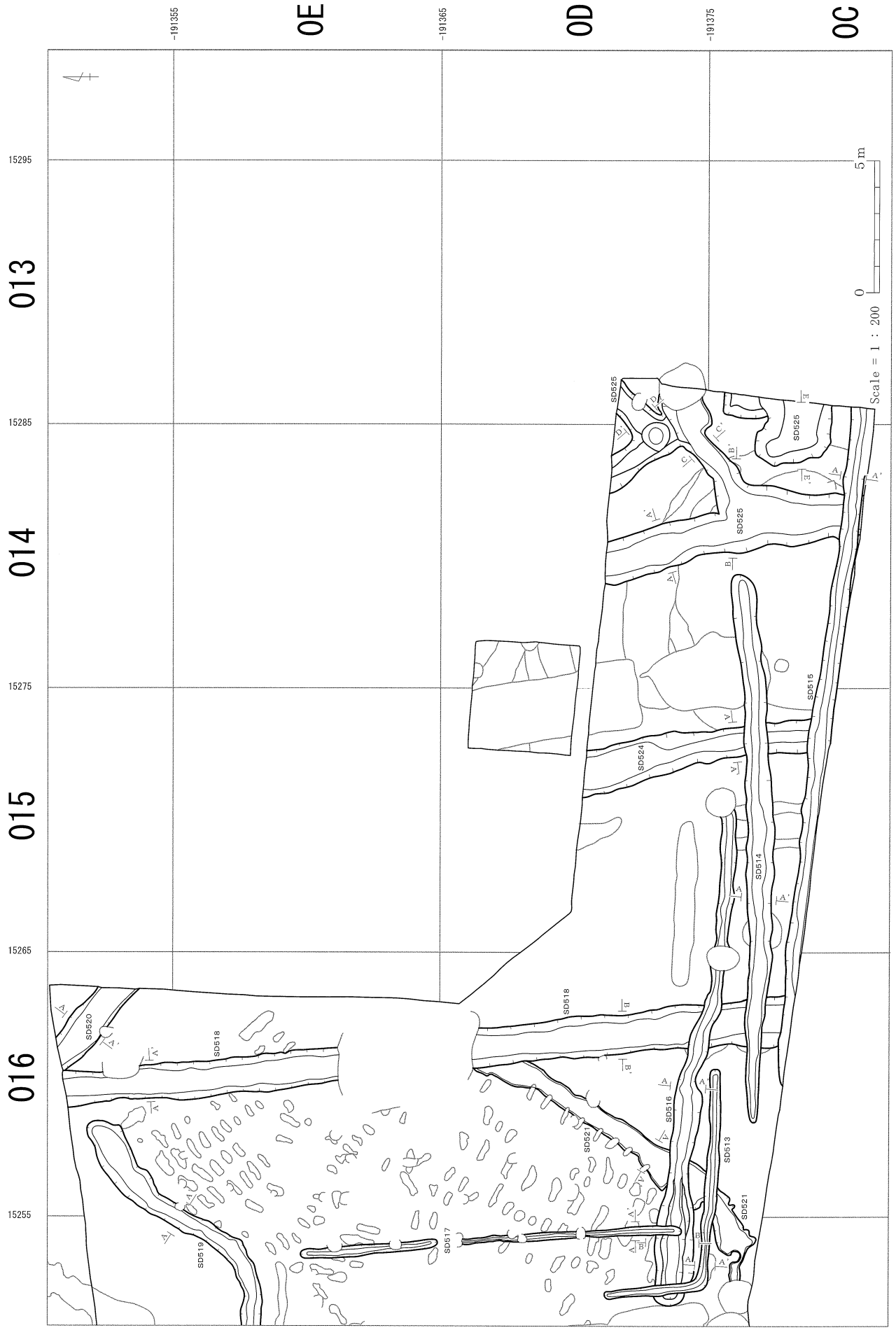
Scale = 1 : 120　0　5 m

第5－3図　13号墳平面図・断面図

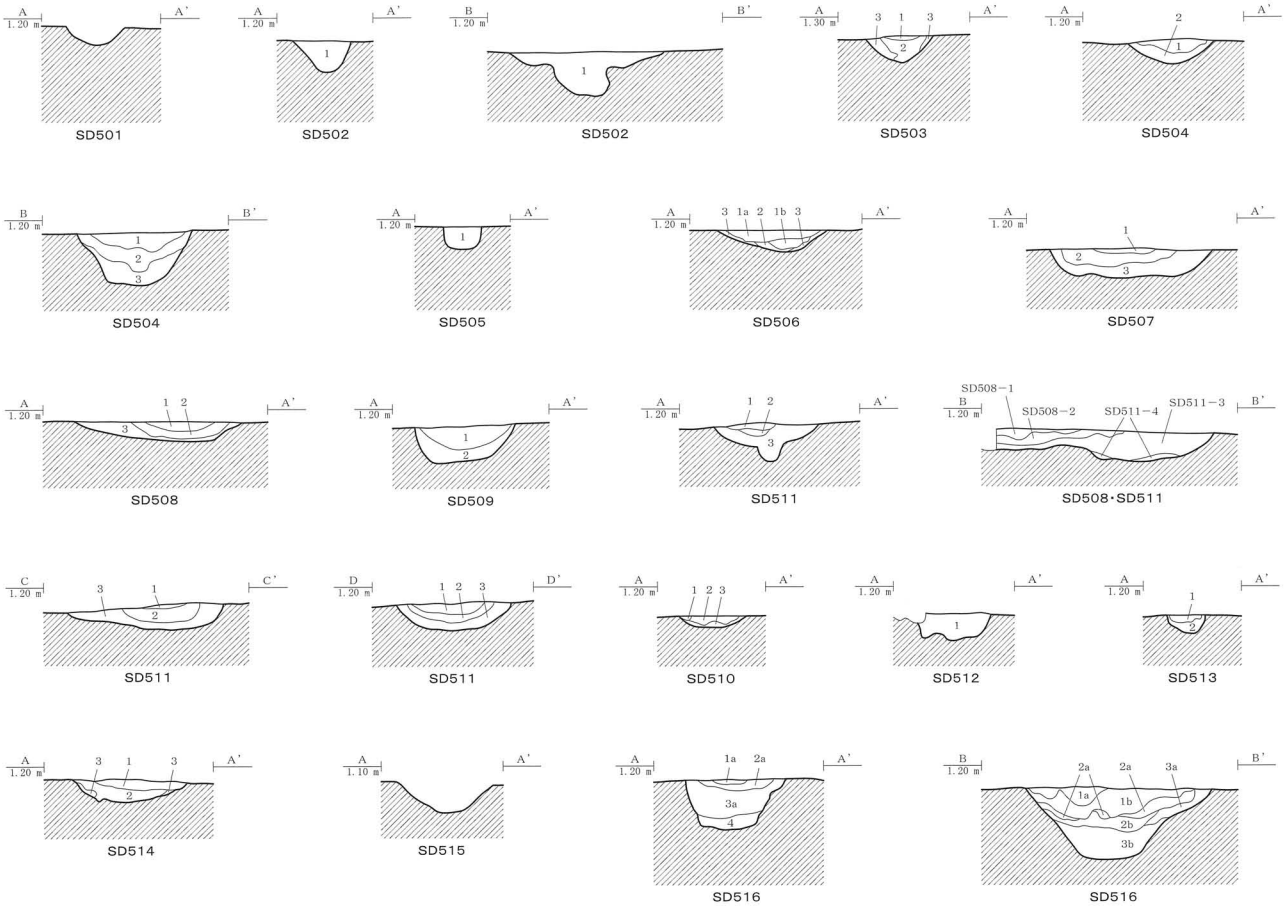


第５－４図　SD溝跡全体平面図

第５－５図　SD溝跡平面図(1)



第５－６図　SD溝跡平面図(2)



SD501　エレベーション（Ⅱ層上面）

SD502（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘質シルト	Ⅲ層ブロック、酸化鉄少量

SD503（Ⅱ層上面）

1	10YR4/4褐色	シルト	
2	10YR4/6褐色	シルト	暗褐色シルト
3	10YR5/6黄褐色	シルト質砂	

SD504（Ⅱ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト	酸化鉄
2	10YR2/2黒褐色	シルト	褐色砂と互層、酸化鉄極少量
3	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色シルト・黒色粘土と互層、酸化鉄少量

SD505（Ⅱ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト	酸化鉄少量

SD506（Ⅱ層上面）

1a	10YR3/4暗褐色	粘質シルト	酸化鉄少量
1b	10YR3/3暗褐色	粘質シルト	酸化鉄
2	10YR2/2黒褐色	粘土	
3	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	

SD507（Ⅱ層上面）

1	10YR3/4暗褐色	シルト	酸化鉄少量
2	10YR3/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂、酸化鉄少量
3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色(10YR5/3)砂

SD508（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘質シルト	酸化鉄少量
2	10YR2/2黒褐色	粘土	褐色砂
3	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	暗褐色(10YR3/3)粘土、にぶい黄褐色砂、褐色砂

SD509（Ⅱ層上面）

1	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色粘土質シルト、酸化鉄
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土質シルト少量

SD510（Ⅱ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト	酸化鉄
2	10YR2/1黒色	粘土	褐色砂
3	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	

SD511（Ⅱ層上面）

1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
2	10YR2/2黒褐色	粘土	灰白火山灰ブロック
3	10YR3/4暗褐色	粘土	黒褐色粘土、灰白火山灰小ブロック、酸化鉄
4	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

SD512（Ⅱ層上面）

1	10YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂、酸化鉄

SD513（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	
2	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	酸化鉄

SD514（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	シルト	
2	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	
3	10YR2/3黒褐色	シルト	褐色砂質シルト

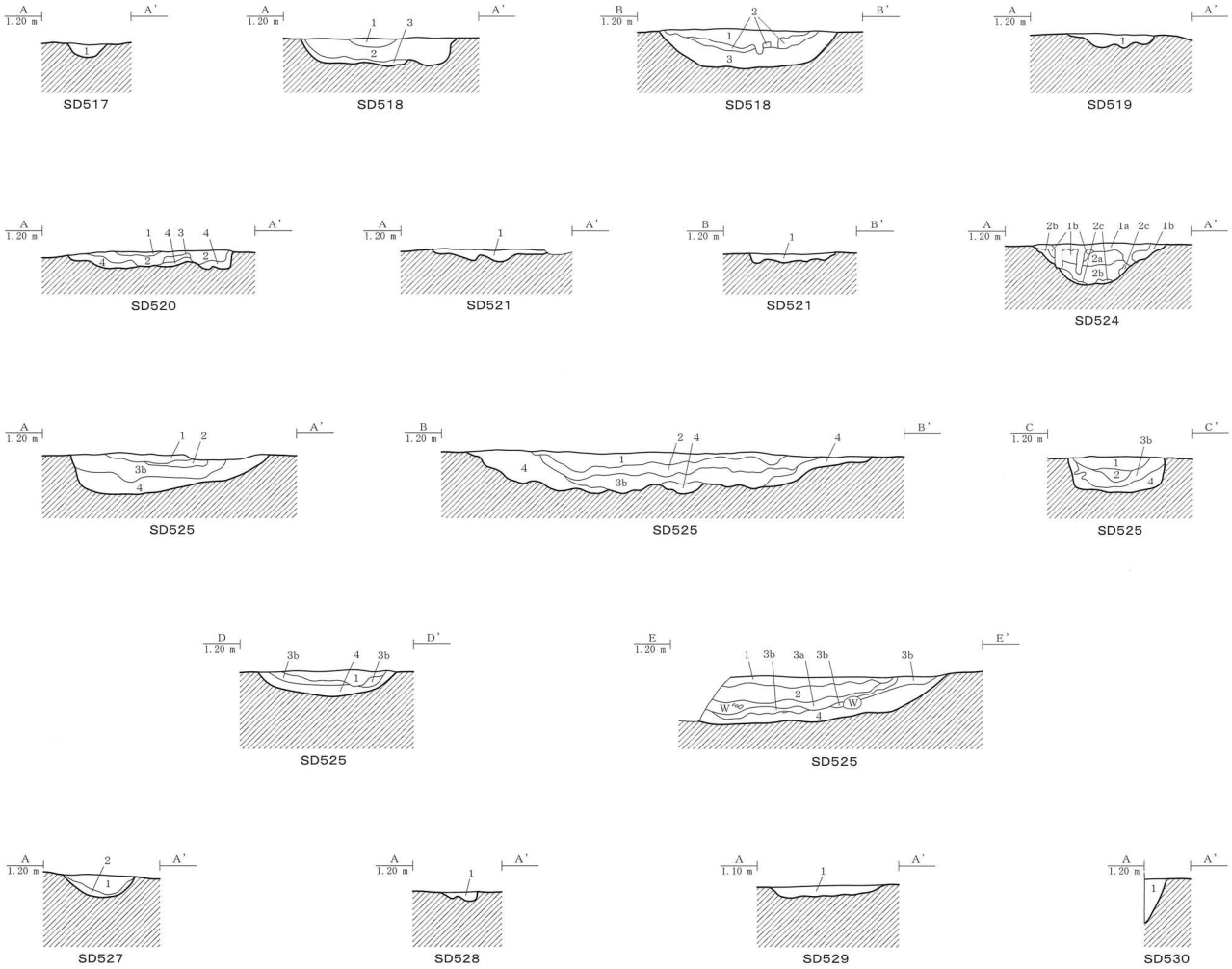
SD515　エレベーション（Ⅱ層上面）

SD516（Ⅱ層上面）

1a	10YR3/2黒褐色	シルト	
1b	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	
2a	10YR2/3黒褐色	シルト	
2b	10YR2/2黒褐色	粘土	
3a	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色シルト
3b	2.5YR3/1暗赤灰色	シルト質砂	
4	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第５－７図　SD溝跡断面図（1）



SD517（Ⅱ層上面）

1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	

SD518（Ⅱ層上面）

1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄少量
2	10YR2/2黒褐色	粘土	Ⅲ層ブロック
3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土ブロック

SD519（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土	

SD520（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	シルト	
2	10YR2/1黒色	シルト	
3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	黒色粘土質シルト
4	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

SD521（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土	Ⅲ層ブロック少量、灰白火山灰

SD524（Ⅱ層上面）

1a	10YR3/2黒褐色	シルト	
1b	10YR3/4暗褐色	シルト	
2a	10YR2/1黒色	粘土性シルト	Ⅲ層ブロック、炭化物
2b	10YR1.7/1黒色	粘土性シルト	炭化物
2c	10YR3/1黒褐色	シルト	

SD525（Ⅱ層上面）

1	10YR3/4暗褐色	シルト	酸化鉄少量
2	10YR3/3暗褐色	シルト	酸化鉄
3a	10YR2/1黒色	粘土	酸化鉄少量
3b	10YR4/4褐色	砂質シルト	黒色粘土と互層
4	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色粘土斑状

SD527（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	粘質シルト	酸化鉄少量
2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土小ブロック少量

SD528（Ⅱ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂、酸化鉄微量

SD529（Ⅱ層上面）

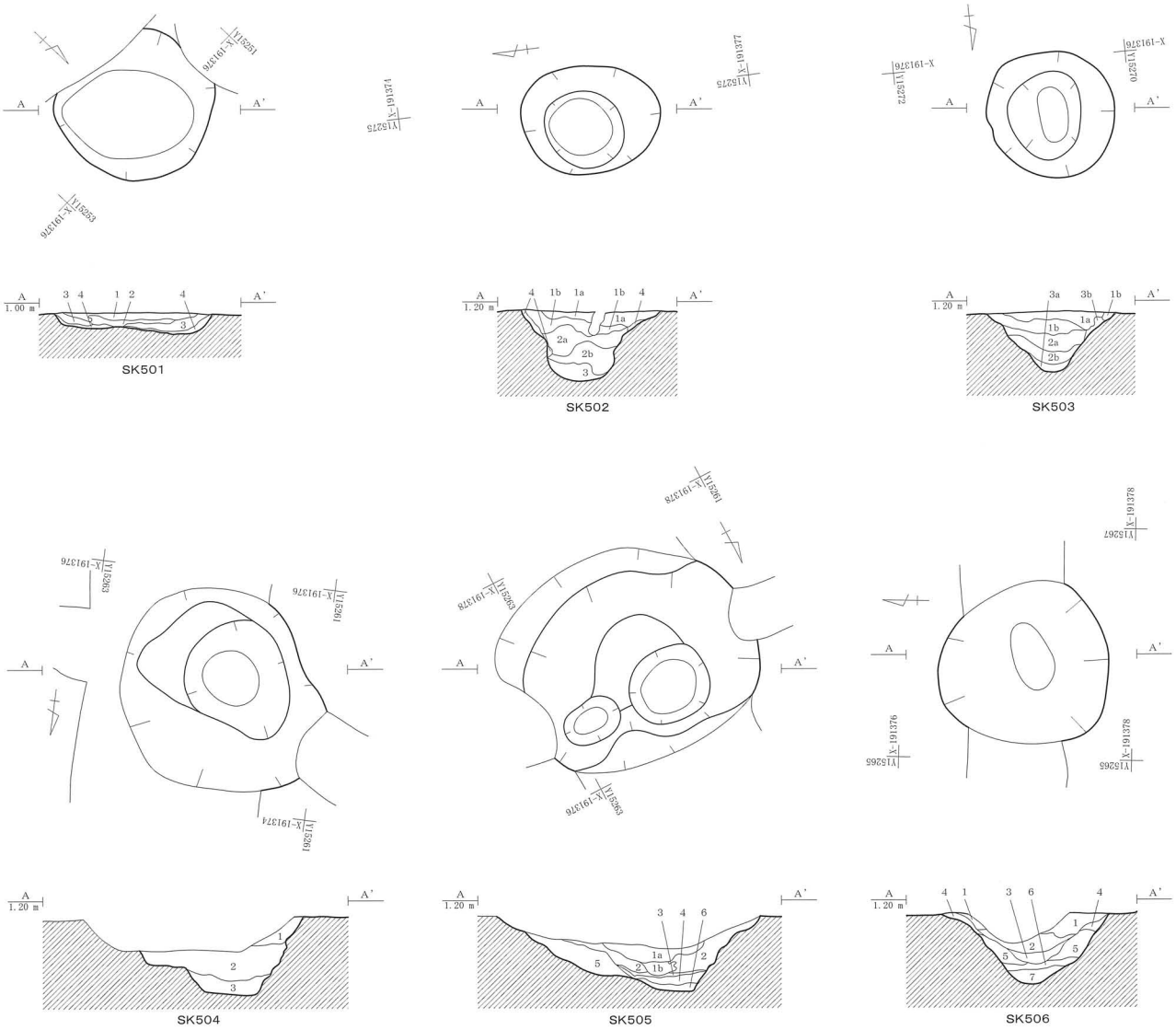
1	10YR2/3黒褐色	粘土	Ⅲ層ブロック

SD530（Ⅱ層上面）

1	10YR2/1黒色	粘土質シルト	褐色砂質シルトと互層

Scale = 1 : 60　0　2 m

第５－８図　SD溝跡断面図（２）



SK501（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	酸化鉄少量
2	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	
3	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	酸化鉄
4	10YR4/6褐色	シルト質砂	酸化鉄極少量

SK502（Ⅱ層上面）

1a	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	
1b	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅲ層ブロック少量
2a	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	Ⅲ層ブロック
2b	10YR2/1黒色	粘質シルト	
3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	
4	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

SK503（Ⅱ層上面）

1a	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	
1b	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅲ層ブロック少量
2a	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	酸化鉄
2b	10YR2/1黒色	砂質シルト	
3a	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	
3b	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

SK504（Ⅱ層上面）

1	10YR4/6褐色	シルト質砂	黒褐色砂質シルトと互層
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土と互層
3	5Y4/2灰オリーブ色	シルト質砂	

SK505（Ⅱ層上面）

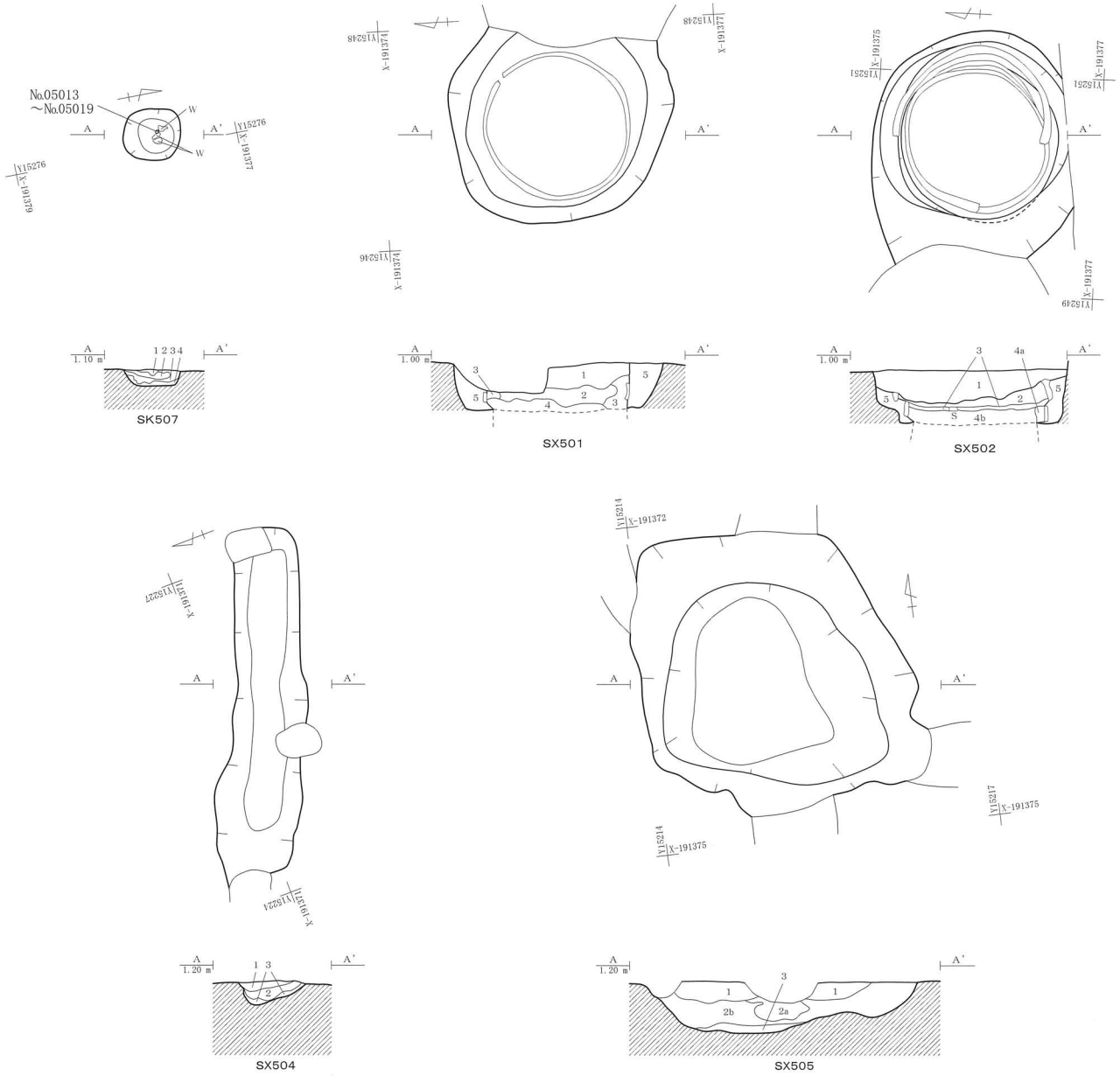
1a	10YR2/2黒褐色	粘土	
1b	10YR2/1黒色	粘土	
2	10YR2/2黒褐色	粘土	褐色砂
3	10YR1.7/1黒色	粘土	
4	7.5Y3/2オリーブ黒色	シルト質砂	
5	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	褐色砂
6	5Y4/2灰オリーブ色	シルト質砂	

SK506（Ⅱ層上面）

1	10YR3/4暗褐色	シルト	
2	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂
3	10YR2/1黒色	粘土	
4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
5	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂
6	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
7	10YR4/4褐色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第５－９図　SK土坑平面図・断面図（1）



SK507（Ⅱ層上面）

1	10YR5/6黄褐色	シルト質砂	
2	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	
3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土質シルトブロック
4	10YR4/4褐色	シルト質砂	酸化鉄少量

SX501（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック
2	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂極少量
3	10YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂
4	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	
5	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	黒色砂

SX502（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	粘質シルト	
2	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	
3	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	
4a	5GY5/1オリーブ灰色	シルト質砂	
4b	5Y3/1オリーブ黒色	シルト質砂	
5	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂

SX504（Ⅱ層上面）

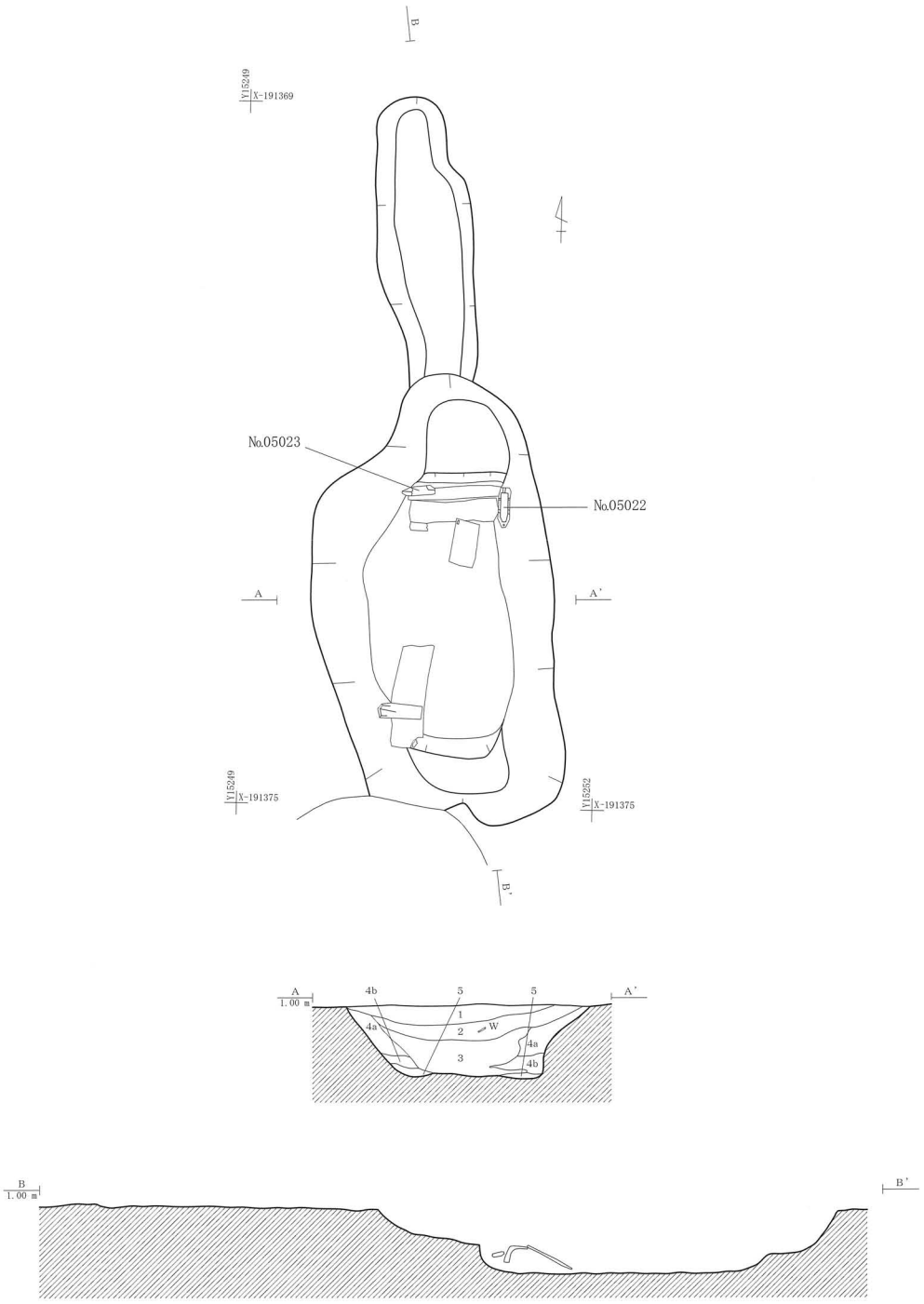
1	10YR3/3暗褐色	シルト	
2	10YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂
3	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂、灰白火山灰ブロック

SX505（Ⅱ層上面）

1	10YR5/6黄褐色	シルト	暗褐色粘土、にぶい黄褐色砂、酸化鉄
2a	10YR3/3暗褐色	シルト	酸化鉄
2b	10YR3/2黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂
3	10YR6/6明黄褐色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第5－10図　SK土坑平面図・断面図（2）　SX性格不明遺構平面図・断面図（1）

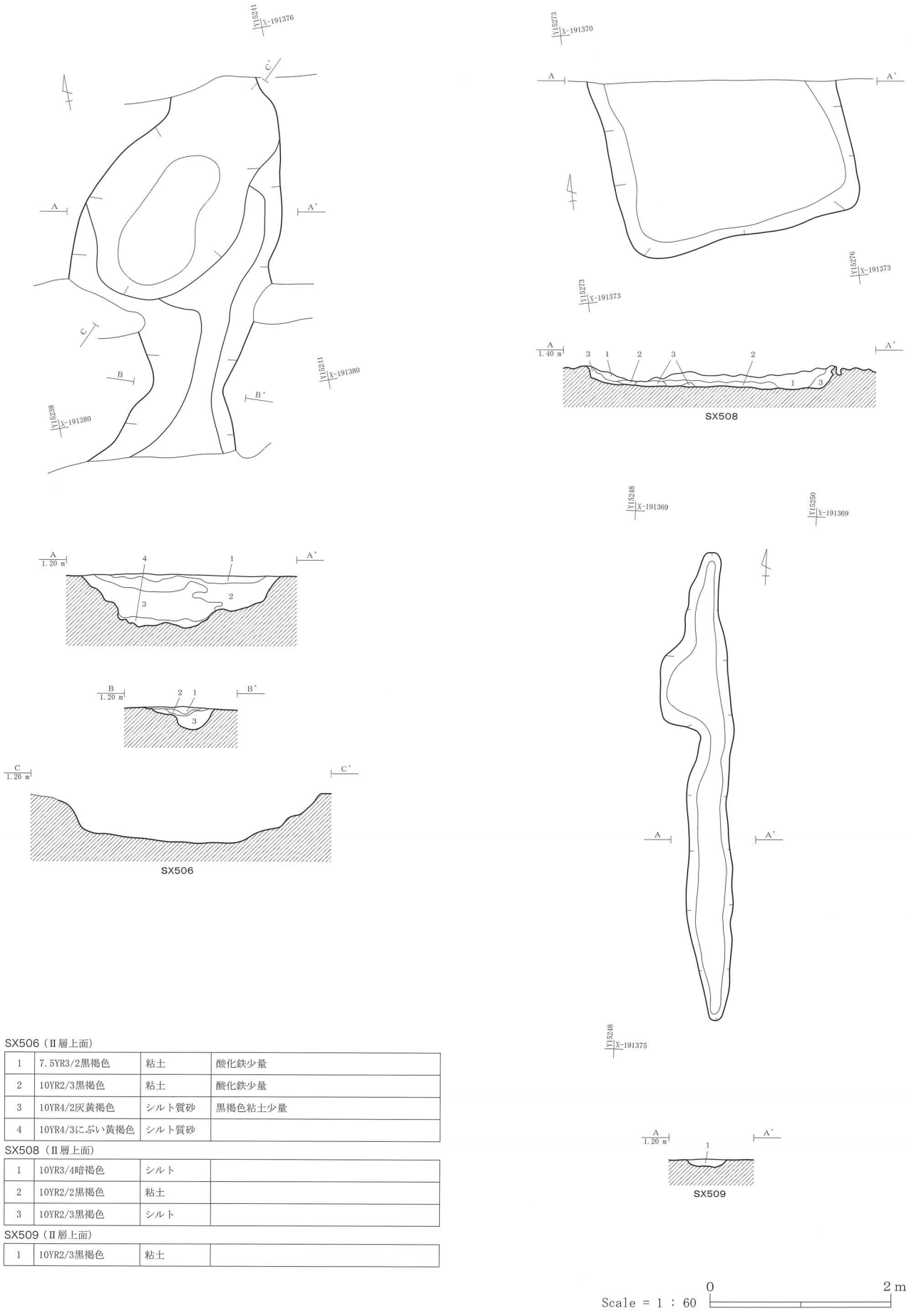


SX503（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	シルト	
2	7.5YR2/2黒褐色	粘土	
3	10YR2/2黒褐色	粘土	
4a	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	褐色砂、酸化鉄少量
4b	5G4/1暗緑灰色	シルト質砂	
5	10YR2/2黒褐色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第５－１１図　SX性格不明遺構平面図・断面図（２）



SX506（Ⅱ層上面）

1	7.5YR3/2黒褐色	粘土	酸化鉄少量
2	10YR2/3黒褐色	粘土	酸化鉄少量
3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土少量
4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

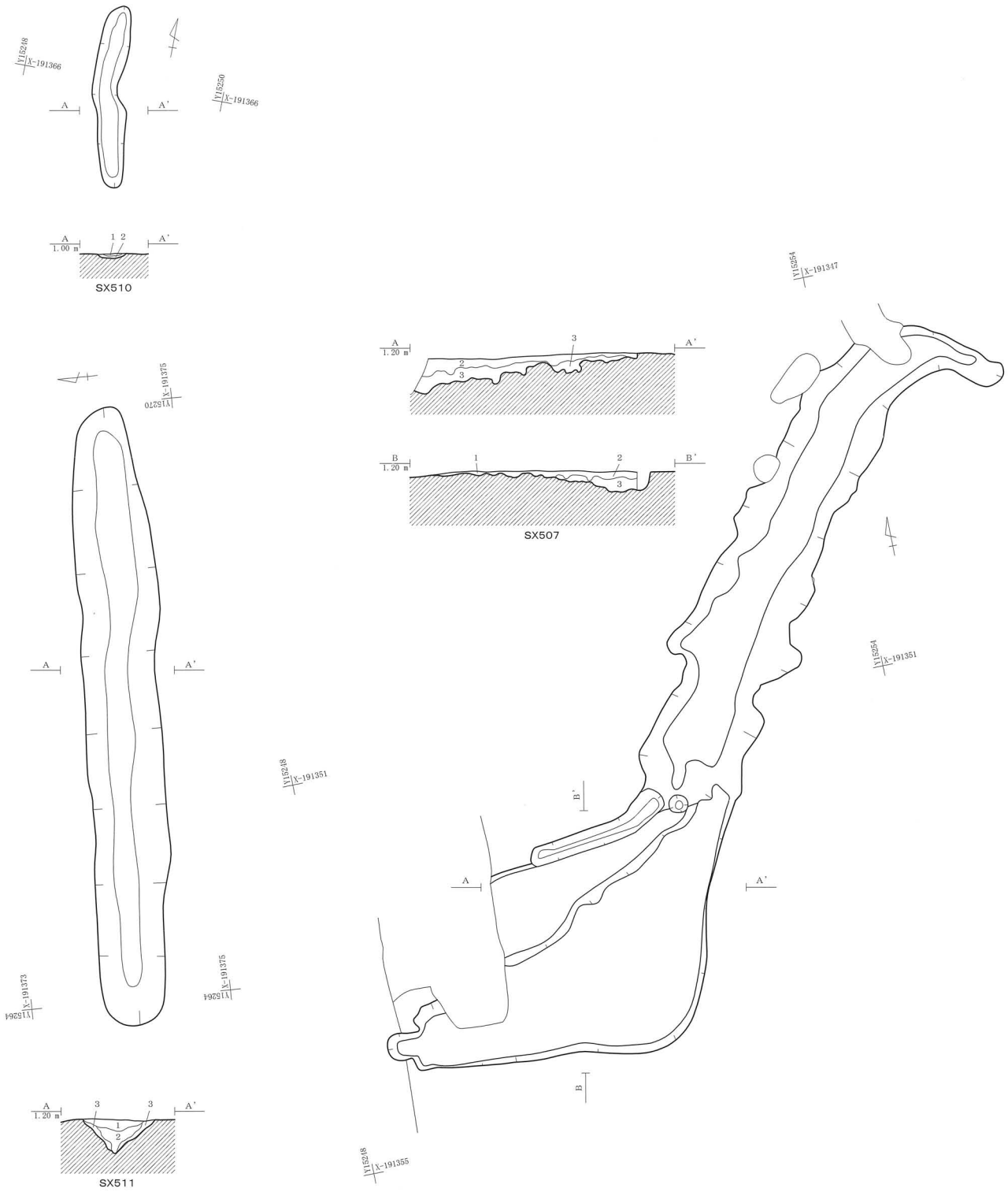
SX508（Ⅱ層上面）

1	10YR3/4暗褐色	シルト	
2	10YR2/2黒褐色	粘土	
3	10YR2/3黒褐色	シルト	

SX509（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土	

第５－１２図　SX性格不明遺構平面図・断面図（３）



SX507（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	
2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト
3	10YR3/1黒褐色	粘土	

SX510（Ⅱ層上面）

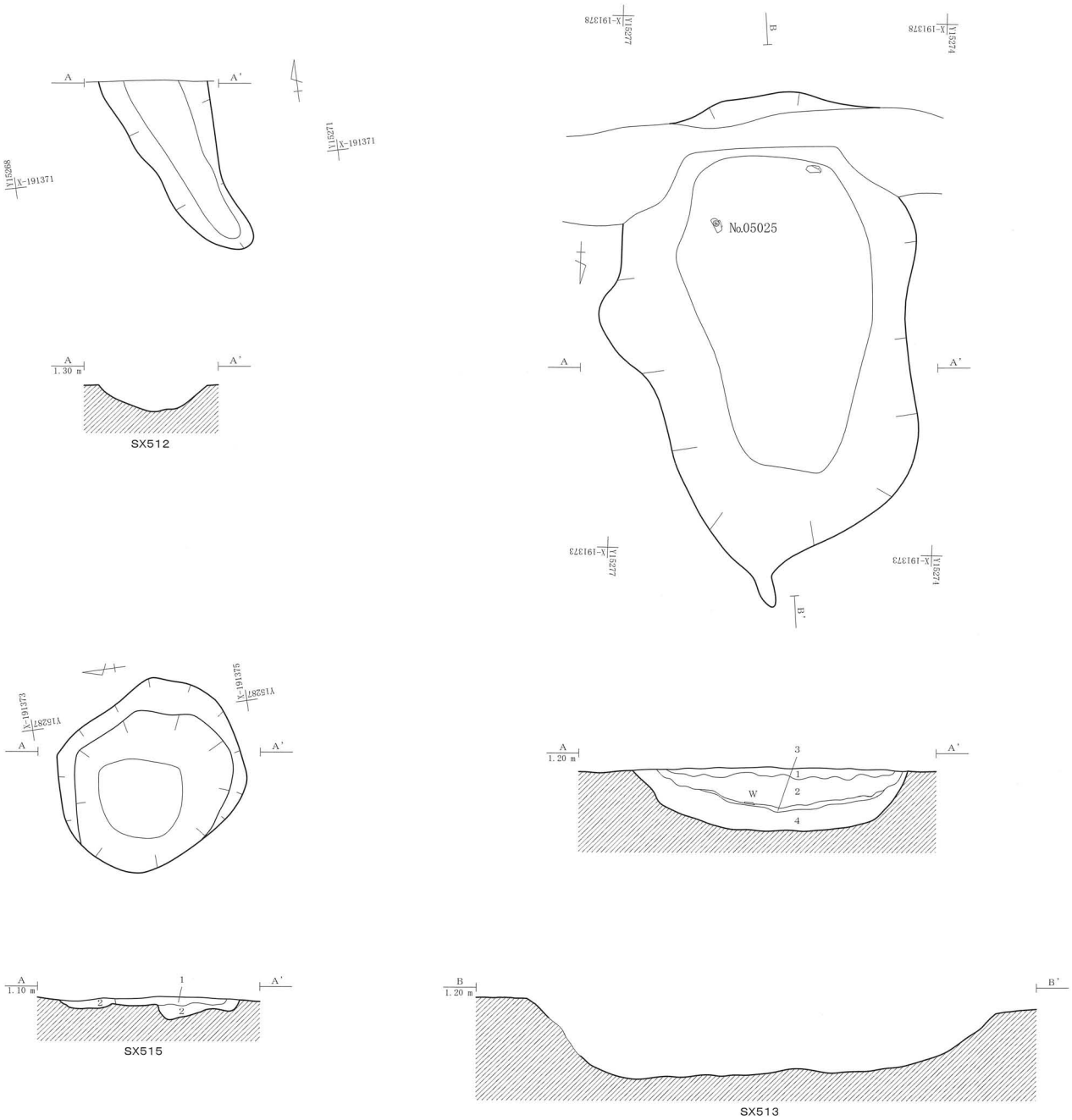
1	10YR2/2黒褐色	シルト	
2	10YR3/1黒褐色	粘土	

SX511（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	シルト	
2	10YR3/1黒褐色	シルト	
3	10YR2/3黒褐色	シルト	褐色砂質シルトと互層

Scale = 1 : 60　0　2 m

第５－１３図　SX性格不明遺構平面図・断面図（４）



SX512　エレベーション　（Ⅱ層上面）

SX513（Ⅱ層上面）

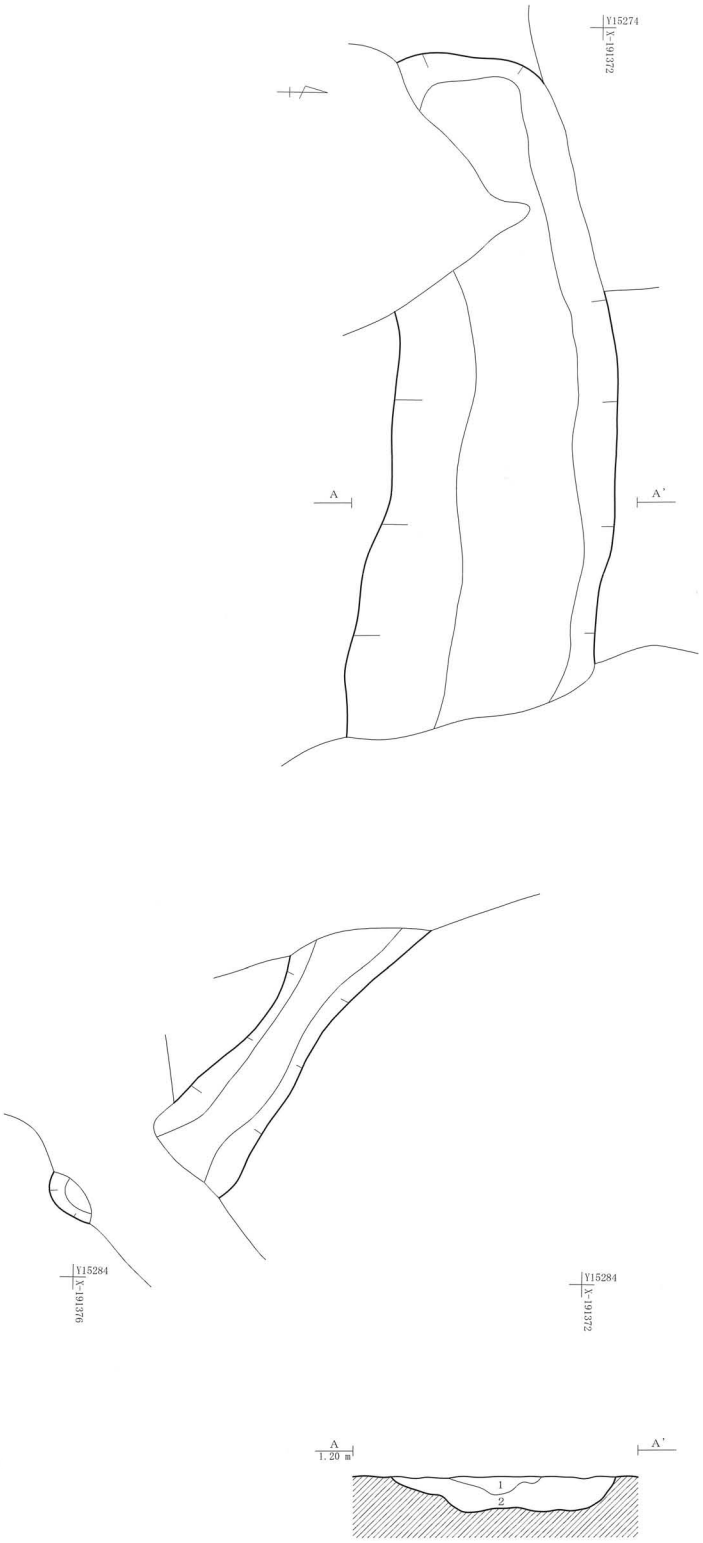
1	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	酸化鉄
2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	酸化鉄
3	10YR2/1黒色	粘土	
4	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	褐色砂、酸化鉄

SX515（Ⅱ層上面）

1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	上部酸化鉄
2	2.5Y6/3にぶい黄色	砂質シルト	黄灰色シルト、酸化鉄少量

Scale = 1 : 60　0　2 m

第５－１４図　SX性格不明遺構平面図・断面図(5)



SX514（Ⅱ層上面）

1	10YR2/2黒褐色	シルト	
2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土斑状

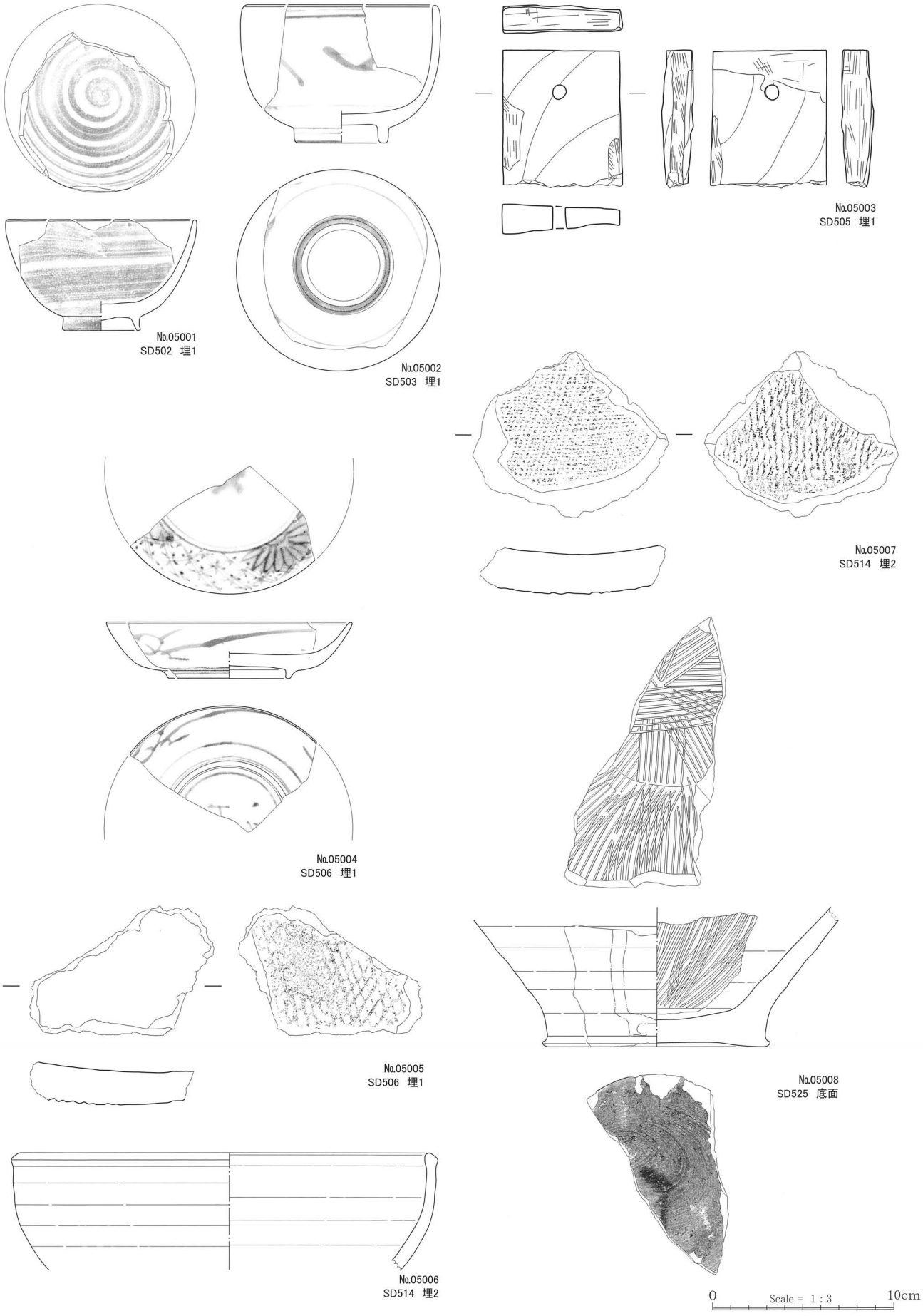
Scale = 1 : 60　0　2 m

第５－15図　SX性格不明遺構平面図・断面図(6)

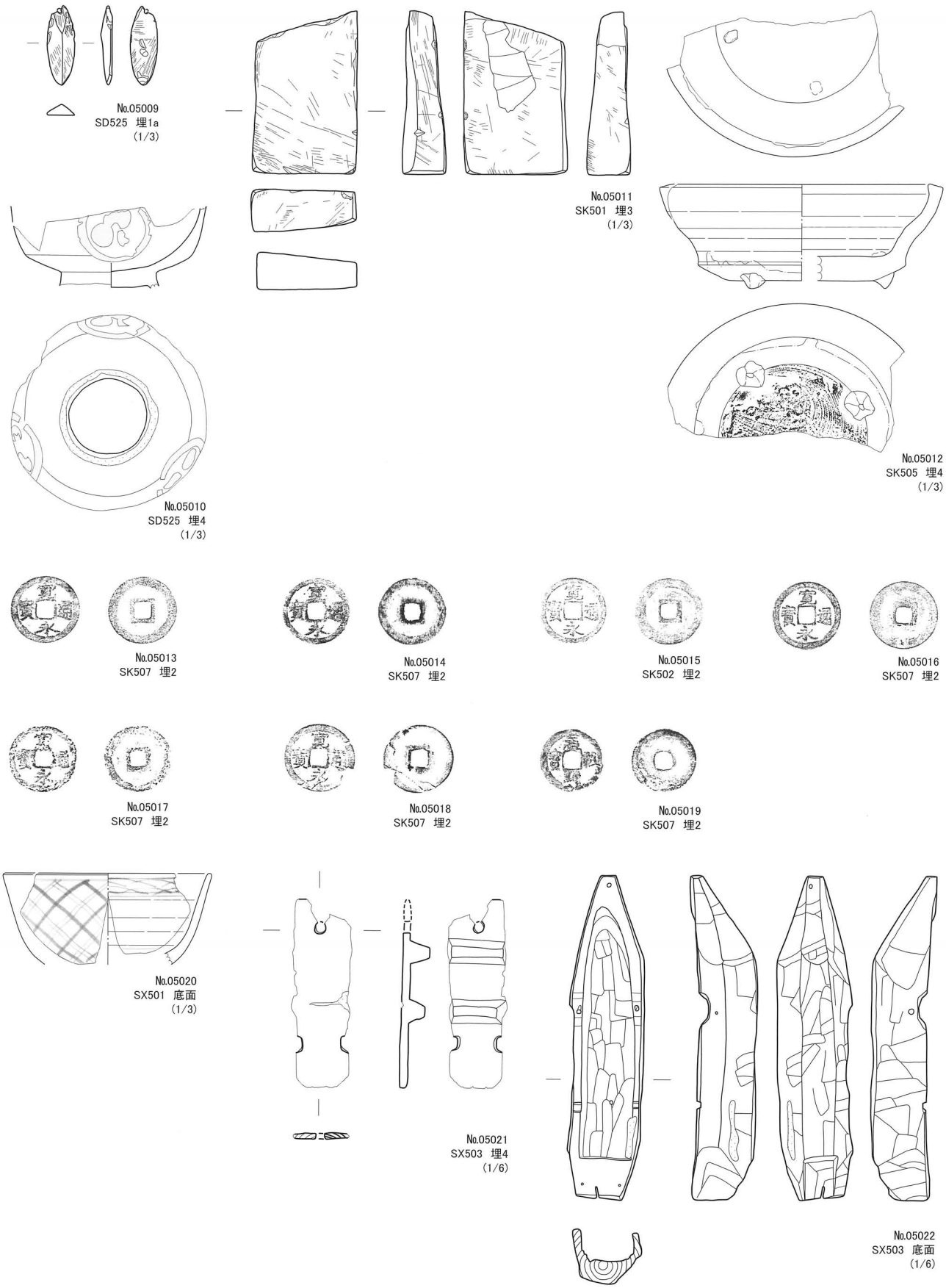
小溝状遺構群5次A群（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土	Ⅲ層ブロック・灰白火山灰小ブロック少量
2	10YR2/3黒褐色	粘土	Ⅲ層ブロック多量

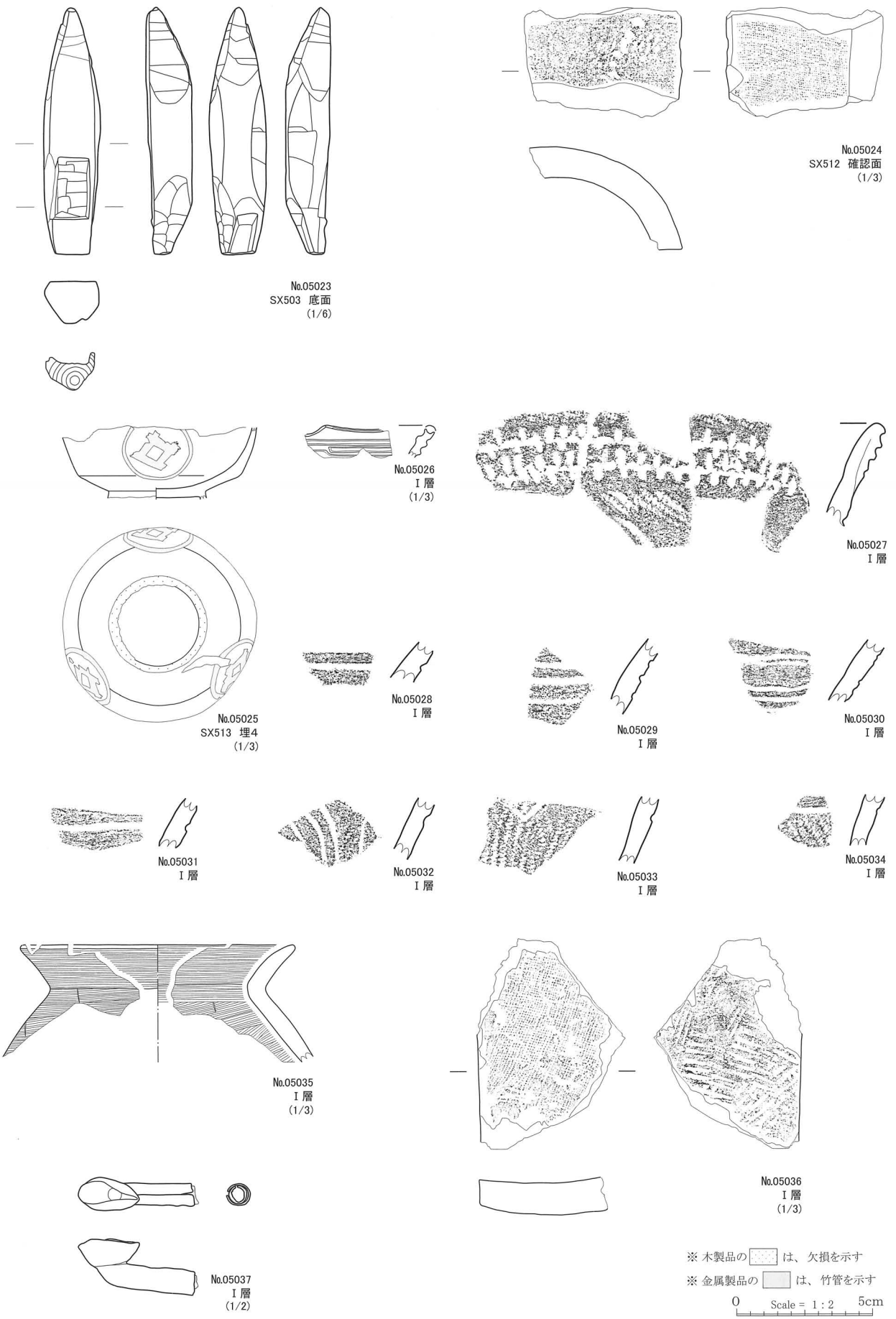
第５－16図　小溝状遺構群5次A群平面図・断面図



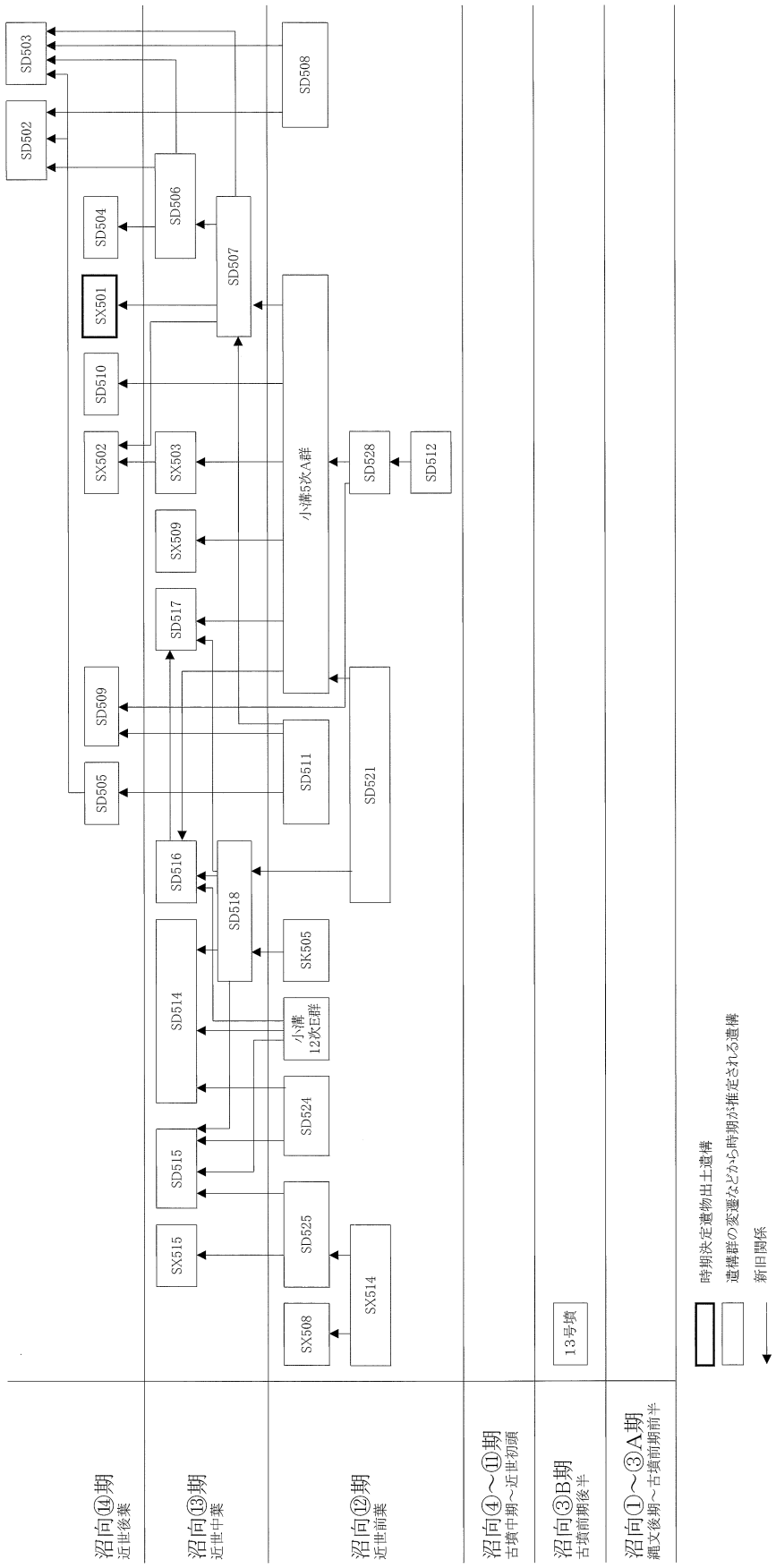
第5―17図　第5次調査出土遺物実測図



第5―18図　第5次調査出土遺物実測図



第5―19図　第5次調査出土遺物実測図



第５－２０図　第５次調査検出遺構時期別変遷模式図

第５－１表　古墳観察表

遺構番号	位置(Grid)	上端規模(m)	溝幅×深さ	埋葬施設	時期
13号墳	0C-014bcd・0C-015bc・0D-014cd 0D-015c	11.66×11.30m	0.74～1.76×0.16～0.40m	無	③B

第５－２表　ＳＤ溝跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	方向	全長(m)×上端幅(m)×深さ(m)	平面形・断面形	時期
SD501	0D-020abcd 0D-019d	N-83° -W	8.60×0.46×0.14m	直線・開いたU字状	⑭
SD502	0E-021c 0D-021bc 0C-021b	N- 5° -W	14.40×2.10×0.45m	直線・開いたU字状	⑭
SD503	0D-021c 0D-020ad 0C-021b 0C-020a	N- 3° -E	14.00×0.84×0.21m	直線・擂り鉢状	⑭
SD504	0D-018bc 0C-018bc	N- 4° -W	14.12以上×1.02×0.40m	直線・開いたU字状	⑭
SD505	0C-021b 0C-020ab	N-88° -W	12.50×0.38×0.20m	直線・コの字状	⑭
SD506	0D-021c 0D-020cd 0D-019d 0C-020b 0C-019ab 0C-018ab	N-87° -W	30.80以上×1.08×0.24m	屈曲・擂り鉢状	⑬
SD507	0D-022c 0D-021cd 0D-020cd 0D-019cd 0C-020b 0C-019ab 0C-018a	N-78° -W	36.00以上×1.65×0.27m	直線・開いたU字状	⑬
SD508	0D-021c 0C-021b 0C-020ab	N-80° -W	12.20以上×2.00×0.21m	屈曲・開いたU字状	⑫
SD509	0D-020b 0D-019ab	N-62° -W	6.40以上×1.06×0.31m	直線・開いたU字状	⑭
SD510	0D-019bcd 0D-018a	N-18° -E	11.00×0.78×0.09m	屈曲・開いたU字状	⑭
SD511	0D-020c 0D-019ad 0C-020b 0C-019abc 0C-018acd	N-78° -W	31.30×1.70×0.31m	屈曲・開いたU字状	⑫
SD512	0D-019abd	N-32° -E	5.43以上×0.72×0.22m	直線・開いたU字状	⑫
SD513	0D-017c 0D-016d 0C-017b 0C-016ab	N-87° -W	11.60×0.48×0.19m	屈曲・開いたU字状	⑬～⑭
SD514	0C-016ab 0C-015ab 0C-014a	N-88° -E	10.30以上×1.07×0.24m	直線・浅い擂り鉢状	⑬
SD515	0C-016b 0C-015ab 0C-014abcd 0C-013d	N-84° -W	20.60以上×0.44×0.29m	直線・開いたU字状	⑬
SD516	0D-017c 0D-016cd 0C-016b 0C-015ab	N-83° -W	18.70以上×1.45×0.61m	やや蛇行・開いたU字状	⑬
SD517	0E-017bc 0D-017bc	N- 4° -W	13.30×0.44×0.13m	直線・開いたU字状	⑬
SD518	0F-016cd 0E-016abcd 0D-016bc 0C-016b	N- 7° -E	27.20×1.60×0.28m	直線・開いたU字状	⑬
SD519	0F-016d 0E-017ab 0E-016a	N-55° -E	11.20以上×1.34×0.12m	蛇行・開いたU字状	⑫
SD520	0F-016c	N-51° -W	4.10以上×1.33×0.14m	直線・開いたU字状	⑫
SD521	0D-016abd 0C-017b 0C-016a	N-39° -E	12.64以上×1.32×0.10m	屈曲・開いたU字状	⑫
SD522	欠番				
SD523	欠番				
SD524	0D-015c 0C-015b	N- 9° -W	9.20以上×1.70×0.33m	直線・開いたU字状	⑫
SD525	0D-014cd 0D-013d 0C-014bc 0C-013a	N-12° -W	9.35以上×2.50×0.37m	分岐・開いたU字状	⑫
SD526	欠番				
SD527	0C-019b 0C-018ab	N-86° -W	11.00以上×0.74×0.19m	直線・開いたU字状	⑬
SD528	0D-019abd	N-26° -E	5.88以上×0.40×0.08m	やや湾曲・開いたU字状	⑫
SD529	0D-019bcd	N-30° -E	5.92以上×1.24×0.07m	直線・開いたU字状	⑫
SD530	0F-017d	N- 0° --	1.40以上×0.32以上×0.34m	不明・不明	⑫

第５－３表　ＳＫ土坑観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK501	0C-07b	N-42° -W	1.35×1.30×0.18m	不整円形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫～⑭
SK502	0C-016b 0C-015a	N- 2° -W	1.20×0.94×0.60m	楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑬～⑭
SK503	0D-015c 0C-015b	N- 5° -E	1.10×0.47×0.53m	不整円形・擂り鉢状	ほぼ平坦	⑬～⑭
SK504	0D-016c 0C-016b	N-50° -W	1.77以上×1.68×0.76m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫～⑬
SK505	0C-016b	N-88° -W	1.90以上×1.30以上×0.65m	不明・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫
SK506	0C-015a	N-68° -E	1.38以上×1.50×0.61m	不整円形・擂り鉢状	ほぼ平坦	⑫～⑬
SK507	0C-014a	N-11° -E	0.50×0.48×0.16m	隅丸方形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫～⑭

第５－４表　ＳＸ性格不明遺構観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SX501	0D-017d 0C-017a	N-33° -W	1.95×1.90×0.45m	不整円形・不明	－	⑭
SX502	0D-017c 0C-017ab	N-75° -W	2.02×1.88×0.50m	不整楕円形・不明	－	⑭
SX503	0D-017bcd 0C-017b	N- 8° -E	6.50×2.30×0.62m	不整形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑬
SX504	0D-020c 0D-019d	N-68° -W	3.10×0.80×0.22m	直線・開いたU字状	やや起伏	⑫～⑭
SX505	0D-021c 0D-020d	N- 7° -W	2.60×2.40×0.46m	不整形・開いたU字状	やや起伏	⑫～⑬

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SX506	0C-018abd	N-16° -E	4.28以上×2.20×0.74m	不整形・開いたU字状	起伏	⑫
SX507	0F-017bcd 0F-016a	N-36° -E	9.70以上×2.36以上×0.22m	屈曲・開いたU字状	起伏顕著	⑫
SX508	0D-015c 0D-014d	N-10° -W	1.76以上×2.68×0.23m	方形・竪穴状	ほぼ平坦	⑫
SX509	0D-017ad	N- 3° -W	5.20×0.78×0.09m	直線・開いたU字状	やや起伏	⑬
SX510	0D-014a	N-10° -E	1.80×0.30×0.05m	直線・開いたU字状	平坦	⑫～⑭
SX511	0D-016c 0D-015d	N-88° -W	6.20×0.80×0.34m	直線・V字状	やや起伏	⑫～⑭
SX512	0D-015cd	N-23° -W	1.80×1.00×0.25m	直線・擂り鉢状	ほぼ平坦	⑫～⑭
SX513	0D-015c 0D-014d 0C-015b 0C-014a	N- 0° --	4.80×2.84×0.58m	不整楕円形・開いたU字状	やや起伏	⑫
SX514	0D-015c 0D-014cd 0C-014b	N-83° -E	10.60×1.83×0.28m	湾曲・開いたU字状	やや起伏	⑫
SX515	0D-013d	N-23° -W	1.77×1.47×0.20m	不整円形・開いたU字状	起伏顕著	⑬

第５－５表　小溝状遺構群観察表

遺構番号	位置(Grid)	東西(m)×南北(m)	溝	面積	底面	時期
5次A群	0C-016a 0C-017ab 0C-018b 0D-016abd 0D-017abcd 0D-018abcd 0D-019abcd 0E-016abd 0E-017abcd 0E-018abcd 0E-019c 0F-016d 0F-017c	36.00以上×25.60m	265条	533.9㎡以上	ほぼ平坦	⑫

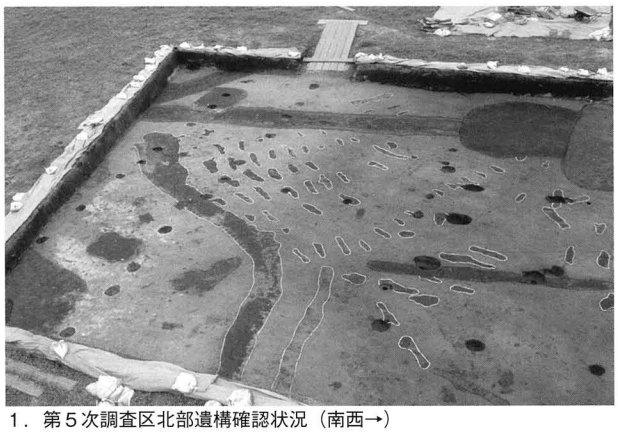
第５－６表　遺物出土数量表

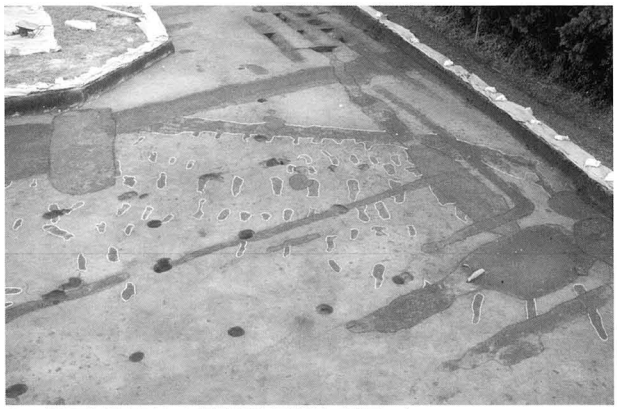
遺構名・基本層	層位	縄文・弥生土器	製塩土器	土師器		須恵器	土師質土器	陶磁器	土製品	瓦	石器	石製品	砥石	礫	金属製品	木製品	自然木	その他	計	備考
				非ロクロ	ロクロ															
13号墳	埋土	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
SD501	埋土	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
SD502	埋土	0	0	1	0	0	0	10	0	1	0	0	0	3	2	0	0	0	17	
SD503	埋土	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	8	
SD504	埋土	0	0	2	0	0	0	8	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	12	
SD505	埋土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	9	
SD506	埋土	0	0	0	0	0	0	42	1	0	0	1	0	10	1	0	0	1	56	
SD507	埋土	0	0	0	0	4	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	9	
SD508	埋土	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	５次調査区内出土数
SD513	埋土	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	５次調査区内出土数
	底面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	
SD514	埋土	0	0	1	0	0	0	23	0	1	0	0	2	26	3	0	0	0	56	
SD515	埋土	0	0	4	0	2	0	17	0	1	0	0	1	6	3	0	0	0	34	
SD516	埋土	0	0	4	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	9	
SD518	埋土	0	0	23	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	
SD519	埋土	14	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	
SD521	埋土	1	0	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11	
SD524	埋土	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
SD525	埋土	1	0	0	0	1	0	4	0	1	0	0	2	21	0	1	0	0	31	
	底面	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SK501	埋土	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	4	
SK505	埋土	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
SK507	埋土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	24	31	
SX501	埋土	1	0	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
SX501	底面	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SX502	埋土	0	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	1	0	1	0	0	2	10	
SX503	埋土	7	0	3	0	0	0	15	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	31	
	底面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
SX505	埋土	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	7	
SX507	埋土	0	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
SX508	埋土	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SX509	埋土	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SX512	埋土	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SX513	埋土	1	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	27	
SX514	埋土	13	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	
小溝群5次A群	埋土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
Ⅰ層	-	7	0	47	0	4	2	143	1	2	1	5	3	84	22	0	0	41	362	
合計		55	0	112	1	18	3	328	4	9	1	6	16	170	41	6	0	70	840	

第５－７表　遺物観察表

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第5-17図 No.05001	05I-001	SD502	埋1	陶器	中碗	6.2	(10.4)	4.2	-	ロクロ　削り高台　外：刷毛目　内：刷毛目 肥前　17c.末～18c.後	-	5-6
第5-17図 No.05002	05I-002	SD503	埋1	陶器	中碗	7.7	(10.4)	5.0	-	ロクロ　削り高台　外：山水文　内：- 肥前（波佐見）　17c.後～18c.後	-	5-6
第5-17図 No.05003	05Kg-015	SD505	埋1	石製品	温石	残存 7.7	6.5	1.8	149	貫通孔径：0.7ｃｍ　硯の転用　石材：片岩	-	5-6
第5-17図 No.05004	05J-001	SD506	埋1	磁器	小皿	3.2	(13.4)	(6.7)	-	ロクロ　削り高台　見込：五弁花(コンニャク印判)　外：唐草文　内：四方障地半菊文散し　肥前（波佐見）　17c.末～18c.前	-	5-6
第5-17図 No.05005	05H-003	SD507	埋2	瓦	平瓦	残存 7.0	残存 8.7	2.0	残存 139	凸面：斜め縄叩き目→叩き目のツブレ　凹面：ナデ 一枚作り	A類	5-6
第5-17図 No.05006	05I-003	SD514	埋2	陶器	中鉢	残存 6.5	(22.5)	欠損	-	ロクロ　外：-　内：- 堤？　18c.	-	5-6
第5-17図 No.05007	05H-002	SD514	埋2	瓦	平瓦	残存 9.0	残存 10.2	2.2	残存 198	凸面：斜め縄叩き目　凹面：布目 一枚作り	C類	5-6
第5-17図 No.05008	05I-004	SD525	底面	陶器	擂鉢	残存 7.8	欠損	(12.4)	-	ロクロ　回転糸切底　外：-　内：櫛目 岸窯系　18c.前	-	5-6
第5-18図 No.05009	05Ke-001	SD525	埋1a	石製品	石製模造品	残存 4.3	1.5	0.6	残存 4.4	剣形　貫通孔径：(0.2)ｃｍ　上部欠損　石材：粘板岩	-	5-6
第5-18図 No.05010	05L-001	SD525	埋4	木製品	漆器椀	4.4	-	-	-	内：赤　外：黒　文様：赤　体部文様：丸に州浜　樹種：ブナ属	-	5-6
第5-18図 No.05011	05Kg-001	SK501	埋3	石製品	砥石	8.8	5.6	2.3	153	石材：砂岩	-	5-6
第5-18図 No.05012	05I-005	SK505	埋4	陶器	香炉	5.6	(13.7)	(8.0)	-	ロクロ　回転糸切底　外：-　内：-　足貼付（2），見込目跡（2）　岸窯系　17c.前	-	5-6
第5-18図 No.05013	05N-007	SK507	埋2	金属製品	寛永通寶	銭径 2.5	内径 2.0	厚さ 0.1	3.2		-	5-6
第5-18図 No.05014	05N-008	SK507	埋2	金属製品	寛永通寶	銭径 2.4	内径 2.0	厚さ 0.1	2.5		-	5-6
第5-18図 No.05015	05N-009	SK507	埋2	金属製品	寛永通寶	銭径 2.4	内径 2.0	厚さ 0.1	3.4		-	5-6
第5-18図 No.05016	05N-010	SK507	埋2	金属製品	寛永通寶	銭径 2.5	内径 2.0	厚さ 0.1	2.3		-	5-6
第5-18図 No.05017	05N-011	SK507	埋2	金属製品	寛永通寶	銭径 2.4	内径 2.0	厚さ 0.1	2.7		-	5-6
第5-18図 No.05018	05N-012	SK507	埋2	金属製品	寛永通寶	銭径 2.5	内径 2.0	厚さ 0.1	2.1		-	5-6
第5-18図 No.05019	05N-013	SK507	埋2	金属製品	元祐通寶	銭径 2.3	内径 1.8	厚さ 0.1	2.8		-	5-6
第5-18図 No.05020	05J-002	SX501	底面	磁器	中碗	残存 5.0	(11.1)	欠損	-	ロクロ　外：格子文　縁内：波文 肥前　19c.前～後	-	5-6
第5-18図 No.05021	05L-004	SX503	埋4	木製品	下駄	残存 20.3	残存幅 6.2	残存高 2.9	-	木取り：板目　樹種：ケヤキ	Ⅰ1類	5-7
第5-18図 No.05022	05L-005	SX503	底面	木製品	舟形木製品	35.4	8.4	7.2	-	木取り：芯持ち材　樹種：スギ	-	5-7
第5-19図 No.05023	05L-006	SX503	底面	木製品	舟形木製品	27.6	6.0	4.8	-	木取り：芯持ち材　樹種：スギ	-	5-7
第5-19図 No.05024	05H-004	SX512	確認面	瓦	丸瓦	残存 6.0	残存 9.9	1.7	残存 133	凸面：縄叩き→ナデ　凹面：粘土紐痕→布目 側縁有	-	5-7
第5-19図 No.05025	05L-002	SX513	埋4	木製品	漆器椀	残存 4.3	-	-	-	内：赤　外：黒　文様：赤　体部文様：隅立て井筒か井桁 樹種：ブナ属	-	5-7
第5-19図 No.05026	05A-001	Ⅰ層 0D-019(a)	-	縄文 土器	浅鉢 口縁部	残存 1.7	-	-	-	口縁：突起　口唇：沈線　外：隆起・匹字文　内：沈線	①B４期	5-7
第5-19図 No.05027	05B-001	Ⅰ層 0F-016(d)	-	弥生 土器	深鉢 口縁部	残存 3.8	-	-	-	口唇：縄文　外口縁：平行沈線→刺突文(肥厚)　外体：RL縄文→沈線文　内：ナデ	②C１期	5-7
第5-19図 No.05028	05B-002	Ⅰ層 Grid不明	-	弥生 土器	深鉢 体部	残存 1.5	-	-	-	外：平行沈線文　内：(剥落)	②C１～C３期	5-7
第5-19図 No.05029	05B-003	Ⅰ層 0F-016(d)	-	弥生 土器	深鉢 体部	残存 2.8	-	-	-	外：平行沈線文　内：ナデ	②C１～C３期	5-7
第5-19図 No.05030	05B-004	Ⅰ層 0F-016(d)	-	弥生 土器	深鉢 体部	残存 2.3	-	-	-	外：沈線文　内：(剥落)	②C１～C３期	5-7
第5-19図 No.05031	05B-005	Ⅰ層 0F-016(d)	-	弥生 土器	深鉢 体部	残存 1.8	-	-	-	外：沈線文　内：(剥落)	②C１～C３期	5-7
第5-19図 No.05032	05B-006	Ⅰ層 0F-016(d)	-	弥生 土器	深鉢 体部	残存 2.3	-	-	-	外：RL縄文→沈線文　内：ナデ	②C１～C３期	5-7
第5-19図 No.05033	05B-007	Ⅰ層 0F-016(d)	-	弥生 土器	深鉢 体部	残存 2.4	-	-	-	外：RL縄文→沈線文　内：ナデ	②C１～C３期	5-7
第5-19図 No.05034	05B-008	Ⅰ層 0F-016(d)	-	弥生 土器	深鉢 体部	残存 2.0	-	-	-	外：RL縄文→沈線文　内：ナデ	②C１～C３期	5-7
第5-19図 No.05035	05C-001	Ⅰ層 0E-017	-	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部上半	残存 6.4	(14.9)	-	-	外：ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ（体）→ヨコナデ(口)	CⅡb1y類	5-7
第5-19図 No.05036	05H-001	Ⅰ層 0F-016(c)	-	瓦	平瓦	残存 11.4	残存 8.0	1.7	残存 167	凸面：平行叩き目→ナデ　凹面：布目 一枚作り　側縁有	B類	5-7
第5-19図 No.05037	05N-006	Ⅰ層 Grid不明	-	金属 製品	煙管 雁首	4.4	火皿 (1.2)	小口 (0.8)	5.6		V類	5-7

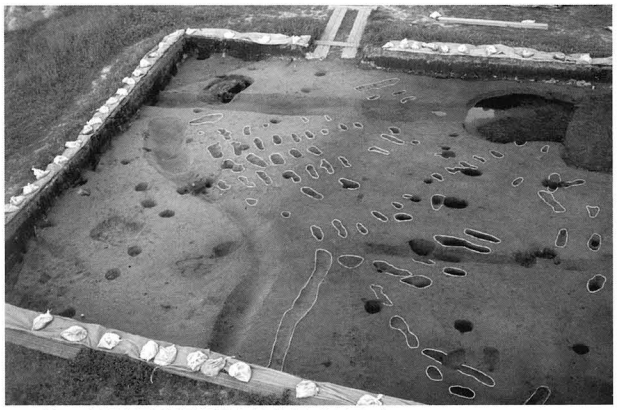
単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）


1．第５次調査区北部遺構確認状況（南西→）

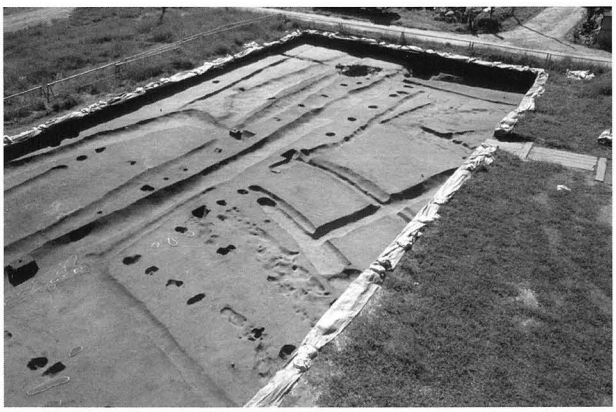

2．第５次調査区中央部遺構確認状況（北西→）

3．第５次調査区西部遺構確認状況（北東→）

4．第５次調査区東部遺構確認状況（北西→）

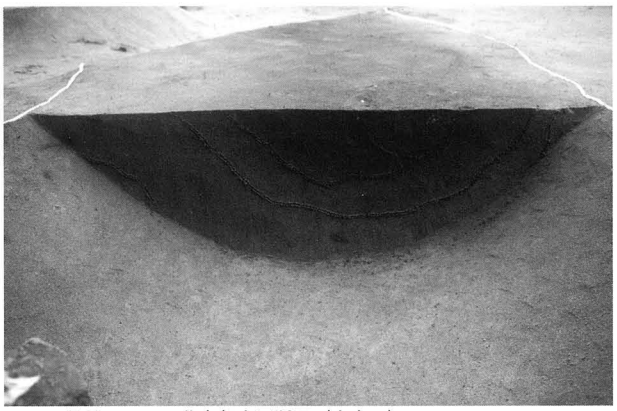

5．第５次調査区北部遺構完掘状況（南西→）

6．第５次調査区中央部完掘状況（北西→）


7．第５次調査区西部完掘状況（北東→）

8．第５次調査区東部遺構完掘状況（北西→）

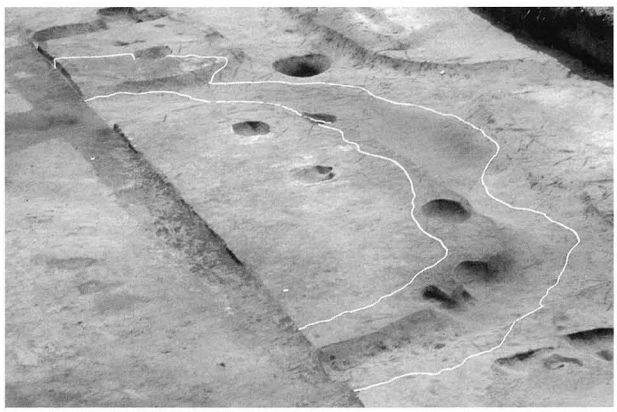
第５次調査　写真図版-１



１．13号墳Ａベルト北東部土層断面（南東→）

２．13号墳Ｂベルト北西部土層断面（南東→）

３．13号墳北半部完掘状況（北→）



４．13号墳南半部確認状況（北西→）

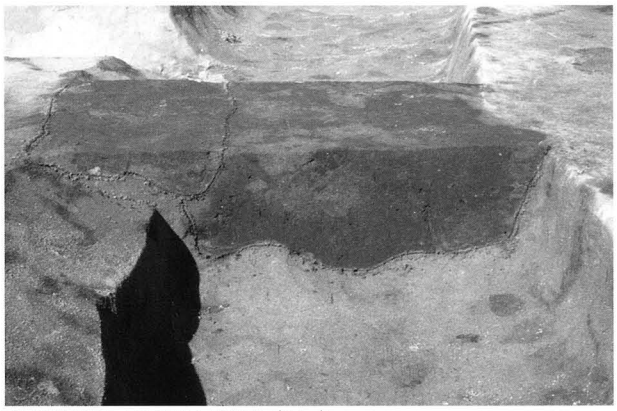
５．13号墳南半部完掘状況（北西→）

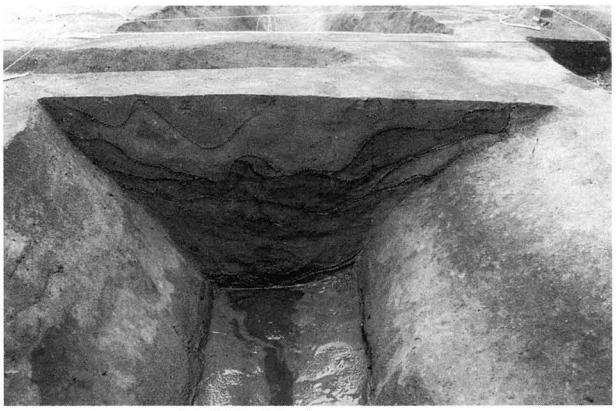
第５次調査　写真図版-２

1．SD506完掘状況（西→）

2．SD507土層断面（東→）

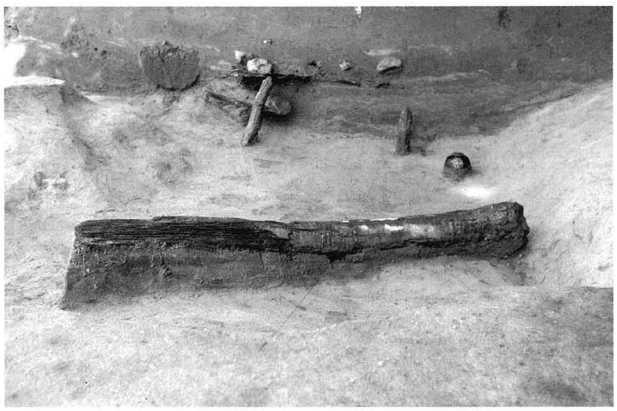
3．SD511Aベルト土層断面（北→）


4．SD512・SD528土層断面（南→）


5．SD516Bベルト土層断面（西→）

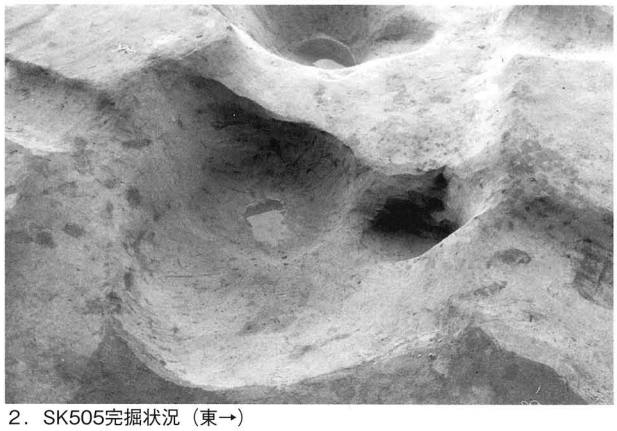
6．SD525Eベルト土層断面（北→）

7．SD525完掘状況（南→）


8．SD525遺物出土状況（西→）

第５次調査　写真図版-３

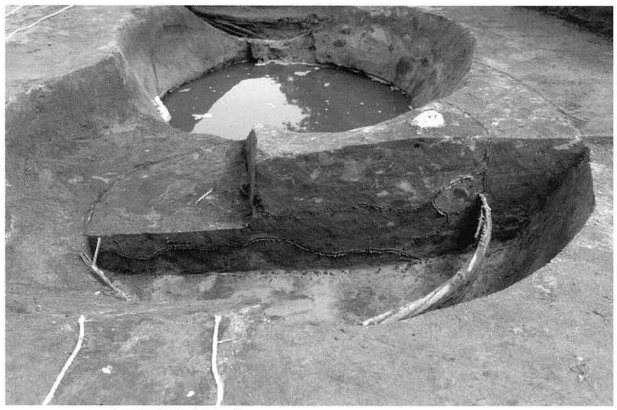
1．SK505土層断面（北東→）

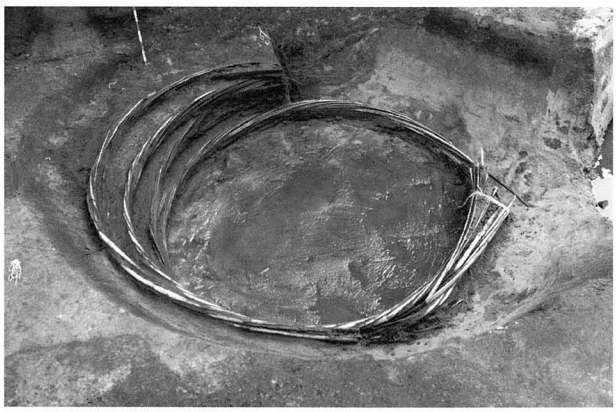

2．SK505完掘状況（東→）

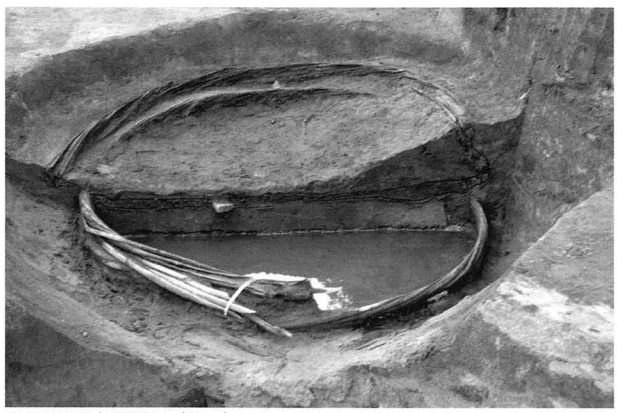
3．SK507土層断面（東→）

4．SK507遺物出土状況（東→）

5．SK507完掘状況（東→）


6．SX501土層断面（西→）


7．SX501遺物出土状況（北→）

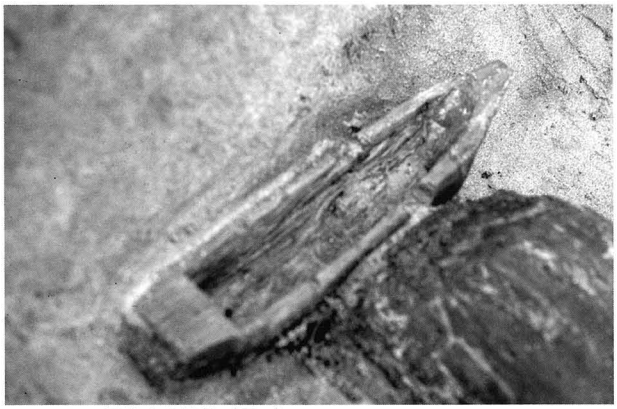

8.SX502土層断面（西→）

第５次調査　写真図版-４

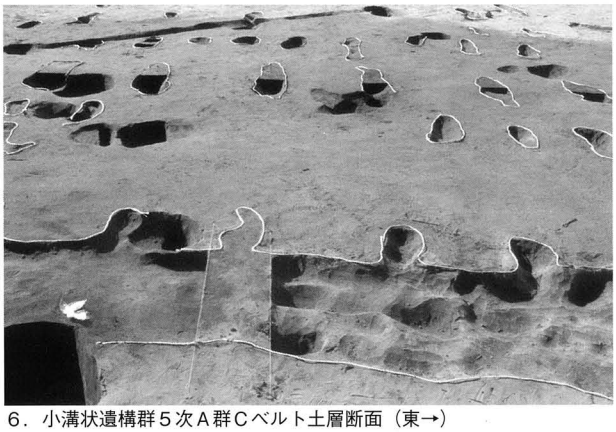
1．SX502完掘状況（北→）

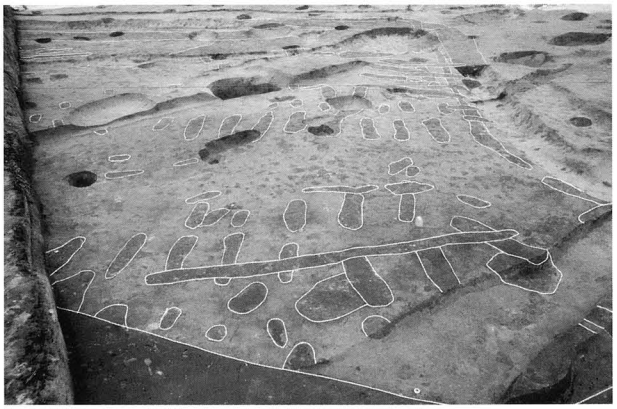
2．SX503土層断面（南→）

3．SX503完掘状況（西→）


4．SX503遺物出土状況（西→）

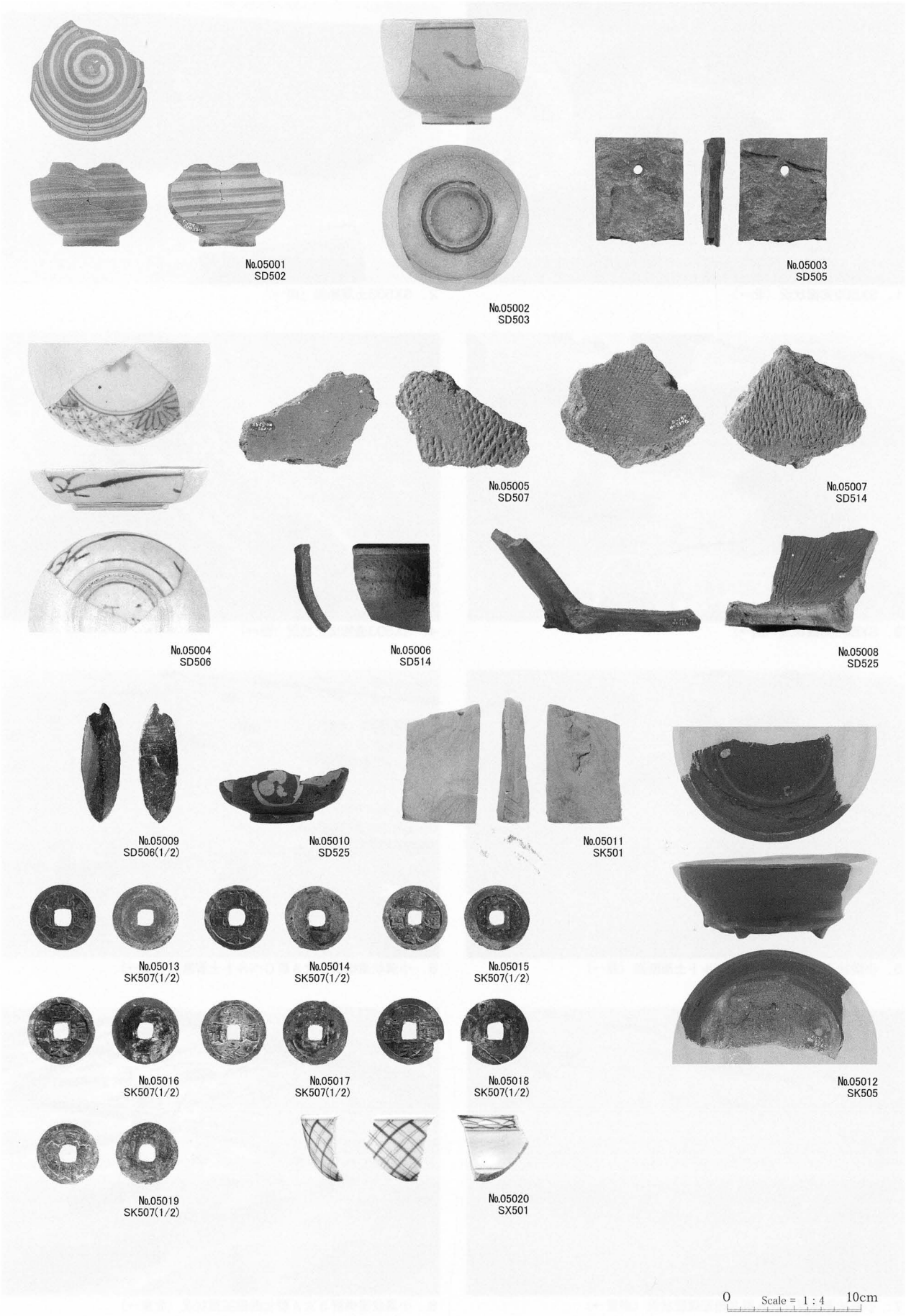
5．小溝状遺構群５次Ａ群Ａベルト土層断面（西→）


6．小溝状遺構群５次Ａ群Ｃベルト土層断面（東→）

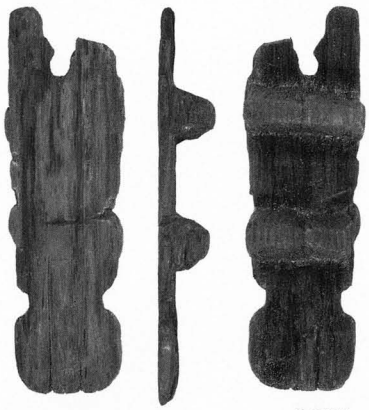

7．小溝状遺構群５次Ａ群北西部確認状況（南東→）

8．小溝状遺構群５次Ａ群北西部完掘状況（北東→）

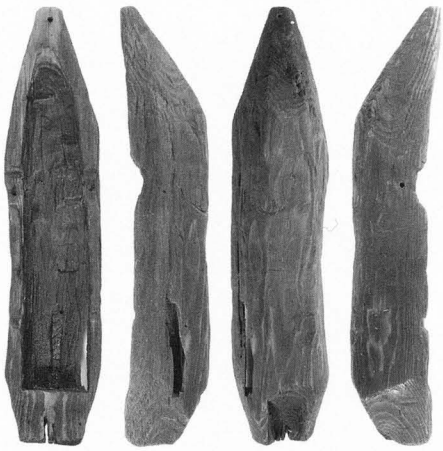
第５次調査　写真図版-５


No.05001
SD502
No.05002
SD503
No.05003
SD505
No.05004
SD506
No.05005
SD507
No.05006
SD514
No.05007
SD514
No.05008
SD525
No.05009
SD506(1/2)
No.05010
SD525
No.05011
SK501
No.05012
SK505
No.05013
SK507(1/2)
No.05014
SK507(1/2)
No.05015
SK507(1/2)
No.05016
SK507(1/2)
No.05017
SK507(1/2)
No.05018
SK507(1/2)
No.05019
SK507(1/2)
No.05020
SX501
0
Scale = 1 : 4
10cm

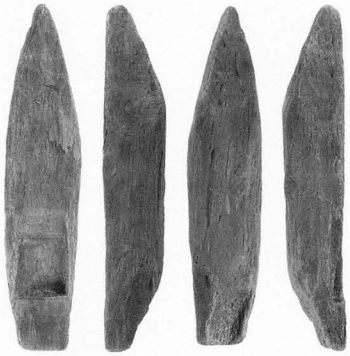
第５次調査　写真図版-6



No.05021
SX503



No.05022
SX503
(1/6)



No.05023
SX503
(1/6)

No.05024
SX512

No.05025
SX513

No.05026
Ⅰ層(1/3)

No.05027
Ⅰ層(1/3)

No.05028
Ⅰ層(1/3)

No.05029
Ⅰ層(1/3)

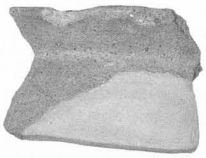
No.05030
Ⅰ層(1/3)

No.05031
Ⅰ層(1/3)

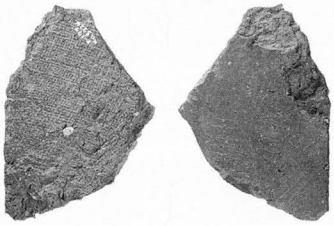
No.05032
Ⅰ層(1/3)

No.05033
Ⅰ層(1/3)

No.05034
Ⅰ層(1/3)



No.05035
Ⅰ層



No.05036
Ⅰ層

No.05037
Ⅰ層(1/2)

0　Scale = 1 : 4　10cm

第５次調査　写真図版-７

第４章　―第６次調査―

本　文　目　次

第１節　調査概要と基本層序……129
　１．調査概要……129
　２．基本層序……129
第２節　検出遺構と出土遺物……129
　１．検出遺構と出土遺物……129
　(1) SD溝跡……129
　(2) SX性格不明遺構……130
第３節　まとめ……130
　１．Ⅱ層上面遺構……130
　２．小結……130

挿　図　目　次

第6-1図　第６次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序……131
第6-2図　第６次調査区全体図……132
第6-3図　SD溝跡平面図……133
第6-4図　SD溝跡断面図　SX性格不明遺構平面図・断面図……134
第6-5図　第６次調査区出土遺物実測図……135
第6-6図　第６次調査検出遺構時期別変遷模式図……135

挿　表　目　次

第6-1表　SD溝跡観察表……135
第6-2表　SX性格不明遺構観察表……135
第6-3表　遺物出土数量表……135
第6-4表　遺物観察表……135

写真図版目次

写真図版１（遺構写真）……137
写真図版２（遺物写真）……138

第４章　―第６次調査―

第１節　調査概要と基本層序

１．調査概要

第６次調査区は、沼向遺跡の東部、0A～0C-02～05Gridに位置し、浜堤列に立地する（第6-1図）。調査面積は280.3㎡である。第24次調査区、第28次調査区に接する。調査区は第6-1図のように設定した。標高は現地表面で1.30～1.45mである。

調査区は北に向かって一段下がっており、南北方向の中央付近に20cmほどの標高差がある。調査区の北側が半分程度削平されているが、南側における遺構の遺存状態は良好である。

発掘調査は平成８年10月15日に表土の重機掘削と遺構確認を開始し、11月８日までの実働13日間実施した。

遺構検出面は、基本層Ⅱ層の分布が部分的なため、Ⅱ層上面遺構のほとんどは、Ⅲ層上面遺構と同様、基本層Ⅲ層上面であった。遺構検出面の標高は北側で0.6m、南側で0.9mである。

遺構は、近世：⑫～⑭期の８基が認められた。Ⅲ層上面遺構は検出されず、Ⅱ層上面遺構は溝跡６条、性格不明遺構２基が検出された（付図3）。

遺物は、平箱で１箱出土した。総点数は34点で、そのうち、遺構出土が30点、基本層出土が４点である。各遺構及び基本層からの遺物出土数は第6-3表に示した。主な遺物は非ロクロ土師器・陶磁器である。これらの遺物のうち２点を図示した。

２．基本層序

第６次調査区では東壁・南壁の２箇所で基本層序の確認を行なった。基本層序は、大別でⅠ、Ⅱ、Ⅲ層の３層、細別でⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、Ⅲc、Ⅲe層の８層を確認した。

第２節　検出遺構と出土遺物

１．検出遺構と出土遺物

(1) SD溝跡（第6-3～4図、第6-1表、写真6-1）　６条検出された。

SD601溝跡　（第6-3～4図、第6-1表、写真6-1-2・5）　0B-05c･0B-04cd･0B-03cd･0A-03bGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD602、SX602より新しい。東西方向の溝で、底面は「U」字状である。遺物は、埋土から磁器中碗（№06001：瀬戸美濃産）や非ロクロ土師器が出土している。

SD602溝跡　（第6-3～4図、第6-1表、写真6-1-3・5）　0B-04c･0B-03cd･0A-03abGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD601より古く、SX601、SX602より新しい。東西方向の溝で、南側と東側は調査区外へ続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD603溝跡　（第6-3～4図、第6-1表、写真6-1-4・5）　0B-05bc･0B-04a～d･0B-03cdGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD604より新しい。東西方向の溝で、東側は調査区外へ続く。遺物は、埋土から磁器髪油壺（№06002：肥前産）などが出土している。

SD604溝跡　（第6-3～4図、第6-1表、写真6-1-5）　0B-05c･0B-04a～d･0B-03cdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD603より古い。調査区を東西に横断する溝で、この溝より北と南で遺構確認面に明確な段差が認められる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD605溝跡　（第6-3～4図、第6-1表、写真6-1-5）　0B-03cdGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。南東－北西方向の溝である。出土遺物はない。

SD606溝跡　（第6-3～4図、第6-1表、写真6-1-5）　0B-05bGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。東西方向の溝で、西側は調査区外に続く。出土遺物はない。

(2) SX性格不明遺構（第6-4図、第6-2表、写真6-1）　２基検出された。

SX601性格不明遺構　（第6-3図、第6-2表、写真6-1-6）　0A-03bGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD602より古い。南端は調査区外へ続く。平面形は不明である。出土遺物はない。

SX602性格不明遺構　（第6-3図、第6-2表、写真6-1-7～8）　0B-03d･0A-03aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD601、SD602より古い。南端は調査区外へ続く。平面形が不明の浅い土坑状の遺構で、底面には起伏がある。出土遺物はない。

第３節　まとめ

１．Ⅱ層上面遺構

近世前葉（沼向⑫期）：溝跡２条、性格不明遺構２基が検出された。

近世中葉（沼向⑬期）：溝跡２条が検出された。

このほか、沼向⑫～⑭期のいずれかに属する溝跡２条が検出された。

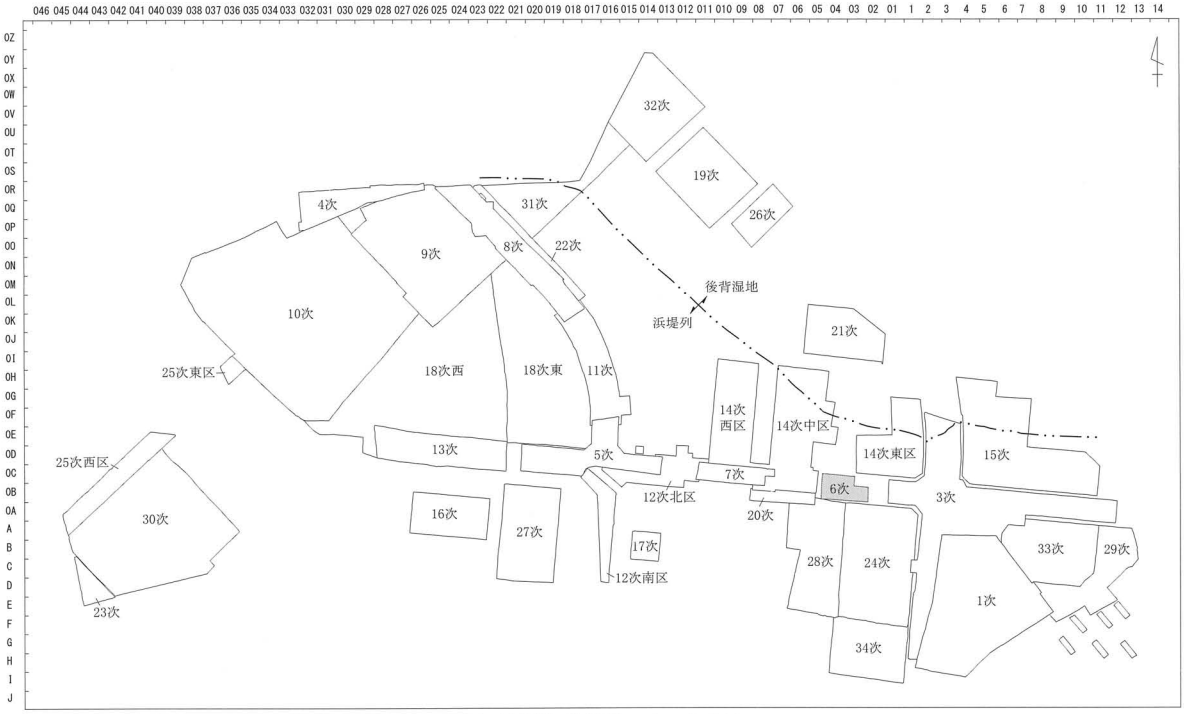
２．小結

第６次調査区は沼向遺跡の東部に位置し、浜堤列に立地する。調査面積は280.3㎡である。

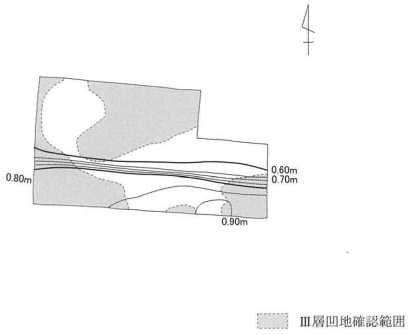
遺物は、古墳時代：③～⑧期から認められる。

遺構は、古墳時代～平安時代初頭：③～⑩期の遺構の検出はなく、近世：⑫～⑭期の溝跡６条、性格不明遺構２基が検出された。

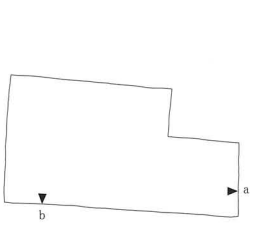
沼向遺跡の遺構群の変遷を考えるうえでの成果としては、古墳時代前期後半：③Ｂ期の墓域とはなっていないこと、近世：⑫～⑭期の居住域とはなっていないことがある。



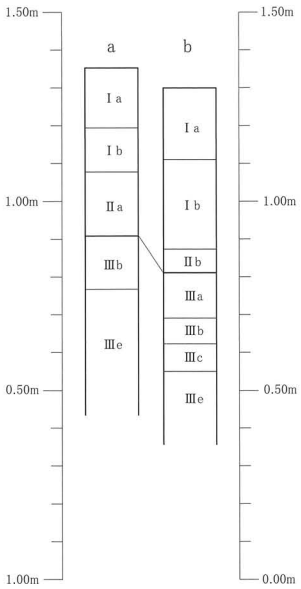
第6次調査区位置図 scale = 1:4000



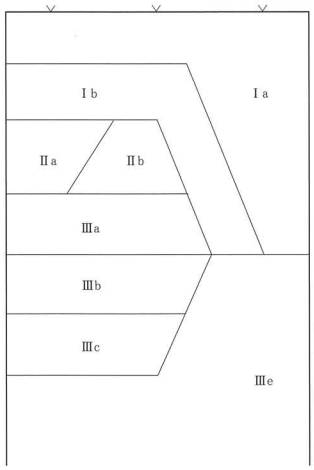
等高線図・Ⅲ層凹地位置図 scale = 1:800



柱状模式図作成地点位置図 scale = 1:800



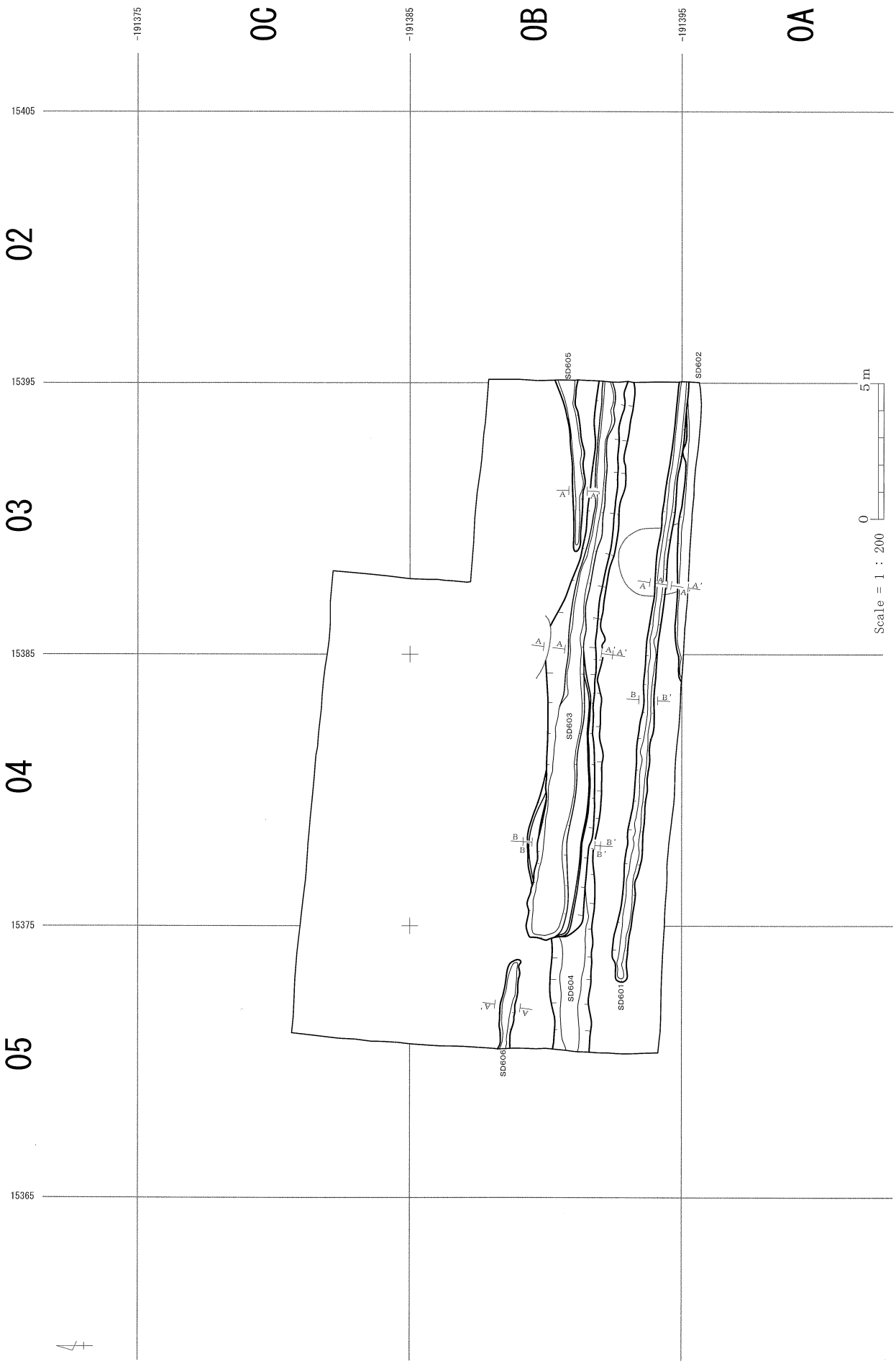
基本層序柱状模式図



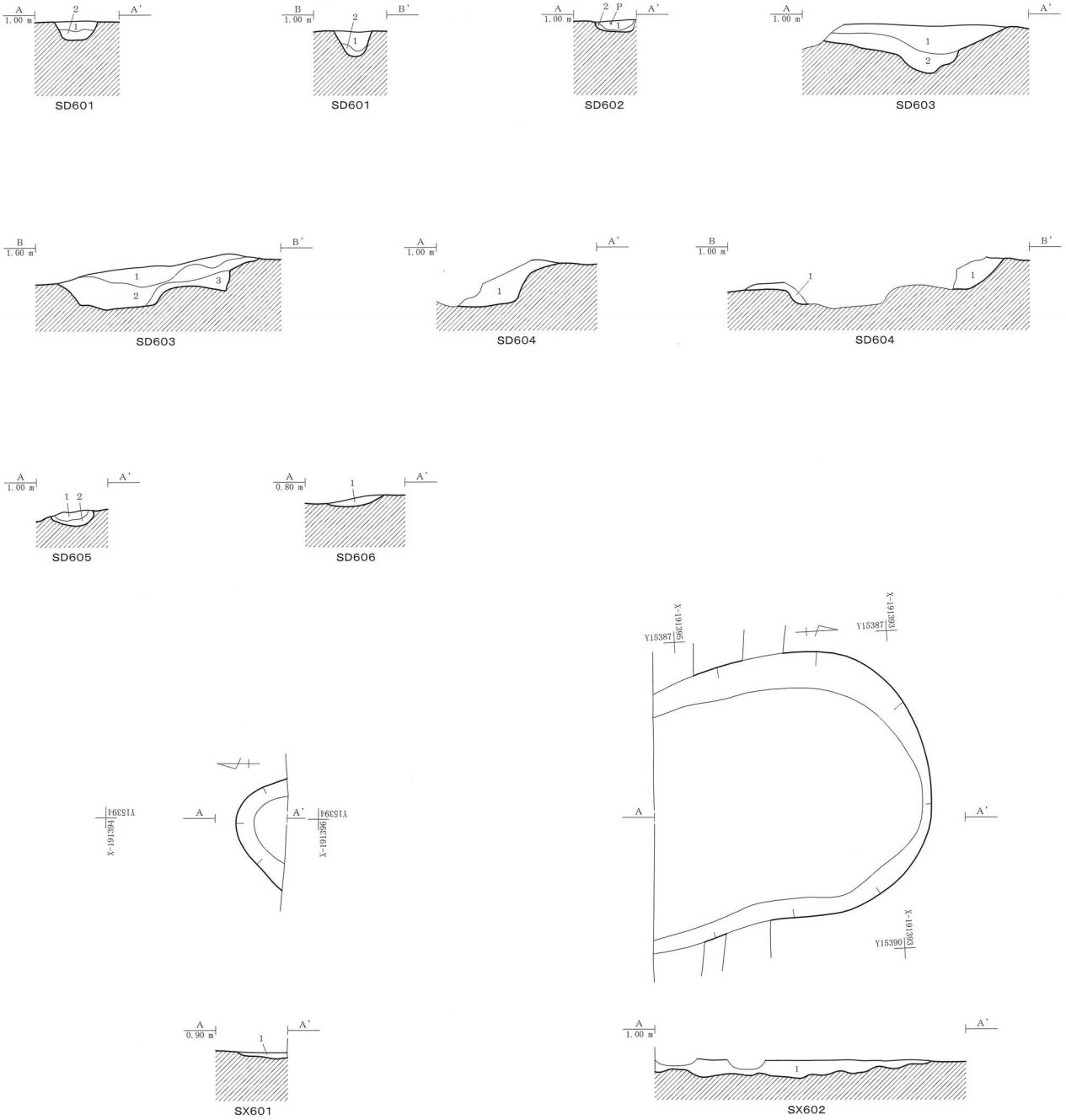
基本層序略図

第６－１図　第6次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序

第６－２図　第６次調査区全体図



第６－３図　SD溝跡平面図



SD601（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	黒褐色(10YR2/2)粘土と互層、灰白火山灰大ブロック
2	10YR3/1黒褐色	粘土	

SD602（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土	灰白火山灰小ブロック
2	10YR2/1黒色	粘土	

SD603（Ⅱ層上面）

1	10YR3/4暗褐色	シルト	黒褐色粘土質シルト・にぶい黄褐色砂ブロック、灰白火山灰ブロック少量、酸化鉄
2	10YR1.7/1黒色	粘土	酸化鉄少量
3	10YR2/1黒色	粘土	

SD604（Ⅱ層上面）

1	10YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂と互層

SD605（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	黒色粘土・褐色砂と互層
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	黒色粘土

SD606（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土	

SX601（Ⅱ層上面）

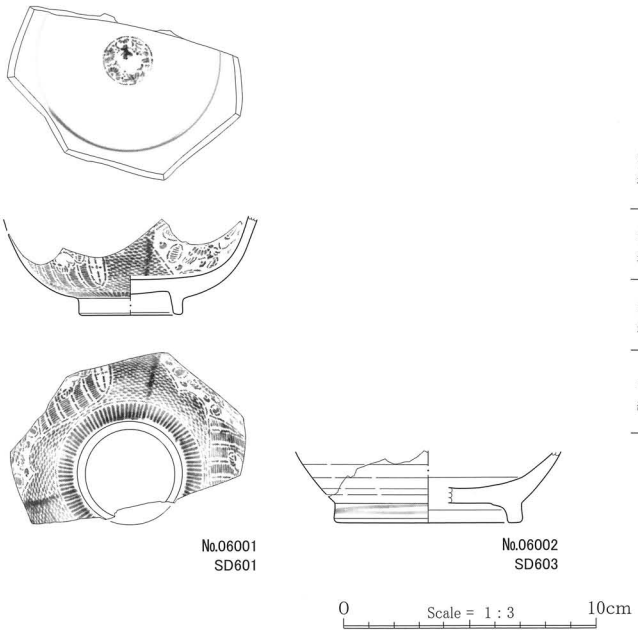
1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

SX602（Ⅱ層上面）

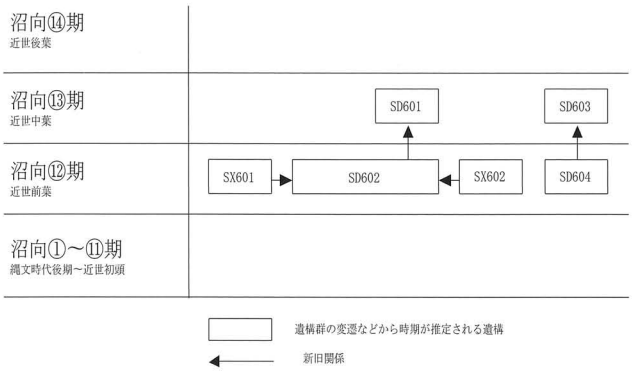
1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第6－4図　SD溝跡断面図　SX性格不明遺構平面図・断面図



第６－５図　第６次調査区出土遺物実測図



第６－６図　第６次調査検出遺構時期別変遷模式図

第6-1表　ＳＤ溝跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	方向	全長(m)×上端幅(m)×深さ(m)	平面形・断面形	時期
SD601	0B-05c 0B-04cd 0B-03cd 0A-03b	N-84° -W	22.30以上×0.55×0.33m	直線・開いたU字状	⑬
SD602	0B-04c 0B-03cd 0A-03ab	N-88° -W	11.00以上×0.54以上×0.17m	直線・開いたU字状	⑫
SD603	0B-05bc 0B-04abcd 0B-03cd	N-84° -W	20.70×0.19×0.30m	直線・開いたU字状	⑬
SD604	0B-05c 0B-04abcd 0B-03cd	N-88° -W	24.60×0.24×0.22m	直線・開いたU字状	⑫
SD605	0B-03cd	N-88° -E	6.30以上×0.83×0.16m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD606	0B-05b	N-82° -W	3.40×0.55×0.09m	直線・浅い擂り鉢状	⑫～⑭

第6-2表　ＳＸ性格不明遺構観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SX601	0A-03b	N- 0° --	0.48以上×0.68×0.06m	不明・浅い擂り鉢状	やや起伏	⑫
SX602	0B-03d 0A-03a	N-80° -E	2.90以上×2.40×0.16m	不明・開いたU字状	やや起伏	⑫

第6-3表　遺物出土数量表

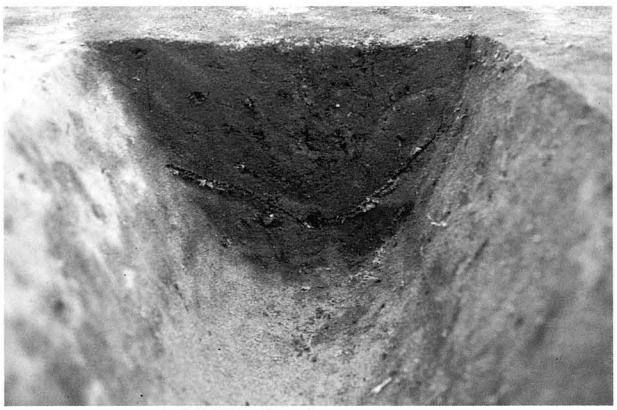
遺構名・基本層	層位	縄文・弥生土器	製塩土器	土師器 非ロクロ	土師器 ロクロ	須恵器	土師質土器	陶磁器	土製品	瓦	石器	石製品	砥石	礫	金属製品	木製品	自然木	その他	計	備考
SD601	埋土	0	0	16	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
SD602	埋土	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
SD603	埋土	0	0	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
SD604	埋土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
Ⅰ層	－	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
合計		0	0	31	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	

第6-4表　遺物観察表

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類・時期	写真図版
第6-5図 No.06001	06J-001	SD601	埋1	磁器	中碗	残存 3.9	欠損	(4.1)	－	ロクロ　削り高台　見込：環状松竹梅文　外：魚-子地に扇(扇内：大黒天)と俵鼠文　瀬戸美濃　19c.後～(明治～)	－	6-2
第6-5図 No.06002	06J-002	SD603	埋1	磁器	髪油壷	残存 2.9	欠損	(7.4)	－	ロクロ　削り高台　外：横線二条　内：－ 肥前　17c.末～	－	6-2

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（ ）

1．第６次調査区遺構確認状況（東→）


2．SD601Bベルト土層断面（西→）

3．SD602土層断面（西→）

4．SD603Bベルト土層断面（西→）

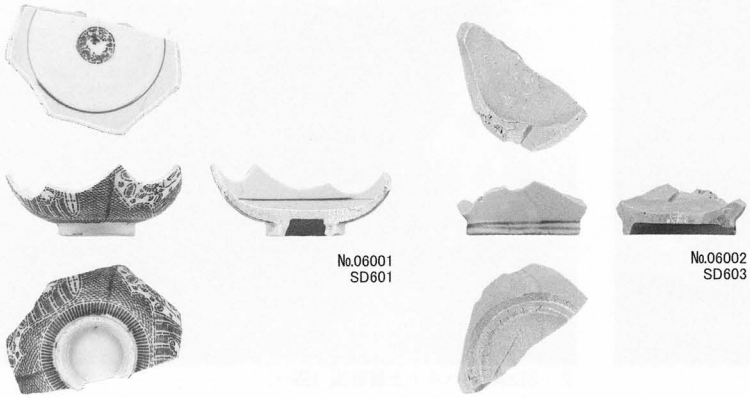
5．SD601～SD606完掘状況（東→）

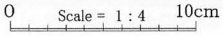
6．SX601完掘状況（北→）

7．SX602土層断面（西→）

8．SX602完掘状況（北→）

第6次調査　写真図版－1





第6次調査　写真図版－2

第５章　―第７次調査―

本　文　目　次

第１節　調査概要と基本層序……141
　１．調査概要……141
　２．基本層序……141
第２節　検出遺構と出土遺物……141
　１．検出遺構と出土遺物……141
　　(1) 古墳……141
　　(2) SD溝跡……142
　　(3) SK土坑……142
　　(4) SX性格不明遺構……143
　　(5) 小溝状遺構群……143
　２．その他の出土遺物……144
第３節　まとめ……144
　１．Ⅲ層上面遺構……144
　２．Ⅱ層上面遺構……144
　３．小結……145

挿　図　目　次

第7-1図　第７次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序……147
第7-2図　第７次調査区全体図……148
第7-3図　７号方形周溝墓平面図……149
第7-4図　７号方形周溝墓断面図……150
第7-5図　SD溝跡平面図……151
第7-6図　SD溝跡断面図　SK土坑平面図・断面図 (1)…152
第7- 7図　SK土坑平面図・断面図 (2)……153
第7- 8図　SX性格不明遺構平面図・断面図……154
第7- 9図　小溝状遺構群全体平面図……155
第7-10図　小溝状遺構群７次Ａ群平面図・断面図……156
第7-11図　小溝状遺構群７次Ｂ群平面図・断面図……157
第7-12図　第７次調査出土遺物実測図……158
第7-13図　第７次調査検出遺構時期別変遷模式図……159

挿　表　目　次

第7-1表　古墳観察表……159
第7-2表　SD溝跡観察表……159
第7-3表　SK土坑観察表……159
第7-4表　SX性格不明遺構観察表……160
第7-5表　小溝状遺構群観察表……160
第7-6表　遺物出土数量表……160
第7-7表　遺物観察表……160

写真図版目次

写真図版１～２（遺構写真）……161～162
写真図版３（遺物写真）……163

第５章　―第７次調査―

第１節　調査概要と基本層序

１．調査概要

第７次調査区は、沼向遺跡の東部、0B～0D-07～012Gridに位置し、浜堤列に立地する（第7-1図）。調査面積は341.9㎡である。第12次調査区、第14次調査区に接する。調査区は第7-1図のように設定した。標高は現地表面で1.45ｍである。

調査区は東側に向かって一段下がっており、東西方向の東側で0.10ｍほどの標高差がある。遺構の遺存状態は良好である。

発掘調査は平成８年10月22日に表土の重機掘削と遺構確認を開始し、12月11日までの実働30日間実施した。

遺構検出面は、基本層Ⅱ層の分布が部分的なため、Ⅱ層上面遺構のほとんどは、Ⅲ層上面遺構と同様、基本層Ⅲ層上面であった。遺構検出面の標高は1.05ｍである。

遺構は、古墳時代前期：③期から近世：⑫～⑭期にかけて、総数26基が認められた。Ⅲ層上面遺構は、周溝墓１基、土坑10基、性格不明遺構１基、Ⅱ層上面遺構は、溝跡８条、性格不明遺構４基、小溝状遺構群２群が検出された（付図４）。

遺物は、平箱で１箱出土した。総点数は324点で、そのうち、遺構出土が231点、基本層出土が93点である。各遺構及び基本層からの遺物出土数は第7-6表に示した。主な遺物は非ロクロ土師器、陶磁器などである。これらの遺物のうち13点を図示した。

２．基本層序

第７次調査区では南壁の２箇所で基本層序の確認を行なった。基本層序は、大別でⅠ、Ⅱ、Ⅲ層の３層、細別でⅠa、Ⅰb、Ⅰc、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲe層の６層を確認した。

第２節　検出遺構と出土遺物

１．検出遺構と出土遺物

(1) 古墳（第7-3～4図、第7-1表、写真図版7-1～2）　１基検出された。

７号方形周溝墓　（第7-3～4図、第7-1表、写真図版7-1-2～5、2-1～3）　0B-09ab･0B-010b･0C-09acd･0C-010cGridに位置し、沼向③Ｂ１期に属するⅢ層上面遺構である。SX708より新しい。墳丘は削平されて残存しない。周溝の北辺と東辺、西辺の北半部を確認した。南半部と周溝北辺をⅡ層上面遺構に削平される。南辺と東西辺の南半部は調査区外へ続く。周溝平面形は現状では隅丸方形である。上端規模は周溝外側で東西10.94ｍ、南北5.12ｍである。周溝内側では東西6.36ｍ、南北3.34ｍである。主軸方位は現状でN-85°-Wである。溝幅は1.69～2.75ｍで平均は2.01ｍである。断面形は開いた「U」字状である。北辺中央からやや東よりにテラス状の高まりを確認した。深さはテラスを除いた状態で0.50～0.58ｍである。壁の立ち上がり角は外側で26度と38度、内側は26度と45度である。底面標高はテラスを除いた状態で0.33～0.59ｍで、東辺が低くなる。テラスは周溝北辺の中央やや東よりに位置する。浜堤列基本層Ⅲ層を掘り残して造り出される。西辺は、起伏は認められず、コーナー部分で段差をつけて北辺と接続する。東辺は、起伏は認められず、直接北辺のテラスに接続する。規模は東西1.80～1.93ｍで、南北0.71～0.80ｍである。周溝上端からの深さは0.32～0.43ｍで西側が深くなる。底面標高は0.63～0.72ｍで、東から西へ低くなる。周

溝底面からの立ち上がり角は東側27度、西側36度で明確に立ち上がる。周溝底面との比高差は東側0.23m、西側0.13mである。テラスの北側は直接周溝の立ち上がりに取り付かず一段高いテラス状の張り出しが認められる。張り出しの北側と周溝外側は削平され、取り付き部分の状態は不明である。規模は東西2.10m、南北0.45mである。標高は0.884～0.934mで北から南に低くなる。現状で平坦面と周溝外側の上端との比高差は0.08～0.13mである。埋土は大別５層、細別では６層認められる。埋土１～３層と５層は自然堆積土である。埋土４層は浜堤列基本層Ⅲ層の崩落土である。残存する墳丘基底部の平面形は方形である。南半部は調査区外へ続く。

遺物は、埋土３層から非ロクロ土師器甕（№07002：ＣＩb1x類）、最下層の埋土５層から非ロクロ土師器の壺口縁（№07001：ＣＩa類）が出土している。このほか、石製品（№07003）などが出土している。７号方形周溝墓の時期は、最下層出土の非ロクロ土師器壺（№07001）と埋土３層出土の非ロクロ土師器甕（№07002）が沼向③Ｂ１期土器群であることから、③Ｂ１期と考えられる。なお、７号方形周溝墓は、すでに調査・報告された第35次調査で、その南半部が検出され、上端規模は、周溝外側で東西10.94m、南北8.48m以上、周溝内側で東西7.91m、南北5.92mであることが判明している。

(2) SD溝跡（第7-5～6図、第7-2表、写真図版7-2）　８条検出された。

SD701溝跡　（第7-5～6図、第7-2表）　0C-08adGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD704より新しい。北東－南西方向の溝で、北東側は第14次調査西区へ続く。出土遺物はない。

SD702溝跡　（第7-5～6図、第7-2表）　0C-08bcd･0B-08abGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD515より古く、SD703、SD704、SD707より新しい。南北方向の溝で、南端で西へ屈曲する。屈曲部分は2.8m程で途切れる。北側は第14次調査西区へ続く。南東側は第14次調査中区へ続く。出土遺物はない。

SD703溝跡　（第7-5～6図、第7-2表）　0C-08adGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD702より古く、SD704より新しい。北東-南西方向の溝である。南西側は他遺構に削平される。出土遺物はない。

SD704溝跡　（第7-5～6図、第7-2表、写真図版7-2-4）　0C-011a～d･0C-010a～d･0C-09a～d･0C-08dGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD701、SD702、SD703より古く、SD706、SX703より新しい。調査区を東西に横断する溝である。西側は第12次調査北区へ続く。東側は他遺構に削平され、調査区東端は遺構確認面が低いため確認できなかった。遺物は、埋土から陶器小皿（№07004：大堀相馬産）などが出土している。

SD706溝跡　（第7-5～6図、第7-2表）　0C-011ab･0C-010abGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD704より古い。東西方向の溝で、東側は他遺構に削平され、西側は第12次調査北区へ続く。南側の壁面の立ち上がりの大半は、他遺構に削平される。遺物は、埋土から陶磁器などが出土している。

SD707溝跡　（第7-5～6図、第7-2表）　0C-010cd･0C-09cd･0C-08dGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD702、SD515より古い。東西方向の溝で、東側は他遺構に削平される。西端は南に屈曲する埋土２層は自然堆積である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が１点出土している。

SD708溝跡　（第7-5～6図、第7-2表）　0B-010b･0B-09ab･0B-08abGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD515より古い。北西－南東方向の溝で、東側は第14次調査中区へ続く。埋土３層は自然堆積である。南側の立ち上がりは調査区外へ続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が１点出土している。

SD515溝跡　（第7-5～6図、第7-2表、写真図版7-2-4）　0C-012c･0C-011cd･0C-010cd･0C-09cd･0B-010ab･0B-09ab･0B-08abGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD702、SD707、SD708より新しい。調査区を東西に横断する溝で、東側は第14次調査中区へ続き、西側は第12次調査北区へ続く。西部の壁面の立ち上がりは屈曲し、北側の一部でテラス状になる。埋土の状況から、SD515は２時期に分けられる可能性がある。遺物は、埋土から磁器中碗（№07005：瀬戸美濃産）、石鏃（№07006：玉髄）などが出土している。

(3) SK土坑（第7-6～7図、第7-3表、写真図版7-2）　10基検出された。

SK701土坑　（第7-6図、第7-3表、写真図版７-2-5）　0C-011abGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から弥生土器が出土している。

SK702土坑　（第7-6図、第7-3表）　0C-09b･0C-08aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SK703土坑　（第7-6図、第7-3表）　0C-011cGridに位置し、Ⅲ層上面で検出された。沼向③～⑩期に属する。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK704土坑　（第7-7図、第7-3表）　0C-011b･0C-010aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK705土坑　（第7-7図、第7-3表）　0C-010bGridに位置し、Ⅲ層上面で検出された。沼向③Ｂ３期に属する。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から非ロクロ土師器小型丸底鉢（№07007：ＣⅡ類）が出土している。

SK706土坑　（第7-7図、第7-2表）　0C-08bcGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。埋土１層から4a層は人為堆積である。埋土4b層は基本層Ⅲ層の崩落土である。出土遺物はない。

SK707土坑　（第7-7図、第7-3表）　0C-010dGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK708土坑　（第7-7図、第7-3表）　0C-09bGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK709土坑　（第7-7図、第7-3表、写真図版7-2-5）　0C-010bGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SK710土坑　（第7-6図、第7-3表、写真図版7-2-5）　0C-010aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

(4) SX性格不明遺構（第7-8図、第7-4表）　５基検出された。

SX701性格不明遺構　（第7-8図、第7-4表）　0C-010aGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。直径0.30ｍの不整円形のピット状の遺構である。遺物は、埋土から漆器椀（№07008）が出土している。

SX702性格不明遺構　（第7-8図、第7-4表）　0C-010aGridに位置し、沼向⑬～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。小溝状遺構群７次Ａ群より新しい。平面形は不整楕円形の南東側が深い土坑状の遺構である。遺物は、埋土から漆器椀・蓋（№07009）が出土している。

SX703性格不明遺構　（第7-8図、第7-4表）　0C-011cGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD704より古い。平面形が不明の土坑状の遺構である。出土遺物はない。

SX704性格不明遺構　（第7-8図、第7-4表）　0C-010dGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整形の土坑状の遺構で、埋土にブロック状の砂が認められる。遺物は、埋土から陶磁器が１点出土している。

SX708性格不明遺構　（第7-8図、第7-4表）　0C-010c･0B-010bGridに位置し、沼向③Ｂ１期以前のⅢ層上面遺構である。７号方形周溝墓より古い。直径0.40ｍの不整円形のピット状の遺構である。出土遺物はない。

(5) 小溝状遺構群（第7-9～11図、第7-5表、写真図版7-2）　2群検出された。

小溝状遺構群７次Ａ群　（第7-9～10図、第7-5表、第7-4、写真図版7-2-6～7）　0C-08a･0C-09ab･0C-010ab･0C-011ab･0C-012ab･0D-009d･0D-010cd･0D-011cd･0D-012a～d･0D-013bcGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SX702、SX1249、小溝状遺構群12次Ｆ群より古く、SD1402、小溝状遺構群７次Ｂ群より新しい。

小溝状遺構群７次Ａ群は、第７次調査区北部および第12次調査北区東部、第14次調査西区南部で、南北方向に直線的に平行する17条の溝からなる。第12次調査北区東部ではさらに北の調査区外へ続く。遺構の遺存状況は良好である。SD704とSD1401を区画施設としている。７次Ａ群の範囲は東西43.50m、南北12.00m以上で、その面積は224.2㎡以上である。小溝の全長は西端の小溝①が最も長く9.20mで、東に向かうにしたがって短くなり東端の小溝⑰では0.40mである。方向はN-10～22°-Eである。上端幅は0.30～0.47mである。小溝の芯々距離は1.4～3.3mで、そのうち、東半部では2.4～2.6mである。遺構確認面からの深さは0.10～0.22mである。底面はやや起伏している。工具痕は一部に認められる。埋土は基本的に単層であるが、2層に細別され、基本層Ⅲ層を母材とする砂ブロックを含む。遺物は、埋土から非ロクロ土師器の壺（№07010：C2類）、甕（№07011：ＣＩb1x類）などが出土している。

小溝状遺構群７次Ｂ群　（第7-9･11図、第7-5表、写真図版7-2-6～7）　0C-09ab･0C-010b･0C-011ab･0C-012b･0D-09d･0D-010cd･0D-011cd･0D-012a～d･0D-013cGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD1242、SX1249、小溝状遺構群７次Ａ群、小溝状遺構群12次Ｆ群より古く、SD1402より新しい。

小溝状遺構群７次Ｂ群は、第７次調査区北部および第12次調査北区東部、第14次調査西区南部で、南北方向に直線的に平行する12条の溝からなる。小溝状遺構群７次Ａ群と同一範囲に位置することから、遺構の遺存状況は良くない。SD704とSD1401を区画施設としている。７次Ｂ群の範囲は東西41.50m、南北12.00m以上で、その面積は200.4㎡以上である。小溝の全長は西側の小溝②が最も長く9.50mで、東に向かうにつれ短くなり東端の小溝⑫では0.40mである。走行方向はN-8～23°-Eである。上端幅は0.21～0.45mである。小溝の芯々距離は1.3～8.3mである。小溝状遺構群７次Ａ群に伴う耕作の影響を受けている可能性もある。遺構確認面からの深さは0.02～0.14mである。底面はやや起伏している。工具痕は一部に認められる。埋土は基本的に単層であるが、２層に細別される。基本層Ⅲ層をブロック状に含む。遺物は、埋土から非ロクロ土師器、須恵器などが出土している。

２．その他の出土遺物

沼向②期：弥生土器を１点図示した（№07012）。№07012は沼向②Ｃ１～３期の甕口縁部である。

沼向⑫～⑭期：土師質土器を１点図示した（№07013）。№07013は灯明皿である。

第３節　まとめ

１．Ⅲ層上面遺構

古墳時代前期後半（沼向③Ｂ期）：③Ｂ１期以前の性格不明遺構１基（SX708）、③Ｂ１期の周溝墓１基（７号方形周溝墓）、③Ｂ３期の土坑１基（SK705）が検出された。このほか、③～⑩期のいずれかに属する土坑９基が検出された。

２．Ⅱ層上面遺構

近世前葉（沼向⑫期）：溝跡２条、性格不明遺構２基、小溝状遺構群２群が検出された。

近世中葉（沼向⑬期）：溝跡５条が検出された。出土した陶器は器種に小皿があり、産地は大堀相馬である。

近世後葉（沼向⑭期）：遺構の検出はない。出土した磁器は器種に中碗があり、産地は瀬戸美濃である。

このほか、沼向⑫～⑭期のいずれかに属する溝跡１条、性格不明遺構２基が検出された。また、遺物では土師質土器、木製品が出土した。土師質土器は灯明皿である。木製品は漆器椀、漆器椀・蓋である。

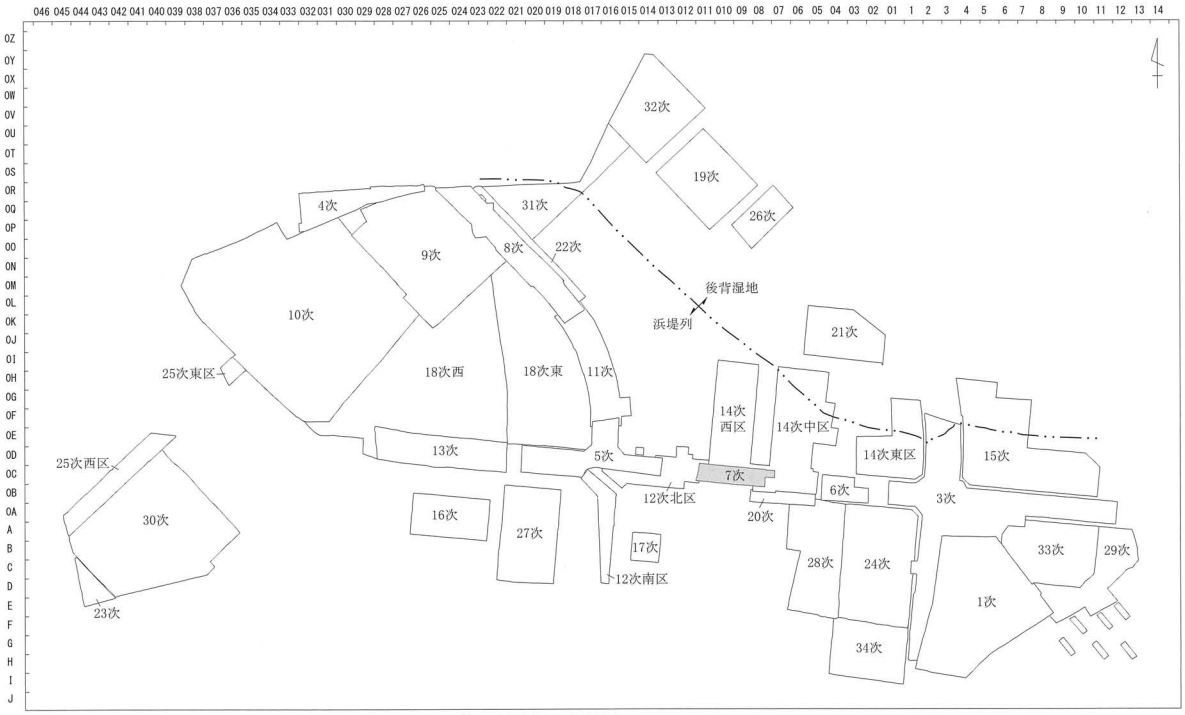
３．小結

第７次調査区は、沼向遺跡の東部に位置し、浜堤列に立地する。調査面積は341.9㎡である。

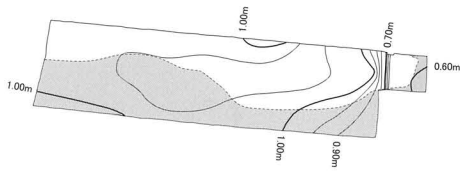
遺物は、弥生時代：②期から認められる。

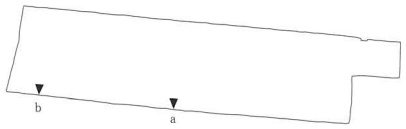
遺構は、古墳時代前期後半：③Ｂ期の方形周溝墓１基（③Ｂ１期）、土坑１基（③Ｂ３期）、性格不明遺構１基（③Ｂ１期以前）、古墳時代～平安時代初頭：③～⑩期の土坑９基、近世：⑫～⑭期の溝跡８条、性格不明遺構４基、小溝状遺構群２群が検出された。７号方形周溝墓は出土した非ロクロ土師器甕・壺から沼向③Ｂ１期に属する遺構である。最も近い古墳は第５次調査の13号墳から東に約36m離れている。７号方形周溝墓の周溝の北辺でテラス状の高まりを確認した。

沼向遺跡の遺構群の変遷を考えるうえでの成果としては、古墳時代前期後半：③Ｂ期の墓域形成の古段階に方形周溝墓があること、近世：⑫～⑭期の居住域とはなっていないことがある。



第7次調査区位置図 scale = 1:4000

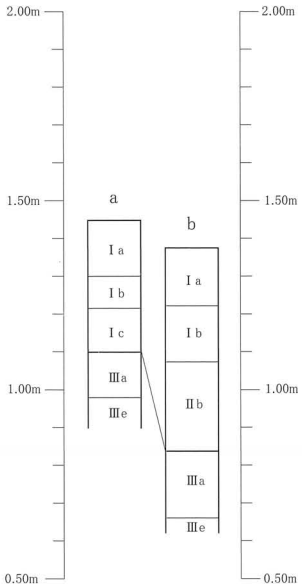




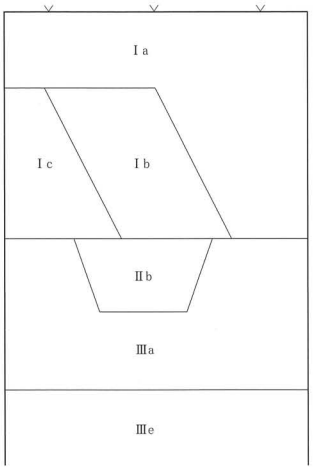
Ⅲ層凹地確認範囲

等高線図・Ⅲ層凹地位置図 scale = 1:800

柱状模式図作成地点位置図 scale = 1:800

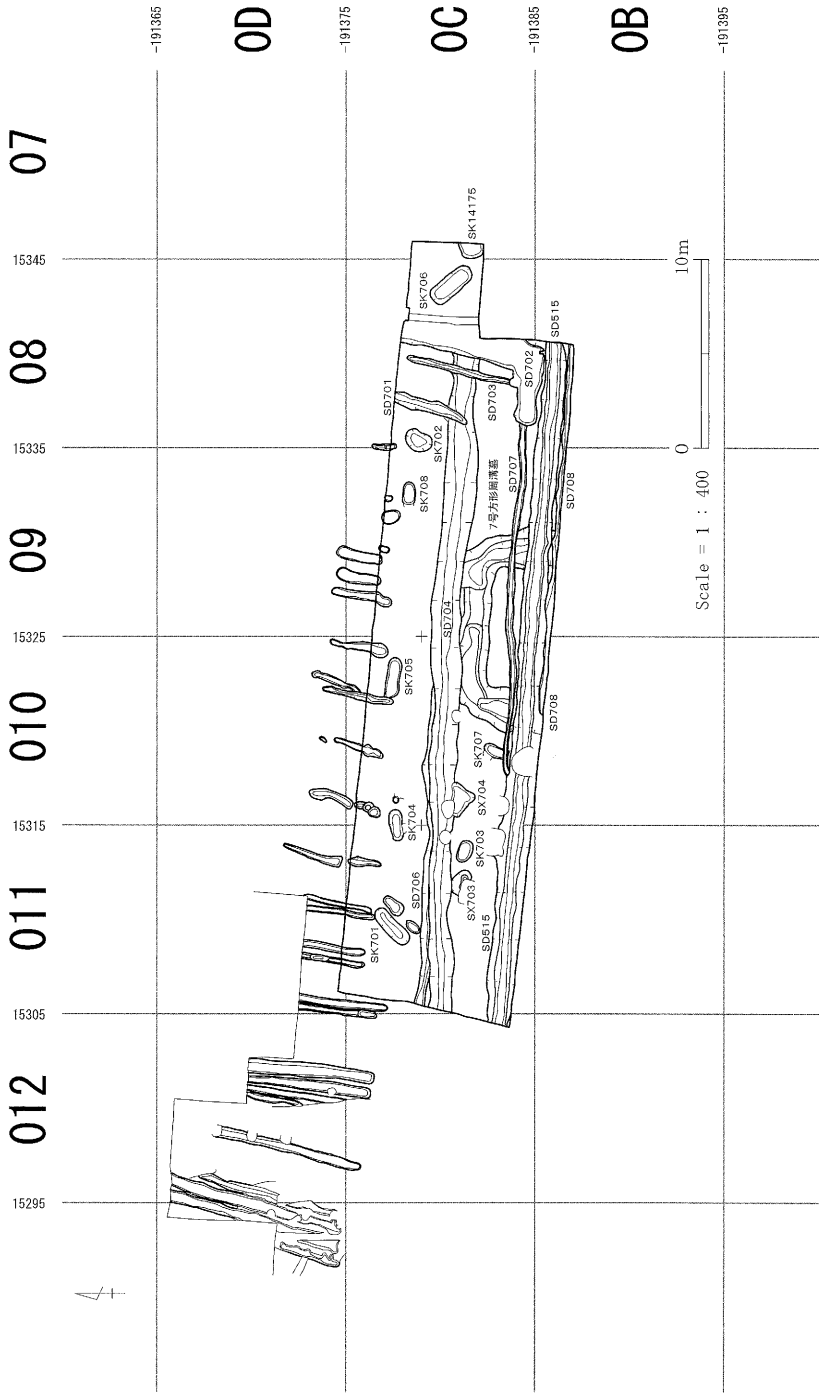


基本層序柱状模式図

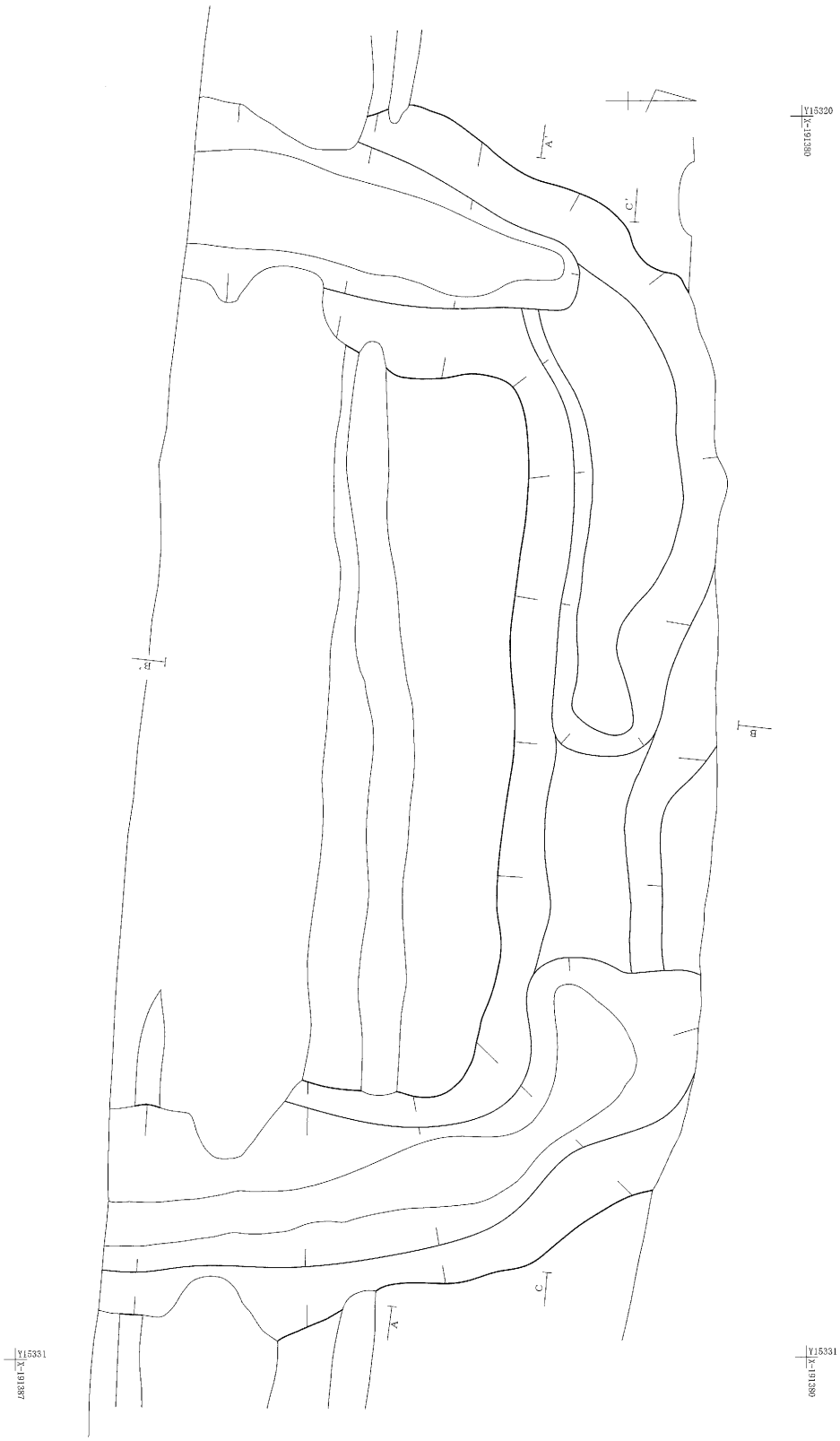


基本層序略図

第７－１図　第7次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序



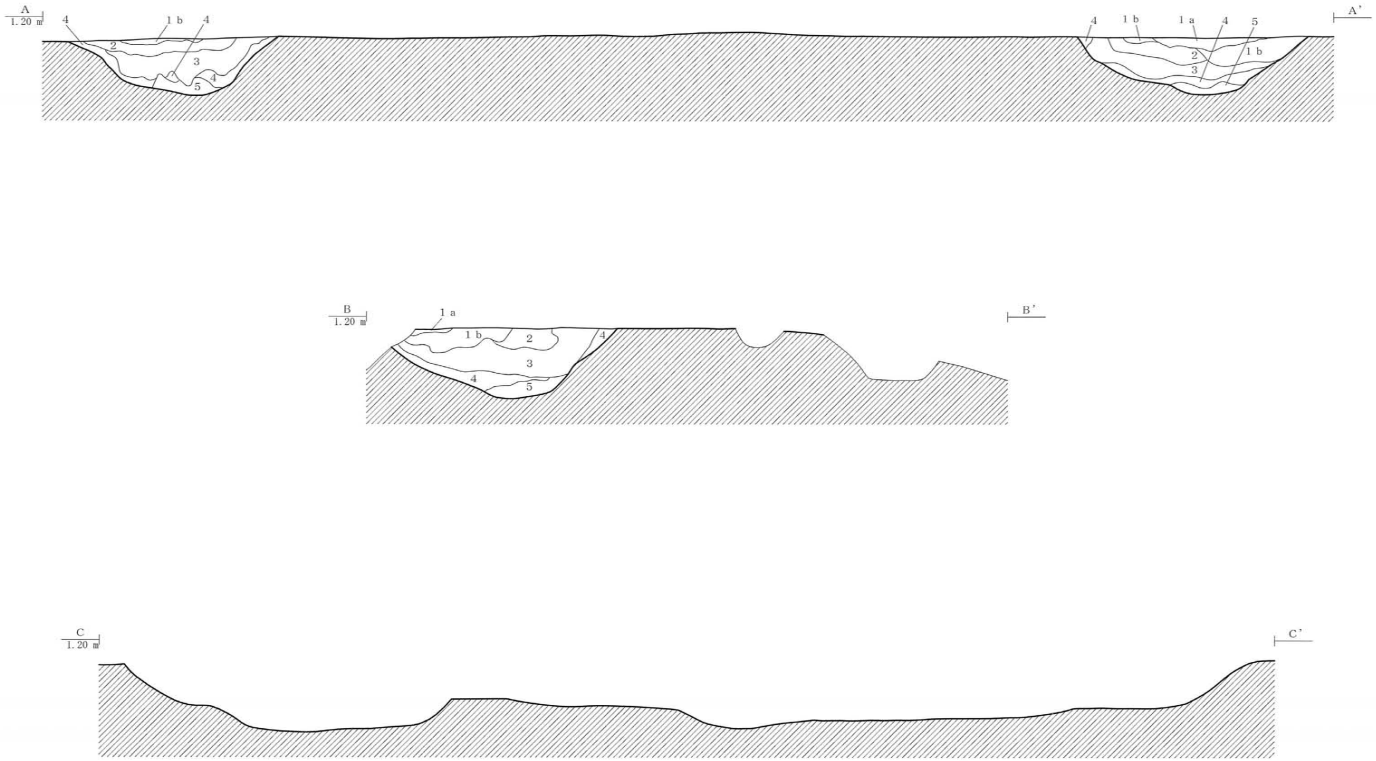
第７－２図　第７次調査区全体図



第７－３図　７号方形周溝墓平面図

Scale = 1 : 60

0　2 m



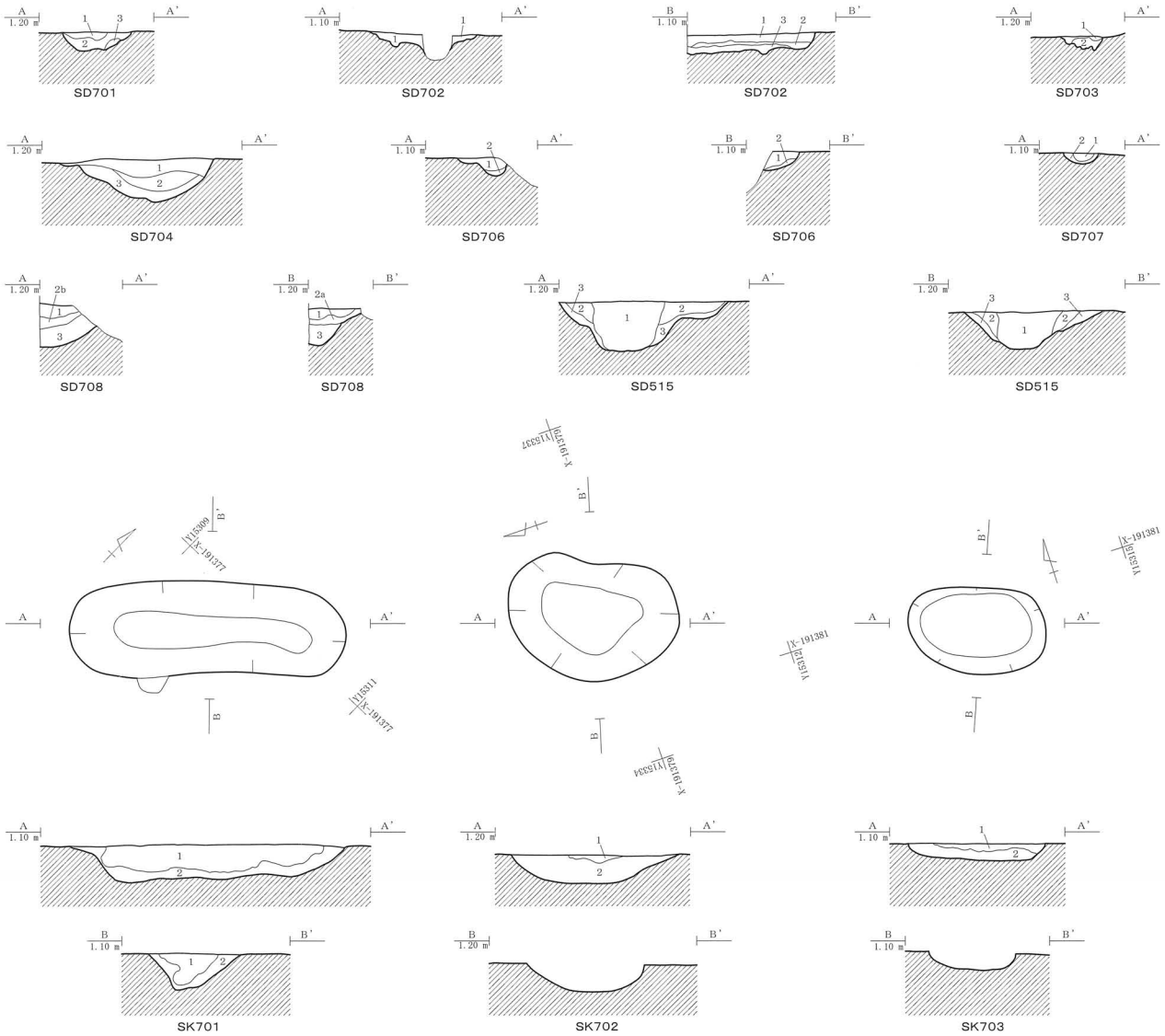
7号方形周溝墓（Ⅲ層上面）

1a	10YR2/2黒褐色	シルト質砂	酸化鉄、炭化物少量
1b	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	酸化鉄
2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック、酸化鉄
3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	酸化鉄
4	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量、酸化鉄
5	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック少量

Scale = 1 : 60　0　2 m

第7－4図　7号方形周溝墓断面図

第７―５図　SD溝跡平面図



SD701（Ⅱ層上面）

1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄少量
2	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄少量
3	10YR3/2黒褐色	粘土	褐色砂少量

SD702（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	Ⅲ層ブロック、黒褐色粘土質シルト微量、酸化鉄少量
2	10YR2/2黒褐色	粘土	
3	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック・黒褐色粘土微量、酸化鉄少量

SD703（Ⅱ層上面）

1	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	酸化鉄微量
2	10YR2/2黒褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、酸化鉄少量

SD704（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	Ⅲ層ブロック、酸化鉄少量
2	10YR2/1黒色	粘土	
3	10YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂

SD706（Ⅱ層上面）

1	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄微量
2	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、酸化鉄少量

SD707（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	Ⅲ層ブロック少量、酸化鉄微量
2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土と互層

SD708（Ⅱ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	酸化鉄
2a	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	Ⅲ層ブロック少量、酸化鉄少量
2b	10YR2/1黒色	粘土	酸化鉄微量
3	10YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂と互層

SD515（Ⅱ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	シルト	
2	10YR3/3暗褐色	シルト	黒褐色粘土少量
3	10YR2/3黒褐色	粘土	灰黄褐色砂少量、酸化鉄

SK701（Ⅲ層上面）

1	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	上部にぶい黄橙色砂ブロック少量、酸化鉄
2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量、酸化鉄

SK702（Ⅲ層上面）

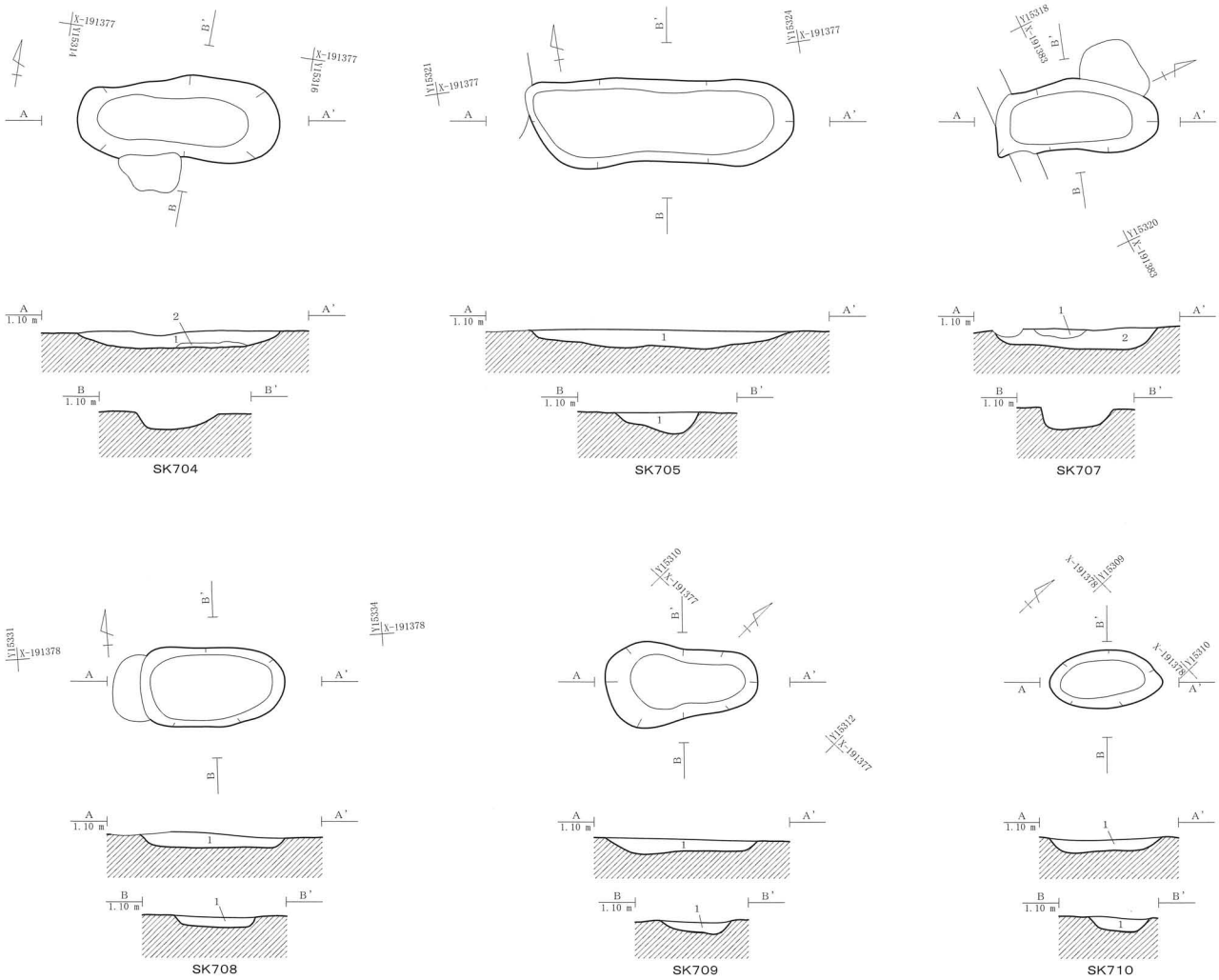
1	7.5YR2/2黒褐色	シルト質砂	酸化鉄、マンガン粒
2	10YR4/4褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、酸化鉄、マンガン粒

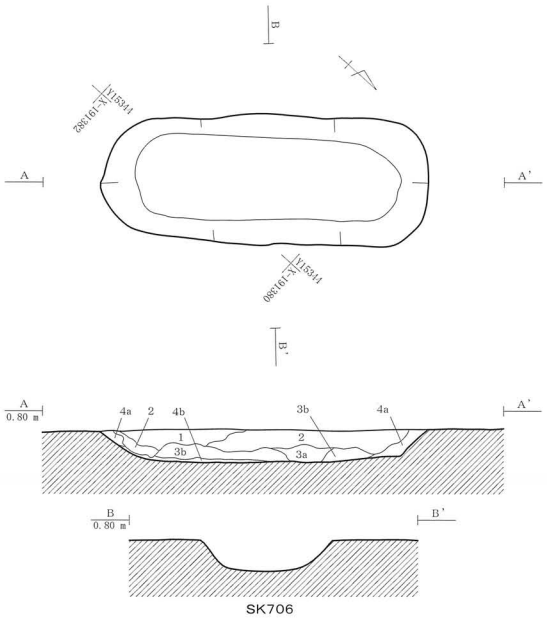
SK703（Ⅲ層上面）

1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック少量、酸化鉄
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	上部にぶい黄橙色砂、にぶい黄橙色砂ブロック、酸化鉄

Scale = 1 : 60　0　2 m

第７－６図　SD溝跡断面図　SK土坑平面図・断面図（1）





SK 704（Ⅲ層上面）

1	10YR4/4褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック、酸化鉄
2	10YR5/6黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック、酸化鉄

SK 705（Ⅲ層上面）

1	10YR4/4褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量、酸化鉄

SK 706（Ⅲ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	酸化鉄
2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	上部黒褐色砂ブロック、酸化鉄
3a	10YR2/2黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック
3b	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック
4a	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
4b	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック、

SK 707（Ⅲ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量、酸化鉄
2	10YR4/4褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量、酸化鉄

SK 708（Ⅲ層上面）

1	10YR4/4褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量、酸化鉄

SK 709（Ⅲ層上面）

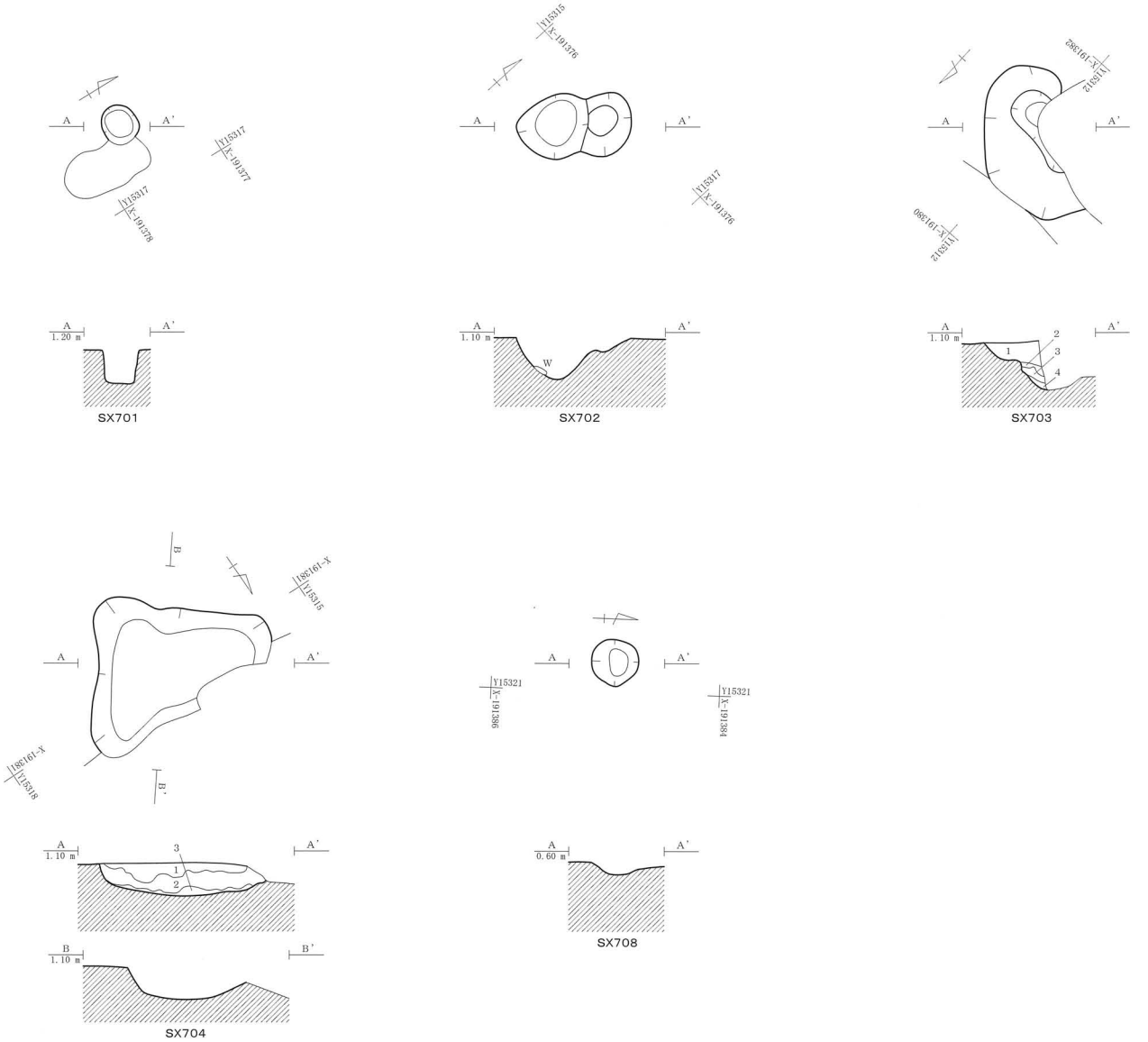
1	10YR4/4褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量、酸化鉄

SK 710（Ⅲ層上面）

1	10YR4/4褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量、酸化鉄

Scale = 1 : 60　0　2 m

第７－７図　SK土坑平面図・断面図（2）



SX701 エレベーション（Ⅱ層上面）

SX702 エレベーション（Ⅱ層上面）

SX703（Ⅱ層上面）

1	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色砂質シルトブロック多量、酸化鉄多量
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	
3	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	黒色粘土・にぶい黄褐色砂と互層
4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

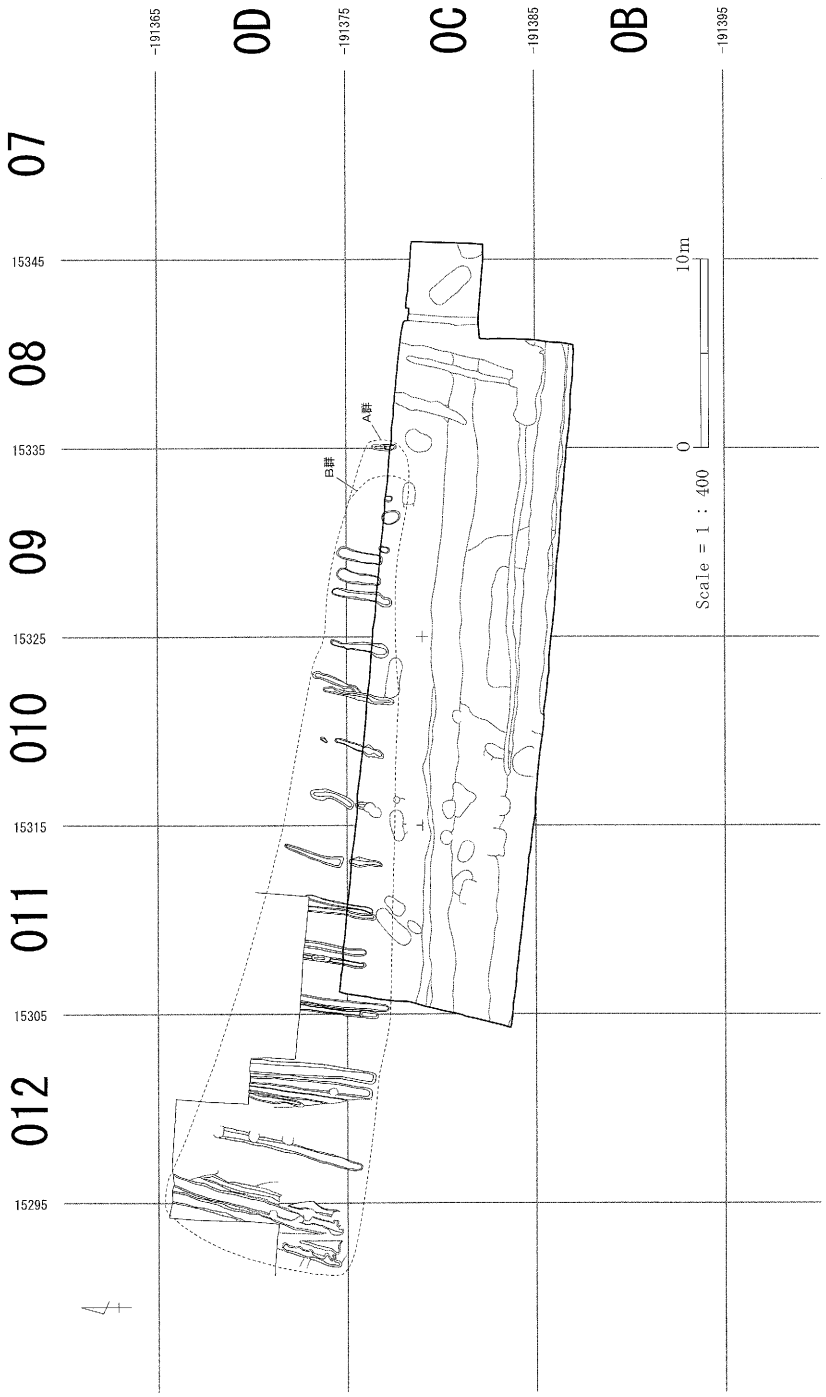
SX704（Ⅲ層上面）

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	上部黒褐色シルト質砂ブロック・灰白火山灰ブロック、酸化鉄
2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック、酸化鉄
3	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック、酸化鉄

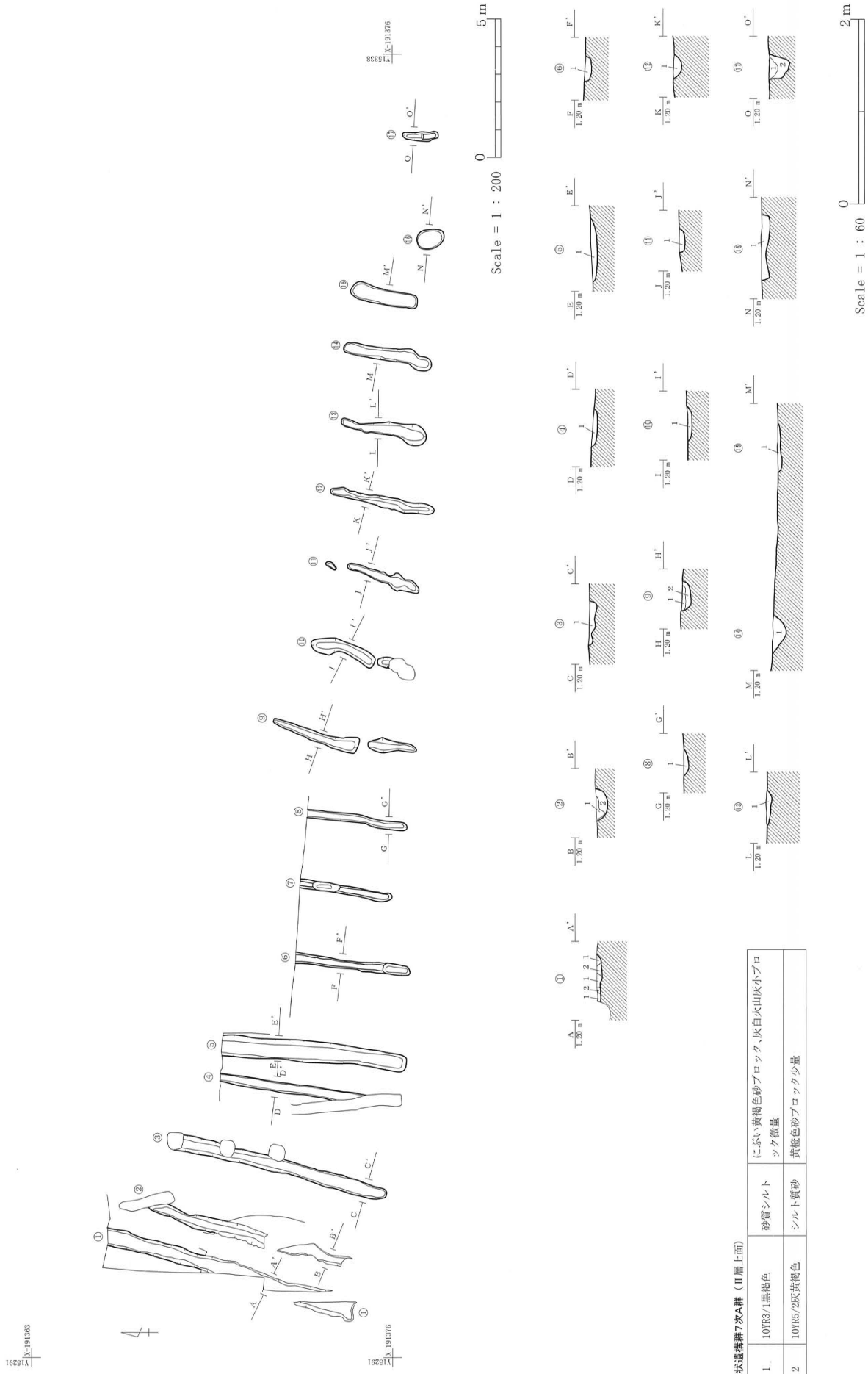
SX708 エレベーション（Ⅲ層上面）

Scale = 1 : 60　0　2 m

第７－８図　SX性格不明遺構平面図・断面図



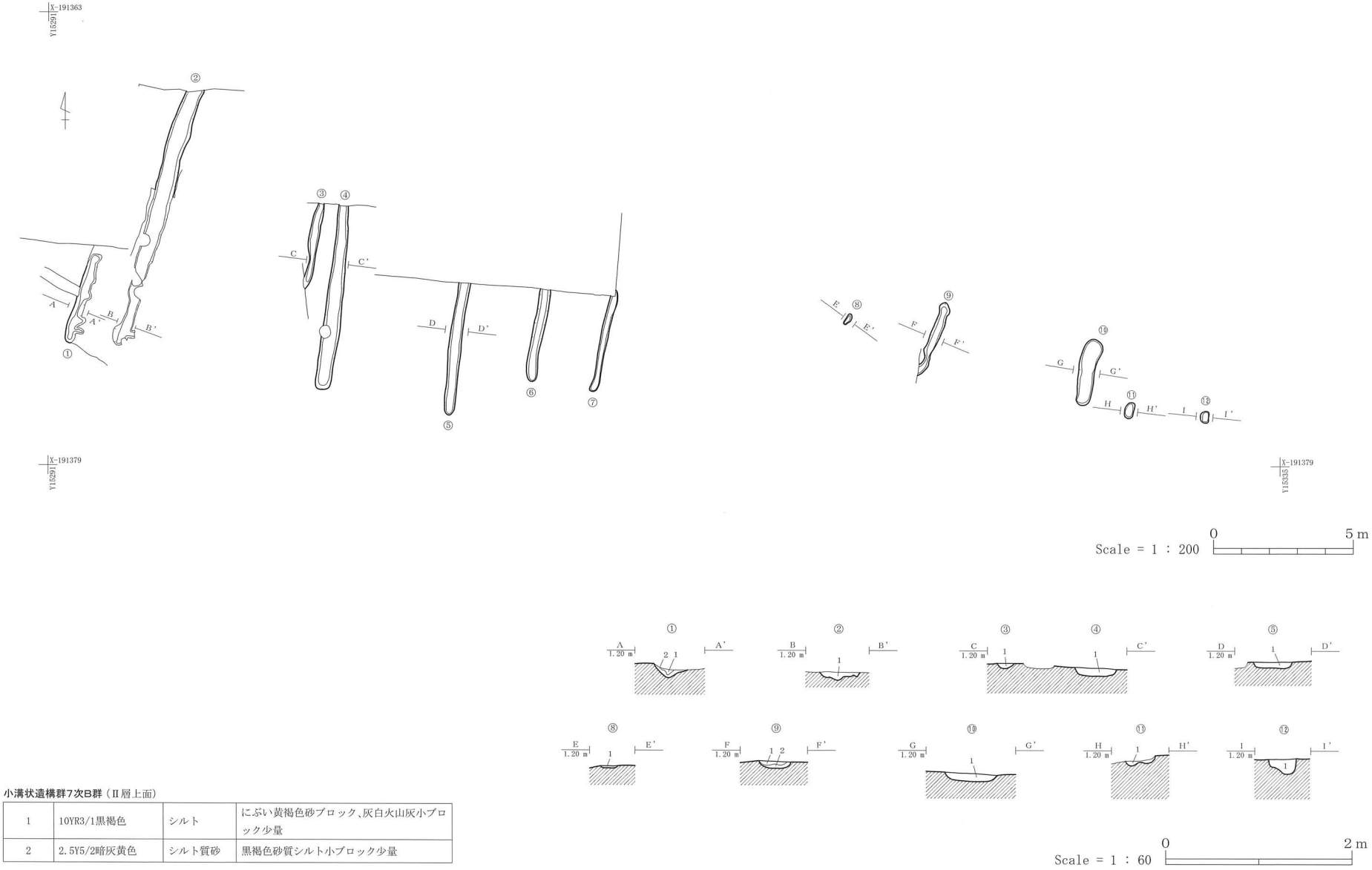
第７―９図　小溝状遺構群全体平面図



小溝状遺構群7次A群（Ⅱ層上面）

1	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂ブロック、灰白火山灰小ブロック微量
2	10YR5/2灰黄褐色	シルト質砂	黄褐色砂ブロック少量

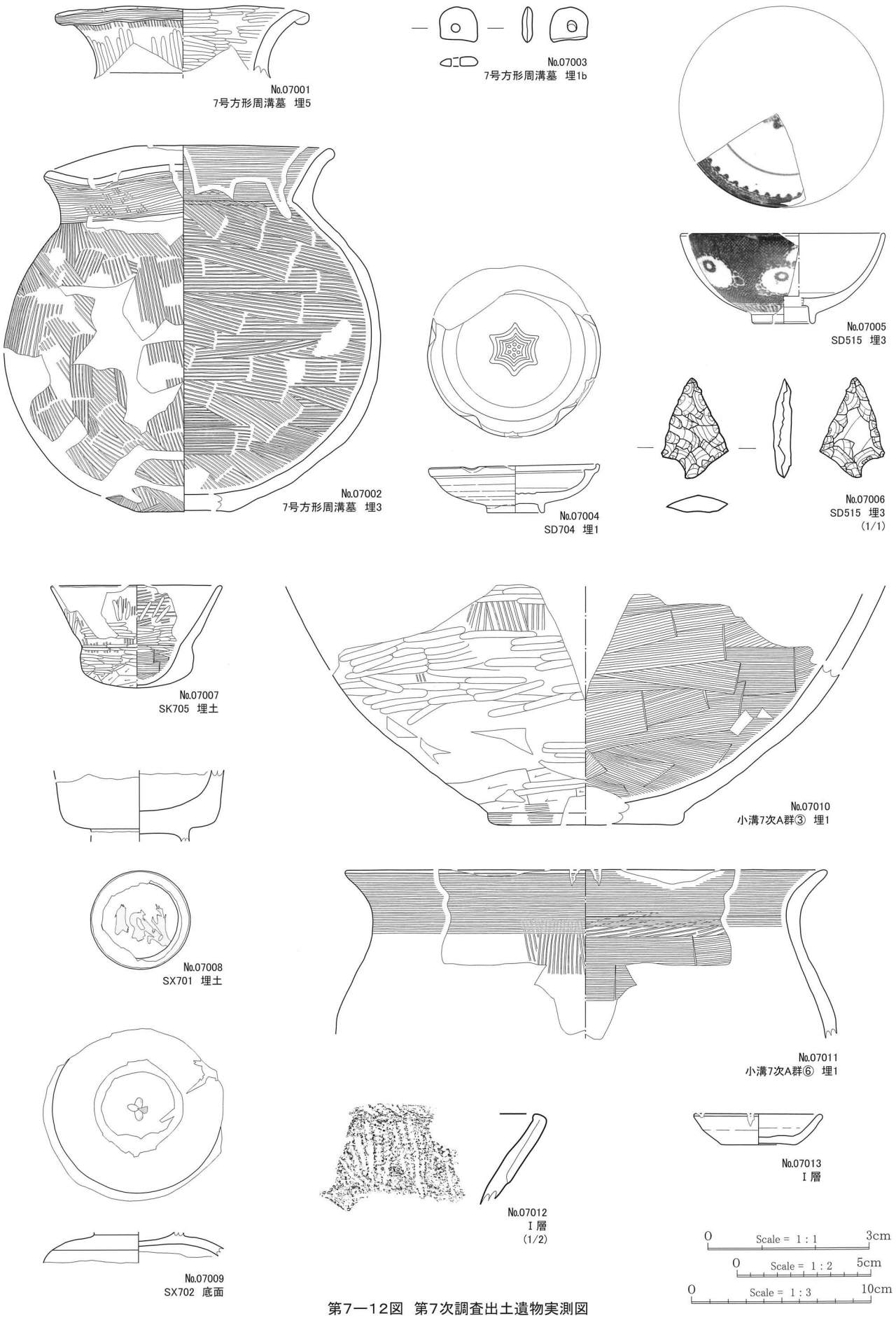
第７－１０図　小溝状遺構群７次A群平面図・断面図



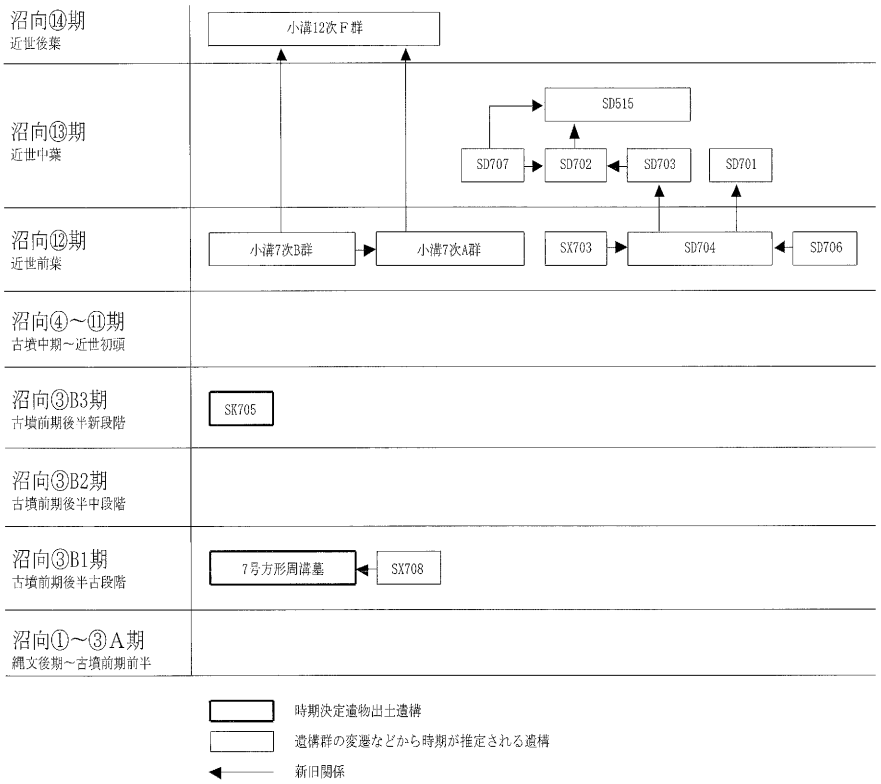
小溝状遺構群7次B群（Ⅱ層上面）

1	10YR3/1黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂ブロック、灰白火山灰小ブロック少量
2	2.5Y5/2暗灰黄色	シルト質砂	黒褐色砂質シルト小ブロック少量

第7－11図 小溝状遺構群7次B群平面図・断面図



第7―12図　第7次調査出土遺物実測図



第７－１３図　第７次調査検出遺構時期別変遷模式図

第７－１表　古墳観察表

遺構番号	位置(Grid)	上端規模(m)	溝幅×深さ(m)	埋葬施設	時期
７号方形周溝墓	0B-09ab 0B-010b 0C-09acd 0C-010c	10.94×5.12m	1.69～2.75×0.50～0.58m	無	③B1

第７－２表　ＳＤ溝跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	方向	全長(m)×上端幅(m)×深さ(m)	平面形・断面形	時期
SD701	0C-08ad	N-23° -E	4.09×0.71×0.18m	直線・開いたU字状	⑬
SD702	0C-08bcd 0B-08ab	N-14° -E	10.49×1.75以上×0.23m	屈曲・開いたU字状	⑬
SD703	0C-08ad	N-15° -E	5.57×0.42×0.15m	直線・開いたU字状	⑬
SD704	0C-011abcd 0C-010abcd 0C-09abcd 0C-08d	N-88° -W	34.70以上×1.70以上×0.46m	直線・擂り鉢状	⑫
SD705	欠番				
SD706	0C-011ab 0C-010ab	N-80° -W	17.00以上×0.30以上×0.14m	直線・開いたU字状	⑫
SD707	0C-010cd 0C-09cd 0C-08d	N-89° -W	18.90×0.40×0.16m	直線・擂り鉢状	⑬
SD708	0B-010b 0B-09ab 0B-08ab	N-86° -W	20.00以上×0.50以上×0.37m	直線・開いたU字状	⑫～⑬
SD709	欠番				
SD515	0C-012c 0C-011cd 0C-010cd 0C-09cd 0B-010ab 0B-09ab 0B-08ab	N-86° -W	36.60×1.80×0.47m	直線・開いたU字状	⑬

第７－３表　ＳＫ土坑観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK701	0C-011ab	N-48° -E	2.38×0.83×0.29m	長楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK702	0C-09b 0C-08a	N-30° -E	1.50×1.00×0.33m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK703	0C-011c	N-68° -W	1.20×0.75×0.16m	楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK704	0C-011b 0C-010a	N-82° -E	1.65×0.68×0.15m	不整長楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK705	0C-010b	N-81° -W	2.15×0.73×0.14m	不整長楕円形・浅い擂り鉢状	ほぼ平坦	③B3
SK706	0C-08bc	N-42° -W	2.56×1.03×0.25m	隅丸長方形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK707	0C-010d	N-27° -E	1.32×0.60×0.20m	不整長楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK708	0C-09b	N-85° -W	1.18×0.67×0.09m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK709	0C-010b	N-47° -E	1.25×0.72×0.11m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK710	0C-010a	N-43° -E	0.90×0.49×0.11m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩

第７－４表　ＳＸ性格不明遺構観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SX701	0C-010a	N-85° -E	0.35以上×0.31×0.40m	不整円形・コの字状	平坦	⑫～⑭
SX702	0C-010a	N-40° -E	1.01×0.57×0.37m	不整楕円形・擂り鉢状	やや起伏	⑬～⑭
SX703	0C-011c	N-42° -W	1.33×0.68以上×0.40m	不明・開いたU字状	起伏顕著	⑫
SX704	0C-010d	N-65° -W	1.52以上×1.23以上×0.30m	不整形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫
SX705	欠番					
SX706	欠番					
SX707	欠番					
SX708	0C-010c 0B-010b	N-87° -E	0.41×0.41×0.11m	不整円形・浅い擂り鉢状	平坦	③B1以前

第７－５表　小溝状遺構群観察表

遺構番号	位置(Grid)	東西(m)×南北(m)	溝	面積	底面	時期
7次A群	0C-08a 0C-09ab 0C-010ab 0C-011ab 0C-012ab 0D-009d 0D-010cd 0D-011cd 0D-012abcd 0D-013bc	43.50×12.00m以上	17条	224.2㎡以上	やや起伏	⑫
7次B群	0C-09ab 0C-010b 0C-011ab 0C-012b 0D-09d 0D-010cd 0D-011cd 0D-012abcd 0D-013c	41.50×12.00m以上	12条	200.4㎡以上	やや起伏	⑫

第７－６表　遺物出土数量表

遺構名・基本層	層位	縄文・弥生土器	製塩土器	土師器 非ロクロ	土師器 ロクロ	須恵器	土師質土器	陶磁器	土製品	瓦	石器	石製品	砥石	礫	金属製品	木製品	自然木	その他	計	備考
7号方形周溝墓	埋土	14	0	156	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	171	第7次調査区内出土数
SD704	埋土	0	0	16	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	
SD706	埋土	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
SD707	埋土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SD708	埋土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SD515	埋土	0	0	0	0	0	0	16	0	3	1	0	0	2	0	0	0	0	22	第7次調査区内出土数
SK701	埋土	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SK702	埋土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
SK705	埋土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SK709	埋土	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
SX701	埋土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
SX702	埋土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
SX704	埋土	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
Ⅰ層	-	4	0	40	0	0	1	38	0	4	0	1	1	2	2	0	0	0	93	
合計		19	0	222	0	1	1	61	0	7	1	2	1	5	2	2	0	0	324	

第７－７表　遺物観察表

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類・時期	写真図版
第7-12図 №07001	07C-002	7号方形周溝墓	埋5	非ロクロ土師器	壺 口縁部	残存 3.9	(14.0)	-	-	外：ハケメ(口)→ヨコナデ(口)・ミガキ(口)　内：ミガキ(口)	CⅠa類	7-3
第7-12図 №07002	07C-003	7号方形周溝墓	埋3	非ロクロ土師器	甕 口縁部～底部	20.8	15.6	5.3	-	外：ハケメ(口～体)→ヨコナデ(口)　外底：ハケメ　内：ハケメ(口～底)→ヨコナデ(口)	CⅠb1x類	7-3
第7-12図 №07003	07Kx-001	7号方形周溝墓	埋1b	石製品	不明	2.0	2.1	0.6	1.3	貫通孔径：0.4　石材：凝灰岩	-	7-3
第7-12図 №07004	07I-001	SD704	埋1	陶器	小皿	2.9	9.7	3.3	-	ロクロ　削り高台　押圧（4）　見込：六弁花に七曜文 外：-　大堀相馬　18c.中	-	7-3
第7-12図 №07005	07J-001	SD515	埋3	磁器	中碗	5.1	(11.4)	(3.6)	-	ロクロ　削り高台　縁内：環珞文　見込：環状松竹梅文　外：魚一子地に楕文散し　瀬戸美濃　19c.後～（明治～）	-	7-3
第7-12図 №07006	07Ka-001	SD515	埋3	石器	石鏃	1.9	1.2	0.3	0.6	有茎式　石材：玉髄	-	7-3
第7-12図 №07007	07C-006	SK705	埋土	非ロクロ土師器	小型丸底鉢 口縁部～底部	5.8	(9.4)	-	-	外：ヘラケズリ(底～体下)→ハケメ(口～体)→ヘラミガキ(口～底)　内：ハケメ(体上)→ヘラナデ(体下)→ヨコナデ(口)	CⅡ類	7-3
第7-12図 №07008	07L-001	SX701	埋土	木製品	漆器椀	残存 4.0	-	-	-	内・外：黒　文様：赤　底部文字：豆　樹種：ブナ属	-	7-3
第7-12図 №07009	07L-002	SX702	底面	木製品	漆器椀・蓋	残存 1.7	-	-	-	内・外：赤　文様：金か銀　摘み文様：花　樹種：ブナ属	-	7-3
第7-12図 №07010	12C-005	小溝7次A群③	埋1	非ロクロ土師器	壺 体部下半～底部	残存 13.6	-	(10.2)	-	外：ヘラケズリ(体下～底)→ハケメ(体)→ヘラナデ(体)→ヘラミガキ(体)　内：ハケメ(底)→ヘラナデ(体～底)	C2類	7-3
第7-12図 №07011	12C-003	小溝7次A群⑥	埋1	非ロクロ土師器	甕 口縁部～体部	残存 9.6	(26.8)	-	-	外：ハケメ(頸～体)→ヨコナデ(口～体)　内：ハケメ(口～頸)→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)	CⅠb1x類	7-3
第7-12図 №07012	07B-001	Ⅰ層 0C-010	-	弥生土器	甕 口縁部	3.4	-	-	-	口唇：ナデ→ＲＬ縄文　外口縁：ＲＬ縄文(肥厚)　内：ナデ	②C1～3期	7-3
第7-12図 №07013	07G-001	Ⅰ層 0G-011(c)	-	土師質土器	小皿(灯明皿)	1.8	7.0	4.2	-	外：ロクロナデ→回転糸切り(底)→ナデ(底)　内：ロクロナデ	-	7-3

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

１．第７次調査区遺構確認状況（東→）

２．７号方形周溝墓確認状況（東→）

３．７号方形周溝墓Ａベルト東半部土層断面（北→）

４．７号方形周溝墓Ａベルト西半部土層断面（北→）

５．７号方形周溝墓Ｂベルト北半部土層断面（西→）

第７次調査　写真図版－１

1．７号方形周溝墓周溝埋土３層上面遺物出土状況（北→）

2．７号方形周溝墓周溝埋土３層上面遺物出土状況（西→）

3．７号方形周溝墓完掘状況（東→）

4．SD704・SD515完掘状況（西→）

5．SK701・SK709・SK710完掘状況（南東→）

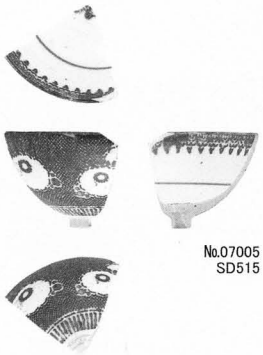
6．小溝状遺構群７次Ａ群・Ｂ群西部確認状況（西→）

7．小溝状遺構群７次Ａ群・Ｂ群中央部完掘状況（東→）

第７次調査　写真図版－２

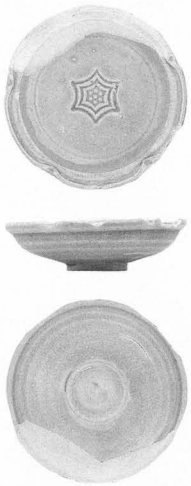
No.07001
7号方形周溝墓

No.07003
7号方形周溝墓（1/2）



No.07005
SD515

No.07002
7号方形周溝墓



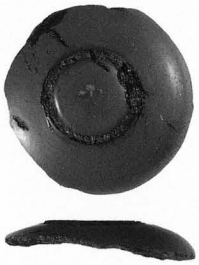
No.07004
SD704

No.07006
SD515(1/1)

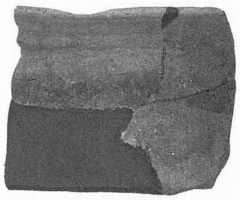
No.07007
SK705

No.07010
小溝7次Ａ群③

No.07008
SX701



No.07009
SX702



No.07011
小溝7次Ａ群⑥

No.07012
Ｉ層（1/3）

No.07013
Ｉ層

0　Scale = 1 : 4　10cm

第７次調査　写真図版－３

第６章　―第８次調査―

本　文　目　次

第１節　調査概要と基本層序……167
　１．調査概要……167
　２．基本層序……167
第２節　検出遺構と出土遺物……167
　１．検出遺構と出土遺物……167
　　(1) SI竪穴住居跡・竪穴遺構……167
　　(2) SD溝跡……169
　　(3) SK土坑……172
　　(4) SX性格不明遺構……172
　　(5) 小溝状遺構群……175
　２．その他の出土遺物……176
第３節　まとめ……177
　１．Ⅲ層上面遺構……177
　２．Ⅱ層上面遺構……177
　３．小結……178

挿　図　目　次

第8- 1図　第８次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序……179
第8- 2図　第８次調査区Ⅲ層上面遺構全体図……180
第8- 3図　第８次調査区Ⅲ層上面遺構平面図……181
第8- 4図　Ⅲ層上面遺構SI806竪穴遺構平面図・断面図……182
第8- 5図　Ⅲ層上面遺構SI807竪穴住居跡平面図・断面図……183
第8- 6図　Ⅲ層上面遺構SI808竪穴住居跡平面図・断面図……184
第8- 7図　Ⅲ層上面遺構SI809竪穴遺構平面図・断面図……185
第8- 8図　Ⅲ層上面遺構SI810竪穴遺構平面図・断面図……186
第8- 9図　Ⅲ層上面遺構SK土坑平面図・断面図（1）……187
第8-10図　Ⅲ層上面遺構SK土坑平面図・断面図（2）SX性格不明遺構平面図・断面図（1）……188
第8-11図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図（2）……189
第8-12図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図（3）……190
第8-13図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図（4）……191
第8-14図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図（5）……192
第8-15図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図（6）……193
第8-16図　第８次調査区Ⅱ層上面遺構全体図……194
第8-17図　第８次調査区Ⅱ層上面遺構平面図……195
第8-18図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡全体平面図……196
第8-19図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡平面図（1）……197
第8-20図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡平面図（2）……198
第8-21図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡平面図（3）……199
第8-22図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡断面図（1）……200
第8-23図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡断面図（2）　SK土坑平面図・断面図（1）……201
第8-24図　Ⅱ層上面遺構SK土坑平面図・断面図（2）SX性格不明遺構平面図・断面図……202
第8-25図　Ⅱ層上面遺構小溝状遺構群全体平面図……203
第8-26図　Ⅱ層上面遺構小溝状遺構群８次A群･B群平面図・断面図……204
第8-27～43図　第８次調査出土遺物実測図……205～221
第8-44図　第８次調査検出遺構時期別変遷模式図……222

挿　表　目　次

第8-1表　SI竪穴住居跡・竪穴遺構観察表……223
第8-2表　SD溝跡観察表……223
第8-3表　SK土坑観察表……223
第8-4表　SX性格不明遺構観察表……224
第8-5表　小溝状遺構群観察表……224
第8-6表　遺物出土数量表……224
第8-7表　遺物観察表……225

写真図版目次

写真図版１～８（遺構写真）……233～240
写真図版９～19（遺物写真）……241～251

第６章　―第８次調査―

第１節　調査概要と基本層序

１．調査概要

第８次調査区は、沼向遺跡の北西部、0K～0R-017～025Gridに位置し、浜堤列に立地する（第8-1図）。調査面積は1241.9㎡（平成８年度224.6㎡、平成９年度1,017.3㎡）である。第９次調査区、第11次調査区、第18次東調査区、第22次調査区に接する。調査区は第8-1図のように設定した。標高は現地表面で1.7mである。

調査区は現況で畑となっていた北Ⅲ区と南区を除き後世の削平を受けており、調査区の約半分程度削平されている。遺構の遺存状態は良くない。

発掘調査は２年にわたって行なった。１年目は平成８年10月16日に表土の重機掘削と遺構確認を開始し、12月13日までの実働31日間実施した。２年目は平成９年4月14日に表土の重機掘削と遺構確認を開始し、５月28日までの実働24日間実施した。

遺構検出面は、基本層Ⅱ層の分布が部分的なため、Ⅱ層上面遺構のほとんどは、Ⅲ層上面遺構と同様、基本層Ⅲ層上面であった。遺構検出面の標高は1.10mである。

遺構は、弥生時代中期前葉：②Ｂ１期から近世：⑫～⑭期にかけて、総数72基が認められた。Ⅲ層上面遺構は、竪穴住居跡２軒、竪穴遺構３基、土坑７基、性格不明遺構22基、Ⅱ層上面遺構は、溝跡30条、土坑３基、性格不明遺構３基、小溝状遺構群２群が検出された（付図5・6）。

遺物は、平箱で８箱出土した。総点数は8549点で、遺構出土が6868点、基本層出土が1681点である。そのうち、縄文土器と弥生土器を合わせた出土数量は4381点である。主体は弥生土器が占め、大半は砕片化した製塩土器である。各遺構及び基本層からの遺物出土数は第8-6表に示した。主な遺物は弥生土器、非ロクロ土師器、陶磁器などである。これらの遺物のうち264点を図示した。

２．基本層序

第８次調査区では南壁と西壁の３箇所で基本層序の確認を行なった。基本層序は大別でⅠ、Ⅱ、Ⅲ層の３層、細別でⅠa、Ⅰb、Ⅰc、Ⅱa_1、Ⅱa_2、Ⅱa_3、Ⅲa、Ⅲb_1、Ⅲb_2、Ⅲe層の10層を確認した。

第２節　検出遺構と出土遺物

１．検出遺構と出土遺物

(1) SI竪穴住居跡・竪穴遺構（第8-4～8図、第8-1表、写真図版8-2～6）　竪穴住居跡２軒、竪穴遺構３基が検出された。

SI806竪穴遺構　（第8-4図、第8-1表、写真図版8-2-3～8）　0Q-024b･0R-024c･0R-023dGridに位置し、沼向③Ｂ１期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。上部をⅡ層上面遺構に削平されるが、底面は遺存している。平面形は不整隅丸方形で、下端は北西隅を除いて方形を呈している。上端規模は南北4.90m、東西4.20mで、底面面積は、推定で、17.8㎡である。主軸方位はN-9°-Eである。壁高は0.44mで、壁面の立ち上がり角は30～47度である。底面はやや起伏があり、北西部に向かって緩やかに窪む。底面標高は0.45m前後である。底面からは３基のピット状の落ち込みを検出した。周溝、掘り方は認められない。ピット状の落ち込みは北東隅に２基と南西隅に１基検出している。ピットの上端規模は0.30～0.45mで、深さ0.16～0.27mである。SI806の埋土は大別６層、

細別７層が認められ、いずれもシルト質砂である。遺物は、埋土３層から非ロクロ土師器の器台（№08001：ＣⅡax類）と甕２点（№08002：ＣＩb1y類、№08003：ＣＩb1x類）が出土している。SI806の時期は、底面出土遺物がなく、明確ではないが、埋土出土の非ロクロ土師器３点（№08001～№08003）が沼向③Ｂ１期土器群であることから、③Ｂ１期としておきたい。

SI807竪穴住居跡　（第8-5図、第8-1表、写真図版8-3-1～8、4-1～4）　0O-022a～dGridに位置し、沼向⑥Ｂ１期に属するⅢ層上面遺構である。SX818より新しい。南西隅の上端を撹乱に削平されているが、全体的に遺存状態は良好である。平面形は正方形で、上端規模は東西4.60m、南北4.52mである。床面積は、推定で20.9㎡である。主軸方位はN-26°-Eである。壁高は0.37mで、壁面の立ち上がり角は47～55度である。床面はほぼ平坦で、床面標高は0.80mである。北壁ほぼ中央にカマド、床面南西隅からピット１基を検出している。周溝、掘り方は認められない。カマドは両袖及び天井石、支脚が遺存しており、燃焼部からは非ロクロ土師器の鉢１点（№08008：ＣⅡb①類）と甕３点（№08011：ＣⅡb2x類、№08012、08013：ＣⅣa1x類）が出土している。カマド袖材は炭化物及び焼土を含む粘土で、右袖のみ袖の先端外側に補強として石を用いている。天井石及び支脚も袖石と同じ石材を用いている。カマド袖は遺構確認面まで遺存し、残存高は0.23mである。カマド燃焼部内部の幅は残存長で0.47m、袖先端から煙道部先端までの奥行きは1.43mである。カマドは袖を壁にとりつけて竪穴内部に燃焼部を確保し、煙道部だけが壁から外へ突き出す構造である。壁から煙道先端までの残存長は0.64mである。煙道先端から0.65mまでが煙道部より最大0.10m深くなっている。カマド掘り方は袖の下部まで全体を約0.10m掘り下げて支脚及び袖石を配置している。掘り方平面プランはカマド袖位置よりやや東側にずれている。SI807の埋土は16層認められ、土質はシルト質砂が多い。埋土１～６層は床面直上まで続くレンズ状に堆積する自然堆積で、２層は灰白色火山灰層である。７層は基本層Ⅲ層の壁崩落土である。埋土９層以下はカマド周辺にだけ分布する層で、10層はカマド天井部外壁の崩落土、11層はカマド内壁の崩落土である。埋土15～16層はカマド掘り方で、15層は焼土・炭化物を含むカマド袖の遺存部及びカマド底面に貼り付けた粘土層、16層はシルト質砂層のカマド掘り方埋土である。遺物は、カマド内及び床面から非ロクロ土師器が多く出土している。鉢（№08008：ＣⅡb①類）は床面中央部とカマド内の破片４点との接合資料である。甑（№08010：ＣⅢby類）は東壁際の中央やや北側の床面から潰れた状態で出土した。甕（№08012：ＣⅣa1x類）は支脚より奥でカマド使用面より高い位置で横倒しになっていた。甕（№08013：ＣⅣa1x類）はカマド右袖先端に寄りかかる形で、また甕（№08011：ＣⅡb2x類）は支脚に覆いかぶさるように逆位でつぶれた状態で出土している。埋土１層から非ロクロ土師器坏（№08005：ＣⅣb3M2類）、埋土５層から非ロクロ土師器坏（№08004：ＣＩf2M1類）、微細剥離痕のある剥片（№08015：玉髄）が出土し、砥石（№08016）は中央ややカマド左袖寄りの床面から0.06m浮いた状況で出土した。また北東隅床面から粘土塊が出土している。SI807の時期は、床面及びカマド出土の非ロクロ土師器４点（№08008、№08011、№08012、№08013）が沼向⑥Ｂ１期土器群であることから、⑥Ｂ１期と考えられる。なお、これらの床面及びカマド出土土器４点は、沼向⑥Ｂ１期土器群：栗囲式古段階の基準資料である。

SI808竪穴住居跡　（第8-6図、第8-1表、写真図版8-4-5～7）　0M-021b･0N-021cGridに位置し、沼向③Ｂ３期に属するⅢ層上面遺構である。SK18E040より古い。東西を撹乱に大きく削平され遺存状態は良くない。平面形は方形と推定される。上端規模は南北5.66m、東西4.12m以上である。床面積は、残存範囲で15.0㎡、推定床面積は25.4㎡である。主軸方位はN-2°-Wである。壁高は0.36mで、壁面の立ち上がり角は30～62度である。床面はほぼ平坦で南側がやや下がっている。床面標高は0.86m前後である。床面からは２基のピットと周溝を検出した。掘り方は認められない。ピットは南東隅と南西隅で検出した。深さはＰ１が0.18m、Ｐ２が0.09mで柱痕跡は確認されていない。北東隅にもピット状の窪みがあり、その配置から削平された北西隅と合わせて4本柱の主柱穴であった可能性もあるが、明確でない。周溝は南辺と北西部で検出された。南西隅から北に向かって周溝が続いているが、削平さ

れているため西辺については不明である。周溝の幅は0.30～0.50mで深さ0.10m、断面は開いた「U」字状である。SI808の埋土は5層認められ、土質はいずれもシルト質砂である。埋土１～３層は自然堆積である。遺物は、床面から非ロクロ土師器甕（№08021：Ｃｘ類）、埋土から非ロクロ土師器の高坏３点（№08017：C類、№08018：ＣＩc類、№08019：ＣＩa類）、壺（№08020：ＣⅡe類）、直口壺（№08022：ＣＩ2類）が出土している。SI808の時期は、床面出土の非ロクロ土師器甕（№08021）と埋土出土の非ロクロ土師器５点（№08017～№08020、№08022）が沼向③Ｂ３期土器群であることから、③Ｂ３期と考えられる。

SI809竪穴遺構　（第8-７図、第8-1表、写真図版8-4-8、5-1～6）　0O-021a～d･0P-021cdGridに位置し、沼向③Ｂ３期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。中央部を撹乱に削平され、わずかに北東隅、南東隅、南西隅が遺存している。平面形は不整方形と推定され、南東隅部がやや外側に丸く膨らんでいる。上端規模は残存する東辺で3.40m、南辺で3.80mである。底面面積は、残存範囲で9.8㎡、推定底面面積は45.9㎡である。主軸方位はN-60°-Eである。壁高は0.57mで、壁面の立ち上がり角は南西隅で63度、北東隅及び南東隅では約28度と緩やかに立ち上がる。遺存する底面は平坦で、底面標高は0.62mである。底面南西隅でピットを１基検出した。柱痕跡はない。周溝、掘り方は認められない。SI809の埋土は大別５層、細別10層が認められ、土質はいずれもシルト質砂である。遺物は、南東隅及び南西隅の埋土から、非ロクロ土師器の高坏（№08023：ＣＩb類）、小型丸底鉢３点（№08024・№08025：ＣⅡ類２点、№08026：ＣⅢ類）、直口壺（№08027：ＣＩ類）、壺３点（№08028：ＣＩb類、№08029：Ｃ３類、№08030：ＣⅡd2類）が出土している。SI809の時期は、底面出土遺物はなく、明確でないが、埋土出土の非ロクロ土師器８点（№08023～№08030）が沼向③Ｂ３期土器群であることから、③Ｂ３期と考えられる。

SI810竪穴遺構　（第8-8図、第8-1表、写真図版8-5-7～8、6-1～4）　0R-025bGridに位置し、沼向③Ｂ１期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。南辺を他遺構に削平されるものの遺存状態は良好で、北側は調査区外に続いている。平面形は方形と推定される。上端規模は東西2.78m、南北は2.20m以上である。底面面積は残存範囲で4.7㎡、推定底面面積は7.7㎡である。主軸方位はN-75°-Wである。底面は平坦で、底面標高は0.72mである。底面からは浅い掘りこみが東辺及び西辺に認められた。ほかのピット、周溝、掘り方は認められない。SI810の埋土は大別３層、細別５層が認められ、土質はいずれもシルト質砂である。埋土2b層は基本層Ⅲ層の壁崩落土で、３層は掘りすぎの可能性がある。遺物は、底面および埋土より非ロクロ土師器が出土している。底面の南西隅からは、鉢（№08033：ＣＩa②類）の上に甕（№08035：ＣＩb1y類）が重なって出土している。２個体は正位置の出土であり、鉢（№08033）と甕（№08035）は意図的に置かれたものと考えられる。同じく底面から鉢（№08034：ＣＩa②類）と甕（№08036：ＣＩb1x類）が出土している。№08034は正位置で潰れた状態で出土した。埋土からは、鉢（№08031：ＣＩa①類、№08032：ＣⅡa類）が出土している。SI810の時期は、底面出土の非ロクロ土師器４点（№08033～№08036）が沼向③Ｂ１期土器群であることから、③Ｂ１期と考えられる。

(2) SD溝跡（第8-19～23図、第8-2表、写真図版8-6～7）　30条検出された。

SD801溝跡　（第8-20～22図、第8-2表、写真図版8-6-5～6）　0M-019c･0M-018d･0L-020b･0L-019ab･0L-018abGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SK801より新しい。調査区を東西に横断する溝で、西側は第18次東調査区へ続き、東側は第22次調査区へ続く。北側に明瞭なテラスを有する。埋土１層と2b層は人為堆積である。埋土2a層と３層は自然堆積である。埋土2c層は基本層Ⅲ層の崩落土である。遺物は、埋土から土師質土器１点（№08037）、陶器の大碗（№08039：岸窯系）、中壺（№08042：岸窯系）、大甕（№08043：岸窯系）、擂鉢４点（№08044・№08046・№08048：岸窯系、№08045：丹波産）、磁器の大碗（№08038：肥前産）、五寸皿２点（№08040～№08041：肥前産）、擂鉢（№08047：在地産）、火鉢（№08049：在地産）、石鉢１点（№08050）、木製品４点（№08051～№08052：漆器椀、№08053：横槌、№08054：鉢）の計18点が出土している。

SD802溝跡　（第8-20･22図、第8-2表）　0O-021c･0N-021abGridに位置し、沼向⑬～⑭期に属するⅡ層上面遺構で

ある。SD805より新しい。東西方向の溝で、湾曲し南側が開く。両端は撹乱に削平される。北東側は土坑状に張り出す。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD803溝跡　（第8-20･22図、第8-2表）　0O-021d･0N-021adGridに位置し、沼向⑬～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD804、SD805より新しい。北西-南東方向の溝で、北西側は他遺構に削平され、南東側は第18次東調査区へ続く。SD806が平行する。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD804溝跡　（第8-20･22図、第8-2表）　0O-021cd･0N-021bGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD803、SD805より古い。東西方向の溝で、東端で南に屈曲し開く。南端は撹乱に削平され、西端は他遺構に削平される。出土遺物はない。

SD805溝跡　（第8-20･22図、第8-2表）　0O-021cd･0N-021abGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD802、SD803より古く、SD804より新しい。北西－南東方向の溝で、両端は他遺構に削平される。遺物は、底面から非ロクロ土師器が出土している。

SD806溝跡　（第8-20･22図、第8-2表、写真図版8-6-7）　0O-022c･0O-021d･0N-021aGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD807より新しい。北西－南東方向の溝で、北西側は他遺構に削平され、南側は第18次東調査区へ続く。SD803が平行する。遺物は、底面から非ロクロ土師器が出土している。

SD807溝跡　（第8-20･22図、第8-2表）　0O-022cGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD806より古い。北東－南西方向の溝で、北東側は撹乱に削平される。出土遺物はない。

SD808溝跡　（第8-20･22図、第8-2表）　0O-021cdGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。東西方向の溝で、両端は撹乱に削平される。SD809と平行する。遺物は、底面から陶磁器などが出土している。

SD809溝跡　（第8-19～20･22図、第8-2表）　0P-021cd･0O-021abGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。東西方向の溝で、東側は第22次調査区へ続き、西側は撹乱に削平される。SD808と平行する。遺物は、底面から非ロクロ土師器が出土している。

SD810溝跡　（第8-19～20･22図、第8-2表）　0P-022c･0P-021d･0O-022bGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。北西－南東方向の溝で、中央北よりで東に分岐する。北西側と南東側は撹乱に削平される。出土遺物はない。

SD811溝跡　（第8-19･22図、第8-2表）　0P-021dGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。東西方向の溝で、西側は撹乱に削平される。底面の起伏は顕著である。出土遺物はない。

SD812溝跡　（第8-19･22図、第8-2表）　0R-024bcGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD404より古い。南北方向の溝で、北側は調査区外へ続き、南側は他遺構に削平される。埋土２層は流水の痕跡が明瞭に見られる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD813溝跡　（第8-19･22図、第8-2表）　0Q-023bc･0P-023bcGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD814、SD816、SD817より新しい。南北方向の溝で、中央で二股に分岐する。遺物は、埋土から磁器大碗（№08055：瀬戸美濃産）などが出土している。

SD814溝跡　（第8-19･22図、第8-2表）　0Q-023bc･0Q-022a･0P-023b･0P-022aGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD813より古く、SD816、SD817、SD820、SD828より新しい。南北方向に蛇行する溝で、北端で東に屈曲し開く。東側は第22次調査区へ続き、南側は撹乱に削平される。南側の蛇行部分の壁面の立ち上がりは緩やかになる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD816溝跡　（第8-19･22図、第8-2表、写真図版8-6-8）　0Q-023cd･0Q-022d･0P-022adGridに位置し、沼向⑫期に

属するⅡ層上面遺構である。SD813、SD814、SD817、SD404より古い。北西－南東方向の溝で、北西端で南西に屈曲する。南西側は他遺構に削平され、南東側は撹乱に削平される。北西から南東部分の溝の底面は、北西から南東へ3つの段があり、その標高差は0.27mである。埋土３層は自然堆積である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD817溝跡　（第8-19･22図、第8-2表）　0Q-023a～d･0Q-022aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD813、SD814、SD404より古く、SD816、SD820より新しい。北東－南西方向の溝で、東端は撹乱に削平され、西側は他遺構に削平される。出土遺物はない。

SD819溝跡　（第8-19～20･22図、第8-2表）　0Q-024c･0Q-023d･0P-024b･0P-023ad･0O-022aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD404、SK811より古い。第９次調査区へ続く南北方向の溝である。出土遺物はない。

SD820溝跡　（第8-19･23図、第8-2表）　0Q-022adGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD814、SD817より古い。北－南東方向の溝で、やや湾曲する。北側は第22次調査区へ続き、南東側は撹乱に削平される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD821溝跡　（第8-19･23図、第8-2表）　0R-025aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD822より新しい。南北方向の溝で、両端は第９次調査区へ続く。出土遺物はない。

SD822溝跡　（第8-19･23図、第8-2表）　0R-025adGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD821より古い。南北方向の溝で、北側は調査区外へ続き、南側は第９次調査区へ続く。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD825溝跡　（第8-19･23図、第8-2表）　0R-025a～dGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD404より古い。南北方向の溝で、北側は調査区外へ続き、南側は他遺構に削平される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD826溝跡　（第8-19･23図、第8-2表）　0R-025bc･0R-024acd･0Q-024bGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD404より古く、SX832より新しい。北西－南東方向の溝で、南東端で南に屈曲する。南側は他遺構に削平される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD827溝跡　（第8-20･23図、第8-2表）　0N-019c･0M-019bGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SX813より古い。北東－南西方向の溝で、北東側は第22次調査区へ続き、南西側は撹乱に削平される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD828溝跡　（第8-19･23図、第8-2表）　0Q-022aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD814より古い。南北方向の溝で、北側は第22次調査区へ続き、南端は撹乱に削平される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SD829溝跡　（第8-19･23図、第8-2表）　0P-022bc･0P-021aGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SX2221より新しい。北東－南西方向の溝で、北東側は第22次調査区へ続き、南西側は他遺構に削平される。底面には起伏がみられる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SD833溝跡　（第8-20･23図、第8-2表）　0M-019bGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SX2205より古く、SK2225、SX813より新しい。南北方向の溝で、両端は第22次調査区へ続く。出土遺物はない。

SD834溝跡　（第8-21･23図、第8-2表）　0L-019cd･0L-018cdGridに位置し、沼向⑬期に属するⅡ層上面遺構である。小溝状遺構群８次Ａ群より古い。北西－南東方向の溝で、やや湾曲する。北西側は撹乱に削平され、南東側は調査区外へ続く。出土遺物はない。

SD835溝跡　（第8-21･23図、第8-2表）　0L-019c･0L-018d･0K-019b･0K-018aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ

層上面遺構である。SD836より古い。北西-南東方向の溝で、北西側は撹乱に削平され、南東側は他遺構に削平される。出土遺物はない。

SD836溝跡　（第8-21･23図、第8-2表）　0K-018aGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD835、小溝状遺構群８次Ｂ群より新しい。北東－南西方向の溝で、南西側は撹乱に削平される。出土遺物はない。

SD404溝跡　（第8-19･23図、第8-2表、写真図版8-7-1）　0R-025cd･0R-024cd･0R-023d･0Q-024abc･0Q-023ad･0P-023a～dGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD812、SD816、SD817、SD819、SD825、SD826より新しい。東西方向、南北方向の比較的幅の広い溝が屈曲あるいは交差している遺構であり、SD404A～404Dに分けられる。いずれも他の調査区へ続く。埋土は大別３層、細別10層に分けられる。埋土１層と２層は人為堆積で、埋土３層は自然堆積である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器甕（№08056：CⅣa1x類）、陶器土瓶・蓋（№08057：堤産）、剥片（№08058：黒曜石）などが出土している。

(3) SK土坑（第8-9～10、23～24図、第8-3表、写真図版8-7）　10基検出された。

SK801土坑　（第8-23図、第8-3表）　0L-019bGridに位置し、沼向⑫～⑬期に属するⅡ層上面遺構である。SD801より古い。出土遺物はない。

SK802土坑　（第8-9図、第8-3表、写真図版8-7-2～3）　0O-022c･0O-021dGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SK803より新しい。遺物は、埋土４層から非ロクロ土師器甑（№08059：Ｃcz類）などが出土している。

SK803土坑　（第8-9図、第8-3表）　0O-021d･0N-021aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SK802より古い。出土遺物はない。

SK804土坑　（第8-9図、第8-3表）　0O-021cdGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK805土坑　（第8-9図、第8-3表、写真図版8-7-4～5）　0P-021d･0O-021aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK808土坑　（第8-9図、第8-3表）　0P-021cGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK809土坑　（第8-10図、第8-3表、写真図版8-7-6～7）　0P-021dGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK810土坑　（第8-10図、第8-3表）　0P-021cdGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。出土遺物はない。

SK811土坑　（第8-23図、第8-3表）　0O-022aGridに位置し、沼向⑬～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD819より新しい。出土遺物はない。

SK812土坑　（第8-24図、第8-3表）　0O-022aGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。Ⅱ層上面遺構との新旧関係はない。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

(4) SX性格不明遺構（第8-10～15・24図、第8-4表、写真図版8-7～8）　25基検出された。

SX801性格不明遺構　（第8-10図、第8-4表）　0L-018bGridに位置し、沼向⑤～⑧期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形が不明の溝状の遺構である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器坏（№08060：ＣⅤb2M2類）が出土している。

SX802性格不明遺構　（第8-10図、第8-4表）　0L-019cGridに位置し、沼向⑤～⑧期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整円形のピット状の遺構である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器甕（№08061：ＣⅢ1x類)が出土している。

SX803性格不明遺構　（第8-10図、第8-4表）　0L-019cdGridに位置し、沼向⑤～⑧期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整楕円形のピット状の遺構である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器甕（№08062：CⅢｄ1y類）が出土している。

SX804性格不明遺構　（第8-10図、第8-4表）　0O-021cdGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整方形のピット状の遺構である。遺物は、埋土から縄文土器あるいは弥生土器が出土している。

SX808性格不明遺構　（第8-10図、第8-4表）　0N-021aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。東西を他遺構に削平され平面形は不明である。遺物は、埋土から縄文土器あるいは弥生土器と、非ロクロ土師器が出土している。

SX809性格不明遺構　（第8-11図、第8-4表、写真図版8-7-8、8-1）　0R-025bc･0R-024d･0Q-025b･0Q-024aGridに位置し、沼向②Ｂ１～③Ｂ１期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整形で、浅い擂り鉢状の遺構である。埋土は５層で、いずれも砂質の自然堆積土である。本遺構は現場調査時に土層断面の図化を行なわなかったため、土層断面図は写真図版及び平面図から復元したものである。

遺物は、第8-6表のように、埋土から総数3473点出土している。そのうち、約32％を縄文土器あるいは弥生土器、約63％を製塩土器が占めており、前者では弥生土器が縄文土器に比べてはるかに多く、後者の製塩土器は多くが砕片化している。埋土１層・２層からは、③Ｂ期の非ロクロ土師器甕（№08086）などの出土はあるが、埋土３層～５層からは、非ロクロ土師器の出土はない。埋土３層出土土器は、一部に①期の縄文土器、②Ｂ５期の弥生土器を含むが、②Ｂ１期土器群が主体を占めており、埋土４層・５層からは、製塩土器を伴う②Ｂ１期土器群が出土している。そのため、この凹地状の遺構は、最下層の埋土５層出土土器が示すように、弥生時代中期前葉：沼向②Ｂ１期に形成が始まった遺物包含層であり、古墳時代後期まで、凹地として存続したと考えられる。

沼向②Ｂ１期土器群については、埋土１層・２層からも出土しているが、埋土３層～５層出土土器を中心としてみておきたい。器種は、浅鉢、鉢、深鉢、甕、蓋が認められる。甕を除いて、文様帯は比較的広く、文様は、複線によって描かれる傾向がみられ、無文上施文、磨消縄文（充填縄文を含む）となることが多い。№08103は無文上に３単位の複線波状文に副線を添えて施文、№08107は地文上に複線で幾何学文様を描いて主線内を無文とし、№08116は主線内に擬縄文を施文する磨消変形工字文で、交点の短縦線が地文内に残されている。また、№08102のような無文上施文の単線山形文、№08134のような未完結の磨消縄文も併存する。甕は、口縁部外面のヨコナデ調整が主体を占めており、そののち、列点刺突文、連続押引文、１条沈線文を施文するものが多く、口縁部外面がミガキ調整の場合は、それらの文様は施文されない。内面の調整はすべてミガキである。地文は、甕、深鉢ではＬＲ縄文を主体として撚糸文Ｒ、擬縄文も少数あるが、浅鉢、鉢、蓋では、ＬＲ縄文と擬縄文を主体として撚糸文Ｒが少ない傾向にある。

沼向②Ｂ１期土器群に伴う製塩土器については、厚さ５mm前後と薄手の３～４mmがあり、両者とも、口縁部～体部上半は内反外傾、直線外傾と、屈曲する頸部で体部と口縁部を分ける頸部屈曲がある。前者の№08118は、外面調整がハケメのちナデである。後者には、外面に粘土紐の積上痕が1.5～2.0cm間隔で残っており、口唇を含む最上段の幅は1.5cm以下で、幅も一定しない傾向がある。法量は、口径・器高とも20cm前後の中型と、口径・器高とも30cm前後の大型がある。底部は内面平坦面平底、内面曲面平底、内面曲面丸底・尖底底がある。平底では、外面の底面木葉痕、下端の張り出しが特徴的である。

このほか、弥生土器は②Ａ期及び②Ｂ２期からＣ期にかけて、数は少ないながら出土しているが、図化しうるものは極めて少ない。②Ｂ４期では、№08069で、無文上に沈線で方形状の文様を施文し、沈線間を１帯おきにミガキ調整する特徴的な手法がとられ、沈線文のコーナーの一部には刺突がなされている。②Ｂ５期では、埋土１～３

層から壺の体部破片（№08068、№08097など）が出土している。２本同時施文同心円文が施文されている。②Ｃ１～２期では、小型の壺（№08063）がある。体部上半の文様帯には、「Ω」形の連続した沈線文を上下から交互に施文しており、上方からの文様のほうが大きい。この文様帯の下位には、下向き連弧文が施文されている。

石器は７点図示した。１層：黒曜石の剥片２点（№08084～№08085）、２層：黒曜石の剥片２点（№08094～№08095）、玉髄の剥片１点（№08096）、３層：玉髄製の二次加工のある剥片１点（№08133）と石鏃１点（№08132）である。黒曜石の剥片は、３層以下から出土していない。

SX810性格不明遺構　（第8-12図、第8-4表、写真図版8-8-2～5）　0P-023a～dGridに位置し、沼向③Ｂ１期以降に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は方形で、上端規模は南北5.68ｍ東西5.22ｍで、竪穴遺構の可能性もあるが、底面に起伏があることから性格不明遺構とした。本遺構は現場調査時に土層断面の図化を行なわなかったため、土層断面図は写真図版及び平面図から復元したものである。埋土は３層からで、各層とも自然堆積である。埋土３層は土層断面及び完掘写真図版の撮影後に確認、掘り下げたため、写真図版と図面の形状は異なっている。遺物は、埋土から非ロクロ土師器の小型丸底鉢（№08149：ＣⅠ類）、有孔鉢（№08150：ＣⅡa類）、甕（№08151、08152：ＣⅠy類２点）、ミニチュア土器３点（№08153～08155：Ｃ類）と、管状土錘１点（№08156）のほか、縄文土器あるいは弥生土器も出土している。

SX811性格不明遺構　（第8-10図、第8-4表）　0Q-023adGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は隅丸方形で、土坑状の遺構である。埋土２層下面に起伏が認められる。２層より上は別遺構の可能性もある。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SX813性格不明遺構　（第8-24図、第8-4表）　0N-019c･0N-018d･0M-019b･0M-018aGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD833、SK2207より古く、SD827より新しい。第22次調査区に続く溝状の遺構で、底面は平坦である。遺物は、埋土から須恵器甕の口縁部（№08157）、縄文土器あるいは弥生土器、非ロクロ土師器などが出土している。

SX815性格不明遺構　（第8-24図、第8-4表、写真図版8-8-6）　0P-022bc･0P-021adGridに位置し、沼向⑫～⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SX2220より古い。平面形は不整楕円形で、深さは0.72ｍである。埋土下半は互層状になった自然堆積を確認できる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器などが出土している。

SX816性格不明遺構　（第8-11図、第8-4表）　0Q-022c･0Q-021d･0P-022b･0P-021aGridに位置し、沼向④～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SX2226より古く、SK2226、SX824より新しい。北東は第22次調査区に続く。撹乱に削平され平面形は不明である。埋土は互層状で、自然堆積を示し、埋土２層には泥炭質粘土の堆積が認められ、長期間埋没しなかったと考えられる。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SX817性格不明遺構　（第8-13図、第8-4表）　0O-022bGridに位置し、沼向③～④期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。東半部を撹乱に削平される。遺物は、埋土から非ロクロ土師器の高坏（№08158：ＣⅠa類）、甕（№08159：C類）と、縄文土器あるいは弥生土器が出土している。

SX818性格不明遺構　（第8-13図、第8-4表）　0O-022cGridに位置し、沼向③～⑥Ａ期に属するⅢ層上面遺構である。SI807より古い。南西は調査区外に続き、平面形は不明である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SX819性格不明遺構　（第8-13図、第8-4表）　0N-020bc･0N-019adGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SI2201より新しい。南北方向の溝状の遺構で、北側は第22次調査区に続く。出土遺物はない。

SX820性格不明遺構　（第8-13図、第8-4表）　0N-020abGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整楕円形の土坑状の遺構である。出土遺物はない。

SX821性格不明遺構　（第8-13図、第8-4表）　0O-020c･0N-020bGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺

構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整方形の土坑状の遺構である。出土遺物はない。

SX822性格不明遺構　（第8-13図、第8-4表）　0O-021c・0O-020d・0N-021b・0N-020aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。南西を撹乱に削平される。平面形が不明の土坑状の遺構である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が１点出土している。

SX823性格不明遺構　（第8-14図、第8-4表）　0Q-022d・0P-022aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。南西を他遺構に削平され平面形は不明である。遺物は、埋土から非ロクロ土師器が出土している。

SX824性格不明遺構　（第8-14図、第8-4表）　0P-022bcGridに位置し、沼向③Ｂ期に属するⅢ層上面遺構である。SX816より古い。西側と北側を他遺構に削平される。平面形は方形で、中心付近で一段深く方形に低くなっている。遺物は、埋土から非ロクロ土師器の鉢（№08160：ＣⅡａ類）、甕（№08161、08162：ＣＩy類２点、№08163：ＣＩb1x類）などが出土している。

SX825性格不明遺構　（第8-14図、第8-4表）　0M-020b・0M-019aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。北東方向の溝状の遺構である。出土遺物はない。

SX826性格不明遺構　（第8-14図、第8-4表）　0N-021dGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整円形の土坑状の遺構である。第22次調査区に続く。出土遺物はない。

SX827性格不明遺構　（第8-14図、第8-4表）　0P-022d・0O-022aGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SX828より新しい。周囲を他遺構に削平され、平面形は不明である。遺物は、埋土から縄文土器あるいは弥生土器、非ロクロ土師器などが出土している。

SX828性格不明遺構　（第8-15図、第8-4表）　0P-023c・0P-022dGridに位置し、沼向③～⑩期に属するⅢ層上面遺構である。SX827より古い。平面形は不整形の土坑状の遺構である。出土遺物はない。

SX831性格不明遺構　（第8-15図、第8-4表）　0Q-023bc・0Q-022adGridに位置し、沼向③Ｂ１期以降に属するⅢ層上面遺構である。Ⅲ層上面遺構との新旧関係はない。平面形は不整方形で、上端規模は東西5.38ｍ以上、南北4.98ｍである。埋土は２層からなり、埋土２層は自然堆積である。本遺構は現場調査時に土層断面の図化を行なわなかったため、土層断面図は写真図版及び平面図から復元したものである。本遺構は底面の起伏が大きいため性格不明遺構とした。遺物は、埋土から非ロクロ土師器の高坏（№08164：ＣＩb類）、甕（№08165：C類、№08166：ＣＩb1x類、№08167：ＣＩb1y類）と、縄文土器あるいは弥生土器が出土している。

SX832性格不明遺構　（第8-24図、第8-4表）　0R-024cdGridに位置し、沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD826より古い。東西方向の溝状の遺構である。出土遺物はない。

(5) 小溝状遺構群（第8-25～26図、第8-5表、写真図版8-8）　２群検出された。

小溝状遺構群８次Ａ群　（第8-25・26図、第8-5表、写真図版8-8-8）　0L-019cd・0L-018bcdGridに位置し、沼向⑭期に属するⅡ層上面遺構である。SD834、小溝状遺構群８次Ｂ群より新しい。

小溝状遺構群８次Ａ群は、第８次調査区南部で、東西方向に直線的に平行する５条の溝からなる。上部を撹乱に削平されているが、遺存状況は比較的良好である。東側は第11次調査区に続く。区画施設は認められない。８次Ａ群の範囲は東西11.00ｍ以上、南北4.00ｍで、その面積は46.3㎡以上である。小溝の全長は2.80ｍ～9.45ｍである。走行方向はＮ-68～72°－Ｅである。上端幅は0.35～0.76ｍである。小溝の芯々距離は1.0～1.7ｍである。底面には起伏が顕著にみられる。工具痕が認められる。埋土は単層で、黒色の粘土質シルトブロックを含む。遺物は、埋土から非ロクロ土師器と陶磁器が１点ずつ出土している。

小溝状遺構群８次Ｂ群　（第8-25・26図、第8-5表、写真図版8-8-7～8）　0L-018cd・0K-019b・0K-018abGridに位置し、

沼向⑫期に属するⅡ層上面遺構である。SD836、小溝状遺構群８次Ａ群より古い。

小溝状遺構群８次Ｂ群は、第８次調査区南部で南北方向に直線的に平行する９条の溝からなる。小溝は撹乱に削平され遺存状況はあまり良好ではない。南側は第11次調査区に続く。区画施設は認められない。８次Ｂ群の範囲は東西10.00m、南北9.20m以上で、その面積は22.6㎡以上である。小溝の全長は不明なものが多いが、最長は小溝⑤の2.50mである。方向はほぼN-0°-Eである。上端幅は0.35～0.40mである。小溝の芯々距離は、0.50m～2.90mである。遺構確認面からの深さは0.05～0.12mである。底面はほぼ平坦である。工具痕は確認できない。埋土は砂質シルトの単層で、炭化物を含む。出土遺物はない。

２．その他の出土遺物

沼向①期：縄文土器は13点を図示した（№08168～№18180）。№08168は、①Ａ１期の浅鉢の体部破片と考えられる。内面に文様があり、横走沈線の上部には地文、下部には沈線で文様が施文されている。№08169～№08172・№08174～№08175は、①Ｂ４期の浅鉢、№08173は、①Ｂ４期の深鉢である。№08169～№08172は、同一個体と考えられ、口縁は波状をなしている。体部上端部に狭い文様帯を形成しており、№08170のように、波頂部直下に浮線状に長方形文を施文している。この長方形文は、その内部にあった沈線間の浮線状の高まりを切断し、器面の彫去を伴いながら粘土を上下左右へ移動して作られている。内面は、口縁部と体部の境界にやや上向きの平坦面が形成され、そこに沈線が1条施文されている。№08176～№18180は、①Ｂ４期～①Ｂ５期の深鉢と浅鉢である。深鉢の口縁部外面、浅鉢の外面はミガキ調整である。遺物の分布傾向は、0Q-022・023Gridを中心とした20m四方ほどである。

沼向②期：弥生土器は52点を図示した（№08181～№18232）。№08181は、②Ａ期の浅鉢の口縁部破片である。口唇沈線と内面沈線が確認され、外面に変形工字文が施文されている。№08182～№08188は、②Ａ期～②Ｂ１期の壺、高坏あるいは浅鉢の破片である。№08189～№08194は、②Ｂ１期の浅鉢、鉢、壺の破片である。№08189と№08190は同一個体で、磨消対称文様となる流水工字文が副線を伴って施文されている。内面沈線が2条確認される。№08195～№08201は、②Ｂ２期～Ｂ４期の鉢、蓋の破片である。№08202～№08209は、②Ｂ５期の壺の破片である。№08202は頸部の破片で、断面三角形の突帯が２条めぐっている。№08203～№08209の体部には、２条同時施文の同心円文、山形文、重弧文などの施文がある。№08210～№08215は、②Ｂ１～Ｂ５期の甕、蓋、深鉢の破片である。№08216～№08221は、②Ｃ１期～Ｃ３期の深鉢の破片である。№08216は、沈線に刺突が加えられている。№08217は、複合口縁の下端に隆帯をめぐらせ、間隔をおいて下から連続した押圧を加えて連弧文状の隆帯としている。№08218と№08219は、地文上にボタン状貼付を伴って眼鏡状文を沈線で施文している。沈線に沿うように連続した刺突がなされている。№08222は、②Ｃ５期の甕である。口唇は平坦で、撚糸文Ｒが施文されている。体部外面にも撚糸文Ｒが施文されている。№08223～№08226、№08228は、底部の破片である。№08227、№08229～№08232は、②Ｂ１期の製塩土器で、№08227と№08229は、薄手（器厚３～４mm）の口縁部破片、№08230～№08232は、底部破片である。№08231と№08232は、内面曲面平底である。これらの遺物の分布傾向は、調査区の北西半部、0P･0O-022Grid以西に広く認められ、南東半部にも、後期の土器の地点的な分布がみられる。また、石器は４点を図示した（№08254～№08257）。№08254･№08255は、石鏃である。№08256は、微細剥離痕のある剥片である。№08257は、二次加工のある剥片である。

沼向③Ｂ期：非ロクロ土師器５点（№08233～№08237）と、土製品を３点（№08251～№08253）図示した。№08233は、沼向③Ｂ３期の小型丸底鉢（ＣⅡ類）である。№08234は、沼向③Ｂ１期の壷（ＣＩa類）である。№08235は、沼向③Ｂ期もしくは沼向④期と考えられる甕（ＣＩb1x類）である。№08236は、沼向③Ｂ期の甕（ＣＩ1x類）である。№08237は沼向③Ｂ期～⑥期のミニチュア土器（Ｃ類）である。№08251･№08252は、管状土錘である。№08253は、球状土錘である。沼向遺跡では、所属時期が判明する土錘はいずれも③Ｂ期に属しており、こ

れら土錘も沼向③Ｂ期と考えられる。

沼向③期～⑩期：石器１点（No.08258）と、ロクロ土師器１点（No.08238）を図示した。No.08258は③期～⑥期のラウンドスクレイパーである。No.08238は、沼向⑩期の甕（ＤⅢe類）である。

沼向⑫期：磁器を２点図示した（No.08242・No.08246）。No.08242は、肥前産の中碗である。No.08246は、肥前産の大皿である。

沼向⑬期：磁器（No.08243）と陶器（No.08248）の２点を図示した。No.08243は、大堀相馬産の大碗である。No.08248は堤産と考えられる擂鉢である。

沼向⑭期：陶器は１点を図示した（No.08250）。No.08250は、在地産の涼炉である。

沼向⑫期～⑭期：磁器は２点（No.08244・No.08245）、陶器は１点（No.08247）、土器は１点（No.08249）、土師質土器は３点（No.08239～No.08241）を図示した。No.08244とNo.08245は、沼向⑫期～⑬期の肥前産（波佐見）の小皿と五寸皿である。No.08247は、沼向⑫期～⑬期の岸窯系の中壺である。No.08249は、沼向⑬期～⑭期の在地産の火鉢である。No.08239～No.08241は、沼向⑫期～⑭期の土師質土器である。金属製品は６点を図示した（No.08259～08264）。No.08259・No.08260・No.08262・No.08263は、寛永通寶である。No.08261は、皇宗通寶である。No.08264は、銭名が不明である。

第３節　まとめ

１．Ⅲ層上面遺構

縄文時代（沼向①期）：遺構の検出はない。後期中葉：①Ａ期と晩期後葉～末葉：①Ｂ４～Ｂ５期の土器が出土している。器種は、深鉢、浅鉢が認められる。これらの縄文土器の分布は、調査区中央よりやや北西寄りの20m四方の範囲で、弥生土器の分布とは異なる。

弥生時代（沼向②期）：弥生時代中期前葉：②Ｂ１期から形成された遺物包含層：SX809埋土１～５層を、調査区北西端部で確認した。このうち、弥生時代の包含層：埋土３～５層からは、沼向②Ｂ１期土器群が製塩土器を伴って出土しており、この時期に、第８次調査のなかでは最も浜堤列縁辺に近い北西端部周辺が土器製塩に関わっていたことが知られた。②Ｂ１期の弥生土器の器種には、壺、甕、蓋、深鉢、浅鉢、鉢、高坏が認められる。

古墳時代前期後半（沼向③Ｂ期）：古段階：③Ｂ１期の竪穴遺構２基（SI806・SI810）、新段階：③Ｂ３期の竪穴住居跡１軒（SI808）、竪穴遺構１基（SI809）、③Ｂ期の性格不明遺構１基が検出された。

古墳時代後期中葉（沼向⑥期）：⑥Ｂ１期の竪穴住居跡１軒（SI807）が検出された。

このほか、沼向③期～⑩期のいずれかに属する土坑７基と性格不明遺構20基が検出された。

２．Ⅱ層上面遺構

近世前葉（沼向⑫期）：溝跡13条、性格不明遺構１基、小溝状遺構群１群が検出された。出土した陶磁器は、器種に大碗、中碗、大皿、擂鉢があり、それらの産地は、肥前、岸窯系、丹波、在地である。

近世中葉（沼向⑬期）：溝跡２条が検出された。出土した陶磁器は、器種に大碗、五寸皿、擂鉢があり、それらの産地は、堤、大堀相馬である。

近世後葉（沼向⑭期）：溝跡４条と、小溝状遺構群１群が検出された。出土した陶磁器は、器種に涼炉があり、産地は、在地である。

このほか、沼向⑫～⑭期のいずれかに属する溝跡11条、土坑３基、性格不明遺構２基が検出された。また、遺物では、陶磁器、土師質土器、銭貨、木製品が出土した。陶磁器の器種には、五寸皿、小皿、中壷、大甕、火鉢が認められる。産地は、肥前（波佐見）、岸窯系、在地である。土師質土器の器種は小皿である。銭貨は、寛永通宝、

皇宗通宝、銭名が不明のものが認められる。木製品は、漆碗、鉢、横槌が認められる。

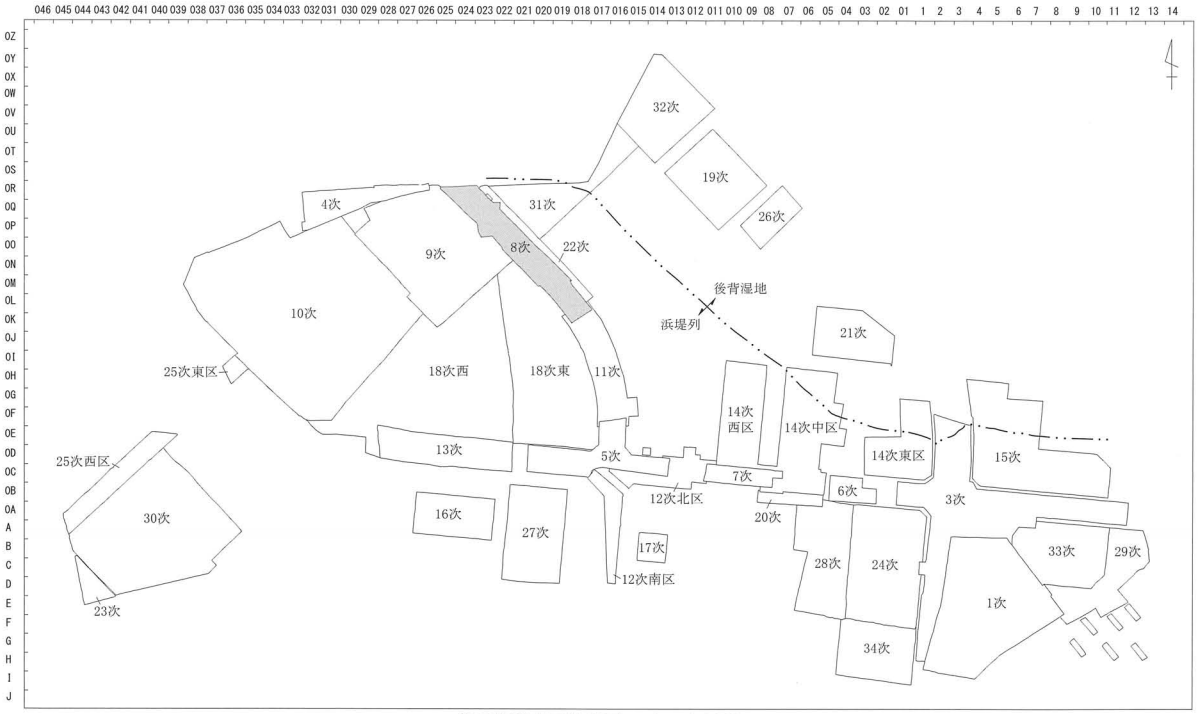
３．小結

第８次調査区は、遺跡北西部に位置し、浜堤列に立地する。調査面積は1241.9㎡である。

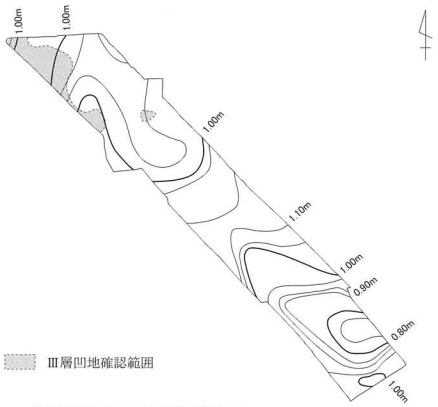
遺物は、縄文時代後期中葉：①Ａ期から認められ、晩期後葉～末葉：①Ｂ4～Ｂ５期の土器の出土もある。

遺構は、弥生時代中期前葉の遺物包含層１箇所（SX809：②Ｂ１期）、古墳時代前期の竪穴住居跡１軒と竪穴遺構３基（③Ｂ期）、性格不明遺構１基（③Ｂ期）、後期の竪穴住居跡１軒（⑥Ｂ１期）、古墳時代前期～平安時代初頭：③～⑩期の土坑７基、性格不明遺構20基、近世：⑫～⑭期の溝跡30条、土坑３基、性格不明遺構３基、小溝状遺構群２群が検出された。

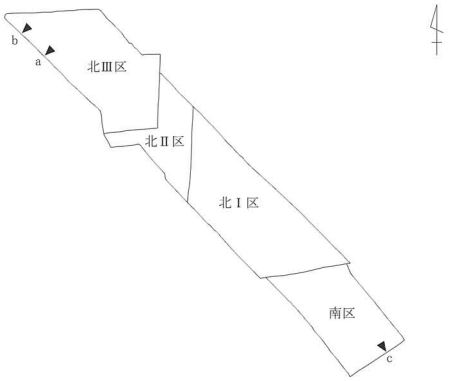
沼向遺跡の遺構群の変遷を考えるうえでの成果としては、弥生時代中期前葉：②Ｂ１期の遺物包含層（SX809埋土３～５層）が検出され、製塩土器の出土から、浜堤列縁辺部での土器製塩が考えられたこと、古墳時代前期、後期に居住域が形成されていたこと、近世では、遠藤館跡に伴う生産域：畑域としての土地利用がなされていたことが知られた。



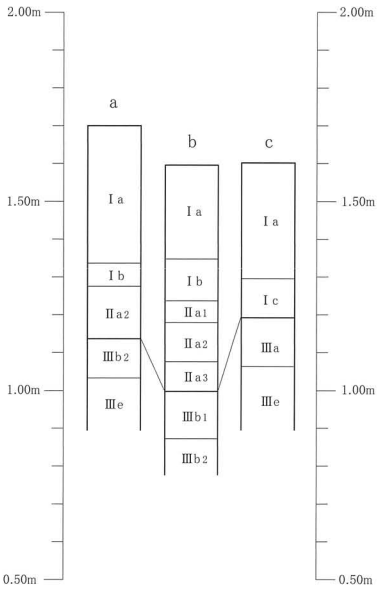
第8次調査区位置図 scale = 1:4000



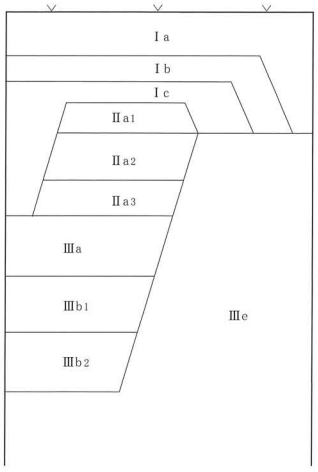
等高線図・Ⅲ層凹地位置図 scale = 1:1500



調査区名称・柱状模式図作成地点位置図 scale = 1:1500

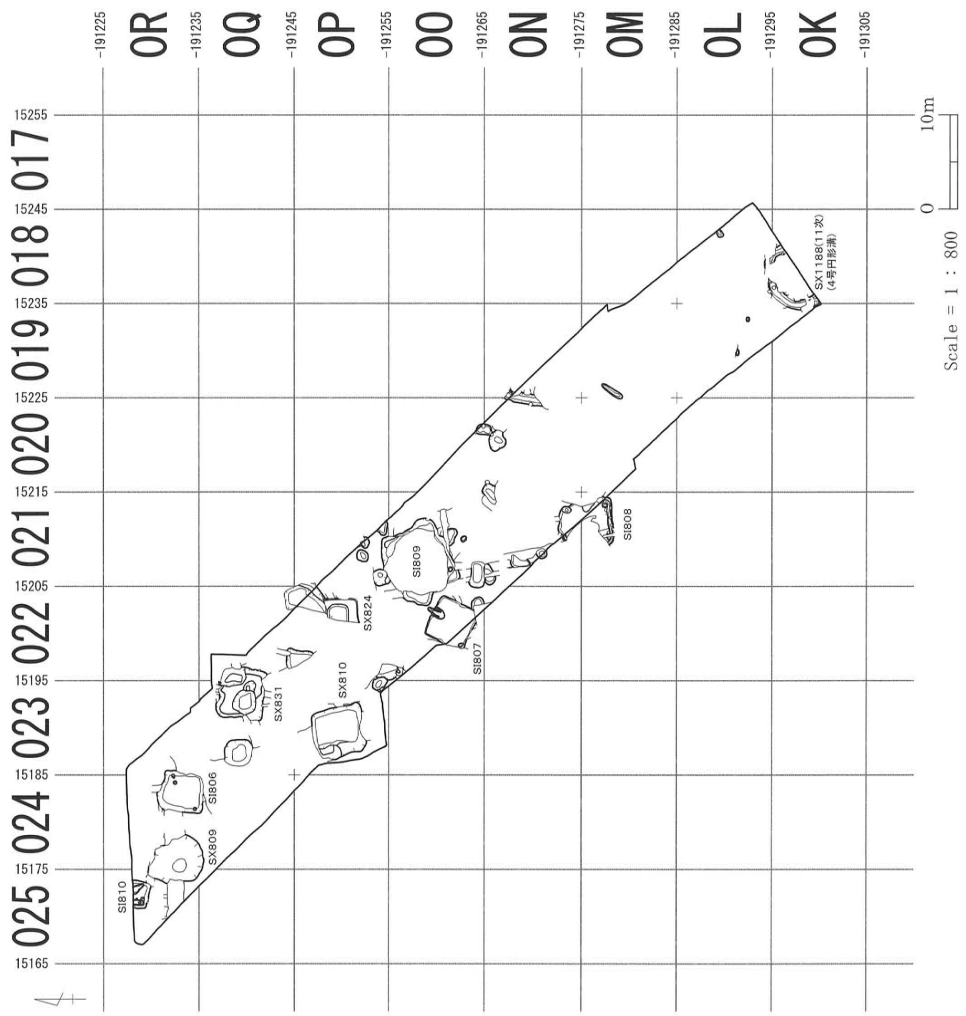


基本層序柱状模式図

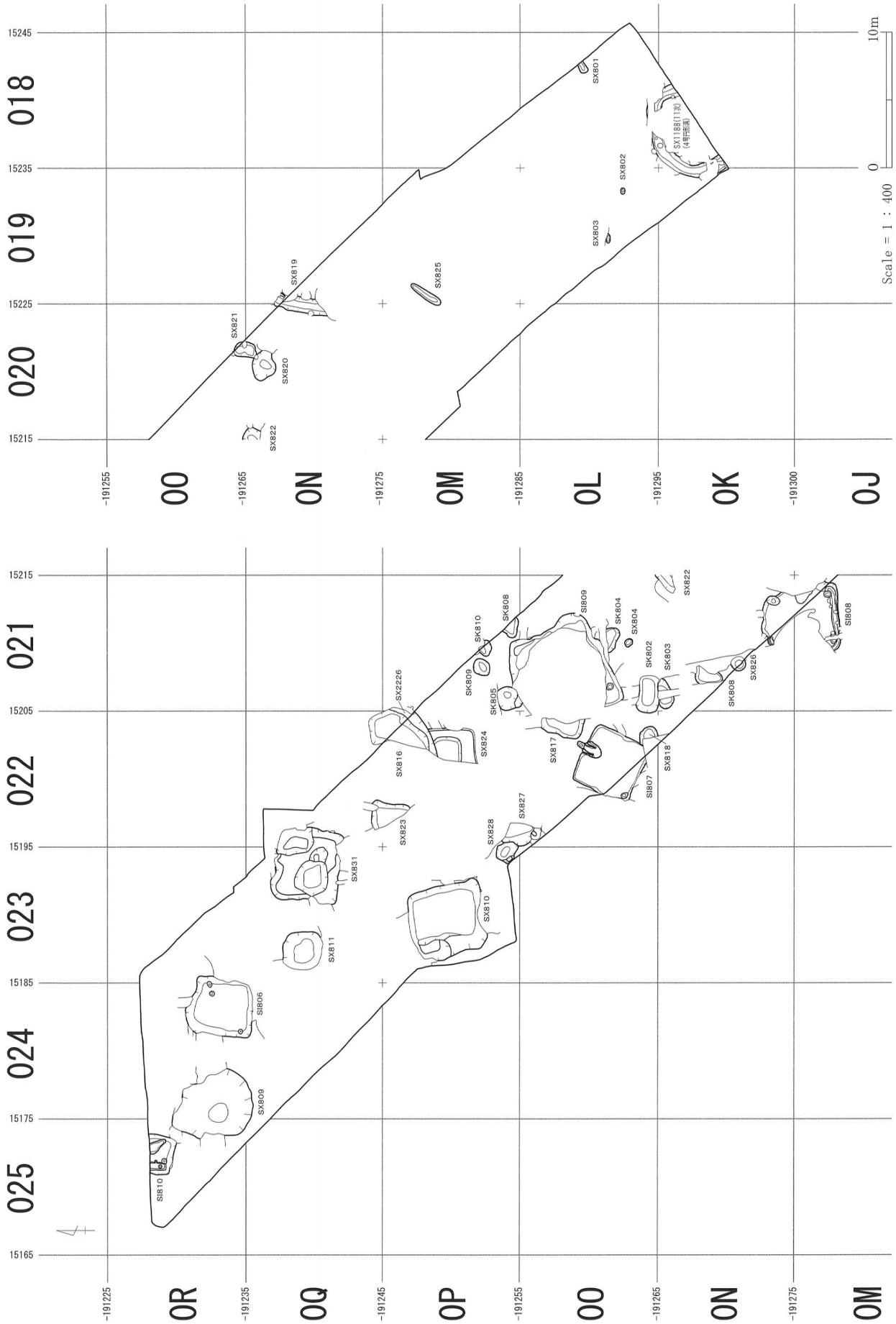


基本層序略図

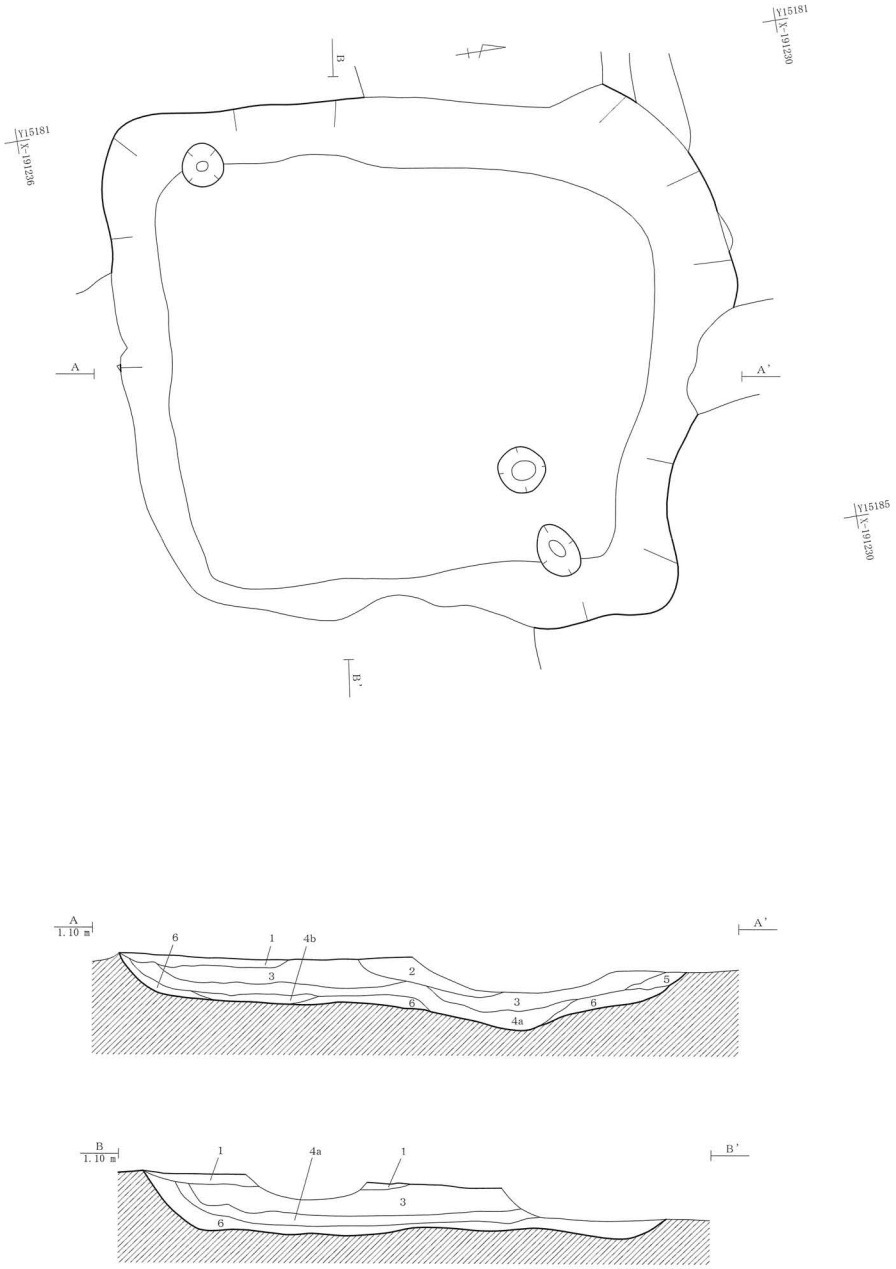
第８－１図　第８次調査区位置図　等高線図・Ⅲ層凹地位置図　基本層序



第８－２図　第８次調査区Ⅲ層上面遺構全体図



第８－３図　第８次調査区Ⅲ層上面遺構平面図

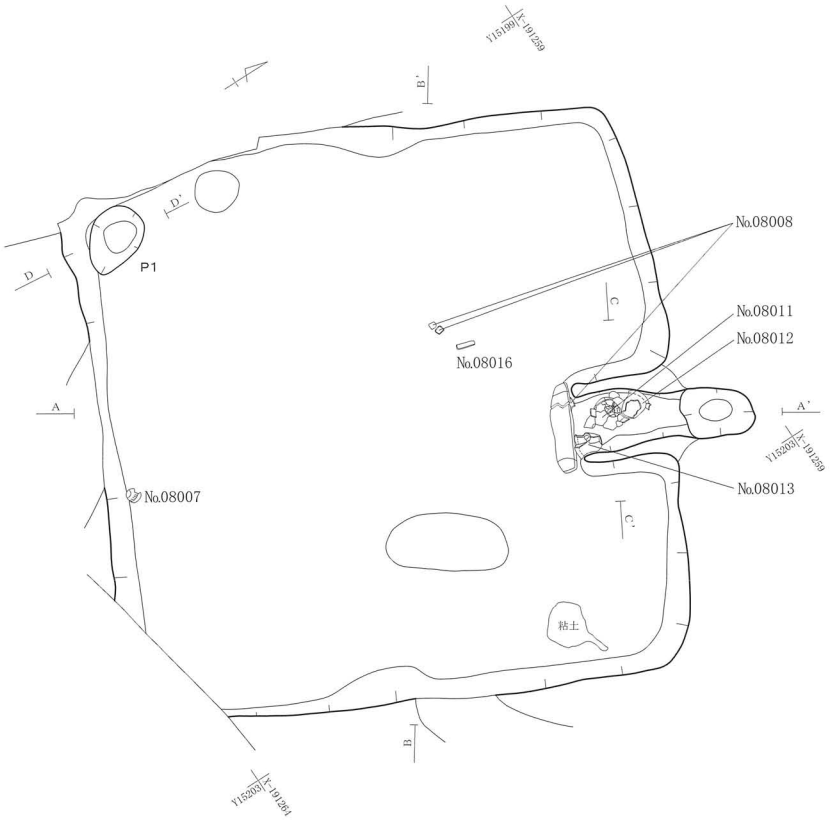


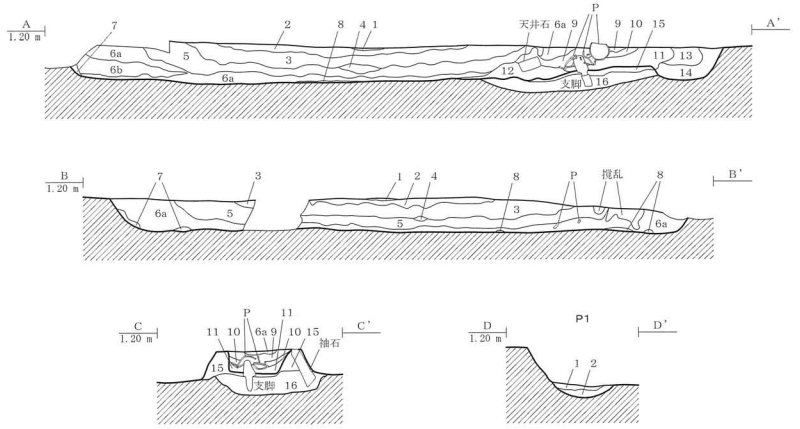
SI806

1	10YR7/3にぶい黄橙色	シルト質砂	
2	10YR2/1黒色	シルト質砂	
3	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	
4a	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	灰黄色砂ブロック
4b	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	灰黄色砂ブロック多量
5	10YR8/4浅黄橙色	シルト質砂	
6	2.5Y7/2灰黄色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－４図　Ⅲ層上面遺構SI806竪穴遺構平面図・断面図





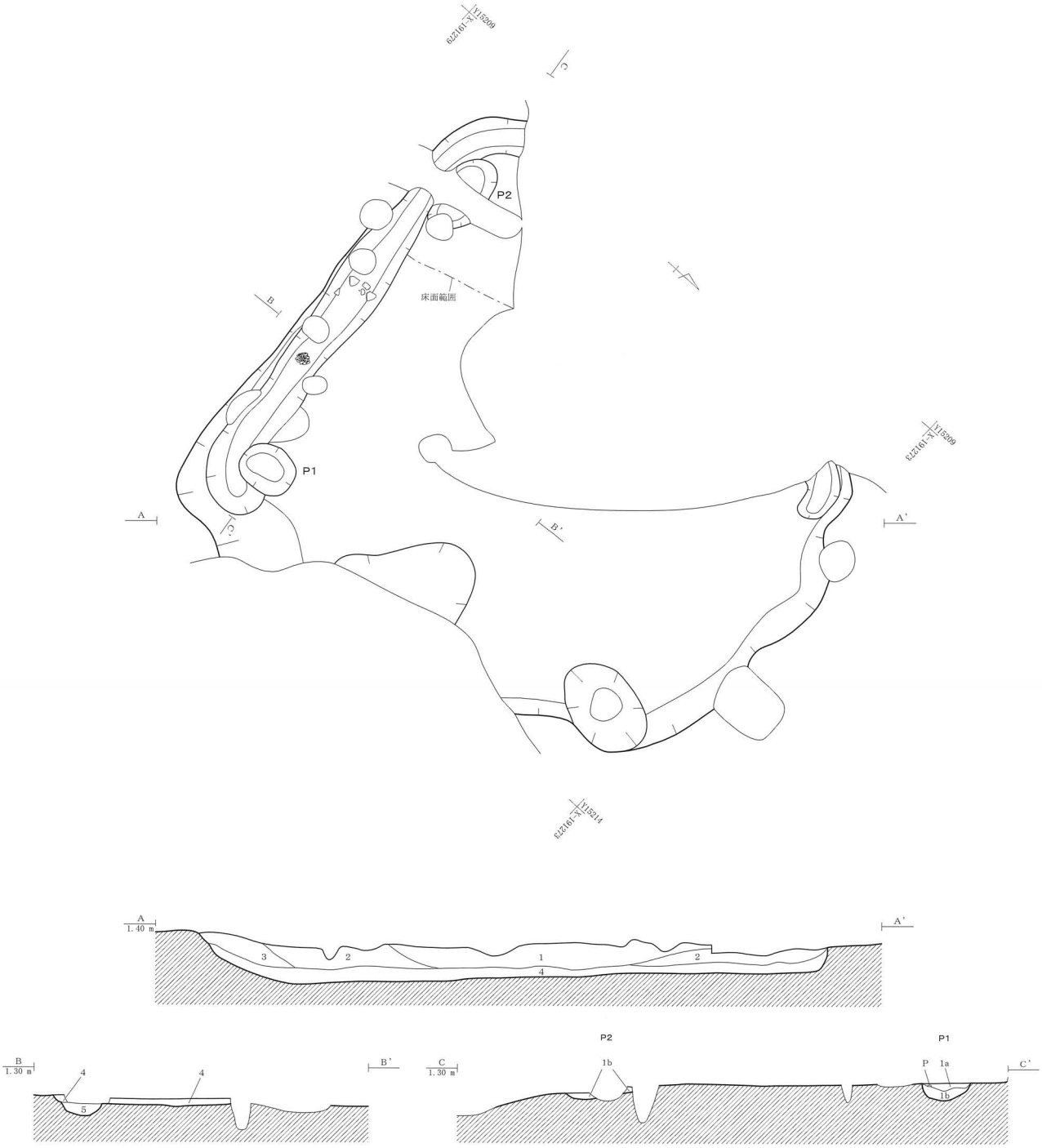
SI807

1	10YR2/1黒色	シルト質粘土	灰白火山灰ブロック
2	10YR8/2灰白色	シルト	灰白火山灰
3	7.5YR2/1黒色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック、灰白火山灰ブロック
4	10YR5/1褐灰色	粘土	灰白色粘土ブロック多量
5	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、炭化物少量
6a	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量、焼土粒、炭化物
6b	10YR2/1黒色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量、焼土粒、炭化物
7	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量
8	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量、焼土粒、炭化物
9	10YR6/2灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色シルト質砂多量、炭化物少量

10	10YR5/2灰黄褐色	粘土	焼土粒、炭化物多量
11	7.5YR2/1黒色	シルト質粘土	焼土粒、炭化物
12	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	被熱粘土ブロック少量、焼土粒、炭化物
13	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂ブロック、炭化物
14	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、炭化物
15	7.5YR2/2黒褐色	粘土	炭化物多量、焼土粒
16	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量、炭化物
P1-1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック
P1-2	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－５図　Ⅲ層上面遺構SI807竪穴住居跡平面図・断面図

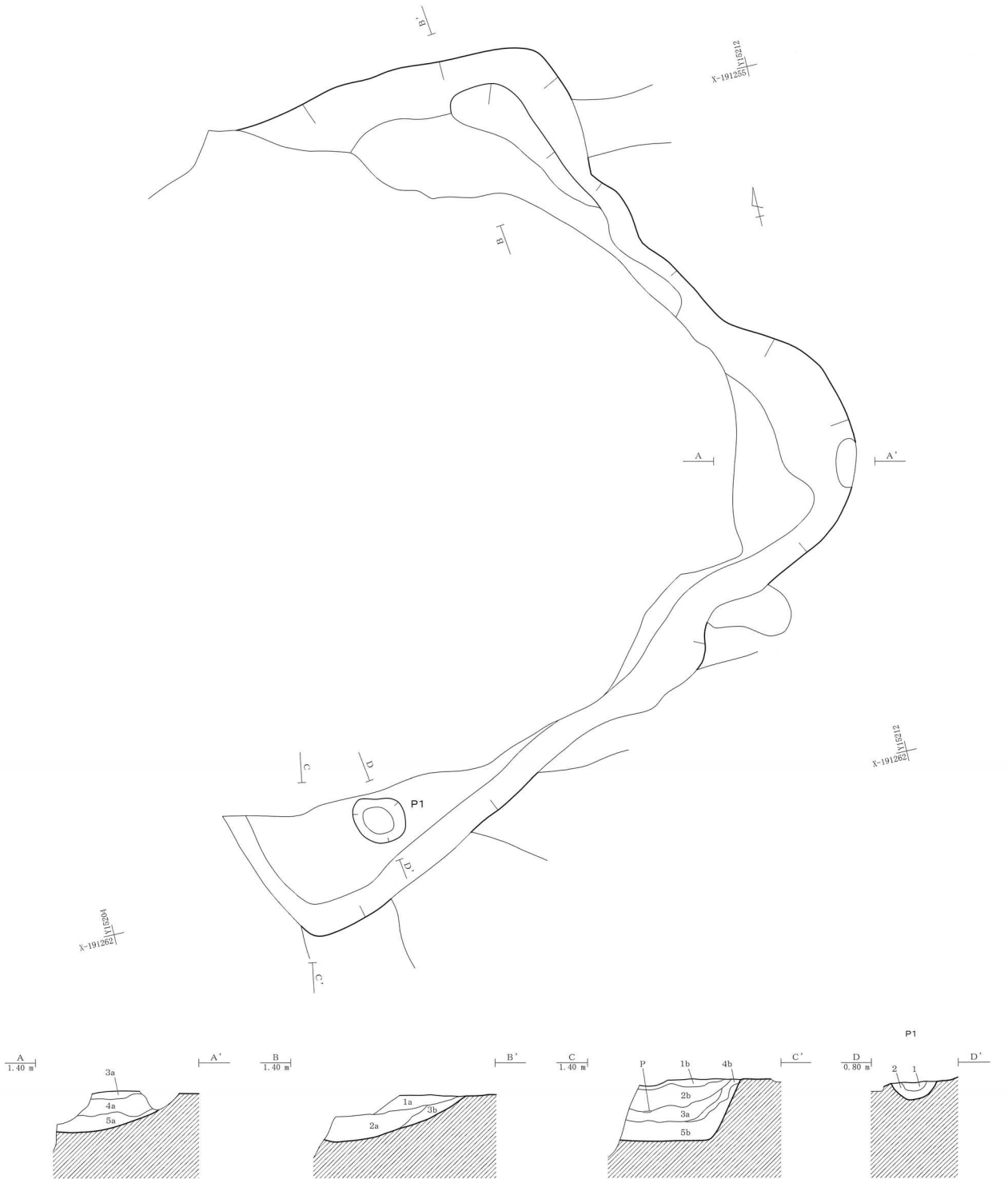


SI808

1	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	下部浅黄色砂ブロック
2	2.5Y5/3黄褐色	シルト質砂	
3	2.5Y4/1黄灰色	シルト質砂	浅黄色砂ブロック
4	2.5Y7/3浅黄色	シルト質砂	
5	10YR3/2 黒褐色	シルト質砂	下部にぶい黄褐色砂小ブロック
P1-1a	10YR3/2 黒褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂小ブロック少量
P1-1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量
P2-1a	10YR3/2 黒褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂小ブロック少量
P2-1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－６図　Ⅲ層上面遺構SI808竪穴住居跡平面図・断面図



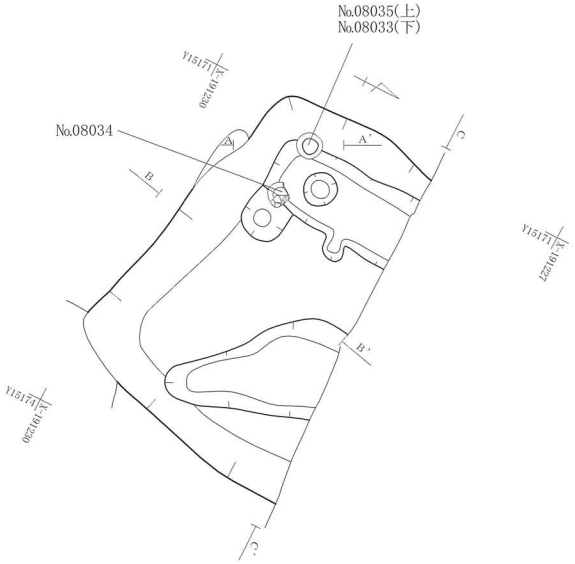
SI809

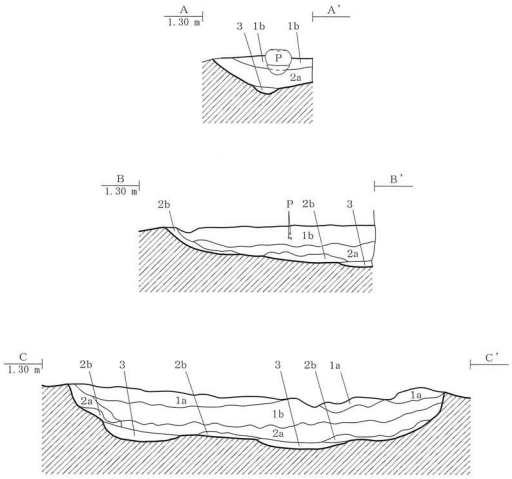
1a	10YR5/2灰黄褐色	シルト質砂	
1b	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	
2a	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト質砂	
2b	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
3a	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	
3b	2.5Y8/3淡黄色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、灰黄褐色砂ブロック微量
4a	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

4b	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック多量
5a	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂多量
5b	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、にぶい黄褐色(10YR5/3)砂ブロック
P1-1	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	
P1-2	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－７図　Ⅲ層上面遺構SI809竪穴遺構平面図・断面図



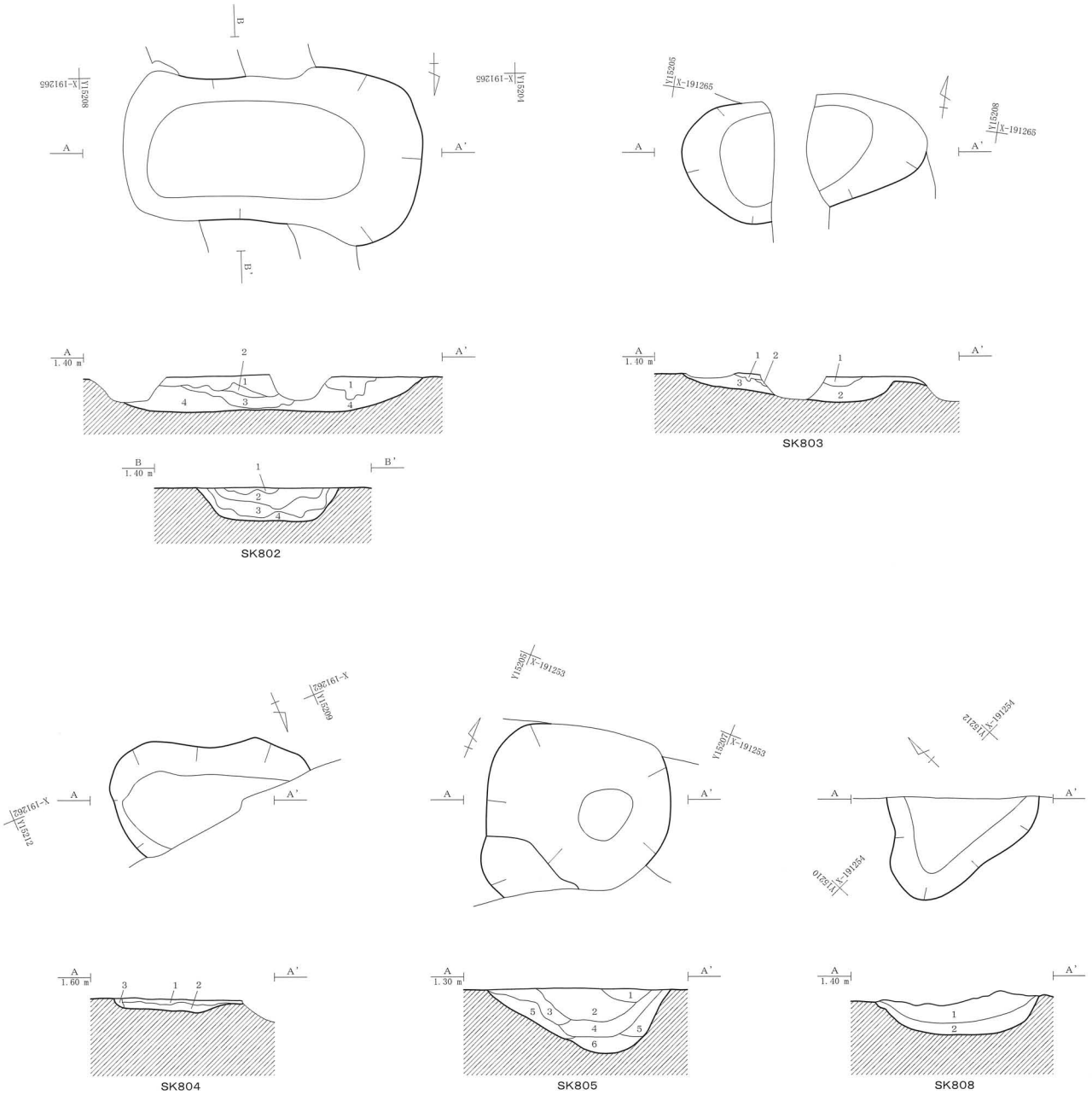


SI810

1a	10YR4/4褐色	シルト質砂	
1b	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	
2a	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック多量
2b	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト質砂	
3	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－８図　Ⅲ層上面遺構SI810竪穴遺構平面図・断面図



SK802

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	
2	10YR4/4褐色	シルト質砂	
3	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	
4	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	暗灰黄色砂ブロック

SK803

1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
3	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト質砂	

SK804

1	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	暗褐色砂ブロック
3	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト質砂	

SK805

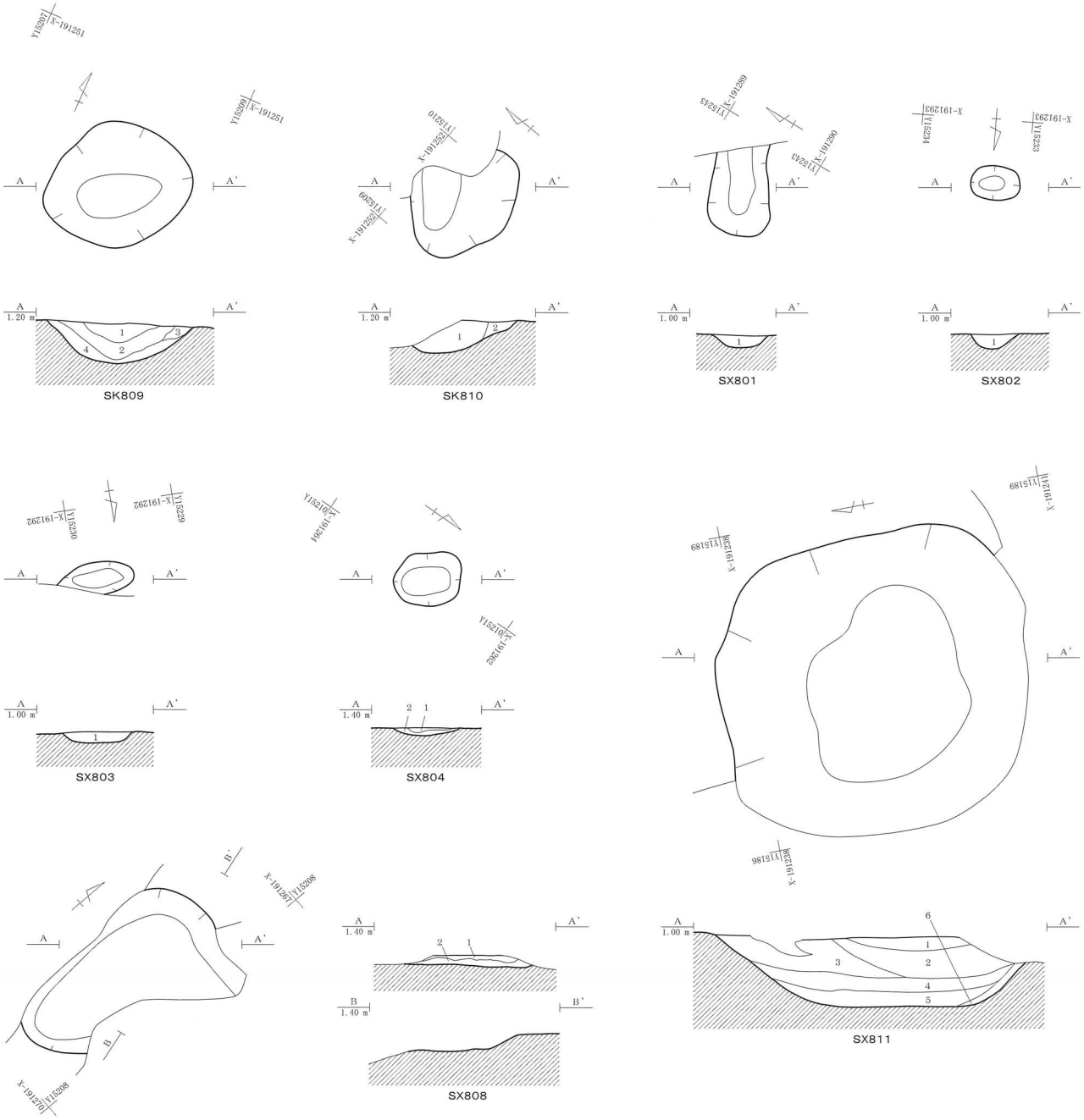
1	7.5YR5/2灰褐色	シルト質砂	炭化物微量
2	7.5YR4/2灰褐色	シルト質砂	炭化物微量
3	7.5YR5/2灰褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック
4	7.5YR4/2灰褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック
5	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	灰褐色土ブロック微量
6	7.5YR5/2灰褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック

SK808

1	10YR6/2灰黄褐色	シルト質砂	
2	2.5Y8/3淡黄色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、灰黄褐色土ブロック微量

Scale = 1 : 60　0　2m

第８－９図　Ⅲ層上面遺構SK土坑平面図・断面図（1）



SK809

1	2.5Y3/1黒褐色	シルト質砂	
2	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック
3	2.5Y6/2灰黄色	シルト質砂	
4	2.5Y8/3淡黄色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、暗灰黄色土ブロック微量

SK810

1	2.5Y6/2灰黄色	シルト質砂	
2	2.5Y6/3にぶい黄色	シルト質砂	

SX801

1	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	

SX802

1	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	

SX803

1	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	

SX804

1	10YR4/4褐色	シルト質砂	
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	

SX808

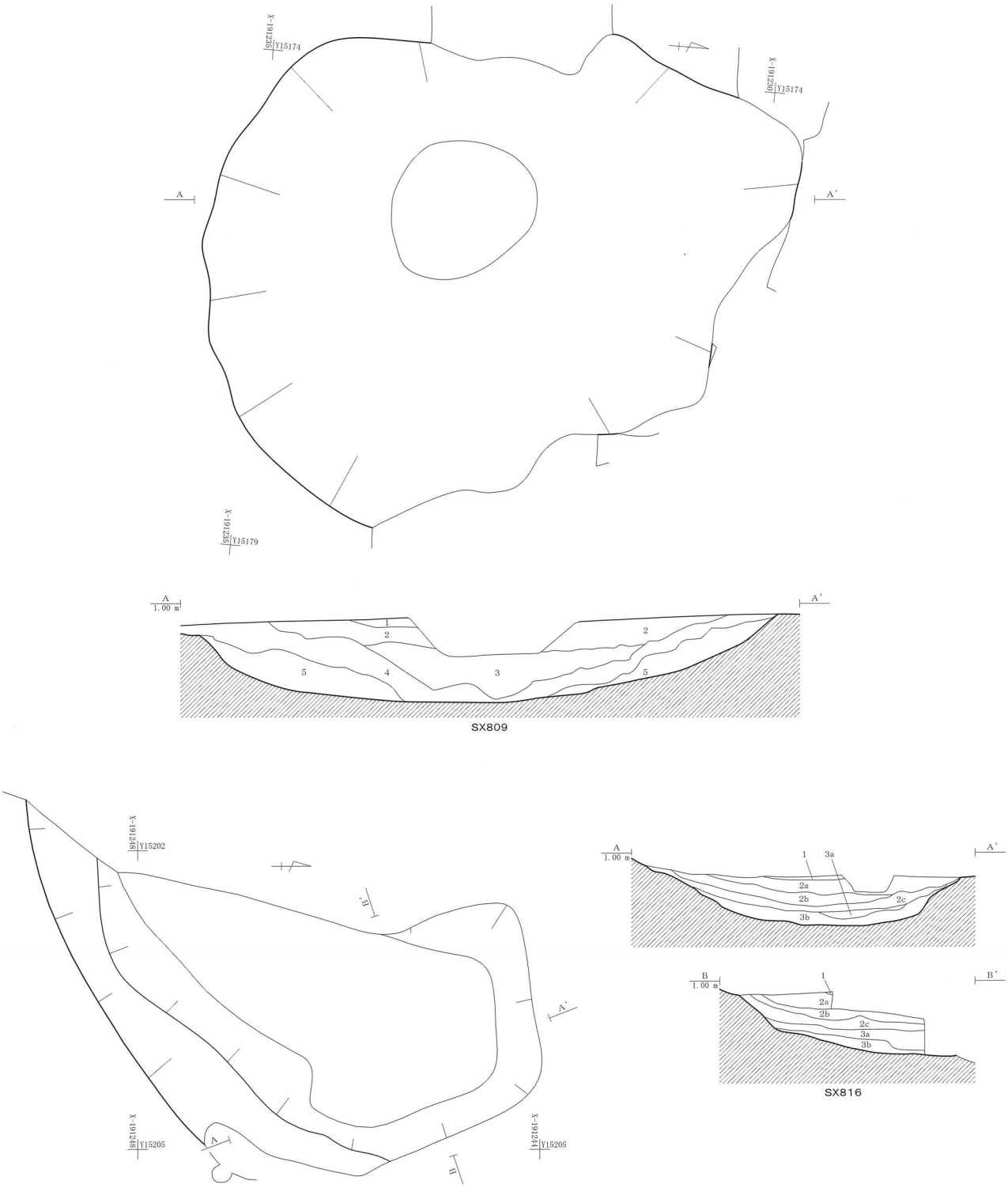
1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	
2	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト質砂	

SX811

1	2.5Y3/1黒褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック少量
2	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	
3	2.5Y6/3にぶい黄色	シルト質砂	
4	2.5Y5/4黄褐色	シルト質砂	
5	2.5Y5/1黄灰色	シルト質砂	
6	2.5Y5/1黄灰色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－１０図　Ⅲ層上面遺構SK土坑平面図・断面図（２）　SX性格不明遺構平面図・断面図（１）



SX809

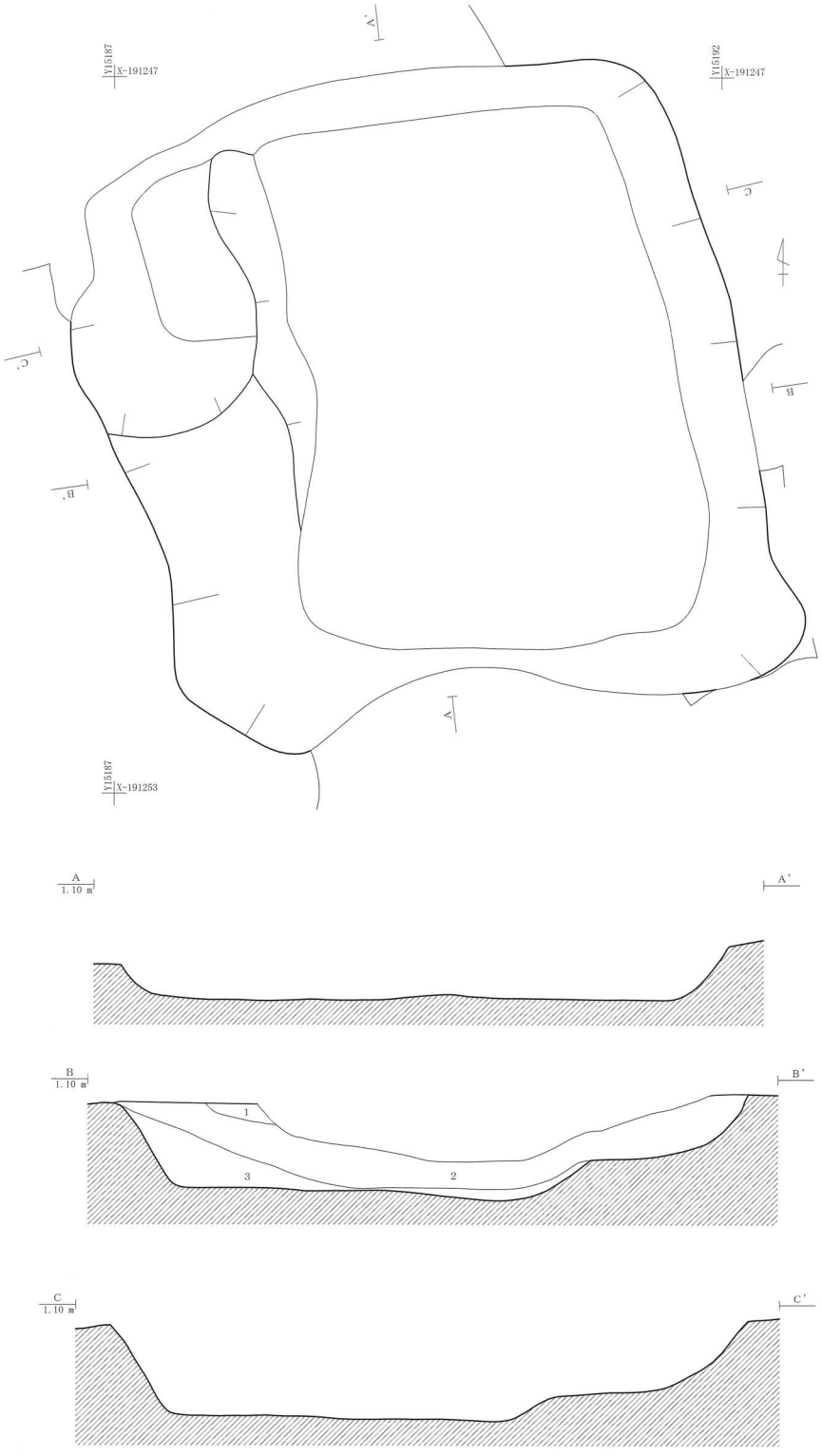
1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土質シルト小ブロック少量
2	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック
3	10YR2/1黒色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック
4	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	黒色砂ブロック少量
5	10YR2/1黒色	シルト質砂	暗褐色砂ブロック多量

SX816

1	10YR1.7/1黒色	粘土	黒褐色砂帯状、植物遺体
2a	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	黒褐色粘土帯状
2b	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	黒褐色(10YR2/2)シルト質砂帯状
2c	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色シルト質砂帯状
3a	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色シルト質砂・にぶい黄褐色砂帯状
3b	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	黒褐色シルト質砂・にぶい黄褐色砂帯状

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－１１図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図(２)

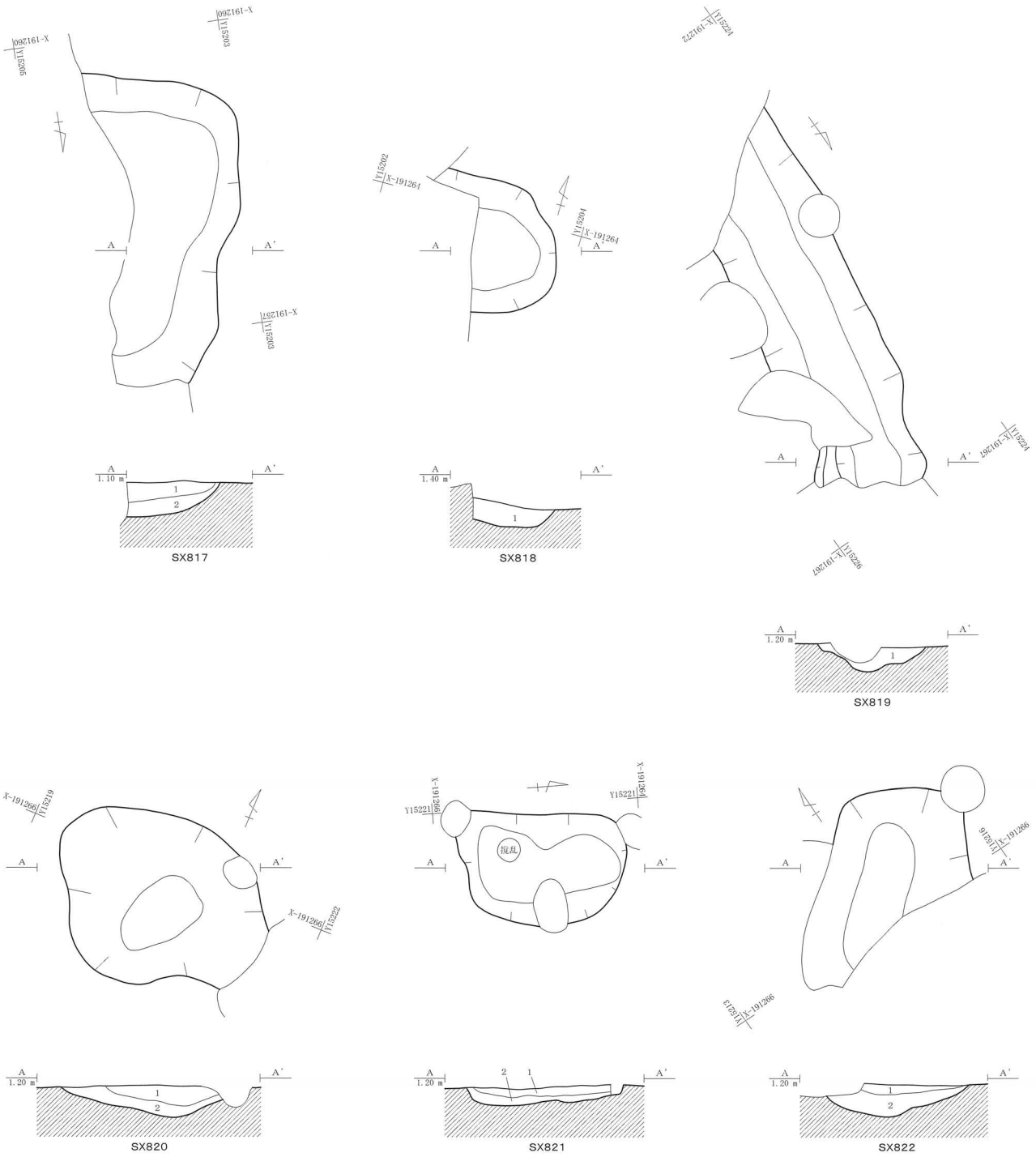


SX810

1	10YR4/6褐色	シルト質砂	
2	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト質砂	
3	2.5Y4/1黄灰色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－１２図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図(３)



SX817

1	2.5Y5/3黄褐色	シルト質砂	
2	2.5Y7/2灰黄色	シルト質砂	黄褐色砂ブロック少量

SX818

1	2.5Y5/4黄褐色	シルト質砂	

SX819

1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	黒褐色砂と互層

SX820

1	2.5Y5/3黄褐色	シルト質砂	
2	2.5Y7/2灰黄色	シルト質砂	黄褐色砂ブロック

SX821

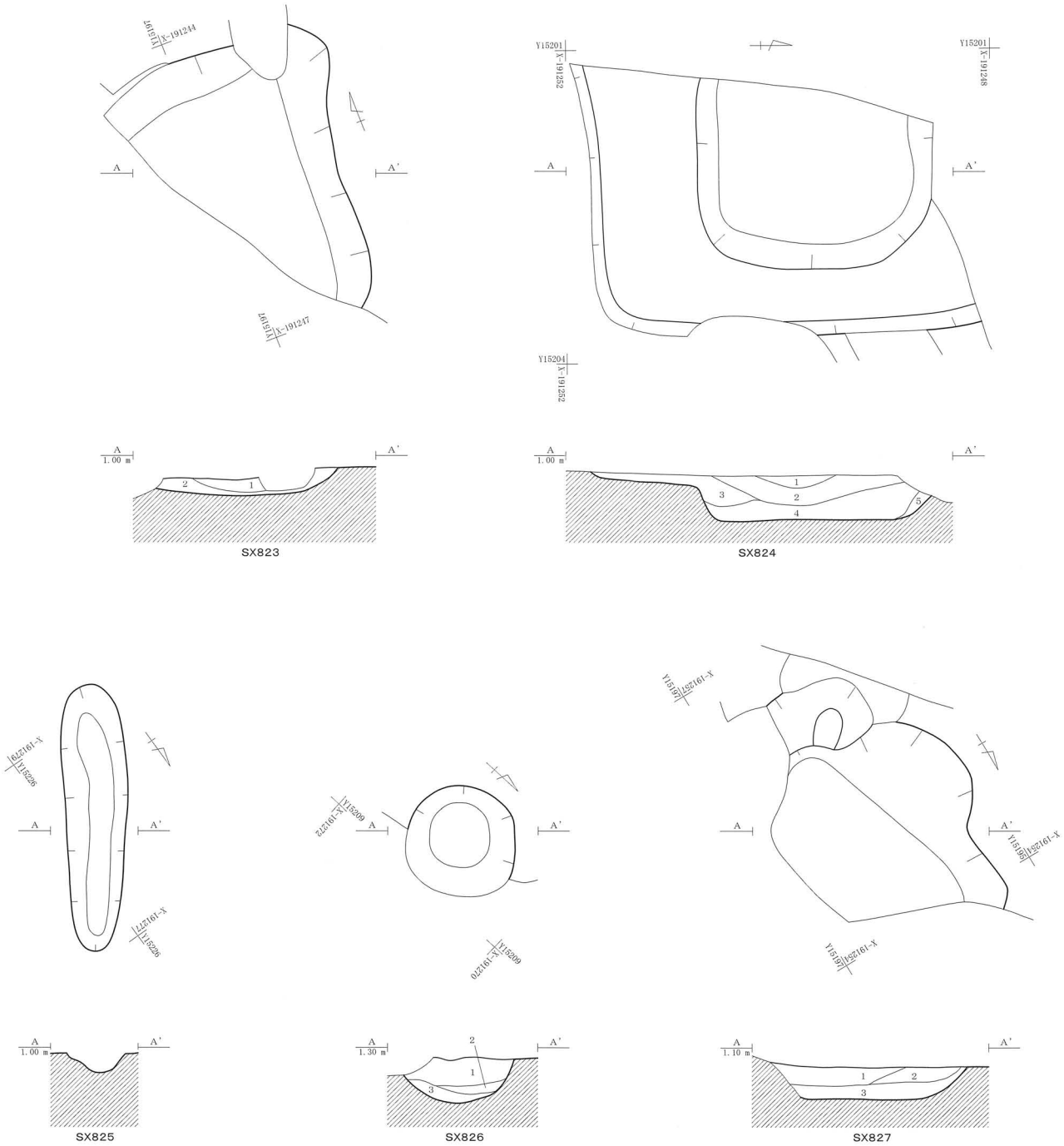
1	2.5Y5/3黄褐色	シルト質砂	
2	2.5Y7/2灰黄色	シルト質砂	黄褐色砂ブロック

SX822

1	2.5Y5/3黄褐色	シルト質砂	
2	2.5Y7/3浅黄色	シルト質砂	

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－１３図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図（４）



SX823

1	2.5Y4/1黄灰色	シルト質砂	
2	2.5Y5/3黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック微量

SX824

1	2.5Y3/2黒褐色	シルト質砂	
2	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	
3	2.5Y7/2灰黄色	シルト質砂	暗灰黄色砂ブロック微量
4	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	灰黄色砂少量
5	2.5Y7/2灰黄色	シルト質砂	暗灰黄色砂少量

SX825　エレベーション

SX826

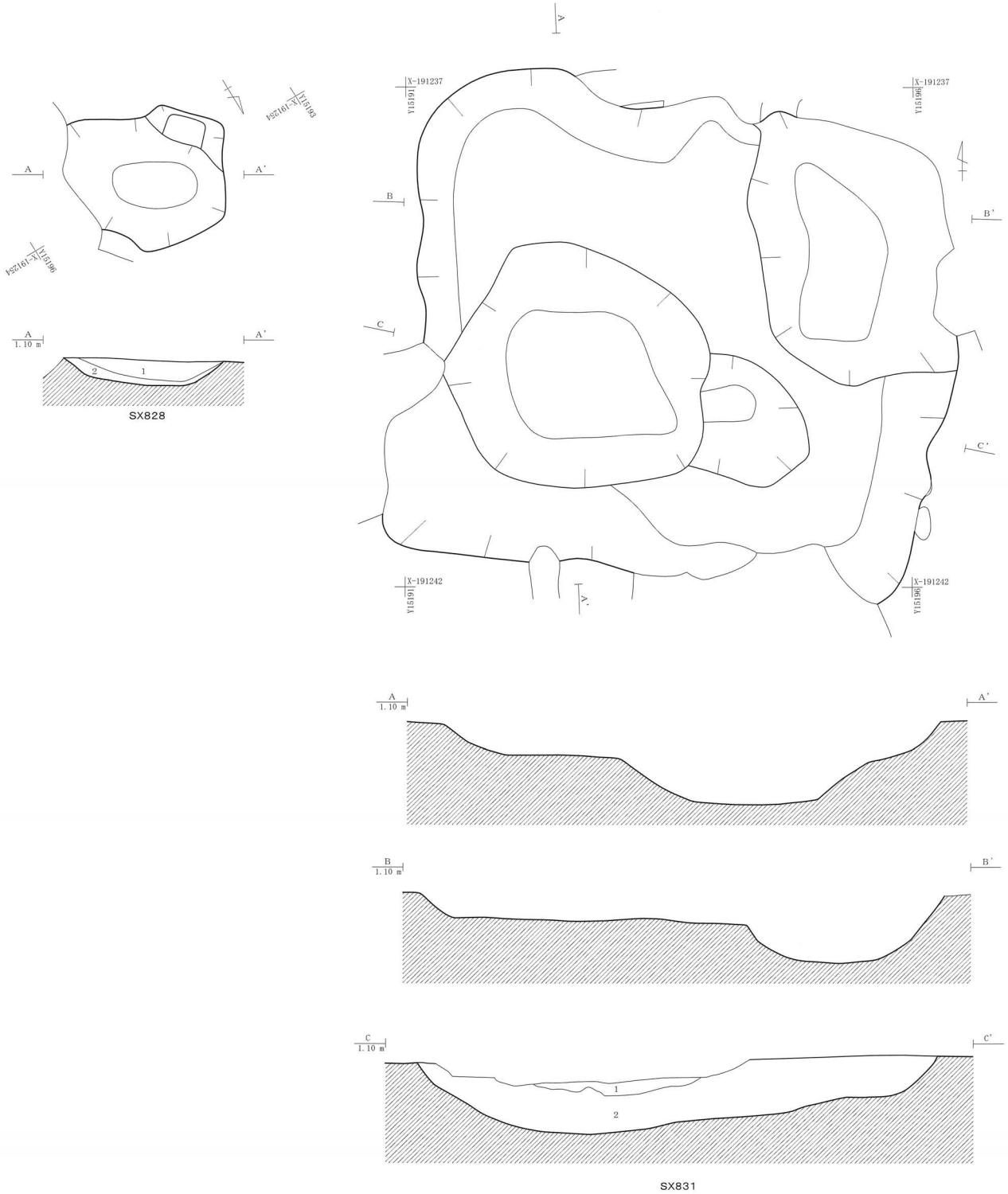
1	2.5Y5/2暗灰黄色	シルト質砂	下部淡黄色砂小ブロック
2	2.5Y8/3淡黄色	シルト質砂	
3	2.5Y4/1黄灰色	シルト質砂	灰黄色砂

SX827

1	2.5Y4/1黄灰色	シルト質砂	
2	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	
3	2.5Y8/3浅黄色	シルト質砂	暗灰黄色砂小ブロック

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－14図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図(5)



SX828

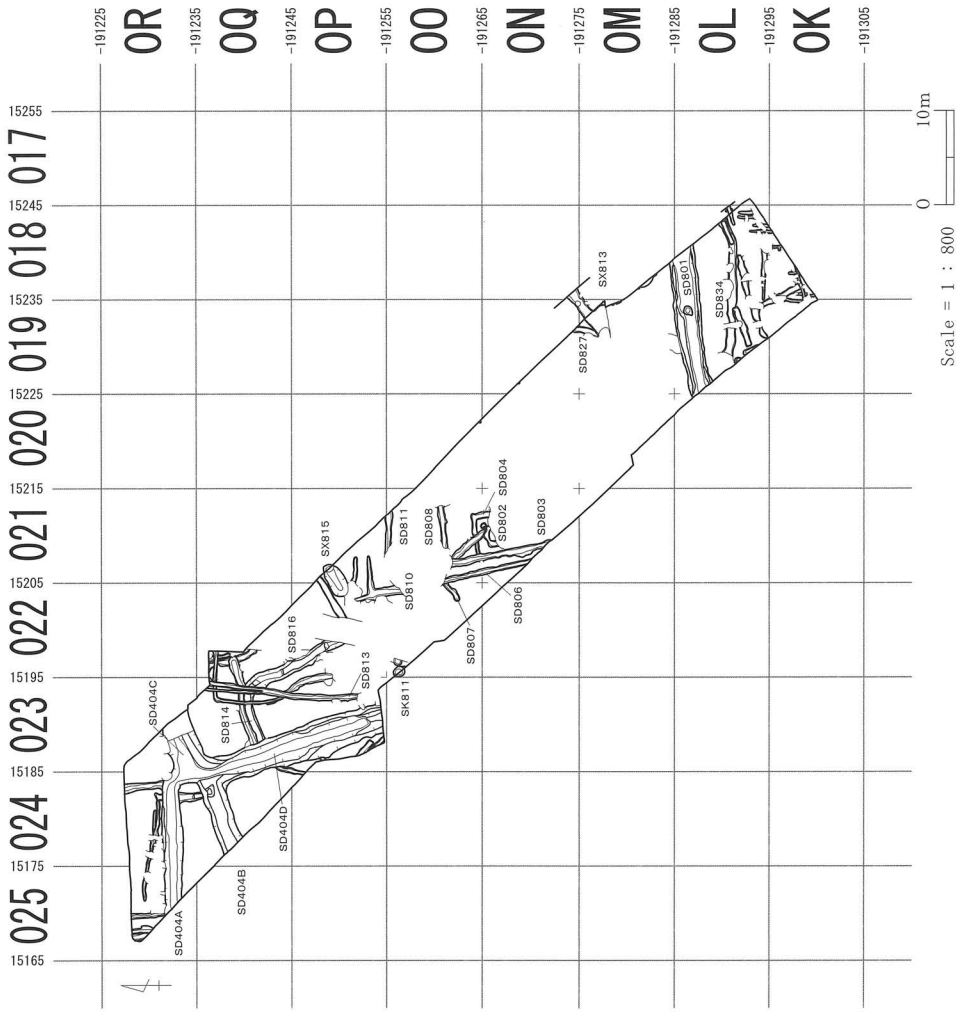
1	2.5Y5/3黄褐色	シルト質砂	
2	2.5Y8/3淡黄色	シルト質砂	黄褐色砂小ブロック

SX831

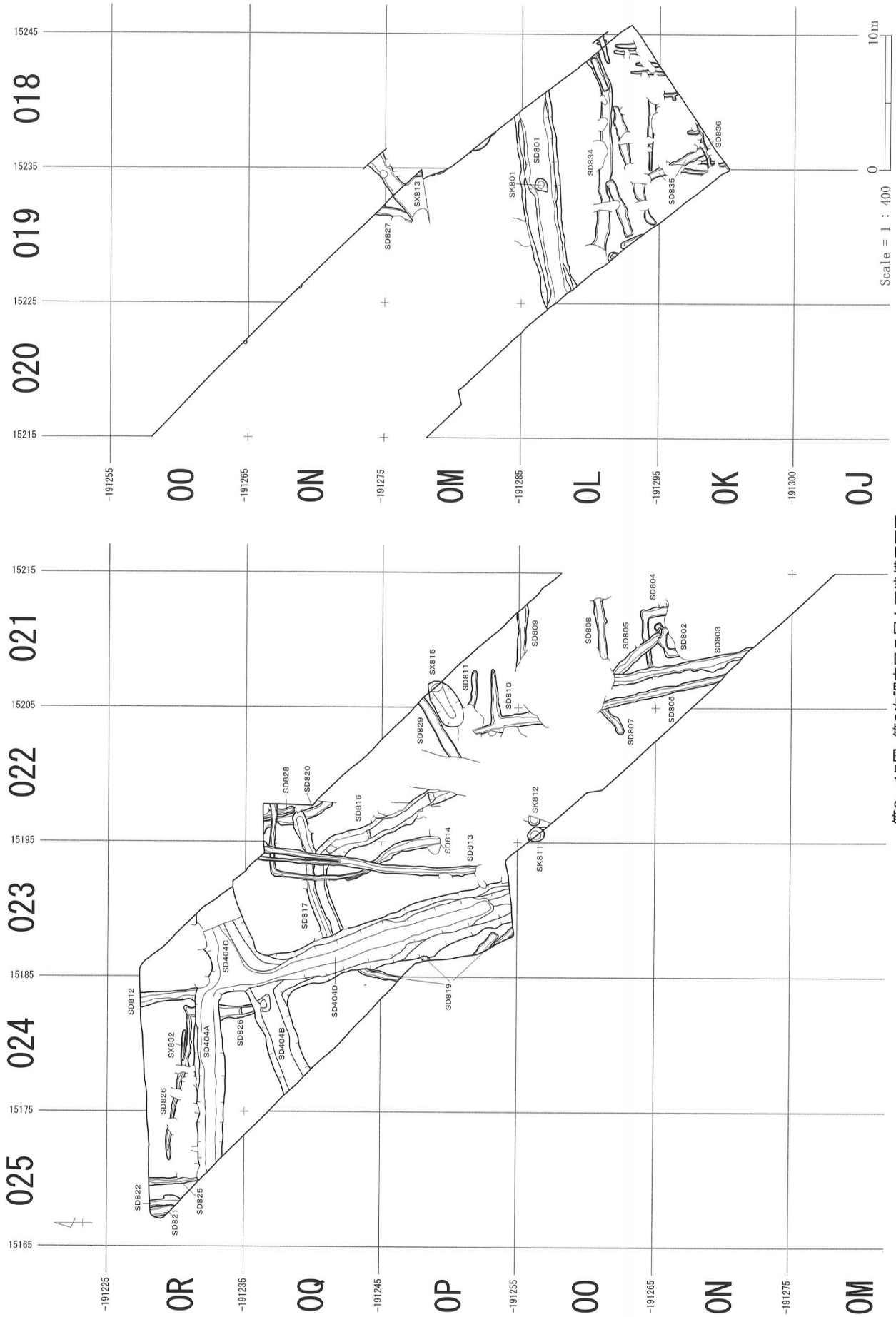
1	2.5Y3/1黒褐色	砂質シルト	灰白火山灰ブロック微量
2	2.5Y4/1黄灰色	シルト質砂	下部にぶい黄橙色砂ブロック

Scale = 1 : 60　0　2 m

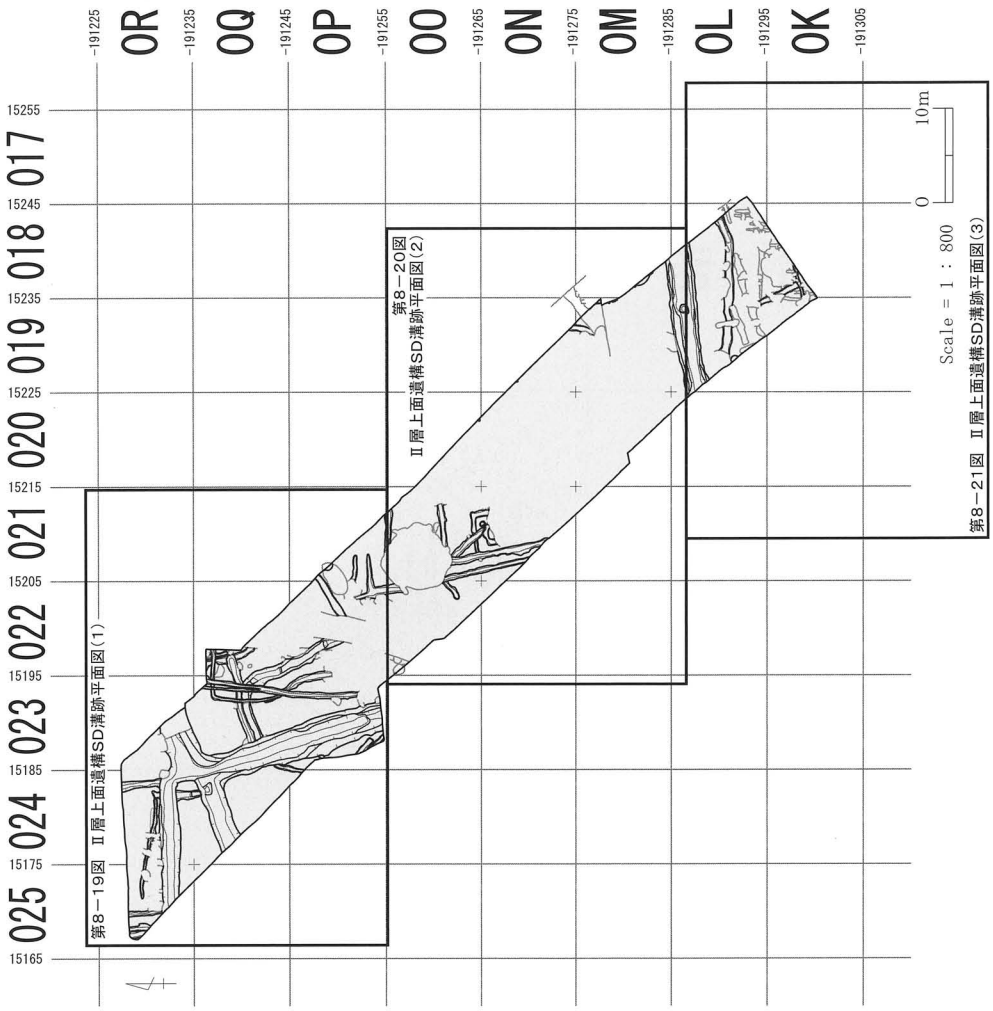
第８－15図　Ⅲ層上面遺構SX性格不明遺構平面図・断面図(6)



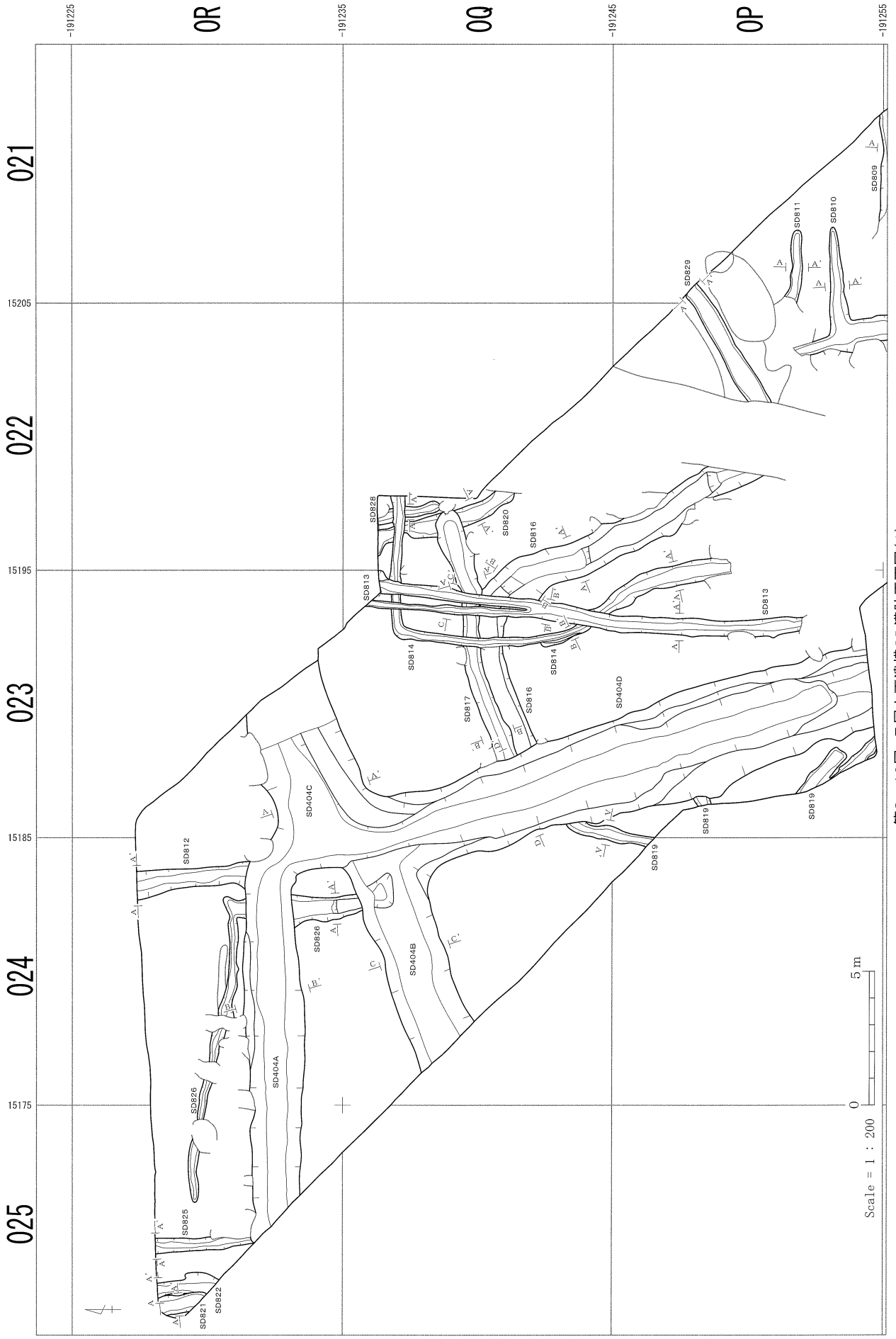
第8－16図　第8次調査区Ⅱ層上面遺構全体図



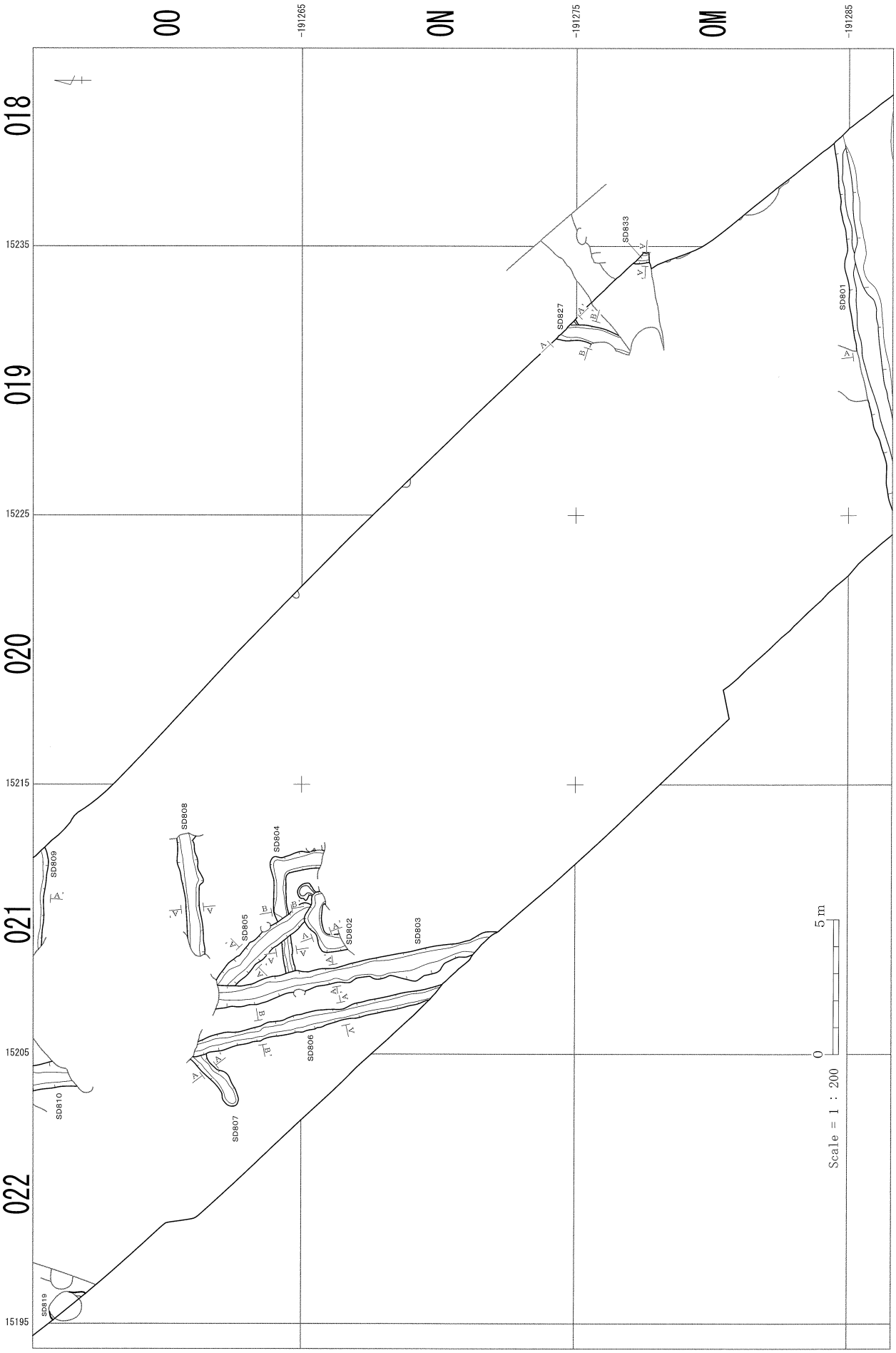
第８－１７図　第８次調査区Ⅱ層上面遺構平面図



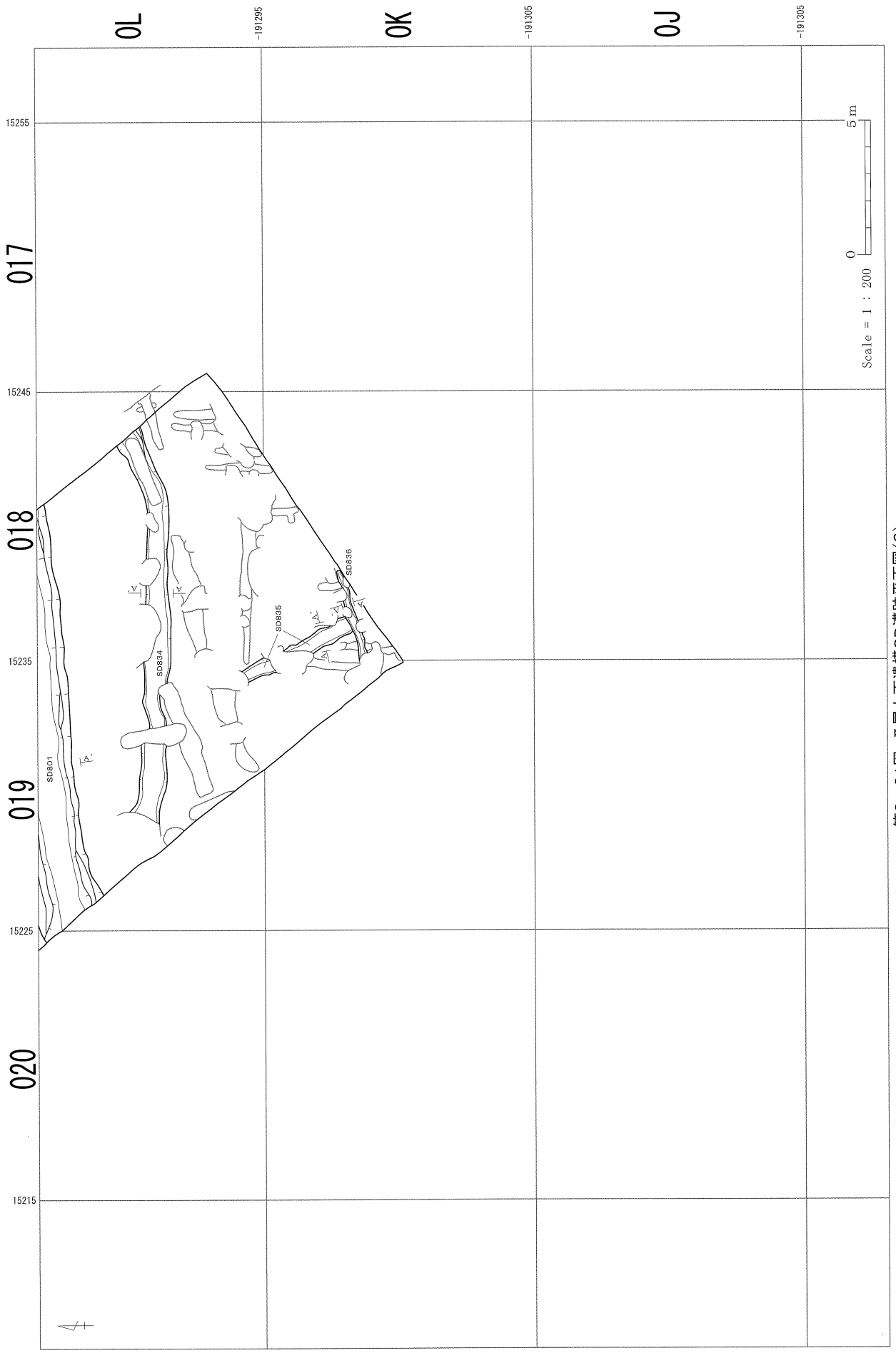
第８－18図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡全体平面図



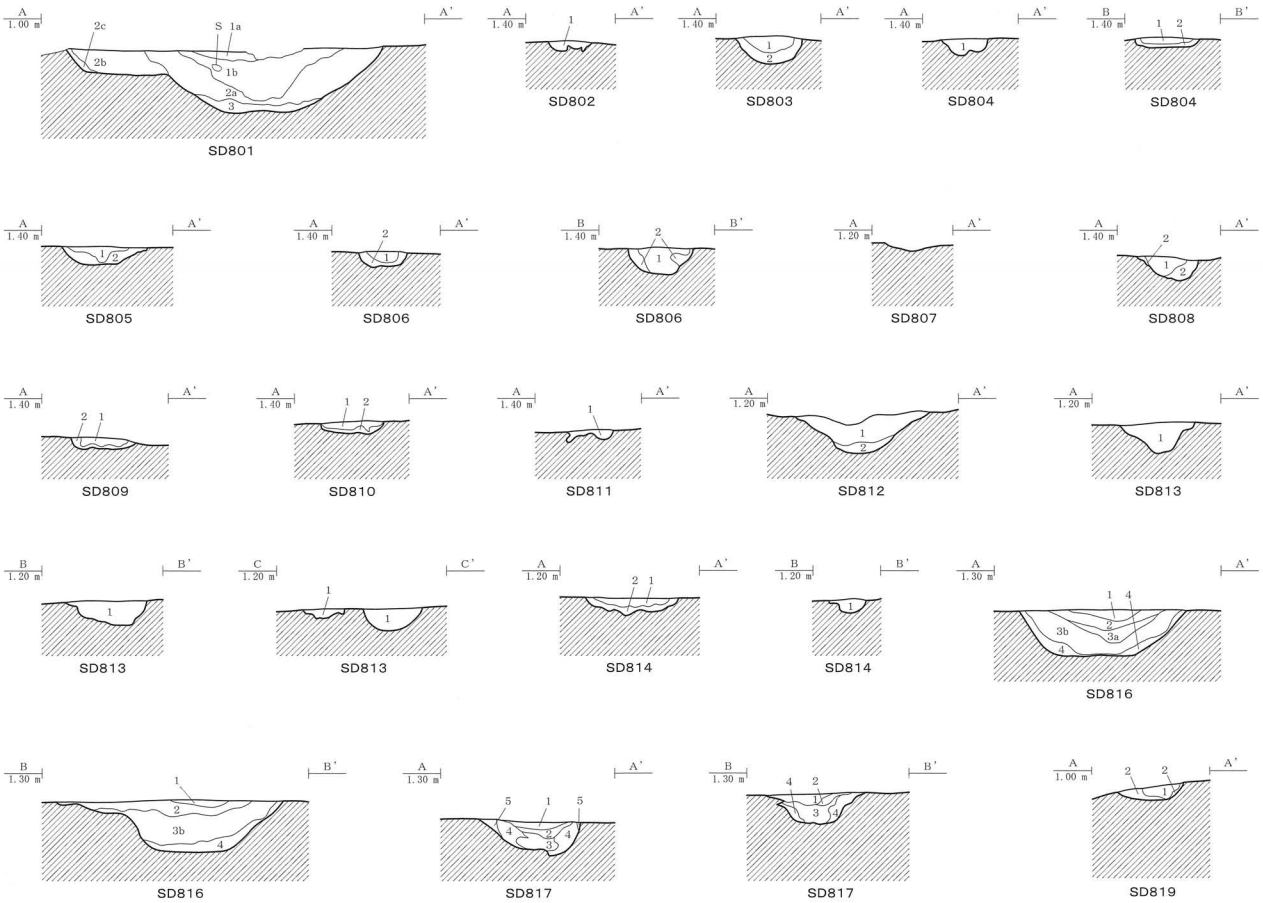
第８－１９図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡平面図(1)



第8－20図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡平面図(2)



第8－21図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡平面図(3)



SD801

1a	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	黒褐色粘土ブロック多量
1b	10YR2/1黒色	粘土	灰黄褐色砂帯状、炭化物多量
2a	10YR5/2灰黄褐色	シルト質砂	黒色粘土と互層
2b	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色粘土ブロック多量
2c	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒色粘土と互層
3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック多量、炭化物少量

SD802

1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	褐色砂少量

SD803

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	
2	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂

SD804

1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック少量

SD805

1	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	
2	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色砂と互層

SD806

1	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂小ブロック微量
2	10YR3/3暗褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック

SD807　エレベーション

SD808

1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	
2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂ブロック少量

SD809

1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック

SD810

1	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック少量
2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック

SD811

1	10YR2/3黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック

SD812

1	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂ブロック微量
2	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂と互層

SD813

1	7.5YR2/2黒褐色	粘土	酸化鉄少量

SD814

1	7.5YR2/2黒褐色	粘土	
2	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	Ⅲ層ブロック

SD816

1	7.5YR2/2黒褐色	粘土	酸化鉄微量
2	10YR1.7/1黒色	粘土	
3a	5YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂と互層
3b	10YR2/2黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂と互層
4	10YR4/4褐色	シルト質砂	黒褐色粘土質シルト

SD817

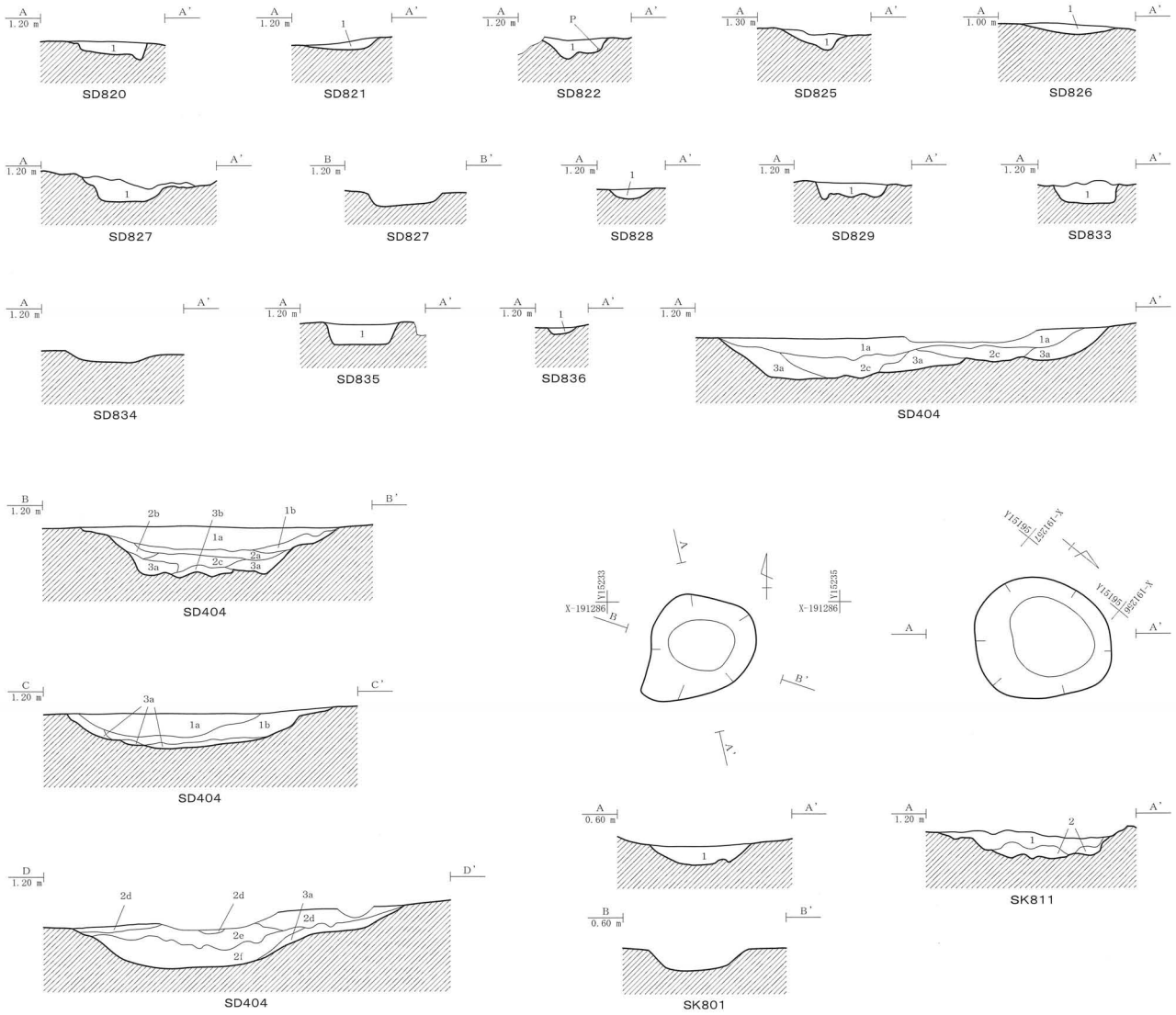
1	10YR2/1黒色	粘土	
2	5YR2/2黒褐色	粘土	
3	10YR1.7/1黒色	粘土	
4	10YR3/1黒褐色	粘土	
5	10YR2/3黒褐色	粘土	

SD819

1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	
2	10YR3/4暗褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－22図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡断面図(1)



SD820

1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	

SD821

1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	Ⅲ層ブロック

SD822

1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	Ⅲ層ブロック

SD825

1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	Ⅲ層ブロック

SD826

1	2.5Y3/1黒褐色	シルト質砂	下部Ⅲ層ブロック

SD827

1	10YR2/2黒褐色	シルト質砂	下部黄褐色砂大ブロック多量

SD828

1	10YR2/1黒色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック

SD829

1	2.5Y8/2灰白色	シルト質砂	黒褐色砂ブロック

SD833

1	10YR2/1黒色	シルト質砂	にぶい黄橙色砂ブロック

SD834　エレベーション

SD835

1	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂、マンガン粒

SD836

1	10YR2/1黒色	粘土質シルト	灰白火山灰ブロック少量、酸化鉄帯状

SD404

1a	10YR5/2灰黄褐色	シルト質砂	Ⅲ層ブロック、にぶい黄褐色砂ブロック、灰白火山灰小ブロック
1b	10YR4/1褐灰色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂と互層
2a	10YR4/6褐色	粘土	植物遺体
2b	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂と互層
2c	2.5Y3/2黒褐色	粘土	褐色粘土帯状、植物遺体
2d	7.5YR2/2黒褐色	粘土	酸化鉄
2e	5YR2/2黒褐色	粘土	
2f	2.5YR3/1暗赤灰色	粘土	
3a	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	褐色砂と互層
3b	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	

SK801

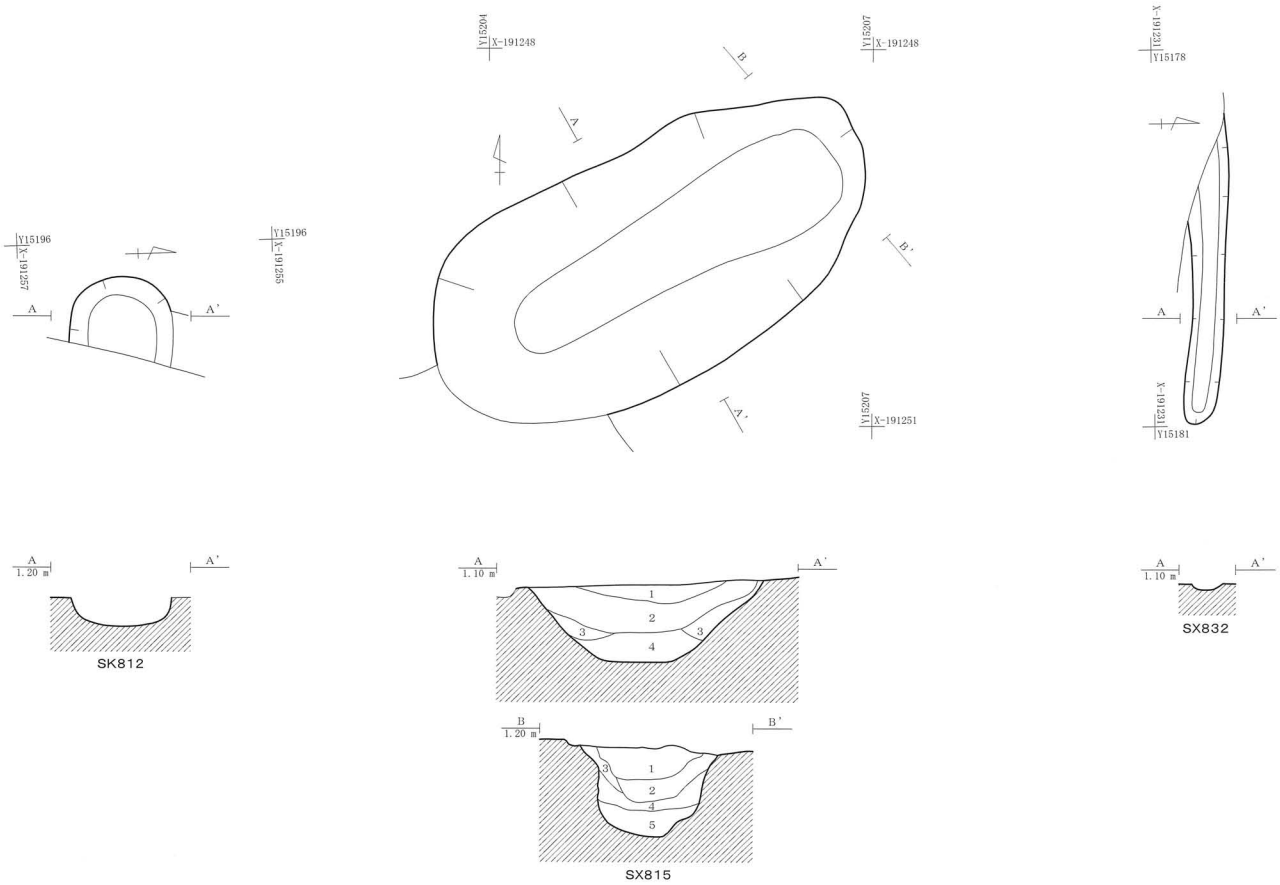
1	10YR1.7/1黒色	粘土	褐色砂と互層

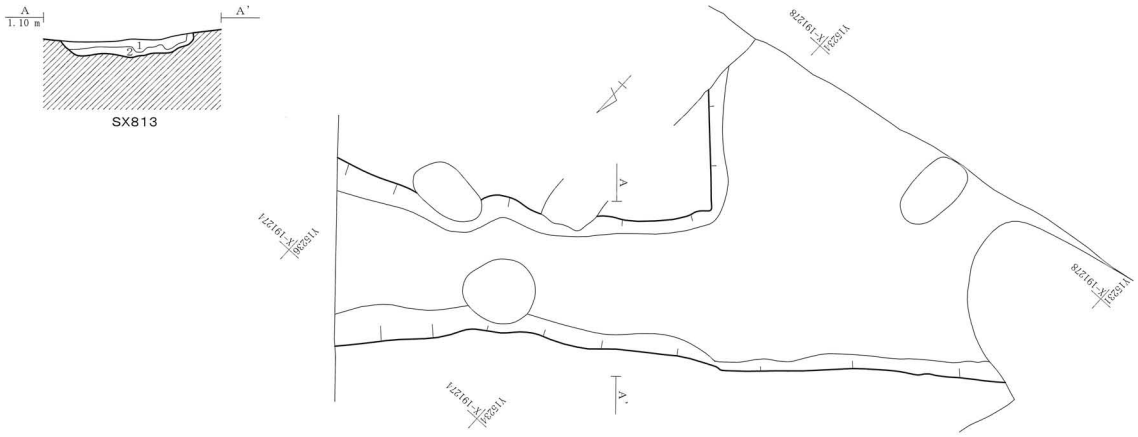
SK811

1	2.5Y4/1黄灰色	シルト質砂	灰白色砂ブロック
2	2.5Y8/2灰白色	シルト質砂	黄灰色砂ブロック

Scale = 1 : 60　0　2 m

第8－23図　Ⅱ層上面遺構SD溝跡断面図(2)　SK土坑平面図・断面図(1)





SK812　エレベーション

SX815

1	10YR6/2灰黄褐色	シルト質砂	褐灰色砂ブロック少量、酸化鉄少量
2	10YR6/2灰黄褐色	シルト質砂	褐灰色砂帯状、酸化鉄微量
3	10YR3/1黒褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色砂微量
4	10YR2/1黒色	砂質シルト	褐灰色砂と互層
5	10YR5/2灰黄褐色	シルト質砂	黒色粘土質シルトブロック少量、灰黄褐色(10YR4/2)砂帯状

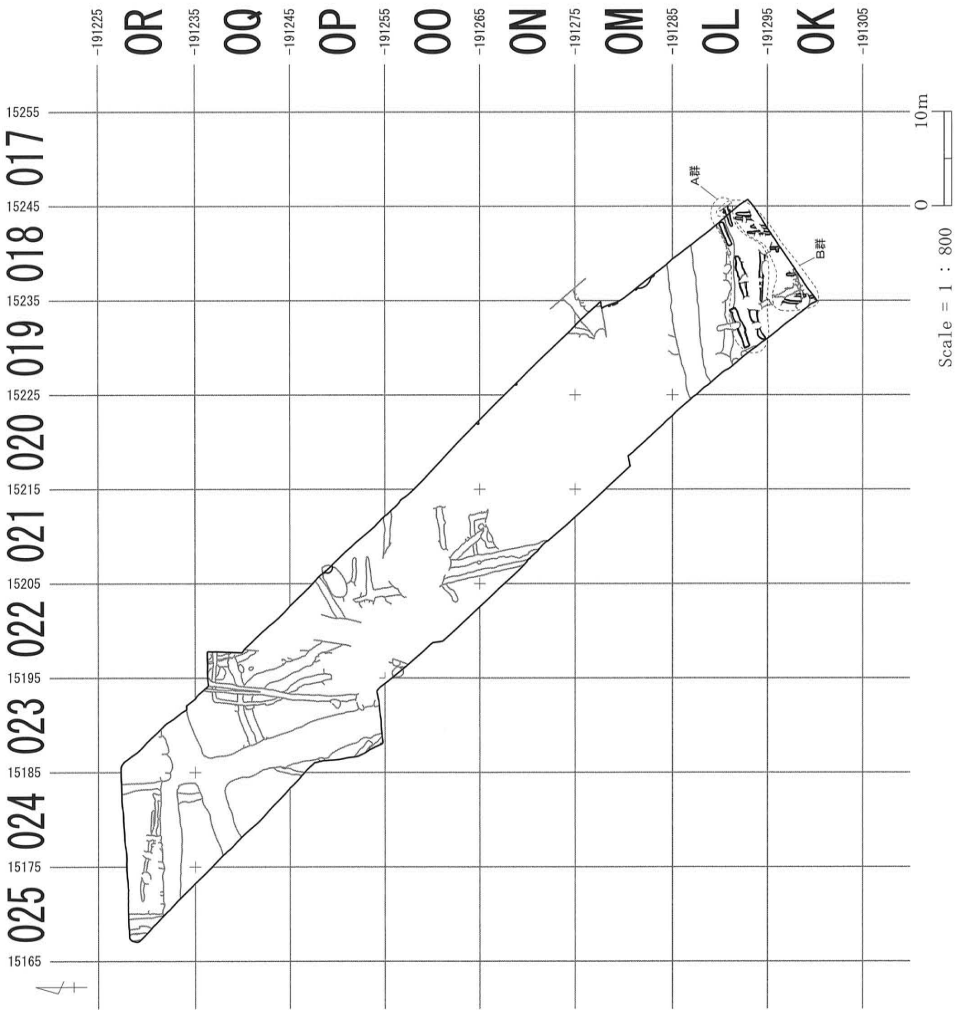
SX813

1	10YR2/1黒色	砂質シルト	灰黄褐色砂ブロック
2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質砂	黒褐色砂質シルトブロック少量

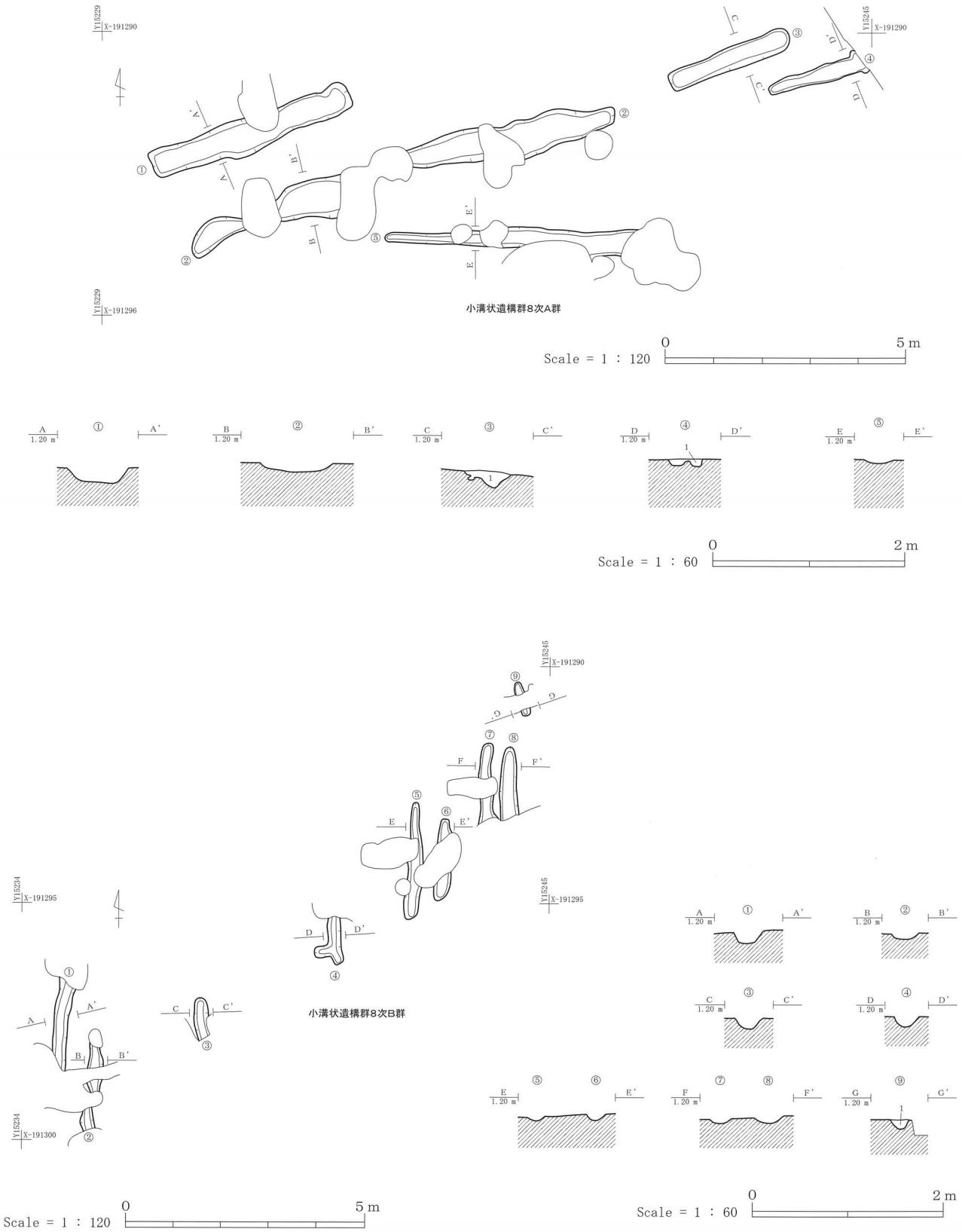
SX832　エレベーション

Scale = 1 : 60　0　2 m

第８－24図　Ⅱ層上面遺構SK土坑平面図・断面図(2)　SX性格不明遺構平面図・断面図



第8－25図　Ⅱ層上面遺構小溝状遺構群全体平面図



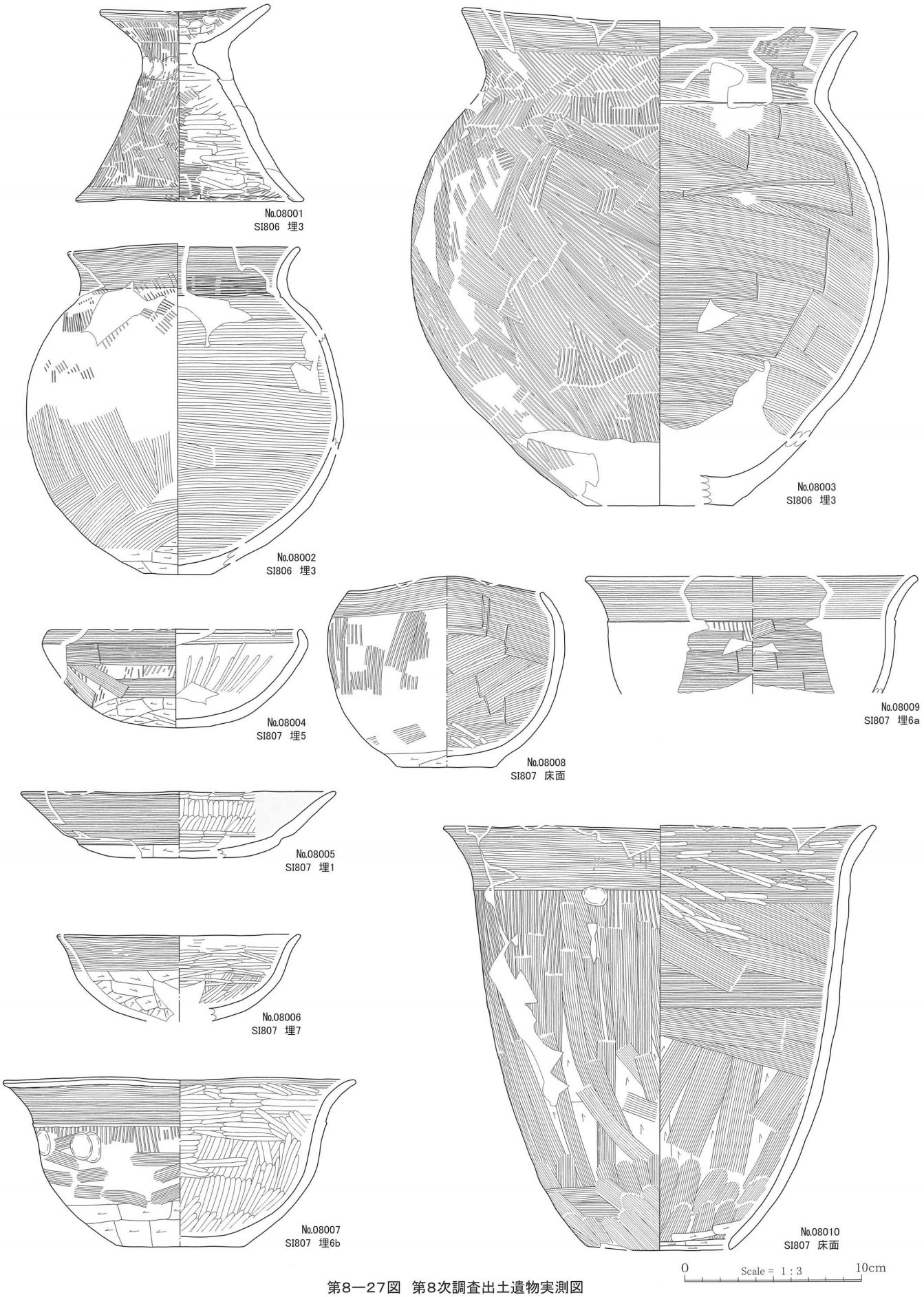
小溝状遺構群8次A群

③-1	10YR2/1黒色	粘質シルト	灰白火山灰小ブロック
④-1	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色粘土質シルト多量

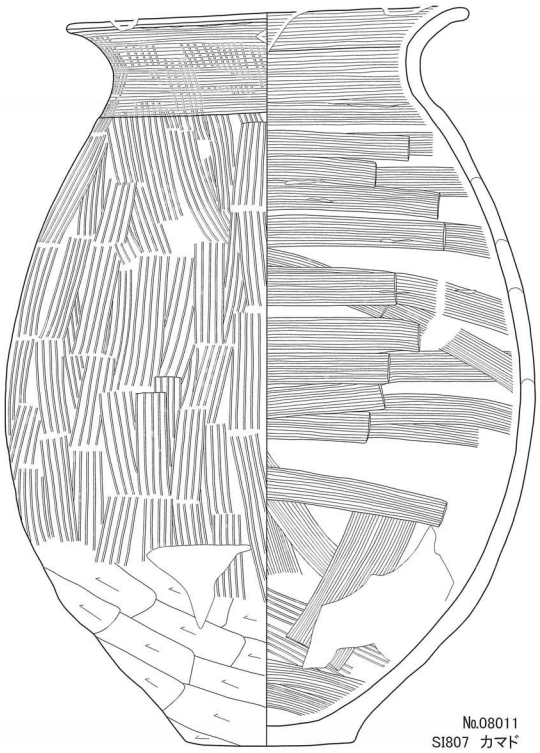
小溝状遺構群８次Ｂ群

⑨-1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト少量、炭化物多量

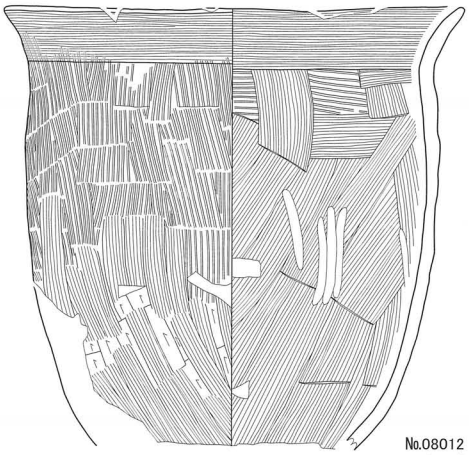
第８－26図　Ⅱ層上面遺構小溝状遺構群8次A群･B群平面図･断面図



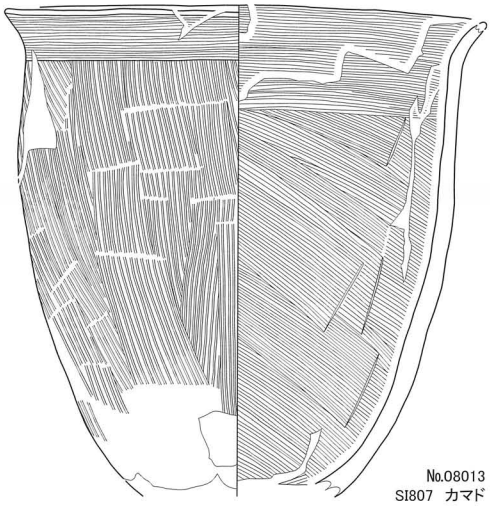
第8―27図　第8次調査出土遺物実測図



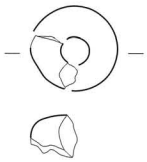
No.08011
SI807 カマド



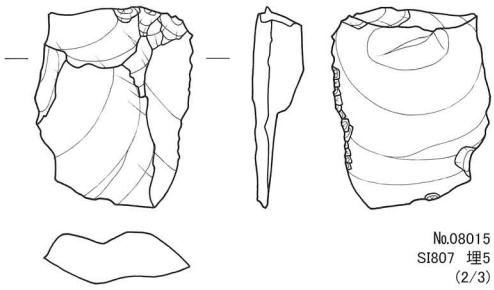
No.08012
SI807 カマド



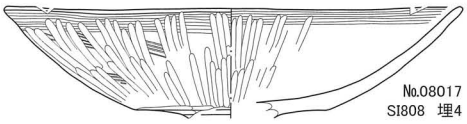
No.08013
SI807 カマド



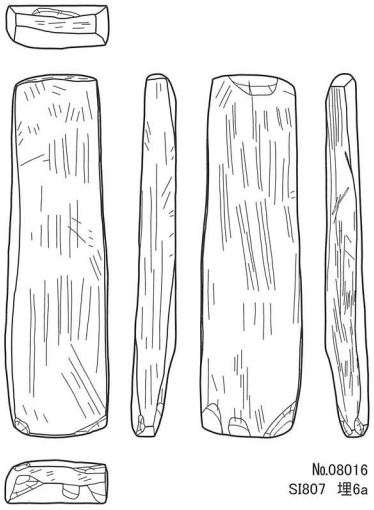
No.08014
SI807 埋5b



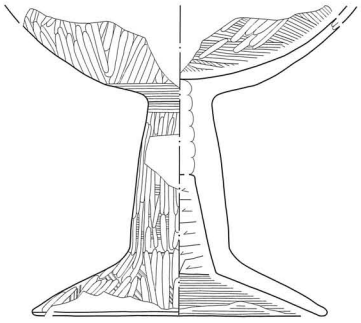
No.08015
SI807 埋5
(2/3)



No.08017
SI808 埋4



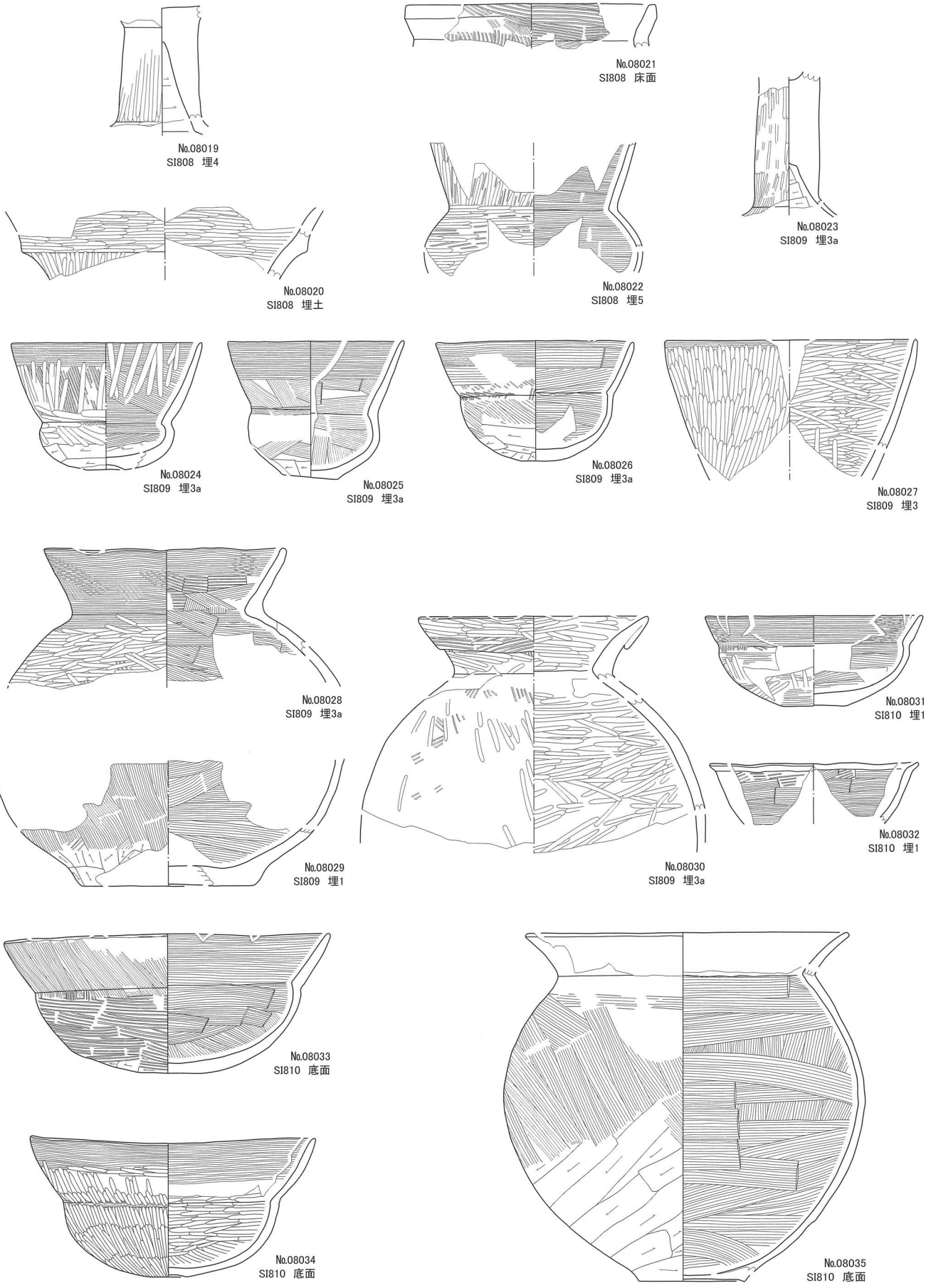
No.08016
SI807 埋6a



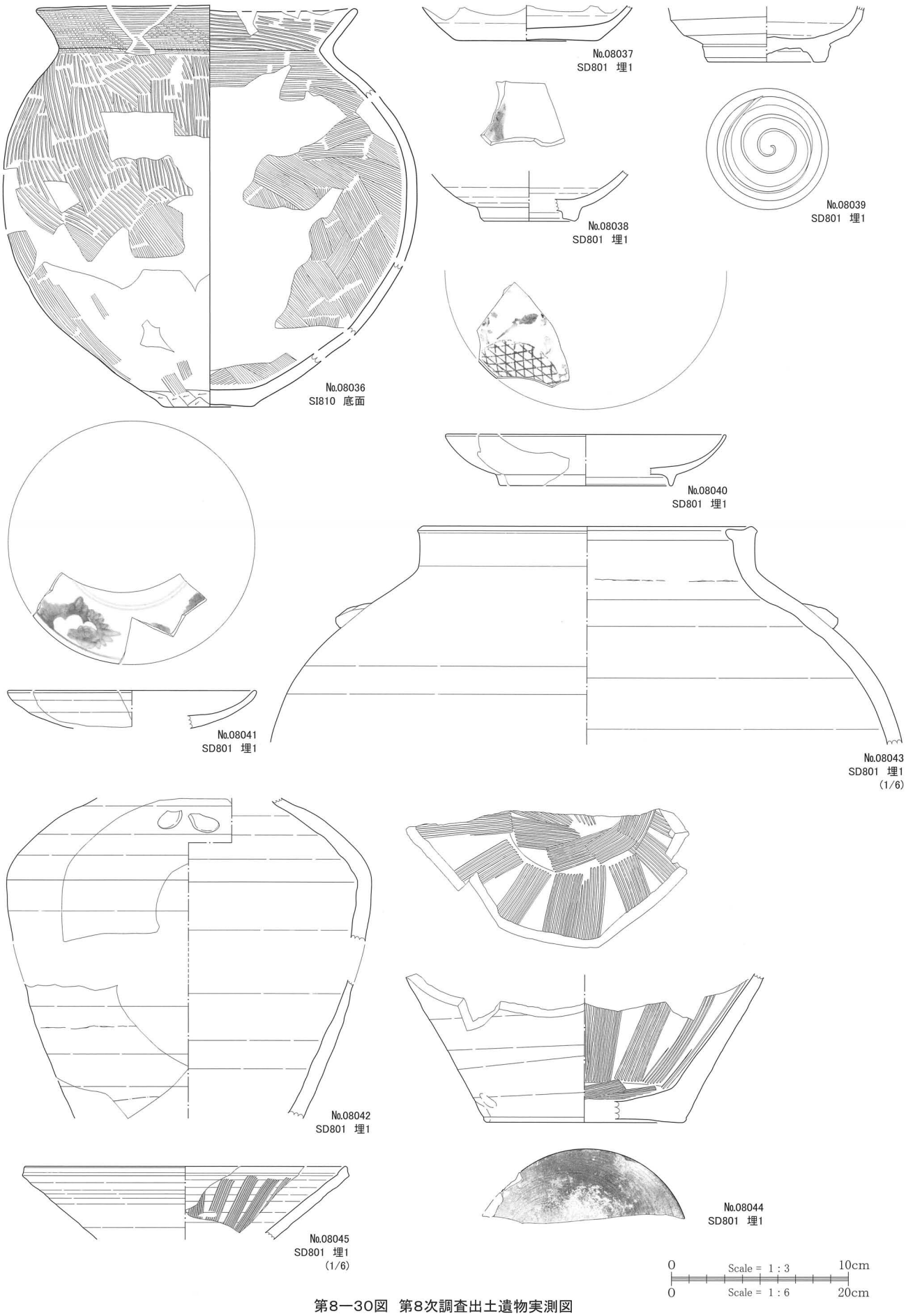
No.08018
SI808 埋土

0　Scale = 1 : 3　10cm
0　Scale = 2 : 3　5cm

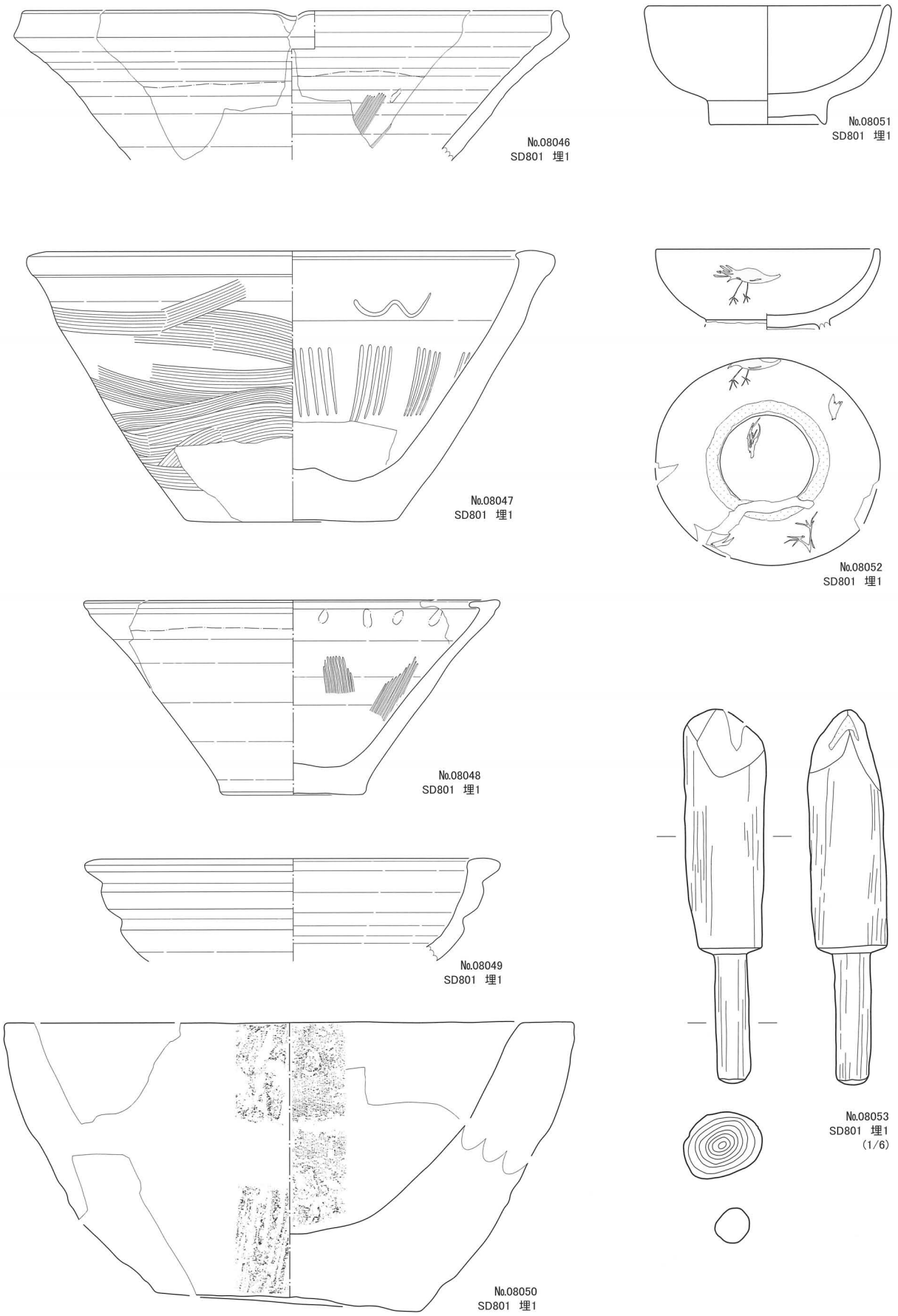
第8―28図　第8次調査出土遺物実測図



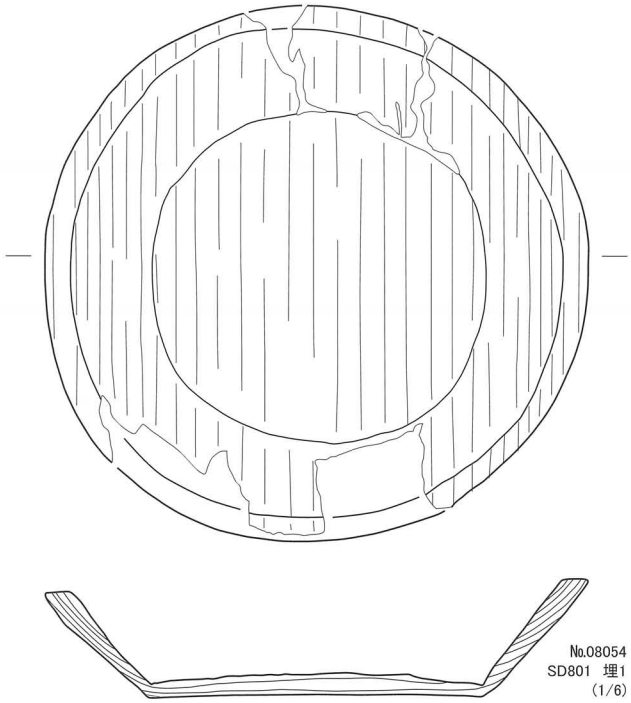
第8―29図　第8次調査出土遺物実測図

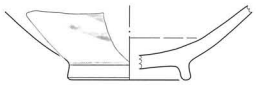


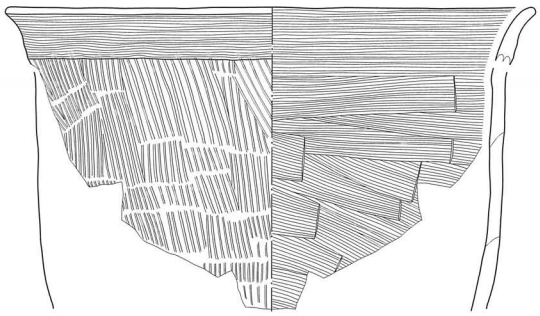
第8―30図　第8次調査出土遺物実測図

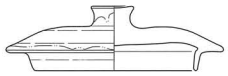


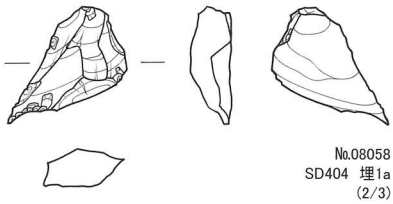
第8―31図　第8次調査出土遺物実測図

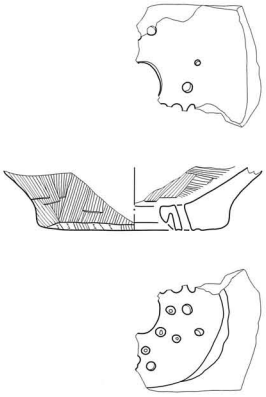


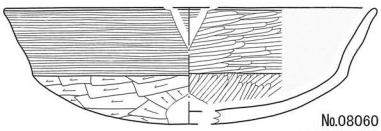


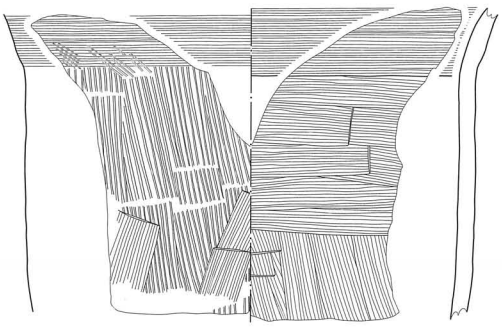


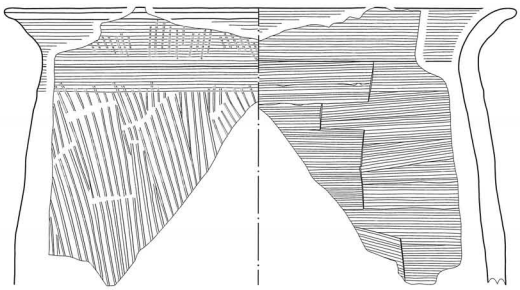


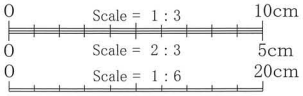




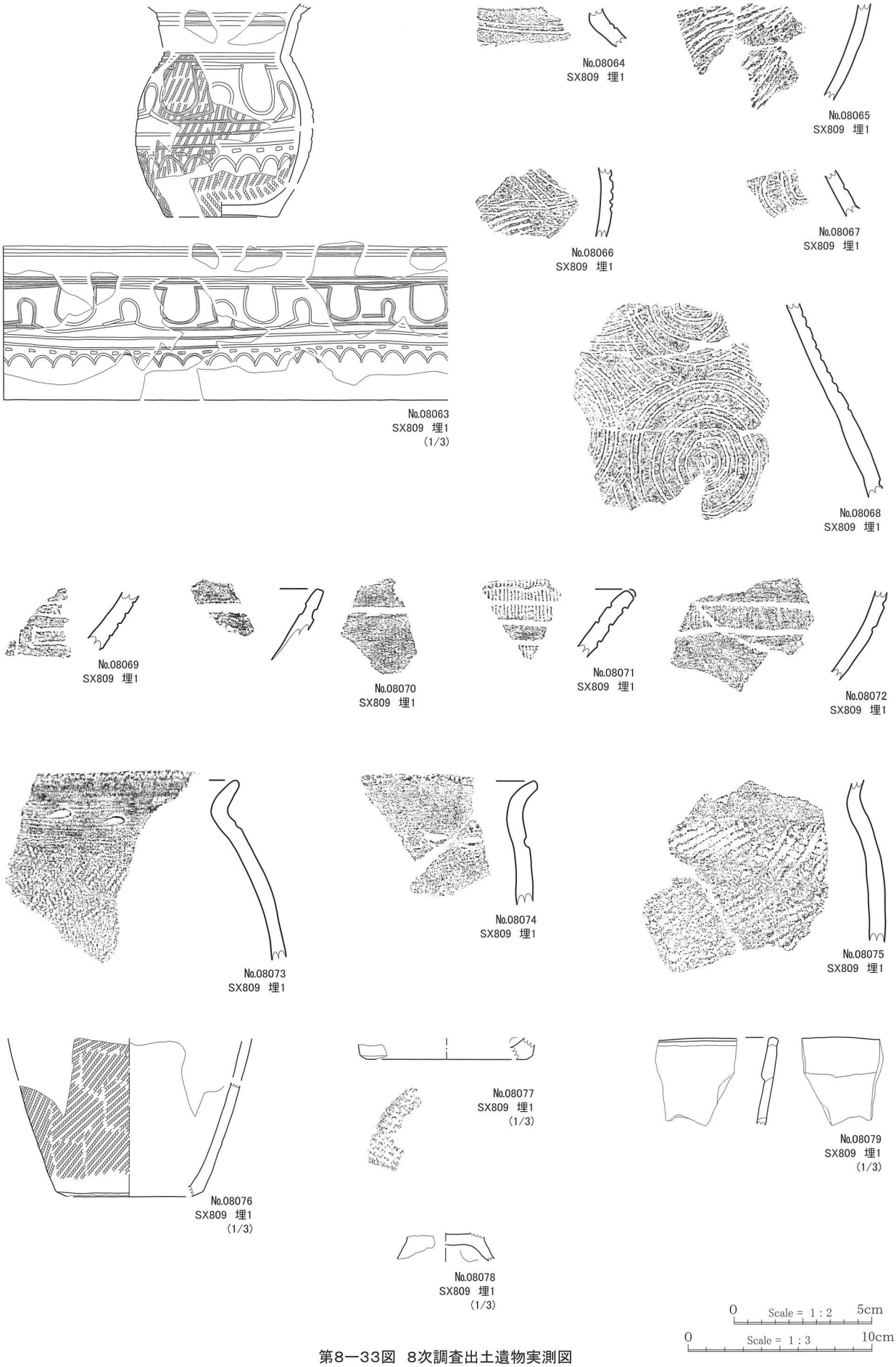




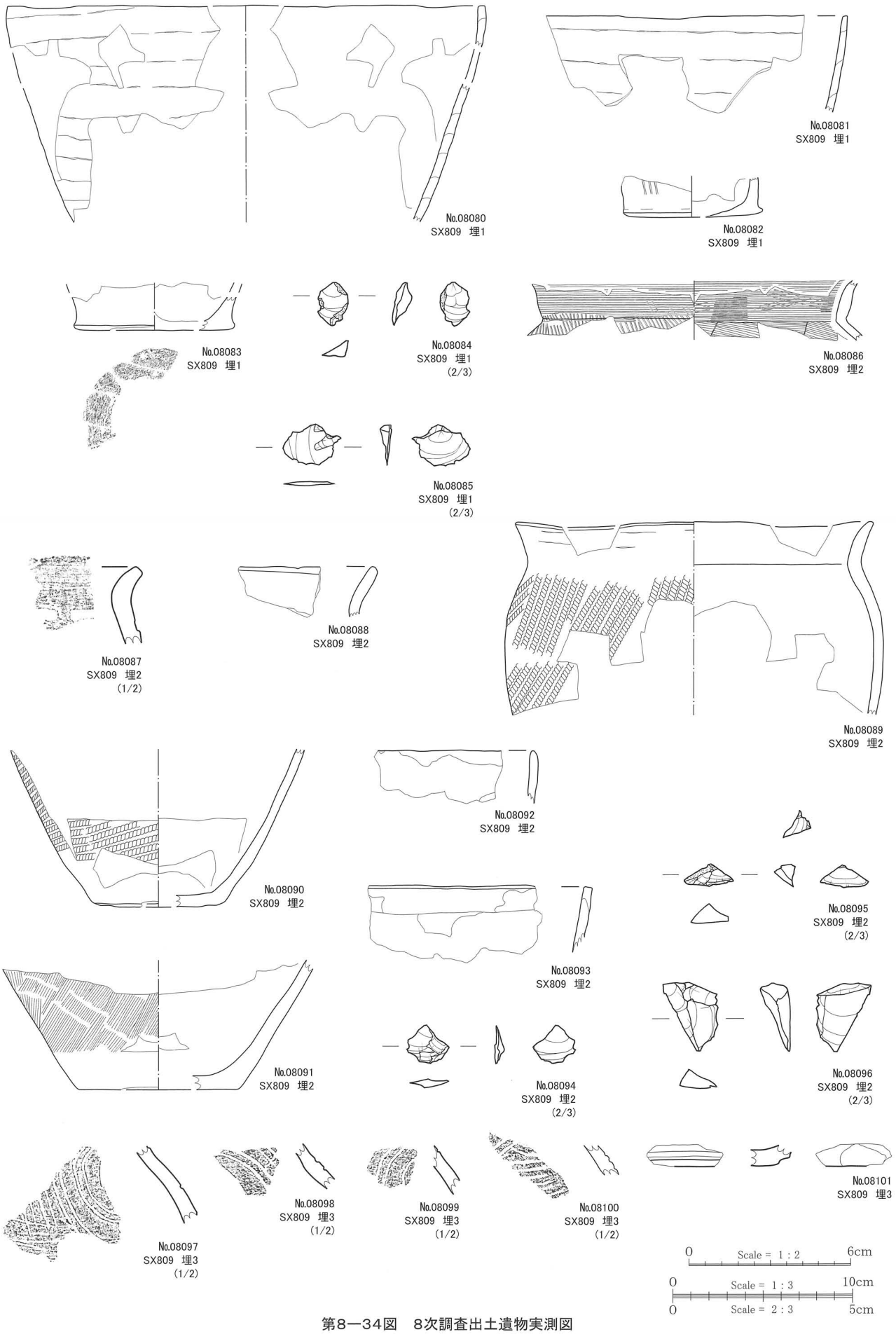




第8―32図　第8次調査出土遺物実測図

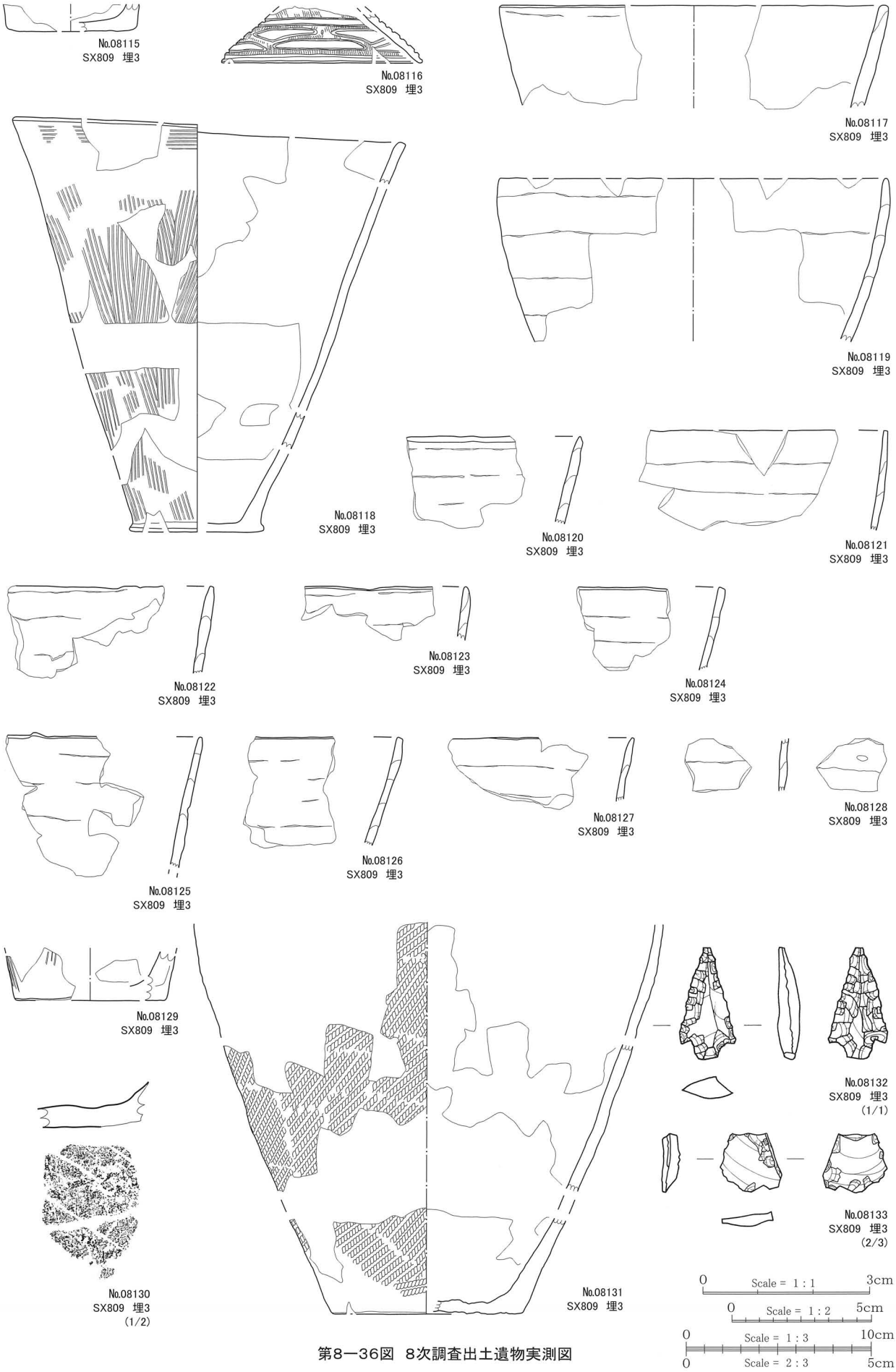


第8―33図　8次調査出土遺物実測図

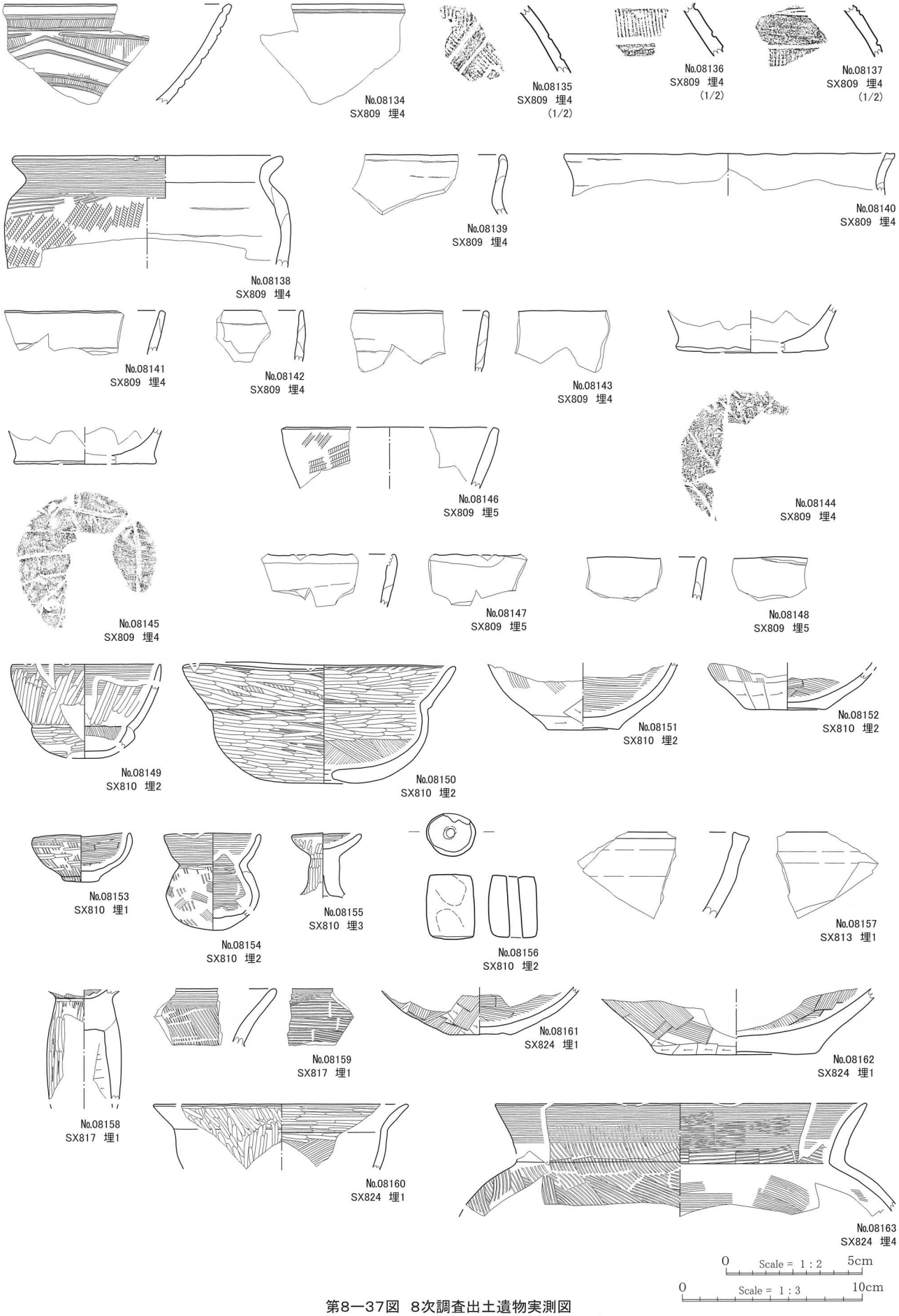


第8―34図　8次調査出土遺物実測図

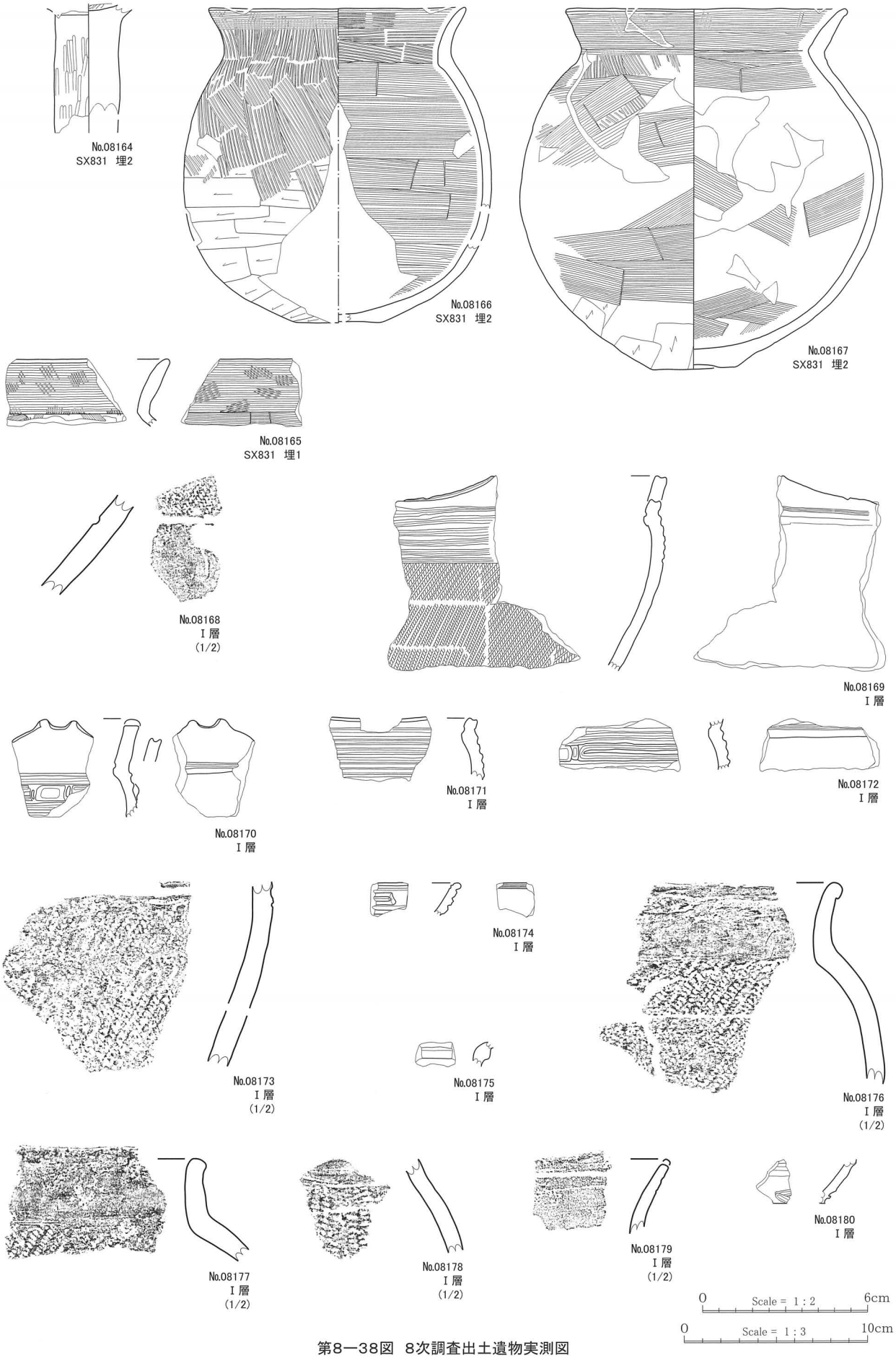
第8―35図　8次調査出土遺物実測図



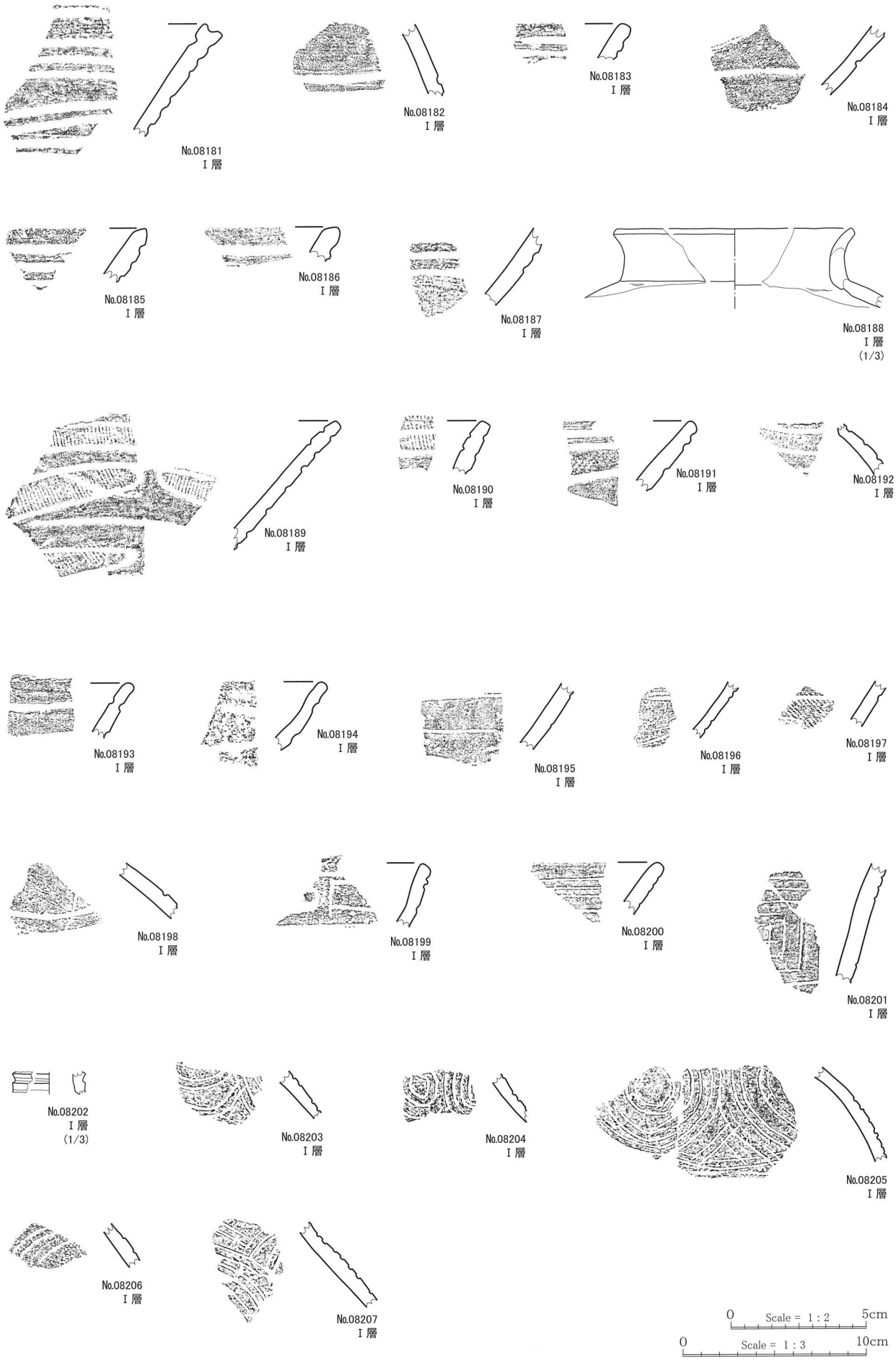
第8―36図　8次調査出土遺物実測図



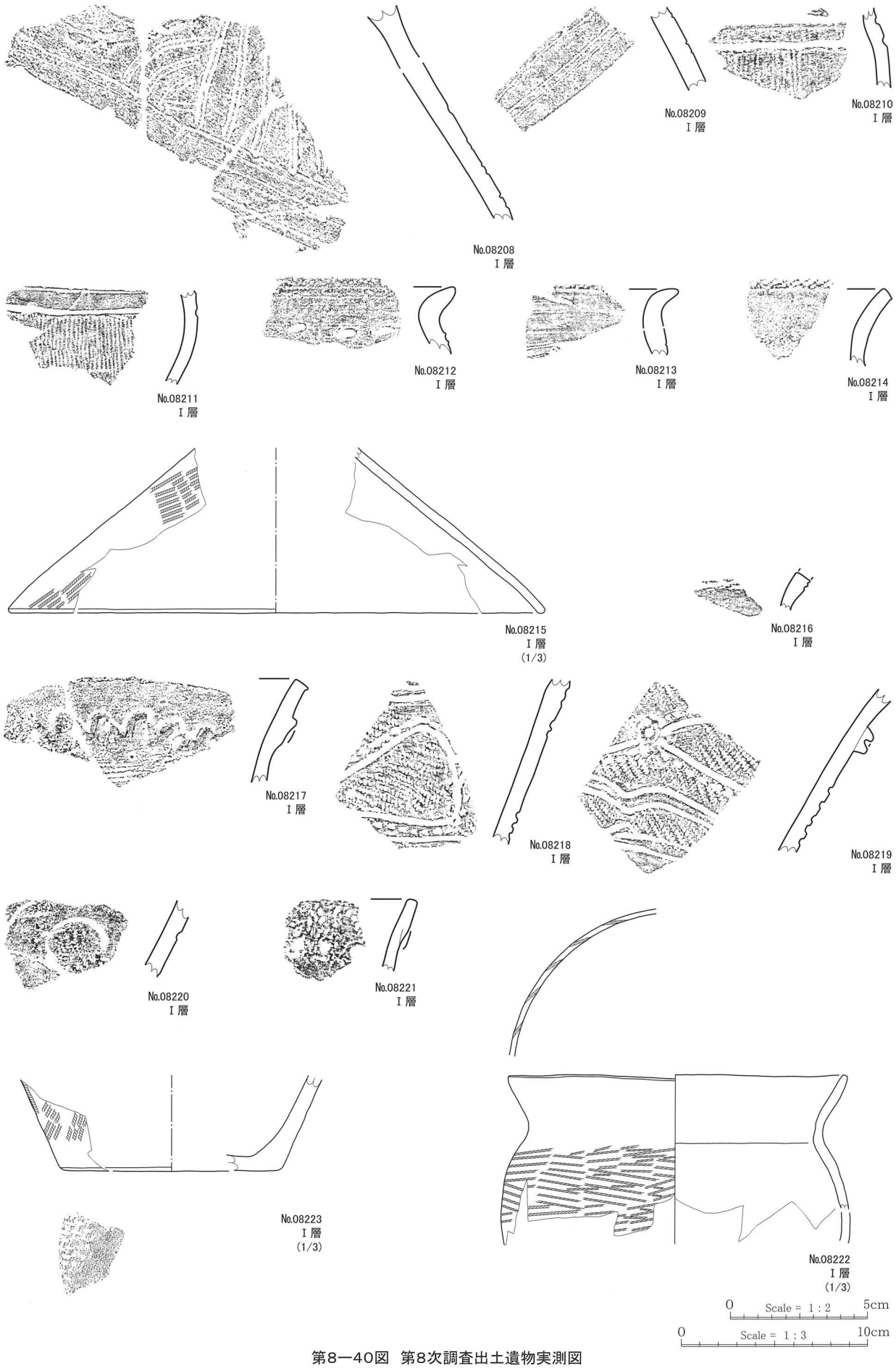
第8—37図　8次調査出土遺物実測図



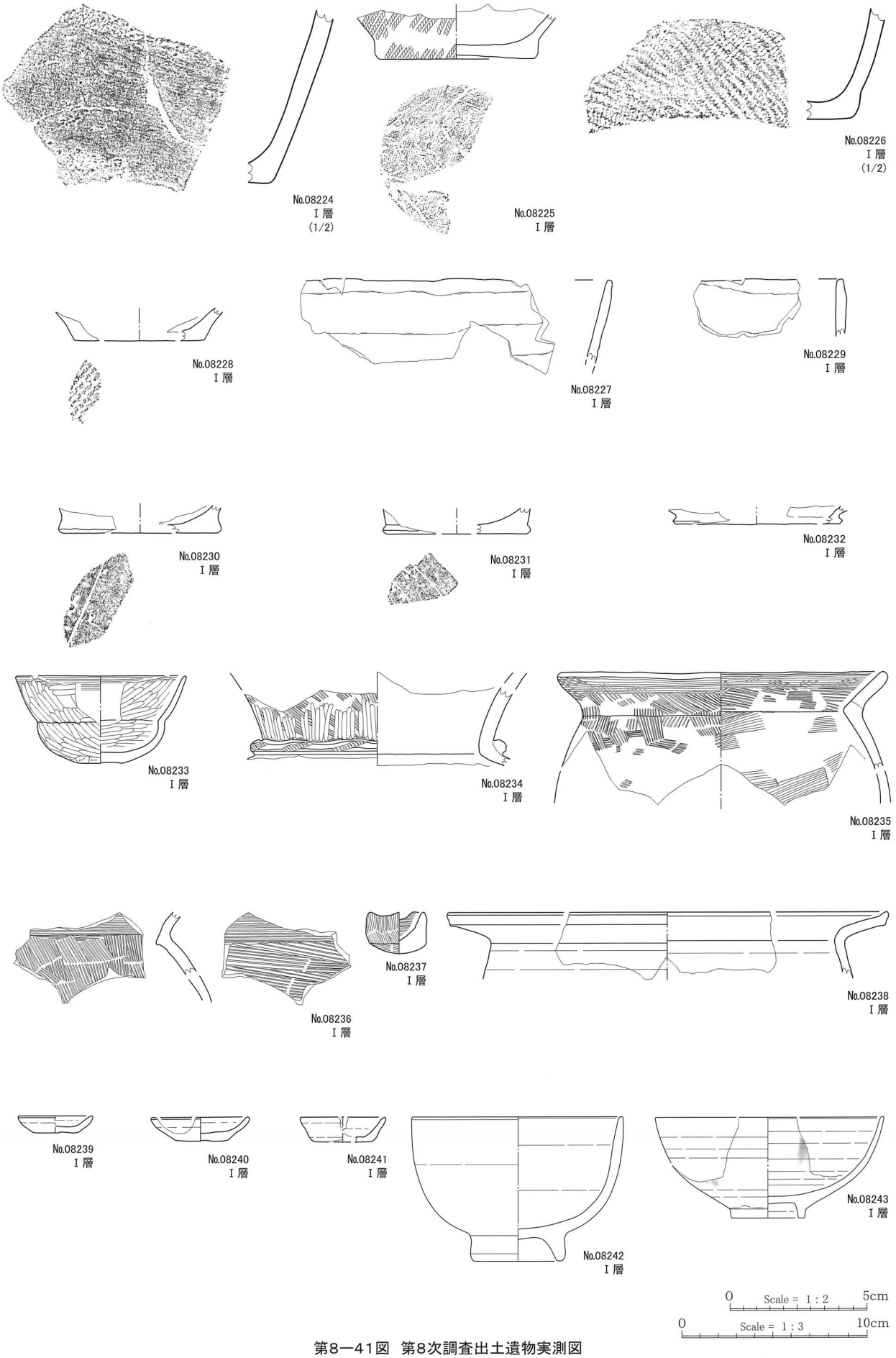
第8―38図　8次調査出土遺物実測図



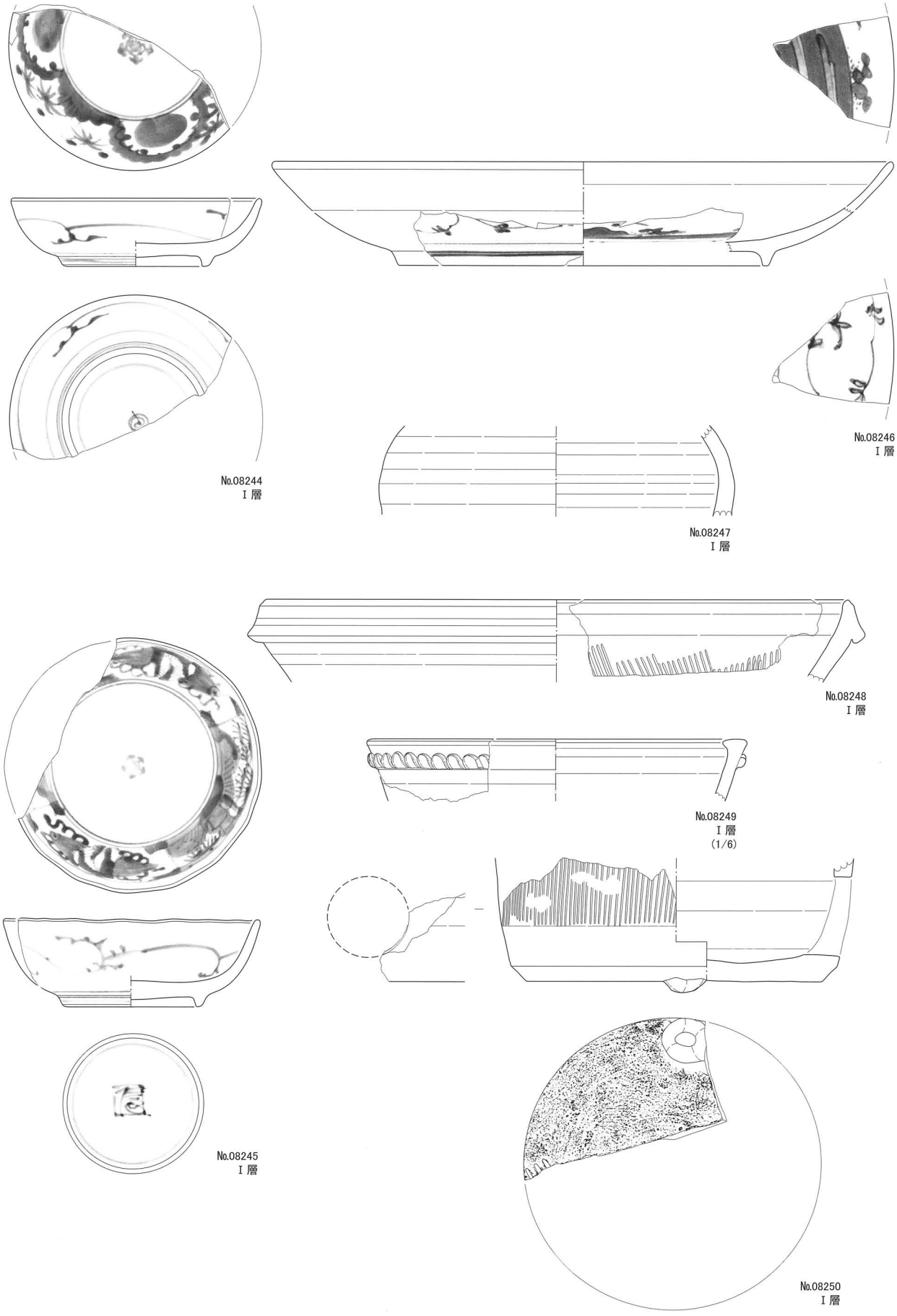
第8―39図　第8次調査出土遺物実測図



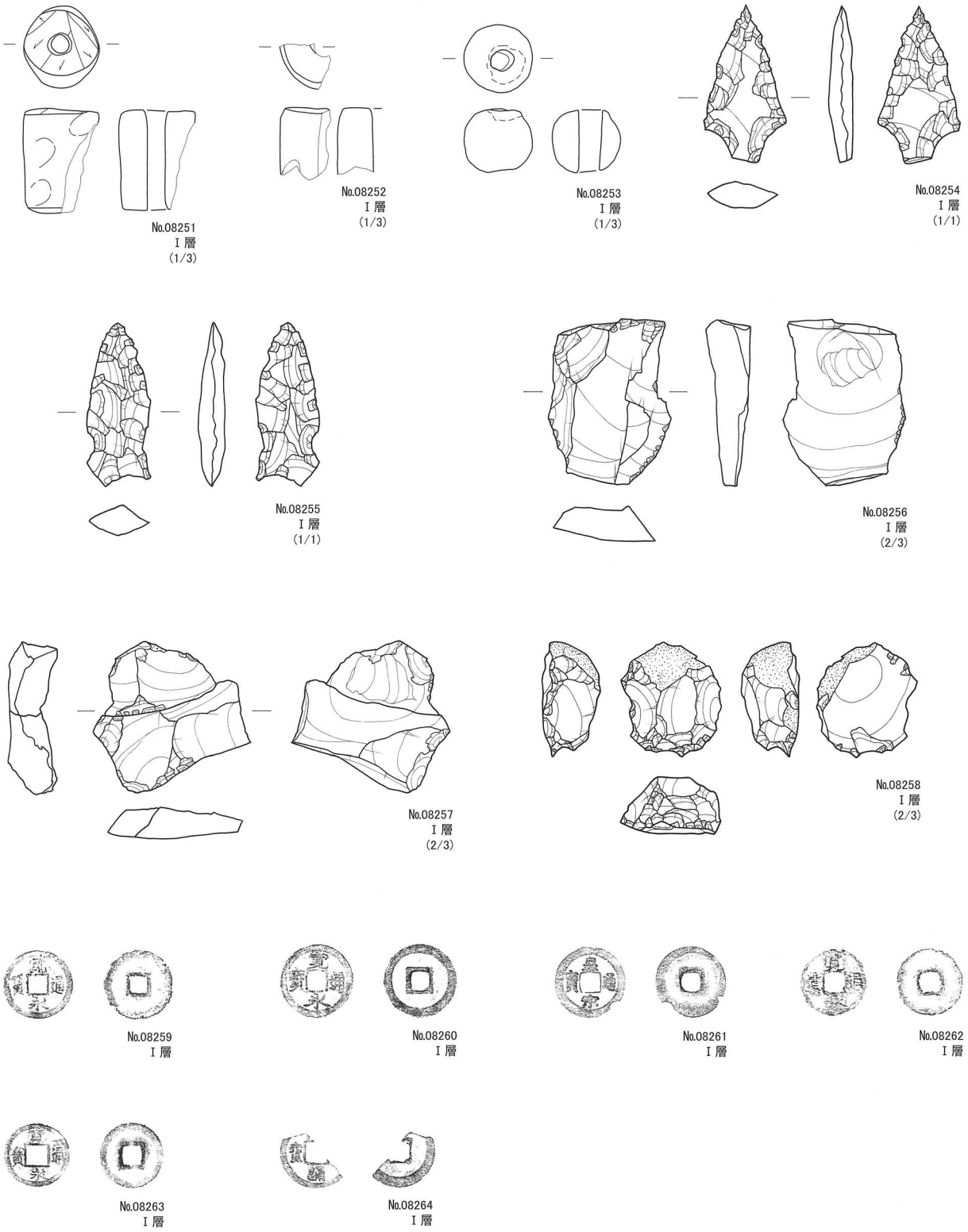
第8―40図　第8次調査出土遺物実測図



第8―41図　第8次調査出土遺物実測図

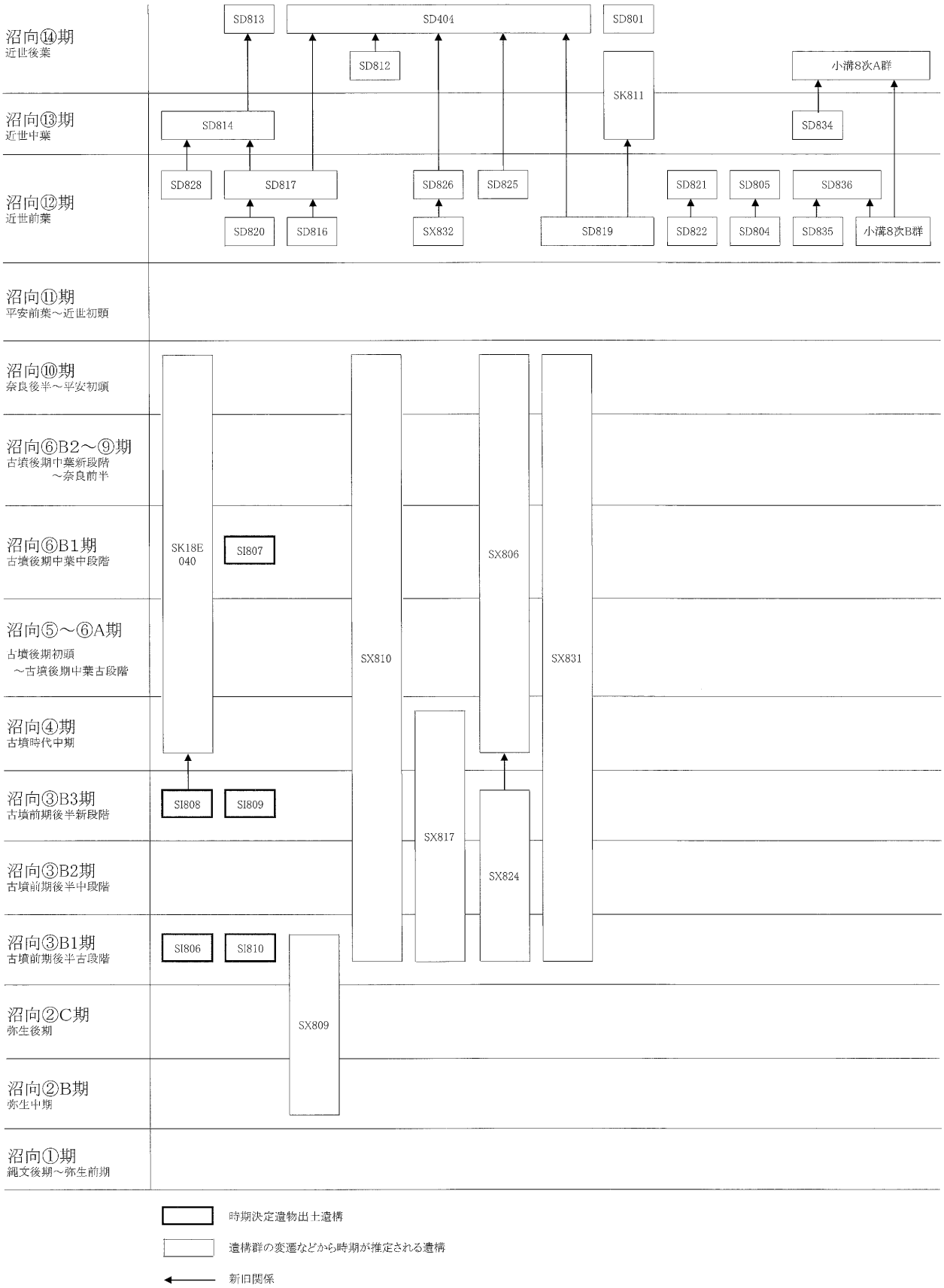


第8―42図　第8次調査出土遺物実測図



第8―43図　第8次調査出土遺物実測図

0　Scale = 1 : 1　5cm
0　Scale = 1 : 2　5cm
0　Scale = 1 : 3　10cm
0　Scale = 2 : 3　5cm



第８－44図　第8次調査検出遺構時期別変遷模式図

第８－１表　ＳＩ竪穴住居跡・竪穴遺構観察表

遺構番号		位置(Grid)	長辺(m)×短辺(m)×深さ(m)	カマド	時期
SI806	竪穴遺構	0Q-024b 0R-023d 0R-024c	4.90×4.20×0.44m	無	③B1
SI807	竪穴住居跡	00-022abcd	4.60×4.52×0.37m	有・北壁(切石使用)	⑥B1
SI808	竪穴住居跡	0M-021b 0N-021c	5.66×4.12×0.36m	無	③B3
SI809	竪穴遺構	00-021abcd 0P-021cd	3.80×3.40×0.57m	無	③B3
SI810	竪穴遺構	0R-025b	2.78×2.20以上×0.32m	無	③B1

第８－２表　ＳＤ溝跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	方向	全長(m)×上端幅(m)×深さ(m)	平面形・断面形	時期
SD801	0M-019c 0M-018d 0L-020b 0L-019ab 0L-018ab	N-80° -E	14.70以上×2.85以上×0.60m	直線・開いたU字状	⑭
SD802	00-021c 0N-021ab	N- 2° -E	2.70以上×0.67以上×0.24m	湾曲・開いたU字状	⑬～⑭
SD803	00-021d 0N-021ad	N-10° -W	9.70以上×1.10×0.27m	直線・開いたU字状	⑬～⑭
SD804	00-021cd 0N-021b	N-83° -E	5.60以上×0.80×0.15m	屈曲・開いたU字状	⑫
SD805	00-021cd 0N-021ab	N-41° -W	2.10以上×0.77×0.23m	直線・開いたU字状	⑫
SD806	00-022c 00-021d 0N-021a	N-13° -W	9.00以上×0.64×0.27m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD807	00-022c	N-53° -E	2.30以上×0.55×0.15m	直線・浅い擂り鉢状	⑫～⑭
SD808	00-021cd	N-83° -E	4.50以上×0.78×0.20m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD809	0P-021cd 00-021ab	N-89° -E	4.00以上×0.83×0.20m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD810	0P-022c 0P-021d 00-022b	N-15° -W	7.00以上×1.21×0.21m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD811	0P-021d	N-86° -W	2.70以上×0.47×0.07m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD812	0R-024bc	N- 7° -W	4.60以上×1.05×0.19m	直線・開いたU字状	⑭
SD813	0Q-023bc 0P-023bc	N- 1° -E	21.50以上×0.75×0.23m	直線・開いたU字状	⑭
SD814	0Q-023bc 0Q-022a 0P-023b 0P-022a	N-25° -W	18.00以上×1.20×0.17m	屈曲・開いたU字状	⑬
SD815	欠番				
SD816	0Q-023cd 0Q-022d 0P-022ad	N-30° -W	17.50以上×1.90×0.42m	屈曲・開いたU字状	⑫
SD817	0Q-023abcd 0Q-022a	N-77° -E	9.70以上×1.00×0.35m	直線・開いたU字状	⑫
SD818	欠番				
SD819	0Q-024c 0Q-023d 0P-024b 0P-023ad 00-022a	N-15° -E	7.20以上×1.55×0.14m	屈曲・開いたU字状	⑫
SD820	0Q-022ad	N-20° -W	5.20以上×0.80×0.16m	やや湾曲・開いたU字状	⑫
SD821	0R-025a	N- 5° -W	1.80以上×0.73×0.15m	直線・開いたU字状	⑫
SD822	0R-025ad	N- 3° -W	2.20以上×0.75以上×0.16m	直線・開いたU字状	⑫
SD823	欠番				
SD824	欠番				
SD825	0R-025abcd	N- 5° -W	3.60以上×0.54以上×0.13m	直線・浅い擂り鉢状	⑫
SD826	0R-025bc 0R-024acd 0Q-024b	N-82° -W	14.30以上×1.20以上×0.13m	屈曲・浅い擂り鉢状	⑫
SD827	0N-019c 0M-019b	N-10° -E	2.70以上×0.84以上×0.12m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD828	0Q-022a	N-10° -W	2.30以上×0.53以上×0.08m	直線・開いたU字状	⑫
SD829	0P-022bc 0P-021a	N-58° -E	5.20以上×0.82×0.13m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD830	欠番				
SD831	欠番				
SD832	欠番				
SD833	0M-019b	N- 0° --	0.60以上×0.40以上×0.13m	直線・開いたU字状	⑫～⑭
SD834	0L-019cd 0L-018cd	N-87° -E	14.70以上×1.05×0.13m	やや湾曲・開いたU字状	⑬
SD835	0L-019c 0L-018d 0K-019b 0K-018a	N-29° -W	4.30以上×0.68以上×0.20m	直線・開いたU字状	⑫
SD836	0K-018a	N-73° -E	3.50以上×0.38以上×0.06m	直線・開いたU字状	⑫
SD404	0R-025cd 0R-024cd 0R-023d 0Q-024abc 0Q-023ad 0P-023abcd	N-15° -W	50.50以上×4.20×0.63m	屈曲・開いたU字状	⑭

第８－３表　ＳＫ土坑観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK801	0L-019b	N-46° -E	1.12×0.88×0.21m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫～⑬
SK802	00-022c 00-021d	N-90° -E	2.73×1.59以上×0.44m	隅丸方形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK803	00-021d 0N-021a	N-82° -E	2.80×1.10×0.19m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK804	00-021cd	N-66° -W	1.80以上×1.08以上×0.12m	不明・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK805	0P-021d 00-021a	N-66° -E	1.70×1.55×0.60m	不整円形・擂り鉢状	ほぼ平坦	③～⑩
SK806	欠番					
SK807	欠番					
SK808	0P-021c	N-44° -W	1.53以上×0.95以上×0.40m	不明・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK809	0P-021d	N-12° -E	1.20×1.15×0.37m	不整円形・擂り鉢状	ほぼ平坦	③～⑩

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK810	0P-021cd	N-90° -E	1.17×0.92×0.30m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SK811	00-022a	N- 8° -W	1.20×1.07×0.25m	不整円形・開いたU字状	起伏	⑬～⑭
SK812	00-022a	N- 3° -E	0.82以上×0.63以上×0.19m	不明・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫～⑭

第８－４表　ＳＸ性格不明遺構観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SX801	0L-018b	N-60° -E	0.80×0.58以上×0.16m	溝状・開いたU字状	ほぼ平坦	⑤～⑧
SX802	0L-019c	N-85° -E	0.44×0.23×0.14m	不整円形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑤～⑧
SX803	0L-019cd	N-80° -W	0.65以上×0.29以上×0.09m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑤～⑧
SX804	00-021cd	N-35° -W	0.62×0.50×0.09m	不整方形・浅い擂り鉢状	ほぼ平坦	③～⑩
SX805	欠番					
SX806	欠番					
SX807	欠番					
SX808	0N-021a	N- 5° -W	1.93×1.20以上×0.14m	不明・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SX809	0R-025bc 0R-024d 0Q-025b 0Q-024a	N-21° -W	6.80×4.64×0.68m	不整形・浅い擂り鉢状	ほぼ平坦	②B1～③B1
SX810	0P-023abcd	N-15° -W	5.68×5.22×0.80m	方形・竪穴状	ほぼ平坦	③B1以降
SX811	0Q-023ad	N-32° -W	3.20×2.90×0.64m	隅丸方形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SX812	欠番					
SX813	0N-019c 0N-018d 0M-019b 0M-018a	N-51° -E	5.00以上×2.63以上×0.22m	不明・開いたU字状	やや起伏	⑫～⑭
SX814	欠番					
SX815	0P-022bc 0P-021ad	N-55° -E	3.80以上×1.88×0.72m	不整楕円形・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫～⑭
SX816	0Q-022c 0Q-021d 0P-022b 0P-021a	N-30° -E	5.80以上×3.20以上×0.64m	不明・開いたU字状	やや起伏	④～⑩
SX817	00-022b	N-13° -E	3.00以上×1.62以上×0.33m	不明・不明	ほぼ平坦	③～④
SX818	00-022c	N-75° -E	0.82以上×1.33以上×0.29m	不明・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑥A
SX819	0N-020bc 0N-019ad	N-11° -E	3.50×1.10×0.30m	直線・擂り鉢状	やや起伏	③～⑩
SX820	0N-020ab	N-73° -W	2.22×1.76×0.34m	不整楕円形・擂り鉢状	ほぼ平坦	③～⑩
SX821	00-020c 0N-020b	N- 7° -E	1.71×1.10×0.22m	不整方形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SX822	00-021c 00-020d 0N-021b 0N-020a	N-42° -E	1.60以上×1.40×0.32m	不明・浅い擂り鉢状	ほぼ平坦	③～⑩
SX823	0Q-022d 0P-022a	N- 5° -E	2.78×2.29以上×0.20m	不明・不明	ほぼ平坦	③～⑩
SX824	0P-022bc	N-90° -E	3.96以上×2.60以上×0.41m	方形・不明	ほぼ平坦	③B
SX825	0M-020b 0M-019a	N-33° -E	2.50×0.61×0.23m	直線・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SX826	0N-021d	N-50° -E	1.02以上×1.05以上×0.45m	不整円形・擂り鉢状	ほぼ平坦	③～⑩
SX827	0P-022d 00-022a	N-18° -W	2.94以上×1.85以上×0.34m	不明・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SX828	0P-023c 0P-022d	N-60° -W	1.60×1.40×0.27m	不整形・開いたU字状	ほぼ平坦	③～⑩
SX829	欠番					
SX830	欠番					
SX831	0Q-023bc 0Q-022ad	N-84° -W	5.38以上×4.98×0.63m	不整方形・開いたU字状	起伏	③B1以降
SX832	0R-024cd	N-86° -W	2.40以上×0.30以上×0.04m	直線・開いたU字状	ほぼ平坦	⑫

第８－５表　小溝状遺構群観察表

遺構番号	位置(Grid)	東西(m)×南北(m)	溝	面積	底面	時期
8次A群	0L-018bcd 0L-019cd	11.00以上×4.00m	5条	46.3㎡以上	起伏顕著	⑭
8次B群	0K-018ab 0K-019b 0L-018cd	10.00×9.20m以上	9条	22.6㎡以上	ほぼ平坦	⑫

第８－６表　遺物出土数量表

遺構名・基本層	層位	縄文・弥生土器	製塩土器	土師器 非ロクロ	土師器 ロクロ	須恵器	土師質土器	陶磁器	土製品	瓦	石器	石製品	砥石	礫	金属製品	木製品	自然木	その他	計	備考
SI806	埋土	7	0	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	244	
SI807	埋土	14	0	430	0	0	0	0	0	0	1	0	1	18	0	0	0	1	465	
	床面	3	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	27	第８次調査区内出土数
	カマド	0	0	172	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	172	
SI808	埋土	1	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	36	第８次調査区内出土数
SI809	埋土	11	0	130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76	0	0	0	0	217	
	床面	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SI810	埋土	7	0	160	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	167	
	床面	0	0	104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104	
SD801	埋土	2	0	16	0	1	1	35	2	1	10	1	0	9	0	8	0	1	87	第８次調査区内出土数
SD802	底面	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
SD803	埋土	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SD805	底面	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	

遺構名・基本層	層位	縄文・弥生土器	製塩土器	土師器 非ロクロ	土師器 ロクロ	須恵器	土師質土器	陶磁器	土製品	瓦	石器	石製品	砥石	礫	金属製品	木製品	自然木	その他	計	備考
SD806	底面	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	
SD808	底面	0	0	15	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	
SD809	底面	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
SD812	埋土	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
SD813	埋土	3	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15	第８次調査区内出土数
SD814	埋土	3	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	第８次調査区内出土数
SD816	埋土	6	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	39	
SD820	埋土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	第８次調査区内出土数
SD822	埋土	2	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	第８次調査区内出土数
SD825	埋土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SD826	埋土	1	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	
SD827	埋土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	第８次調査区内出土数
SD828	埋土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SD829	埋土	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
SD404	埋土	372	292	133	9	0	0	1	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	815	第８次調査区内出土数
SK802	埋土	0	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	
SK812	埋土	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
SX801	埋土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SX802	埋土	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
SX803	埋土	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
SX804	埋土	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SX808	埋土	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
SX809	埋1	384	368	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	759	
	埋2	196	283	97	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	581	
	埋3	379	1165	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	35	0	0	0	0	1580	
	埋4	133	289	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	428	
	埋5	28	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	2	125	
SX809　計		1120	2184	100	0	0	0	0	0	0	7	0	0	60	0	0	0	2	3473	
SX810	埋土	16	0	117	0	0	0	0	1	0	0	0	1	12	0	0	0	0	147	
SX811	埋土	105	22	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	166	
SX813	埋土	2	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	23	第８次調査区内出土数
SX815	埋土	1	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	第８次調査区内出土数
SX816	埋土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	第８次調査区内出土数
SX817	埋土	12	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	
SX818	埋土	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
SX822	埋土	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SX823	埋土	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
SX824	埋土	0	0	67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	68	
SX827	埋土	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	
SX831	埋土	88	1	254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	354	
小溝3次A群	埋土	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	第８次調査区内出土数
Ⅰ層	－	4	92	1297	6	7	8	158	3	0	14	0	5	68	15	2	0	2	1681	
合計		1790	2591	3583	15	9	10	197	6	1	33	1	7	273	16	10	0	7	8549	

「SX809計」は遺構出土数であり、総合計には含まない

第８－７表　遺物観察表

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類・時期	写真図版
第8-27図 No.08001	08C-088	SI806	埋3	非ロクロ土師器	器台 口縁部～裾部	10.9	9.5	12.7	－	外：ハケメ(口～裾)→ヨコナデ(口・裾)→ユビオサエ(頭) 内：ヘラケズリ(脚)→ハケメ(口～裾)→ヘラミガキ(脚)→ユビオサエ(口)	CⅡax類	8-9
第8-27図 No.08002	08C-087	SI806	埋3	非ロクロ土師器	甕 口縁部～底部	19.1	(13.0)	3.8	－	外：ヘラケズリ(体下)→ハケメ(口～体上)→ヘラナデ(体下)→ヨコナデ(口)　外底：ヘラケズリ　内：ハケメ(口)・ヘラナデ(体～底)→ヨコナデ(口)	CⅠb1y類	8-9
第8-27図 No.08003	08C-086	SI806	埋3	非ロクロ土師器	甕 口縁部～底部	28.0	22.4	(8.3)	－	外：ハケメ(口～体)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(口)・ヘラナデ(体～底)→ヨコナデ(口)	CⅠb1x類	8-9
第8-27図 No.08004	08C-082	SI807	埋5	非ロクロ土師器	坏 口縁部～底部	5.7	(14.3)	－	－	外：ヘラケズリ(底)→ハケメ(体)→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)　外底：ナデ　内：ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(体)	CⅠf2M1類	8-9
第8-27図 No.08005	08C-105	SI807	埋1	非ロクロ土師器	坏 口縁部～底部	3.8	(17.8)	－	－	外：ヘラケズリ(底)→ヨコナデ(口)　内：ヘラミガキ(口～底)→黒色処理	CⅣb3U2類	8-9
第8-27図 No.08006	09C-312	SI807	埋7	非ロクロ土師器	坏 口縁部～体部下半	残存 4.9	(13.6)	－	－	外：ヘラケズリ(体)→ヨコナデ(口)　内：ヘラミガキ(口～体)	CⅤa1M1類	8-9
第8-27図 No.08007	09C-101	SI807	埋6b	非ロクロ土師器	鉢 口縁部～底部	9.6	(19.9)	(7.1)	－	外：ヘラケズリ(体下～底)→ハケメ(体上)→ヘラナデ(体上)→ヨコナデ(口)・ユビオサエ(体上)　内：ヘラミガキ(口～底)→ヨコナデ(口)	CⅡa①類	8-9

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第8-27図 No.08008	08C-110	SI807	床面	非ロクロ 土師器	鉢 口縁部～底部	11.0	(11.0)	(5.7)	-	外：ヘラケズリ(体下～底)→ハケメ(体上)→ナデ(体下)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(体～底)→ヘラミガキ(底)・ヨコナデ(口)	CⅡb①類	8-9
第8-27図 No.08009	08C-123	SI807	埋6a	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部下半	残存 6.7	(18.5)	-	-	外：ハケメ(体上)→ヘラナデ(体上)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)	CⅣa2y類	8-9
第8-27図 No.08010	08C-081	SI807	床面	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～底部	24.7	24.5	8.2	-	外：ヘラケズリ(体下)→ハケメ(口～体上)→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)→ユビオサエ(頸)　内：ヘラケズ(体下)→ハケメ(口)→ヘラナデ(体)・ヘラケズリ(孔)→ヘラミガキ(口～体上)	CⅢby類	8-9
第8-28図 No.08011	08C-080	SI807	カマド	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～底部	29.2	15.2	6.5	-	外：ヘラケズリ(体下)→ハケメ(口～体中)→ヨコナデ(口)　外底：ヘラケズリ　内：ハケメ(底)→ヘラナデ(体上～中)→ヨコナデ(口)	CⅡb2x類	8-9
第8-28図 No.08012	08C-078	SI807	カマド	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部下半	残存 17.4	17.7	-	-	外：ヘラケズリ(体下)→ヘラナデ(体下)→ハケメ(口～体上)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(体上)→ヘラナデ(体)→ヘラミガキ(体)→ヨコナデ(口)	CⅣa1x類	8-9
第8-28図 No.08013	08C-079	SI807	カマド	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部下半	残存 19.5	(18.7)	-	-	外：ハケメ(体)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)	CⅣa1x類	8-9
第8-28図 No.08014	09P-062	SI807	埋5b	土製品	球状土錘	残存 1.7	径 (3.4)	孔径 (1.1)	残存 3.5		-	8-9
第8-28図 No.08015	08Ka-002	SI807	埋5	石器	微細剥離痕のある剥片	4.0	3.1	1.0	10.6	石材：玉髄	-	8-9
第8-28図 No.08016	08Kg-004	SI807	埋6a	石製品	砥石	14.4	4.0	1.7	145.8	石材：砂岩	-	8-9
第8-28図 No.08017	18東C-023	SI808	埋4	非ロクロ 土師器	高坏 口縁部～頸部	残存 4.3	(17.8)	-	-	外：ハケメ(坏)→ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(坏)　内：ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(坏)	C類	8-10
第8-28図 No.08018	08C-077	SI808	埋土	非ロクロ 土師器	高坏 坏部～裾部	残存 12.3	-	(11.4)	-	外：ハケメ(脚～裾)→ヘラミガキ(坏～脚)→ナデ(頸)→ヨコナデ(裾)　内：ヘラケズリ(脚)・ヘラナデ(坏)→ヘラミガキ(坏)・ヨコナデ(裾)	CⅠc類	8-10
第8-29図 No.08019	18東C-029	SI808	埋4	非ロクロ 土師器	高坏 脚部	残存 6.9	-	-	-	外：ヘラミガキ(脚)　内：ヘラケズリ(脚)	CⅠa類	8-10
第8-29図 No.08020	08C-021	SI808	埋土	非ロクロ 土師器	壺 口縁部	残存 4.0	-	-	-	外：ヘラミガキ(口)　内：ヘラミガキ(口)	CⅡe類	8-10
第8-29図 No.08021	18東C-024	SI808	床面	非ロクロ 土師器	甕 口縁部	残存 2.4	(13.6)	-	-	外：ハケメ(口～頸)　内：ハケメ(口)→ヘラナデ(頸)	Cx類	8-10
第8-29図 No.08022	18東C-028	SI808	埋5	非ロクロ 土師器	直口壺 口縁部～体部下半	残存 7.3	-	-	-	外：ハケメ(口～体)→ヘラミガキ(口～体)　内：ヘラナデ(口～体)	CⅠ2類	8-10
第8-29図 No.08023	08C-051	SI809	埋3a	非ロクロ 土師器	高坏 脚部	残存 7.7	-	-	-	外：ヘラケズリ(脚)　内：ヘラミガキ(脚)	CⅠb類	8-10
第8-29図 No.08024	08C-074	SI809	埋3a	非ロクロ 土師器	小型丸底鉢 口縁部～底部	7.1	(10.3)	(2.1)	-	外：ヘラケズリ(体下～底)→ハケメ(口～頸)→ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口～体上)　内：ヘラナデ(口～底)→ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口・底)	CⅡ類	8-10
第8-29図 No.08025	08C-073	SI809	埋3a	非ロクロ 土師器	小型丸底鉢 口縁部～底部	7.6	9.6	(3.0)	-	外：ヘラケズリ(体下～底)→ヘラナデ(口～体上)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(口～底)→ヨコナデ(口)	CⅡ類	8-10
第8-29図 No.08026	08C-150	SI809	埋3a	非ロクロ 土師器	小型丸底鉢 口縁部～底部	6.7	10.8	1.8	-	外：ヘラケズリ(体下～底)→ハケメ(口～体下)→ヘラナデ(口～体上)→ヨコナデ(口)　内：ヘラケズリ(底)→ヘラナデ(口～体)・ヨコナデ(口)	CⅢ類	8-10
第8-29図 No.08027	08C-065	SI809	埋3	非ロクロ 土師器	直口壺 口縁部～頸部	残存 7.8	(13.7)	-	-	外：ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口～頸上)　内：ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口～頸上)	CⅠ類	8-10
第8-29図 No.08028	08C-076	SI809	埋3a	非ロクロ 土師器	壺 口縁部～体部上半	残存 7.8	12.9	-	-	外：ハケメ(口)→ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(体)　内：ハケメ(口)→ヘラナデ(体)・ヨコナデ(口)	CⅠb類	8-10
第8-29図 No.08029	08C-047	SI809	埋1	非ロクロ 土師器	壺 口縁部～体部上半	残存 7.0	-	(9.5)	-	外：ヘラケズリ(体～底)→ヘラナデ(体)　内：ヘラナデ(体～底)	C3類	8-10
第8-29図 No.08030	08C-075	SI809	埋3a	非ロクロ 土師器	壺 口縁部～体部上半	残存 13.1	(12.4)	-	-	外：ハケメ(口～体)→ヘラミガキ(口～体)　内：ハケメ(口)→ヘラミガキ(口～体)	CⅡd2類	8-10
第8-29図 No.08031	08C-194	SI810	埋1	非ロクロ 土師器	鉢 口縁～底部	5.0	(11.8)	(3.6)	-	外：ハケメ(口～頸)→ヘラナデ(体)→ヘラミガキ(口～体)→ヨコナデ(口)　外底：ナデ　内：ハケメ(口)→ヘラナデ(体～底)→ヨコナデ(口)	CⅠa①類	8-10
第8-29図 No.08032	08C-058	SI810	埋1	非ロクロ 土師器	鉢 口縁部～体部下半	残存 3.4	(11.3)	-	-	外：ハケメ(体上)→ヘラナデ(体下)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(体上)→ヘラナデ(体下)→ヨコナデ(口)	CⅡa類	8-10
第8-29図 No.08033	08C-094	SI810	底面	非ロクロ 土師器	鉢 口縁部～底部	残存 7.7	17.8	3.2	-	外：ヘラケズリ(体～底)→ハケメ(口～体)→ヘラナデ(口～頸)　内：ヘラナデ(体～底)→ヨコナデ(口)	CⅠa②類	8-10
第8-29図 No.08034	08C-093	SI810	底面	非ロクロ 土師器	鉢 口縁～底部	7.4	(15.6)	2.1	-	外：ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口～底)　内：ヘラナデ(体～底)・ヨコナデ(口)	CⅠa②類	8-10
第8-29図 No.08035	08C-095	SI810	底面	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～底部	19.4	(17.5)	(5.9)	-	外：ヘラケズリ(体下)→ハケメ(体上)　外底：ヘラケズリ　内：ヘラナデ(体～底)	CⅠb1y類	8-10
第8-30図 No.08036	08C-096	SI810	底面	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～底部	22.8	17.7	5.1	-	外：ヘラケズリ(体下)→ハケメ(口～体上)→ヘラナデ(体下)→ヨコナデ(口)　外底：ヘラケズリ　内：ハケメ(口)・ヘラナデ(体～底)	CⅠb1x類	8-10
第8-30図 No.08037	08G-003	SD801	埋1	土師質 土器	灯明皿	残存 2.0	-	(8.0)	-	外：ロクロナデ→回転糸切り(底)　内：ロクロナデ	-	8-10
第8-30図 No.08038	08J-001	SD801	埋1	磁器	大碗	残存 3.0	欠損	(5.1)	-	ロクロ　蛇ノ目高台　外：-　内：葉文 肥前　17c.前～中	-	8-10
第8-30図 No.08039	08I-001	SD801	埋1	陶器	大碗	残存 3.2	欠損	(6.7)	-	ロクロ　削り高台　外：-　内：- 岸窯系　17c.中～後	-	8-10
第8-30図 No.08040	08J-002	SD801	埋1	磁器	五寸皿	3.0	(15.7)	(9.6)	-	ロクロ　削り高台　外：-　内：縦と花鳥文 肥前　17c.末～18c.前	-	8-10
第8-30図 No.08041	08J-003	SD801	埋1	磁器	五寸皿	残存 2.1	(14.0)	欠損	-	ロクロ　外：-　内：唐草文 肥前　18c.前～中	-	8-10
第8-30図 No.08042	08I-002	SD801	埋1	陶器	中壺	残存 18.1	欠損	欠損	-	ロクロ　耳貼付（1）　外：-　内：- 岸窯系　17c.中	-	8-11
第8-30図 No.08043	08I-003	SD801	埋1	陶器	大甕	残存 25.0	(38.0)	欠損	-	紐作り　ロクロ　外：-　内：- 岸窯系　17c.～18c.	-	8-11
第8-30図 No.08044	08I-004	SD801	埋1	陶器	擂鉢	残存 8.6	欠損	(11.1)	-	ロクロ　回転糸切底　外：-　内：櫛目 岸窯系　17c.前	-	8-11

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第8-30図 No.08045	08I-005	SD801	埋1	陶器	擂鉢	残存 8.4	(36.0)	欠損	-	紐作り　ロクロ　外：-　内：- 丹波　17c.	-	8-11
第8-31図 No.08046	08I-006	SD801	埋1	陶器	擂鉢	残存 8.0	(28.1)	欠損	-	ロクロ　押圧　外：-　内：櫛目 岸窯系　17c.中	-	8-11
第8-31図 No.08047	08I-007	SD801	埋1	土器	擂鉢	14.4	(28.0)	(11.2)	-	ロクロ　口唇部ミガキ　横ナデ　外：-　内：櫛目 在地　-	-	8-11
第8-31図 No.08048	08I-008	SD801	埋1	陶器	擂鉢	10.5	(22.0)	(7.8)	-	ロクロ　ベタ底　外：-　内：櫛目 岸窯系　17c.中	-	8-11
第8-31図 No.08049	08I-009	SD801	埋1	土器	火鉢	残存 5.5	(22.1)	欠損	-	ロクロ　口縁ミガキ　外：-　内：- 在地　18c.～19c.	-	8-11
第8-31図 No.08050	08Ki-001	SD801	埋1	石製品	石鉢	15.5	(30.0)	14.1	6.2Kg	石材：凝灰岩	-	8-12
第8-31図 No.08051	08L-001	SD801	埋1	木製品	漆器椀	6.4	12.7	6.1	-	内・外：黒　木取り：板目　樹種：ブナ属	-	8-12
第8-31図 No.08052	08L-002	SD801	埋1	木製品	漆器椀	残存 4.3	11.6	-	-	内・外：黒　文様：赤　木取り：板目　樹種：ブナ属	-	8-12
第8-31図 No.08053	08L-004	SD801	埋1	木製品	横槌	40.4	8.5	7.1	-	木取り：芯持ち材　樹種：クリ	-	8-12
第8-32図 No.08054	08L-003	SD801	埋1	木製品	鉢	9.5	42.8	26.7	-	木取り：板目　樹種：クリ	-	8-12
第8-32図 No.08055	08J-004	SD813	埋1	磁器	大碗	残存 3.0	欠損	(4.8)	-	ロクロ　削り高台　外：飛鶴文　内：- 瀬戸美濃　19c.末～（明治）	-	8-12
第8-32図 No.08056	08C-121	SD404	埋1a	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部上半	残存 12.0	(26.0)	-	-	外：ハケメ(体)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)	CⅣa1x類	8-12
第8-32図 No.08057	08I-010	SD404	埋2d	陶器	土瓶・蓋	2.6	6.4	1.7	-	ロクロ　削り口受・削り摘み　外：-　内：- 堤　18c.～19c.	-	8-12
第8-32図 No.08058	08Ka-008	SD404	埋1a	石器	剥片	2.3	2.3	0.8	2.6	石材：黒曜石	-	8-12
第8-32図 No.08059	08C-053	SK802	埋4	非ロクロ 土師器	甑 体部下半～底部	残存 2.5	-	(7.0)	-	外：ヘラケズリ(体下)→ヘラナデ(体下)　外底：ナデ　内：ヘラナデ(体下～底)　底部の孔は貫通していないものがある	Ｃｃｚ類	8-12
第8-32図 No.08060	08C-097	SX801	埋1	非ロクロ 土師器	坏 口縁部～底部	4.6	(14.4)	-	-	外：ヘラケズリ(体～底)→ヨコナデ(口)　内：ヘラミガキ(口～底)→黒色処理	ＣＶｂ2M2類	8-13
第8-32図 No.08061	08C-024	SX802	埋1	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部上半	残存 11.0	(19.8)	-	-	外：ハケメ(口～体上)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(体上)→ヨコナデ(口)	CⅢ１ｘ類	8-13
第8-32図 No.08062	08C-224	SX803	埋1	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部中半	残存 12.3	-	-	-	外：ハケメ(口)→ヘラナデ(体上)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(体上)→ヨコナデ(口)	CⅢｄ1ｙ類	8-13
第8-33図 No.08063	08B-076	SX809	埋1	弥生 土器	壺 口縁部～底部	11.7	-	6.0	-	口縁外(端部を欠損)：ミガキ→平行沈線　外体：ＲＬ縄文→沈線による交互Ω文(５単位)・下向き連弧文　内：ナデ	②C１～C２期	8-13
第8-33図 No.08064	08B-075	SX809	埋1	弥生 土器	壺 体上半	残存 1.4	-	-	-	外：同時施文平行沈線　内：ナデ	②B５期	8-13
第8-33図 No.08065	08B-074	SX809	埋1	弥生 土器	- 体上半	残存 3.5	-	-	-	外：撚糸文R　内：ナデ	②B5～C期	8-13
第8-33図 No.08066	08B-073	SX809	埋1	弥生 土器	壺 体部	残存 2.6	-	-	-	外：同時施文平行沈線　内：ナデ	②B５期	8-13
第8-33図 No.08067	08B-072	SX809	埋1	弥生 土器	壺 体部	残存 1.7	-	-	-	外：同時施文平行沈線　内：ナデ	②B５期	8-13
第8-33図 No.08068	08B-071	SX809	埋1	弥生 土器	壺 体部	残存 7.1	-	-	-	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B５期	8-13
第8-33図 No.08069	08B-070	SX809	埋1	弥生 土器	鉢 体部	残存 2.1	-	-	-	外：沈線方形文（一部コーナーに刺突）→１帯おきにミガキ 内：ミガキ	②B４期	8-13
第8-33図 No.08070	08B-056	SX809	埋1	弥生 土器	鉢 口縁部～体部上半	残存 2.6	-	-	-	外：沈線→ミガキ　内：沈線→ミガキ	②B１期	8-13
第8-33図 No.08071	08B-057	SX809	埋1	弥生 土器	鉢 口縁部～体部上半	残存 2.5	-	-	-	口唇：抉り・擬縄文　外：平行沈線→擬縄文・ミガキ　内：平行沈線→ミガキ	②B１期	8-13
第8-33図 No.08072	08B-058	SX809	埋1	弥生 土器	鉢 体部	残存 3.2	-	-	-	外：平行沈線→擬縄文→ミガキ　内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-33図 No.08073	08B-059	SX809	埋1	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 6.6	-	-	-	口唇：LR縄文　口縁外：ヨコナデ→列点刺突文　体外：LR縄文 内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-33図 No.08074	08B-060	SX809	埋1	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 4.5	-	-	-	口唇：LR縄文　口縁外：ヨコナデ→列点刺突文　内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-33図 No.08075	08B-061	SX809	埋1	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 5.9	-	-	-	口縁外：ヨコナデ　体外：LR縄文　内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-33図 No.08076	08B-062	SX809	埋1	弥生 土器	甕 体部下半～底部	残存 8.7	-	(6.8)	-	外：LR縄文　内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-33図 No.08077	08B-063	SX809	埋1	弥生 土器	- 底部	残存 1.2	-	(8.7)	-	外：網代痕　内：(器面剥落)	①B4～②B1期	8-13
第8-33図 No.08078	08B-064	SX809	埋1	弥生 土器	蓋 上半部	残存 1.6	-	-	-	外：ミガキ　内：ミガキ、スス付着	②B１期	8-13
第8-33図 No.08079	08B-065	SX809	埋1	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 口縁部	残存 4.8	-	-	-	口唇：一部平坦　外：ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-34図 No.08080	08B-066	SX809	埋1	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 口縁部～体部上半	残存 12.3	(26.6)	-	-	口唇：平坦　外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-34図 No.08081	08B-067	SX809	埋1	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 口縁部	残存 5.5	-	-	-	口唇：平坦　外：積上痕→ナデ(大半は器面剥落)　内：ミガキ	②B１期	8-13
第8-34図 No.08082	08B-068	SX809	埋1	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 体部下半～底部	残存 2.4	-	(7.8)	-	体外：ハケメ　底外：ミガキ　内：(器面剥落)	②B１期	8-13
第8-34図 No.08083	08B-069	SX809	埋1	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 体部下半～底部	残存 2.7	-	(8.0)	-	体外：ナデ　底外：木葉痕　内：ミガキ(一部器面剥落)	②B１期	8-13
第8-34図 No.08084	08Ka-013	SX809	埋1	石器	剥片	1.3	0.9	0.6	0.3	石材：黒曜石	-	8-13
第8-34図 No.08085	08Ka-014	SX809	埋1	石器	剥片	1.2	1.7	0.3	0.3	石材：黒曜石	-	8-13

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第8-34図 No.08086	08C-009	SX809	埋2	非ロクロ土師器	甕 頸部	残存 3.4	頸部径 (17.0)	-	-	外：ハケメ(口～頸部)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(口)・ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)	CⅠ1x類	8-13
第8-34図 No.08087	08B-049	SX809	埋2	弥生 土器	甕 口縁部	残存 2.9	-	-	-	口唇：r縄文　口縁外：ミガキ→連続押引文　内：ミガキ	②B1期	8-13
第8-34図 No.08088	08B-050	SX809	埋2	弥生 土器	製塩土器(甕形) 口縁部	残存 2.9	-	-	-	口唇：ケズリ→ナデ　外：ケズリ→ナデ　内：ミガキ　No.08139と同一	②B1期	8-13
第8-34図 No.08089	08B-051	SX809	埋2	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 10.9	(19.9)	-	-	口縁外：ミガキ　体外：LR縄文　内：ミガキ	②B1期	8-13
第8-34図 No.08090	08B-052	SX809	埋2	弥生 土器	壺 体部下半～底部	残存 8.9	-	(6.6)	-	体外：LR縄文　底外：ケズリ　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-34図 No.08091	08B-053	SX809	埋2	弥生 土器	甕 体部下半～底部	残存 7.3	-	(9.0)	-	体外：擬縄文　底外：木葉痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-34図 No.08092	08B-054	SX809	埋2	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 口縁部	残存 3.0	-	-	-	外：(器面剥落)　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-34図 No.08093	08B-055	SX809	埋2	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 口縁部	残存 4.3	-	-	-	口唇：平坦　外：積上痕(半分器面剥落)→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-34図 No.08094	08Ka-010	SX809	埋2	石器	剥片	1.1	1.2	0.3	0.2	石材：黒曜石	-	8-14
第8-34図 No.08095	08Ka-011	SX809	埋2	石器	剥片	0.6	1.4	0.6	0.2	石材：黒曜石	-	8-14
第8-34図 No.08096	08Ka-012	SX809	埋2	石器	剥片	1.9	1.6	0.9	1.1	石材：玉髄	-	8-14
第8-34図 No.08097	08B-045	SX809	埋3	弥生 土器	壺 体部	残存 2.9	-	-	-	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B5期	8-14
第8-34図 No.08098	08B-046	SX809	埋3	弥生 土器	壺 体部	残存 1.7	-	-	-	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B5期	8-14
第8-34図 No.08099	08B-047	SX809	埋3	弥生 土器	壺 体部	残存 1.8	-	-	-	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B5期	8-14
第8-34図 No.08100	08B-048	SX809	埋3	弥生 土器	壺 体部	残存 1.1	-	-	-	外：同時施文平行沈線　内：ナデ	②B5期	8-14
第8-34図 No.08101	08B-017	SX809	埋3	弥生 土器	鉢 体部下半～底部	残存 0.8	-	-	-	外：沈線　底外：ミガキ　内：ミガキ	②A～B1期	8-14
第8-35図 No.08102	08B-005	SX809	埋3	弥生 土器	鉢 口縁部～体部上半	残存 2.7	-	-	-	外：単線山形文　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08103	08B-018	SX809	埋3	弥生 土器	鉢 口縁部～体部下半	残存 9.0	(17.0)	-	-	口縁外：複線波状文(3単位)＋副線　体外：LR縄文　口縁内：沈線　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08104	08B-019	SX809	埋3	弥生 土器	鉢 体部	残存 1.3	-	-	-	外：沈線→擬縄文　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08105	08B-020	SX809	埋3	弥生 土器	鉢 体部	残存 1.0	-	-	-	外：沈線→LR縄文　内：ミガキ	②B1～B3期	8-14
第8-35図 No.08106	08B-021	SX809	埋3	弥生 土器	鉢 体部	残存 1.6	-	-	-	外：沈線→LR縄文　内：ミガキ	②B1～B3期	8-14
第8-35図 No.08107	08B-022	SX809	埋3	弥生 土器	深鉢 体部	残存 6.9	-	-	-	外：LR縄文→幾何学２条沈線→沈線内ミガキ(磨消縄文)　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08108	08B-023	SX809	埋3	弥生 土器	壺 口縁部～体部下半	残存 19.0	(26.1)	-	-	口縁外：ミガキ　体外：LR縄文　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08109	08B-106	SX809	埋3	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 4.9	-	-	-	口縁外：ヨコナデ　体外：LR縄文　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08110	08B-024	SX809	埋3	弥生 土器	甕 口縁部～底部	16.0	15.4	7.7	-	口唇：LR縄文　口縁外：ヨコナデ→１条沈線　体外：LR縄文　底外：木葉痕　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08111	08B-025	SX809	埋3	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 5.3	-	-	-	口唇：LR縄文　口縁外：ミガキ→連続押引文　体外：LR縄文　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08112	08B-026	SX809	埋3	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 4.6	-	-	-	口唇：LR縄文　口縁外：ヨコナデ→列点刺突文　体外：LR縄文　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08113	08B-027	SX809	埋3	弥生 土器	甕 口縁部	残存 2.2	-	-	-	外：ヨコナデ　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-35図 No.08114	08B-028	SX809	埋3	弥生 土器	甕 口縁部	残存 2.5	-	-	-	外：ヨコナデ　内：ミガキ	②B1期	8-14
第8-36図 No.08115	08B-029	SX809	埋3	弥生 土器	－ 底部	残存 1.5	-	(5.2)	-	外：ミガキ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08116	08B-030	SX809	埋3	弥生 土器	蓋 下半部	残存 3.1	(10.9)	-	-	外：磨消変形工字文(擬縄文充填)　内：ミガキ、スス付着	②B1期	8-15
第8-36図 No.08117	08B-031	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部	残存 5.7	(20.8)	-	-	口唇：平坦　外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08118	08B-032	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～底部	22.4	21.4	7.2	-	口縁外：積上痕→ナデ　体外：ハケメ→ナデ　底外：ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08119	08B-033	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 9.0	(20.9)	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08120	08B-034	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 5.1	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08121	08B-035	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 5.5	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08122	08B-036	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 5.1	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08123	08B-037	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 3.0	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08124	08B-038	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 4.6	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08125	08B-039	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 7.9	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08126	08B-040	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 6.1	-	-	-	口唇：平坦面　外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15
第8-36図 No.08127	08B-041	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 口縁部～体部上半	残存 3.9	-	-	-	口唇：平坦面　外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B1期	8-15

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第8-36図 No.08128	08B-042	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 体部	残存 2.9	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ・圧痕	②B１期	8-15
第8-36図 No.08129	08B-043	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 体部上半～底部	残存 2.9	-	(8.1)	-	体外：ハケメ→ナデ　底外：ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-36図 No.08130	08B-044	SX809	埋3	弥生 土器	製塩土器 底部	残存 1.6	-	-	-	外：木葉痕　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-36図 No.08131	08A-001	SX809	埋3	縄文 土器	深鉢 体部上半～底部	残存 21.5	-	(9.5)	-	体外：LR縄文　底外：網代痕　内：ミガキ	①期	8-15
第8-36図 No.08132	08Ka-003	SX809	埋3	石器	石鏃	2.1	1.1	0.4	0.6	凹基式　石材：玉髄	-	8-15
第8-36図 No.08133	08Ka-016	SX809	埋3	石器	二次加工のある剥片	1.7	1.7	0.5	0.9	石材：玉髄	-	8-15
第8-37図 No.08134	08B-004	SX809	埋4	弥生 土器	鉢 口縁部～体部上半	残存 5.7	-	-	-	口唇：擬縄文　口縁外：複線波状文＋副線→擬縄文　体外：ミガキ　口縁内：沈線　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-37図 No.08135	08B-006	SX809	埋4	弥生 土器	壺 体部	残存 2.6	-	-	-	外：幾何学沈線→擬縄文　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-37図 No.08136	08B-007	SX809	埋4	弥生 土器	鉢 体部	残存 2.0	-	-	-	外：沈線→擬縄文　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-37図 No.08137	08B-008	SX809	埋4	弥生 土器	壺 体部	残存 2.0	-	-	-	外：沈線→擬縄文　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-37図 No.08138	08B-009	SX809	埋4	弥生 土器	壺 口縁部～体部上半	残存 6.4	(14.8)	-	-	口唇：一部刺突　口縁外：ヨコナデ　体外：LR縄文　内面：ミガキ	②B１期	8-15
第8-37図 No.08139	08B-010	SX809	埋4	弥生 土器	製塩土器(甕) 口縁部	残存 3.4	-	-	-	口唇：ケズリ→ナデ　外：ケズリ→ナデ　内：ミガキ　No.08088と同一	②B１期	8-15
第8-37図 No.08140	08B-011	SX809	埋4	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 口縁部	残存 2.4	(18.6)	-	-	口唇：平坦　外：ケズリ→ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-37図 No.08141	08B-012	SX809	埋4	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 口縁部	残存 2.5	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-15
第8-37図 No.08142	08B-013	SX809	埋4	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 口縁部	残存 2.9	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-16
第8-37図 No.08143	08B-014	SX809	埋4	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 口縁部	残存 3.5	-	-	-	外：積上痕(器面剥落)　内：ミガキ	②B１期	8-16
第8-37図 No.08144	08B-015	SX809	埋4	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 体部下半～底部	残存 2.4	-	(8.4)	-	体外：ナデ　底外：木葉痕　内：ミガキ	②B１期	8-16
第8-37図 No.08145	08B-016	SX809	埋4	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 体部下半～底部	残存 2.1	-	(7.9)	-	体外：ナデ　底外：木葉痕　内：ミガキ	②B１期	8-16
第8-37図 No.08146	08B-001	SX809	埋5	弥生 土器	鉢 口縁部	残存 3.3	(12.3)	-	-	口唇：平坦　外：LR縄文　内：ミガキ	②B１期	8-16
第8-37図 No.08147	08B-002	SX809	埋5	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 口縁部	残存 3.0	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-16
第8-37図 No.08148	08B-003	SX809	埋5	弥生 土器	製塩土器(深鉢) 口縁部	残存 2.6	-	-	-	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-16
第8-37図 No.08149	08C-136	SX810	埋2	非ロクロ 土師器	小型丸底鉢 口縁部～底部	5.3	(8.3)	-	-	外：ハケメ(口)→ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口～体)　内：ヘラナデ(体)・ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口)	CⅠ類	8-16
第8-37図 No.08150	08C-089	SX810	埋2	非ロクロ 土師器	有孔鉢 体部下半～底部	6.5	15.2	4.2	-	外：ハケメ(口)→ヘラミガキ(口～底)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(口)→ヘラミガキ(口～底)→ヨコナデ(口)	CⅡa類	8-16
第8-37図 No.08151	08C-143	SX810	埋2	非ロクロ 土師器	甕 体部下半～底部	残存 3.8	-	(4.0)	-	外：ヘラケズリ(体下)→ハケメ(体下)　外底：ヘラケズリ 内：ヘラナデ(体～底)	CⅠy類	8-16
第8-37図 No.08152	08C-147	SX810	埋2	非ロクロ 土師器	甕 体部下半～底部	残存 2.7	-	4.4	-	外：ヘラケズリ(体下)→ヘラナデ(体下)　外底：ヘラケズリ 内：ヘラナデ(体下～底)	CⅠy類	8-16
第8-37図 No.08153	08C-092	SX810	埋1	非ロクロ 土師器	ミニチュア土器	2.6	5.4	1.9	-	外：ハケメ(口～体)→ヘラミガキ(体)→ヨコナデ(口)　外底：ヘラミガキ　内：ヘラナデ(口～底)→ヨコナデ(口)	C類	8-16
第8-37図 No.08154	08C-090	SX810	埋2	非ロクロ 土師器	ミニチュア土器	5.5	(5.2)	-	-	外：ハケメ(体)→ヘラミガキ(体～底)→ヨコナデ(口)　内：ナデ(体)→ヨコナデ(口)・ユビオサエ(底)	C類	8-16
第8-37図 No.08155	08C-091	SX810	埋3	非ロクロ 土師器	ミニチュア土器	残存 3.6	3.85	-	-	外：ヘラミガキ(口～脚)→ヨコナデ(口)　内：ヘラナデ(口・脚)→ヨコナデ(口)	C類	8-16
第8-37図 No.08156	08P-004	SX810	埋2	土製品	管状土錘	3.7	2.7	0.8	30.9		中型品	8-16
第8-37図 No.08157	22E-001	SX813	埋1	須恵器	甕 口縁部	残存 4.9	-	-	-	外：ロクロナデ　内：ロクロナデ	-	8-16
第8-37図 No.08158	08C-139	SX817	埋1	非ロクロ 土師器	高杯 坏部下半～脚部	残存 6.8	-	-	-	外：ハケメ(脚)→ヘラナデ(坏下)→ヘラミガキ(脚)　内：ヘラケズリ(脚)・ヘラナデ(坏底)	CⅠa類	8-16
第8-37図 No.08159	08C-138	SX817	埋1	非ロクロ 土師器	甕 口縁部	残存 3.2	-	-	-	外：ハケメ(口)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(口)→ヨコナデ(口)	C類	8-16
第8-37図 No.08160	08C-083	SX824	埋1	非ロクロ 土師器	鉢 口縁部～体部上半	残存 3.7	(14.6)	-	-	外：ヘラミガキ(口～体)　内：ヘラナデ(体)→ヘラミガキ(口～体)	CⅡa類	8-16
第8-37図 No.08161	08C-126	SX824	埋1	非ロクロ 土師器	甕 体部下半～底部	残存 2.7	-	(3.4)	-	外：ヘラケズリ(体上)→ヘラナデ(体上)　外底：ナデ　内：ヘラナデ(体上～底)	CⅠy類	8-16
第8-37図 No.08162	08C-142	SX824	埋1	非ロクロ 土師器	甕 体部下半～底部	残存 3.7	-	(9.0)	-	外：ヘラケズリ(体下)→ヘラナデ(体下)　外底：ヘラケズリ 内：ヘラナデ(体下～底)	CⅠy類	8-16
第8-37図 No.08163	08C-141	SX824	埋4	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部上半	残存 6.4	(20.8)	-	-	外：ハケメ(口～体上)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(口)・ヘラナデ(体上)→ヨコナデ(口)	CⅠbⅠx類	8-16
第8-38図 No.08164	08C-101	SX831	埋2	非ロクロ 土師器	高坏 脚部	残存 7.1	-	-	-	外：ヘラミガキ(脚)　内：ヘラミガキ(坏底)	CⅠb類	8-16
第8-38図 No.08165	08C-102	SX831	埋1	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～頸部	残存 3.7	-	-	-	外：ハケメ(口～頸)→ヘラナデ(頸)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(口)・ヘラナデ(頸)→ヨコナデ(口)	C類	8-16
第8-38図 No.08166	08C-084	SX831	埋2	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～底部	17.2	(13.6)	(4.6)	-	外：ヘラケズリ(体下)→ハケメ(口～体上)→ヨコナデ(口)　外底：ヘラケズリ　内：ヘラナデ(体～底)→ヨコナデ(口)	CⅠbⅠx類	8-16
第8-38図 No.08167	08C-085	SX831	埋2	非ロクロ 土師器	甕 口縁部～底部	19.8	15.0	4.6	-	外：ヘラケズリ(体)→ヘラナデ(体)→ヨコナデ(口)　外底：ヘラケズリ　内：ヘラナデ(口～底)→ヨコナデ(口)	CⅠbⅠy類	8-16
第8-38図 No.08168	08A-002	Ⅰ層 0P-024(c)	-	縄文 土器	浅鉢 体部	残存 3.7	-	-	-	外：ミガキ　内：LR縄文→沈線文	①A１期	8-16

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第8-38図 No.08169	08A-004	Ⅰ層 0Q-022(a･d)・023(b･c)	-	縄文 土器	浅鉢 口縁部～体部上半	残存 10.7	-	-	-	波状口縁　口唇：沈線　口縁外：無文　体上端外：平行沈線 体外：LR縄文　口縁内：沈線　内：ミガキ	①B4期	8-16
第8-38図 No.08170	08A-003	Ⅰ層 0P - 023(b)	-	縄文 土器	浅鉢 口縁部	残存 5.4	-	-	-	波状口縁　口唇：沈線　口縁外：無文　体上端外：長方形 内：沈線→ミガキ	①B4期	8-16
第8-38図 No.08171	08A-005	Ⅰ層 0Q-022(a･d)・023(b･c)	-	縄文 土器	浅鉢 口縁部	残存 3.5	-	-	-	波状口縁　口唇：沈線　口縁外：無文　体上端外：平行沈線 内：沈線文→ミガキ	①B4期	8-16
第8-38図 No.08172	08A-006	Ⅰ層 0R-023(d)・024(b･c)・025(b)	-	縄文 土器	浅鉢 口縁部	残存 2.9	-	-	-	外：匹字文　内：沈線→ミガキ	①B4期	8-16
第8-38図 No.08173	08A-007	Ⅰ層 0P - 022(d)	-	縄文 土器	深鉢　口縁下部～体部上半	残存 6.8	-	-	-	口縁外：沈線文　体外：ＬＲ縄文　内：ミガキ	①B4期	8-16
第8-38図 No.08174	08A-008	Ⅰ層 0P-024	-	縄文 土器	浅鉢 口縁部	残存 1.8	-	-	-	外：工字文　内：沈線→ミガキ	①B4期	8-16
第8-38図 No.08175	08A-009	Ⅰ層 0Q-022	-	縄文 土器	浅鉢 体部上半	残存 1.4	-	-	-	外：沈線　内：ミガキ	①B4期	8-16
第8-38図 No.08176	08A-010	Ⅰ層 0Q-022(a･d)・023(b･c)	-	縄文 土器	深鉢 口縁部～体部上半	残存 7.3	-	-	-	波状口縁　口唇：ケズリ→ミガキ　口縁外：ミガキ　体外：ＬＲ縄文　内：ナデ→ミガキ	①B4～B5期	8-16
第8-38図 No.08177	08A-011	Ⅰ層 0O - 022	-	縄文 土器	深鉢 口縁部～体部上半	残存 3.8	-	-	-	口外：ミガキ　体外：ＬＲ縄文　内：ミガキ	①B4～B5期	8-16
第8-38図 No.08178	08A-012	Ⅰ層 0Q - 023(a･d)	-	縄文 土器	深鉢 口縁部～体部上半	残存 3.5	-	-	-	口外：ミガキ　体外：ＬＲ縄文　内：ミガキ	①B4～B5期	8-16
第8-38図 No.08179	08A-013	Ⅰ層 0Q - 023(a･d)	-	縄文 土器	深鉢 口縁部	残存 2.8	-	-	-	波状口縁　外：ミガキ　内：ミガキ	①B4～B5期	8-16
第8-38図 No.08180	08A-014	Ⅰ層 0Q - 025(b)	-	縄文 土器	浅鉢 体部	残存 2.4	-	-	-	外：沈線　内：ミガキ	①B4～B5期	8-16
第8-39図 No.08181	08B-077	Ⅰ層 0Q-022(a･d)・023(b･c)	-	弥生 土器	浅鉢 口縁部～体部	残存 4.1	-	-	-	口唇：沈線　外：変形工字文　口縁内：沈線　内：ミガキ	②A期	8-16
第8-39図 No.08182	08B-078	Ⅰ層 0P - 023(b)	-	弥生 土器	高坏 脚部	残存 2.7	-	-	-	外：平行沈線→ミガキ　内：ミガキ	②A期	8-16
第8-39図 No.08183	08B-079	Ⅰ層 0O - 022(a)	-	弥生 土器	鉢 口縁部	残存 1.3	-	-	-	外：平行沈線　内：ミガキ	②A～②B1期	8-16
第8-39図 No.08184	08B-080	Ⅰ層 0Q-024(b)・0R-024(a･c･d)・025(b･c)	-	弥生 土器	高坏 体部	残存 2.6	-	-	-	外：沈線→ミガキ　内：ミガキ	②A～②B1期	8-16
第8-39図 No.08185	08B-081	Ⅰ層 0Q-022(a･d)・023(b･c)	-	弥生 土器	鉢 口縁部	残存 2.0	-	-	-	外：平行沈線　内：ミガキ	②A～②B1期	8-17
第8-39図 No.08186	08B-082	Ⅰ層 0P - 022d	-	弥生 土器	鉢 口縁部	残存 1.3	-	-	-	外：平行沈線　内：ミガキ	②A～②B1期	8-17
第8-39図 No.08187	08B-083	Ⅰ層 0O - 022(d)	-	弥生 土器	鉢 体部	残存 2.8	-	-	-	外：平行沈線　内：ミガキ	②A～②B1期	8-17
第8-39図 No.08188	08B-084	Ⅰ層 0O - 022(a)	-	弥生 土器	壺 口縁部～体部上半	残存 4.4	(12.8)	-	-	外：ミガキ　内：ミガキ	②A～②B1期	8-17
第8-39図 No.08189	08B-085	Ⅰ層 Grid不明	-	弥生 土器	浅鉢 口縁部～体部	残存 4.7	-	-	-	口唇：擬縄文　外：流水上字文→擬縄文充填　口縁内：沈線２条　内：ミガキ	②B1期	8-17
第8-39図 No.08190	08B-086	Ⅰ層 0Q-024(b)・0R-024(a･c･d)・025(b･c)	-	弥生 土器	浅鉢 口縁部	残存 2.1	-	-	-	口唇：擬縄文　外：沈線→擬縄文　内：沈線２条	②B1期	8-17
第8-39図 No.08191	08B-087	Ⅰ層 0Q-022(a･d)・023(b･c)	-	弥生 土器	浅鉢 口縁部～体部上半	残存 2.6	-	-	-	外：変形工字文　内：ミガキ	②B1期	8-17
第8-39図 No.08192	08B-088	Ⅰ層 0Q-023(a･d)	-	弥生 土器	壺 体部	残存 1.7	-	-	-	外：沈線→擬縄文　内：ミガキ	②B1期	8-17
第8-39図 No.08193	08B-089	Ⅰ層 0Q - 024(d)	-	弥生 土器	鉢 口縁部	残存 2.0	-	-	-	外：平行沈線　内：沈線→ミガキ	②B1期	8-17
第8-39図 No.08194	08B-090	Ⅰ層 0R - 025(b)	-	弥生 土器	浅鉢 口縁部～体部上半	残存 2.5	-	-	-	外：沈線　口縁内：沈線　内：ミガキ	②B1期	8-17
第8-39図 No.08195	08B-091	Ⅰ層 0Q-024(b)・0R-024(a･c･d)・025(b･c)	-	弥生 土器	鉢 体部	残存 2.4	-	-	-	外：平行沈線　内：ナデ	②B2～B4期	8-17
第8-39図 No.08196	08B-092	Ⅰ層 Grid不明	-	弥生 土器	鉢 体部	残存 2.1	-	-	-	外：平行沈線　内：ナデ	②B2～B4期	8-17
第8-39図 No.08197	08B-093	Ⅰ層 0R - 025(b)	-	弥生 土器	鉢 体部	残存 1.7	-	-	-	外：沈線→擬縄文　内：ミガキ	②B2～B3期	8-17
第8-39図 No.08198	08B-094	Ⅰ層 0P - 022(d)	-	弥生 土器	壺 体部	残存 2.1	-	-	-	外：平行沈線　内：ミガキ	②B2～B3期	8-17
第8-39図 No.08199	08B-095	Ⅰ層 0O-022(a～d)	-	弥生 土器	鉢 口縁部	残存 2.4	-	-	-	口唇：ＬＲ縄文　口縁外：方形文　内：ミガキ	②B3期	8-17
第8-39図 No.08200	08B-096	Ⅰ層 0R-025 (a･d)	-	弥生 土器	鉢 口縁部	残存 2.0	-	-	-	外：平行沈線　内：ミガキ	②B4期	8-17
第8-39図 No.08201	08B-097	Ⅰ層 0O - 022(c)	-	弥生 土器	鉢 体部上半	残存 4.4	-	-	-	外：重方形文　内：ミガキ	②B4期	8-17
第8-39図 No.08202	08B-098	Ⅰ層 0Q - 024(d)	-	弥生 土器	壺 頸部	残存 1.2	-	-	-	外：突帯２条→ナデ　内：ナデ	②B5期	8-17
第8-39図 No.08203	08B-100	Ⅰ層 0Q - 024(d)	-	弥生 土器	壺 体部	残存 1.8	-	-	-	外：２条同時施文重弧文　内：ナデ	②B5期	8-17

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第8-39図 No.08204	08B-101	Ⅰ層 OQ－024(d)	－	弥生 土器	壺 体部	残存 1.8	－	－	－	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B５期	8-17
第8-39図 No.08205	08B-102	Ⅰ層 OQ－024(d)	－	弥生 土器	壺 体部	残存 3.5	－	－	－	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B５期	8-17
第8-39図 No.08206	08B-103	Ⅰ層 OQ-024(b)・OR-024(a･c･d)・025(b･c)	－	弥生 土器	壺 体部	残存 1.7	－	－	－	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B５期	8-17
第8-39図 No.08207	08B-099	Ⅰ層 OQ－024d	－	弥生 土器	壺 体部	残存 3.2	－	－	－	外：２条同時施文同心円文　内：ナデ	②B５期	8-17
第8-40図 No.08208	08B-104	Ⅰ層 OP-023	－	弥生 土器	壺 体部	残存 7.9	－	－	－	外：同時施文斜行文　内：ナデ	②B５期	8-17
第8-40図 No.08209	08B-105	Ⅰ層 OP-023	－	弥生 土器	壺 体部	残存 3.0	－	－	－	外：同時施文斜行文　内：ナデ	②B５期	8-17
第8-40図 No.08210	08B-107	Ⅰ層 OQ-024(d)	－	弥生 土器	深鉢　口縁下部～体部上半	残存 3.0	－	－	－	口縁外：平行沈線　体外：ＬＲ縄文　内：ミガキ	②B１～B３期	8-17
第8-40図 No.08211	08B-108	Ⅰ層　OP－022(d)・OO-022(a)	－	弥生 土器	深鉢　口縁下部～体部上半	残存 3.5	－	－	－	口縁外：平行沈線　体外：ＬＲ縄文　内：ミガキ	②B１～B３期	8-17
第8-40図 No.08212	08B-109	Ⅰ層 Grid不明	－	弥生 土器	甕 口縁部	残存 2.5	－	－	－	口唇：ＬＲ縄文　口縁外：(器面剥落)→列点刺突文　内：ミガキ	②B１～B３期	8-17
第8-40図 No.08213	08B-110	Ⅰ層 Grid不明	－	弥生 土器	甕 口縁部	残存 2.4	－	－	－	口唇：縄文　口縁外：ヨコナデ→平行沈線　内：ミガキ	②B１～B３期	8-17
第8-40図 No.08214	08B-111	Ⅰ層 OM-021(b)・ON-021(c)	－	弥生 土器	甕 口縁部	残存 2.8	－	－	－	口唇：ＬＲ縄文　口縁外：ヨコナデ　内：ナデ	②B１～B５期	8-17
第8-40図 No.08215	08B-112	Ⅰ層 OQ-023(a･d)	－	弥生 土器	甕 体部上半～端部	残存 9.0	(28.6)	－	－	外：ＬＲ縄文　内：ミガキ、スス付着	②B１～B５期	8-17
第8-40図 No.08216	08B-113	Ⅰ層 OO-022	－	弥生 土器	－ 口縁部	残存 1.5	－	－	－	外：沈線・刺突　内：ミガキ	②Ｃ１～C3期	8-17
第8-40図 No.08217	08B-114	Ⅰ層 OO-022(b)	－	弥生 土器	深鉢 口縁部～体部上半	残存 3.9		－	－	口唇：平坦面　口縁外：隆帯＋下方からの間隔をあけた押圧 体外：ＬＲ縄文　内：ナデ	②Ｃ１期	8-17
第8-40図 No.08218	08B-115	Ⅰ層 OO-021(a･d) OP-021(c･d)	－	弥生 土器	深鉢 体部	残存 6.0	－	－	－	外：ＲＬ縄文→眼鏡状文・刺突　内：ナデ	②Ｃ２期	8-17
第8-40図 No.08219	08B-116	Ⅰ層 Grid不明	－	弥生 土器	深鉢 体部	残存 6.0	－	－	－	外：ＲＬ縄文・貼瘤→眼鏡状文・刺突→磨消　内：ナデ	②Ｃ２期	8-17
第8-40図 No.08220	08B-117	Ⅰ層 OL－019(d)	－	弥生 土器	深鉢 体部	残存 2.8	－	－	－	外：沈線・ＲＬ縄文　内：ナデ	②C１～C２期	8-17
第8-40図 No.08221	08B-118	Ⅰ層 ON－020(d)	－	弥生 土器	深鉢 口縁部	残存 2.6	－	－	－	口唇：平坦　口縁外：ＲＬ縄文→押圧　内：ナデ	②Ｃ３期	8-17
第8-40図 No.08222	08B-119	Ⅰ層 OQ－024(a)	－	弥生 土器	甕 口縁部～体部上半	残存 9.3	(18.3)	－	－	口唇：平坦面・撚糸文Ｒ　口縁外：ヨコナデ　体外：撚糸文Ｒ 内：ナデ	②C5期	8-17
第8-40図 No.08223	08B-120	Ⅰ層 OQ-022(a･d)・023(b･c)	－	弥生 土器	甕 体部下半～底部	残存 5.3	－	(11.9)	－	体外：ＬＲ縄文　底外：網代痕→ミガキ　内：ミガキ	②Ａ～B期	8-17
第8-41図 No.08224	08B-121	Ⅰ層 Grid不明	－	弥生 土器	甕 体部下半～底部	残存 6.4	－	－	－	体外：ＬＲ縄文　底外：木葉痕　内：ミガキ	②Ａ～B期	8-17
第8-41図 No.08225	08B-122	Ⅰ層 OM－020(a)	－	弥生 土器	甕 体部下半～底部	残存 3.0	－	(8.4)	－	体外：ＬＲ縄文　底外：木葉痕　内：ミガキ	②Ｃ期	8-17
第8-41図 No.08226	08B-123	Ⅰ層 OO－022(a)	－	弥生 土器	甕 体部下半～底部	残存 4.1	－	－	－	体外：ＲＬ縄文　内：ナデ	②Ｃ期	8-17
第8-41図 No.08227	08B-125	Ⅰ層 OQ-024(b)・OR-024(a･c･d)・025(b･c)	－	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 口縁部～体部上半	残存 5.3	－	－	－	外：積上痕→ナデ　内：ミガキ	②BⅠ期	8-17
第8-41図 No.08228	08B-124	Ⅰ層 OQ-022(a･d)・023(b･c)	－	弥生 土器	－ 体下部～底部	残存 1.8	－	(7.0)	－	体外：ナデ　底外：網代痕　内：(器面剥落)	②Ｃ期	8-17
第8-41図 No.08229	08B-126	Ⅰ層 Grid不明	－	弥生 土器	製塩土器(深鉢形) 口縁部	残存 3.2	－	－	－	外：積上痕・ナデ　内：ミガキ	②B１期	8-17
第8-41図 No.08230	08B-127	Ⅰ層 OQ-024(b)・OR-024(a･c･d)・025(b･c)	－	弥生 土器	製塩土器 体部下半～底部	残存 1.5	－	(8.2)	－	体外：ナデ　底外：木葉痕　内：ミガキ	②B１期	8-17
第8-41図 No.08231	08B-128	Ⅰ層 OQ-024(b)・OR-024(a･c･d)・025(b･c)	－	弥生 土器	製塩土器 体部下半～底部	残存 1.4	－	(7.6)	－	体外：ナデ　底外：木葉痕　内：ミガキ	②B１期	8-17
第8-41図 No.08232	08B-129	Ⅰ層 Grid不明	－	弥生 土器	製塩土器 体部下半～底部	残存 1.0	－	(9.0)	－	体外：ナデ　底外：木葉痕　内：ミガキ	②B１期	8-17
第8-41図 No.08233	08C-148	Ⅰ層 Grid不明	－	非ロクロ 土師器	小型丸底鉢 口縁部～底部	4.8	(9.2)	2.4	－	外：ヘラケズリ(体下)→ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口～体) 外底：ヘラケズリ→ヘラミガキ　内：ヨコナデ(口)→ヘラミガキ(口～底)	CⅡ類	8-18
第8-41図 No.08234	08C-041	Ⅰ層 OQ-023(d)	－	非ロクロ 土師器	壺 頸部	残存 5.1	－	－	－	外：ハケメ(頸)→ヘラミガキ(頸)→ハケメ状のキザミメ(頸) 内：不明	CⅠa類	8-18
第8-41図 No.08235	08C-149	Ⅰ層 OQ-025(c)	－	非ロクロ 土師器	甕 口縁～体部上半	残存 7.3	(17.6)	－	－	外：ハケメ(口～体)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(口)→ヘラナデ(体)・ヨコナデ(口)	CⅠｂ１ｘ類	8-18
第8-41図 No.08236	08C-175	Ⅰ層 OQ-025(c)	－	非ロクロ 土師器	甕 口辺部～体部上半	残存 5.0	－	－	－	外：ハケメ(体)→ヨコナデ(口)　内：ハケメ(体)→ヨコナデ(口)	CⅠ１ｘ類	8-18
第8-41図 No.08237	08C-161	Ⅰ層 OQ-025(b)	－	非ロクロ 土師器	ミニチュア土器	2.3	2.9	－	－	外：ナデ(口～底)　内：ナデ(口～体)	C類	8-18
第8-41図 No.08238	08D-002	Ⅰ層 OK-010(c)	－	ロクロ 土師器	甕 口縁部～体部上半	残存 3.7	(23.7)	－	－	外：ロクロナデ　内：ロクロナデ	DⅢe類	8-18

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

図番号 遺物番号	登録番号	遺構名 ・基本層	層位	種別	器種・名称・部位	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	特徴・備考	分類 ・時期	写真 図版
第8-41図 №08239	08G-006	Ⅰ層 Grid不明	－	土師質 土器	灯明皿	1.0	(4.0)	(2.4)	－	外：ロクロナデ→回転糸切り(底)→ナデ(底)　内：ロクロナデ	－	8-18
第8-41図 №08240	08G-007	Ⅰ層 Grid不明	－	土師質 土器	灯明皿	1.3	(5.2)	(2.8)	－	外：ロクロナデ→回転糸切り(底)→ナデ(底)　内：ロクロナデ	－	8-18
第8-41図 №08241	08G-008	Ⅰ層 OM-020(d)	－	土師質 土器	灯明皿	1.4	(4.6)	(3.2)	－	外：ロクロナデ→回転糸切り(底)→ナデ(底)　内：ロクロナデ	－	8-18
第8-41図 №08242	08I-011	Ⅰ層 Grid不明	－	陶器	中碗	8.0	(11.4)	4.9	－	ロクロ　削り高台　外：－　内：－ 肥前　17c.中～後	－	8-18
第8-41図 №08243	08I-012	Ⅰ層 Grid不明	－	陶器	大碗	5.6	(12.4)	4.0	－	ロクロ　削り高台　外：－　内：－ 大堀相馬　18c.後	－	8-18
第8-42図 №08244	08J-005	Ⅰ層 Grid不明	－	磁器	小皿	3.8	(13.4)	8.0	－	ロクロ　削り高台　見込：五弁花(コンニャク印判)　外：唐草文　内：竹に雪輪文　肥前（波佐見）　17c.末～18c.前	－	8-18
第8-42図 №08245	08J-006	Ⅰ層 Grid不明	－	磁器	五寸皿	4.6	13.8	7.6	－	ロクロ　削り高台　見込：五弁花(コンニャク印判)　外：唐草文　内：窓絵竹と宝文　肥前（波佐見）　17c.末～18c.前	－	8-18
第8-42図 №08246	08J-007	Ⅰ層 Grid不明	－	磁器	大皿	5.7	(33.5)	(20.0)	－	ロクロ　削り高台　外：唐草文　内：松竹梅文　底：圏線一条 肥前　17c.中～後	－	8-18
第8-42図 №08247	08I-013	Ⅰ層 Grid不明	－	陶器	中壺	残存 5.0	欠損	欠損	－	ロクロ　外：－　内：－ 岸窯系　17c.～18c.	－	8-18
第8-42図 №08248	08I-014	Ⅰ層 Grid不明	－	陶器	播鉢	残存 4.6	(31.6)	欠損	－	ロクロ　外：－　内：櫛目 堤？　18c.	－	8-18
第8-42図 №08249	08I-015	Ⅰ層 Grid不明	－	土器	火鉢	残存 6.8	(41.1)	欠損	－	ロクロ　口唇部ミガキ　貼付　外：－　内：－ 在地　18c.～19c.	－	8-18
第8-42図 №08250	08I-016	Ⅰ層 Grid不明	－	土器	涼炉	7.3	欠損	(16.0)	－	ロクロ　ベタ底　ヘラケズリ　足貼付（1）　外：櫛目文 内：－　在地　19c.	－	8-18
第8-43図 №08251	08P-002	Ⅰ層 OP-024(c)	－	土製品	管状土錘	5.3	径 3.8	孔径 1.2	残存 82.5		中型品	8-18
第8-43図 №08252	08P-005	Ⅰ層 OP-024(a)	－	土製品	管状土錘	残存 3.6	径 (2.5)	孔径 －	残存 20.1		－	8-18
第8-43図 №08253	08P-003	Ⅰ層 OQ-024(d)	－	土製品	球状土錘	3.3	3.4	孔径 1.2	34.7		大型品	8-18
第8-43図 №08254	08Ka-005	Ⅰ層 OQ-025(b)	－	石器	石鏃	2.7	1.4	0.4	1.2	尖基式 石材：流紋岩	－	8-19
第8-43図 №08255	08Ka-004	Ⅰ層 OQ-024(d)	－	石器	石鏃	2.7	1.1	0.5	1.1	アメリカ式　石材：鉄石英	－	8-19
第8-43図 №08256	08Ka-007	Ⅰ層 OQ-024(d)	－	石器	微細剥離痕のある剥片	4.2	3.1	1.1	12.1	石材：流紋岩	－	8-19
第8-43図 №08257	08Ka-020	Ⅰ層 OQ-024(d)	－	石器	二次加工のある剥片	3.8	3.9	1.1	11.4	石材：流紋岩	－	8-19
第8-43図 №08258	08Ka-001	Ⅰ層 OL-019(b)	－	石器	ラウンド・スクレイパー	2.9	2.5	1.4	9.3	石材：黒曜石	－	8-19
第8-43図 №08259	08N-001	Ⅰ層 OK-019(c)	－	金属 製品	寛永通寶	銭径 2.4	内径 2.0	厚さ 0.1	2.6		－	8-19
第8-43図 №08260	08N-002	Ⅰ層 OK-019(c)	－	金属 製品	寛永通寶	銭径 2.5	内径 2.0	厚さ 0.1	3.1		－	8-19
第8-43図 №08261	08N-003	Ⅰ層 OK-019(c)	－	金属 製品	皇宋通寶	銭径 2.4	内径 1.8	厚さ 0.1	3.1		－	8-19
第8-43図 №08262	08N-004	Ⅰ層 OK-018(b)	－	金属 製品	寛永通寶	銭径 2.2	内径 2.0	厚さ 0.1	2.2		－	8-19
第8-43図 №08263	08N-005	Ⅰ層 ON-020(c)	－	金属 製品	寛永通寶	銭径 2.2	内径 1.9	厚さ 0.1	1.7		－	8-19
第8-43図 №08264	08N-006	Ⅰ層 Grid不明	－	金属 製品	■■通寶	銭径 －	内径 －	厚さ 0.1	1.2		－	8-19

単位：ｃｍ・ｇ　復元値：（　）

1．Ⅱ層上面遺構北部確認状況（南→）

2．Ⅱ層上面遺構北部確認状況（南東→）

3．Ⅱ層上面遺構中央部確認状況（南西→）

4．Ⅱ層上面遺構南部確認状況（南西→）

5．Ⅲ層上面遺構中央部完掘状況（北→）

第８次調査　写真図版－１

1．Ⅱ層上面遺構北部完掘状況（南→）

2．Ⅱ層上面遺構北西部完掘状況（南西→）

3．SI806確認状況（南→）

4．SI806Aベルト土層断面（東→）

5．SI806Bベルト土層断面（南→）

6．SI806遺物出土状況（南→）

7．SI806遺物出土状況（南→）

8．SI806底面検出状況（東→）

第８次調査　写真図版－２

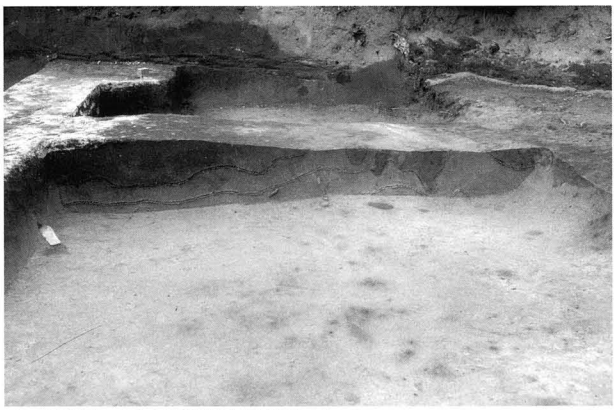
1．SI807確認状況（南→）

2．SI807Aベルト南半部土層断面（南→）

3．SI807Aベルト北半部土層断面（東→）

4．SI807Aベルトカマド土層断面（東→）

5．SI807Bベルト東半部土層断面（北→）


6．SI807Bベルト西半部土層断面（北→）

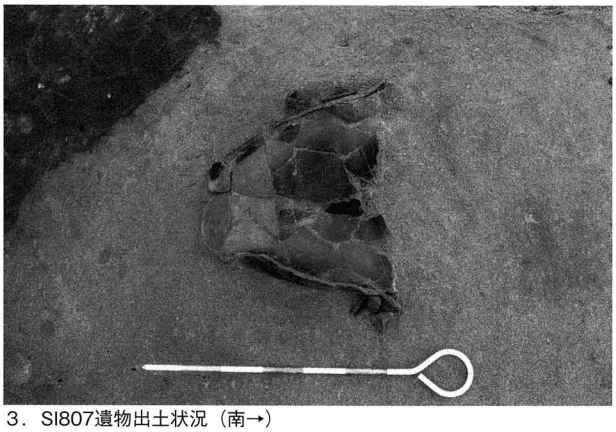
7．SI807Aベルトカマド土層断面（東→）

8．SI807Cベルトカマド土層断面（南→）

第８次調査　写真図版－３

1．SI807床面検出状況（南→）

2．SI807遺物出土状況（南→）


3．SI807遺物出土状況（南→）

4．SI807Cベルトカマド掘り方土層断面（南→）

5．SI808北部確認状況（東→）

6．SI808Aベルト土層断面（東→）

7．SI808北部完掘状況（東→）

8．SI809確認状況（北→）

第８次調査　写真図版－４

1．SI809Aベルト土層断面（南→）

2．SI809Bベルト土層断面（東→）

3．SI809Cベルト土層断面（西→）

4．SI809遺物出土状況（東→）

5．SI809底面施設確認状況（西→）

6．SI809底面施設完掘状況（東→）

7．SI810確認状況（南→）

8．SI810Bベルト土層断面（東→）

第８次調査　写真図版－５

1．SI810Cベルト土層断面（南→）

2．SI810遺物出土状況（南→）

3．SI810遺物出土状況（東→）

4．SI810完掘状況（南→）

5．SD801確認状況（南西→）

6．SD801土層断面（西→）

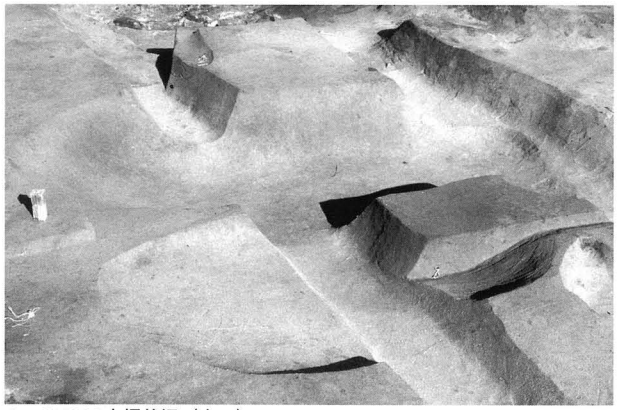
7．SD806Bベルト土層断面（北→）

8．SD816Aベルト土層断面（北→）

第８次調査　写真図版－６

1．SD404北西部完掘状況（南東→）

2．SK802Bベルト土層断面（東→）


3．SK802完掘状況（南→）

4．SK805土層断面（南→）

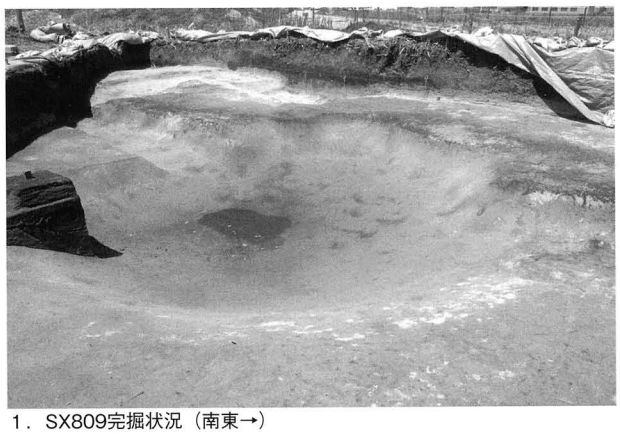
5．SK805完掘状況（南→）

6．SK809土層断面（南→）

7．SK809完掘状況（南→）

8．SX809Aベルト土層断面（東→）

第８次調査　写真図版－７


1．SX809完掘状況（南東→）

2．SX810確認状況（南→）

3．SX810Bベルト土層断面（北→）

4．SX810遺物出土状況（北→）

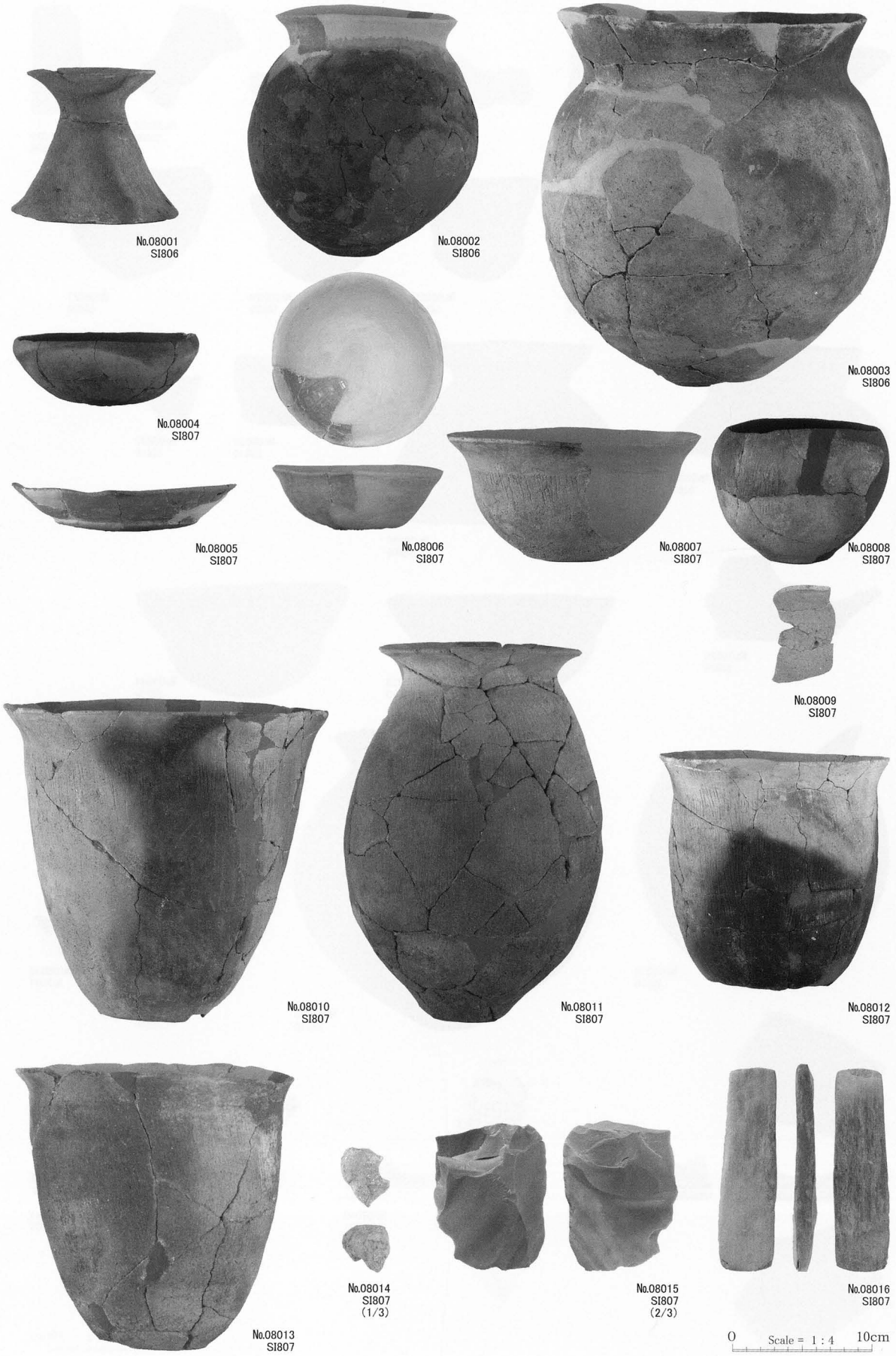
5．SX810完掘状況（西→）

6．SX815完掘状況（南→）

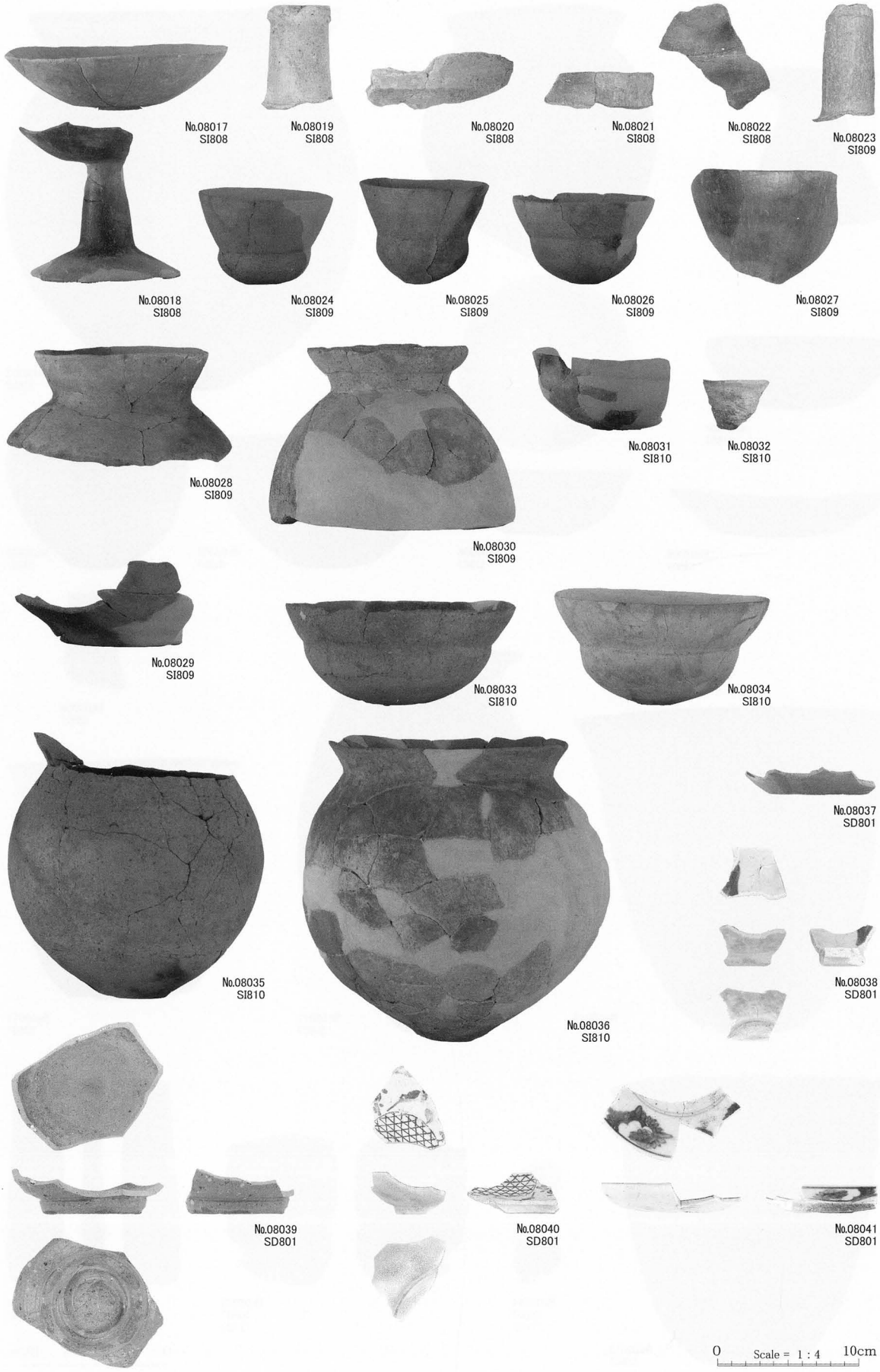
7．小溝状遺構群８次Ｂ群⑤⑥土層断面（北→）

8．小溝状遺構群８次Ａ群・Ｂ群完掘状況（南西→）

第８次調査　写真図版－８

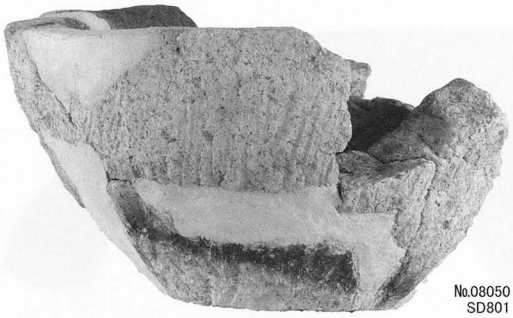

No.08001
SI806
No.08002
SI806
No.08003
SI806
No.08004
SI807
No.08005
SI807
No.08006
SI807
No.08007
SI807
No.08008
SI807
No.08009
SI807
No.08010
SI807
No.08011
SI807
No.08012
SI807
No.08013
SI807
No.08014
SI807
(1/3)
No.08015
SI807
(2/3)
No.08016
SI807
0
Scale = 1 : 4
10cm

第８次調査　写真図版－９



第８次調査　写真図版－10

第８次調査　写真図版－11



No.08050
SD801

No.08051
SD801

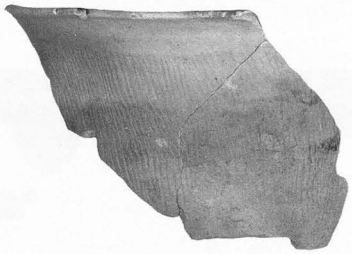
No.08052
SD801

No.08053
SD801

No.08054
SD801
(1/6)

No.08055
SD813

No.08058
SD404
(1/1)



No.08056
SD404

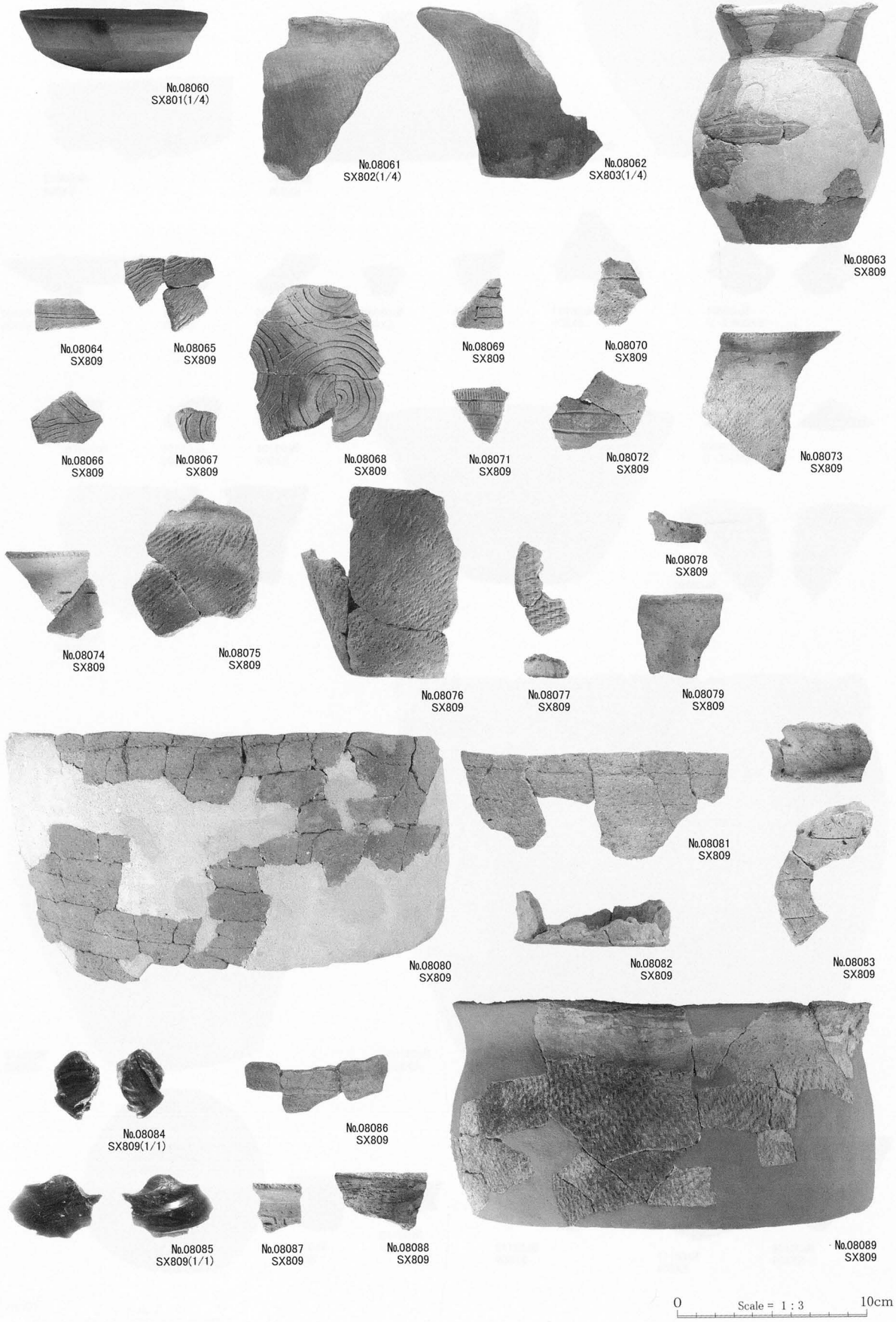
No.08057
SD404

No.08059
SK802

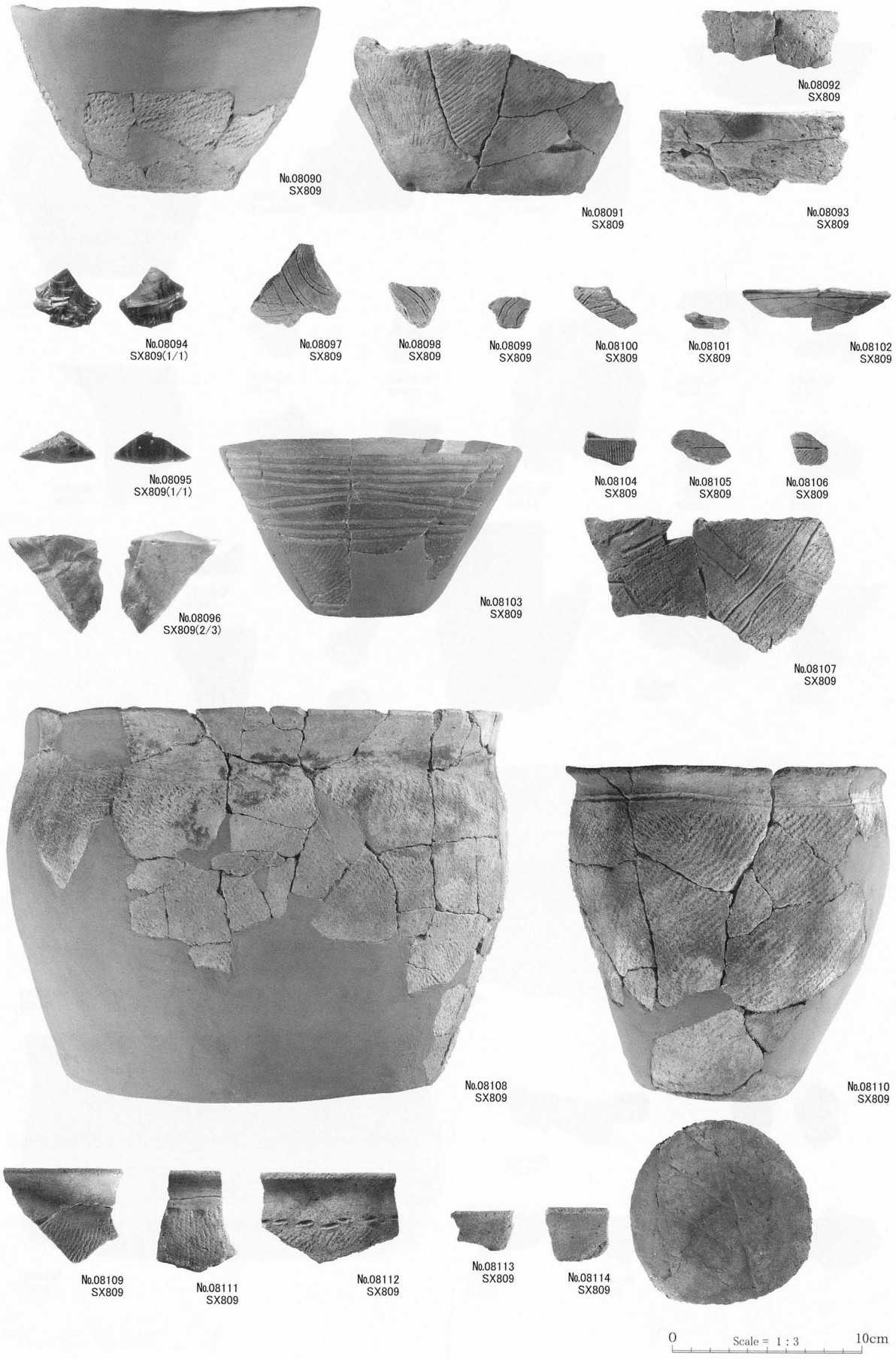
0　Scale = 1 : 4　10cm

0　Scale = 1 : 6　20cm

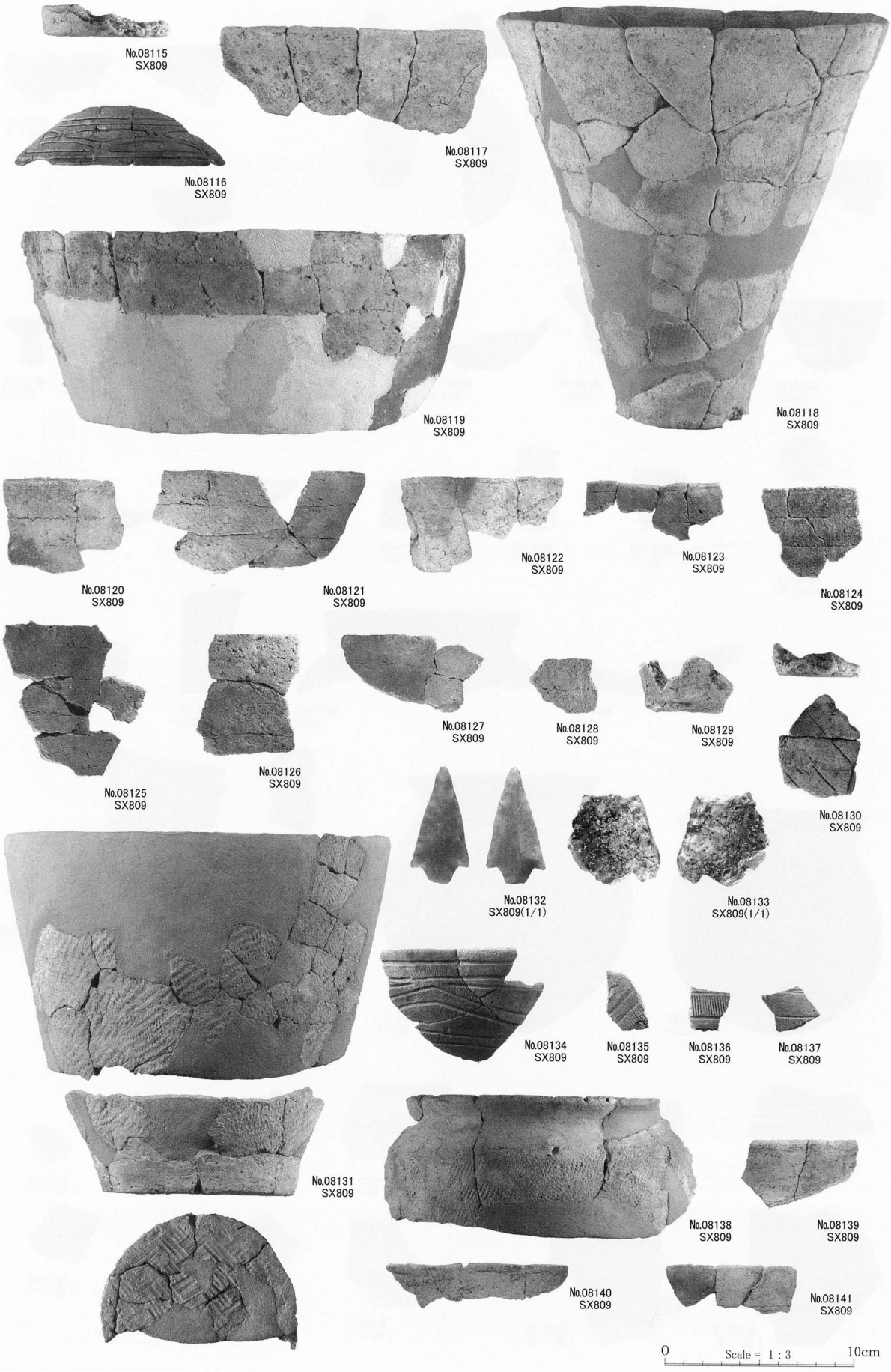
第８次調査　写真図版－12



第８次調査　写真図版－13

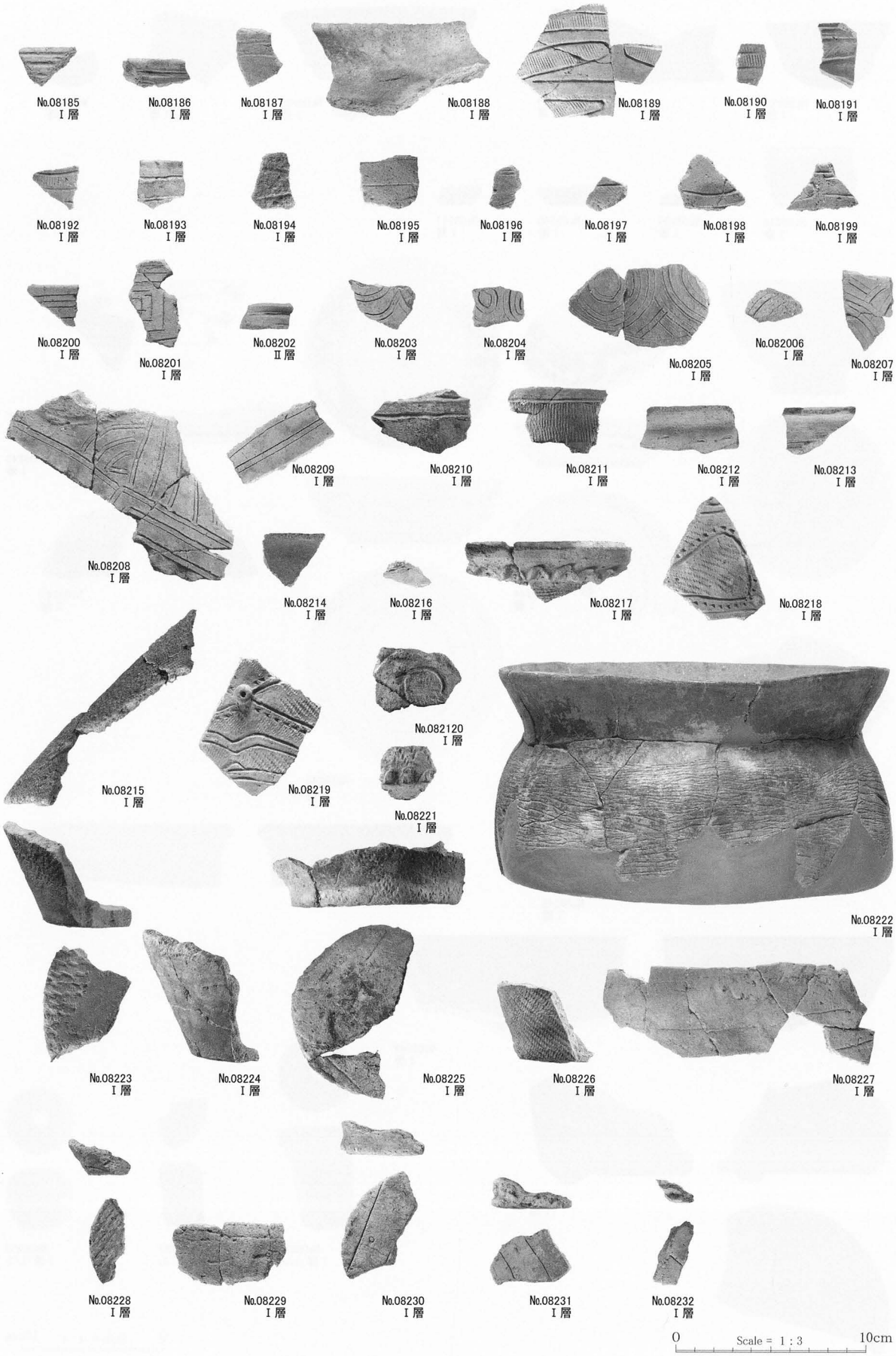


第８次調査　写真図版－14

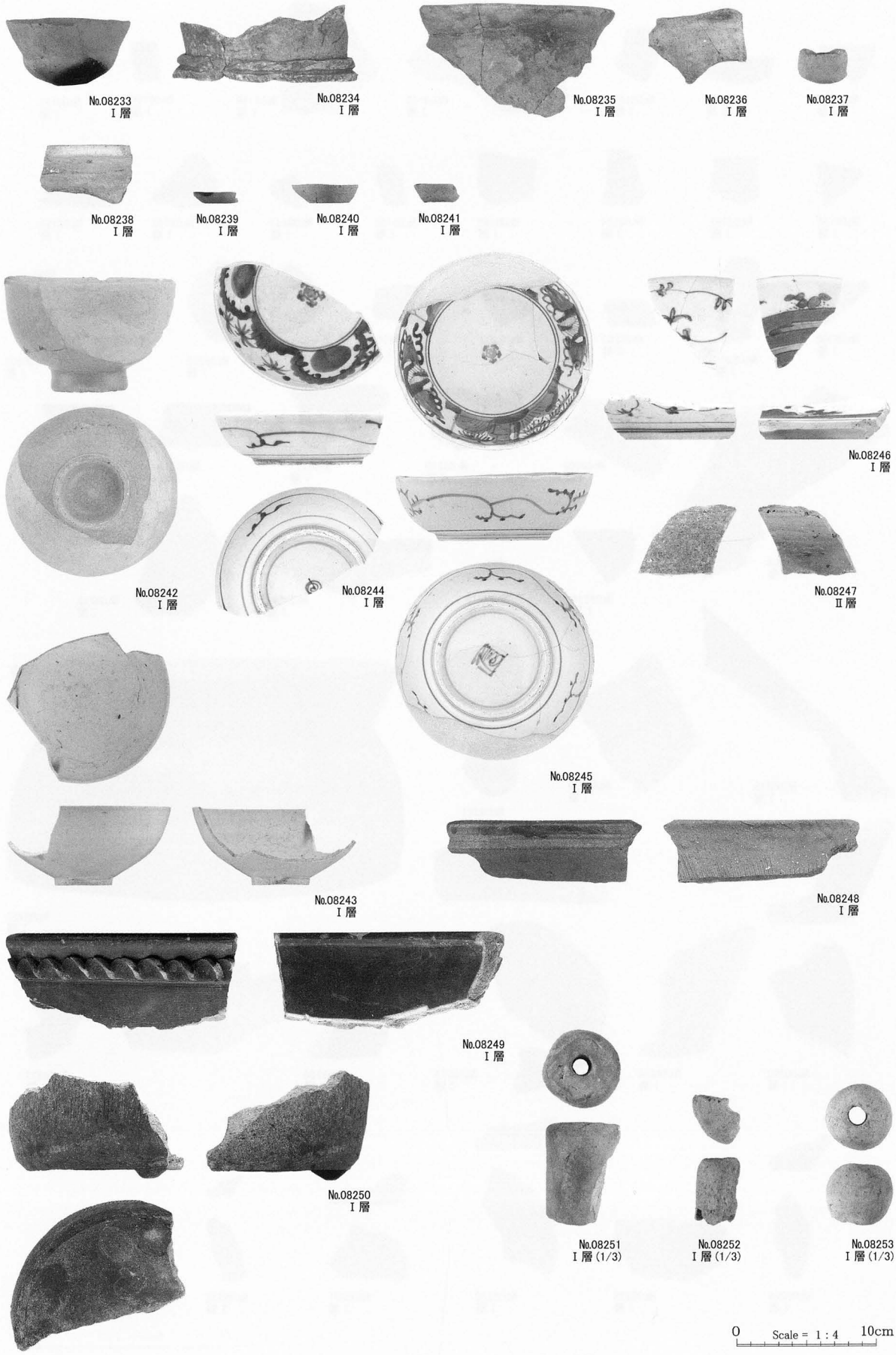


第８次調査　写真図版－15

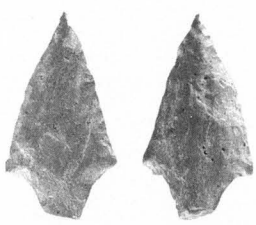
第８次調査　写真図版－16



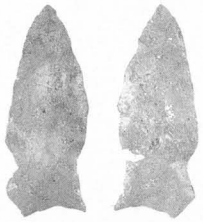
第８次調査　写真図版－17



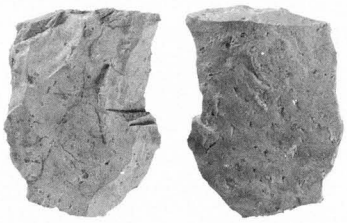
第８次調査　写真図版－18



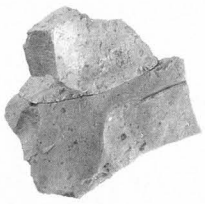
No.08254
Ⅰ層(1/1)

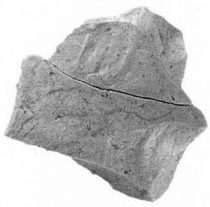


No.08255
Ⅰ層(1/1)



No.08256
Ⅰ層(2/3)





No.08257
Ⅰ層(2/3)

No.08258
Ⅰ層(2/3)

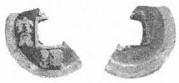
No.08259
Ⅰ層

No.08260
Ⅰ層

No.08261
Ⅰ層

No.08262
Ⅰ層

No.08263
Ⅰ層



No.08264
Ⅰ層

0　Scale = 1 : 2　5cm

第８次調査　写真図版－19

仙台市文化財調査報告書第360集

沼向遺跡第４～34次調査

―宮城県仙台港背後地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ―

第１分冊

2010年３月

発行　仙台市教育委員会
〒980-8671　仙台市青葉区国分町三丁目７番１号
文化財課　022(214)8894

印刷　株式会社東北プリント
〒980-0822　仙台市青葉区立町24番24号
022(263)1166